

基礎教育科目(外国の言語と文化を含む)

東邦スタンダード I A-a	9
東邦スタンダード I A-b	11
東邦スタンダード I B-a	13
東邦スタンダード I B-b	15
東邦スタンダード II A	17
東邦スタンダード II B	19
東邦スタンダード III A	21
東邦スタンダード III B	23
東邦スタンダード IV A・B	25
〔人間探究〕	
哲学A	27
哲学B	29
文化芸術論A	31
文化芸術論B	33
コミュニケーション論	35
〔社会的視点〕	
日本国憲法と生活A	37
日本国憲法と生活B	39
国際理解と交流A	41
国際理解と交流B	43
社会福祉概論〔老人・児童福祉を含む〕A	45
社会福祉概論〔老人・児童福祉を含む〕B	47
〔自然理解〕	
ひとを読み解く科学A	49
ひとを読み解く科学B	51
現代の心理学〔発達心理を含む〕A	53
現代の心理学〔発達心理を含む〕B	55
コンピュータ演習A	57
コンピュータ演習B	59
ウィーンの社会と文化A	61
ウィーンの社会と文化B	63
スポーツ文化論	65
スポーツ演習a	67
スポーツ演習b	69
〔外国の言語と文化〕	
ドイツ語1	71
ドイツ語2	73
ドイツ語3	75
ドイツ語4	77
ドイツ語圏異文化コミュニケーション1	79
ドイツ語圏異文化コミュニケーション2	81
ドイツ語圏異文化コミュニケーション3	83
ドイツ語圏異文化コミュニケーション4	85
ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】1・3 〔3は異文化コミュニケーションを含む〕	87
ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】2・4 〔4は異文化コミュニケーションを含む〕	89
ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】5・7	91
ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】6・8	93
英語1	95
英語2	97
英語3	99
英語4	101

英語圏異文化コミュニケーション1	103
英語圏異文化コミュニケーション2	105
英語圏異文化コミュニケーション3	107
英語圏異文化コミュニケーション4	109
イタリア語1	111
イタリア語2	113
イタリア語3	115
イタリア語4	117
イタリア語圏異文化コミュニケーション1	119
イタリア語圏異文化コミュニケーション2	121
イタリア語圏異文化コミュニケーション3	123
イタリア語圏異文化コミュニケーション4	125
音楽専門教育科目・共通専門教育科目	
和声学1-a	127
和声学1-b	129
和声学1-c	131
和声学2-a	133
和声学2-b	135
和声学2-c	137
和声学3-a	139
和声学3-b	141
和声学4-a	143
和声学4-b	145
対位法A	147
対位法B	149
和声学【Konzertfach(演奏専攻)】1・3	151
和声学【Konzertfach(演奏専攻)】2・4	153
対位法【Konzertfach(演奏専攻)】A	155
対位法【Konzertfach(演奏専攻)】B	157
楽式論〔作曲法・編曲法を含む〕A-a	159
楽式論〔作曲法・編曲法を含む〕A-b	161
楽式論〔作曲法・編曲法を含む〕B-a	163
楽式論〔作曲法・編曲法を含む〕B-b	165
ポピュラーミュージックA〔作曲法・編曲法を含む〕	167
ポピュラーミュージックB〔作曲法・編曲法を含む〕	169
指揮法	171
音楽文化論A	173
音楽文化論B	175
民族音楽学A	177
民族音楽学B	179
日本音楽史概説A	181
日本音楽史概説B	183
日本の伝統音楽概説A	185
日本の伝統音楽概説B	187
音楽の基礎理論A-a	189
音楽の基礎理論A-b	191
音楽の基礎理論B-a	193
音楽の基礎理論B-b	195
音楽の基礎理論【Konzertfach(演奏専攻)】A	197
音楽の基礎理論【Konzertfach(演奏専攻)】B	199
音楽史A	201
音楽史B	203

音楽療法概論 a	205
音楽療法概論 b	207
音楽療法的音楽論	209
音楽心理学A	211
音楽心理学B	213
現代音楽教師論	215
作品研究〔鍵盤〕A	217
作品研究〔鍵盤〕B	219
作品研究〔管弦楽〕A	221
作品研究〔管弦楽〕B	223
作品研究〔オペラ〕A	225
作品研究〔オペラ〕B	227
作品研究〔歌曲〕A	229
作品研究〔歌曲〕B	231
作品研究〔様式学〕ⅠA・B	233
作品研究〔様式学〕ⅡA・B	235
アジア音楽文化論	237
音楽と仕事	239
音楽専門教育科目 《学科》	
合唱Ⅰ・ⅡA	241
合唱Ⅰ・ⅡB	243
合唱ⅢA(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含)・ⅣA	245
合唱ⅢA(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含)・ⅣB	247
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔弦楽器〕	249
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔フルート〕	251
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔オーボエ〕	253
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔クラリネット〕	255
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔ファゴット〕	257
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔サクソフォン〕	259
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔ホルン〕	261
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔トランペット〕	263
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔トロンボーン〕	265
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔ユーフォニアム・チューバ〕	267
同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔打楽器〕	269
室内楽(異種楽器)Ⅰ～Ⅳ〔弦楽器〕	271
室内楽(異種楽器)Ⅰ～Ⅳ〔木管楽器〕	273
室内楽(異種楽器)Ⅰ～Ⅳ〔木管楽器〕 (サクソアンサンブル)	275
室内楽(異種楽器)Ⅰ～Ⅳ〔金管楽器〕	277
室内楽(異種楽器)Ⅰ～Ⅳ〔打楽器〕	279
合奏A〔和楽器を含む〕	281
合奏B〔和楽器を含む〕	283
オペラ研究Ⅰ・ⅡA	285
オペラ研究Ⅰ・ⅡB	287

朗読法A(ドイツ語)	289
朗読法B(イタリア語)	291
朗読法 I A(イタリア語)【Konzertfach(演奏専攻)】	293
朗読法 I B(イタリア語)【Konzertfach(演奏専攻)】	295
朗読法 II A(ドイツ語)【Konzertfach(演奏専攻)】	297
朗読法 II B(ドイツ語)【Konzertfach(演奏専攻)】	299
ピアノアンサンブルA	301
ピアノアンサンブルB	303
チェンバロ研究 I A	305
チェンバロ研究 I B	307
チェンバロ研究 II A	309
チェンバロ研究 II B	311
オーケストラA(I・II・III・IV)	313
オーケストラB(I・II・III・IV)	315
ウインドオーケストラA(I・II・III・IV)	317
ウインドオーケストラB(I・II・III・IV)	319
オーケストラ・ウインドオーケストラのための合奏ベーシックA(I・II・III・IV)【管楽器】	321
オーケストラ・ウインドオーケストラのための合奏ベーシックB(I・II・III・IV)【管楽器】	323
オーケストラ・ウインドオーケストラのための合奏ベーシックA(I・II・III・IV)【弦楽器】	325
オーケストラ・ウインドオーケストラのための合奏ベーシックB(I・II・III・IV)【弦楽器】	327
総合作曲演習 I・II・III A	329
総合作曲演習 I・II・III B	331
ソフトウェア演習 I A・B	333
ソフトウェア演習 II A・B	335
ソフトウェア演習 III A・B	337
ピアノ指導者をめざす人のための音楽教育学入門A	339
ピアノ指導者をめざす人のための音楽教育学入門B	341
教材伴奏法 I A	343
教材伴奏法 I B	345
教材伴奏法 II A	347
教材伴奏法 II B	349
ピアノ伴奏法 I A	351
ピアノ伴奏法 I B	353
ピアノ伴奏法 II A	355
ピアノ伴奏法 II B	357
音楽療法の理論と技法A	359
音楽療法の理論と技法B	361
音楽療法各論〔児童〕	363
音楽療法各論〔精神科〕	365
音楽療法各論〔高齢者〕	367
ソルフェージュ1-a	369
ソルフェージュ1-b	371
ソルフェージュ1-c	373
ソルフェージュ2-a	375
ソルフェージュ2-b	377
ソルフェージュ2-c	379
ソルフェージュ3-a	381
ソルフェージュ3-b	383
ソルフェージュ3-c・d	385
ソルフェージュ4-a	387
ソルフェージュ4-b	389
ソルフェージュ4-c・d	391

キーボードハーモニーA	393
キーボードハーモニーB	395
学内演奏	397
学内作品発表(作曲コース)	399
学内実習発表(音楽療法専攻)	401
学内研究発表(教職実践専攻)	403
音楽専門教育科目 <実技>	
konzertfach専門実技 声楽1・2	405
konzertfach専門実技 声楽3・4	407
konzertfach専門実技 声楽5・6	409
konzertfach専門実技 声楽7・8	411
konzertfach専門実技 ピアノ1・2	413
konzertfach専門実技 ピアノ3・4	415
konzertfach専門実技 ピアノ5・6	417
konzertfach専門実技 ピアノ7・8	419
konzertfach専門実技 打楽器1・2	421
konzertfach専門実技 打楽器3・4	423
konzertfach専門実技 打楽器5・6	425
konzertfach専門実技 打楽器7・8	427
ウィーンアカデミープロフェシネル1~4 声楽専門	429
ウィーンアカデミープロフェシネル1・2 打楽器専門	431
ウィーンアカデミープロフェシネル3・4 ピアノ専門	433
ウィーンアカデミープロフェシネル5・6 打楽器専門	435
ウィーンアカデミープロフェシネル7・8 ピアノ専門	437
ウィーンアカデミープロフェシネル7・8 声楽専門	439
ウィーンアカデミープロフェシネル7・8 打楽器専門	441
声作り(シュティムビルドゥング) I A・B / II A・B	443
声楽1・2 [教職実践専攻の音楽実技を含]	445
声楽3・4 [教職実践専攻の音楽実技を含]	447
声楽5・6 [教職実践専攻の音楽実技を含]	449
声楽7・8 [教職実践専攻の音楽実技を含]	451
ピアノ1・2 [教職実践専攻の音楽実技を含]	453
ピアノ3・4 [教職実践専攻の音楽実技を含]	455
ピアノ5・6 [教職実践専攻の音楽実技を含]	457
ピアノ7・8 [教職実践専攻の音楽実技を含]	459
管弦打楽器1・2[弦楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	461
管弦打楽器3・4[弦楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	463
管弦打楽器5・6[弦楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	465
管弦打楽器7・8[弦楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	467
管弦打楽器1・2[木管楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	469
管弦打楽器3・4[木管楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	471
管弦打楽器5・6[木管楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	473
管弦打楽器7・8[木管楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	475
管弦打楽器1・2[金管楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	477
管弦打楽器3・4[金管楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	479
管弦打楽器5・6[金管楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	481
管弦打楽器7・8[金管楽器] [教職実践専攻の音楽実技を含]	483

管弦打楽器1・2〔打楽器〕 〔教職実践専攻の音楽実技を含〕	485
管弦打楽器3・4〔打楽器〕 〔教職実践専攻の音楽実技を含〕	487
管弦打楽器5・6〔打楽器〕 〔教職実践専攻の音楽実技を含〕	489
管弦打楽器7・8〔打楽器〕 〔教職実践専攻の音楽実技を含〕	491
作曲1・2〔教職実践専攻の音楽実技を含〕	493
作曲3・4〔教職実践専攻の音楽実技を含〕	495
作曲5・6〔教職実践専攻の音楽実技を含〕	497
作曲7・8〔教職実践専攻の音楽実技を含〕	499
メディアデザイン演習7・8〔実習を含む〕	501
音楽療法1・2-1	503
音楽療法1・2-2	505
音楽療法3・4-1	507
音楽療法5・6〔実習を含む〕	509
音楽療法7・8〔実習を含む〕	511
副科ピアノⅠA/B	513
副科ピアノⅡA/B	515
副科ピアノⅢA/B	517
副科ピアノⅣA/B	519
副科声楽ⅠA/B	521
副科声楽ⅡA/B	523
副科管弦打楽器ⅠA/B〔弦楽器〕	525
副科管弦打楽器ⅡA/B〔弦楽器〕	527
副科管弦打楽器ⅢA/B〔弦楽器〕	529
副科管弦打楽器ⅣA/B〔弦楽器〕	531
副科管弦打楽器ⅠA/B〔木管楽器〕	533
副科管弦打楽器ⅡA/B〔木管楽器〕	535
副科管弦打楽器ⅢA/B〔木管楽器〕	537
副科管弦打楽器ⅣA/B〔木管楽器〕	539
副科管弦打楽器Ⅰ～ⅣA/B〔金管楽器〕	541
音楽療法に関する科目	
障害学A	543
障害学B	545
臨床心理学ⅠA	547
臨床心理学ⅠB	549
臨床心理学Ⅱ	551
人間と医療ⅠA	553
人間と医療ⅠB	555
人間と医療ⅡA	557
人間と医療ⅡB	559
人間教育科目	
ウィーンアカデミー	561
ヒューマンコミュニケーション1・2・3・4	563
インターンシップⅠ	565
インターンシップⅡ	567
地域創造①ⅠA・B	569
地域創造①ⅡA・B	571
地域創造②ⅠA・B	573
地域創造②ⅡA・B	575
演奏演習	577

文化教養科目		
コンピュータミュージック演習ⅠA	579
コンピュータミュージック演習ⅠB	581
コンピュータミュージック演習ⅡA	583
コンピュータミュージック演習ⅡB	585
外国人留学生に関する科目		
日本事情ⅠA	587
日本事情ⅠB	589
日本事情ⅡA	591
日本事情ⅡB	593
日本事情ⅢA	595
日本事情ⅢB	597
日本事情ⅣA	599
日本事情ⅣB	601
日本語1	603
日本語2	605
日本語3	607
日本語4	609
日本語5	611
日本語6	613
日本語7	615
日本語8	617
教職に関する専門科目		
教職入門	619
教育学概説	621
教育心理学	623
教育方法	625
教育相談・進路指導	627
音楽科教材研究A	629
音楽科教材研究B	631
教育行政	633
音楽科教育法A	635
音楽科教育法B	637
道徳教育の指導法	639
特別活動の指導法a	641
特別活動の指導法b	643
生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成	645
音楽における情報機器の活用	647
特別支援を必要とする生徒の理解	649
総合的な学習の時間の指導法	651
教職実践演習(中・高)	653
教育実習指導	655
教育実習	657
教育総合科目(教職実践専攻)Ⅰ・ⅡA	659
教育総合科目(教職実践専攻)Ⅰ・ⅡB	661
インターンシップ(教職実践専攻)Ⅰ	663
インターンシップ(教職実践専攻)Ⅱ	665
教職特講(教職実践専攻)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	667
教職特講(教職実践専攻)Ⅳ	669
楽器の特性と機能(教職実践専攻)	671

科目名(クラス)	東邦スタンダード I A-a		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	伊藤和広 浦川玲子	実務家教員	履修対象・条件		全専攻必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>学生生活の基礎的知識を把握するとともに、スタディスキルを身につける。また、コミュニケーション・スキルを身につけ、日常生活で活用できるようになること。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業です。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>前期授業初回および最終回に記入するポートフォリオ 30% セメスター終了時に課すレポート 40% 毎回の授業への取り組み 30% 以上の基準に従い、総合的に評価する。</p>									
教科書	東邦スタンダード I A			著者等	東邦音楽大学	出版社	東邦音楽大学		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ・東邦スタンダードとは ・前期目標設定(ポートフォリオ、目標設定シート記入)	予習: 学生サポートブックの関連項目と本授業のシラバスに目を通しておく。 復習: 前期の目標をもとに、学生生活の計画をたてる。
第2回	学生生活における健康管理	予習: 健康管理について考えておく。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第3回	防犯講話 ・学生生活における防犯上の諸注意 ・大麻(薬物)の危険性と犯罪について (川越警察署生活安全課の講師による講演) ・キャリア支援センターの活用法	予習: 最近の事件などについて知っておく。 復習: 配布資料に詳しく目を通す。
第4回	「いのちの授業～一人ひとりに授けられた奇跡としての『いのち』を考える～」 (愛和病院の講師による講演)	予習: 学生生活全般について考えてみる。 復習: 講演の内容について振り返り、自分の考えを深める。
第5回	高校生から大学生へ ・大学生の学び方 ・聴く態度 ・グループ討議入門	予習: 入学後の学び方を振り返ってみる。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第6回	消費生活講座 ・ネットトラブル、架空請求等の悪徳商法の被害を防ぐために (埼玉県消費生活支援センター・消費生活コンサルタントによる講演)	予習: 最近の事件等について知っておく。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第7回	川越市文化講座 ・川越市にまつわる歴史と、今に伝わる文化について (川越市役所観光課の講師による講演)	予習: 川越市について調べておく。 復習: 講座で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第8回	知って役立つ労働法 ・アルバイトその他、「労働」する場合のルール、働く人の持つ権利等について学ぶ	予習: 新聞等で、労働問題について知識を得る。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。
第9回	大学生としてのマナー ・学生生活の基本 ・コミュニケーション力	予習: 大学生としてのマナーについて考えておく。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第10回	授業の受け方 ・受講態度について ・ノートテイクの基本 ・新聞の読み方 ・情報収集の仕方	予習: 普段の授業の受け方や学習法について振り返ってみる。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第11回	情報検索 ・図書館の活用方法 ・資料検索の方法 ・ネット検索の仕方	予習: 図書館を探索してみる。 復習: 図書館利用を習慣づける。ネット検索等学んだことを実践する。
第12回	レポートの書き方 ・レポート提出の流れ ・レポートを書く	予習: 文章を書くときの様式や構成について考えておく。 復習: 授業で学んだことをレポート作成に生かす。
第13回	OB/OG講演会 ・本学卒業生による講演会	予習: 質問事項を整理しておく。 復習: 参考になったことを整理する。
第14回	コミュニケーションの基本 ・コミュニケーションの重要性 ・アサーション ・質問力	予習: 日頃のさまざまな場面でのコミュニケーションについて考える。 復習: 学んだ内容を実践に生かす。
第15回	振り返り(テスト) ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	予習: 前期の学生生活を振り返る。 復習: 学んだ内容を実践に生かす。

科目名(クラス)	東邦スタンダード I A-b		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	岩見真佐子 浦川玲子	実務家教員	履修対象・条件		留学生対象				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。 大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、 教員や友人を始めとする周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>学びの奥深さを理解し、東邦音楽大学で学ぶことを誇りに感じながら、能動的な学び方を実践することができる。 様々な考え方や視点を理解し、社会と音楽との関わりへ自らの視野を広げることができる。 日本語でのグループワークにより、具体的なコミュニケーション・スキルを身に付けることができる。</p>									
		(55文字以内)							
<p>講義・演習形式。各テーマとも学生のワーク(個人またはグループでの作業)によって授業を進める。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>学生自らが主体的に考えることが重視される。発表や討議が中心なので、受け身ではなく積極的な態度で授業に臨むことが求められる。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>「ポートフォリオ」の提出 30%、「レポート」の提出 40%、毎回の授業の取組み 30% をふまえて総合的に評価する。</p>									
教科書	東邦スタンダード I A			著者等	東邦音楽大学	出版社	東邦音楽大学		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	東邦スタンダードとは オリエンテーション(大学生活の基本、授業マナー) (ポートフォリオ記入) 前期目標設定	予習:前期授業シラバスに目を通しておく。 復習:日本での学生生活の目標をたてる。
第2回	学生生活における健康管理	予習:新学期の日常生活の過ごし方を振り返ってみる。 復習:気がついた点に留意し自己管理に努める。
第3回	大学での学び方 ～日本語による主体的な学び～	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第4回	「いのちの授業～ひとり一人に授けられた奇跡としての『命』を考える～」 愛和病院の講師による講演	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:命という最も大切なことについて目を向け、日常の中で理解を深める。
第5回	目標と計画	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第6回	コミュニケーションの基本	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第7回	川越文化講座 (川越市役所観光課の講師による講義)	予習:川越の歴史や文化について、視野を広げておく。 復習:興味をもって学んだことの理解を深める。
第8回	グローバル・キャリア講話 ～社会で活躍する人材としてのマナー～	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第9回	グループ討議① 日本語の実践ワーク	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第10回	グループ討議② ワークの意義	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第11回	日本の文化と歴史 I 文化体験	予習:資料の該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学びを生かし視野を広げ深く理解できるようになる。
第12回	レポートの書き方 前期まとめ①「レポートガイドシート作成」	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを前期レポート課題で実践する。
第13回	OB・OG講演会 本学卒業生による講演会	予習:講師への質問を考え視野を広げておく。 復習:印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第14回	伝わる書き方 前期まとめ②「レポート下書き」	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを生かしたレポートを完成する。
第15回	振り返り 前期まとめ③「ポートフォリオの作成・提出」	予習:前期の学生生活を振り返る。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。

科目名(クラス)	東邦スタンダード I B-a		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	伊藤和広 浦川玲子	実務家教員	履修対象・条件		全専攻必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>学生生活の基礎的知識を把握するとともに、スタディスキルを身につける。また、コミュニケーション・スキルを身につけ、日常生活で活用できるようになること。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業です。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>前期授業初回および最終回に記入するポートフォリオ 30% セメスター終了時に課すレポート 40% 毎回の授業への取り組み 30% 以上の基準に従い、総合的に評価する。</p>									
教科書	東邦スタンダード I B			著者等	東邦音楽大学	出版社	東邦音楽大学		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	学生生活における危機管理 ・非常時に対する備え ・防災心得	予習: 学生サポートブックの関連項目に目を通しておく。 復習: 避難経路を確認する。日頃から防災意識を高める。
第2回	振り返りと目標設定 ・夏休みの振り返り ・後期目標設定(ポートフォリオ記入)	予習: 夏期休業中の成果を振り返る。 復習: 後期の目標を踏まえて学習計画を立てる。
第3回	年金講座 ・国民年金について	予習: 新聞等を通して、年金について関心を深める。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。
第4回	大学生のための租税講座 ・暮らしの中の税とその種類について ・納税の義務、国民経済と財政について	予習: 新聞等を通して、税金について関心を深める。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。
第5回	タイムマネジメント ・計画・進捗管理 ・PDCAサイクル	予習: 普段の時間の使い方を振り返ってみる。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第6回	グループディスカッション① ・グループディスカッションの進め方	予習: 普段の話し合いの仕方を振り返る。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第7回	グループディスカッション② ・ディスカッションワーク	予習: 普段の話し合いの仕方を振り返る。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第8回	伝わる書き方① ・文章表現の基本	予習: 自分の文章表現を振り返る。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第9回	伝わる書き方② ・文章表現(作文ワーク)	予習: 自分の文章表現を振り返る。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第10回	質問力を身に着けよう ・良い質問とは(インタビューワーク)	予習: 普段の質問の仕方や答え方を振り返る。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第11回	プレゼンテーション基礎 ・プレゼンテーションの基礎知識 ・プレゼンテーションワーク ・グループワーク	予習: プレゼンテーションについて調べ、普段の話し合いや発表の仕方を振り返る。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第12回	留学経験者の体験談を聴く ・留学を経験した本学卒業生の体験談を聴く	予習: 講師への質問を考えておく。 復習: 印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第13回	学年末発表(準備) ・一年間の学びの振り返り ・各自の成果発表	予習: 大学1年間の成果、反省点などを整理しておく。 復習: 次回の発表の準備をすすめる。
第14回	学年末発表(発表) ・一年間の学びの振り返り ・各自の成果発表	予習: 発表の準備を整えておく。 復習: 自分の発表についての反省やクラスメートの発表を聞いて、印章に残ったことを記録しておく。
第15回	振り返り(テスト) ・ポートフォリオ作成	予習: 後期の学生生活を振り返る。 復習: 学んだ内容を実践に生かす。

科目名(クラス)	東邦スタンダード I B-b		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	岩見真佐子 浦川玲子	実務家教員	履修対象・条件		留学生対象				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。 大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、 教員や友人をはじめとする周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>主体性をもちながら周囲と協同する力を身に付け、自らの学びと結びつけて具体的に考えることができる。 演奏体験・文化体験を通じて、国際的な領域で求められる学びへと深く興味をもつことができる。 自分の考えを適切な言葉や文章で表現し、日本語でのプレゼンテーションを実践することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義、演習形式。各テーマとも学生のワーク(個人またはグループでの作業)によって授業を進める。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>学生自らが主体的に考えることが重視される。発表や討議が中心なので、受け身ではなく積極的な態度で授業に臨むことが求められる。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>「ポートフォリオ」の提出 30%、「レポート」の提出 40%、毎回の授業の取組み 30% をふまえて総合的に評価する。</p>									
教科書	東邦スタンダードIB			著者等	東邦音楽大学	出版社	東邦音楽大学		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	学生生活における危機管理 ～ 緊急災害時の備え、防災心得 ～	予習:学生ガイドブックの関連項目に目を通し理解に努める。 復習:日頃から防災意識を高め、緊急時に備えておく。
第2回	後期目標設定(ポートフォリオ記入) 夏休みの振り返り	予習:後期授業シラバスに目を通しておく。 復習:後期の目標と計画を立てる。
第3回	主体性と音楽① 音楽との関わり ～より深く音楽を楽しむために～	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第4回	主体性と音楽② 伝える力・聴く力 ～専攻力～	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第5回	主体性と音楽③ 社会との関わり ～自分の将来像～	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第6回	グローバル・コミュニケーションⅠ 「日本の文化 ～文化体験に向けて～」	予習:配布資料に目を通し理解に努める。 復習:実際の生活の中で学んだことへの興味や理解を深める。
第7回	グローバル・キャリア講演会	予習:講師への質問を考え視野を広げておく。 復習:印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第8回	日本の文化と歴史Ⅱ 文化体験	予習:配布資料にお目を通し理解に努める。 復習:実際の生活の中で学んだことへの興味や理解を深める。
第9回	日本語で書く 「文化体験から学ぶ日本」	予習:書く内容をメモしておく。 復習:レポートを完成し提出する。
第10回	グローバル・コミュニケーションⅡ 「ヨーロッパの文化 ～ウィーン研修に向けて～」	予習:テキストの該当箇所に目を通し視野を広げておく。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第11回	グループ討議① 定期演奏会 ～より良いアンサンブルに必要なこと～	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第12回	グループ討議② コミュニケーション・マナー	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第13回	プレゼンテーション① 伝わる話し方・スピーチ原稿作成	予習:テキストの該当箇所に目を通し理解に努める。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。
第14回	プレゼンテーション② 個人発表 と レポート下書き	予習:テキストの該当箇所に目を通し発表の準備をしておく。 復習:お互いの発表から学んだ経験をまとめておく。レポートを完成する。
第15回	振り返り 後期まとめ「ポートフォリオの作成・提出」	予習:後期の学生生活を振り返る。 復習:学んだことを学生生活の実践に生かす。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅡA-a・b			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	木下容子 益田善太 中島裕紀	実務家教員		履修対象・条件	全専攻必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>1年次に学んだ東邦スタンダードⅠの内容を基礎とし、7回の外部講師によるキャリアデザインの内容を含む、多角的な講義やワークを行う。音楽大学での学修をめぐって真剣に考え、学生生活を充実させるための基礎を作り発展させる科目である。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>各自の専門分野のスキルアップ、社会の仕組みを学び将来に向けての具体的なイメージを構築する力を身につけ、一般教養とコミュニケーションスキルを向上させ、社会性を高めることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式】		(55文字以内)							
<p>授業は、講義形式で、ワークを伴いながら行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得】		(160文字以内)							
<p>授業は、毎回テーマに沿って進められる。毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。「何事も取り組む気持ち次第で自分に生かすことができる」ということを強く念頭に置き、集中して取り組むこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準】		(380文字以内)							
<p>前期授業初回および最終回に記入するポートフォリオ 30% セメスター終了時に課すレポート 40% 毎回の授業への取り組み 30% 以上の基準に従い、総合的に評価する。</p>									
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(10時40分～11時40分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	東邦スタンダードとは ・前期目標設定(ポートフォリオ、目標設定シート記入) :授業の目的を理解し、これから学習する計画についてのイメージを構築する。	予習:本授業のシラバスに目を通しておく。 復習:前期の目標をもとに、学生生活の計画を立てる。
第2回	学生生活における健康管理 ・健康に対する意識の向上 :学生生活を送るにあたって健康維持・管理することの大切さを理解する。	予習:「健康」について予め調べておく。 復習:講義内容を復習し、自分の健康管理の実践に活かす。
第3回	伝える力1 ・話し方チェック PREP法 YES・BUT法 :円滑なコミュニケーションを図る話し方、相手に伝わりやすい話し方について学ぶ。	予習:「コミュニケーション」について予め調べておく。 復習:講義内容を復習し、日常生活での実践に活かす。
第4回	キャリア支援センターの活用法	予習:学生ハンドブックの関連項目に目を通しておく。 復習:キャリア支援センターを実際に訪れる。インターンシップについて検討する。
第5回	キャリアとは ※第5～11回は、外部講師によるキャリアデザイン講義 :キャリアデザインの基本的な考え方を理解し、働く意義を考える。	予習:「キャリアデザイン」について予め調べておく。 復習:「キャリアデザイン」について復習し、自分にとっての「働く意義」とは何か考える。
第6回	社会を知る① :現代社会の仕組みについて学ぶ。	予習:時事関連の記事に目を通してみる。 復習:「現代社会の仕組み」について復習する。
第7回	社会を知る② :現代社会の仕組みについて学ぶ。	予習:時事関連の記事に目を通してみる。 復習:「現代社会の仕組み」について復習する。
第8回	働く環境を理解する ・理想の働き方を考える :働き方の種類、労働関連法規、大企業と中小企業の違いについて学ぶ。	予習:「働き方の種類」について調べておく。 復習:「働く環境」について復習し、自分の希望等について検討してみる。
第9回	社会で求められる力① ・国語編 :就職活動に必要な一般教養の学び方を演習を通して理解し、その力を高める。	予習:「社会で求められる力」はどんなものがあるか調べておく。 復習:講義内容について復習し、自分の現状を理解・検討してみる。
第10回	社会で求められる力② ・数的処理編 :就職活動に必要な一般教養の学び方を演習を通して理解し、その力を高める。	予習:「社会で求められる力」はどんなものがあるか調べておく。 復習:講義内容について復習し、自分の現状を理解・検討してみる。
第11回	社会で求められる力③ ・一般社会編 :就職活動に必要な一般教養の学び方を演習を通して理解し、その力を高める。	予習:「社会で求められる力」はどんなものがあるか調べておく。 復習:講義内容について復習し、自分の現状を理解・検討してみる。
第12回	伝える力2 ・雑談力を高める :コミュニケーションをより円滑にするための「雑談」というスキルを実践ワークを通じて高める。	予習:「雑談」について予め調べておく。 復習:講義内容を活かして、実際に周りの人と「雑談」してみる。
第13回	OB・OG講演会	予習:質問事項を予め整理しておく。 復習:参考になったことを整理する。
第14回	グループ討議と発表 ・コミュニケーション力を高める :グループ討議の方法を学び、グループ内のコミュニケーションをとりながら考えを集約する力を身につける。	予習:「グループ討論」について調べておく。 復習:講義内容を活かして、日常生活でも実践してみる。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成 :前期を振り返り、適切な文章で表現する。	予習:前期の学生生活を振り返る。 復習:学んだ内容を実践に活かしてみる。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅡB-a・b			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	木下容子 益田善太 中島裕紀	実務家教員		履修対象・条件	全専攻必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>東邦スタンダードⅡAに引き続き、8回の外部講師によるキャリアデザインの内容を含む、多角的な講義やワークを行う。音楽大学での学修をめぐって真剣に考え、学生生活を充実させるための基礎を作り発展させる科目である。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>各自の専門分野のスキルアップ、社会の仕組みを学び将来に向けての具体的なイメージを構築する力を身につけ、一般教養とコミュニケーションスキルを向上させ、社会性を高めることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式】		(55文字以内)							
<p>授業は、講義形式で、ワークを伴いながら行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得】		(160文字以内)							
<p>授業は、毎回テーマに沿って進められる。毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。「何事も取り組む気持ち次第で自分に生かすことができる」ということを強く念頭に置き、集中して取り組むこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準】		(380文字以内)							
<p>後期授業2回目および最終回に記入するポートフォリオ 30% セメスター終了時に課すレポート 40% 毎回の授業への取り組み 30% 以上の基準に従い、総合的に評価する。</p>									
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(10時40分～11時40分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	学生生活における危機管理 ・非常時に対する備え ・防災心得 :学生生活において必要な危機管理の意識を育成し、非常時における避難方法の理解を促す。	予習: 学生サポートハンドブックの関連事項に目を通す。 復習: 講義内容について復習し、実際に非常時にとる行動を検討したり備えたりする。
第2回	後期目標設定 ・前期の振り返りと後期の目標を設定する。 :前期の学習状況を振り返り、後期の学習をよりよいものにするための目標を設定する。	予習: 前期・夏期休業中の成果を振り返る。 復習: 後期の目標をもとに、学生生活の計画を立てる。
第3回	世の中の仕事を知る① ※第3回～第10回は、外部講師によるキャリアデザイン講義 :社会と、業種や職種の理解を促す。	予習: 仕事にどんな業種や職種があるのか調べておく。 復習: 講義内容を復習し、自分の希望の業種や職種について検討してみる。
第4回	世の中の仕事を知る② :視野を広げて仕事を考える。	予習: 仕事にどんな業種や職種があるのか調べておく。 復習: 講義内容を復習し、自分の希望の業種や職種について検討してみる。
第5回	自分を知る① :自分を客観視する方法を学ぶ。	予習: 自分について客観的な言葉で表現してみる。 復習: 講義内容を復習し、自己洞察を深める。
第6回	自分を知る② :自分の長所・短所を考える。	予習: 自分の短所・長所を考えておく。 復習: 講義内容を復習し、自己洞察を深める。
第7回	将来について考える :自分の強みを生かす視点で、将来について考える。	予習: 自分の将来について考えておく。 復習: 講義内容を復習し、自己洞察を深めた上で、自分の将来について具体的に考えてみる。
第8回	夢を叶えるための目標設定 ・ライフプランシートの作成 :ライフプランシートを作成することにより、現在の学生生活の充実度を考える。	予習: 自分の夢について考えておく。 復習: 講義内容を復習し、ライフプランの実践を検討してみる。
第9回	ライフプラン実行に向けて ・PDCAサイクル :目標達成への考え方を捉え、自分と社会を照らし合わせて考える。PDCAサイクルの考え方を習得する。	予習: 自分の夢について考えておく。 復習: 講義内容を復習し、ライフプランを出来るところから実践してみる。
第10回	まとめ ・キャリアについてのまとめ :第3回から第9回までの授業で学習したことを振り返り、それらを用いた考え方を習得する。	予習: キャリアについて復習しておく。 復習: 講義内容を復習し、出来るところから実践してみる。
第11回	音楽と仕事 ・音楽を仕事にするには :音楽を仕事とするためにすべきことや必要なことを知り、学生生活をどのように送ったらよいかを考える。	予習: 音楽を仕事したものにどんなものがあるか調べておく。 復習: 講義内容を復習し、学生生活での具体的な実践について検討する。
第12回	留学経験者の体験談を聴く ・留学を経験した本学卒業生の体験談を聴く :留学に至るまでの道筋、留学経験がどのように生かされているかを知り、将来のひとつの選択肢であることを把握する。	予習: 質問事項を予め整理しておく。 復習: 参考になったことを整理する。
第13回	ウィーン研修について ・研修の概要、ウィーンの文化と音楽 :ウィーン研修の概要、ウィーンの歴史を学び、3年次のウィーン研修に対する必要な準備について考える。	予習: ウィーンの歴史や文化について調べておく。 復習: 講義内容を復習し、ウィーンの歴史や文化について学習したことを整理する。
第14回	3年生のウィーン研修発表会 ・発表会を聴く :3年生が実際に経験したこと聴き、自分の研修のイメージを具体化する。	予習: 質問事項を予め整理しておく。 復習: 参考になったことを整理し、自分がウィーン研修で何を学びたいのかを検討する。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成 :後期を振り返り、適切な文章で表現する。	予習: 後期の学生生活を振り返る。 復習: 学んだ内容を実践に活かしてみる。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅢA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	井上淳司 岩間文正	実務家教員	履修対象・条件		※Konzertfach専攻・教職実践専攻は選択				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>東邦スタンダードⅠ・Ⅱで学んだ内容を土台にして、毎回のテーマに沿ったさまざまなワークを通じ、東邦音楽大学の学生として、日々の学修と学生生活を充実させ、それを将来社会でどう活かしていくかをより具体的に考え、必要なスキルを学ぶ授業である。7回の外部講師によるキャリアデザインの授業や各種講演会を含む。 コミュニケーション能力を高めながら、物事の多角的な見方や考え方を実践し、問題解決能力を養う。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>日々の学修と将来のありかたとの接点を見出し、現時点での各自の将来像をより具体化・可視化することができる。毎回のテーマに沿ったワークを通じて、社会人基礎力を高めることができる。 ・コミュニケーション能力を向上させ、協調性と協働性を身につける。 ・物事を的確に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。 ・問題解決能力を身につける。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>授業は、講義形式で、ワークを併いながら行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>授業は、毎回テーマに沿って進められ、それらは関連性を持つため、毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。何事も、取り組む気持ち次第で自分に生かすことができるのだという気持ちを忘れずに、しっかりと取り組むこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業開始時、及び最終回に記入するポートフォリオ30%、セメスター終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。</p>									
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	東邦スタンダードとは ・前期目標設定(ポートフォリオ、目標設定シート記入) ・キャリア支援センターオリエンテーション	予習:本授業のシラバスに目を通しておく。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。
第2回	学生生活における健康管理	予習:学生サポートブックの関連事項に目を通しておく。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。
第3回	ウィーンアカデミー研修に向けて ・引率経験のある教員による講義	予習:ウィーンについて予め調べておく。 復習:講義の内容を振り返り、まとめる。
第4回	キャリア支援センターの活用方法 ・キャリア支援センター長による講演	予習:学生サポートブックの関連事項に目を通しておく。 復習:キャリア支援センターを実際に訪れ、キャリアデザインのために活用する。
第5回	就職活動の全体像や進め方を知ろう! ※第5～7、9～12回は、外部講師によるキャリアデザイン講義を行う	予習:就職について予め調べておく。 復習:講義内容を振り返りテキストを整理する。
第6回	インターンシップ活用の仕方	予習:インターンシップについて予め調べておく。 復習:講義内容を振り返りテキストを整理する。
第7回	社会に必要な力 ～コミュニケーションとマナー～	予習:コミュニケーションとマナーについて予め調べておく。 復習:講義内容を振り返りテキストを整理する。
第8回	社会に必要な力 ～基礎学力①～(国語・社会)	予習:国語・社会について予め調べておく。 復習:講義内容を振り返りテキストを整理する。
第9回	社会に必要な力 ～基礎学力②～(数学)	予習:数学について予め調べておく。 復習:講義内容を振り返りテキストを整理する。
第10回	社会に近づく学び方 ～事前準備の仕方や能力の高め方～	予習:社会の仕組みについて予め調べておく。 復習:講義内容を振り返りテキストを整理する。
第11回	自分を知る ～自己分析～	予習:様々な分析方法について予め調べておく。 復習:講義内容を振り返りテキストを整理する。
第12回	思考力・発想法 ・思考のコツを学ぶ ・さまざまな発想法を知る	予習:思考力・発想法について予め調べておく。 復習:講義内容を振り返りテキストを整理する。
第13回	音楽的職業ナビ ・オーケストラの仕事 (オーケストラ団員経験を持つ講師による講演)	予習:講師への質問を考えておく。 復習:講演で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第14回	グループ討議と発表	予習:他のグループへの質問を考えておく。 復習:他のグループによる発表も含めて内容を振り返りまとめる。
第15回	振り返り ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	予習:夏休みの具体的な計画を練っておく。 復習:半期の学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅢB			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上淳司 岩間文正	実務家教員		履修対象・条件	※Konzertfach専攻・教職実践専攻は選択				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>東邦スタンダードⅠ・Ⅱで学んだ内容を土台にして、毎回のテーマに沿ったさまざまなワークを通じ、東邦音楽大学の学生として、日々の学修と学生生活を充実させ、それを将来社会でどう活かしていくかをより具体的に考え、必要なスキルを学ぶ授業である。7回の外部講師によるキャリアデザインの授業や各種講演会を含む。 コミュニケーション能力を高めながら、物事の多角的な見方や考え方を実践し、問題解決能力を養う。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>日々の学修と将来のありかたとの接点を見出し、現時点での各自の将来像をより具体化・可視化することができる。毎回のテーマに沿ったワークを通じて、社会人基礎力を高めることができる。 ・コミュニケーション能力を向上させ、協調性と協働性を身につける。 ・物事を的確に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。 ・問題解決能力を身につける。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
授業は、講義形式で、ワークを併いながら行う。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
授業は、毎回テーマに沿って進められ、それらは関連性を持つため、毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。何事も、取り組む気持ち次第で自分に生かすことができるのだという気持ちを忘れずに、しっかりと取り組むこと。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業開始時、及び最終回に記入するポートフォリオ30%、セメスター終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。									
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	学生生活における危機管理 ・非常時に対する備え ・防災心得	予習: 学生サポートブックの関連事項に目を通しておく。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。
第2回	振り返りと目標設定 ・夏休みの振り返り ・後期目標設定(ポートフォリオ記入)	予習: 夏休みの学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第3回	就職ガイダンス ～業界や企業を知ろう～ ※第3回～第10回は外部講師によるキャリアデザイン講義を行う	予習: 業界や企業について予め調べておく。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第4回	魅力的な応募書類を作成しよう ～自己PR編～	予習: 応募書類や自己PRについて予め調べておく。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第5回	魅力的な応募書類を作成しよう ～学生生活編～	予習: 学生生活について予め調べておく。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第6回	魅力的な応募書類を作成しよう ～志望動機編～	予習: 志望動機について予め調べておく。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第7回	面接シミュレーション ～グループディスカッション対策基礎編～	予習: 面接について予め調べておく。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第8回	面接シミュレーション ～グループディスカッション対策応用編～	予習: 対策応用について予め調べておく。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第9回	面接シミュレーション ～面接対策基礎編～	予習: 面接対策について予め調べておく。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第10回	面接シミュレーション ～面接対策応用編～	予習: 面接対策応用について予め調べておく。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第11回	情報リテラシー ・情報収集における留意点 ・SNS等の利用マナー、文献引用のルールについて	予習: 情報収集について予め調べておく。 復習: 講義内容を振り返りテキストを整理する。
第12回	留学経験者の体験談を聴く ・留学を経験した本学卒業生の体験談を聴く	予習: 留学経験への質問を考えておく。 復習: 講演で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第13回	ウィーン研修の発表準備 ・2年生に対するウィーン研修の発表準備を行う	予習: ウィーン研修の成果を考えておく。 復習: 次回に向けて発表の準備を終える。
第14回	ウィーン研修の発表 ・2年生に対してウィーン研修の発表を行う	予習: 発表の段取りを考えておく。 復習: 他のグループによる発表も含めて内容を振り返りまとめる。
第15回	振り返り ・ポートフォリオ作成	予習: 半期の学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。 ・レポート課題を仕上げる。

科目名(クラス)	東邦スタンダードIVA・B-a・b			開講学期	前・後	単位数	4	配当年次	4
担当教員	平田紀子 澤敦	実務家教員		履修対象・条件	※Konzertfach専攻・教職実践専攻は選択				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>大学での学びをより深化させ、自らの音楽の学びを社会の中で生かしていくための方法論を幅広く扱う。「社会人基礎力」獲得を目標に、物事の多角的な見方、考え方、問題解決の手法などを実践する。また、前期・後期ともに、自分の学んだ専門分野に関わるレポートをまとめ、それをクラス全員に向けて発表することで、東邦スタンダードでこれまでに学んできた「プレゼンテーション能力」を社会で活用できるまでに高めることを目指す。全体としては、4年間の学びを振り返り、学んだことを卒業後の仕事の中で活かす方法を考え、その技術を身に着けることを目指す。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		○	自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>大学での学びを総括し、それを自らの言葉で表現し、プレゼンテーション出来るようになる。具体的な活用の場、方法論を豊かに発想し、情報を収集し、社会での活用を念頭に実践への考察が出来るようになる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義・演習形式。個人及びグループでのワークや討議、プレゼンテーション実習と発表。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>学生自らが主体的に考えることが重視される。発表や討議など、日々の取り組みや積極的な姿勢が求められる。毎回テキストを持参すること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>前期・後期の授業初回及び最終回に記入するポートフォリオ 30% セメスター終了時に課すレポート 40% 毎回の授業への取り組みとプレゼンテーションを総合して評価する。</p>									
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(12時 10分 ~ 13時 00分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
月	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの記入 ・学生生活における健康管理 ・プレゼンテーション実習について 	本授業のシラバスに目を通し、プレゼンテーション実習の研究テーマを模索する
5	<ul style="list-style-type: none"> ・前期末のプレゼンテーション実習の準備 ・労働法セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション実習の研究発表について計画し資料を収集する。 ・労働法について学んだことをまとめる
6	<ul style="list-style-type: none"> ・前期末のプレゼンテーション実習の準備 	プレゼンテーション実習の研究資料をまとめる
7	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽的職業ナビ ・プレゼンテーション実習のためのレポート作成、及びプレゼンテーションの実践 ・期末レポート作成、ポートフォリオ作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演で聴いた内容についてまとめる ・プレゼンテーション発表の準備をする
8		
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの記入 ・学生生活における危機管理、避難訓練 ・後期のプレゼンテーション実習について 	シラバスに目を通し、後期プレゼンテーションの研究テーマを模索する
10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期末のプレゼンテーション実習の準備 	プレゼンテーション実習の研究発表について計画し資料を収集する。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・後期末のプレゼンテーション実習の準備 	プレゼンテーション実習の研究資料をまとめる
12	<ul style="list-style-type: none"> ・留学経験者の話を聴く ・セルフコントロールの方法 ・ディベートの体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演で聴いた内容についてまとめる ・各回の内容及びテキストを整理する。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学びを振り返る ・プレゼンテーション実習のためのレポート作成、及びプレゼンテーションの実践 ・期末レポート作成、ポートフォリオ作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション発表の準備をする ・4年間の学びについて振り返り、まとめる
2		
3		

科目名(クラス)	哲学A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	桑原 恒久	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>我々は何を目的として生きるのでしょうか。どうして世界に我々は存在するのでしょうか。どうして音楽をはじめとする芸術が必要なのでしょうか。無意識にただ生きる人生から目的を持った人生の構築へ。東西の歴史の中から哲学を踏まえた宗教の代表的なものを選び、やさしく学び、生きる為の知恵をくみとりましょう。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>宇宙を貫く原理原則。これに気づき、その精神に従って生きることが、最も価値ある幸せな人生となるのです。又、これらは、人類の歴史の中で偉人といわれる人々によって明らかにされ、人々に伝えられてきたものでもあります。本授業では、これらを学ぶことによって私達一人一人が価値ある人生を歩む基本的考え方、判断力を身につけたいと思います。宇宙の原理は、我々に真善美に向かって生きるよう、常に働きかけています。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>配布資料を中心に教師が解説。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>とにかくしっかりと教師の言葉を聞き、自らの中に受け入れて欲しいと思います。専門用語も出てきますが、これを理解することによって、自らの心が豊かになります。その故、真実を体験した時、我々は感激の涙を流しますね。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>期末の試験と授業中の参加度を総合的に評価する。</p>								
教科書	資料をその都度配布します。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※実施曜日を○で囲って下さい。</p>								
<p>②時間帯(12 時 40 分 ~ 14 時 10 分)</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業の目的と各宗教の世界的分布を示します。	復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第2回	授業の目的と各宗教の世界的分布を示します。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第3回	キリスト教の分布とその教えを学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第4回	キリスト教の救いの構造を学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第5回	キリスト教の救いの構造を学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第6回	キリスト教の母体としてのユダヤ教の理論を学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第7回	キリスト教の母体としてのユダヤ教の理論を学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第8回	キリスト教の母体としてのユダヤ教の理論を学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第9回	イスラム教の教えと民族に視点を置き、救いの基本を学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第10回	イスラム教の世界への影響、他の宗教との比較に視点を合わせる。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第11回	日本人の考え方、歴史、文化の基礎をなす仏教の考え方とは何かを学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第12回	インドの釈迦の生き方を学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第13回	インドの釈迦の生き方を学ぶ。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第14回	東洋(中国)の思想と日本に与えた影響、仏教との対応を理解する。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。
第15回	東洋(中国)の思想と日本に与えた影響、仏教との対応を理解する。	予習: 次回資料の事前読了。 復習: 授業の内容を自分なりにまとめる。

科目名(クラス)	哲学B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	桑原 恒久	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
世界の宗教、特に前期で学んだ信頼性のある、哲学をもった諸宗教(キリスト教、イスラム教、仏教など)を再度異なった視点から学んでみる。特に、日本人の精神や物の見方を形作った仏教の教えを中心に学ぶ。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
世界の代表的な宗教を学ぶ中で、我々はいかに生きるべきか、世界の人々は長い歴史の中で何を拠り所として人生を歩んできたか、を概観してきました。その中で世界の代表的な宗教は、共に共通の世界観と真理(宇宙の)に立脚していることを学びました。我々はこの中、特に日本人の心の拠り所となり、国家の歴史を導いた仏教の思想、そこに示された人生観、生き方を中心に学びつつ、二度とない一生を、最高価値のものにしてゆきたいと思えます。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
配布資料を中心に教師が解説。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
初めて出会う用語、理念、ものの見方について、柔軟に心に向け理解する。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
期末の試験、授業への態度を総合的に評価する。								
教科書	資料をその都度配布します。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※実施曜日を○で囲って下さい。								
②時間帯(12 時 40 分 ~ 14 時 10 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	世界の宗教を概観し、世界史に残したその跡をたどる。	復習:授業の内容を自分なりにまとめる。
第2回	世界の宗教を概観し、世界史に残したその跡をたどる。	予習:資料の事前読了。 復習:授業の内容を自分なりにまとめる。
第3回	キリスト教の精神と世界史への影響	予習:資料の事前読了。 復習:授業の内容を自分なりにまとめる。
第4回	イスラム教の精神と世界史への影響について学ぶ。	予習:資料の事前読了。 復習:授業の内容を自分なりにまとめる。
第5回	東洋の思想の特色について学ぶ。	予習:資料の事前読了。 復習:授業の内容を自分なりにまとめる。
第6回	文化としての日本仏教の歴史を学ぶ(古代、中世)	予習:資料の事前読了。 復習:授業の内容を自分なりにまとめる。
第7回	文化としての日本仏教の歴史を学ぶ(近世、現代)	予習:資料の事前読了。 復習:授業の内容を自分なりにまとめる。
第8回	生きる知恵としての日本仏教を学ぶ(総括)	予習:資料の事前読了。 復習:自らの生き方への資料として理解する。
第9回	同上	予習:資料の事前読了。 復習:自らの生き方への資料として理解する。
第10回	皆さんの接する仏教の内容、儀式について学ぶ	自らの体験を確認しておこう。
第11回	日本文化に与えた仏教の影響について学ぶ	音楽、茶道、華道との関連を考えておく。
第12回	日本仏教、各宗派の教えを学ぶ	宗派の違いと教えについて考えておく。
第13回	同上	宗派の違いと教えについて考えておく。
第14回	我々にとっての宗教とはどうあるべきかを学ぶ	今の自分の心の拠り所とは何か考えてみたい。
第15回	音楽家としての生き目標、生きる心の基準について考える	自らの人生は何のためにあるのか、考えをまとめておきたい。

科目名(クラス)	文化芸術論A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	山下 暁子	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・本科目では、西洋音楽・非西洋音楽を問わず、広く世界の音楽について取り上げ、音楽を単独の存在としてではなく、「文化」としてとらえることを目的とします。</p> <p>・前期は、「楽器」と「楽譜」という大きな2つのテーマについて、文化的・社会的・歴史的なコンテキスト(文脈・脈絡)における位置づけを通して理解を深めます。</p> <p>・「自分の言葉で表現する」ことは「真に考える」ことになります。それぞれのテーマについて積極的に発言したり文章で書き表したりすることで、音楽をより広い視野でとらえ、かつ深く学ぼうとする姿勢を身に付けます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・音楽は単独で存在するのではなく、様々なコンテキスト(文脈・脈絡)の中に位置づけられるということを理解することができる。</p> <p>・「楽器」と「楽譜」というテーマについて、自分なりに理解しようとし、考えたことを自分の言葉で表現することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・講義を中心に、学生の発言やディスカッションを取り入れます。</p> <p>・視聴覚機器等を使用し、なるべく実際の音楽に触れられるようにします。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・受講マナーを守り、欠席・遅刻・早退をしないこと。</p> <p>・授業への積極的な取り組みが高く評価されます。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・レポート課題(学期末定期試験) 70%</p> <p>…楽器関連の博物館で調査を行い、その結果をまとめる。</p> <p>・授業への積極性 30%</p> <p>…毎回行う記述課題の内容、予習や復習等の学習への取り組みから評価する。</p>									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	参考文献をその都度指示します。			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土)</p> <p>担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分)</p> <p>担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽のコンテキスト	予習: シラバスを読んで授業の内容を理解する。 復習: 音楽のコンテキストとは何かについて、自分なりに考えて説明できるようにする。
第2回	楽器について考える① 楽器とは何か	予習: 自分が楽器の何に興味があるのか、考えをまとめておく。 復習: 楽器とは何かについて、自分なりに考えて説明できるようにする。
第3回	楽器について考える② 楽器の分類(1)	予習: 楽器を分類することについて、自分なりに考えて説明できるようにする。 復習: 授業で学んだ楽器分類法について確認する。
第4回	楽器について考える③ 楽器の分類(2)	予習: 授業で学んだ楽器分類法について確認する。 復習: 授業で学んだ楽器分類法の問題点について、自分なりに考えて説明できるようにする。
第5回	楽器について考える④ 楽器の役割(1)	予習: 前回までの内容を復習する。 復習: 楽器が持つ役割について、自分なりに説明できるようにする。
第6回	楽器について考える⑤ 楽器の役割(2)	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 楽器が持つ役割について、自分なりに説明できるようにする。
第7回	楽器について考える⑥ ピアノの歴史(1)	予習: ピアノについて知っていること、知りたいことについて考えをまとめておく。 復習: ピアノの仕組みや歴史について、自分なりに説明できるようにする。
第8回	楽器について考える⑦ ピアノの歴史(2)	予習: 前回の内容を復習する。 復習: ピアノの歴史について、自分なりに説明できるようにする。
第9回	楽譜について考える① 五線譜	予習: 楽譜について知っていること、知りたいことについて考えをまとめておく。 復習: 五線譜について、自分なりに説明できるようにする。
第10回	楽譜について考える② エディションと演奏慣習(1)	予習: 前回の内容を復習する。 復習: エディションと演奏慣習について、自分なりに説明できるようにする。
第11回	楽譜について考える③ エディションと演奏慣習(2)	予習: 前回の内容を復習する。 復習: エディションと演奏慣習について、自分なりに説明できるようにする。
第12回	楽譜について考える④ 五線譜以外の楽譜	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 授業で学んだ楽譜を読めるようにする。
第13回	楽譜について考える⑤ 口頭伝承	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 口頭伝承について、自分なりに考えて説明できるようにする。
第14回	楽譜について考える⑥ 骸骨図	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 授業で学んだ骸骨図をもう一度書いてみる。
第15回	まとめ	予習: これまでの内容を復習する。 復習: 本科目の目的を、知識の定着と共に確認する。

科目名(クラス)	文化芸術論B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	山下 暁子	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイド参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>・本科目では、西洋音楽・非西洋音楽を問わず、広く世界の音楽について取り上げ、音楽を単独の存在としてではなく、「文化」としてとらえることを目的とします。</p> <p>・後期は、オペラ作品を中心に取り上げ、総合芸術における音楽について、文化的・社会的・歴史的なコンテクスト(文脈・脈絡)における位置づけを通して理解を深めます。</p> <p>・「自分の言葉で表現する」ことは「真に考える」ことになります。それぞれのテーマについて積極的に発言したり文章で書き表したりすることで、また、個人発表とそのためのレジュメ作成を通して、音楽をより広い視野でとらえ、かつ深く学ぼうとする姿勢を身に付けます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>・音楽は単独で存在するのではなく、様々なコンテクスト(文脈・脈絡)の中に位置づけられるということを理解することができる。</p> <p>・総合芸術における音楽について、自分なりに理解しようとし、考えたことを自分の言葉で表現することができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>・講義を中心に、学生の発言やディスカッションを取り入れます。</p> <p>・視聴覚機器等を使用し、なるべく実際の音楽に触れられるようにします。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・受講マナーを守り、欠席・遅刻・早退をしないこと。</p> <p>・授業への積極的な取り組みが高く評価されます。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>・授業内で行う発表(学期末定期試験①) 50%</p> <p>…任意のオペラ作品の一場面の音楽的特徴や演出について、一人ずつ発表を行う。</p> <p>・小レポート(学期末定期試験②) 20%</p> <p>…授業で学んだ内容についてまとめる。</p> <p>・授業への積極性 30%</p> <p>…毎回行う記述課題の内容、予習や復習等の学習への取り組みから評価する。</p>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	参考文献をその都度指示します。	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土)</p> <p>担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分)</p> <p>担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	総合芸術における音楽	予習: シラバスを読んで授業の内容を理解する。 復習: 総合芸術における音楽をどう考えるかについて、自分なりに説明できるようにする。
第2回	オペラを読み解く① 「フィガロの結婚」(1)	予習: 「フィガロの結婚」のあらすじを読む。 復習: 授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第3回	オペラを読み解く② 「フィガロの結婚」(2)	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第4回	オペラを読み解く③ 「ラ・ボエーム」(1)	予習: 「ラ・ボエーム」のあらすじを読む。 復習: 授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第5回	オペラを読み解く④ 「ラ・ボエーム」(2)	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第6回	オペラを読み解く⑤ オペラの制作過程	予習: 前回までの内容を復習する。 復習: オペラの制作過程における演出家の役割について、自分なりに説明できるようにする。
第7回	日本の総合芸術	予習: 日本の総合芸術について知っていること、知りたいことについて考えをまとめておく。 復習: 授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第8回	発表	予習: 発表の準備をする。 復習: 自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第9回	発表	予習: 発表の準備をする。 復習: 自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第10回	発表	予習: 発表の準備をする。 復習: 自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第11回	バレエを読み解く① クラシックバレエとロマンティックバレエ	予習: バレエについて知っていること、知りたいことについて考えをまとめておく。 復習: クラシックバレエとロマンティックバレエの違いについて、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第12回	バレエを読み解く② 「白鳥の湖」	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第13回	バレエを読み解く③ 「くるみ割り人形」(1)	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第14回	バレエを読み解く④ 「くるみ割り人形」(2)	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第15回	バレエを読み解く⑤ バレエ・リュス	予習: 前回の内容を復習する。 復習: 授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。

科目名(クラス)	コミュニケーション論		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	徳富 政樹	実務家教員	履修対象・条件		音楽療法専攻は必修			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>様々なコミュニケーション手段を心理学の側面から概観していくことにより、私たちの日常生活でのコミュニケーションを理論的に考察していきます。日々何気なく他者とコミュニケーションをとっている私たちですが、そこには自分たちでは気がつかない長所と短所が存在しています。他者に正確に意思を伝えるためにそれらを把握しておく必要があるでしょう。講義と実習、及び心理テストを通じてコミュニケーションについて考えてもらいます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>人と人とのコミュニケーションは大きく分けて言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションがあります。この2つの違いを理解し、両者の長所短所を把握した上で現実世界でのコミュニケーションに役立たせることができるようになること。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>基本的に講義形式ですが、適宜集団での討議・作業も取り入れます。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>レポート(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。</p>								
教科書				著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献	対人行動の心理学			著者等	土田昭司	出版社	北大路書房	
参考文献	影響力 その効果と威力			著者等	今井芳昭	出版社	光文社新書	
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>								
<p>②時間帯(12時 00分 ~ 12時 30分)</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	コミュニケーションにおけるスキーマ	予習:日常生活の中でコミュニケーションが成立しない事例を考えておくこと 復習:コミュニケーションが成立する要件について理解を深める
第2回	自己概念とは	予習:「私」とは行ったに何かについて考えておくこと 復習:「私」をどのように表現したらいいかまとめてみる
第3回	自己開示とは	予習:初対面の人への自己紹介をシミュレーションしてみる 復習:自己開示の特徴についてまとめてみる
第4回	自己呈示とは	予習:自己紹介をアピールする時にどれだけ真実が含まれていないか考えてみる 復習:自己提示の特徴についてまとめてみる
第5回	対人説得とは	予習:他者の意見や行動を変えた事例をピックアップしてみる 復習:他者を説得する際に有効なパターンを理解する
第6回	非言語コミュニケーション	予習:言語を用いないコミュニケーションにはどのようなものがあるか考えてみる 復習:非言語コミュニケーションの特徴をまとめてみる
第7回	異文化間コミュニケーション	予習:外国人とのコミュニケーションにおける失敗事例を挙げてみる 復習:外国人とのコミュニケーションにおいて気をつけるべき点をまとめてみる
第8回	対人認知	予習:自分自身の人を見る目が正確か考えてみる 復習:他者の印象を形成するメカニズムについてまとめてみる
第9回	対人認知・対人魅力	予習:他者に魅力を感じるのとはどのような点か予めリストアップしてみる 復習:外見の魅力と内面の魅力の違いについてまとめてみる
第10回	親密な対人関係の崩壊	予習:他者との関係性が壊れる原因について考えてみる 復習:親密な対人関係が崩壊した時の行動や心理的反応についてまとめてみる
第11回	対人関係の親密化過程	予習:他者と親密になる過程をシミュレーションしてみる 復習:出会いから別れまでの対人関係の変化について考えてみる
第12回	対人行動のルール	予習:「囚人のジレンマ」という言葉について予め調べておく 復習:ゲーム理論についてまとめてみる
第13回	攻撃行動	予習:自分の身の回りで生じている攻撃行動をピックアップしておく 復習:他者に対する攻撃行動の種類とメカニズムについて考えてみる
第14回	援助行動	予習:他者を援助するのはどういつか自分の体験をまとめておく 復習:他者に助けを求める際の心理的過程についてまとめてみる
第15回	まとめ	予習:コミュニケーションとは一体何かをまとめておく 復習:コミュニケーションの難しさについて最終的なまとめをする

科目名(クラス)	日本国憲法と生活A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	川端 敏朗	実務家教員	履修対象・条件		教職実践専攻は必修。教職課程履修者はBとのいずれか必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。そこで、この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめ、法、たとえば民法、会社法、消費者法やその仕組みなどが実際の社会生活などでどのようなはたらきをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようにします。また、ダイバーシティ(多様性)に配慮した法的な取組みについても考察できるようにします。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>法の果たす機能や法の必要性について考察し、法的なものの見方・考え方＝リーガルマインドを身につけることができるようにし、近年の国際化に鑑み広い視野に立った判断をし、法的な事象について具体的な考察ができるようにします。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自ら考察、発言できるようにします。また資料などを用いて具体例も示します。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認し、考えてみてください。受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。また各項目(テーマ)について、問題点をよく整理してください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・定期試験およびレポート(60%)、講義の中であげた各項目の問題点に対する考察等の取り組み方、熱意や積極性(40%)を踏まえ、総合的に判断します。</p>									
教科書	スタンダード法学			著者等	川端・松嶋編著	出版社	芦書房		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	プライマリー法学			著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房		
参考文献	ポケット六法 令和2年版			著者等		出版社	有斐閣		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤地が実施曜日									
②時間帯(14時20分 ~ 15時10分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	私たちの生活のなかで法が果たす役割	予習: シラバスを読み、各回のテーマ、項目について確認し、考えてみる。 復習: 講義で扱った法の様々な内容について整理、理解しておく。
第2回	法 の 概 念 (現 代 社 会 での 法 の 役 割)	予習: 教科書で法 の 概 念 の 項 目 に つ い て よ く 確 認 して おく。 復習: 講義で扱った法 の 様 々 な 働 き に つ い て 整 理、 理 解 して おく。
第3回	法 と 道 徳、 法 の 存 在 形 式、 法 の 分 類	予習: 教科書で法 と 道 徳、 法 の 存 在 形 式、 法 の 分 類 の 項 目 を よ く み て おく。 復習: 講義で扱った法 と 道 徳、 法 の 存 在 形 式、 法 の 分 類 に つ い て 整 理 して おく。
第4回	法 の 適 用 と 解 釈、 法 の 効 力 - 実 質 的 効 力 と 形 式 的 効 力	予習: 教科書で法 の 適 用 と 解 釈、 法 の 効 力 に 関 する 項 目 に つ い て よ く 読 ん で おく。 復習: 講義で扱った法 の 適 用 と 解 釈、 法 の 効 力 に つ い て 整 理 して おく。
第5回	日 本 国 憲 法 の 基 本 原 理 - 基 本 的 人 権 尊 重 主 義、 国 民 主 権 主 義、 恒 久 平 和 主 義	予習: 教科書で日 本 国 憲 法 の 基 本 原 理 に 関 する 項 目 に つ い て よ く 読 ん で おく。 復習: 講義で扱った日 本 国 憲 法 の 基 本 原 理 の 内 容 に つ い て 整 理 して おく。
第6回	基 本 的 人 権 と は - 一 人 権 保 障 の カ タ ロ グ、 基 本 的 人 権 の 一 般 原 則 など	予習: 教科書で基 本 的 人 権 の 最 初 の 項 目、 人 権 の 一 般 原 則、 人 権 の 享 有 主 体 の 項 目 に つ い て よ く 読 ん で おく。 復習: 講義で扱った基 本 的 人 権 の 概 念、 内 容 を 確 認 して おく。
第7回	基 本 的 人 権 の 種 別 - 平 等 権、 自 由 権、 社 会 権、 財 産 権 など、 ダ イ バ ー シ ョ ン テ ィ ー (多 様 性) に 配 慮 した 法 的 な 取 組 み	予習: 教科書で基 本 的 人 権 の 平 等 権、 自 由 権、 社 会 権 の 項 目 に つ い て よ く 確 認 して おく。 復習: 講義で扱った基 本 的 人 権 の 種 別、 内 容 に つ い て 整 理 して おく。
第8回	国 会 お よ び 内 閣 の 権 能 など	予習: 教科書で国 会、 内 閣 の 権 能 に つ い て よ く 確 認 して おく。 復習: 講義で扱った国 会、 内 閣 の 権 能 に つ い て 整 理 して おく。
第9回	裁 判 所 の 機 能、 違 憲 法 令 審 査 権 など	予習: 教科書で裁 判 所 の 権 能 や、 違 憲 法 令 審 査 権 に つ い て よ く み て おく。 復習: 講義で扱った裁 判 所 の 権 能 に つ い て 整 理、 理 解 して おく。
第10回	民 法 (財 産 法) - 物 権 や 債 権	予習: 物 の 所 有 や 売 買、 賃 貸 借 に つ い て 考 え て み る。 復習: 講義で扱った物 権 や 債 権 に つ い て 整 理 して おく。
第11回	民 法 (家 族 法) - 親 族 や 相 続、 遺 留 分	予習: 教科書で家 族 法 の 項 目 に つ い て よ く 確 認 して おく。 復習: 講義で扱った親 族 や 相 続 に つ い て 整 理 して おく。
第12回	商 法 - 一 社 法、 有 価 証 券 法	予習: 会 社 や 手 形、 小 切 手 の 利 用 に つ い て 考 え て み る。 復習: 講義で扱った会 社、 手 形、 小 切 手 に つ い て 整 理 して おく。
第13回	消 費 者 保 護 の た め の 法 律 - 消 費 者 契 約 法	予習: 消 費 者 保 護 の た め の 法 律 に つ い て 考 え て み る。 復習: 講義で扱った消 費 者 契 約 法 の 内 容 に つ い て 整 理 して おく。
第14回	消 費 者 保 護 の た め の 法 律 - 特 定 商 取 引 法	予習: 教科書で特 定 商 取 引 の 内 容 に つ い て 確 認 して おく。 復習: 講義で扱った消 費 者 保 護 の た め の 法 律、 特 定 商 取 引 法 に つ い て 整 理 して おく。
第15回	こ の 講 義 で 扱 っ た 事 項 の ま と め (振 り 返 り)	予習: こ の 講 義 で 扱 っ た 事 項 に つ い て、 教 科 書、 ノ ー ト で 確 認 して おく。 復習: 講義で扱った事 項 を 整 理 し、 様 々 な 法 的 問 題 に 対 処 でき る よ う に して おく。

科目名(クラス)	日本国憲法と生活B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	川端 敏朗	実務家教員	履修対象・条件		教職実践専攻は必修。教職課程履修者はBとのいずれか必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。そこで、この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめとする法、たとえば民法、会社法、消費者法やその仕組みなどが実際の社会生活などでどのようなはたらきをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようにします。また、ダイバーシティ(多様性)に配慮した法的な取組みについても考察できるようにします。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>法の果たす機能や法の必要性について考察し、法的なものの見方・考え方＝リーガルマインドを身につけることができるようにし、近年の国際化に鑑み広い視野に立った判断をし、法的な事象について具体的な考察ができるようにします。また、ダイバーシティ(多様性)に配慮した法的な取組みについても考察できるようにします。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自ら考察、発言できるようにします。また資料などを用いて具体例も示します。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認し、考えてみてください。受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。また各項目(テーマ)について、問題点をよく整理してください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・定期試験およびレポート(60%)、講義の中であげた各項目の問題点に対する考察等の取り組み方、熱意や積極性(40%)を踏まえ、総合的に判断します。</p>									
教科書	スタンダード法学			著者等	川端・松嶋編著	出版社	芦書房		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	プライマリー法学			著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房		
参考文献	ポケット六法 令和2年版			著者等		出版社	有斐閣		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤地が実施曜日									
②時間帯(14時20分 ~ 15時10分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	法の基本的な機能	予習: シラバスを読んで、各回の項目、テーマについて確認し、考えてみる。 復習: 法が現実に果たしている機能について整理しておく。
第2回	国家と法	予習: 教科書で国家と法の項目について確認しておく。 復習: 講義で扱った国家と法について整理しておく。
第3回	日本国憲法の全体像	予習: 教科書の日本国憲法の最初の項目を読んでおく。 復習: 講義で扱った日本国憲法の全体像について整理しておく。
第4回	基本的人権－社会権、財産権の保障など、ダイバーシティ(多様性)に配慮した法的な取組み	予習: 教科書の基本的人権の項目を読んでおく。 復習: 講義で扱った基本的人権の内容について整理しておく。
第5回	国会、内閣の地位・権能、議院内閣制	予習: 教科書の国会、内閣の項目をよく確認しておく。 復習: 講義で扱った国会、内閣の地位や権能について整理しておく。
第6回	裁判所の種類と審級、違憲法令審査権	予習: 教科書の該当項目にあたり、裁判所の種類や働きについて考えてみる。 復習: 裁判所の種類や働きについて整理しておく。
第7回	地方自治の仕組みや憲法改正など	予習: 地方自治の仕組みや憲法改正について考えてみる。 復習: 地方自治の仕組みや憲法改正の手続きなどについて整理しておく。
第8回	犯罪と刑罰(刑事法)	予習: 教科書の刑法や刑事訴訟法の項目について確認しておく。 復習: 犯罪と刑罰に関する事項について整理し、理解しておく。
第9回	裁判の手続き(民事裁判)	予習: 教科書の民事裁判に関する事項について確認しておく。 復習: 民事裁判の内容について整理し、理解しておく。
第10回	裁判の手続き(刑事裁判)	予習: 教科書の刑事裁判に関する事項について確認しておく。 復習: 刑事裁判の内容について整理し、理解しておく。
第11回	裁判員制度－長所、短所	予習: 教科書で該当項目を確認し、裁判員制度について考えてみる。 復習: 裁判員制度の内容について整理しておく。
第12回	意思表示と契約	予習: 意思表示や契約について考えてみる。 復習: 意思表示の過程や契約の意義、種類について整理しておく。
第13回	不法行為	予習: 不法行為とは何かについて考えてみる。 復習: 不法行為の意義や問題点について整理し、理解しておく。
第14回	情報化社会と法	予習: 各種の電子商取引について考えてみる。 復習: 電子商取引の意義、手続きや種類について整理し、理解しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習: この講義で扱った事項について、教科書、ノートで認しておく。 復習: 講義で扱った事項を整理し、様々な法的問題に対処できるようにしておく。

科目名(クラス)	国際理解と交流A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	川端 敏朗	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>21世紀は、いのちの世紀、水の世紀などといわれています。世界の人口はいまや70億人を超えています。このうち12億人が安全な水を利用できない状況にあります。また、残念なことに水や食糧をめぐる、紛争や戦争が幾度となく繰り返されてきました。レイチェル・カーソンの著作『沈黙の春』は、農薬が引き起こす環境汚染を警告した書物として有名ですが、オゾン層の破壊、酸性雨、海洋汚染、森林の減少、砂漠化という環境問題も私たち一人ひとりが解決しなければならない喫緊の課題です。この講義では、多様な文化、民族、生活様式の相違や知的財産権、環境問題、人口問題、食糧問題について、資料や映像に触れながら検討します。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>国際交流には流暢な外国語の使用のみならず、相手の考え方や、文化、生活様式の違いも踏まえ、十分に理解しあえることが何よりも重要です。国際理解と交流のために必要となる、様々な事象に触れ、多様な考え方、文化について十分に把握し、幅広い柔軟な考え方ができるようにします。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自ら考察、発言できるようにします。また資料などを用いて具体例も示します。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認し、考えてみてください。受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。また各項目(テーマ)について、問題点をよく整理してください。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>・定期試験およびレポート(60%)、講義の中であげた各項目の問題点に対する考察等の取り組み方、熱意や積極性(40%)を踏まえ、総合的に判断します。</p>								
教科書	今がわかる時代がわかる世界地図2020			著者等	正井泰夫監修	出版社	成美堂出版	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	なるほど地図帳世界2020			著者等	谷治他著	出版社	昭文社	
参考文献	沈黙の春			著者等	レイチェル	出版社	新潮社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤地が実施曜日								
②時間帯(14 時 20 分 ~ 15 時 10 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	この講義で扱う事項－国際理解のための文化交流、生活様式、環境問題など	予習: シラバスを読んで、各回のテーマ、項目について確認し、考えてみる。 復習: 講義で扱った事項、内容について整理、理解しておく。
第2回	世界の古代文明－どのような文明であったか	予習: 世界の古代文明などの事項についてよく見ておく。 復習: 世界の古代文明などの事項について、現在に生かされる点を整理しておく。
第3回	日本人の暮らしとしきたり	予習: 日本人の暮らしに根付いているしきたりについて考えてみる。 復習: 日本人の暮らしとしきたりについて配布した資料をよく読み確認しておく。
第4回	異文化交流の歴史－私たちはどのようにして文化交流してきたのか	予習: 現代までどのような異文化交流があったかについて考えてみる。 復習: 講義で扱った異文化交流について整理し、確認しておく。
第5回	日本人の食文化とバランス	予習: 教科書の食文化に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 配布資料も参考にして日本人の食文化について整理しておく。
第6回	世界各地の食文化	予習: 教科書の世界各地の食文化に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 配布資料も参考にして世界各地の食文化について整理しておく。
第7回	世界の裁判制度	予習: 世界の裁判制度にはどのようなものがあるかについてよく確認しておく。 復習: 世界の裁判制度にちて整理し、よく確認しておく。
第8回	世界の地域的経済統合	予習: 教科書で世界の地域的経済統合に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 世界の地域的経済統合について整理し、よく確認しておく。
第9回	EU(ヨーロッパ連合)とユーロ、イギリスのEU離脱	予習: 教科書でEU(ヨーロッパ連合)とユーロに関する事項やイギリスのEU離脱についてよく確認しておく。 復習: EUやユーロの内容イギリスのEU離脱の問題点について整理し、よく確認しておく。
第10回	世界各地の地域的紛争と法的解決	予習: 教科書で世界各地の地域的紛争にはどのようなものがあるかについてよく確認しておく。 復習: 世界の地域的紛争の解決方法について整理し、よく確認しておく。
第11回	自由貿易とWTO(世界貿易機関)	予習: 教科書で自由貿易の内容、WTOについてよく確認しておく。 復習: 自由貿易およびWTOについて整理し、よく確認しておく。
第12回	アメリカ大統領選挙	予習: 教科書でアメリカ大統領選挙に関する事項についてよく確認しておく。 復習: アメリカ大統領選挙、日本の首相選出方法について整理しておく。
第13回	知的財産権(小冊子を配布します。)	予習: 教科書の知的財産権に関する項目をよくみておく。 復習: さまざまな知的財産権について確認し、整理しておく。
第14回	知的財産権－著作権とはどのようなものか	予習: 教科書の著作権に関する項目をよくみておく。 復習: 著作権の種類や保護期間について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習: この講義で扱った事項について教科書、ノートで確認しておく。 復習: 国際理解と交流の講義で扱った事項を整理し、今後の生活のなかで生かせるようにしておく。

科目名(クラス)	国際理解と交流B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	川端 敏朗	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>21世紀は、いのちの世紀、水の世紀などといわれています。世界の人口はいまや70億人を超えています。このうち12億人が安全な水を利用できない状況にあります。また、残念なことに水や食糧をめぐる、紛争や戦争が幾度となく繰り返されてきました。レイチェル・カーソンの著作『沈黙の春』は、農薬が引き起こす環境汚染を警告した書物として有名ですが、オゾン層の破壊、酸性雨、海洋汚染、森林の減少、砂漠化という環境問題も私たち一人ひとりが解決しなければならない喫緊の課題です。この講義では、多様な文化、民族、生活様式の相違や知的財産権、環境問題、人口問題、食糧問題について、資料や映像に触れながら検討します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>国際交流には流暢な外国語の使用のみならず、相手の考え方や、文化、生活様式の違いも踏まえ、十分に理解しあえることが何よりも重要です。国際理解と交流のために必要となる、様々な事象に触れ、多様な考え方、文化について十分に把握し、幅広い柔軟な考え方ができるようにします。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自ら考察、発言できるようにします。また資料などを用いて具体例も示します。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認し、考えてみてください。受講中にはノートをしっかりとするように心がけてください。また各項目(テーマ)について、問題点をよく整理してください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・定期試験およびレポート(60%)、講義の中であげた各項目の問題点に対する考察等の取り組み方、熱意や積極性(40%)を踏まえ、総合的に判断します。</p>									
教科書	今がわかる時代がわかる世界地図2020			著者等	正井泰夫監修	出版社	成美堂出版		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	なるほど地図帳世界2020			著者等	谷治他著	出版社	昭文社		
参考文献	沈黙の春			著者等	レイチェル	出版社	新潮社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤地が実施曜日									
②時間帯(14 時 20 分 ~ 15 時 10 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	子の講義で扱う事項－国際理解のための文化交流、生活様式、環境問題など	予習: シラバスを読んで、各回のテーマ、項目について確認し、考えてみる。 復習: 講義で扱った事項、内容について整理、理解しておく。
第2回	知的財産権①(小冊子を配布します)	予習: 知的財産権、特に著作権とはどのようなものであるかについて考えてみる。 復習: 知的財産権、特に著作権の内容と種類について整理しておく。
第3回	知的財産権②(音楽著作権①)	予習: 配布資料で著作権や音楽著作権について確認しておく。 復習: 著作権や音楽著作権について整理しておく。
第4回	知的財産権③(音楽著作権②)	予習: 著作権、特に音楽著作権について確認しておく。 復習: 著作権、特に音楽著作権に関する問題点について整理しておく。
第5回	私たちの生活と水資源	予習: 教科書で水資源に関する事項について確認しておく。 復習: 講義で扱った水資源に関する問題点について整理しておく。
第6回	水をめぐる法律問題	予習: 水の規制などの法律や条約について確認しておく。 復習: 講義で扱った水に関する法律や条約の問題点について整理しておく。
第7回	私たちの食糧と自給	予習: 私たちの食糧と自給に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 講義で扱った食糧問題や食糧自給率に関する事項について確認しておく。
第8回	人口問題と食糧の確保	予習: 教科書の人口問題に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 講義で扱った人口問題と食糧の確保に関する事項について確認しておく。
第9回	環境問題とは何か	予習: 教科書の環境問題に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 講義で扱った環境問題に関する事項について確認しておく。
第10回	酸性雨、大気汚染など	予習: 教科書の酸性雨、大気汚染に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 講義で扱った酸性雨、大気汚染に関する事項について確認しておく。
第11回	森林の減少、砂漠化など	予習: 教科書の森林の減少、砂漠化に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 講義で扱った森林の減少、砂漠化に関する事項について確認しておく。
第12回	環境問題と地球規模の温暖化	予習: 教科書の地球規模の温暖化に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 講義で扱った地球規模の温暖化に関する事項について確認しておく。
第13回	地球温暖化防止のための取り組み	予習: 教科書の地球温暖化防止のための取り組みに関する事項についてよく確認しておく。 復習: 講義で扱った地球温暖化防止のための取り組みに関する事項について確認しておく。
第14回	地球温暖化防止のための条約	予習: 教科書の地球温暖化防止のための条約に関する事項についてよく確認しておく。 復習: 講義で扱った地球温暖化防止のための条約に関する事項について確認しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習: この講義で扱った事項について教科書、ノートで確認しておく。 復習: 国際理解と交流の講義で扱った事項を整理し、今後の生活のなかで生かせるようにしておく。

科目名(クラス)	社会福祉概論 〔老人・児童福祉を含む〕A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	高畑 敦子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻はBとのいずれか必修			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>・私たちが自立した、より良い、幸せな生活を送ることは、とても大切なことであり、人としての権利でもあります。しかしながら、自分の努力だけで「より良い生活」を送ることは難しく、国・地方自治体・地域等が様々な取り組みで支援を行っています。それらの政策・施策が「社会福祉」です。</p> <p>・この授業では、日本における社会福祉の制度や、現状および課題を学んでいきます。将来、皆さんが、社会的支援を必要とする人々と関わる仕事をしていく時に、相手を理解する一助となる内容です。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>・自身の生活と関連づけ、社会福祉が身近にあることを自覚し、学んだ知識を生活や仕事に生かすことができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>・復習と予習のための簡単な小テスト。 ・講義形式中心。映像視聴や時事問題に関する記事を読むこともあり。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・新聞、テレビ、インターネットなどで「社会福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。 ・遅刻、途中退出は原則として認めません。 ・音楽療法専攻生は、ABの両方を履修習得することが望ましいです。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>・授業内小テストおよびレポート30% ・学期末提起試験【4択問題と筆記】70%</p>								
教科書	指定なし(毎回資料配布)			著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	「社会福祉」について① ・概念、基本理念、定義 ・しくみ	予習: シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習: 配布資料の再読。
第2回	小テスト(資料持ち込み可) 暮らしと社会福祉～現状と課題～	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第3回	小テスト(資料持ち込み可) 社会福祉の法体系 ・法制度 ・実施のしくみ ・医療・保険との関連性	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第4回	小テスト(資料持ち込み可) 地域の福祉① ・近年の福祉制度改革の経緯と特徴 ・地域福祉とコミュニティ ・概念	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第5回	小テスト(資料持ち込み可) 地域の福祉② ・実際の方法 その1	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第6回	小テスト(資料持ち込み可) 地域の福祉③ ・実際の方法 その2	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 自身の住んでいる地域の地域福祉について調べる。 復習: 今回配布資料の再読。
第7回	小テスト(資料持ち込み可) 女性と家族の福祉① ・現状、基本理念、制度	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第8回	小テスト(資料持ち込み可) 女性と家族の福祉② ・基本理念、制度	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第9回	小テスト(資料持ち込み可) 女性と家族の福祉③ ・実施体制、今後の課題	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第10回	小テスト(資料持ち込み可) 女性と家族の福祉④ ・実施体制、今後の課題	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第11回	小テスト(資料持ち込み可) 児童家庭の福祉① ・現状	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第12回	小テスト(資料持ち込み可) 児童家庭の福祉② ・基本理念、制度	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第13回	小テスト(資料持ち込み可) 児童家庭の福祉③ ・実施体制、今後の課題	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第14回	小テスト(資料持ち込み可) 児童家庭の福祉④ ・実施体制、今後の課題	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第15回	まとめ	予習: 各回に配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習: 授業で学んだことを、他科目や日常生活で学んだことと関連づけながら「社会福祉」の理解をより深めていく。

科目名(クラス)	社会福祉概論 〔老人・児童福祉を含む〕B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	高畑 敦子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻はBとのいずれか必修			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>・私たちが自立した、より良い、幸せな生活を送ることは、とても大切なことであり、人としての権利でもあります。しかしながら、自分の努力だけで「より良い生活」を送ることは難しく、国・地方自治体・地域等が様々な取り組みで支援を行っています。それらの政策・施策が「社会福祉」です。</p> <p>・この授業では、日本における社会福祉の制度や、現状および課題を学んでいきます。将来、皆さんが、社会的支援を必要とする人々と関わる仕事をしていく時に、相手を理解する一助となる内容です。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>・自身の生活と関連づけ、社会福祉が身近にあることを自覚し、学んだ知識を生活や仕事に生かすことができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>・復習と予習のための簡単な小テスト。 ・講義形式中心。映像視聴や時事問題に関する記事を読むこともあり。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・新聞、テレビ、インターネットなどで「社会福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。 ・遅刻、途中退出は原則として認めません。 ・音楽療法専攻生は、ABの両方を履修習得することが望ましいです。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>・授業内小テストおよびレポート30% ・学期末提起試験【4択問題と筆記】70%</p>								
教科書	指定なし(毎回資料配布)			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	「社会福祉」について① ・概念、基本理念、定義 ・しくみ	予習: シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習: 配布資料の再読。
第2回	小テスト(資料持ち込み可) 生活困窮者の福祉① ・現状、基本理念、制度	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第3回	小テスト(資料持ち込み可) 生活困窮者の福祉② ・実施体制、今後の課題	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第4回	小テスト(資料持ち込み可) 障害者の福祉① ・障害者について	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第5回	小テスト(資料持ち込み可) 障害者の福祉② ・障害観の変遷、基本理念 ・現状	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第6回	小テスト(資料持ち込み可) 障害者の福祉③ ・法体系と制度	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第7回	小テスト(資料持ち込み可) 障害者の福祉④ ・実施体制、今後の課題	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第8回	小テスト(資料持ち込み可) 高齢者の福祉① ・高齢者について ・基本理念 ・現状	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第9回	小テスト(資料持ち込み可) 高齢者の福祉② ・基本理念 ・現状	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第10回	小テスト(資料持ち込み可) 高齢者の福祉③ ・制度の経緯と現在	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第11回	小テスト(資料持ち込み可) 高齢者の福祉④ ・実施体制(介護保険制度)、今後の課題	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第12回	小テスト(資料持ち込み可) 高齢者の福祉⑤ ・実施体制(介護保険制度)、今後の課題	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第13回	小テスト(資料持ち込み可) 社会福祉の担い手① ・マンパワー ・専門職、資格制度と倫理	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第14回	小テスト(資料持ち込み可) 社会福祉の担い手② ・マンパワー ・専門職、資格制度と倫理	予習: 小テスト用配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読。
第15回	まとめ	予習: 各回に配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習: 授業で学んだことを、他科目や日常生活で学んだことと関連づけながら「社会福祉」の理解をより深めていく。

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	三室戸 元光	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>『ひと』とは何か、『ひとの性格(=キャラクター又はパーソナリティ)』とは何か、を理解することは、人間の心理の中核を理解しようとするものであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は、心理学を学ぶ人間にとって非常に身近な行為です。ただ、単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠(=心理学的な知識や考え方)が必要となります。</p> <p>この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、「自分自身」や「ひと」を多面的に理解する方法として、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。前期Aの授業は、『自分自身を深く理解すること』を取り上げます。なお、後期Bを受ける予定の学生は前期Aから受けることをおすすめします。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>心理学というひとの内面を読み解く知識や道具を使って、自分自身の心理学的な理解を深め、「自分自身の内面に關わる問題を、自分でサポートできるようになる」ことが、この科目の目標です。自分の内面(=キャラクターやパーソナリティ)に対して、自身に起きた事実やそれに対する心理的な反応(感情、願望を含むあらゆる行動)への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティをもち、どんな心理的な課題をどのように解決していくか』を自分で考察できるようにしていきます。なお、「心理学そのもの」については、「現代の心理学A・B」を先に履修することをおすすめします。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>授業は、教員による解説形式で行います。テーマによっては、行動実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えたり聴いたりする・相手に具体的に質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>テキストの購入は不要ですが、配布物が多くなります。配布物はこの科目専用の「緑ファイル」に入れて、各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業時間内で、「配布物への回答と提出が求められる」場合があります。教員から指示があったら、当日中に提出してください。これは総合評価の一部とします(50%分)。期末試験では、最終講義日までに解説した「毎回の授業内容」の中から、現在の「自分自身がかかえる心理的課題は何か」、それを「どのように解決していくか」について考え、今から始められる行動は何か、を掘り下げて考えてもらいます(50%分)。どちらも何か1つの正解を求めているのではなく、「学習し獲得した知識や学び得た方法を使って、(感想文ではなく)自分の言葉で、自分の心理的な課題の理解をすすめ、その根拠や理由について【科学的に】説明できているか」を基準に、評価をします。</p>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	本当の「私」がわかる 自分の心理学	著者等	齊藤勇(2014)	出版社	ナツメ社			
参考文献	はじめてのレジリエンス・ワークブック折れない心の作り方	著者等	日本ポジティブ心理学協会(2016)	出版社	ずばる舎			
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(10時00分 ~ 18時30分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業インフォメーション 第1章:本当の自分がはじめてわかる心理学 その1	復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第2回	第1章:本当の自分がはじめてわかる心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第3回	第1章:本当の自分がはじめてわかる心理学 その3	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第4回	第2章:自分の力を最大限に出せる心理学 その1	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第5回	第2章:自分の力を最大限に出せる心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第6回	第2章:自分の力を最大限に出せる心理学 その3	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第7回	第3章:自分の力を最大限に出せる心理学 その4 ①ストレスマネジメント、②アサーション授業プログラム、③リラクゼーション法の実習	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第8回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その1 「ABC分析」で自分を知る	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第9回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その2 「思考のワナ」を抜け出す	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第10回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その1 気分を左右する自動思考に気づく、代表的な認知のゆがみ、ホットな自動思考に気づく	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第11回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その2 自動思考のゆがみに気づく、自動思考を変える習慣をつける、行動の結果をふりかえる	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第12回	認知療法「怒りを上手におさえるワーク」その1 信念(思い込み)、思考(考え)を学ぶ	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第13回	認知療法「怒りを上手におさえるワーク」その2 よくある思考(考え)の失敗、怒りのコントロール、生活スタイルの見直し	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第14回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その3 「未来の『シナリオ』を書き直す」	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、提出物は必ず提出する
第15回	★★★前期まとめ(心理学の授業で理解した「自分の心理的な課題」と「その解決方法」を、今までに学んだ内容を使って、自分の言葉で説明する)	予習:前期の授業内容を再度確認しておく 復習:なし

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	三室戸 元光	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>ひとの内面を読み解く研究方法を「アセスメント」といい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品又は教示物への反応等によって行う方法などが代表的です。日程の前半では、制作物や作品を通してアセスメントを行う「描画法」をもとに、描画作者(子ども~学生)の心象世界に触れつつ、後半でひとの内面を深く読み解くための分析方法を、個人内、グループ内検討、グループ発表で総合的に身につけます。特に、後半は実際の描画事例をもとに、描画アセスメントによるカウンセリングとその人物への援助の方針の立案を実践的に行います。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>心理学という内面を読み解く知識や道具を使って、「ひと」の心理学的な理解を深め、「ひとをサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。後期Bは、絵を描いた人の内面の理解を深めることによって、「ひとがどんなパーソナリティなのか」、「どんな心理的課題があるのか」、その人に『どんな援助の方針が考えられるか』について、「制作物・作品によって分析する」ことができるようにしていきます。なお、「心理学そのもの」については、「現代の心理学A・B」を先に履修することをおすすめします。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>授業は、後期前半に描画体験と描画法の解説、後期後半に事例検討と事例についてのグループ演習、を行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えたり、相手から聴いたりする・相手に具体的に質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>心理学についての全体解説はしないで、すぐ各論(描画法)に入ります。配布物などは専用の「青色ファイル」に入れて各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業時間内に、①中間試験では「描画の見立てができるか確かめる」試験30%を行います。それまでに見てきた「描画」を、読み解く筆記試験です。また、最終授業で「②期末試験(自分自身やひとを読み解く練習をして、「ひと」の事例を読み解く能力がどの程度身についたかを確かめる 40%)」を行います。さらに③課題による授業の習得状況(30%)をもとに、総合的な評価をします。②③については1つの正解を求めているのではなく、「獲得した知識や学び得たアセスメント能力をもとに、(感想文ではなく)自分の言葉で、ひとの内面の理解をすすめる、その根拠や理由とともに【科学的に】説明できているか」を基準に評価します。</p>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	スクールカウンセリングに活かす描画法	著者等	高橋依子	出版社	金子書房			
参考文献	描画テスト	著者等	高橋依子	出版社	北大路書房			
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(10時00分 ~ 18時30分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業インフォメーション 知的理解 質問紙法と投映法の「アセスメント手法」の違い	予習:なし 復習:アセスメントのうち、質問紙法と投映法の違いを確認する
第2回	樹木画を自分でも描いてみる(体験)・分析する(思考) 知的理解 樹木画についての理解のしかた	予習:投映法による見立て方を前回のプリントで確かめておく 復習:授業で指示した課題を提出する
第3回	人物画を自分でも描いてみる(体験)・分析する(思考) 知的理解 人物画についての理解のしかた	予習:樹木画での描画の見立て方のポイントを、前回のプリントで確認する 復習:授業で指示した課題を提出する
第4回	HTPを自分でも描いてみる(体験)・分析する(思考) 知的理解 HTP法・HTPP法・S-HTP法による描画についての理解のしかた	予習:人物画での描画の見立て方のポイントを、前回のプリントで確認する 復習:授業で指示した課題を提出する
第5回	家族画を自分でも描いてみる(体験)・分析する(思考) 知的理解 家族画・動的家族画についての理解のしかた	予習:HTP法での描画の見立て方のポイントを、前回のプリントで確認する 復習:授業で指示した課題を提出する
第6回	学校画を自分でも描いてみる(体験)・分析する(思考) 知的理解 学校画・動的学校画についての理解のしかた	予習:家族画での描画の見立て方のポイントを、前回のプリントで確認する 復習:授業で指示した課題を提出する
第7回	★★★中間試験(描画の見立てができるか確かめる) 第2回～第6回までに見てきた「描画2種」を、それぞれ読み解く(筆記試験・一部発表)	予習:樹木・人物・HTP・家族・学校の描画事例プリントの復習をしておく 復習:描画法による見立て方のすべてを事前に確認しておく
第8回	アセスメント事例検討(総合編) 描画を用いたカウンセリングとサポート トレーニング1 →ある描画を使った人物像と苦悩を理解し、どのように援助したら苦悩が軽くなるかを考える	予習:描画法による見立て方のすべてを事前に確認しておく 復習:描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第9回	アセスメント事例検討(総合編) 描画を用いたカウンセリングとサポート トレーニング2 →ある描画を使った人物像と苦悩を理解し、どのように援助したら苦悩が軽くなるかを考える	予習:前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習:描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第10回	「人生をサポートしてくれる相談窓口」を探す練習をしよう	予習:なし 復習:絵を描いた人を援助する方法を、練習して確かめておく。課題を提出する。
第11回	アセスメント事例検討(総合編) 描画を用いたカウンセリングとサポート トレーニング3 →ある描画を使った人物像と苦悩を理解し、どのように援助したら苦悩が軽くなるかを考える	予習:前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習:描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第12回	アセスメント事例検討(総合編) 描画を用いたカウンセリングとサポート トレーニング4 →ある描画を使った人物像と苦悩を理解し、どのように援助したら苦悩が軽くなるかを考える	予習:前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習:描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第13回	アセスメント事例検討(総合編) 描画を用いたカウンセリングとサポート トレーニング5 →ある描画を使った人物像と苦悩を理解し、どのように援助したら苦悩が軽くなるかを考える	予習:前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習:描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第14回	アセスメント事例検討(総合編) 描画を用いたカウンセリングとサポート トレーニング6 →ある描画を使った人物像と苦悩を理解し、どのように援助したら苦悩が軽くなるかを考える	予習:前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習:描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第15回	★★★後期試験(描画による人物理解の総合力が身についたか確かめる) →ある描画を使った人物像と苦悩を理解し、どのように援助したら苦悩が軽くなるかを考える	予習:描画法による事例検討すべてを再度確認し、試験で見立てから援助まで考えられるようにしておく 復習:なし

科目名(クラス)	現代の心理学[発達心理を含む]A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	徳富 政樹	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>これまで「心理学」という言葉を聞いたこともないという方もいると思います。高等学校までの授業では心理学という科目がないのでそれも当然のことでしょう。しかし人間の心に関しては日々考えることがあり、素朴ながらも人間の心理について皆さんが考えているのも事実です。そこで、この授業では人間の心と行動について入門的なお話をしていこうと思います。身の周りにある事象を取り上げ、それをわかりやすく心理学的に解説していきます。前期では学習心理学、認知心理学、社会心理学といった心理学の基礎的分野についてお話をします。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>心理学とはどのような研究をしている学問分野なのかを理解する。自分の身の回りの事象が一体どのような心理的メカニズムで生じているものなのか考察できるようになること。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>基本的に講義形式です。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>レポート(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。</p>									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	やさしい教育心理学 第5版			著者等	鎌原雅彦・竹綱誠一郎	出版社	有斐閣		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(12時 00分 ~ 12時 30分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	心理学入門	予習:心理学に対するイメージをまとめておく 復習:心理学の研究分野にはどのようなものがあるのか
第2回	学習心理学 その1	予習:「学習」という言葉から受けるイメージをまとめておく 復習:古典的条件付けについてまとめる
第3回	学習心理学 その2	予習:報酬の効果について自分なりのイメージをまとめておく 復習:道具的条件付けについてまとめる
第4回	学習心理学 その3	予習:人に対して道具的条件付けをどのようにすればいいか予め考えておく 復習:人に対する道具的条件付けの効果についてまとめる
第5回	学習心理学 その4	予習:人間と動物の学習の違いについて考えておく 復習:観察学習と自己強化についてまとめる
第6回	認知心理学 その1	予習:記憶についてのイメージをまとめておく 復習:記憶のプロセスについてまとめる
第7回	認知心理学 その2	予習:記憶の失敗体験をまとめておく 復習:なぜ記憶の失敗が生じるのかそのメカニズムをまとめる
第8回	認知心理学 その3	予習:目の錯覚が生じた経験をまとめておく 復習:目の錯覚を利用した広告事例を探してみる
第9回	認知心理学 その4	予習:脳の働きについての自分なりのイメージをまとめておく 復習:視覚と脳の関係についてまとめる
第10回	認知心理学 その5	予習:これまでの自分の経験で誤った思考過程についてまとめる 復習:思考のメカニズムについてまとめる
第11回	認知心理学 その6	予習:自分の体験内で突然のひらめきが生じた事例をピックアップしてみる 復習:認知心理学の研究分野についてまとめる
第12回	社会心理学 その1	予習:集団が個人に対して影響を与えている事例を集めてみる 復習:他者や集団から影響される過程についてまとめる
第13回	社会心理学 その2	予習:「マインドコントロール」という言葉について調べておく 復習:マインドコントロールの過程についてまとめる
第14回	社会心理学 その3	予習:血液型と性格との関連についてのイメージをまとめておく 復習:心理学における血液型研究についてまとめる
第15回	まとめ	予習:これまでの授業内容についてもう一度振り返ってみる 復習:心理学の様々な研究分野の特徴をまとめる

科目名(クラス)	現代の心理学[発達心理を含む]B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	徳富 政樹	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>これまで「心理学」という言葉を聞いたこともないという方もいると思います。高等学校までの授業では心理学という科目がないのでそれも当然のことでしょう。しかし人間の心に関しては日々考えることがあり、素朴ながらも人間の心理について皆さんが考えているのも事実です。そこで、この授業では人間の心と行動について入門的なお話をしていこうと思います。身の周りにある事象を取り上げ、それをわかりやすく心理学的に解説していきます。後期授業では臨床心理学、発達心理学などの応用的分野についてのお話となります。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>心理学には様々な考え方があることを把握して、それぞれ違いを自分なりにまとめることができるようになること。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>基本的に講義形式です。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>テスト(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。</p>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	やさしい教育心理学 第5版	著者等	鎌原雅彦・竹綱誠一郎	出版社	有斐閣			
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>								
<p>②時間帯(12時 00分 ~ 12時 30分)</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	臨床心理学 その1	予習:カウンセリングという言葉のイメージを予めリストアップしておく 復習:様々なカウンセリングの考えかたを簡単にまとめる
第2回	臨床心理学 その2	予習:フロイトとユングという人名を予め調べてみる 復習:フロイトの考えかたについてまとめる
第3回	臨床心理学 その3	予習:自分が見た夢をいくつかまとめる 復習:ユングの考えかたについてまとめる
第4回	臨床心理学 その4	予習:行動療法という言葉について予め調べておく 復習:行動療法と認知療法についてまとめる
第5回	発達心理学 その1	予習:自分の生まれ育った歴史を振り返ってみる 復習:「発達」という言葉の意味をまとめる
第6回	発達心理学 その2	予習:発達に必要なものをイメージしてみる 復習:発達の過程についてまとめる
第7回	発達心理学 その3	予習:人間と動物の行動に違いがあるか予め考えておく 復習:臨界期と敏感期の違いについてまとめる
第8回	発達心理学 その4	予習:頭がいいとはどういうことが予めまとめておく 復習:知能指数の概念についてまとめる
第9回	発達心理学 その5	予習:知能が発達する過程について自分なりのイメージをまとめる 復習:ピアジェの発達段階の考え方をまとめる
第10回	発達心理学 その6	予習:性と発達について予め自分なりのイメージをまとめる 復習:フロイトの発達段階の考え方についてまとめる
第11回	発達心理学 その7	予習:自分が将来何になりたいのかのイメージをまとめる 復習:エリクソンの自我同一性の考えかたについてまとめる
第12回	生理心理学	予習:自分の睡眠状況について予めまとめておく 復習:レム睡眠とノンレム睡眠の違いについてまとめる
第13回	教育心理学	予習:教育現場で心理学をどう活かすかのイメージをまとめる 復習:ピグマリオン効果についてまとめる
第14回	発達臨床心理学	予習:自分が中学生の頃に何に悩んでいたのか振り返ってまとめる 復習:思春期の心理状態についてまとめる
第15回	まとめ	予習:これまで授業内容について振り返ってみる 復習:心理学とは何かについて自分なりの考えかたをまとめる

科目名(クラス)	コンピュータ演習A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	湯浅 恭子	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者と教職実践専攻は必修。			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>・「情報を得る・発信する・保管する」「コミュニケーションをはかる」など、コンピュータの活用法は多様になっています。企業や学校教育現場においてもコンピュータを活用する場面は多くあります。</p> <p>・演習では、ソフトウェアを用いた書類作成やプレゼンテーションを行います。</p> <p>・コンピュータの操作を通じて、情報の組み立てやその応用の仕方を見につけます。</p> <p>・身近な情報技術や、ネットワーク利用におけるモラル・著作権について理解を深めます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>・Windows、Microsoft Office Word、PowerPointの基本的な操作ができる。</p> <p>・文書作成やプレゼンテーション実習を通じて、的確な伝え方や情報発信をすることができる。</p> <p>・インターネットやSNSを利用する際の情報モラルを理解し、適切に使うことができる。</p> <p>・著作権についての理解を深め、レポート作成に活用できる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
演習形式・講義形式・グループでのプレゼンテーション実習								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・課題データを保存するため、USBフラッシュメモリ(2GB程度の空きのあるもの)を必ず用意してください。</p> <p>・授業への参加姿勢、時間と期限を守ることを重視します。</p> <p>授業開始後、30分を越えてからの入室は欠席、また遅刻は3回で欠席1とします。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>・授業への参加度(積極性・演習課題への取り組み)40%</p> <p>・各演習ごとの提出物・プレゼンテーション内容30%</p> <p>・学期末実技試験30%</p>								
教科書	授業初回に担当教員より指示			著者等			出版社	
教科書	必要に応じて授業時にプリントを配布			著者等			出版社	
参考文献	実践に役立つ情報処理 基礎から応用まで 2019年度版			著者等	立田ルミ 他	出版社	日経BP社	
参考文献	最新 情報トピックス 2020			著者等	久野靖 他(監修)	出版社	日経BP社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(16 時 00 分 ~ 16 時 20 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	演習室のシステムについて 身近なコンピュータのしくみ OS-オペレーティングシステム- と ソフトウェア・ハードウェア	予習: シラバスを読んで各回のテーマを 押さえておく。 復習: 身近な情報機器のしくみについて調べ、 まとめる。
第2回	情報の整理 -階層構造- Windowsの基本操作 文書作成ソフトウェア-Word-演習(1) ・文字入力/編集/画像の取り込み(プロフィールの作成)	予習: 自己プロフィール・取り込む写真の準備。 復習: 授業で行ったWordの基本操作を確認する (PCまたは教科書を使用)。
第3回	文書作成ソフトウェア-Word-演習(2) ・一般的なビジネス文書の作成 ・図形やワードアートの利用 ・印刷、ページ設定について	予習: 授業内で作成するチラシの内容を考える。 復習: 授業で行ったWordの操作を確認する (PCまたは教科書を使用)。
第4回	文書作成ソフトウェア-Word-演習(3) ・実践的な文書の作成 ・書式設定	予習: 授業内で作成する案内状の内容を考える。 復習: 授業で行ったWordの操作を確認する (PCまたは教科書を使用)。
第5回	文書作成ソフトウェア-Word-演習(4) ・表の活用 著作権と引用について	予習: 著作物・著作権について調べる。 復習: 引用の仕方について確認する。
第6回	文書作成ソフトウェア-Word-演習(5) ・まとめと問題演習	予習: Wordのまとめに向けて、これまでの操作を 確認する。 復習: これまでに行ったWordの操作を確認する (PCまたは教科書を使用)。
第7回	プレゼンテーションソフトウェア-PowerPoint-演習(1) ・PowerPointの基本操作 ・デジタル教材の作成について	予習: PowerPointの基本操作を試す。 (PCを利用、または教科書を読む)。 復習: デジタル教材の参考資料を探し、 考察する。
第8回	プレゼンテーションソフトウェア-PowerPoint-演習(2) ・マルチメディアの利用	予習: 授業内で作成するデジタル教材の内容を 考え、必要な素材を集める。 復習: 作成したデータの確認と修正を検討する。
第9回	プレゼンテーションソフトウェア-PowerPoint-演習(3) ・PDFへの書き出しとデータ共有	予習: 授業内で作成するデジタル教材に必要な 素材を集める。 復習: データのファイル形式について整理する。
第10回	情報を集め、まとめ、発信する プレゼンテーションの準備(グループ演習)①	予習: プレゼンテーションのテーマの候補を挙げ 下調べを行う。 復習: プレゼンテーションのストーリーの流れを 整理する。
第11回	情報を集め、まとめ、発信する プレゼンテーションの準備(グループ演習)②	予習: プレゼンテーションに必要な調べを行う。 テーマに対する意見をまとめる。 復習: グループでストーリー作りを進める。
第12回	情報を集め、まとめ、発信する プレゼンテーションの準備(グループ演習)③	予習: プレゼンテーションに必要な調べを行う。 テーマに対する意見をまとめる。 復習: グループでストーリーを完成させる。
第13回	情報を集め、まとめ、発信する グループプレゼンテーション実践①	予習: プレゼンテーションのリハーサルを行う。 復習: 実践したプレゼンテーションの評価と 改善を行う。
第14回	情報を集め、まとめ、発信する グループプレゼンテーション実践②	予習: プレゼンテーションのリハーサルを行う。 復習: 実践したプレゼンテーションの評価と 改善を行う。
第15回	まとめ	予習: 各回で行ったことの情報整理をする。 Microsoft Wordの基本操作を確認する。 復習: 授業で学んだ情報セキュリティ・モラルの 資料を再確認し、実践する。

科目名(クラス)	コンピュータ演習B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	湯浅 恭子	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者と教職実践専攻は必修。			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ演習Aで学んだWindowsの基本操作をもとに、他のソフトウェアを用いながらコンピュータの利用の幅を広げます。 ・表計算ソフトウェア(Excel)・楽譜作成ソフトウェア・音楽制作ソフトウェアの基本操作を学んだあと、各自で理解を深めたいソフトウェアを選び、個人またはグループワークで演習を進めていきます。自身の音楽活動やキャリア、教育現場での利用に繋がられるよう、活用方法を考察します。 ・初歩のプログラミングとプログラミング的思考について学びます。 								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェア(Excel)の基本操作ができる。 ・楽譜作成ソフトウェア、音楽制作ソフトウェアの概要を理解し、基本操作ができる。 ・ソフトウェアの利用を通じて、自身の日常生活や音楽活動、教育現場での活用法を見い出すことができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
演習形式(個人・グループ)・講義形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・課題データを保存するため、USBフラッシュメモリ(2GB程度の空きのあるもの)を必ず用意してください。 ・授業への参加姿勢、時間と期限を守ることを重視します。 授業開始後、30分を越えてからの入室は欠席、また遅刻は3回で欠席1とします。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度(積極性・演習課題への取り組み)40% ・各演習ごとの提出物30% ・学期末提出課題(各自選択)30% 								
教科書	授業初回に担当教員より指示			著者等	実教出版編修部	出版社	実教出版	
教科書	必要に応じて授業時にプリントを配布			著者等		出版社		
参考文献	実践に役立つ情報処理 基礎から応用まで 2019年度版			著者等	立田ルミ 他	出版社	日経BP社	
参考文献	最新 情報トピックス 2020			著者等	久野靖 他(監修)	出版社	日経BP社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(16 時 00 分 ~ 16 時 20 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Windowsの基本操作の確認 楽譜作成ソフトウェア-Sibelius-の基本操作(1)	予習:シラバスを読んで各回のテーマを 押さえておく。 復習:配布資料の復習とまとめ。
第2回	楽譜作成ソフトウェア-Sibelius-の基本操作(2)	予習:前回の授業での配布資料を読む。 復習:配布資料の復習とまとめ。
第3回	楽譜作成ソフトウェア-Sibelius-の基本操作(3)	予習:演習で使用する楽曲を準備する。 必要に応じて手書き譜面をおこす。 復習:配布資料の復習とまとめ。
第4回	デジタル化 音楽制作ソフトウェアの基本操作(1)	予習:デジタルとアナログについて調べる。 復習:配布資料の復習とまとめ。
第5回	音楽情報とデジタル 音楽制作ソフトウェアの基本操作(2)	予習:自分の持っているデジタル機器の 録音アプリを使って音声録音する。 復習:音楽データのファイル形式について 整理する。
第6回	音楽制作ソフトウェアの基本操作(3)	予習:配布テキストの確認と整理。 復習:音楽制作ソフトウェアでできることを 確認し、自分の音楽活動との関わり を考察する。
第7回	表計算ソフトウェア-Excel-の基本操作(1) ・文字やセルの編集 ・計算式の利用①	予習:教科書でExcel画面の各名称を確認する。 復習:授業で行ったExcelの操作を確認する (PCまたは教科書を使用)。
第8回	表計算ソフトウェア-Excel-の基本操作(2) ・計算書の作成 ・計算式の利用②	予習:配布テキストの確認と整理。 復習:授業で行ったExcelの操作を確認する (PCまたは教科書を使用)。
第9回	表計算ソフトウェア-Excel-の基本操作(3) ・計算式の利用③	予習:配布テキストの確認と整理。 復習:授業で行ったExcelの操作を確認する (PCまたは教科書を使用)。
第10回	表計算ソフトウェア-Excel-の基本操作(4) ・グラフの活用 ・問題演習	予習:配布テキストの確認と整理。 復習:これまでに行ったExcelの操作を確認する (PCまたは教科書を使用)。
第11回	プログラミングの基礎知識 ・プログラミング的思考とは? ・プログラミング教育の現在 ・プログラミングしてみよう	予習:「プログラミング」についてWeb検索し、 意味や言語の種類を調べる。 復習:PCやスマートフォンを利用して プログラミングを試してみる。
第12回	ソフトウェア実習-1 これまでに取り上げたソフトウェアから選択して演習	予習:理解を深めたいソフトウェアを選択する。 実習に必要な資料を集める。 復習:配布テキストの確認と整理。
第13回	ソフトウェア実習-2 これまでに取り上げたソフトウェアから選択して演習 (原則として前回と同じソフトウェアで続けて行う)	予習:実習に必要な資料を集める。 必要に応じて手書きで資料を作成する。 詳細は授業時に指示。 復習:配布テキストの確認と整理。
第14回	ソフトウェア実習-3 これまでに取り上げたソフトウェアから選択して演習 (原則として前回と同じソフトウェアで続けて行う)	予習:実習に必要な資料を集める。 必要に応じて手書きで資料を作成する。 詳細は授業時に指示。 復習:配布テキストの確認と整理。
第15回	まとめ	予習:各回で行ったことを振り返る。 復習:授業で学んだことをもとに、興味を持った コンピュータの利用方法を掘り下げる。 自身の活動や音楽教育へ活用する。

科目名(クラス)	ウィーンの社会と文化A-a・b		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	荒木 洋育	実務家教員	履修対象・条件		全専攻必修			
【授業の概要】								
<p>多数の作曲家たちが活動の舞台としてきた「音楽の都」ウィーンについての知識を深めることは、学生の皆さんが研修その他の成果をあげるうえで重要な意味を持つと考えます。この授業ではウィーンおよびオーストリアの歴史と文化を、ドイツ、ハンガリー、チェコ等中欧世界の流れとも関連付けながら、映像・音響教材も使用して1年かけてたどっていきます。その際に社会状況と文化環境との関わりが密接となる18世紀末～19世紀前半の時期、具体的には「ウィーン会議」前後の時期を一つの分岐点として考え、前期の授業ではそれ以前の時代について扱います。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】								
<p>オーストリア及びその首都ウィーンを、ドイツ、ハンガリー、チェコ等を含む中欧世界の枠組みの中で捉える視点を身につける。また音楽という芸術形態を、各作曲家が生きた時代、各作品が作られた時代の社会状況、文化環境というより広い観点から理解できるようになる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>口頭発表など学生とのコミュニケーションをとる時間(20分～30分)、講義(60分～70分)で構成します。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・オーストリア、ウィーンの歴史・文化に関する知識を学生の皆さんが初歩段階から身につけるという前提で授業を行います。 ・口頭発表を含め、積極的な授業参加を期待しています。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・口頭発表(任意の楽曲について、自分の言葉で説明する(36%)) (指定の時間内に、選んだ曲の知名度も考慮して、内容、魅力等について適切な説明をおこなうこと) 								
教科書	(授業時にプリントを配布する)			著者等		出版社		
参考文献	『世界各国史19 ドナウ・ヨーロッパ史』			著者等	南塚信吾(編)	出版社	山川出版社	
参考文献	(その他授業時に適宜指定)			著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※実施曜日を○で囲って下さい。								
②時間帯(14時 10分 ～ 14時 30分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	導入:オーストリアとウィーン ・「中欧国家」「アルプス国家」としてのオーストリア。 ・「多民族都市」としてのウィーン。	予習:観光ガイドなどを読んでオーストリアおよびウィーンの「地理」を把握しておく。 復習:授業内容を確認する。
第2回	中世西欧世界とオーストリア(1) 西欧世界の「辺境」としてのオーストリアの登場。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第1章を読んでおく。 復習:授業の内容を確認する。
第3回	中世西欧世界とオーストリア(2) ・「中世ドイツ帝国」の盛衰。 ・ハーベンベルク家のオーストリア支配。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第1章を読んでおく。 復習:授業の内容を確認する。
第4回	中世西欧世界とオーストリア(3) ・ベーメンによる支配。 ・ハプスブルク家による支配の開始。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第1章を読んでおく。 復習:授業の内容を確認する。
第5回	ハプスブルク家の発展 ・ハプスブルク家の分割相続。 ・他の中欧国家、および他の家門(ルクセンブルク家など)との競合。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第2章を読んでおく。 復習:授業の内容を確認する。
第6回	ベーメンとハンガリー ・ベーメンの歴史、および「帝国」との関係。 ・ハンガリーの歴史、およびオーストリアとの関係。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第1章、第2章を読んでおく。 復習:授業の内容を確認する。
第7回	「ハプスブルク帝国」の成立と宗教改革 ・諸領域の統合と統治。 ・カール5世の「帝国」と宗教改革の推移。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第3章を読んでおく。 復習:授業内容を確認する。
第8回	三十年戦争 ・「帝国」内の宗教対立の激化。 ・戦争の経緯とウェストファリア条約(1648年)。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第3章を読んでおく。 復習:授業内容を確認する。
第9回	「ドナウ帝国」の成立 ・「帝国」から「オーストリア」へ。 ・トルコとの戦争と領土拡大。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第3章を読んでおく。 復習:授業内容を確認する。
第10回	マリア＝テレジアと後継者たち ・オーストリア継承戦争と七年戦争。 ・マリア＝テレジアとヨーゼフ2世。	予習:小テストに備え、第1～9回の授業内容を確認しておく。 復習:授業の内容を確認する。
第11回	「神聖ローマ帝国」の終わり ・フランス革命、ナポレオンへの対処。 ・「オーストリア帝国」の成立。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第4章を読んでおく。 復習:授業の内容を確認する。
第12回	「ウィーン体制」とウィーン ・ウィーン体制の中でのオーストリアの位置。 ・「三月前期」の政治体制。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第4章を読んでおく。 復習:授業の内容を確認する。
第13回	都市ウィーンとその音楽環境 ・ウィーンの都市構造と建造物。 ・18世紀半ばまでの音楽状況。	予習:観光ガイドなどを読んでおく。 復習:授業内容を確認する。
第14回	モーツァルトの時代のウィーンの文化状況 ・モーツァルトの活動。 ・18世紀末のウィーンの文化状況。	予習:第10回の授業内容を確認しておく。 復習:授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第15回	ベートーヴェンの時代のウィーンの文化状況 ・ベートーヴェンの活動。 ・19世紀初頭のウィーンの文化状況。 まとめ	予習:第11、12回の授業内容を確認しておく。 復習:授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。

科目名(クラス)	ウィーンの社会と文化B-a・b		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	荒木 洋育	実務家教員	履修対象・条件		全専攻必修			
【授業の概要】								
<p>多数の作曲家たちが活動の舞台としてきた「音楽の都」ウィーンについての知識を深めることは、学生の皆さんが研修その他の成果をあげるうえで重要な意味を持つと考えます。この授業ではウィーンおよびオーストリアの歴史と文化を、ドイツ、ハンガリー、チェコ等中欧世界の流れとも関連付けながら、映像・音響教材も使用して1年かけてたどっていきます。後期では「ウィーン会議」～「三月革命」の時期を起点として、その時点での社会状況、文化状況を振り返ることから出発し、現代(2020年)まで授業を進めていく予定です。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク
【授業の到達目標】								
<p>オーストリア及びその首都ウィーンを、ドイツ、ハンガリー、チェコ等を含む中欧世界の枠組みの中で捉える視点を身につける。また音楽という芸術形態を、各作曲家が生きた時代、各作品が作られた時代の社会状況、文化環境というより広い観点から理解できるようになる。それに加えて後期では現代までを授業を範囲とするので、研修を行う上で重要な、音楽活動を行う場、組織、制度についての知識を身につけることができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>口頭発表など学生とのコミュニケーションをとる時間(20分～30分)、講義(60分～70分)で構成します。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>・オーストリア、ウィーンの歴史・文化に関する知識を学生の皆さんが初歩段階から身につけるという前提で授業を行います。 ・口頭発表を含め、積極的な授業参加を期待しています。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>・口頭発表(任意の楽曲について、自分の言葉で説明する(36%)) (指定の時間内に、選んだ曲の知名度も考慮して、内容、魅力等について適切な説明をおこなうこと)</p>								
教科書	(授業時にプリントを配布する)			著者等		出版社		
参考文献	『世界各国史19 ドナウ・ヨーロッパ史』			著者等	南塚信吾(編)	出版社	山川出版社	
参考文献	(その他授業時に適宜指定)			著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※実施曜日を○で囲って下さい。								
②時間帯(14時 10分 ~ 14時 30分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	「二重帝国」への道 ・前期内容の確認。 ・「三月革命」(1848年)とその結果。	予習: 前期内容全般を振り返り、理解しておく。 復習: 授業内容を確認する。
第2回	ロマン主義時代前半のウィーンの文化状況 ・ロマン派の作曲家たちとウィーンの関係。 ・ウイナ・ワルツ、音楽院の成立。	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第5章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。
第3回	「二重帝国」の推移 ・1867年に成立したいわゆる「オーストリア＝ハンガリー二重帝国」の構造。	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第6章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。
第4回	「二重帝国」とハプスブルク家 ・1890年代以降の世界情勢の変化とオーストリアとの関係。	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第6章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。
第5回	第一次世界大戦とハプスブルク家の没落 ・「サラエヴォ事件」とその背景。 ・第一次世界大戦の推移と「帝国」の崩壊。	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第7章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。
第6回	ブラームス・ブルックナーの時代 ・ブラームス、ブルックナーのウィーンでの活動。 ・19世紀後半ウィーンの音楽・文化環境。	予習: 第1, 3回の授業内容を確認しておく。 復習: 授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第7回	マーラーと世紀末ウィーンの文化 ・「ウィーン分離派」の活動。 ・作曲家・指揮者としてのマーラーの活動。	予習: 第4, 5回の授業内容を確認しておく。 復習: 授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第8回	「第一共和国」の成立 ・ヴェルサイユ条約とサン・ジェルマン条約。 ・オーストリア、ハンガリー、チェコスロヴァキアの推移。	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第7章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。
第9回	アンシュルス(合邦)と「第一共和国」の終末 ・世界恐慌のオーストリアへの影響。 ・ドルフス政権とアンシュルスへの道。	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第8章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。
第10回	第二次世界大戦とオーストリアの再興 ・併合時代のオーストリア。 ・英米仏ソによる分割占領。	予習: 小テストに備え、第1～9回の授業内容を確認しておく。 復習: 授業内容を確認する。
第11回	20世紀前半のウィーンの音楽と文化 ・リヒャルト＝シュトラウスの活動。 ・「新ウィーン楽派」の活動。	予習: 第8, 9回の授業内容を確認しておく。 復習: 授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第12回	東西冷戦期のオーストリア、ウィーン(1) ・冷戦の進行と中欧の分断。 ・オーストリア国家条約の成立。	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第9章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。
第13回	東西冷戦期のオーストリア、ウィーン(2) ・永世中立国オーストリアの登場。 ・「ブラハの春」と東欧民主化。	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第9章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。
第14回	現代のオーストリア、ウィーン(1) ・中欧諸国のEU加盟。 ・20世紀末オーストリアの政治・社会状況	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第10章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。
第15回	現代のオーストリア、ウィーン(2) ・20世紀後半のオーストリアの音楽・文化状況。 ・21世紀のオーストリア。 まとめ	予習: 第14回の授業内容を確認しておく。 復習: 授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。

科目名(クラス)	スポーツ文化論		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	江向 真理子	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者必修。教職実践専攻必修。			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>スポーツの歴史や発展について文化的視点から学ぶ。</p> <p>1.スポーツが生活と大きく関わりを持ち、影響を受けながら発展してきたことを理解する。</p> <p>2.古代オリンピックの概要について学ぶとともに近代オリンピックの足跡をたどり、オリンピックが目指す国際親善や世界平和、オリンピックムーブメントについて理解する。</p> <p>3.現代のスポーツの普及や振興について学び、生涯を通じスポーツや運動に親しむことが、健康で豊かな生活を送るために重要であることを理解する。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>スポーツの発生と、その背景や歴史を学び、スポーツについての知識や理解を深める。</p> <p style="text-align: right;">オリンピック精神と意義について理解し、オリンピックや</p> <p>スポーツ全般に興味や関心が持てるようになる。</p> <p>スポーツの価値や生涯スポーツについて学ぶことで、健康で豊かな生活を送るためにスポーツや運動の必要性を理解し、自らの生活にどのように生かしていくのかを考える。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義形式、必要に応じてDVDを鑑賞								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>教科書、参考文献等から作成したスライド、配布資料等を使用しながらの授業展開。</p> <p style="text-align: center;">授業の終了時に振り返り確認テストを実施。</p> <p style="text-align: center;">本授業は60分のため、1/3に相当する20分以上の遅刻は出席と認めない。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業に取り組む姿勢、授業内の小テストや提出物50%</p> <p style="text-align: center;">定期テスト50%</p>								
教科書	新版 スポーツの歴史と文化			著者等	新井博 編著	出版社	道和書院	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	現代生活とスポーツ文化			著者等	金芳保之 松本芳明	出版社	大修館	
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(10時 30分 ~ 11時 00分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	スポーツの起源 スポーツの定義	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第2回	スポーツの歴史と発展① スポーツの起源は何か? 先史時代にみるスポーツの起源	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第3回	スポーツの歴史と発展② 古代オリンピックとローマ帝国のシヨースポーツ	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第4回	ヨーロッパ中世時代のスポーツ 農民・都市の祭りとスポーツ	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第5回	近代のスポーツ 近代スポーツの誕生 スポーツ教育の始まり	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第6回	近代オリンピック① ピエール・ド・クーベルタンの主張 近代オリンピックが開催されるまで	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第7回	近代オリンピック② 1896年第一回～第二次世界大戦まで	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第8回	近代オリンピック③ 1948年第14回ロンドン～1980年第22回大会モスクワまで	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第9回	1964年第18回東京オリンピック オリンピック開催と日本の高度成長	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第10回	近代オリンピック④ 1984年第23回ロサンゼルスオリンピック～2016年リオデジャネイロ ビジネスとオリンピック	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第11回	スポーツと世界平和 東京オリンピック・パラリンピックを振り返る	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第12回	現代のスポーツ①	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第13回	現代のスポーツ② 学校教育の中でのスポーツ 地域でのスポーツ活動	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第14回	現代のスポーツ③	予習:特に定めず 復習:特に定めず
第15回	まとめ	予習:前回までに配布された資料を読む 復習:特に定めず

科目名(クラス)	スポーツ演習a			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	南 明恵美	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者は必修。教職実践専攻は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・幼児期には運動が好きな子がほとんどであるが、いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったり、体を使うことを避ける楽な生活に慣れてしまう。この授業では、基礎運動能力(走・跳・投)を高め、様々なスポーツを楽しむような体の使い方の基本を確認する。さらに、スポーツを楽しむためのコーディネーション力(運動の神経支配、調整力)を高める。運動を身近のものにし、将来実践できるようにする。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・スポーツを楽しむためのコーディネーション(運動の神経支配、調整力)力を高める ・運動の方法を習得し、心身のリフレッシュ、コミュニケーション、親睦を深めることを体得する ・自分の体を見つめ直し、将来の運動習慣が身につく知識と実践力を身につける</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>自己の行動データを分析し、必要な運動を個人やグループでおこなう。受講人数によっては集団スポーツが出来ないこともある。グラウンドを使用場合も稀にあるが、ほとんどの授業は講堂で行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>怪我の予防のため必ず運動に適した服装で出席する。踵のある靴、伸縮性の無い素材の服での受講は不可。不規則になりがちな大学生活の中で、健康を管理し出席する事を重要とし、ただし、見学は授業の記録や審判をすることで出席となる。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業の参加状況と授業への積極的な参加の仕方(授業の運営、グループ活動中の発言内容、課題への取り組み) 70%。 ・予習内容のまとめや復習した内容をまとめたレポート 30%</p>									
教科書	参考資料を配る			著者等	厚生労働省HP	出版社	厚生労働省HP		
教科書	「健康手帳」の閲覧			著者等	公益財団法人健康・体力づくり事業財団	出版社	株)太陽美術		
参考文献	健康づくりへのアプローチ			著者等	石井兵衛	出版社	文光堂		
参考文献	体脂肪を落として「筋肉質」になる			著者等	金子嘉徳	出版社	女子栄養大学出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(8 時 45 分 ~ 9 時 00 分)(11 時 30 分 ~ 11 時 45 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講義「大学時代以降の身体の変化と健康危機」 ・授業の受講の仕方 着替えなくてもよい	予習:シラバスを読んで各回の視点(テーマ)を押さえておく。 復習:自己の身体活動について必要な運動量の算出 べる。
第2回	前半講義【健康寿命について】 後半実技【基礎運動能力の向上の準備としての運動】ストレッチ、筋カトレ ーニング、基礎運動(体操)、エアロビック・ダンス	予習:健康寿命の伸ばし方についてまとめておく。 復習:自己の身体活動について考察する
第3回	前半講義【日常に最低必要な運動方法について】 後半実技【基礎運動能力の向上の準備としての運動】ストレッチ、筋カトレ ーニング、基礎運動(体操)、エアロビック・ダンス	予習:運動で太りにくい体質になる運動理論をまとめて おく。 復習:自己の実践可能なストレッチを選択実践方法を まとめる。
第4回	【バドミントン】 ラケットの握り方 バドミントンのサーブ、レシーブ	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動 (縄跳び運動)を実践する。 復習:バドミントンの運動方法を知り、スキルを高める。
第5回	【バドミントン】 バドミントンのサーブ、レシーブ、ゲーム 攻撃・守備の仕方 ゲームの実践	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動 (縄跳び運動)を実践する。 復習:バドミントンの運動方法を知り、スキルを高める。
第6回	【ソフトバレーボール】 ボールを使った運動からボールゲーム「ソフトバレーボール」へ バレーボールのサーブ、レシーブの技術	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動 (壁を使って運動)を実践する。 復習:ソフト・バレーボールの運動方法を知り、ゲーム ができる力を高める。
第7回	【ソフトバレーボール】 「ソフトバレーボール」ゲームに必要な技術へ バレーボールのサーブレシーブ、パスコンビネーション、攻撃	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動 (壁を使って運動)を実践する。 復習:ソフト・バレーボールの運動方法を知り、ゲーム ができる力を高める。
第8回	【ボートボール】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム 攻撃・守備の仕方	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動 (バドミントンのラリー)を実践する。 復習:ボールを投げる力を高める。
第9回	【ボートボール】 ゲーム 攻撃・守備の仕方 ゲームの運営と参加 評価	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動 (バドミントンのラリー)を実践する。 復習:ボールを投げる力を高める。
第10回	【卓球】 ラケットの握り方、サーブ、レシーブ 【自己にあったストレッチング及び筋カトレ ーニング】 実技テスト	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動 (ダブルダッチ)を実践する。 復習:スティックを使ったバスのコンビネーション力を 高める。
第11回	【卓球】 ダブルスのゲーム攻撃の仕方 【自己にあったストレッチング及び筋カトレ ーニング】 実技テスト	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動 (ダブルダッチ)を実践する。 復習:スティックを使ったバスのコンビネーション力を 高める。
第12回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価 ダブルダッチ実技テスト	予習:自己の実践可能なストレッチング、筋カトレ ーニングをまとめておく。 復習:今後の運動習慣計画を立てる。
第13回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価 ダブルダッチ実技テスト	予習:自己の実践可能なストレッチング、筋カトレ ーニングをまとめておく。 復習:今後の運動習慣計画を立てる。
第14回	【キックベース・ボール】 ルール理解 基本的な攻撃技術、守備技術 反則	予習:運動の必要性をまとめておく。 復習:今後の運動習慣計画を立てる。
第15回	【キックベース・ボール】 ルール理解 基本的な作戦的な攻撃技術、守備技術 実践力向上	予習:自己にあった運動の実践方法をまとめておく。 復習:今後の運動習慣計画を立てる。

科目名(クラス)	スポーツ演習b			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	南 明恵美	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者は必修。教職実践専攻は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・幼児期には運動が好きな子がほとんどであるが、いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったり、体を使うことを避ける楽な生活に慣れてしまう。この授業では、基礎運動能力(走・跳・投)を高め、様々なスポーツを楽しめるような体の使い方の基本を確認する。さらに、スポーツを楽しむためのコーディネーション力(運動の神経支配、調整力)を高める。運動を身近のものにし、将来実践できるようにする。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・スポーツを楽しむためのコーディネーション(運動の神経支配、調整力)力を高める ・運動の方法を習得し、心身のリフレッシュ、コミュニケーション、親睦を深めることを体得する ・自分の体を見つめ直し、将来の運動習慣が身につく知識と実践力を身につける</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>自己の行動データを分析し、必要な運動を個人やグループでおこなう。受講人数によっては集団スポーツが出来ないこともある。グラウンドを使用場合も稀にあるが、ほとんどの授業は講堂で行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>怪我の予防のため必ず運動に適した服装で出席する。踵のある靴、伸縮性の無い素材の服での受講は不可。不規則になりがちな大学生活の中で、健康を管理し出席する事を重要とし、ただし、見学は授業の記録や審判をすることで出席となる。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業の参加状況と授業への積極的な参加の仕方(授業の運営、グループ活動中の発言内容、課題への取り組み) 70%。 ・予習内容のまとめや復習した内容をまとめたレポート 30%</p>									
教科書	参考資料を配る	著者等	厚生労働省HP	出版社	厚生労働省HP				
教科書	「健康手帳」の閲覧	著者等	公益財団法人健康・体力づくり事業財団	出版社	株)太陽美術				
参考文献	健康づくりへのアプローチ	著者等	石井兵衛	出版社	文光堂				
参考文献	体脂肪を落として「筋肉質」になる	著者等	金子嘉徳	出版社	女子栄養大学出版社				
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(8 時 45 分 ~ 9 時 00 分)(11 時 30 分 ~ 11 時 45 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講義「大学時代以降の身体の変化と健康危機」・授業の受講の仕方 着替えなくてもよい	予習:シラバスを読んで各回の視点(テーマ)を押さえておく。 復習:自己の身体活動について必要な運動量の算出べる。
第2回	前半講義【健康寿命について】 後半実技【基礎運動能力の向上の準備としての運動】ストレッチ、筋力トレーニング、基礎運動(体操)、エアロビック・ダンス	予習:健康寿命の伸ばし方についてまとめておく。 復習:自己の身体活動について考察する
第3回	前半講義【日常に最低必要な運動方法について】 後半実技【基礎運動能力の向上の準備としての運動】ストレッチ、筋力トレーニング、基礎運動(体操)、エアロビック・ダンス	予習:運動で太りにくい体質になる運動理論をまとめておく。 復習:自己の実践可能なストレッチを選択実践方法をまとめる。
第4回	【バドミントン】 ラケットの握り方 バドミントンのサーブ、レシーブ	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動(縄跳び運動)を実践する。 復習:バドミントンの運動方法を知り、スキルを高める。
第5回	【バドミントン】 バドミントンのサーブ、レシーブ、ゲーム 攻撃・守備の仕方 ゲームの実践	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動(縄跳び運動)を実践する。 復習:バドミントンの運動方法を知り、スキルを高める。
第6回	【ソフトバレーボール】 ボールを使った運動からボールゲーム「ソフトバレーボール」へ バレーボールのサーブ、レシーブの技術	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動(壁を使って運動)を実践する。 復習:ソフト・バレーボールの運動方法を知り、ゲームができる力を高める。
第7回	【ソフトバレーボール】 「ソフトバレーボール」ゲームに必要な技術へ バレーボールのサーブレシーブ、パスコンビネーション、攻撃	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動(壁を使って運動)を実践する。 復習:ソフト・バレーボールの運動方法を知り、ゲームができる力を高める。
第8回	【ポートボール】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム 攻撃・守備の仕方	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動(バドミントンのラリー)を実践する。 復習:ボールを投げる力を高める。
第9回	【ポートボール】 ゲーム 攻撃・守備の仕方 ゲームの運営と参加 評価	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動(バドミントンのラリー)を実践する。 復習:ボールを投げる力を高める。
第10回	【卓球】 ラケットの握り方、サーブ、レシーブ 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動(ダブルダッチ)を実践する。 復習:スティックを使ったバスのコンビネーション力を高める。
第11回	【卓球】 ダブルスのゲーム攻撃の仕方 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	予習:ストレッチング、基礎運動能力を高める運動(ダブルダッチ)を実践する。 復習:スティックを使ったバスのコンビネーション力を高める。
第12回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価 ダブルダッチ実技テスト	予習:自己の実践可能なストレッチング、筋力トレーニングをまとめておく。 復習:今後の運動習慣計画を立てる。
第13回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価 ダブルダッチ実技テスト	予習:自己の実践可能なストレッチング、筋力トレーニングをまとめておく。 復習:今後の運動習慣計画を立てる。
第14回	【キックベース・ボール】 ルール理解 基本的な攻撃技術、守備技術 反則	予習:運動の必要性をまとめておく。 復習:今後の運動習慣計画を立てる。
第15回	【キックベース・ボール】 ルール理解 基本的な作戦的な攻撃技術、守備技術 実践力向上	予習:自己にあった運動の実践方法をまとめておく。 復習:今後の運動習慣計画を立てる。

科目名(クラス)	ドイツ語1-a・b		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	高橋 幸雄	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)は履修不可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>ドイツ語圏(ドイツ、オーストリア、スイス等)の文化理解のために、基本的な文法と発音、そして文構造を身につけて行くことを主眼に置きます。 既習の英語との違いを意識しながら練習中心の授業を展開します。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>ドイツ語の基礎的な文法力を身につけるとともに、コミュニケーション能力を獲得する。 ドイツ文化を理解し、日本文化との差異を説明できるようにする。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>演習形式です。反復練習のための問題を数多く行います。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>まずドイツ語の構造を理解し、変化の定着を行いますから、規則の反復練習(復習)が最重要です。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>小テスト(40%)、課題提出(10%)、定期試験(50%)</p>								
教科書	ドイツ文法ベーシック3 改訂版			著者等	神竹 道士	出版社	朝日出版	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	アクセス独和辞典]	いずれか	著者等		出版社	三修社	
参考文献	新アポロン独和辞典			著者等		出版社	同学社	
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>								
<p>②時間帯(16時00分～17時30分)</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語圏を知る。又、基本的な発音の特徴をつかむ。	予習:日本語になったドイツ語を見つける。 復習:習った発音をくり返し練習し、慣れる。
第2回	特徴的な発音に慣れる。動詞の人称変化を知る。	予習:人称変化をノートにまとめる。 復習:練習問題を用いて動詞の人称変化を練習する。
第3回	規則変化の特徴を練習し、実際に文章を作ってみる。	予習:教科書から動詞を抜き出し、人称変化を練習する。 復習:人称変化の練習を他のさまざまな動詞でやってみる。
第4回	不規則変化を学ぶ。規則動詞との違いを理解する。	予習:教科書の不規則動詞の練習を行ってみる。 復習:プリントの不規則動詞の練習を行ってみる。
第5回	文について知る。動詞の位置を中心に。	予習:今まで学んだ語順をまとめる。 復習:プリントで語のならばを意識して文を作る練習をする。
第6回	動詞を使って疑問文を作り、人称変化を意識して答えの文を作ってみる。	予習:疑問文を教科書から抜き出す。 復習:疑問文を既習の動詞を使って作り、応答練習を繰り返す。
第7回	名詞の性について考える。性(男性、女性、中性)の重要性を理解する。	予習:教科書から名詞を抜き出し、性を整理する。 復習:習った名詞を性に分類し、動詞と共に使ってみる。
第8回	冠詞類を用いて文を組み立てる。	予習:冠詞類をまとめる。 復習:練習問題で冠詞を使用し定着させる。
第9回	格の使い方を英語との比較の中でする。	予習:格変化をノートにまとめる。 復習:問題を用いて、格変化の練習をする。
第10回	名詞と動詞を用いて文を組み立てる。	予習:冠詞の変化をノートに書き出してみる。 復習:プリントで語尾、格変化の練習を数多くする。
第11回	前置詞を格変化とともに使う。	予習:教科書の例文から前置詞を抜き出す。 復習:前置詞の格支配を意識して練習し、身につける。
第12回	前置詞の応用練習をする。	予習:例文を覚える。 復習:動詞との関連の中で3・4格支配の前置詞を練習してみる。
第13回	人称代名詞を学ぶ。	予習:教科書の文の中の名詞を代名詞に置きかえる。 復習:人称代名詞の変化を覚え、文の中で使ってみる。
第14回	話法の助動詞を身につける。	予習:教科書から助動詞文を抜き出してみる。 復習:助動詞の変化を、一般動詞の変化と比較して練習する。
第15回	話法の助動詞の使い方の定着と学んできたことのまとめ。	変化と語順についてまとめてみる。

科目名(クラス)	ドイツ語2-a・b		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	高橋 幸雄	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)は履修不可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>1で学んだ内容をさらに確実なものにしなが、文を読む力をつけるため次の文法的なステージに移行します。 文を中心にしながら、分離動詞、再帰動詞、時制という初級文法の基礎になる項目の習得を目指します。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>ドイツ語の文法の基礎力を身につけるとともに、コミュニケーション力を獲得する。 ドイツ文化を理解し、日本文化との差異を説明できるようにする。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>演習形式で読解の問題を数多く行います。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>反復練習が更に重要です。又、ドイツとドイツ語圏への興味を積極的に持って下さい。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>小テスト(40%)、課題提出(10%)、定期試験(50%)</p>								
教科書	ドイツ文法ベーシック3 改訂版			著者等	神竹 道士	出版社	朝日出版	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	アクセス独和辞典	】	いずれか	著者等		出版社	三修社	
参考文献	新アポロン独和辞典			著者等		出版社	同学社	
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>								
<p>②時間帯(16 時 00 分 ~ 17 時 30 分)</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	1の学習範囲の復習、及び今期の学習項目の概略。	予習:動詞の人称変化と格変化の確認。 又、文構造の概略を再確認。 復習:例文にならって独作文の練習をする。
第2回	助動詞と未来形の関係を知る。	予習:枠構造の理解を深めるため助動詞を使った単文を作る練習をする。 復習:練習問題の独作文に取り組む。
第3回	分離動詞の特徴を学ぶ。	予習:不規則動詞の再確認を変化表を用いて行う。 復習:教科書の例文を訳す。
第4回	簡単な文章を読んでみる。 都市物語 ミュンヘンとザルツブルク	予習:ミュンヘンとザルツブルクについて調べてみる。 復習:調べた事例との違いを整理する。
第5回	再帰動詞を学ぶ。及び人称代名詞と再帰代名詞の相違。	予習:人称代名詞の使い方を復習しておく。 復習:例文の再帰動詞の問題に取り組む。
第6回	分離動詞と再帰動詞を用いた文章を読む。	予習:変化表を使って分離、再帰で出てきた不規則動詞を確認する。 復習:プリントの課題を解いてみる。
第7回	時制について学ぶ(1) ドイツ語の「時」の考え方	予習:変化表を用いて三基本形に慣れる。 復習:課題の時制文を解く。
第8回	時制について学ぶ(2) 過去形について	予習:現在人称変化の再確認をする。 復習:過去形の文を読む。
第9回	時制について学ぶ(3) 現在完了について	予習:英語との相違を考えてみる。完了形の形式を反復練習する。 復習:課題の文を読む。
第10回	時制について学ぶ(4) その他の時制について考えてみる	予習:時制全体を図にしてまとめてみる。 復習:グリム童話を読む①
第11回	接続詞について考えてみる。	予習:語順に注意して文をつなげる練習をする。 復習:教科書の接続詞の課題を解く。
第12回	時制を含んだ文章を読んでみる。	予習:現在文を他の時制に置き換える練習をする。 復習:グリム童話を読む②
第13回	独検の練習問題を解いてみる(1)	予習:変化や格、文構造に注意して問題を解いてみる。 復習:誤った項目の問題を再確認する。
第14回	独検の練習問題を解いてみる(2)	予習:独作文をさまざまなテーマをたてて実践してみる。 復習:誤った項目の問題にあたる。
第15回	今期で学んだことをまとめてみる。	1・2で学んだ変化や構造をまとめてみる。

科目名(クラス)	ドイツ語3		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	高橋 幸雄	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)は履修不可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>ドイツ語1・2で習得した文法知識をさらに高めるために、未習の項目を学習します。 形容詞、関係代名詞、受動態、接続法をまず学習し、その上で文章を読むことによって、実践力を身につけていきます。 異文化としての文化領域の理解にも触れながら進めます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
「読む」「書く」「聞く」「話す」という4技能を確実に身につけ、コミュニケーションができる。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
演習形式で練習問題を数多く解いていきます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
課題としての問題を数多く練習します。復習を兼ねた予習を既習の文法項目のプリントを使い確実にこなして下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
小テスト(40%)、課題提出(20%)、定期試験(40%)								
教科書	CD付きドイツ人の生活を知る 11章			著者等	大谷 弘道	出版社	三修社	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	アクセス独和辞典	】	いずれか	著者等		出版社	三修社	
参考文献	新アポロン独和辞典			著者等		出版社	同学社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(16時00分～17時30分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	初級文法の総復習(1)	予習:既習の項目の変化表を確認する。 復習:プリントの問題を解く。
第2回	初級文法の総復習(2)	予習:時制の項目で扱った問題を再確認 してみる。 復習:時制の文を読んでみる。
第3回	形容詞の比級、最高級を学ぶ。	予習:練習問題で比較級、最高級を作っ てみる。 復習:教科書の問題を解く。
第4回	関係代名詞について学ぶ(1)	予習:定冠詞の変化の再確認と関係代名詞 との違いを練習する。 復習:プリントの課題を解いてみる。
第5回	関係代名詞について学ぶ(2) (不定関係代名詞)	予習:関係文の問題を数多く練習する。 復習:課題のプリントを訳してみる。
第6回	関係代名詞の含む文章を読む	予習:関係文のプリントを辞書を用いて自分 で読み疑問点を確認してみる。 復習:課題のプリントを訳してみる。
第7回	受動文について学ぶ(1)	予習:変化表を用いて過去分詞の形を 確認する。 復習:プリントの問題を解く。
第8回	受動文を実際に使ってみる(2)	予習:時制の項目で扱った問題を再確認 してみる。 復習:プリントの長文を訳してみる。
第9回	受動文の文章を読む	予習:辞書を用いて受動文を含んだ文を 読み問題点を確認してみる。 復習:プリントの長文を訳してみる。
第10回	不定詞の使い方を学ぶ	予習:不定詞の問題に取り組んでみる。 復習:課題のプリントで独作を試みる。
第11回	分詞の使い方	予習:形容詞の変化と使い方を再確認する。 復習:形容詞の文を読んでみる。
第12回	接続法の使い方(1)	予習:直接法と接続法の変化の違いを プリントを用いて練習する。 復習:教科書の問題を解いてみる。
第13回	接続法の時制(2)	予習:直接法と接続法の時制に従って文を 作る練習をする。 復習:I式II式を用いて独作文を作ってみ る。
第14回	接続法の文を読む(3)	予習:辞書を用いて課題の文章を読んで みる。そして、問題点を見つける。 復習:プリントの長文を読んでみる。
第15回	学んだことのまとめ。	総合練習問題を行ってみる。

科目名(クラス)	ドイツ語4		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	高橋 幸雄	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)は履修不可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>3で積み上げた文法項目を実際のドイツ文を、読むことを通して定着をさせて行きます。ベルリンを中心としたドイツの都市めぐりをテーマにしながら読む力と文法力の増強をはかります。更に、ドイツ語の特徴をさまざまな文化的視点から考えてみます。異文化を実感として体験できるDVDを使用しながら授業を進めます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を確実に身につけ、コミュニケーションができる。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
演習形式で行い、読解力向上のための文章を数多く扱います。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
ドイツ文化に目を向けて、正確に文を読む力をつけます。辞書を使いこなすスキルを積極的に身につけてください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
小テスト(40%)、課題提出(20%)、定期試験(40%)								
教科書	CD付きドイツ人の生活を知る 11章			著者等	大谷 弘道	出版社	三修社	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	アクセス独和辞典	} いずれか	著者等		出版社	三修社		
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等		出版社	同学社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(16時00分～17時30分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	既習の文法を語尾変化、人称変化、時制を通してまとめる	予習:初級文法のまとめのプリントを確認。 復習:プリントの課題を行う。
第2回	ベルリン(1) (動詞群をまとめる)	予習:動詞の語順の整理を行う。 復習:教科書の長文にあたる。①
第3回	ベルリン(2) (名詞群をまとめる)	予習:名詞の格変化表を確認する。 復習:教科書の長文にあたる。②
第4回	ブレーメン (疑問詞のもう一つの使い方)	予習:疑問詞の変化を再確認する。 復習:例文を読む。
第5回	ヴッパータール (不定代名詞)	予習:人称代名詞の復習と他の代名詞の 違いをプリントを使って練習する。 復習:例文を読む。
第6回	ケルン (接続詞のいろいろ)	予習:既習の接続詞と文の中での構文として の接続詞を練習する。 復習:長文を読む。①
第7回	バーデン・バーデン (熟語としての前置詞)	予習:動詞の格と前置詞の格を独作文で 確認する。 復習:長文を読む。②
第8回	アウグスブルク (助動詞の他の使い方を知る)	予習:助動詞の変化の確認と語順を復習す る。 復習:長文を読む。③
第9回	バンベルク (不定詞句について)	予習:zu不定詞の基本的な用法をプリントで 確認する。 復習:例文を読む。
第10回	マイセン (時制の実際)	予習:六時制について復習する。 復習:例文を読む。
第11回	ヴァイテンベルク (現在完了形のいろいろ)	予習:基本的な現在完了形について復習 しておく。 復習:完了形の文を独作する。
第12回	ミュンヘン (関係代名詞のさまざまな使い方)	予習:関係代名詞の動詞の語順について前 もって確認しておく。 復習:関係文の問題を解く。
第13回	ウィーン (能動文による受動表現)	予習:受動表現をプリントで練習する。 復習:受動文の問題を解く。
第14回	ザルツブルク (さらに構文について知る)	予習:基本構文を覚え、文の中で確認する。 復習:構文の例文を訳す。
第15回	まとめ (ドイツ、オーストリア文化に関する文を読む)	次のステップにそなえるために素材(プリント) を取り組んでみる。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1		
担当教員	I.K.Lenz	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>基本的なドイツ語でのコミュニケーション能力を高めることを主眼にして授業を進めます。 日常生活の中のさまざまな対話形式を通してドイツ語で表現する力を養成します。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>基礎的なドイツ語の文法知識の習得と文化理解のためのコミュニケーション能力を獲得する。 その知識を使って簡単な日常会話をドイツ語でできる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>演習形式で、毎回ダイアログを行います。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>「話す」ことに積極的な関心を持って下さい。毎時間簡単な対話形式の会話をを行います。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>課題提出(30%)、対話テスト(30%)、定期試験(40%)</p>										
教科書	Farbkasten Deutsch 1 plus			著者等		出版社	Sanshusha, ISBN 978-4-384-12303-6 C 1084			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(14時00分～14時30分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ、オーストリアを知る(発音)	予習:ドイツ、オーストリアの基本知識を得る。 発音に慣れる。 復習:単語の発音をくり返し練習する。
第2回	あいさつ表現に慣れる。	予習:あいさつ表現を通して発音に更に慣れる。 復習:更に発音練習をくり返す。
第3回	出会い(動詞の使い方)①	予習:人称変化を習得する。 復習:動詞の変化を問題で確認する。
第4回	若者達 (動詞の使い方)②	予習:重要動詞の使い方を覚える。 復習:プリントで動詞の変化の再確認を行う。
第5回	パーティーにて (性について格変化を使えるようにする)①	予習:格変化を性別に習得する。 復習:男性、女性、中性の3つの性の冠詞を名詞につけて練習する。
第6回	週末をどう過ごすか (疑問文の作り方と格)②	予習:対話形式の中で、動詞、冠詞を使えるようにする。 復習:動詞の位置をプリントを用いて練習を行う。
第7回	買い物に行く (複数形の使い方)	予習:名詞の複数形と動詞の形を習得する。 復習:辞書を用いて複数形を作ってみる。
第8回	対話練習①	予習:対話練習を通して自己紹介をする。 復習:動詞、冠詞に注意して文を作る練習をする。
第9回	ドイツの住まい (人称代名詞の使い方)	予習:主語以外の代名詞の使い方を習得する。 復習:代名詞の変化を練習する。
第10回	ライン川 (前置詞の使い方)	予習:前置詞の格支配を調べる。 復習:前置詞の格を冠詞とともに使う練習をする。
第11回	対話練習②	予習:他己紹介を通して2・3人称について変化を習得する。 復習:2・3人称の不規則動詞を確認する。
第12回	大学について① (分離動詞を学ぶ)	予習:分離動詞の動詞の位置を文の中で確認する。 復習:動詞の変化を変化表を用いてまとめる。
第13回	大学について② (分離動詞)	予習:分離の文型を確認する。 復習:枠構造の練習を問題を使って行う。
第14回	対話練習③	予習:テーマを設定して、それをドイツ語で表現してみる。 復習:既習の変化語尾をプリントを用いて確認をする。
第15回	まとめ (テーマを設定して文を組み立てプレゼンをする)	予習:他の学生が作った文のチェックをし、文を正確に手直しできるようにする。 復習:次のステップのためプリントの課題を取り組む。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション2			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	I.K.Lenz	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>1で習得した文法知識で少しずつ長い文を作り、さらに文法の積み上げで高度な文を作れるようにすることを目標にします。そして、会話練習でそれを実際に使用します。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>基礎的なドイツ語力養成のための文法知識の習得と文化理解のためのコミュニケーション能力を獲得する。その知識を使って簡単な日常会話をドイツ語でできる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>演習形式で行い、毎回ダイアログを行います。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>より積極的な姿勢が求められます。自分を表現するための文法力を高めましょう。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)</p>										
教科書	Farbkasten Deutsch 1 plus			著者等		出版社	Sanshusha, ISBN 978-4-384-12303-6 C 1084			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(14時00分～14時30分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	1で学んだことの復習①	予習: 人称変化の確認と定着を行う。 復習: 動詞の人称変化を再度練習する。
第2回	1で学んだことの復習②	予習: 冠詞の変化を練習する。 復習: 冠詞の格変化について問題で確認する。
第3回	ドイツ人の休日(助動詞を学ぶ)①	予習: 助動詞の変化を練習し、動詞とともに 使えるようにする。 復習: 助動詞の人称変化を問題で確認する。
第4回	旅行とドイツ人(助動詞を学ぶ)②	予習: 助動詞の文型に慣れる。文を実際に 作ってみる。 復習: 助動詞文の中の動詞の人称変化と不定詞 の関係をプリントを用いて練習してみる。
第5回	対話練習①	予習: 助動詞を用いて自己紹介を試みる。 復習: 動詞変化の再確認をプリントを用いてする。
第6回	環境問題①(時制について)	予習: 時制の概念を図式化し、時制を変える練習 をする。 復習: 変化表を作って時の変換のツールを 確認する。
第7回	環境問題②(時制について)	予習: 過去形を習得する。 復習: 現在人称変化の確認と過去人称変化を 問題をプリントを用いて練習する。
第8回	環境問題③(時制について)	予習: 現在完了形について、助動詞の使い分け を確認する。 復習: 他動詞、自動詞の使い分けを練習する。
第9回	対話練習②	予習: 時制を変化させて自己紹介をする。 復習: 変化表を用いて過去分詞をできるように 練習する。
第10回	日本とドイツ①	予習: 歴史の中で使われたドイツ語に親しむ。 復習: 日本語化したドイツ語を調べ、それを使 ってみる。
第11回	日本とドイツ②	予習: 文章表現で歴史的テーマをまとめてみる。 復習: 実際に文に書いてみて、文法確認をする。
第12回	ヨーロッパについて①	予習: ドイツのヨーロッパの中での位置、状況を 考えてみる。 復習: ドイツ情報を集め、問題点を整理する。
第13回	ヨーロッパについて②	予習: ドイツ、オーストリア、スイスのドイツ語圏 の中でのドイツ語を考える。 復習: 3か国の間での文化、風俗、ドイツ語の 違いを見つけてみる。
第14回	今回までのまとめ①(文法を整理する)	予習: 既習の文法項目を整理して、使えるよう にする。 復習: 変化形の確認と変化表の使い方をチェッ クする。
第15回	今回までのまとめ②(文型を整理する)	予習: ドイツ文の文型を並べ、特徴をつかみ、 使用できるようにする。 復習: プリントを用いて次のステップへの文法 のまとめを行う。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション3		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2		
担当教員	I.K.Lenz	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>1・2で学習した文法項目を用いて更に表現力を高めるため、さまざまなテーマを使って既習項目の精度を上げて行きます。 この授業も毎回対話練習を組み込んで会話能力を向上させて行きます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>自分の日常生活をドイツ語で表現できる。又、異文化理解のための知識を身につけ、それをプレゼンテーションできる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>演習形式で行い、ダイアログを中心に進めます。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>ドイツ、オーストリア文化に興味を持って下さい。アクティブなテーマを選んで表現練習を行います。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)</p>										
教科書	Farbkasten Deutsch 1 plus			著者等		出版社	Sanshusha, ISBN 978-4-384-12303-6 C 1084			
教科書				著者等		出版社				
参考文献	アクセス独和辞典] いずれか	著者等		出版社	三修社				
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等		出版社	同学社				
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(14時00分～14時30分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	1・2の復習① (発音、人称変化)	予習: 既習の動詞の変化を確実なものにする。 復習: 規則、不規則動詞の変化を練習する。
第2回	1・2の復習① (格変化)	予習: 冠詞の格変化を確実にできるようにする。 復習: 変化表の確認と練習。
第3回	私の部屋① (代名詞のいろいろ)	予習: 人称代名詞とそれ以外の代名詞の使い方を確認する。 復習: 人称代名詞の変化を練習する。
第4回	家族① (否定詞の使い方)	予習: いろいろな疑問文を作り、答え方の違いを習得する。 復習: 動詞の語順に注意して文を作る練習をする。
第5回	私の部屋② (不定代名詞の使い方)	予習: 一般化した表現法としての不定代名詞を使ってみる。 復習: プリントで代名詞の変化を確認する。
第6回	家族② (nichtとkeinの使い方) Doch	予習: 実際の文の中で否定詞を使い否定形を習得する。 復習: 疑問文に対する答えをプリントを用いて練習する。
第7回	対話練習①	予習: 肯定文、否定文を使い分けを整理する。 復習: 練習問題で否定形に換える練習をしてみる。
第8回	ベルリン	予習: 都市文化に触れる。簡単な文を読み、対話してみる。 復習: 動詞の変化、格変化、文構造をまとめる。
第9回	ミュンヘン	予習: 都市文化に触れる。簡単な文を読み、対話してみる。 復習: 動詞の変化、格変化、文構造をまとめる。
第10回	ボン	予習: 都市文化に触れる。簡単な文を読み、対話してみる。 復習: 動詞の変化、格変化、文構造をまとめる。
第11回	ウィーン、ザルツブルク	予習: 都市文化に触れる。簡単な文を読み、対話してみる。 復習: 動詞の変化、格変化、文構造をまとめる。
第12回	対話練習②	予習: 助動詞文と時制を変換する文を中心に文を作ってみる。 復習: 文型を動詞の語順に注意して練習する。
第13回	ヨーロッパの中のドイツを考える①	予習: ドイツ文化の特徴を考え、それを簡単なドイツ語で表現してみる。 復習: 相手に質問して答えのバリエーションを一緒に創る練習をする。
第14回	ヨーロッパの中のドイツを考える②	予習: プレゼンにそなえ、他の学生の意見を聞く。 復習: ドイツ文化の特徴を自分なりにまとめる。
第15回	まとめ (文法の整理と文化の特徴をまとめてみる)	予習: テーマ設定をした項目について、自分でまとめたドイツ文にまとめる。 復習: プリントを用いて次のステップへの素材に取り組んでみる。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション4			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	I.K.Lenz	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>1・2・3で学んだ項目を用いてドイツ文化のさまざまな面をドイツ語を用いて表現することを目指します。ウィーンを含むオーストリアを中心に国の在り方や状況、歴史に触れて行きます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>自分の日常生活をドイツ語で表現できる。又、異文化理解のための知識を身につけ、それをプレゼンテーションできる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>演習形式と対話練習を中心に行います。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>ドイツ、オーストリア文化に興味を持って下さい。アクティブなテーマを選んで表現練習を行います。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)</p>										
教科書	Farbkasten Deutsch 1 plus			著者等		出版社	Sanshusha, ISBN 978-4-384-12303-6 C 1084			
教科書				著者等		出版社				
参考文献	アクセス独和辞典]	いずれか	著者等		出版社	三修社			
参考文献	新アポロン独和辞典			著者等		出版社	同学社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(14時00分～14時30分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	3の復習を行う①	予習: 助動詞文、分離動詞文を確実に作ることができるようにする。 復習: 動詞の変化の確認と練習をする。
第2回	3の復習を行う②	予習: 時制を整理して文を作ってみる。 復習: 枠構造の文を時制を換えて作ってみる。
第3回	なぜドイツ語?① (未来形と意志表現)	予習: 時制の種類をまとめ、実際に使われる形との違いを確認する。 復習: werdenの使い方のいろいろをプリントを用いて復習する。
第4回	なぜドイツ語?② (seinの使い方のいろいろ)	予習: sein動詞を文章論から考えてみる。 復習: seinの使い方を整理する。
第5回	なぜドイツ語?③ (habenの使い方のいろいろ)	予習: haben動詞を文章論から考える。 復習: habenの使い方を整理する。
第6回	対話練習①	予習: 3つの重要動詞を文の中で使ってみる。 復習: 3つの動詞を変化として整理し、練習問題に取り組んでみる。
第7回	宗教① (再帰動詞)	予習: 再帰動詞の使い方を代名詞との関係の中で整理する。 復習: 人称代名詞の変化をプリントの練習問題で復習する。
第8回	宗教② (比較表現)	予習: 比較級、最高級の文を確認する。 復習: 形容詞の変化をまとめる。
第9回	パソコンとEメール① (受動文)	予習: 受動の形を確認する。時制とともに使えるようにする。 復習: werdenの変化と使い方を復習する。
第10回	パソコンとEメール② (受動表現)	予習: 受動表現の可能性を実際の文で確認する。 復習: 不定代名詞、zu不定詞をプリントで復習をする。
第11回	もっとドイツ語を!① (関係代名詞を使ってみる)	予習: 関係代名詞の形式を確認し、文の連結ができるようにする。 復習: 冠詞の変化を再復習し、関係文の問題に取り組む。
第12回	もっとドイツ語を!② (不定関係代名詞の使い方)	予習: 不定関係代名詞の用法を例文で確認し、使えるようにする。 復習: 疑問代名詞との違いを考え、プリントで練習する。
第13回	対話練習②	予習: 比較、受動表現を用いて文を組み立てる力練習をする。 復習: 練習問題を数多くこなし、関係代名詞を確実なものにする。
第14回	まとめ①	予習: 対話練習の文を参考にテーマを考え文に組み立てる。 復習: 対話文を多く読む。ヒアリングをくり返す。
第15回	まとめ②	予習: ヒアリングCDを使って内容理解を深める。 復習: ヒアリングの練習問題を繰り返しやってみる。

科目名(クラス)	ドイツ語(Konzertfach(演奏専攻))1・3 〔3は異文化コミュニケーションを含む〕		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1・2	
担当教員	高橋 幸雄	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ドイツ語を正確に理解し、発信するための基本的な文法の習得、また表現するためのスキルを徹底的に身につけることを目指します。 この授業では文法力の向上と読解力のステップアップを主眼とする授業を心がけて行います。並行してDVDを用いて実際のドイツの事情や文化のあり方を考えて行きます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	国際感覚		○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>基本的な「読解の技術」を身につけ、欧州語学力評価A1～A2の学力を習得し、四つの言語能力を運用することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>演習形式で行います。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>留学を目指すコースですから初歩から高度な言語能力の習得を目指します。積極的な向上心と努力が必要です。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)</p>									
教科書	ドイツ文法ベーシック3 改訂版			著者等	神竹 道士	出版社	朝日出版		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	アクセス独和辞典	} いずれか	著者等		出版社	三修社			
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等		出版社	同学社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(16 時 00 分 ～ 17 時 30 分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語圏について 発音	予習:くり返し口に出してドイツ語の発音に慣れる。 復習:プリントの単語の特徴をまとめる。
第2回	動詞の使い方(1) (規則動詞)	予習:人称変化の練習をする。 復習:プリントの問題を解く。
第3回	動詞の使い方(2) (不規則動詞)	予習:変化表を用いて、不規則変化の確認をする。 復習:練習問題を解く。
第4回	冠詞の変化に慣れる。	予習:三つの性の変化をくり返し練習する。 復習:課題のプリントを解く。
第5回	人称代名詞、前置詞について学ぶ。	予習:人称代名詞の変化と前置詞の格支配を覚える。 復習:人称代名詞を使って独作をする。
第6回	助動詞の使い方を学ぶ。	予習:助動詞の変化と枠構造を練習する。 復習:助動詞を用いて独作をする。
第7回	分離動詞の使い方を学ぶ。	予習:動詞の変化をプリントを使って練習する。 復習:課題の文を読む。①
第8回	文章を読む(1)	予習:練習問題を解き、変化を定着させる。 復習:課題の文を読む。②
第9回	文章を読む(2)	予習:人称代名詞、前置詞の特徴を練習問題で確認する。 復習:課題の文を読む。③
第10回	文章を読む(3)	予習:助動詞、分離動詞を用いて文を組み立てて練習を行う。 復習:課題の文を読む。④
第11回	ドイツの都市を知る(1) ベルリン、ブレーメン	予習:変化語尾をまとめ、定着させる。 復習:プリントの練習問題を解く。
第12回	ドイツの都市を知る(2) フランクフルト、ボン	予習:人称変化をまとめ、文を作る練習をする。 復習:総合問題にあたる。①
第13回	ドイツの都市を知る(3) ミュンヘン、ウィーン、ザルツブルク	予習:文構造を理解し、実際にテーマをたてて文を作る練習をする。 復習:総合問題にあたる。②
第14回	文章を作ってみる(1)	予習:表現のスキルアップのために単語帳を作る。 復習:総合問題にあたる。③
第15回	文章を作ってみる(2)	表現のスキルアップのために熟語帳を作る。

科目名(クラス)	ドイツ語(Konzertfach(演奏専攻))2・4 [4は異文化コミュニケーションを含む]		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1・2	
担当教員	高橋 幸雄	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>文法知識を確実に定着した上に、表現力をスキルアップさせることを主眼に置きます。 文章表現アップのための重要な構文の習得を目指します。 いろいろな種類の文章を読み、実際のドイツ、オーストリアの事情に触れます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	国際感覚		○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>基本的な「読解の技術」を身につけ、欧州語学力評価A1～A2の学力を習得し、四つの言語能力を運用することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>演習形式で行います。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>表現することに力点を置きますから、既習の文法知識の正確な運用が必要です。初級文法を確実に身につけ、使えるように積極的に参加して下さい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期テスト(40%)</p>									
教科書	CD付きドイツ人の生活を知る 11章			著者等	大谷 弘道	出版社	三修社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	アクセス独和辞典	} いずれか	著者等		出版社	三修社			
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等		出版社	同学社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(16時00分～17時30分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	簡単な文章を読む(1) (アニメーション)	予習:既習の練習問題を整理する。 復習:動詞群の問題を解く。
第2回	簡単な文章を読む(2)	予習:既習の練習問題を整理する。 復習:名詞群の問題を解く。
第3回	ドイツ映画を見る(1)	予習:(1)をくり返し聞き文章を発信する練習をする。 復習:代名詞の問題を解く。
第4回	ドイツ映画を見る(2)	予習:CDを聞いておく。 復習:前置詞の問題を解く。①
第5回	ドイツ映画を見る(3)	予習:CDを聞いておく。 復習:前置詞の問題を解く。②
第6回	ドイツ人の日常生活	予習:ドイツの日常生活について特徴を調べる。 復習:助動詞で独作する。①
第7回	日本とドイツ(1) (文化のとらえ方)	予習:生活の中で見られる日本とドイツの相違をまとめてみる。 復習:助動詞で独作する。②
第8回	独検の問題を解く(1)	予習:基本的語尾変化、格変化の確認をする。 復習:冠詞類の問題を解く。①
第9回	独検の問題を解く(2)	予習:文構造の基本を確認し、プリントで練習する。 復習:冠詞類の問題を解く。②
第10回	独検の問題を解く(3)	予習:CDをくり返し聞く。 復習:総合問題にあたる。①
第11回	オーストリア、スイスについて	予習:オーストリア、スイスについて調べておく。 復習:総合問題にあたる。②
第12回	スポーツと休日	予習:日本又はアジアのスポーツについての考え方をまとめておく。 復習:総合問題にあたる。③
第13回	食事と風俗	予習:知っているドイツの食べ物について調べておく。 復習:ドイツ文化の特徴をまとめる。①
第14回	日本とドイツ(2)	予習:政治形態についてあらかじめ知っていることをまとめる。 復習:ドイツ文化の特徴をまとめる。②
第15回	現実のドイツについてまとめる	最近知ったドイツのことをまとめ、プレゼンできるように準備する。

科目名(クラス)	ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】5・7		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3・4	
担当教員	I.K.Lenz	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>海外留学を視野に入れて、専門性を高めるために実践的でアカデミックな文章を読みこなし、その能力を使ってディベート能力を養う授業を展開します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○	思考力・判断力・表現力	課題の発見、分析、解決力		国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>欧州語学力評価基準B1-1の習得をめざす。 四言語能力を使ってプレゼンテーションができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>演習形式で行い、歴史、文化史、評論等の文を読んで行きます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>文法力を用いてさまざまな文章に触れることによって、音楽のバックグラウンドを養ってゆきます。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>課題提出(授業3回に一題の長文を課します)(50%)、定期試験(50%)</p>									
教科書	プリントを使用します。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献	アクセス独和辞典] いずれか	著者等		出版社	三修社			
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等		出版社	同学社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(14時00分～14時30分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	文法の総復習①	予習:直接法、接続法の体系を身につける。 復習:格変化・時制・態について整理する。
第2回	文法の総復習②	予習:直接法、接続法の体系を身につける。 復習:格変化・時制・態について整理する。
第3回	ウィーンの文化史を読む①	予習:オーストリア文化の特徴を知る。 復習:日本語文献でウィーンの歴史をまとめる。
第4回	ウィーンの文化史を読む②	予習:オーストリア文化の特徴を知る。 復習:日本語文献でウィーンの歴史をまとめる。
第5回	ドナウ川はそんなに青いのか?	予習:19世紀の文化の作られ方を知る。 復習:ハプスブルクの歴史と芸術の関係を調べてみる。
第6回	オーストリアの成立を知る	予習:オーストリアの歴史とドイツとの関係を知識として定着させる。 復習:ドイツ史を簡単にまとめてみる。
第7回	フランツ・シューベルト	予習:音楽の領域を実際のドイツ文で理解する。 復習:それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第8回	ルートヴィヒ・ベートーヴェン	予習:音楽の領域を実際のドイツ文で理解する。 復習:それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第9回	「野バラ」の読み方	予習:音楽の領域を実際のドイツ文で理解する。 復習:それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第10回	ドイツ文学とオーストリア文学の相違	予習:文学の領域を実際のドイツ文で理解する。 復習:それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第11回	ゲーテとシュティフター	予習:文学の領域を実際のドイツ文で理解する。 復習:それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第12回	演劇とオペラ	予習:音楽、文学の領域を実際のドイツ文で理解する。 復習:それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第13回	ロマン派と世紀末	予習:文学、絵画の領域を実際のドイツ文で理解する。 復習:それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第14回	詩を読む	予習:文学の領域を実際のドイツ文で理解する。 復習:それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第15回	評論を読む	予習:音楽、文学、絵画の領域を実際のドイツ文で理解する。 復習:それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。

科目名(クラス)	ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】6・8		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3・4	
担当教員	I.K.Lenz	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>5で扱った文化領域の文章に更に触れながら、現代のドイツ語圏に領域を移し、さまざまなトピックスを読んで行きます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○	思考力・判断力・表現力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>欧州語学力評価基準B1-1の習得をめざす。四言語能力を使ってプレゼンテーションができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>演習形式で行います。読解を中心とした授業で行います。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>正確な読解を目指して進めますので、予習がきわめて重要です。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>課題提出(授業3回に一題の長文を課します)(50%)、定期試験(50%)</p>									
教科書	プリントを使用します。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献	アクセス独和辞典] いずれか	著者等		出版社	三修社			
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等		出版社	同学社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(14時00分～14時30分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	最近の新聞記事から①	予習:ドイツ語圏の今を知る。 復習:素材を日本語文献で読んでみる。
第2回	最近の新聞記事から②	予習:ドイツ語圏の今を知る。 復習:素材を日本語文献で読んでみる。
第3回	最近の新聞記事から③	予習:ドイツ語圏の今を知る。 復習:素材を日本語文献で読んでみる。
第4回	音楽評論を読む①	予習:論理的な文を読むことで文法の整理をする。 復習:関連領域を日本語で読んでみる。
第5回	音楽評論を読む②	予習:論理的な文を読むことで文法の整理をする。 復習:関連領域を日本語で読んでみる。
第6回	音楽評論を読む③	予習:論理的な文を読むことで文法の整理をする。 復習:関連領域を日本語で読んでみる。
第7回	作品「魔笛」を読んでみる①	予習:実際の原文を自分で読み解く。 復習:特徴のある文を文法的に解読してみる。
第8回	作品「魔笛」を読んでみる②	予習:実際の原文を自分で読み解く。 復習:特徴のある文を文法的に解読してみる。
第9回	作品「魔笛」を読んでみる③	予習:実際の原文を自分で読み解く。 復習:特徴のある文を文法的に解読してみる。
第10回	ワイツェッカー演説を読む①	予習:演説文の特徴を理解する。 復習:ネイティブスピーカーとしてのドイツ文の習得をプリントを用いて練習する。
第11回	ワイツェッカー演説を読む②	予習:演説文の特徴を理解する。 復習:ネイティブスピーカーとしてのドイツ文の習得をプリントを用いて練習する。
第12回	ワイツェッカー演説を読む③	予習:演説文の特徴を理解する。 復習:ネイティブスピーカーとしてのドイツ文の習得をプリントを用いて練習する。
第13回	日本文学をドイツ語で読む①	予習:表現法の違いを発見し、その相違を理解する。 復習:日本語をドイツ語に翻訳するスキルを習得する。
第14回	日本文学をドイツ語で読む②	予習:表現法の違いを発見し、その相違を理解する。 復習:日本語をドイツ語に翻訳するスキルを習得する。
第15回	日本文学をドイツ語で読む③	予習:表現法の違いを発見し、その相違を理解する。 復習:日本語をドイツ語に翻訳するスキルを習得する。

科目名(クラス)	英語1-a・b		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	増淵 千幸	実務家教員	履修対象・条件		詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>中・高六年間学んできた基礎をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニング・読解・文法を軸に授業を進め、今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解を深めてゆくことを目的とします。</p> <p>リスニングは、子ども向けの本の朗読を聞きながら書き取り練習をします。同じ作品を音読する練習もします。</p> <p>読解は教科書を用いて現代の映画の解説を読み、私たちが抱える社会的・文化的問題を英語を通して考えてゆきます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音に慣れ、リスニング力を高めることができる。 ・英文を読み和訳することで文法を確認し、英語で表現するための素材を得ることができる。 ・文法を見直し、英語での表現力を高めることができる。 ・言語を通し、文化的社会的背景を学ぶことができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義・演習方式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の集中と積極的な参加を望みます。 ・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭く集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。 ・よく復習をしてください。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験 ※必ず両方受けること) 2. 授業中に学んだことを小テストを行って確認します。小テストの結果は上記の定期試験結果に加算します。出席が足りない場合はもちろんのこと、試験の点数が足りなければ合格できません。 3. 筆記試験60%・暗誦試験20%・小テスト20%で評価します。(欠席は回数分減点します) 								
教科書	Our Society, Our Diversity, Our Movies			著者等	Joseph Tabolt 他	出版社	金星堂	
教科書	プリントも配布します			著者等		出版社		
参考文献	(紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典			著者等		出版社	大修館書店	
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(9 時 00 分 ~ 14 時 05 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・小テスト	復習: 配布資料の見直し
第2回	・ウォームアップ	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の発音練習
第3回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(1) (2) United by Desperation -White Trash (1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第4回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(2) (2) United by Desperation -White Trash (2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第5回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(3) (2) United by Desperation -White Trash (3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第6回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(4) (2) Assigning a Label -LGBT (1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第7回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(5) (2) Assigning a Label -LGBT (2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第8回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(6) (2) Assigning a Label -LGBT (3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第9回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(7) (2) Prejudice and Egocentrism -Gender and Racial Segregation(1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第10回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(8) (2) Prejudice and Egocentrism -Gender and Racial Segregation(2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第11回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(9) (2) Prejudice and Egocentrism -Gender and Racial Segregation(3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第12回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(10) (2) Human vs. Property -Slavery Systems(1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習
第13回	総復習	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の 確認・文法教材の復習 暗誦試験準備
第14回	総括1	筆記試験準備
第15回	総括2	試験振り返り

科目名(クラス)	英語2-a・b		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	増淵 千幸	実務家教員	履修対象・条件		詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>中・高六年間学んできた基礎をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニング・読解・文法を軸に授業を進め、今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解を深めてゆくことを目的とします。</p> <p>リスニングは、子ども向けの本の朗読を聞きながら書き取り練習をします。同じ作品を音読する練習もします。</p> <p>読解は教科書を用いて現代の映画の解説を読み、私たちが抱える社会的・文化的問題を英語を通して考えてゆきます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音に慣れ、リスニング力を高めることができる。 ・英文を読み和訳することで文法を確認し、英語で表現するための素材を得ることができる。 ・文法を見直し、英語での表現力を高めることができる。 ・言語を通し、文化的社会的背景を学ぶことができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義・演習方式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の集中と積極的な参加を望みます。 ・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭く集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。 ・よく復習をしてください。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験 ※必ず両方受けること) 2. 授業中に学んだことを小テストを行って確認します。小テストの結果は上記の定期試験結果に加算します。出席が足りない場合はもちろんのこと、試験の点数が足りなければ合格できません。 3. 筆記試験60%・暗誦試験20%・小テスト20%で評価します。(欠席は回数分減点します) 								
教科書	Our Society, Our Diversity, Our Movies			著者等	Joseph Tabolt 他	出版社	金星堂	
教科書	プリントも配布します			著者等		出版社		
参考文献	紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典			著者等		出版社	大修館書店	
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(9 時 00 分 ~ 14 時 05 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・ウォームアップ	予習: 英語1の見直し 復習: 配布資料の音読
第2回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(11) (2) Human vs. Property -Slavery Systems(2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第3回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(12) (2) Human vs. Property -Slavery Systems(3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第4回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(13) (2) Be an Intercultural Interpreter -Immigrants(1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第5回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(14) (2) Be an Intercultural Interpreter -Immigrants(2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第6回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(15) (2) Be an Intercultural Interpreter -Immigrants(3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第7回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(16) (2) An Illegal Life -Illegal Immigrants(1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第8回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(17) (2) An Illegal Life -Illegal Immigrants(2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第9回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(18) (2) An Illegal Life -Illegal Immigrants(3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第10回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(19) (2) Foreign Language and Self-Confidence -Foreign Language(1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第11回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(20) (2) Foreign Language and Self-Confidence -Foreign Language(2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第12回	(1) <i>The Enormous Crocodile</i> を用いてのリスニング(21) (2) Foreign Language and Self-Confidence -Foreign Language(3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第13回	総復習	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第14回	総括1	筆記試験準備
第15回	総括2	試験振り返り

科目名(クラス)	英語3		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	増淵 千幸	実務家教員	履修対象・条件		詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>英語1、2で培った基礎力をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニング・読解・文法を軸に授業を進め、今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解をさらに深め、表現力を高めることを目的とします。</p> <p>リスニングは子ども向けの物語を聞き、書き取り練習をしながら力を高めてゆきます。</p> <p>読解は、英語で書かれた短編小説を読み、文法や語彙を確認しながら和訳をし、文化的、社会的な背景も学びます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音に慣れ、リスニング力を高めることができる。 ・英文を読み和訳することで文法を確認し、英語で表現するための素材を得ることができる。 ・文法を見直し、英語での表現力を高めることができる。 ・言語を通し、文化的社会的背景を学ぶことができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義・演習方式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の集中と積極的な参加を望みます。 ・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。 ・よく復習をしてください。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験 ※必ず両方受けること) 2. 授業中に学んだことを小テストを行って確認します。小テストの結果は上記の定期試験結果に加算します。出席が足りない場合はもちろんのこと、試験の点数が足りなければ合格できません。 3. 筆記試験60%・暗誦試験20%・小テスト20%で評価します。(欠席は回数分減点します) 								
教科書	英文法授業ノート(昨年度の続き)			著者等	北村孝一郎	出版社	神田外語大学出版局	
教科書	プリントも配布します			著者等		出版社		
参考文献	紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典			著者等		出版社	大修館書店	
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(9 時 00 分 ~ 14 時 05 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・小テスト	復習: 配布資料の見直し
第2回	ウォームアップ	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の発音練習
第3回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(1) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(1) (3) 英文法授業ノート・名詞(1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第4回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(2) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(2) (3) 英文法授業ノート・名詞(2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第5回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(3) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(3) (3) 英文法授業ノート・名詞(3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第6回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(4) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(4) (3) 英文法授業ノート・名詞(4)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第7回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(5) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(5) (3) 英文法授業ノート・名詞(5)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第8回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(6) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(6) (3) 英文法授業ノート・名詞(6)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第9回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(7) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(7) (3) 英文法授業ノート・冠詞	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第10回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(8) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(8) (3) 英文法授業ノート・比較(1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第11回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(9) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(9) (3) 英文法授業ノート・比較(2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第12回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(10) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(10) (3) 英文法授業ノート・比較(3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第13回	総復習	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第14回	総括1	筆記試験準備
第15回	総括2	試験振り返り

科目名(クラス)	英語4		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	増淵 千幸	実務家教員	履修対象・条件		詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>英語1、2で培った基礎力をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニング・読解・文法を軸に授業を進め、今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解をさらに深め、表現力を高めることを目的とします。</p> <p>リスニングは子ども向けの物語を聞き、書き取り練習をしながら力を高めてゆきます。</p> <p>読解は、英語で書かれた短編小説を読み、文法や語彙を確認しながら和訳をし、文化的、社会的な背景も学びます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音に慣れ、リスニング力を高めることができる。 ・英文を読み和訳することで文法を確認し、英語で表現するための素材を得ることができる。 ・文法を見直し、英語での表現力を高めることができる。 ・言語を通し、文化的社会的背景を学ぶことができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義・演習方式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の集中と積極的な参加を望みます。 ・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。 ・よく復習をしてください。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験 ※必ず両方受けること) 2. 授業中に学んだことを小テストを行って確認します。小テストの結果は上記の定期試験結果に加算します。出席が足りない場合はもちろんのこと、試験の点数が足りなければ合格できません。 3. 筆記試験60%・暗誦試験20%・小テスト20%で評価します。(欠席は回数分減点します) 								
教科書	英文法授業ノート(昨年度の続き)			著者等	北村孝一郎	出版社	神田外語大学出版局	
教科書	プリントも配布します			著者等		出版社		
参考文献	紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典			著者等		出版社	大修館書店	
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(9 時 00 分 ~ 14 時 05 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・ウォームアップ	復習: 配布資料の見直し リスニング教材の発音練習
第2回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(11) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(11) (3) 英文法授業ノート・比較(4)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第3回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(12) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(12) (3) 英文法授業ノート・比較(5)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第4回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(13) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(13) (3) 英文法授業ノート・比較(7)<(6)は昨年度学習済み>	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第5回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(14) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(14) (3) 英文法授業ノート・比較(8)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第6回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(15) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(15) (3) 英文法授業ノート・比較(9)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第7回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(16) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(16) (3) 英文法授業ノート・形容詞(1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第8回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(17) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(17) (3) 英文法授業ノート・形容詞(2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第9回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(18) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(18) (3) 英文法授業ノート・形容詞(3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第10回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(19) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(19) (3) 英文法授業ノート・副詞(1)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第11回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(20) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(20) (3) 英文法授業ノート・副詞(2)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第12回	(1) <i>The Giraffe and the Pelly and Me</i> を使ったリスニング(21) (2) 英語圏の短編小説抜粋を用いた読解(21) (3) 英文法授業ノート・副詞(3)	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第13回	総復習	予習: 前回の資料の見直し 復習: リスニング教材の音読・読解教材の和訳の確認・文法教材の復習
第14回	総括1	筆記試験準備
第15回	総括2	試験振り返り

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション1-a・b		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Jackie Dang	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。これまで習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。その中で、英語圏の文化も適時紹介します。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>基本的な文法・構文及び語彙表現・慣用句を使用して、自分の意見をスピーキング及びライティングで発信し、相手の意見を理解した上でコミュニケーションが取れるようになる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多いため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。 ・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。 ・各单元ごとのライティング等の課題・・・20% ・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20% ・期末試験・・・60%</p>								
教科書	『SIDE by SIDE』 Book2			著者等	Steven J. Molinsky / Bill Bliss	出版社	PEARSON/Longman	
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習: 自分の普段のスケジュールを表にする。(30分程度)
第2回	Unit 1 現在形／現在完了形／過去形／未来形 "Like and Dislike" going to	予習: 自分の普段のスケジュールを基に、今週の出来事を過去・現在・未来に分けて一文ずつ書く。(30分程度) 復習: 授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。
第3回	Unit 1 現在形／現在完了形／過去形／未来形② "Like and Dislike" going to	予習: 自分の普段のスケジュールを基に、今週の出来事を過去・現在・未来に分けて一文ずつ書く。(30分程度) 復習: 授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。
第4回	Unit 1 時の表現／間接目的語	予習: Journal(Writing)課題① 誕生日の思い出(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第5回	Unit 2 可算・不可算名詞① "Buying Food"	予習: Reading課題① (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第6回	Unit 2 可算・不可算名詞② "Buying Food," "a little/a few/much/many"	予習: "Buying Food"を各自で復習(30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第7回	Unit 2 可算・不可算名詞③ a little/a few/much/many	予習: Make a List: 家にある食べ物リストを作ってみよう (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第8回	Unit 3 不可算名詞の数詞① "Describing Food" a glass of~/a dozen~	予習: Project: お気に入りのレシピを英語で書いてみよう (60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第9回	Unit 3 不可算名詞の数詞② "Describing Food" a glass of~/a dozen~	予習: Project: お気に入りのレシピを英語で書いてみよう(自己添削) (60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第10回	Unit 4 未来形 will/won't	予習: Reading課題② (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第11回	Unit 4 時の表現／可能性／見込み① might	予習: Journal(Writing)課題③ 将来の住まいや出来事について(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第12回	Unit 4 時の表現／可能性／見込み② might	予習: Journal(Writing)課題③ 将来の住まいや出来事について (自己添削)(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第13回	Unit 5 Shouldの表現／比較 "Advice""Expressing Opinions"	予習: Journal(Writing)課題④ 故郷と現在住んでいる場所について(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第14回	Unit 5 Shouldの表現／比較 "Advice""Expressing Opinions"	予習: 自分の持ち物や家族と友達のを比べる文を5つ書く。比較と所有格を必ず使うこと。(30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション2-a・b		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Jackie Dang	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。これまで習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。その中で、英語圏の文化も適時紹介します。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>基本的な文法・構文及び語彙表現・慣用句を使用して、自分の意見をスピーキング及びライティングで発信し、相手の意見を理解した上でコミュニケーションが取れるようになる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多くあるため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。 ・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。 ・各单元ごとのライティング等の課題・・・20% ・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20% ・期末試験・・・60%</p>								
教科書	『SIDE by SIDE』 Book2			著者等	Steven J. Molinsky / Bill Bliss	出版社	PEARSON/Longman	
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Unit 6 最上級① "Describing People, Places, and Things"	予習: Reading課題③ (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第2回	Unit 6 最上級② "Describing People, Places, and Things"	予習: Journal(Writing)課題⑤ あなたにとって一番大切な人 (60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第3回	Unit 6 最上級③ "Shopping"	予習: Journal(Writing)課題⑤ あなたにとって一番大切な人 (自己添削)(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第4回	Unit 7 道案内① "Giving Directions" "Transportation"	予習: Journal(Writing)課題⑥ 家から大学までの行き方 (60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第5回	Unit 7 道案内① "Giving Directions" "Transportation"	予習: Journal(Writing)課題⑥ 家から大学までの行き方 (自己添削)(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第6回	Unit 8 副詞／副詞の比較 "Describing People's Actions"	予習: Reading課題① (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第7回	Unit 8 動作主名詞	予習: Journal(Writing)課題① やってみたいこととそのことをしたら どうなるか(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第8回	Unit 8 If節	予習: Journal(Writing)課題① やってみたいこととそのことをしたら どうなるか(自己添削)(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第9回	Unit 9 過去進行形① was/were doing	予習: Reading課題② (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第10回	Unit 9 過去進行形② was/were doing	予習: Journal(Writing)課題② 独りでやりたいこと、友達とやり たいこと(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第11回	Unit 9 再帰代名詞／While節	予習: Journal(Writing)課題② 独りでやりたいこと、友達とやり たいこと(自己添削)(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第12回	Unit 10 過去および未来の可能性 could/be able to	予習: Reading課題③ (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第13回	Unit 10 過去および未来の義務 have got to	予習: 今週の義務を過去と未来に注意して 三文ずつ書く(30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第14回	Unit 10 弁解 too～	予習: Journal(Writing)課題③ イライラしたこと、悔しかったこと (60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション3		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	Jackie Dang	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。これまで習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。その中で、英語圏の文化も適時紹介します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>基本的な文法・構文及び語彙表現・慣用句を使用して、自分の意見をスピーキング及びライティングで発信し、相手の意見を理解した上でコミュニケーションが取れるようになる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多いため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。 ・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。 ・各単元ごとのライティング等の課題・・・20% ・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20% ・期末試験・・・60%</p>									
教科書	『SIDE by SIDE』 Book2			著者等	Steven J. Molinsky / Bill Bliss	出版社	PEARSON/Longman		
教科書	『SIDE by SIDE』 Book3			著者等	Steven J. Molinsky / Bill Bliss	出版社	PEARSON/Longman		
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習:春休み期間にしたことについて、過去形に注意しながら簡単に書く。(30分程度30分程度) 復習:今回の授業の内容をまとめる
第2回	Unit 11 過去形の復習 "Medical Examination"	予習: Journal (Writing) 課題④ 自分の日常生活のルールについて(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第3回	Unit 11 可算・不可算名詞の復習 "Diet"	予習: Make a List: 健康によい食品、悪い食品(30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第4回	Unit 11 Must/Shouldの表現の復習 "Medical Advice"	予習: Reading 課題④ (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第5回	Unit 12 未来進行形① will be ~ing "Making Plans by Telephone"	予習: Journal (Writing) 課題④ 自分の家族が毎年祝う特別な日について(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第6回	Unit 12 未来進行形② will be ~ing "Making Plans by Telephone"	予習: Journal (Writing) 課題④ 自分の家族が毎年祝う特別な日について(30分程度)(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第7回	Unit 13 代名詞の復習 "Offering Help"	予習: Reading 課題⑥ (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第8回	Unit 13 動詞の時制の復習 "Friends" Unit 8~Unit 13 まとめ	予習: 自分の趣味や好きな科目について一文ずつ書く。(30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第9回	Unit 1 現在形/現在進行形の復習① "How often~?"	予習: 毎回、復習として授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。趣味や好きな科目に取り組む頻度について一文ずつ書く。(30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第10回	Unit 1 現在形/現在進行形の復習② "How often~?"	予習: 前週書いた文章を自己添削する(30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第11回	Unit 1 主格・目的格・代名詞・所有形容詞	予習: Reading 課題① (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第12回	Unit 2 過去形の復習①	予習: Reading 課題② (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第13回	Unit 2 過去形の復習②/規則・不規則動詞	予習: 親友と出会った経緯について三文程度書く。(30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第14回	Unit 2 過去進行形の復習	予習: Journal (Writing) 課題① これまで経験した旅行について(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第15回	まとめ	復習: 今回の授業の内容をまとめる

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション4		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Jackie Dang	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。これまで習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。その中で、英語圏の文化も適時紹介します。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>基本的な文法・構文及び語彙表現・慣用句を使用して、自分の意見をスピーキング及びライティングで発信し、相手の意見を理解した上でコミュニケーションが取れるようになる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多いため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。 ・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。 ・各单元ごとのライティング等の課題・・・20% ・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20% ・期末試験・・・60%</p>								
教科書	『SIDE by SIDE』 Book3			著者等	Steven J. Molinsky / Bill Bliss	出版社	PEARSON/Longman	
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Unit 3 未来形の復習①／時の表現	予習: Reading課題③ (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第2回	Unit 3 未来形の復習② "Talking on the Phone"	予習: Journal(Writing)課題② 週末の計画(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第3回	Unit 3 依頼 "Asking a Favor"	予習: 教科書p.27の例に倣って、友達 に依頼をする会話文を書く。 (60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第4回	Unit 4 現在完了形①	予習: Reading課題④ (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第5回	Unit 4 現在完了形② "Making Recommendations"	予習: Reading課題⑤ (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第6回	Unit 4 現在完了形③ "Making Lists"	予習: Journal(Writing)課題③ 現在住んでいる場所でこれ まで経験したこと(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第7回	Unit 5 Since/forの表現	予習: Reading課題⑥ (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第8回	Unit 5 現在完了形と現在形の違い①	予習: Journal(Writing)課題③ 自分が続けているスポーツや楽器 について(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第9回	Unit 5 現在完了形と過去形の違い②	予習: Journal(Writing)課題③ 自分が続けているスポーツや楽器 について(自己添削)(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第10回	Unit 6 現在完了進行形①	予習: Reading課題① (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第11回	Unit 6 現在完了進行形② What have you been~? How long have you been~?	予習: Journal(Writing)課題① 現在住んでいる街にどのくらい 長く住んでいるか(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第12回	Unit 6 現在完了進行形③ "Job Interview"	予習: Journal(Writing)課題① 現在住んでいる街にどのくらい 長く住んでいるか(自己添削)(60分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第13回	Unit 7 動名詞と不定詞① ~ing/to~	予習: Reading課題② (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第14回	Unit 7 動名詞と不定詞②	予習: Reading課題③ (30分程度) 復習: 今回の授業の内容をまとめる
第15回	まとめ	復習: 今回の授業の内容をまとめる

科目名(クラス)	イタリア語1			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	Michele Vergolani	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>イタリア語の初級文法を習得するコースです。基本的な文法だけに限定します。初級文法の基礎を理解し、練習問題で定着し、学習した文法をダイアログを通して実際の会話で使えるようコミュニケーションのアプローチを導入し、授業を進めていきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>イタリア語未修者が、イタリア語文法の最低限の基礎的知識を習得することができる。履修者は授業を通して、正確な発音、簡単な文を読む力、初級文法の能力を身につけることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>必ず毎回予習や復習などが必要です。(授業が終わる前に予習／復習内容を伝えます)積極的な授業参加を望みます。履修者は、分からないことがあったら必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断します。</p>									
教科書	Italiano Italiano			著者等	Matteo Castagna, Aya Yoshitomi	出版社	Asahi		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	挨拶とアルファベット 自己紹介、名前、出身 発音、アクセント	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第2回	動詞ESSERE 自己紹介、名前、出身 国籍の形容詞	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第3回	名詞と冠詞	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第4回	形容詞	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第5回	動詞AVERE 数字 1-20	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第6回	動詞の活用① -ARE 規則動詞の活用	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第7回	動詞の活用 ② -ARE 不規則動詞の活用	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第8回	動詞の活用① -ERE 規則動詞の活用	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第9回	動詞の活用 ② -ERE 不規則動詞の活用	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第10回	動詞の活用① -IRE 規則動詞の活用	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第11回	動詞の活用 ② -IRE 不規則動詞の活用	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第12回	小テスト (ARE, ERE, IRE) 名詞と冠詞と形容詞の複数形	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第13回	暇な時間について (聞き取りと書く練習)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第14回	問題集／まとめ	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第15回	試験	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。

科目名(クラス)	イタリア語2			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	Michele Vergolani	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>前期に勉強したことを忘れないよう復習しながら、イタリア語の初級文法の勉強を続けます。前期同様、基本的な文法だけに限定します。初級文法の基礎を理解し、練習問題で定着し、学習した文法をダイアログを通して実際の会話で使えるようコミュニケーションのアプローチを導入し、授業を進めていきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>イタリア語未修者が、イタリア語文法の最低限の基礎的知識を習得することができる。 履修者は授業を通して、正確な発音、簡単な文を読む力、初級文法の能力を身につけることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
必ず毎回予習や復習などが必要です。(授業が終わる前に予習／復習内容を伝えます)積極的な授業参加を望みます。履修者は、分からないことがあったら必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。									
教科書	Italiano Italiano			著者等	Matteo Castagna, Aya Yoshitomi	出版社	Asahi		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第2回	Mi piace/mi piacciono ① 好みを表す表現	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第3回	Mi piace/mi piacciono ② 好みを表す表現	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第4回	時刻 何時に何をするか話す	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第5回	補助動詞DOVERE, POTERE, VOLERE①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第6回	補助動詞DOVERE, POTERE, VOLERE②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第7回	小テスト います／ありますの使い分け (C'è/Ci sono)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第8回	近過去① 休日と自由時間について話す	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第9回	近過去② 休日と自由時間について話す	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第10回	近過去③ 休日と自由時間について話す	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第11回	近過去④ はがきを書く	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第12回	関係代名詞 CHE 関係代名詞CHEを用いて、写真を説明する	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第13回	イタリアのクリスマス イタリアのクリスマス伝統／ゲームを経験する	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第14回	問題集／まとめ	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第15回	試験	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。

科目名(クラス)	イタリア語3			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2~4
担当教員	Michele Vergolani	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>一年目に学んだ文法を復習しながら、コミュニケーションのアプローチで、中級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>イタリア語の中級文法を習得するコースです。1年目に学んだ文法を確認し、コミュニケーションができるよう会話練習も取り入れながら、中級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語で表現する基礎的能力を身につけることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
必ず毎回予習や復習などが必要です。(授業が終わる前に予習／復習内容を伝えます)積極的な授業参加を望みます。履修者は、分からないことがあったら必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。									
教科書	プリント教材			著者等	先生作成、その他	出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	近過去／自動詞①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第2回	近過去／自動詞②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第3回	再帰動詞①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第4回	再帰動詞②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第5回	直接目的語代名詞①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第6回	直接目的語代名詞②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第7回	まとめ聞き取り練習	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第8回	まとめ読解	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第9回	間接目的語代名詞①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第10回	間接目的語代名詞②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第11回	旅行のプランを書く	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第12回	間接目的語代名詞①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第13回	間接目的語代名詞②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第14回	問題集／まとめ	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第15回	まとめ	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。

科目名(クラス)	イタリア語4			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2~4
担当教員	Michele Vergolani	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>一年目に学んだ文法を復習しながら、コミュニケーションのアプローチで、中級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>イタリア語の中級文法を習得するコースです。1年目に学んだ文法を確認し、コミュニケーションができるよう会話練習も取り入れながら、中級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語で表現する基礎的能力を身につけることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
必ず毎回予習や復習などが必要です。(授業が終わる前に予習／復習内容を伝えます)積極的な授業参加を望みます。履修者は、分からないことがあったら必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。									
教科書	プリント教材			著者等	先生作成、その他	出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第2回	非人称のSI	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第3回	受け身のSI	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第4回	数量代名詞NE①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第5回	数量代名詞NE②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第6回	半過去①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第7回	半過去②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第8回	半過去③	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第9回	半過去④	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第10回	未来形①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第11回	未来形②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第12回	未来形③	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第13回	未来形④	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第14回	問題集／まとめ	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第15回	まとめ	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1～4		
担当教員	Michele Vergolani	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>イタリア語の日常会話でよく使われる表現を学びながら、会話の基礎を身につける授業です。CDを聞いて、耳を慣らしましょう。声を出して、正しい発音を身につけましょう。具体的な場面に沿って、日常会話を学びましょう。授業内容は下記になります。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>イタリア語未修者が、イタリア語コミュニケーションの最低限の基礎的知識を習得することができる。履修者が授業を通して、日常会話の能力を身につけることができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>各回の授業ではテキスト、CD、VIDEO講座、先生のオリジナル教材等を使用します。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>必ず毎回予習や復習などが必要です。(授業が終わる前に予習／復習内容を伝えます)積極的な授業参加を望みます。履修者は、分からないことがあったら必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。</p>										
教科書	NUOVO ESPRESSO 1			著者等	ZIGLIO, RIZZO	出版社	ALMA EDIZIONI			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	挨拶、名前、アルファベット、C/Gの発音、自己紹介① イタリア出身の知らない人に会う時に完璧に自己紹介する	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第2回	自己紹介②、授業中に使える表現 イタリア出身の知らない人に会う時に完璧に自己紹介する	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第3回	国籍、数字(1-20) 知らない人に国を聞く	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第4回	TuとLEIの使い分け、電話番号、住所を聞く 丁寧語の使い方	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第5回	第1課 まとめ 第1課 ビデオ講座(画像／文法)	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第6回	第1課 小テスト 自己紹介③、気分を聞く、他人を紹介する 二人以上がいるときの自己紹介／友達の紹介する	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第7回	話せる言語・国籍・年齢を聞く 数字(21-100) 形容詞の変化	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第8回	職業 名詞の変化	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第9回	第2課 まとめ 第2課 ビデオ講座(画像／文法)	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第10回	第2課 小テスト カフェで使える表現、CI/GIの発音 イタリアンバーで注文する 定冠詞／不定冠詞、動詞の変化	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第11回	レストランで使える表現 ① イタリアンレストランで注文する 定冠詞／不定冠詞、動詞の変化	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第12回	レストランで使える表現 ② お会計をお願いする 気に入ったレストランに電話してテーブルを予約する	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第13回	第3課 まとめ 第3課 ビデオ講座(画像／文法)	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第14回	問題集(第1、2、3課) 口頭試験(練習)	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第15回	まとめ	授業中で行われたか活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	Michele Vergolani	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>イタリア語の日常会話でよく使われる表現を学びながら、会話の基礎を身につける授業です。CDを聞いて、耳を慣らしましょう。声を出して、正しい発音を身につけましょう。具体的な場面に沿って、日常会話を学びましょう。授業内容が下記になります。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>イタリア語未修者が、イタリア語コミュニケーションの最低限の基礎的知識を習得することができる。履修者が授業を通して、日常会話の能力を身につけることができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>各回の授業ではテキスト、CD、VIDEO講座、先生のオリジナル教材等を使用します。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>必ず毎回予習や復習などが必要です。(授業が終わる前に予習／復習内容を伝えます)積極的な授業参加を望みます。履修者は、分からないことがあったら必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。</p>								
教科書	NUOVO ESPRESSO 1			著者等	ZIGLIO, RIZZO	出版社	ALMA EDIZIONI	
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第2回	暇な時間について① ARE, ERE, IRE 規則動詞の活用 頻度副詞 前置詞	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第3回	暇な時間について② 不規則動詞の活用 頻度副詞 前置詞	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第4回	好み 好きな食べ物やスポーツなどについて話す 間接目的語代名詞	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第5回	SC/SKの発音 時間を聞く	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第6回	第4課 まとめ 第4課 ビデオ講座(画像／文法)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第7回	第4課 小テスト ホテルにて①、G/G/CI/GIの発音 イタリアのホテルに電話して予約する	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第8回	ホテルにて② 部屋のこだわりについて話す	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第9回	ホテルで起きた問題を解決する	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第10回	います／ありますの使い分け ホテルの受付に起きた問題を説明する(壊れたもの、足りないものなど)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第11回	月の言い方 順番を表す形容詞 数字(101-2,000,000,000)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第12回	第5課 まとめ 第5課 ビデオ講座(画像／文法)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第13回	第5課 小テスト イタリアのクリスマス イタリアのクリスマス伝統／ゲームを経験する	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第14回	問題集(第4、5課) 口頭試験(練習)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第15回	まとめ	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション3			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2~4	
担当教員	Michele Vergolani	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>イタリア語圏異文化コミュニケーション1~2を履修した学生のための授業になります。一年目に使えるようになった日常表現を活用しながら、様々な新しい表現を学びます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>目、耳、口を使い、本授業の目標はイタリア語で実践的なコミュニケーションが取れるようになることができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>各回の授業ではテキスト、CD、VIDEO講座、先生のオリジナル教材等を使用します。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>必ず毎回予習や復習などが必要です。(授業が終わる前に予習／復習内容を伝えます)積極的な授業参加を望みます。履修者は、分からないことがあったら必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。</p>										
教科書	NUOVO ESPRESSO 1				著者等	ZIGLIO, RIZZO	出版社	ALMA EDIZIONI		
教科書					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	イタリア旅行① 不定冠詞の複数形 場所代名詞 CI	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝え+T371:AD376ます。
第2回	イタリア旅行② 自分の住んでいる町を説明する バス停で停留場について話す 従属動詞 DOVERE	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第3回	イタリア旅行③ SCO-SCHI, SCI-SCHIの発音 道を説明する 疑問詞	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第4回	イタリア旅行④ お店の営業時間 第6課 まとめ／ビデオ講座	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第5回	第6課 小テスト バカンスへ行きましょう！① 近過去(自動詞／他動詞) イタリアからの絵はがきを読む	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第6回	バカンスへ行きましょう！② 近過去(自動詞／他動詞) 近過去でBINGO! 週末物語り①	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第7回	バカンスへ行きましょう！③ B-Pの発音 近過去(自動詞／他動詞) 週末物語り②	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第8回	バカンスへ行きましょう！④ 近過去(自動詞／他動詞) 天気 第7課 まとめ／ビデオ講座	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第9回	第7課 小テスト 近過去まとめゲーム イタリアの美味① イタリアでよく使う食料品	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第10回	イタリアの美味② 様々なお店で買物する 入れ物／量	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第11回	イタリアの美味③ スーパーで買物する 間接目的語代名詞	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第12回	イタリアの美味④ 話す練習	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第13回	イタリアの美味⑤ ミートソースの作り方 非人称の SI 第8課 まとめ／ビデオ講座	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第14回	問題集(第6、7、8課) 口頭試験(練習)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第15回	まとめ	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション4			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2～4	
担当教員	Michele Vergolani	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>イタリア語圏異文化コミュニケーション3を履修した学生のための授業になります。前期までで使えるようになった日常表現を活用しながら、様々な新しい表現を学びます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>目、耳、口を使い、本授業の目標はイタリア語で実践的なコミュニケーションが取ることができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>各回の授業ではテキスト、CD、VIDEO講座、先生のオリジナル教材等を使用します。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>必ず毎回予習や復習などが必要です。(授業が終わる前に予習／復習内容を伝えます)積極的な授業参加を望みます。履修者は、分からないことがあったら必ず質問するようにしてください(「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう)。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。</p>										
教科書	NUOVO ESPRESSO 1				著者等	GIGLIO, RIZZO	出版社	ALMA EDIZIONI		
教科書					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第2回	日常生活① 勤務時間 終わる／終える&前置詞 始まる／始める&前置詞	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第3回	日常生活② 「決勝の日」(聞き取り練習) 時間 再帰動詞の直接法現在形	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第4回	日常生活③ 平日の一日 時間 再帰動詞の直接法現在形	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第5回	日常生活④ Davideの土曜日、Ernestoの一日 再帰動詞の直接法現在形	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第6回	日常生活⑤ イタリアの祝日／祝いの表現 第9課 まとめ／ビデオ講座	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第7回	第9課 小テスト グリーティングカードを書く	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第8回	家族① 家族と関係ある語彙を勉強して、自分の家系図を説明する	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第9回	家族② 「まだ家族と住んでいる」(聞き取り練習)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第10回	家族③ 所有形容詞 形容詞の最上級	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第11回	家族④ 再帰動詞の直接法近過去	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第12回	家族⑤ 「結婚式のプレゼント」(聞き取り練習) 第10課 まとめ／ビデオ講座	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第13回	第10課 小テスト イタリアのクリスマス伝統／ゲームを経験する	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第14回	問題集(第9、10課) 口頭試験(練習)	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。
第15回	まとめ	授業中に行われた活動に応じて、 毎回授業が終わる前に 予習／復習内容を伝えます。

科目名(クラス)	和声学1-a			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を学びます。 この和声学1-bではバロック初期に確立された讚美歌スタイルとも言うべき3和音スタイルによる課題で演習を進めます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>3和音の基本形・第1転回形・第2転回形の響き・配置・連結法を理解し、3和音のみによるバス課題を実施できるようになると共に、これらの和音の分析ができるようになる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義・演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。プリントの基本課題の内、「提出」と指定した課題、及びテキスト中の課題の内、「補充問題」と指定した課題の提出状況で課題点を算出します。積極的に取り組んで下さい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学期末定期試験60%・課題点40%									
教科書	和声 理論と実習 I			著者等	島岡譲 他	出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	予備知識	復習:和音記号を覚える
第2回	基本形3和音の配置	予習:和音記号を再確認して置く 復習:補充問題の練習
第3回	基本形3和音の連結①	予習:基本形3和音の配置法を再確認して置く 復習:補充問題の練習
第4回	基本形3和音の連結②	復習:補充問題の練習
第5回	和音設定の原理	予習:基本形3和音の連結法を再確認して置く 復習:覚えておくべきことを確認して置く
第6回	基本形3和音のみによるバス課題(提出課題の提出)	予習:和音設定の原理を再確認して置く 復習:補充問題の練習
第7回	各種の調	復習:補充問題の練習
第8回	[1転]3和音の配置	復習:補充問題の練習
第9回	[1転]3和音の連結①	予習:[1転]3和音の配置法を再確認して置く 復習:補充問題の練習
第10回	[1転]3和音の連結②	復習:補充問題の練習
第11回	[1転]3和音を含むバス課題	予習:[1転]3和音の連結法を再確認して置く 復習:補充問題の練習
第12回	復習(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第13回	[2転]3和音の配置・連結	復習:覚えておくべきことを確認して置く
第14回	[2転]3和音を含むバス課題及び総合練習(提出課題の提出)	予習:[2転]3和音の配置・連結法を確認して置く 復習:補充問題の練習
第15回	まとめ	予習:総合練習のプリントを確認して置く

科目名(クラス)	和声学1-b			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	井上 淳司	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽をより理解し、より良い演奏につなげるためにも和声学の習得は必要です。メロディーを支える和声の響きは理論的にも感覚的にも音楽の流れを作り全体を支配する要因となっています。</p> <p>和声学 I ではハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンに代表される西洋音楽古典の調性音楽の和声の理論を学習し、実習を通して体感していきます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>三和音の「基本形」「第1転回形」の基本的な連結を理解し、実践できる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>解説と実習。和声の解答は一通りではありません。出来る限り個別に見ます。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>和声の解答は、必ずピアノ等で音にしましょう。和声をより効果的に学ぶには、その和音の響きを聴き、感覚的に把握することが大切です。眼で見て、音を出して、耳で聴くことによって、皆さんの和声学習はより確かなものになるでしょう。成果よりも姿勢や過程が大事です。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>授業中に見る実習ノート50%、筆記試験50%</p>										
教科書	和声 理論と実習 I			著者等	池内友次郎他	出版社	音楽之友社			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(12 時 40 分 ~ 14 時 10 分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	和声法の概略。音楽に置ける和声の意味と重要性。授業のノートの取り方と使い方の注意等。
第2回	構成音と配置	三和音の理解、各音の名称、音域、隣接声部間の距離、配分の理解、構成音の数
第3回	基本的な連結法	進行の名称、制限、共通音の有無による連結法の違い
第4回	例外的な連結	II-V、V-VIの連結方法
第5回	各和音の機能	T,D,Sの理解と対応する和音
第6回	カデンツと終止	3種のカデンツ、4種の終止
第7回	各調性による連結	和声短音階の理解、短調の連結、G:,F:g:,f:,その他の調
第8回	ここまでのまとめと実習	ここまでのまとめと実習
第9回	ここまでのまとめと実習	ここまでのまとめと実習
第10回	第一転回形の配置	[一転]の理解、構成音の確認、重複音、配置
第11回	第一転回形の連結	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習
第12回	第一転回形の連結	第一転回形の連結
第13回	第二転回形の配置	[二転]の理解、構成音の確認、重複音、配置
第14回	第二転回形の連結	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習
第15回	まとめ	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習

科目名(クラス)	和声学1-c			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	新井 雅之	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽をより理解し、より良い演奏につなげるためにも和声学の習得は必要です。 メロディーを支える和声の響きは理論的にも感覚的にも音楽の流れを作り全体を支配する要因となっています。 和声学ではハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンに代表される西洋音楽古典の中世音楽の和声の理論を学習し、実習を通して体感していきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
三和音の基本形、第一転回形的基本的な連結の理解と実践									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
解説と実習。和声の解答は一通りではありません。出来る限り個別に見ます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
和声の解答は、必ずピアノ等で音にしましょう。和声をより効果的に学ぶには、和音の響きを感覚的に把握することが大切です。目で見て、音を出し耳位で聞く、ということによって話声学習は寄り確かになるでしょう。成果以上に学ぶ姿勢と過程が大事です。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業中の実習ノート50%、筆記試験50%									
教科書	和声 理論と実習1			著者等	池内友次郎	出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12時 40分 ~ 13時 10分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	和声方の概略。音楽における和音の意味と重要性。授業のノートの取り方と使い方の注意等を確認する。
第2回	構成音と配置	三和音の理解、各音の名称、音域、隣接声部間の距離、配分の理解、構成音の数を確認する。
第3回	基本的な連結法	進行の名称、制限、共通音の有無による連結の違いを確認する
第4回	例外的な連結	II-V、V-VIの連結方法を確認する
第5回	各和音の機能	T,D,Sの理解と対応する和音を確認する。
第6回	カデンツと終始	3種のカデンツ、4種の終止を確認する。
第7回	各調性による連結	和声短音階の理解、短調の連結、G:,F:g:,f:,その他の調を確認する。
第8回	ここまでのまとめと実習	ここまでのまとめと実習
第9回	ここまでのまとめと実習	ここまでのまとめと実習
第10回	第一転回形の配置	[一転]の理解、構成音の確認、重複音、配置を確認する。
第11回	第一転回形の連結	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習
第12回	第一転回形の連結	[連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習
第13回	第二転回形の連結	[二転]の理解、構成音の確認、重複音、配置を確認する。
第14回	第二転回形の連結	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習
第15回	まとめ	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習

科目名(クラス)	和声学2-a			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を学びます。 この和声学2では古典派の音楽によって発展したドミナント和音の諸形態を含む課題で演習を進めます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>属七・属九の和音の響き・配置・連結法を理解し、これらの和音を含むバス課題を実施できるようになると共に、これらの和音の分析ができるようになる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義・演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。プリントの基本課題の内、「提出」と指定した課題、及びテキスト中の課題の内、「補充問題」と指定した課題の提出状況で課題点を算出します。積極的に取り組んで下さい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学期末定期試験60%・課題点40%									
教科書	和声 理論と実習 I			著者等	島岡譲 他	出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	和声学1-aの復習	復習:覚えておくべきことの確認
第2回	属七の和音①配置・連結	復習:補充問題の練習
第3回	属七の和音②バス課題	予習:属七の和音の配置・連結法を再確認して置く
第4回	復習(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第5回	属七の和音③各種の省略形	復習:補充問題の練習
第6回	属九の和音①基本形	復習:覚えておくべきことの確認
第7回	属九の和音②長調の根音省略形	復習:覚えておくべきことの確認
第8回	復習—属九を含む長調のバス課題—(提出課題の提出)	予習:長調の属九の和音の配置・連結法を再確認して置く 復習:補充問題の練習
第9回	属九の和音③短調の根音省略形	復習:覚えておくべきことの確認
第10回	復習—属九を含む短調のバス課題—(提出課題の提出)	予習:短調の属九の和音の配置・連結法を再確認して置く 復習:補充問題の練習
第11回	D諸和音の総括	復習:覚えておくべきことの確認
第12回	復習(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第13回	総合練習(属七・属九を含むバス課題の練習)	予習:属七・属九を含むバス課題の実施法を再確認して置く 復習:補充問題の練習
第14回	総合練習(属七・属九を含むバス課題の練習)	復習:補充問題の練習
第15回	まとめ	予習:総合練習のプリントを確認して置く

科目名(クラス)	和声学2-b			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	井上 淳司	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽をより理解し、より良い演奏につなげるためにも和声学の習得は必要です。メロディーを支える和声の響きは理論的にも感覚的にも音楽の流れを作り全体を支配する要因となっています。</p> <p>和声学 I ではハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンに代表される西洋音楽古典の調性音楽の和声の理論を学習し、実習を通して体感していきます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
三和音の「第2転回形」および「属7」「属9」の基本的な連結を理解し、実践できる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
解説と実習。和声の解答は一通りではありません。出来る限り個別に見ます。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
和声の解答は、必ずピアノ等で音にしましょう。和声をより効果的に学ぶには、その和音の響きを聴き、感覚的に把握することが大切です。眼で見て、音を出して、耳で聴くことによって、皆さんの和声学習はより確かなものになるでしょう。成果よりも姿勢や過程が大事です。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
授業中に見る実習ノート50%、筆記試験50%										
教科書	和声 理論と実習 I			著者等	池内友次郎他	出版社	音楽之友社			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(12 時 40 分 ~ 14 時 10 分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	属七の構成音と配置	ドミナントおよび[属七]の理解、構成音の確認、基本形と転回形の重複音、配置等注意事項
第2回	属七の定型および転回形	バス定型の理解、転回形の連結法
第3回	属七— I の連結	基本形と転回形の連結の違いの理解
第4回	属七の実習	長い課題の和音設定および和音の違いによる連結法の違いの理解
第5回	属七の根音省略形の配置	VIIとの違い、ドミナントの徹底、第7音の意味と進行
第6回	属七の根音省略形の連結	定型の把握、配置による連結の違いの理解
第7回	ここまでの実習	移調の徹底およびC:以外の調での実習に慣れる。
第8回	属九の配置	ドミナントの確認および[属九]の理解、構成音の確認、基本形と転回形の省略音、配置等注意事項
第9回	属九の連結	限定進行音の確認、転回形によつての連結上の注意事項
第10回	属九の根音省略形の配置	配置による限定進行音の扱いの理解
第11回	長調における属九の和音設定および連結	長調の配置制限の理解および実習
第12回	属九の実習	長い課題の和音設定および配置の違いによる連結法の違いの理解
第13回	短調における属九の和音設定および連結	短調の配置制限の理解および実習
第14回	ここまでの実習	移調の徹底、様々な調の属九の連結に慣れる。
第15回	まとめ	基本的な和声法の理解と確実な実習を体得するための理解。

科目名(クラス)	和声学2-c			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	新井 雅之	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽をより理解し、より良い演奏につなげるためにも和声学の習得は必要です。 メロディーを支える和声の響きは理論的にも感覚的にも音楽の流れを作り全体を支配する要因となっています。 和声学ではハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンに代表される西洋音楽古典の中世音楽の和声の理論を学習し、実習を通して体感していきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
三和音の「第2転回形」および「属7」「属9」の基本的な連結の理解と実践									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
解説と実習。和声の解答は一通りではありません。出来る限り個別に見ます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
和声の解答は、必ずピアノ等で音にしましょう。和声をより効果的に学ぶには、和音の響きを感覚的に把握することが大切です。目で見て、音を出し耳位で聞く、ということによって話声学習は寄り確かになるでしょう。成果以上に学ぶ姿勢と過程が大事です。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業中の実習ノート50%、筆記試験50%									
教科書	和声 理論と実習1			著者等	池内友次郎	出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12時 40分 ~ 13時 10分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	属七の構成音と配置	ドミナントおよび[属七]の理解、構成音の確認、基本形と転回形の重複音、配置等注意事項を確認する。
第2回	属七の定型および転回形	バス定型の理解、転回形の連結法を確認する。
第3回	属七— I の連結	基本形と転回形の連結の違いを理解する。
第4回	属七の実習	長い課題の和音設定および和音の違いによる連結法の違いを理解する。
第5回	属七の根音省略形の配置	VIIとの違い、ドミナントの徹底、第7音の意味と進行を確認する。
第6回	属七の根音省略形の連結	定型の把握、配置による連結の違いの理解を確認する。
第7回	ここまでの実習	移調の徹底およびC:以外の調での実習に慣れる。
第8回	属九の配置	ドミナントの確認および[属九]の理解、構成音の確認、基本形と転回形の省略音、配置等注意事項を確認する。
第9回	属九の連結	限定進行音の確認、転回形によつての連結上の注意事項を確認する
第10回	属九の根音省略形の配置	配置による限定進行音の扱いを理解する
第11回	長調における属九の和音設定および連結	長調の配置制限の理解および実習
第12回	属九の実習	長い課題の和音設定および配置の違いによる連結法の違いを理解する
第13回	短調における属九の和音設定および連結	短調の配置制限の理解および実習
第14回	ここまでの実習	移調の徹底、様々な調の属九の連結に慣れる
第15回	まとめ	基本的な和声法の理解し、確実な実習を体得する。

科目名(クラス)	和声学3-a			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	横山 裕美子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽の基本構成要素である“和声”の魅力と技法を学ぶことは、西洋音楽への理解を深める上で極めて重要です。 和声学1・2で学んだ和声の基礎技法に加え、和声学3では、美しいサブドミナント諸和音を学びます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>II7・準固有和音・ドッペルドミナントの3和音形と属七形の和音の特色と配置、連結を理解し、使いこなすことができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>テキストとプリントを使い、講義と課題実習で進めていきます。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>必ずピアノで弾いて音を確認しましょう。課題を繰り返し復習することが大事です。1年次からの積み重ねの科目なので1年次のテキストも持参しましょう。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>授業内課題実習(30%) 学期末定期試験(70%)</p>										
教科書	和声理論と実習Ⅱ			著者等	島岡譲 他		出版社	音楽之友社		
教科書				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(14 時 10 分 ~ 14 時 20 分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	和声学 I の復習① 基本形の3和音	予習:和声学 I 第5章までを読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第2回	和声学 I の復習② 第1転回形・第2転回形の3和音	予習:和声学 I 第7章までを読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第3回	和声学 I の復習③ 属七の和音	予習:和声学 I 第8章までを読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第4回	和声学 I の復習④ 属七の和音	予習:和声学 I 第9章までを読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第5回	II7の和音①	予習:テキスト第1章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第6回	II7の和音②	予習:テキスト第1章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第7回	II7の和音③	予習:テキスト第1章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第8回	準固有和音①	予習:テキスト第2章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第9回	準固有和音②	予習:テキスト第2章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第10回	準固有和音③	予習:テキスト第2章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第11回	ドッペルドミナントの3和音形	予習:テキスト第3章15～19を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第12回	ドッペルドミナントの属七形	予習:テキスト第3章20を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第13回	ドッペルドミナントの3和音形・属七形の復習	予習:テキスト第3章15～20を読み直す。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第14回	総復習	予習:テキストいままでのところを読み直す。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第15回	本科目の総括	予習:テキストいままでのところを読み直す。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。

科目名(クラス)	和声学3-b			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を学びます。 この和声学3では、和声学2で学んだドミナント諸和音を軸としつつ、ロマン派の音楽と共に発展した各種のサブドミナント和音を加えて演習を進めます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>Ⅱ7・準固有和音・ドッペルドミナント等の和音の響き・配置・連結法を理解し、これらの和音を含むバス課題を実施できるようになると共に、これらの和音の分析ができるようになる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義・演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。プリントの基本課題の内、「提出」と指定した課題、及びテキスト中の課題の内、「補充問題」と指定した課題の提出状況で課題点を算出します。積極的に取り組んで下さい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学期末定期試験60%・課題点40%									
教科書	和声 理論と実習Ⅱ			著者等	島岡譲 他	出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	和声学1の復習①[基]3和音	復習:補充問題の練習
第2回	和声学1の復習②[1転]・[2転]3和音	復習:補充問題の練習
第3回	和声学2の復習①属七の和音	復習:補充問題の練習
第4回	和声学2の復習②属九の和音	復習:補充問題の練習
第5回	Ⅱ7の和音①配置・連結	復習:補充問題の練習
第6回	Ⅱ7の和音②バス課題	予習:Ⅱ7の和音の配置・連結法を再確認して置く
第7回	復習(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第8回	準固有和音①配置・連結	復習:補充問題の練習
第9回	準固有和音②バス課題	予習:準固有和音の配置・連結法を再確認して置く
第10回	復習(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第11回	ドッペルドミナント(1)3和音型ー配置・連結ー	復習:補充問題の練習
第12回	ドッペルドミナント(2)属七型①配置・連結	復習:覚えるべきことを確認して置く
第13回	ドッペルドミナント(2)属七型②バス課題(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第14回	総合練習(Ⅱ7・準固有和音を含むバス課題)	予習:Ⅱ7・準固有和音の配置・連結法を再確認して置く
第15回	まとめ	予習:総合練習のプリントを確認して置く

科目名(クラス)	和声学4-a			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	横山 裕美子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽の基本構成要素である“和声”の魅力と技法を学ぶことは、西洋音楽への理解を深める上で極めて重要です。和声学3に引き続き、さらに多くのサブドミナント諸和音を学び、使いこなせるようになることを目指します。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>・ドッペルドミナントの属七の根音省略形、属九形、第5音下方変位形、IV7、ドリア、ナポリの和音の特色と配置、連結を理解し、使いこなすことができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>テキストとプリントを使い、講義と課題実習で進めていきます。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>必ずピアノで弾いて音を確認しましょう。課題を繰り返し復習することが大事です。1年次からの積み重ねの科目なので1年次のテキストも持参しましょう。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>授業内課題実習(30%) 学期末定期試験(70%)</p>										
教科書	和声理論と実習Ⅱ			著者等	島岡譲 他		出版社	音楽之友社		
教科書				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(14時10分 ~ 14時20分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドッペルドミナントの属七の根音省略形①	予習:テキスト第3章21を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第2回	ドッペルドミナントの属七の根音省略形②	予習:テキスト第3章21を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第3回	ドッペルドミナントの属九形①	予習:テキスト第3章22を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第4回	ドッペルドミナントの属九形②	予習:テキスト第3章22を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第5回	ドッペルドミナントの属九形③	予習:テキスト第3章22を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第6回	ドッペルドミナントの第5音下方変位形①	予習:テキスト第3章23を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第7回	ドッペルドミナントの第5音下方変位形②	予習:テキスト第3章23を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第8回	ドッペルドミナントの第5音下方変位形③	予習:テキスト第3章23を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第9回	IV7の和音①	予習:テキスト第4章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第10回	IV7の和音②	予習:テキスト第4章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第11回	ドリア・ナポリの和音①	予習:テキスト第4章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第12回	ドリア・ナポリの和音②	予習:テキスト第4章を読んでおく。 復習:授業で学習した課題を見直す、 ピアノで弾く。
第13回	総復習①	予習:テキストいままでのところを読み直す。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第14回	総復習②	予習:テキストいままでのところを読み直す。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。
第15回	本科目の総括	予習:テキストいままでのところを読み直す。 復習:授業で学習した課題を見直し、 ピアノで弾く。

科目名(クラス)	和声学4-b			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件		音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を学びます。 この和声学4では、和声学3で学んだ内容の延長として、サブドミナント和音のヴァリエーションをさらに増やして演習を進めます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>各種のドッペルドミナント・IV7・ドリア・ナポリ等の和音の響き・配置・連結法を理解し、これらの和音を含むバス課題を実施できるようになると共に、これらの和音の分析ができるようになる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義・演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。プリントの基本課題の内、「提出」と指定した課題、及びテキスト中の課題の内、「補充問題」と指定した課題の提出状況で課題点を算出します。積極的に取り組んで下さい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学期末定期試験60%・課題点40%									
教科書	和声 理論と実習Ⅱ			著者等	島岡譲 他	出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドッペルドミナント(3)属九型①配置・連結	復習:覚えておくべきことを確認して置く
第2回	ドッペルドミナント(3)属九型②バス課題(提出問題の提出)	復習:補充問題の練習
第3回	ドッペルドミナント(4)準固有和音型①配置・連結	復習:覚えておくべきことを確認して置く
第4回	ドッペルドミナント(4)準固有和音型②バス課題(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第5回	ドッペルドミナント(5)第5音下方変位型①配置・連結	復習:覚えておくべきことを確認して置く
第6回	ドッペルドミナント(5)第5音下方変位型②バス課題(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第7回	IV7の和音①配置・連結	復習:覚えておくべきことを確認して置く
第8回	IV7の和音②バス課題(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第9回	ドリア・ナポリの和音①配置・連結	復習:覚えておくべきことを確認して置く
第10回	ドリア・ナポリの和音②バス課題(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第11回	サブドミナント和音の総括及び追加	復習:覚えておくべきことを確認して置く
第12回	復習(提出課題の提出)	復習:補充問題の練習
第13回	総合練習(各種のドッペルドミナントの和音を含むバス課題)	予習:各種のドッペルドミナントの和音の配置・連結法、及びIV7・ドリア・ナポリの和音の構成について再確認して置く
第14回	総合練習(各種のドッペルドミナントの和音を含むバス課題)	予習:各種のドッペルドミナントの和音の配置・連結法、及びIV7・ドリア・ナポリの和音の構成について再確認して置く
第15回	まとめ	予習:総合練習のプリントを確認して置く

科目名(クラス)	対位法 A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	新井 雅之	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽の縦の関係を研究するのが和声学、すなわちハーモニーの学問であるのに対し、音楽の横の関係を探求するのが対位法、すなわち複数の旋律の学術的規則の解明である。低音部、或は高音部に定められた旋律(定旋律)に、対旋律を書くという2声対旋律法の習得に努める。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>与えられた定旋律に、二分音符が2つのリズムで、適宜、対旋律を実施することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>原理の講義の後、対旋律実施を試みる。各自の実施した対旋律を比較検討し旋律全体の設計の違いを確認してみる。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>与えられた旋律に新たな旋律を加えるという演習は、和声の学習とは全く違う楽しみと発見をもたらします。旋律制作に、積極的にチャレンジしてみてください。学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も評価の際に加味しますので、授業への積極的参加が望まれます。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>学期記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)</p>										
教科書	二声対位法			著者等	池内友次郎	出版社	音楽之友社			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(14時 20分 ~ 15時 50分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	対位法とポリフォニー音楽について・複旋律をもつ音楽の例を紹介ポリフォニー音楽の創作を可能にする原理。ポリフォニー音楽の創作を可能にする原理を大まかに把握し、その可能性を知る	復習として、ポリフォニー音楽の領域で新たに知った楽曲、或は再確認をした楽曲等を、鑑賞してみる。
第2回	全音符による定旋律に、学習過程で実施して行く対旋律の種類とそのそれぞれがもつ制約の違いについて。対旋律の実施に先立ち、学習過程の各段階で、どのようなリズムの対旋律を習得しようとするのか、それぞれの種類の対旋律がどのような制約と性格を、とくにリズムの上で持っているのかを知る。	予習として、テキスト全体のコンテンツを確認しつつ、テキストに掲載されている模範実施例を吟味してみる。所要時間20分程度。
第3回	分音符による対旋律実施のための、基本原理について。もっとも基本的な2分音符による強拍と弱拍を形成する音の進行の根底にある原理を知り、旋律創作に際して、どのように音を進行させて行くのが望ましいかを理解・判断する。	予習として、実施例の定旋律と対旋律の間に生じる音程を検証しつつ、旋律全体の動向を確認してみる。所要時間20分程度。
第4回	2分音符による対旋律の創作(1)(バスの定旋律に対してのソプラノの対旋律)各小節を、原理に従い上声部の対旋律を形成させながら繋げられるよう実施	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第5回	2分音符による対旋律の創作(1)(バスの定旋律に対してのソプラノの対旋律)各小節を、原理に従い上声部の対旋律を形成させながら繋げられるよう実施	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第6回	2分音符による対旋律の創作(1)(バスの定旋律に対してのソプラノの対旋律)各小節を、原理に従い上声部の対旋律を形成させながら繋げられるよう実施	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第7回	2分音符による対旋律の創作(1)(バスの定旋律に対してのソプラノの対旋律)各小節を、原理に従い上声部の対旋律を形成させながら繋げられるよう実施	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第8回	2分音符による対旋律の創作(3)(バスの定旋律に対してのアルトの対旋律)。上声部において旋律動向の可能性が複数ある場合、選び得る音をどのように取捨選択していけば良いか、数小節先を見通して考える	予習・復習として下声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第9回	2分音符による対旋律の創作(3)(バスの定旋律に対してのアルトの対旋律)。上声部において旋律動向の可能性が複数ある場合、選び得る音をどのように取捨選択していけば良いか、数小節先を見通して考える	予習・復習として下声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第10回	2分音符による対旋律の創作(3)(バスの定旋律に対してのアルトの対旋律)。上声部において旋律動向の可能性が複数ある場合、選び得る音をどのように取捨選択していけば良いか、数小節先を見通して考える	予習・復習として下声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第11回	2分音符による対旋律の創作(3)(バスの定旋律に対してのアルトの対旋律)。上声部において旋律動向の可能性が複数ある場合、選び得る音をどのように取捨選択していけば良いか、数小節先を見通して考える	予習・復習として下声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第12回	2分音符による対旋律の創作(5)(バスの定旋律に対してのテノールの対旋律)。上声部の対旋律動向の可能性を確かめながら、全体の旋律曲線を見通したうえで創作に努める。、選ぶ音をどのように取捨選択していけば良いか、全体を見通して考えられる。	予習・復習として下声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第13回	2分音符による対旋律の創作(5)(バスの定旋律に対してのテノールの対旋律)。上声部の対旋律動向の可能性を確かめながら、全体の旋律曲線を見通したうえで創作に努める。、選ぶ音をどのように取捨選択していけば良いか、全体を見通して考えられる。	予習・復習として下声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第14回	2分音符による対旋律の創作(5)(バスの定旋律に対してのテノールの対旋律)。上声部の対旋律動向の可能性を確かめながら、全体の旋律曲線を見通したうえで創作に努める。、選ぶ音をどのように取捨選択していけば良いか、全体を見通して考えられる。	予習・復習として下声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第15回	2分音符による対旋律の創作(5)(バスの定旋律に対してのテノールの対旋律)。上声部の対旋律動向の可能性を確かめながら、全体の旋律曲線を見通したうえで創作に努める。、選ぶ音をどのように取捨選択していけば良いか、全体を見通して考えられる。	予習・復習として下声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。

科目名(クラス)	対位法 B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	新井 雅之	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽の縦の関係を研究するのが和声学、すなわちハーモニーの学問であるのに対し、音楽の横の関係を探求するのが対位法、すなわち複数の旋律の学術的規則の解明である。低音部、或は高音部に定められた旋律(定旋律)に、対旋律を書くという2声対旋律法の習得に努める。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>与えられた定旋律に、4分音符が4つのリズム、2分音符の移勢リズム(シンコペーションリズム)、及び複合リズムで、適宜、対旋律を実施することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>原理の講義の後、対旋律実施を試みる。各自の実施した対旋律を比較検討し旋律全体の設計の違いを確認してみる。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>与えられた旋律に新たな旋律を加えるという演習は、和声の学習とは全く違う楽しみと発見をもたらします。旋律制作に、積極的にチャレンジしてみてください。学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も評価の際に加味しますので、授業への積極的参加が望まれます。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>学期末試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)</p>										
教科書	二声対位法			著者等	池内友次郎	出版社	音楽之友社			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(14時 20分 ~ 15時 50分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	4分音符による対旋律の実際の創作(1) (バス の定旋律に対しての上声部の対旋律) ・ソプラノの対旋律	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第2回	4分音符による対旋律の実際の創作(1) (バス の定旋律に対しての上声部の対旋律) ・ソプラノの対旋律	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第3回	4分音符による対旋律の実際の創作(1) (バス の定旋律に対しての上声部の対旋律) ・アルトの対旋律	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第4回	4分音符による対旋律の実際の創作(1) (バス の定旋律に対しての上声部の対旋律) ・アルトの対旋律	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第5回	4分音符による対旋律の実際の創作(1) (バス の定旋律に対しての上声部の対旋律) ・テノールの対旋律	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第6回	4分音符による対旋律の実際の創作(1) (バス の定旋律に対しての上声部の対旋律) ・テノールの対旋律	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第7回	移勢リズムによる対旋律の創作(1)(バス の定 旋律に対しての上声部の対旋律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度
第8回	移勢リズムによる対旋律の創作(1)(バス の定 旋律に対しての上声部の対旋律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度
第9回	移勢リズムによる対旋律の創作(1)(バス の定 旋律に対しての上声部の対旋律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度
第10回	移勢リズムによる対旋律の創作(1)(バス の定 旋律に対しての上声部の対旋律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度
第11回	複合リズム、すなわち2分音符、4分音符、移勢リズムを統合したリズムによる華麗対旋律の創 作(1)(バス の定旋律に対しての上声部の対旋 律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第12回	複合リズム、すなわち2分音符、4分音符、移勢リズムを統合したリズムによる華麗対旋律の創 作(1)(バス の定旋律に対しての上声部の対旋 律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第13回	複合リズム、すなわち2分音符、4分音符、移勢リズムを統合したリズムによる華麗対旋律の創 作(1)(バス の定旋律に対しての上声部の対旋 律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第14回	複合リズム、すなわち2分音符、4分音符、移勢リズムを統合したリズムによる華麗対旋律の創 作(1)(バス の定旋律に対しての上声部の対旋 律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。 所要時間20分程度。
第15回	本科目の総括。2分音符対旋律と4分音符対旋律による対旋律の動向の違い。移勢対 旋律の特徴。華麗対旋律のリズムについて。	予習として、今までの実施例を、旋律動向やリズムの面 から再検証してみる。所要時間30分30分程度

科目名(クラス)	和声学 【Konzertfach(演奏専攻)】1・3		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1又は2		
担当教員	白石 茂浩	実務家教員	○	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修 但し、声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ3は選択。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>演奏専攻学生にとって理論教科を学ぶことの最終目的は自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになることであるが、和声学1・3ではこの目的の実現に必要な不可欠となる、機能的和声法(和声音楽とされる近代西洋音楽の骨格をなすものであり、調的和声法とも呼ばれる)に関する知識およびその基本的な実践への応用法の提示を行う。ただし前述の最終目的を視野に入れ、ここでは楽曲分析・解釈に役立つ機能的和声法以外の知識についても簡単に触れる。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>和声学1履修生:機能的和声法の概要を知ることができる。 和声学3履修生:機能的和声法への理解をより深めることができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>基本的に講義形式を採るが、学んだ知識のより深い理解・修得のために課題実習も行う。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>常に学んだことを復習し自分なりにまとめておくこと、理解が難しい点が出てきた場合や予習・復習を行う中で疑問点が出てきた場合には積極的に質問することを習慣とするよう心がけてもらいたい。前期の授業は進み方が速くなるので、この「積極的に質問する」は特に重要になる。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>試験60% 授業・学習への積極性40% (課題への取り組み、授業中の質問に対する回答、意見発表等から理解の度合いをはかり、これを評価対象とする)</p>										
教科書	なし(授業内容をまとめたプリントを配布する)			著者等			出版社			
教科書				著者等			出版社			
参考文献	大作曲家の和声			著者等	ディーター・デ・ラ・モッテ	出版社	シンフォニア			
参考文献	図解 音楽事典			著者等	ウルリヒ・ミヒェルス	出版社	白水社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス／これまでに学んできた内容の確認 授業の進め方についてガイダンスを行い、受講生がこれまでに学んできた内容(楽典・和声学・楽式等)の確認を行う。	事前学習: これまでに学んできた内容(楽典・和声学・楽式等)の復習しておく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第2回	これまでに学んできた知識の確認と補遺 I これまでに学んできた知識の修得度を、特に音階・音程・和音に重点を置いて確認し、不十分な点について補う。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第3回	機能的和声法 I 機能的和声法に関する基礎知識を学ぶ。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第4回	機能的和声法 II 三和音基本形の連結方法を学び、課題を解いて理解を深める。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第5回	機能的和声法 III 三和音の第一転回形について学び、課題を解いて理解を深める。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第6回	機能的和声法 IV 三和音の第二転回形について学び、課題を解いて理解を深める。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第7回	機能的和声法 V 七の和音・反復進行について学ぶ。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第8回	課題実習 七の和音・反復進行について学んだ内容を確かなものとするため、課題に取り組む。	事前学習: 与えられた課題を解いておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習しておく。
第9回	機能的和声法 VI 借用和音について学ぶ。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習しておく。
第10回	課題実習 借用和音について学んだ内容を確かなものとするため、課題に取り組む。	事前学習: 与えられた課題を解いておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習しておく。
第11回	課題実習 借用和音について学んだ内容を確かなものとするため、課題に取り組む。	事前学習: 与えられた課題を解いておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習しておく。
第12回	通奏低音和声課題 I 通奏低音和声課題に取り組むにあたっての予備知識を学ぶ。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第13回	通奏低音和声課題 II 通奏低音和声課題に取り組む、実作品における和声と非和声音の扱いを学ぶ。	事前学習: 与えられた課題を解いておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習しておく。
第14回	通奏低音和声課題 III 通奏低音和声課題に取り組む、実作品における和声と非和声音の扱いを学ぶ。	事前学習: 与えられた課題を解いておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習しておく。
第15回	まとめ 試験を実施し、これまでに学んできた内容の修得度を確認する。	事前学習: 試験に備えてこれまでに学んだ内容を復習しておく。 事後学習: 試験の結果を踏まえ、和声学1・3で学んだ内容を復習しておく。

科目名(クラス)	和声学 【Konzertfach(演奏専攻)】2・4		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1又は2		
担当教員	白石 茂浩	実務家教員	○	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修 但し、声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ3は選択。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>和声学2・4では「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになる」という目標に向けての第一歩として和声分析に取り組み、これによって前期に学んだ知識をより確かなものとするとともに実践への応用について学ぶ。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○	思考力・判断力・表現力			課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力					自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>和声学2履修生：機能的和声法の概要を知るとともに、学んだ知識の応用について知ることができる。 和声学4履修生：楽曲分析・解釈を行うにあたって必要不可欠な「自分で考える力」を身につけることができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>前期同様、基本的に講義形式を採るが、課題実習が増える。和声分析では意見発表をさせることもある。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>常に学んだことを復習し自分なりにまとめておくこと、理解が難しい点が出てきた場合や予習・復習を行う中で疑問点が出てきた場合には積極的に質問することを習慣とするよう心がけてもらいたい。前期の授業は進み方が速くなるので、この「積極的に質問する」は特に重要になる。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>試験60% 授業・学習への積極性40% (課題への取り組み、授業中の質問に対する回答、意見発表等から理解の度合いをはかり、これを評価対象とする)</p>										
教科書	なし(授業内容をまとめたプリントを配布する)			著者等		出版社				
教科書				著者等		出版社				
参考文献	大作曲家の和声			著者等	ディーター・デ・ラ・モッテ	出版社	シンフォニア			
参考文献	図解 音楽事典			著者等	ウルリヒ・ミヒェルス	出版社	白水社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	機能的和声法Ⅶ 変位和音・転調について学ぶ。	事前学習:和声学1・3で学んだ内容について復習し、配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習:授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第2回	まとめの課題実習Ⅰ 課題を通してこれまでに学んだ内容を確認なものとともに、和声分析の方法を学ぶ。	事前学習:与えられた課題を解いておく。 事後学習:授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第3回	まとめの課題実習Ⅱ 課題を通してこれまでに学んだ内容を確認なものとともに、和声分析の方法を学ぶ。	事前学習:与えられた課題を解いておく。 事後学習:授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第4回	まとめの課題実習Ⅲ 課題を通してこれまでに学んだ内容を確認なものとともに、和声分析の方法を学ぶ。	事前学習:与えられた課題を解いておく。 事後学習:授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第5回	機能的和声法Ⅷ 機能的和声法の観点から主要形式について学ぶ。	事前学習:配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習:授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第6回	和声分析A1 実作品(弦楽合奏)の和声分析を通してこれまでに学んだ知識の復習をし、応用を学ぶ。	事前学習:与えられた実作品の和声分析をすすめておく。 事後学習:理解が不十分だったと思われる部分について知識の確認を行う。
第7回	和声分析A2 実作品(弦楽合奏)の和声分析を通してこれまでに学んだ知識の復習をし、応用を学ぶ。	事前学習:与えられた実作品の和声分析をすすめておく。 事後学習:理解が不十分だったと思われる部分について知識の確認を行う。
第8回	和声分析A3 実作品(弦楽合奏)の和声分析を通してこれまでに学んだ知識の復習をし、応用を学ぶ。	事前学習:与えられた実作品の和声分析をすすめておく。 事後学習:理解が不十分だったと思われる部分について知識の確認を行う。
第9回	和声分析B1 実作品(ピアノソナタ)の和声分析を通してこれまでに学んだ知識の復習をし、応用を学ぶ。	事前学習:与えられた実作品の和声分析をすすめておく。 事後学習:理解が不十分だったと思われる部分について知識の確認を行う。
第10回	和声分析B2 実作品(ピアノソナタ)の和声分析を通してこれまでに学んだ知識の復習をし、応用を学ぶ。	事前学習:与えられた実作品の和声分析をすすめておく。 事後学習:理解が不十分だったと思われる部分について知識の確認を行う。
第11回	和声分析B3 実作品(ピアノソナタ)の和声分析を通してこれまでに学んだ知識の復習をし、応用を学ぶ。	事前学習:与えられた実作品の和声分析をすすめておく。 事後学習:理解が不十分だったと思われる部分について知識の確認を行う。
第12回	和声分析C1 実作品(声楽曲)の和声分析を通してこれまでに学んだ知識の復習をし、応用を学ぶ。	事前学習:与えられた実作品の和声分析をすすめておく。 事後学習:理解が不十分だったと思われる部分について知識の確認を行う。
第13回	和声分析C2 実作品(声楽曲)の和声分析を通してこれまでに学んだ知識の復習をし、応用を学ぶ。	事前学習:与えられた実作品の和声分析をすすめておく。 事後学習:理解が不十分だったと思われる部分について知識の確認を行う。
第14回	和声分析C3 実作品(声楽曲)の和声分析を通してこれまでに学んだ知識の復習をし、応用を学ぶ。	事前学習:与えられた実作品の和声分析をすすめておく。 事後学習:理解が不十分だったと思われる部分について知識の確認を行う。
第15回	まとめ 試験を実施し、これまでに学んできた内容の修得度を確認する。	事前学習:試験に備えてこれまでに学んだ内容を復習しておく。 事後学習:試験の結果を踏まえて、和声学で学んだ内容を復習する。

科目名(クラス)	対位法【Konzertfach(演奏専攻)】A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3		
担当教員	白石 茂浩	実務家教員	○	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>・ 和声学同様、対位法を学ぶ最終目的は自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになることであるが、対位法Aでは主に対位法に関する基礎知識を提示するとともに、これまでに学んできた知識の確認・復習(ことに和声的対位法では和声学の知識は不可欠なものになる)を行う。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>楽曲分析・解釈に必要な不可欠な対位法に関する知識の習得ができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>基本的に講義形式を採るが、和声学に比べ対位法では課題実習が増える。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>演奏専攻の学生は『和声学』から2年間、同一教員の授業を受けているので同じ心得をここで繰り返すことはしないが、対位法の授業では能動的に自分がより詳しく学びたいことについて質問し(授業では取り上げていない内容についても可)、積極的に課題に取り組むようにすること。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>試験60% 授業・学習への積極性40% (課題への取り組み、授業中の質問に対する回答、意見発表等から理解の度合いをはかり、これを評価対象とする)</p>										
教科書	なし(授業内容をまとめたプリントを配布する)			著者等			出版社			
教科書				著者等			出版社			
参考文献	対位法 - 分析と実習 -			著者等	ウォルター・ピストン	出版社	音楽之友社			
参考文献	図解 音楽事典□			著者等	ウルリヒ・ミヒェルス	出版社	白水社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス／これまでに学んで来た知識の確認と補遺 対位法授業についてガイダンスを行い、受講生がこれまでに和声学で学んできた知識の修得度を確認するとともに不十分な点を補う。	事前学習: これまでに学んだ内容について復習しておく。 事後学習: 理解が不十分だったと思われる部分の復習をする。
第2回	古典対位法Ⅰ(予備知識) 古典対位法を学ぶにあたっての予備知識を提示する。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解・修得が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第3回	古典対位法Ⅱ 二声、一音符対一音符対位法について学び、理解を深めるための課題実習を行う。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解・修得が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第4回	古典対位法Ⅲ 二声、一音符対二音符・三音符対位法について学び、理解を深めるための課題実習を行う。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解・修得が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第5回	古典対位法Ⅳ 二声、一音符対四音符対位法について学び、理解を深めるための課題実習を行う。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解・修得が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第6回	古典対位法Ⅴ 二声、一音符対シンコペーション対位法について学び、理解を深めるための課題実習を行う。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解・修得が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第7回	古典対位法Ⅵa 二声、一音符対自由対位法について学び、理解を深めるための課題実習を行う。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解・修得が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第8回	古典対位法Ⅵb 二声、一音符対自由対位法の課題実習を行う。	事前学習: 与えられた課題を解いておく。 事後学習: 授業内容を復習し理解・修得が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第9回	古典対位法Ⅶa 三声以上の対位法について学び、理解を深めるための課題実習を行う。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解・修得が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第10回	古典対位法Ⅶb 三声以上の対位法の課題実習を行う。	事前学習: 与えられた課題を解いておく。 事後学習: 和声学について理解・修得が不十分だったと思われる部分を復習し、質問をまとめておく。
第11回	和声的対位法Ⅰ 和声的対位法についての予備知識を学ぶ。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第12回	和声的対位法Ⅱ 和声的対位法について学ぶとともに、すでに学んだ古典対位法との比較を通して理解を深める。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第13回	和声的対位法Ⅲ 形式の面から和声的対位法への理解を深めるため、カノン・フーガについて学ぶ。	事前学習: 配布プリントの指定されたところを読んでおく。 事後学習: 授業内容を復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第14回	課題実習 和声的対位法で学んだ内容を確かなものとするための課題に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習しておく。
第15回	まとめ 試験を実施し、これまでに学んできた内容の修得度を確認する。	事前学習: 試験に備えてこれまでに学んだ内容を復習しておく。 事後学習: 試験の結果を踏まえ、対位法Aで学んだ内容を復習しておく。

科目名(クラス)	対位法【Konzertfach(演奏専攻)】B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3		
担当教員	白石 茂浩	実務家教員	○	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>対位法Bでは対位法Aで学んだ知識に基づいて様々な課題に取り組み、学んだ知識を確かなものにする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>対位法および既に学んだ機能的和声法の知識の統合ができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>基本的に講義形式ではあるが、対位法Bでは実作品の分析を通して習得が不十分であると思われる部分を補う形での講義</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>能動的に自分がより詳しく学びたいことについて質問し(授業では取り上げていない内容についても可)、積極的に課題に取り組むようにすること。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>試験60% 授業・学習への積極性40% (課題への取り組み、授業中の質問に対する回答、意見発表等から理解の度合いをはかり、これを評価対象とする)</p>										
教科書	なし(授業内容をまとめたプリントを配布する)			著者等		出版社				
教科書				著者等		出版社				
参考文献	対位法 - 分析と実習 -			著者等	ウォルター・ピスト	出版社	音楽之友社			
参考文献	図解 音楽事典			著者等	ウルリヒ・ミヒェルス	出版社	白水社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習 対位法Aおよび和声学で学んだ内容の確認をし、修得度の低い部分を明らかにしこれを補う。	事前学習: 対位法Aおよび和声学で学んだ内容について復習しておく。 事後学習: 対位法Aで学んだ内容について修得度の低かった部分を復習しておく。
第2回	構造分析A1 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からBachの三声作品の構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第3回	構造分析A2 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からBachの三声作品の構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第4回	構造分析A3 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からBachの三声作品の構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第5回	構造分析B1 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からBachの二声作品の構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第6回	構造分析B2 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からBachの二声作品の構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第7回	構造分析B3 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からBachの二声作品の構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第8回	構造分析C1 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からBachの単声作品の構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第9回	構造分析C2 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からBachの単声作品の構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第10回	構造分析C3 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からBachの単声作品の構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第11回	構造分析D1 和声学で学んだ知識の復習を機能的和声法が形式と関わる部分に重点を置いて行い、総合的な構造分析への応用を学ぶ。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第12回	構造分析D2 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からの構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第13回	構造分析D3 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からの構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第14回	構造分析D4 これまでに学んできたことを基に、和声・対位法の面からの構造分析に取り組む。	事前学習: 与えられた課題をやっておく。 事後学習: 修得が不十分だったと思われる部分について復習し理解が不十分だったと思われる部分に関する質問をまとめておく。
第15回	まとめ 試験を実施し、これまでに学んできた内容の修得度を確認する。	事前学習: 試験に備えてこれまでに学んだ内容を復習しておく。 事後学習: 試験の結果を踏まえ、対位法で学んだ内容を復習する。

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む)A-a		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	田村 治美	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論B」よりいずれか必修。教職実践専攻は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>作品を演奏するには、その構造や形式の基本原理を深く理解することが重要です。ここでは、様々な形式について実際の作品を分析します。西洋古典音楽の基本的な楽式構造を学ぶだけでなく、その形式が時代とともに変遷していく様相を把握します。さらに、作曲家による特徴を抽出し、形式の多様性と柔軟性を学びます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>作品の基本原理を理解できる。また、形式が時代と共に変化すること、作曲家によって多様性があることを理解できる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式。発表形式</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>様々な楽曲に触れて分析します。自分でも授業で学んだ形式を様々な曲を聴きながら、確かめるように心がけてください。私語は注意します。発表を担当したら、休まずに責任をもって、問題意識を明確にして調査をし、発表をしてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>発表とレポートで評価します。各50%です。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献	調性音楽のシェンカー分析	著者等	キャドウオーラダー著/角倉一朗訳	出版社	音楽之友社				
参考文献	和声法	著者等	ピストン他著/角倉一朗訳	出版社	音楽之友社				
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土)</p> <p>担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分)</p> <p>担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	概論(形式、ジャンル、様式、構造の概念)	予習:何気なく使っているこの4つの音楽的概念の相互関係を改めて考える。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第2回	音楽の最小単位、動機、楽節について、概念と構造を学びます。	予習:何気なく使っているこの2つの音楽的概念を改めて考える。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第3回	2部形式、複合2部形式 2部形式の原理を学びます。	予習:2部形式について、簡単に調べてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第4回	3部形式、複合3部形式	予習:3部形式について、簡単に調べてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第5回	舞曲(バロックまで)ルネサンスからバロックまでの舞曲の形式と歴史を学びます。	予習:発表者は十分に調べて準備する。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第6回	舞曲(18世紀以降) 18世紀以降の舞曲と組曲を分析します。	予習:発表者は十分に調べて準備する。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第7回	ロンド形式 ロンド形式の歴史と構造を学びます。	予習:ロンド形式について、簡単に調べてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第8回	カノンの形式	予習:カノンとは何か、簡単に調べてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第9回	カデンツと終止形 カデンツと終止形の基本原理を学びます。	予習:何気なく使っているこの12つの音楽的概念の相互関係を改めて考える。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第10回	ソナタ形式(バロックまで) 初期のソナタ形式を理解します。	予習:ソナタとは何か、簡単に調べてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第11回	ソナタ形式(古典派からベートーヴェンまで) 古典派のソナタ形式の原理を把握し、分析ができるようにします。	予習:様々なソナタを聴いてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第12回	ソナタ形式(19世紀以降) 19世紀以降の様々なソナタの分析ができるようにします。	予習:ロマン派のソナタを聴いてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第13回	変奏技法 様々な変奏技法を把握します。	予習:変奏技法とは何か考えてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第14回	変奏曲 ベートーヴェンの変奏曲の分析をとおして、ベートーヴェンが達成した形式を理解します。	予習:ベートーヴェンの変奏曲を聴いてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。
第15回	まとめ 前期に学んだ器楽形式の基本原理をまとめ、整理します	予習:前期で学んだ楽曲形式の名前を復習してくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイルする。

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む)A-b		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	伊藤 制子	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論B」よりいずれか必修。教職実践専攻は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽の基本的形式やジャンルの特徴などを時代ごとに学びます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>楽曲の特徴や形式を理解し、各自の演奏、研究に役立てることを目標にしています。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式ですが、ディスカッション、小テストも行う予定です。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>講義中の携帯電話、端末の使用は厳禁です。違反した場合は失格になる場合もあります。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>講義中の取り組みの積極性40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。</p>									
教科書	なし			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	講義中に紹介します			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業の概要説明と習熟度調査	予習:シラバスの確認 復習:テーマについて調べる
第2回	楽式とは	予習:シラバスの確認 復習:時代様式と個人様式を理解する
第3回	二部形式、三部形式	予習:三部形式について調べる 復習:リート形式を確認
第4回	バロック時代とその形式	予習:バッハについて調べる 復習:バロック様式の確認
第5回	バロックオペラ技法	予習:モンテヴェルディについて調べる 復習:バロックオペラの様式確認
第6回	バロック組曲とは1	予習:組曲について調べる 復習:バッハの組曲について確認
第7回	バロック組曲とは2	予習:バッハのオーケストラ作品を調べる 復習:管弦楽組曲について確認
第8回	バロック時代の協奏曲の技法	予習:ヴィヴァルディについて調べる 復習:アルビノーニなどの確認
第9回	古典派の作曲技法	予習:古典派時代の概要を調べる 復習:バロック時代との違いを確認
第10回	ソナタ形式とは1	予習:古典派作曲家について調べておく 復習:ソナタ形式の確認
第11回	ソナタ形式とは2	予習:古典派作曲家について調べておく 復習:ソナタ形式の確認
第12回	ソナタ形式とは3	予習:古典派作曲家について調べておく 復習:ソナタ形式の確認
第13回	古典派協奏曲	予習:バロック協奏曲の見直し 復習:協奏曲の特徴の確認
第14回	前期の重要事項のまとめ	予習:前期に聞いて音楽を再度確認する 復習:小テストに備える
第15回	まとめと小テスト	予習:前期の重要事項を覚えておく 復習:小テストの見直し

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む)B-a		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	田村 治美	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論B」よりいずれか必修。教職実践専攻は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>前期で学んだ形式分析をさらに進めて、作品内部の和声と旋律の関係性を捉え、歌曲、宗教曲の表題的内容にも着目した分析を行う。また、20世紀の日本と西洋の音楽、現代の映像と音楽の結びつきを学び、様々な視点からの分析方法を学ぶ。さらに、分析を通して楽曲の構造を把握したうえで、ラヴェルによる展覧会の絵の編曲技法や、バッハを中心とした非クラシック音楽への編曲を分析する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>前期で学んだ古典的な楽曲形式の分析方法はもとより、さらにロマン派から20世紀に至る時代的变化をたどり、形式の拡張と多様性について考察を深め、応用力を養います。また、特に作品の内部における和声と旋律の関係を、声楽曲や宗教曲の形式で深めます。また、紙の上での分析にとどまらず、それをどのように演奏に生かすことができるのか、考えます。さらに、異なる楽器編成への編曲を学ぶだけでなく、クラシックの作品をジャズに編曲していく技法を学び、自ら編曲ができることを目標とします。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義が中心ですが、分析結果を皆で考察し、討論の時間を設けます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>分析は、その目的によって、様々な方法があります。分析目的を共有しながら、分析結果から何を読み取るのかを皆で考えるために積極的な姿勢と集中力が期待されます。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性50%、レポート50%とする。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献	随時、資料を配布します		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	概論:音楽形式の原理について前期の復習と今学期の目標などを伝えます。	予習:前期の内容を復習し、シラバスを見て、問題意識を持つ。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。
第2回	非和声音と旋律学 様々な非和声音について、作品から学びます。	予習:非和声音と和声音とは何かを調べてくる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。非和声音と和声音の区別を楽曲の中で行ってみる
第3回	旋律と和声 旋律と和声のリズム、その関係性について楽曲から考察します。	予習:旋律と和声の関係を自分の課題曲で意識してみる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。旋律とリズムの関係を楽曲の中で見る。
第4回	有節歌曲 ゲーテの作品を例に、有節歌曲の分析を行ない、作曲家による様式の違いを考察します。	予習:ゲーテの歌曲をいくつか聴いてみる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。
第5回	通作歌曲 通作歌曲の分析から、有節歌曲との違いを明らかにします。	予習:通作歌曲とは何か調べる。 復習:授業で示した曲を全部聴いてみる。
第6回	キリスト教暦と宗教曲 キリスト教暦を学び、宗教曲との関係を理解します。	予習:宗教曲の種類について調べてくる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。宗教曲を聴いてみる。
第7回	印象派の音楽 ドビュッシー、ラヴェルなどのフランス近代の作品を分析します。	予習:印象派とは何かを調べてくる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。印象派の作品を聴いてみる。
第8回	映像と音楽① 音楽と映画の関わりについて、様々な例を示しながら相乗的な効果について考察します。	予習:印象的な映画音楽を挙げてくる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。
第9回	20世紀の日本の作曲家 武満徹の作品を分析します。	予習:武満徹の作品を聴いてみる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。
第10回	ピアノ曲から管弦楽への編曲:展覧会の絵	予習:ムソルグスキーに「について調べる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。全曲を聴いてみる。
第11回	2重対位法の分析 バッハの平均律集より	予習:対位法とは何かを調べてくる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。
第12回	編曲技法① バッハの作品の、ケンプやブゾーニ、、ヘスらの編曲を分析し、編曲技法を学びます。	予習:バッハのオルガン曲を聴いてみる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。
第13回	編曲技法② バッハの作品のジャズへの編曲を例に、編曲技法を学びます。	予習:バッハが何故ジャズに多く編曲されるのか、考えてみる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。紹介した作品を聴いてみる。
第14回	ランダムな楽曲分析	予習:分析しにくい作品を挙げる。 復習:授業内容を整理し、ファイルを作る。自分の「課題曲」を分析してみる。
第15回	まとめ	予習:授業で学んだことを振り返ってみる。 復習:授業内で行った視点から楽曲を分析してレポート作成をする。

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む)B-b		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	伊藤 制子	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論B」よりいずれか必修。教職実践専攻は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
音楽の形式や作曲語法を時代ごとに解説します。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
楽曲の特徴を理解し、自身の演奏や研究に役立てることを目標にしています。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式ですが、ディスカッションや小テストも行う予定です。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
講義中の携帯電話、端末の使用は厳禁です。違反した場合は失格になることもありますので、注意しましょう。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
講義中の取り組みの積極性40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。									
教科書	なし			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	講義中に紹介します			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の基本事項の確認	予習:バロック時代の重要事項の確認 復習:バロック時代音楽史の再読
第2回	変奏曲とその展開1	予習:古典派音楽史の確認 復習:モーツァルトの特長を理解する
第3回	変奏曲とその展開2	予習:古典派音楽史の確認 復習:ベートーヴェンの特長を理解する
第4回	ロマン派の作曲技法	予習:ロマン音楽史概観 復習:重要事項再確認
第5回	ロマン派交響曲	予習:ロマン音楽史概観 復習:重要事項再確認
第6回	編曲とはなにか	予習:編曲の歴史を調べる 復習:重要事項の確認
第7回	バッハと編曲の技法	予習:編曲の歴史を調べる 復習:重要事項の確認
第8回	リストと編曲技法	予習:リストについて調べる 復習:重要事項の確認
第9回	オペラと編曲	予習:オペラの技法を調べる 復習:重要用語の確認
第10回	ラヴェル、ビゼーと編曲	予習:ラヴェル、ビゼーの作曲技法を調べる 復習:重要用語の確認
第11回	20世紀の新しい手法;ミュージック・コンクレート	予習:電子音楽について調べる 復習:アンリ作品の再確認
第12回	20世紀の新しい手法:音楽劇	予習:アペルギスについて調べる 復習:音楽劇の歴史の再確認
第13回	20世紀の新しい手法;ミニマリズム	予習:20世紀音楽史の概観 復習:ライヒの音楽の再確認
第14回	後期の重要事項の確認	予習:重要項目の確認 復習:全体の見直し
第15回	まとめと小テスト	予習:重要項目の確認 復習:全体の見直し

科目名(クラス)	ポピュラーミュージック (作曲法・編曲法を含む)A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	荻久保 和明	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「楽式論A・B」および「ポピュラーミュージックB」よりいずれか必修。教職実践専攻は履修不可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
コードネームとリズムパターン、そして楽式論的構成による様々なポップミュージックの理解と実習									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
課題となる楽曲(様々なジャンルの)をコードとリズムの両面から分析し、合わせて実践することができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
レクチャーと実習(ピアノや楽器で演奏し、ひたすら反復練習してパターンを覚える)									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
少しでもわからないと思ったらどんどん質問すること。そして、チャレンジ！！積極的に実演しよう。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
即興演奏実技試験									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	コードネームの理解と実習 I	特になし
第2回	コードネームの理解と実習 II	事前プリントを良く読んでおくこと
第3回	7thコードの理解と実習 I	事前プリントを良く読んでおくこと
第4回	7thコードの理解と実習 II	事前プリントを良く読んでおくこと
第5回	9thコードの理解と実習	事前プリントを良く読んでおくこと
第6回	ディミニッシュコードの理解と実習	事前プリントを良く読んでおくこと
第7回	マイナーセブント 5コードの理解と実習	事前プリントを良く読んでおくこと
第8回	オーギュメントコードの理解と実習	事前プリントを良く読んでおくこと
第9回	分数コードの理解と実習 I	事前プリントを良く読んでおくこと
第10回	分数コードの理解と実習 II	事前プリントを良く読んでおくこと
第11回	リズムパターンの理解と実習	事前プリントを良く読んでおくこと
第12回	ジャズのイディオム	事前プリントを良く読んでおくこと
第13回	ラテン音楽のイディオム	事前プリントを良く読んでおくこと
第14回	ポップス・ロック・フュージョンのイディオム	事前プリントを良く読んでおくこと
第15回	まとめ	即興演奏実技試験

科目名(クラス)	ポピュラーミュージック (作曲法・編曲法を含む)B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	荻久保 和明	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「楽式論A・B」および「ポピュラーミュージックB」よりいずれか必修。教職実践専攻は履修不可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>循環コードやカウンターメロディの実習、及びヴォイスिंगの仕方、リズムシーケンスの活用法を学ぶ。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>アレンジの実際に慣れ、教育現場ですぐに役立つ内容を理解し、実践することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>レクチャーと実習</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>少しでもわからないと思ったらどんどん質問すること。そして、チャレンジ！！積極的に実演しよう。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>アレンジスコア提出</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	カウンターメロディの作り方Ⅰ	特になし
第2回	カウンターメロディの作り方Ⅱ	事前プリントを良く読んでおくこと
第3回	カウンターメロディの作り方Ⅲ	事前プリントを良く読んでおくこと
第4回	カウンターメロディの作り方Ⅳ	事前プリントを良く読んでおくこと
第5回	循環コードで作曲するⅠ	事前プリントを良く読んでおくこと
第6回	循環コードで作曲するⅡ	事前プリントを良く読んでおくこと
第7回	循環コードで作曲するⅢ	事前プリントを良く読んでおくこと
第8回	リズムシーケンスの活用法Ⅰ	事前プリントを良く読んでおくこと
第9回	リズムシーケンスの活用法Ⅱ	事前プリントを良く読んでおくこと
第10回	ヴォイスングの仕方(合唱)	事前プリントを良く読んでおくこと
第11回	ヴォイスングの仕方(器楽)	事前プリントを良く読んでおくこと
第12回	ヴォイスングの仕方(器楽)	事前プリントを良く読んでおくこと
第13回	アレンジ実習	事前プリントを良く読んでおくこと
第14回	アレンジ実習	事前プリントを良く読んでおくこと
第15回	まとめ	アレンジスコア提出

科目名(クラス)	指揮法Ⅰa・b			開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	粕谷 宏美	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽的特徴をもつ作品にふさわしい指揮のあり方について研究、演習をします。 ・教育現場で役立つための指揮の技法(叩き・平均運動・しゃくい)を身に付けます。 ・指揮法の基礎から応用まで、共通教材や合唱曲などを取り上げて演習します。 ・指揮の技法のとどまらず、受講者全員を合唱団に想定して指揮者としての実践的な演習を行います。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力 ・判断力 ・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲 ・関心 ・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・叩き、平均運動、しゃくいの3つの技法を適切に身に付けている。 ・2拍子、3拍子、4拍子、6拍子を美しく振り分けることができる。 ・身に付けた技法を活用してコンコーネや教材、合唱曲などを指揮することができる。 									
【授業の「方法」と「形式】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・演習形式が中心となりますが、講義・説明、演習が一体となって授業を展開します。 									
【履修時の「留意点」と「心得】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ技法を自分のものとするために、予習・復習をしっかりと行ってください。(毎回、次回の課題を提示します。) ・毎回新しい知識・技法を身に付けますので、欠席をしないよう留意してください。 ・受講生の前で指揮をすることが多くありますので準備、練習をしっかりと行ってください。 									
【成績評価の「方法」と「基準】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で一人ずつ指揮をして評価(30%) ・最終回に行う課題試験(30%) ・授業への取り組みの姿勢(参加度)、積極性(40%) 									
教科書	教員が作成した資料				著者等	粕谷宏美		出版社	
教科書	中学校音楽Ⅰ				著者等	小原光一 他		出版社	教育芸術者
参考文献	指揮法完本(授業で指示します)				著者等	高階正光		出版社	音楽之友社
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	指揮の目的、脱力、姿勢について	復習: 指揮法の用語について理解しておく、 脱力の練習をしておく。
第2回	指揮法用語の理解、脱力の確認、叩き(縦の1拍子、2拍子)	予習: 用語を覚えて脱力の練習をしておく 復習: 脱力の練習をしておく
第3回	各拍子の図形、予備運動、点、姿勢について	予習: 各拍子の図形をイメージしておく 復習: 授業で身に付けた図形を確認しておく
第4回	叩きの2拍子、3拍子、4拍子(まとめの中間テスト)	予習: 脱力をして、各拍子を振れるようにしておく 復習: 叩きの運動、図形を確実に身に付けておく
第5回	平均運動の2拍子、3拍子、4拍子について	予習: 平均運動について理解しておく 復習: 叩きと平均運動の技法を練習しておく
第6回	平均運動としゃくいの相違点(特徴)について	予習: しゃくいの技法を理解しておく 復習: しゃくいの技法を確実に身に付けておく
第7回	教材を指揮する	予習: 指定された教材について研究しておく 復習: 教材を生かす指揮法を研究しておく
第8回	フェルマータの処理、引っ掛け、分割技法について	予習: フェルマータの処理について研究しておく 復習: 学んだ技法を確実に身に付けておく
第9回	左手の役割、表情について	予習: 左手の役割について研究しておく 復習: 学んだ技法を確実に身に付けておく
第10回	3拍子の一つ振り、8分の6拍子について	予習: 3拍子の一つ振りについて理解しておく 復習: 学んだ技法を確実に身に付けておく
第11回	教材を指揮する	予習: 指定された教材について研究しておく 復習: 教材を生かす指揮法を身に付けておく
第12回	教材を指揮する	予習: 指定された作品について研究しておく 復習: 作品を生かす指揮法を身に付けておく
第13回	教材を指揮する	予習: 指定された教材について研究しておく 復習: 作品を生かす指揮法を身に付けておく
第14回	教材を指揮する	予習: 指定された作品について研究しておく 復習: 作品を生かす指揮法を身に付けておく
第15回	まとめ(指定された曲を指揮する)	予習: 修得したすべての技法について確認 しておく

科目名(クラス)	音楽文化論A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>フランス近代の音楽を主な題材とし、創作周辺の諸事象(自然、文化、科学、文学等)との関係を深く読み解きます。授業でともに考察することにより、広い視野をもって音楽を研究する楽しみを知っていただきたいと思います。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>広い視野をもって音楽を研究することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義、ディスカッション</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>学生自身が「考える」ことに重点を置いた授業です。ディスカッションに備えて、普段からよく考え、自分の考えを持つようにしてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど)50%。 ・筆記試験50%</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(13時00分～14時30分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽文化論の視点	予習:シラバスに目を通しておく。 復習:次回のテーマについて調べる。
第2回	サン=サーンスと自然科学①	予習:サン=サーンスについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第3回	サン=サーンスと自然科学②	予習:サン=サーンスについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第4回	サン=サーンスと自然科学③	予習:サン=サーンスについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第5回	サン=サーンスと異国④	予習:サン=サーンスについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第6回	フォーレとサロンの文化①	予習:フォーレについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第7回	フォーレとサロンの文化②	予習:フォーレについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第8回	フォーレとサロンの文化③	予習:フォーレについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第9回	フォーレとサロンの文化④	予習:フォーレについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第10回	オネゲルと自然	予習:オネゲルについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第11回	オネゲルと鉄道	予習:オネゲルについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第12回	作曲家たちの愛読書①	予習:自分の愛読書は何か考えてくる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第13回	作曲家たちの愛読書②	予習:自分の愛読書は何か考えてくる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第14回	作曲家たちの愛読書③	予習:自分の愛読書は何か考えてくる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第15回	まとめ	予習:音楽以外の視点を整理する。 復習:広い視野から他の作品も研究する。

科目名(クラス)	音楽文化論B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>フランス近代の音楽を主な題材とし、創作周辺の諸事象(自然、文化、科学、文学等)との関係を深く読み解きます。授業でともに考察することにより、広い視野をもって音楽を研究する楽しみを知っていただきたいと思います。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>広い視野をもって音楽を研究することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義、ディスカッション</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>学生自身が「考える」ことに重点を置いた授業です。ディスカッションに備えて、普段からよく考え、自分の考えを持つようにしてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど)50%。 ・筆記試験50%</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(13時00分～14時30分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽文化論の視点	予習:シラバスに目を通しておく。 復習:次回のテーマについて調べる。
第2回	ドビュッシー、ラヴェルと異国①	予習:ドビュッシー、ラヴェルについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第3回	ドビュッシー、ラヴェルと異国②	予習:ドビュッシー、ラヴェルについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第4回	ドビュッシー、ラヴェルと異国③	予習:ドビュッシー、ラヴェルについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第5回	ラヴェルの世界観①	予習:ラヴェルについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第6回	ラヴェルの世界観②	予習:ラヴェルについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第7回	ラヴェルの世界観③	予習:ラヴェルについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第8回	フォーレの宗教観①	予習:フォーレについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第9回	フォーレの宗教観②	予習:フォーレについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第10回	フォーレの宗教観③	予習:フォーレについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第11回	作曲家たちの愛読書①	予習:自分の愛読書は何か考えてくる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第12回	作曲家たちの愛読書②	予習:自分の愛読書は何か考えてくる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第13回	作曲家たちの愛読書③	予習:自分の愛読書は何か考えてくる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第14回	作曲家たちの愛読書④	予習:自分の愛読書は何か考えてくる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第15回	まとめ	予習:音楽以外の視点を整理する。 復習:広い視野から他の作品も研究する。

科目名(クラス)	民族音楽学A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	鈴木 良枝	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者はA・Bいずれか必修。 教職実践専攻はA・Bともに必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・世界には様々な音楽があり、その価値観や特徴は実に多様です。音楽が生み出された人々の生活や社会、宗教などを通して文化の多様性について学ぶことは、音楽の本質を理解することにつながります。</p> <p>・この授業では、様々な民族の音楽の特徴やその文化背景を学ぶことによって、広い視野で音楽を探求する力を身につけます。</p> <p>・特に民族音楽学Aでは、地域ごとに音楽や楽器の特徴について言及します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>自ら興味のある音楽を調べ紹介できる能力、音楽家として知っておくべき知識を身につけることを目的とします。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・講義が中心となり、小テストも行います。 ・バリの音楽であるケチャのリズムを体験してもらいます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・授業時に行う小テストや、授業の感想等を記入する用紙で出席を確認します。 ・授業ごとにプリントを配布しますが、音楽の特色などをメモするノートを用意することが望ましい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業への参加度(小テストや感想などの取り組み)50% ・筆記試験50%</p>									
教科書	授業のための日本の音楽・世界の音楽 世界の音楽編			著者等	島崎篤子、加藤富美子		出版社	音楽之友社	
教科書				著者等			出版社		
参考文献	事典世界音楽の本			著者等	徳丸吉彦他編		出版社	岩波書店	
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時 30分 ~ 14 時 10分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション～民族音楽学について～	予習: シラバスを読み、授業のテーマを押さえる。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第2回	民族音楽学概論(1) ～世界各地の伝統音楽～	予習: 興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第3回	民族音楽学概論(2) ～伝統音楽とポピュラー音楽～	予習: 興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習: 諸民族の音楽が用いられているポピュラー音楽を探す。
第4回	・民族音楽学概論(3)～民族音楽学の研究の歴史～ ・東アジアの音楽(1)	予習: 興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習: 民族音楽学の研究方法についての概説書を読み理解を深める。
第5回	・東アジアの音楽(2) ・西アジア・中央アジアの音楽(1)	予習: 東アジア地域の音楽を視聴する。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第6回	・西アジア・中央アジアの音楽(2) ・南アジアの音楽(1)	予習: 西アジア、中央アジア地域の音楽を視聴する。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第7回	・南アジアの音楽(2) ・東南アジアの音楽(1)	予習: 南アジア地域の音楽を視聴する。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第8回	・東南アジアの音楽(2) ・ヨーロッパの音楽(1)	予習: ヨーロッパ地域の音楽を視聴する。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第9回	・ヨーロッパの音楽(2)	予習: ヨーロッパ地域の音楽を視聴する。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第10回	・アメリカの音楽(1)	予習: アメリカ地域の音楽を視聴する。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第11回	・アメリカの音楽(2) ・アフリカの音楽(1)	予習: アフリカ地域の音楽を視聴する。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第12回	・アフリカの音楽(2) ・音楽教材の紹介(1)	予習: 諸民族の音楽のCDや文献を探す。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第13回	・音楽教材の紹介(2) ・バリのガムラン音楽の実技(ケチャ)(1)	予習: 諸民族の音楽のCDや文献を探す。 復習: 授業で取り扱った内容に基づき、再度音源や資料を探す。
第14回	・バリのガムラン音楽の実技(ケチャ)(2)	予習: ケチャの演奏を視聴する。 復習: 授業で取り扱った地域の音楽文化の内容をノートにまとめる。
第15回	総括(1)	予習: 各回の内容を振りかえる。 復習: 授業の内容をまとめ、テストに備える。

科目名(クラス)	民族音楽学B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	鈴木 良枝	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者はA・Bいずれか必修。 教職実践専攻はA・Bともに必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・世界には様々な音楽があり、その価値観や特徴は実に多様です。音楽が生み出された人々の生活や社会、宗教などを通して文化の多様性について学ぶことは、音楽の本質を理解することにつながります。</p> <p>・この授業では、様々な民族の音楽の特徴やその文化背景を学ぶことによって、広い視野で音楽を探求する力を身につけます。</p> <p>・特に民族音楽学Bでは、諸民族の音楽を考える上で重要なキーワードを各回ごとに設定し、世界各地の音楽の特色について学ぶことを目的とします。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>自ら興味のある音楽を調べ紹介できる能力、音楽家として知っておくべき知識を身につけることを目的とします。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・講義が中心となり、小テストも行います。 ・バリの音楽であるケチャのリズムを体験してもらいます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・授業時に行う小テストや、授業の感想等を記入する用紙で、出席を確認します。 ・授業ごとにプリントを配布しますが、音楽の特色などをメモするノートを用意することが望ましい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業への参加度(小テストや感想などの取り組み)50% ・筆記試験50%</p>									
教科書	授業のための日本の音楽・世界の音楽	世界の音楽編	著者等	島崎篤子、加藤富美子	出版社	音楽之友社			
教科書			著者等		出版社				
参考文献	事典世界音楽の本		著者等	徳丸吉彦他編	出版社	岩波書店			
参考文献	音楽理論の基礎		著者等	笠原潔、徳丸吉彦	出版社	放送大学教材			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13 時 00 分 ~ 14時 10 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション～民族音楽学について～	予習: シラバスを読み、授業のテーマを押さえる。 復習: 民族音楽学の研究方法についての概説書を読み理解を深める。
第2回	民族音楽学概論(1) 楽器研究①	予習: 興味のある諸民族の楽器について調べる。 復習: 民族音楽学の研究方法についての概説書を読み理解を深める。
第3回	民族音楽学概論(2) 楽器研究② 音律①	予習: 興味のある諸民族の楽器について調べる。 復習: 民族音楽学の楽器研究について概説書を読み理解を深める。
第4回	民族音楽学概論(3) 音律②	予習: 民族音楽学の音階についての概説書を読み理解を深める。 復習: 調律について調べる。
第5回	諸民族の音階	予習: 日本、インドネシア、インドの音階について調べる。 復習: 授業で紹介した音階が用いられている音楽を探す。
第6回	諸民族のリズム①	予習: インドネシア、インドのリズムについて調べる。 復習: 授業で紹介したリズムが用いられている音楽を探す。
第7回	諸民族のリズム②	予習: 中南米のリズムの音楽を視聴する。 復習: 授業で紹介したリズムが用いられている音楽を探す。
第8回	諸民族の楽譜	予習: 五線譜以外の楽譜を探す。 復習: 楽譜と音楽の特徴を考え、授業で紹介した音楽を聴き直す。
第9回	諸民族の音楽とポピュラー音楽①	予習: 興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習: 諸民族の音楽が用いられているポピュラー音楽を探す。
第10回	諸民族の音楽とポピュラー音楽②	予習: 興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習: 諸民族の音楽が用いられているポピュラー音楽を探す。
第11回	諸民族の音楽の著作権について	予習: リズムや旋律が似ている音楽を複数探す。 復習: 諸民族の音楽が用いられているポピュラー音楽を探す。
第12回	国策と音楽	予習: 唱歌の歴史について調べる。 復習: 世界各国の国歌を聴く。
第13回	・移民と音楽 ・バリのガムラン音楽の実技(ケチャ) (1)	予習: アメリカの音楽と移民の関係について考える。 復習: 授業で紹介した音楽を聴く。
第14回	・音楽教材の紹介 ・バリのガムラン音楽の実技(ケチャ) (2)	予習: 諸民族の音楽のCDや文献を探す。 復習: 授業で取り扱った地域の音楽文化の内容をノートにまとめる。
第15回	総括	予習: 各回の内容を振りかえる。 復習: 授業で取り扱った地域の音楽文化の内容をノートにまとめる。

科目名(クラス)	日本音楽史概説A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	黒川 真理恵	実務家教員	履修対象・条件		教職履修者と音楽療法専攻はBとのいずれか必修。 教職実践専攻は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・日本では、古代から音楽が演奏され、長い歴史のなかで近隣諸国と関わりを持ちながら発展してきました。</p> <p>・この授業では、伝統音楽の種目ごとに、歴史と理論を学習し、基本的な知識を身につけます。前期では、古代から中世に成立した種目として、雅楽、声明、琵琶、能・狂言を取り上げます。</p> <p>・伝統音楽を教習する際に用いられる唱歌(しょうが)の実践を通して、理論と実践の両面から理解を深めます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・日本の伝統音楽の歴史を理解し、代表的な曲の音楽的特徴を説明することができる。</p> <p>・日本語の特徴と音楽との関りについて理解し、受講生各自の音楽表現に活用することができる。</p> <p>・この授業で得た知識や経験を、教職実践における日本の伝統音楽の指導に活用することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・講義を基本とします。和楽器を紹介したり、映像を用いたりすることで、日本の伝統音楽に親しめるようにします。</p> <p>・唱歌(しょうが)を歌って合わせることで、授業への参加意識を高め、アクティブラーニングを促します。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・授業ではなるべく多くの映像や楽器を用いて説明しますが、実際に演奏会や劇場へ足を運び、パフォーマンスを体感することが望ましいです。希望者には7月に国立劇場の歌舞伎鑑賞教室へ案内します。</p> <p>・より深く理解するために、通年で履修することが望ましいです。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>定期試験(70%)、授業内の小テスト(10%)、授業内の課題プリント(20%)</p>									
教科書	カラー図解 和楽器の世界			著者等	西川浩平	出版社	河出書房新社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	日本音楽基本用語辞典			著者等	音楽之友社(編)	出版社	音楽之友社		
参考文献	ものがたり日本音楽史			著者等	徳丸吉彦	出版社	岩波ジュニア新書		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12時10分 ~ 12時40分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	わらべうたにみられる音楽的特徴	予習: 知っているわらべうたを書き出す。5分程度。 復習: 核音や二音音階、三音音階について理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第2回	音階(テトラコルド理論)	予習: 前回のプリントを読む。5分程度。 復習: 民謡とわらべうたの課題プリントをする。5分程度。
第3回	音高理論(三分損益)	予習: 前回のプリントを読む。5分程度。 復習: 東西の音高理論について調べる。20分程度。
第4回	雅楽(1)歴史、曲種、楽器、伝承制度	予習: 教科書p.8~9を読む。5分程度。 復習: 雅楽の伝承制度についてのプリントを読み、感想を書く。10分程度。
第5回	雅楽(2)管絃平調《越天楽》	予習: 教科書p.74~83を読む。10分程度。 復習: 《越天楽》の唱歌(しょうが)を練習する。5分程度。
第6回	雅楽(3)舞楽《陵王》	予習: 教科書p.50~55を読む。10分程度。 復習: 《陵王》の音楽的特徴を理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第7回	声明(1)歴史、曲種、楽器、記譜法	予習: 仏教の歴史について調べる。5分程度。 復習: 声明の記譜法を理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第8回	声明(2)《涅槃講式》	予習: 前回のプリントを読む。5分程度。 復習: 《涅槃講式》の音楽的特徴を理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第9回	小テスト 琵琶(1)平家琵琶の歴史、奏法、語り	予習: 教科書p.42~43を読む。5分程度。 復習: 平家琵琶の歴史について、ノートをまとめる。5分程度。
第10回	琵琶(2)平家琵琶《祇園精舎》《那須与一》	予習: 『平家物語』について調べる。5分程度。 復習: 平家琵琶の奏法や語りの特徴について、ノートをまとめる。5分程度。
第11回	琵琶(3)薩摩琵琶・筑前琵琶	予習: 教科書p.44~49を読む。10分程度。 復習: 平家琵琶と薩摩琵琶、筑前琵琶のそれぞれの特徴をノートをまとめる。5分程度。
第12回	能(1)歴史、舞台構造、役籍、謡、囃子	予習: 教科書p.10~12、60~67を読む。10分程度。 復習: 謡の発声とリズムについて理解し、練習する。5分程度。
第13回	能(2)《船弁慶》	予習: 教科書p.88~101を読む。能《船弁慶》のあらすじを調べる。10分程度。 復習: 能《船弁慶》の役籍、謡、囃子について理解し、ノートをまとめる。10分程度。
第14回	狂言《蝸牛》	予習: 教科書p.13を読む。狂言《蝸牛》のあらすじを調べる。10分程度。 復習: 狂言の特徴を理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第15回	まとめ	予習: これまでに習った単元を振り返る。30分程度。 復習: 授業で学んだことを活用し、日本伝統音楽への理解を深め、幅広い視野で音楽を探求する。30分程度。

科目名(クラス)	日本音楽史概説B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	黒川 真理恵	実務家教員	履修対象・条件		教職履修者と音楽療法専攻はAとのいずれか必修。 教職実践専攻は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・日本では、古代から音楽が演奏され、長い歴史のなかで近隣諸国と関わりを持ちながら発展してきました。</p> <p>・この授業では、伝統音楽の種目ごとに、歴史と理論を学習し、基本的な知識を身につけます。後期では、近世から近代に成立した種目として、地歌箏曲、歌舞伎、文楽、尺八、近代以降の音楽を取り上げます。</p> <p>・伝統音楽を教習する際に用いられる唱歌(しょうが)の実践を通して、理論と実践の両面から理解を深めます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・日本の伝統音楽の歴史を理解し、代表的な曲の音楽的特徴を説明することができる。</p> <p>・和楽器の楽器構造や材質、製作工程について説明することができる。</p> <p>・日本語の特徴と音楽との関りについて理解し、受講生各自の音楽表現に活用することができる。</p> <p>・この授業で得た知識や経験を、教職実践における日本の伝統音楽の指導に活用することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・講義を基本とします。和楽器を紹介したり、映像を用いたりすることで、日本の伝統音楽に親しめるようにします。</p> <p>・唱歌(しょうが)を歌って合わせることで、授業への参加意識を高め、アクティブラーニングを促します。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・授業ではなるべく多くの映像や楽器を用いて説明しますが、実際に演奏会や劇場へ足を運び、パフォーマンスを体感することが望ましいです。地域の芸能として川越まつりで祭囃子を鑑賞するのも良いでしょう。</p> <p>・よりよく理解するために、前期から通年の履修が望ましいです。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>定期試験(60%)、授業内の小テスト(10%)、授業内のレポート(30%)</p>									
教科書	カラー図解 和楽器の世界			著者等	西川浩平	出版社	河出書房新社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	日本音楽基本用語辞典			著者等	音楽之友社(編)	出版社	音楽之友社		
参考文献	ものがたり日本音楽史			著者等	徳丸吉彦	出版社	岩波ジュニア新書		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12時10分 ~ 12時40分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	三味線音楽	予習:教科書p.22～31を読む。10分程度。 復習:三味線の楽器構造や唱歌(しょうが)について理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第2回	地歌箏曲(1)地歌	予習:教科書p.32～39を読む。10分程度。 復習:地歌の歴史や音楽的特徴を理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第3回	地歌箏曲(2)箏曲《六段の調》	予習:前回のプリントを読む。5分程度。 復習:箏曲の歴史や音楽的特徴を理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第4回	歌舞伎(1)歴史、舞台構造	予習:教科書p.14～15を読む。5分程度。 復習:歌舞伎の歴史について理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第5回	歌舞伎(2)長唄《勧進帳》	予習:歌舞伎《勧進帳》のあらすじを調べる。5分程度。 復習:長唄の唱歌(しょうが)を練習する。5分程度。
第6回	歌舞伎(3)黒御簾音楽	予習:教科書p.108～115を読む。5分程度。 復習:黒御簾音楽で用いられる楽器について調べ、ノートをまとめる。10分程度。
第7回	歌舞伎(4)浄瑠璃	予習:前回のプリントを読む。5分程度。 復習:竹本や豊後系浄瑠璃について理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第8回	小テスト 文楽(1)義太夫節	予習:教科書p.16～17を読む。5分程度。 復習:義太夫節の歴史や、太夫、三味線、人形遣いのそれぞれの役割を理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第9回	文楽(2)《仮名手本忠臣蔵》六段目	予習:《仮名手本忠臣蔵》のあらすじを調べる。5分程度。 復習:義太夫節の音楽的特徴を理解し、授業プリントを振り返る。5分程度。
第10回	文楽(3)《仮名手本忠臣蔵》六段目	予習:前回のプリントを読む。5分程度。 復習:義太夫節の語りと三味線について理解し、授業プリントを振り返る。5分程度。
第11回	尺八	予習:教科書p.84～85を読む。5分程度。 復習:尺八の歴史や奏法について理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第12回	箏曲《春の海》	予習:教科書p.36～37を読む。5分程度。 復習:《春の海》の音楽的特徴について理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第13回	近代における音楽(1)西洋音楽の受容	予習:前回のプリントを読む。5分程度。 復習:西洋音楽の受容について理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第14回	近代における音楽(2)新日本音楽	予習:教科書p.20を読む。5分程度。 復習:新日本音楽について理解し、ノートをまとめる。5分程度。
第15回	まとめ	予習:これまでに習った単元を振り返る。30分程度。 復習:授業で学んだことを活用し、日本伝統音楽への理解を深め、幅広い視野で音楽を探求する。30分程度。

科目名(クラス)	日本の伝統音楽概説A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	黒川 真理恵	実務家教員	履修対象・条件		教職実践専攻は必修。(3年修了までに履修)				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・この授業では、和楽器の基本的な奏法を学びます。前期では、雅楽、祭囃子、箏の演習を行います。</p> <p>・雅楽は、管絃平調《越天楽》と舞楽《陵王》を教材として、唱歌(しょうが)で合わせたり、代用楽器で合奏したりします。</p> <p>・祭囃子は、篠笛、締太鼓、大太鼓、当り鉦の奏法を学びます。</p> <p>・箏は、《さくらさくら》と《初夏の小川》の演習を通して、基本的な奏法を学びます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・雅楽、祭囃子、箏のそれぞれの基本的な奏法と、実践的な指導法を習得することができる。</p> <p>・この授業で得た知識や経験を、教職実践における日本の伝統音楽の指導に活用することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・演習</p> <p>・合奏や奏法を工夫したり、楽器の準備や片付けを協力したりすることで、グループ活動を行い、アクティブラーニングを促します。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・教科書は使用しません。適宜、プリントを配布します。</p> <p>・箏は、授業で習った部分は、次回までに練習してきてください。</p> <p>・箏の奏法を身につけるために、通年での履修が望ましいです。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業内での積極的な取り組み(楽器の実習、グループ活動)50%</p> <p>・試験(箏の演奏)50%</p>									
教科書			著者等		出版社				
教科書			著者等		出版社				
参考文献	唱歌(しょうが)で学ぶ日本音楽		著者等	日本音楽の教育と研究をつなぐ会	出版社	音楽之友社			
参考文献			著者等		出版社				
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12時10分 ~ 12時40分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	雅楽(1)管絃平調《越天楽》 唱歌(しょうが)	予習: 雅楽の歴史について調べる。5分程度。 復習: 《越天楽》の唱歌(しょうが)を練習する。 10分程度。
第2回	雅楽(2)管絃平調《越天楽》 代用楽器による演奏	予習: 《越天楽》の唱歌を練習する。10分程度。 復習: 代用楽器で練習する。10分程度。
第3回	雅楽(3)舞楽《陵王》 唱歌と楽器による演奏	予習: 《越天楽》の唱歌を練習する。10分程度。 復習: 《陵王乱序》の龍笛の唱歌を練習する。 10分程度。
第4回	雅楽(3)《越天楽今様》 歌と楽器による演奏	予習: 《越天楽》の唱歌と代用楽器を練習する。 10分程度。 復習: 《越天楽今様》の歌を練習する。10分程度。
第5回	祭囃子(1)江戸囃子 締太鼓、大太鼓	予習: 祭囃子の楽器について調べる。5分程度。 復習: 締太鼓と大太鼓の唱歌を練習する。 10分程度。
第6回	祭囃子(2)江戸囃子 篠笛、当り鉦	予習: 締太鼓と大太鼓の唱歌を練習する。 10分程度。 復習: 篠笛を練習する。20分程度。
第7回	祭囃子(3)江戸囃子 合奏	予習: 篠笛を練習する。20分程度。 復習: 祭囃子の唱歌と奏法を練習する。 10分程度。
第8回	箏曲(1)基本的な扱い方、調弦	予習: 箏曲の歴史について調べる。5分程度。 復習: 平調子で調弦できるようにする。 10分程度。
第9回	箏曲(2)《さくらさくら》	予習: 箏を平調子で調弦できるようにする。 10分程度。 復習: 《さくらさくら》を練習する。10分程度。
第10回	箏曲(3)《さくらさくら》	予習: 前回習ったところを練習する。10分程度。 復習: 《さくらさくら》を練習する。10分程度。
第11回	箏曲(4)《初夏の小川》 合せ爪、すくい爪	予習: 《さくらさくら》を練習する。10分程度。 復習: 《初夏の小川》を練習する。10分程度。
第12回	箏曲(5)《初夏の小川》 押し手(弱押し、強押し)	予習: 《初夏の小川》を練習する。10分程度。 復習: 《初夏の小川》を練習する。20分程度。
第13回	箏曲(6)《初夏の小川》 押し手(後押し)	予習: 《初夏の小川》を練習する。20分程度。 復習: 《初夏の小川》を練習する。20分程度。
第14回	箏曲(7)《初夏の小川》	予習: 《初夏の小川》を練習する。20分程度。 復習: 《初夏の小川》を練習する。20分程度。
第15回	まとめ	予習: 《初夏の小川》を練習する。30分程度。 復習: 箏の基本的な扱い方、調弦、奏法を身に 付け、各自の音楽表現を探求する。30分程度。

科目名(クラス)	日本の伝統音楽概説B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	黒川 真理恵	実務家教員	履修対象・条件		教職実践専攻は必修。(3年修了までに履修)				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・この授業では、和楽器の基本的な奏法を学びます。後期では、三味線と箏の演習を行います。</p> <p>・長唄三味線の基本的な奏法を学び、囃子の唱歌(しょうが)と合わせます。</p> <p>・箏は、前期で学んだことをもとに、《六段の調》初段を学びます。伝統的な歌唱としては、地歌《竹生島》の冒頭部分を学びます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・三味線と箏のそれぞれの基本的な奏法と、実践的な指導法を習得することができる。</p> <p>・この授業で得た知識や経験を、教職実践における日本の伝統音楽の指導に活用することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・演習</p> <p>・合奏や奏法を工夫したり、楽器の準備や片付けを協力したりすることで、グループ活動を行い、アクティブラーニングを促します。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・教科書は使用しません。適宜、プリントを配布します。</p> <p>・箏は、授業で習った部分は、次回までに練習してきてください。</p> <p>・箏の奏法を身につけるために、通年での履修が望ましいです。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業内での積極的な取り組み(楽器の実習、グループ活動)50%</p> <p>・試験(箏の演奏)50%</p>									
教科書			著者等		出版社				
教科書			著者等		出版社				
参考文献	唱歌(しょうが)で学ぶ日本音楽		著者等	日本音楽の教育と研究をつなぐ会	出版社	音楽之友社			
参考文献	フレーズで覚える三味線入門		著者等	小塩さとみ	出版社	音楽之友社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12時10分 ~ 12時40分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	長唄(1)三味線 開放弦の奏法	予習:三味線の基本構造について調べる。 5分程度。 復習:三味線の唱歌を練習する。5分程度。
第2回	長唄(2)三味線 勘所の奏法	予習:三味線の唱歌を練習する。5分程度。 復習:三味線の唱歌を練習する。5分程度。
第3回	長唄(3)三味線《勸進帳》寄せの合方	予習:歌舞伎《勸進帳》について調べる。5分程度。 復習:三味線の唱歌を練習する。5分程度。
第4回	地歌(1)《竹生島》冒頭部分	予習:箏の基本的な扱い方を振り返る。5分程度。 復習:《竹生島》を練習する。10分程度。
第5回	地歌(2)《竹生島》冒頭部分 弾き歌い	予習:《竹生島》を練習する。10分程度。 復習:《竹生島》の弾き歌いを練習する。10分程度。
第6回	箏曲(1)《六段の調》初段 引き色	予習:《六段の調》を映像や録音で鑑賞する。 10分程度。 復習:《六段の調》を練習する。10分程度。
第7回	箏曲(2)《六段の調》初段 掻き爪、割り爪	予習:《六段の調》を練習する。10分程度。 復習:《六段の調》を練習する。10分程度。
第8回	箏曲(3)《六段の調》初段 コロリン	予習:《六段の調》を練習する。15分程度。 復習:《六段の調》を練習する。15分程度。
第9回	箏曲(4)《六段の調》初段 押し手(後押し)	予習:《六段の調》を練習する。20分程度。 復習:《六段の調》を練習する。20分程度。
第10回	箏曲(5)《六段の調》初段 押し手(強押し・弱押し)	予習:《六段の調》を練習する。20分程度。 復習:《六段の調》を練習する。20分程度。
第11回	箏曲(6)《六段の調》初段 突き色	予習:《六段の調》を練習する。20分程度。 復習:《六段の調》を練習する。20分程度。
第12回	《さくらさくら》 箏 二重奏	予習:《さくらさくら》を練習する。5分程度。 復習:《さくらさくら》の箏の二重奏を練習する。 《六段の調》を練習する。20分程度。
第13回	《さくらさくら》 三味線	予習:三味線の奏法を振り返る。5分程度。 復習:《さくらさくら》の三味線の唱歌を練習する。 《六段の調》を練習する。20分程度。
第14回	《さくらさくら》 箏と三味線の合奏	予習:《さくらさくら》の箏の二重奏を練習する。 5分程度。 復習:《さくらさくら》の箏の二重奏を練習する。 《六段の調》を練習する。20分程度。
第15回	まとめ	予習:《六段の調》を練習する。30分程度。 復習:箏の基本的な奏法を身に付け、各自の音楽表現を探究する。30分程度。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論A-a		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	田村 治美	実務家教員	履修対象・条件		全専攻必修。但し、Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>西洋音楽の基礎を学び、理解を深めることは、演奏、作曲など実践的に音楽に関わる者にとって極めて重要なことです。楽譜の読み方からはじめ、リズム、調、音階、旋法、音程、和音、移調、調判定、表示記号の理解等、楽曲の基本原理を学びます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>西洋音楽の基礎的語法をマスターし、コードや即興演奏、旋法など、楽典の教科書を越えた基礎理論の理解も深めます。英語表現でのマスターも期待されます。</p>								
【授業の「方法」と「形式】		(55文字以内)						
<p>演習を主体とした授業方法です。書くだけでなく、楽器を使って実践的な形式で授業を行ないます。ピアノが主ですが、自分の楽器を持ってくることも奨励します。授業内では、英語表現も取り入れます。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得】		(160文字以内)						
<p>演習問題を沢山こなしていきますので、各回の課題をその時間内でマスターできるよう、集中力と積極性が求められます。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準】		(380文字以内)						
<p>授業態度30%、確認テスト30%、期末テスト40%で総合評価します。</p>								
教科書				著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献	和声法			著者等	ピストン他	出版社	音楽之友社	
参考文献	Practical Theory			著者等	Sabdy Feldstein	出版社	Alfred Publishing Co., Inc	
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	概論 授業の進め方、整理の仕方、評価法、目的、心得、西洋音楽理論の成立の歴史背景などを説明する。初回テストを行う。	予習:特にないが、5線紙とファイルを用意する。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第2回	譜表、音部記号、音名、音部記号を理解する	予習:自分の課題曲の楽譜を見直してみる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第3回	小節、楽節 小節や楽節の意味を把握する	予習:自分の課題曲の小節・楽節構造について見直してみる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第4回	音符と休符 音符の種類や休符を理解する	予習:様々な休符の種類を確認する。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第5回	拍子とリズム 様々な拍子を即座に実践する。	予習:様々なリズム記号を調べてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第6回	色々なリズム 変拍子などの多様なリズムがすぐに読めるようにする	予習:変拍子の例を探してくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第7回	長音階 長音階の理論を把握する	予習:長音階を色々な音を出発点として楽器で奏する。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第8回	短音階 短音階の理論を把握する	予習:短音階を色々奏してみる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第9回	旋法 様々な旋法を理解する	予習:旋法とは何か、調べてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第10回	音程1 旋律の音程を即座に理解する	予習:音程とは何か、調べてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第11回	音程2 ハーモニーの音程をすぐに把握できるようにする	予習:音程について、調べてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第12回	和音1 3和音の基礎を理解する	予習:色々な和音を奏してみる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第13回	和音2 7の和音を理解する	予習:色々な7の和音の種類を探してくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第14回	まとめと復習 前期の内容の確認	予習:これまでの授業内容を見て、質問を考えてくる。 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。
第15回	確認テストと説明	予習:テスト準備 復習:授業内容を整理し、配布資料をファイリングする。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論A-b		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	全専攻必修。但し、Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽を学んで行くために必要な知識を習得するための授業です。他の音楽科目への広がりを考えながら授業を進めます。 Aでは楽典の基礎(音名・音程・音階・調など)を理解し、楽曲の分析(楽譜の読み解き)に応用して行くための演習が授業の中心となります。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>楽典の基礎(音名・音程・音階・調など)の考え方を理解し、楽曲の分析(楽譜の読み解き)に応用することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義・演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>毎回クラシックの名曲を題材として取り上げ、鑑賞・メロディの視唱・簡単な分析をした後、理論的内容の解説・演習へと進みます。理論的な勉強の土台として実際の音楽を体感することも大切にして下さい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>学期末定期試験60%・課題点40% 各授業時に配布するプリントの内、提出と指定されたプリントの提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。</p>									
教科書	各授業時に配布するプリント			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	楽典 理論と実習			著者等	石桁真礼生 他	出版社	音楽之友社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	楽典のレディネス・チェック	予習: 楽典全般を見直して置く
第2回	譜表と音名①—ドイツ音名を中心に—	復習: 記憶事項の確認
第3回	譜表と音名②—楽譜中の音名の判定—	復習: 間違った問題の見直し
第4回	音符と休符	復習: 記憶事項の確認
第5回	リズムと拍子	復習: 記憶事項の確認
第6回	音程①—幹音間の音程—	復習①記憶事項の確認 ②間違った問題の見直し
第7回	音程②—派生音を含む音程—	復習①記憶事項の確認 ②間違った問題の見直し
第8回	音程③—複音程と音程の転回—	復習①記憶事項の確認 ②間違った問題の見直し
第9回	音階と調①—長音階と短音階—	復習: 記憶事項の確認
第10回	音階と調②—調号—	復習: 記憶事項の確認
第11回	音階と調③—調の相互関係—	復習: 記憶事項の確認
第12回	音階と調④—音階の判定(1)—	復習: 間違った問題の見直し
第13回	音階と調⑤—音階の判定(2)—	復習: 間違った問題の見直し
第14回	総合練習(音名・音程・音階・調に関する問題練習)	予習: 音名・音程・音階・調に関する記憶事項の確認 復習: 間違った問題の見直し
第15回	まとめ	予習: 総合練習の問題を確認して置く

科目名(クラス)	音楽の基礎理論B-a		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	田村 治美	実務家教員	履修対象・条件		全専攻必修。但し、Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>前期に学んだ基礎理論をさらに発展させ、旋法の種類の拡大、簡単な作品の分析、スコアリーディング、伴奏付けなど応用課題を習得します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>前期に学んだ基礎理論を体に定着させ、さらに、現代の音楽の中で様々な語法が取り入れられていることを踏まえ、コードネームや様々な旋法に慣れ、フランス近代の和音、ジャズで使われる様々な旋法やリズムの語法を習得します。また、それらの語法を学び、実際の楽譜を分析してみます。また、旋律に即座に簡単な伴奏を付けることを目指します。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式、演習形式									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
私語は注意します。基礎音楽理論といっても高度なレベルまで習得する内容なので、集中力を要求します。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業における積極性、出席状況で50%、期末試験で50%とします。									
教科書		著者等		出版社					
教科書	随時、資料を配布します。	著者等		出版社					
参考文献	和声法	著者等	ピストン他	出版社	音楽之友社				
参考文献	Practical Theory	著者等	Sabdy Feldstein	出版社	Alfred Publishing Co., Inc				
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習・初回テスト	予習: シラバスを読んで、問題意識を持ってくる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第2回	終止形 様々な終止形を把握する	予習: 終止形とは何か、問題意識を持ってくる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第3回	調判定1 調性と変化記号の関係を把握する	予習: 調とは何か、問題意識を持ってくる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第4回	調判定2 楽曲の断片の調性を判断する	予習: 自分の課題曲の調整を考える。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第5回	移調1 旋律の移調	予習: 移調に関する問題意識を持ってくる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第6回	移調2 和声と旋律の移調	予習: 和音の移調を試みしてみる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第7回	音階と旋法の関連性を学び、バロックの小作品の中から両者の関連性を見いだす。	予習: 前期に学んだ旋法を見直しておく。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第8回	即興演奏について	予習: 即興演奏について、問題意識を持ってくる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第9回	表示記号 多様な表示記号を楽譜の中で捉え、作品の特性を捉える	予習: 色々な表示記号を探してくる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第10回	コラールの分析 旋法、調性、和音、リズム、転調、終止形など、短いコラールを多角的に分析する。	予習: 初見で、簡単な曲を奏し、分析を試みる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第11回	ソナチネの分析 和声、楽曲構造の理解をする	予習: 課題曲を分析してみる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第12回	室内楽曲の分析 和声、楽曲構造の理解をする	予習: 室内楽曲の楽譜を見してみる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第13回	歌曲の分析 言葉と音楽の関わり方を理解する。伴奏のつけ方を参考に、簡単な曲の伴奏付けを工夫してみる。	予習: 歌曲の伴奏と詩について問題意識を持ってくる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第14回	まとめ 後期の内容を整理する	予習: シラバスを読んで、問題意識を持ってくる。 復習: 授業内容を整理し、資料をファイリングする。
第15回	期末テストと説明 後期の内容を応用確認する	予習: 試験準備 復習:

科目名(クラス)	音楽の基礎理論B-b		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	全専攻必修。但し、Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽を学んで行くために必要な知識を習得するための授業です。他の音楽科目への広がりを考えながら授業を進めます。 BではAで学んだ楽典の基礎の延長として、調判定・和音などの考え方を理解し、楽曲の分析(楽譜の読み解き)に応用して行くための演習と、楽語や楽式・演奏形態などの基本的な音楽用語を理解する内容が授業の中心となります</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>調判定・和音などの考え方を理解し、楽曲の分析(楽譜の読み解き)に応用することができる。 楽語や楽式・演奏形態などの基本的な音楽用語を覚える。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義・演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>毎回クラシックの名曲を題材として取り上げ、鑑賞・メロディの視唱・簡単な分析をした後、理論的内容の解説・演習へと進みます。理論的な勉強の土台として実際の音楽を体感することも大切にして下さい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>学期末定期試験60%・課題点40% 各授業時に配布するプリントの内、提出と指定されたプリントの提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。</p>									
教科書	各授業時に配布するプリント			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	楽典 理論と実習			著者等	石桁真礼生 他		出版社	音楽之友社	
参考文献	楽式論			著者等	石桁真礼生		出版社	音楽之友社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽の基礎理論A-bの復習	予習:音楽の基礎理論A-bの内容を振り返って置く
第2回	調判定①—旋律の調判定の考え方—	復習:記憶事項の確認
第3回	調判定②—旋律の調判定の問題練習—	復習:間違った問題の見直し
第4回	和音①—和音の構成—	復習:記憶事項の確認
第5回	和音②—楽譜中の和音の判定—	復習:間違った問題の見直し
第6回	和音③—非和声音(1)—	復習:記憶事項の確認
第7回	和音④—非和声音(2)—	復習:記憶事項の確認
第8回	楽語①—速度・強弱に関するもの—	復習:記憶事項の確認
第9回	楽語②—曲想・奏法に関するもの—	復習:記憶事項の確認
第10回	楽式①—リート形式—	復習:記憶事項の確認
第11回	楽式②—大形式—	復習:記憶事項の確認
第12回	演奏形態と様式①—声楽—	復習:記憶事項の確認
第13回	演奏形態と様式②—器楽—	復習:記憶事項の確認
第14回	総合練習(調判定・和音・楽語・その他の音楽用語に関する問題練習)	予習:調判定・和音・楽語・その他の音楽用語に関する記憶事項の確認 復習:間違った問題の見直し
第15回	まとめ	予習:総合練習の問題を確認して置く

科目名(クラス)	音楽の基礎理論【Konzertfach(演奏専攻)】A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	横山 裕美子	実務家教員	○	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽の基礎理論の勉強は、楽譜の中に込められた作曲家の意図や思いを深く理解するのに必要不可欠です。 演奏家として必要な音楽の基礎理論を実際の楽曲を使って学び、楽曲を分析していく力を養います。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・学習した基礎理論の内容を説明することができる。 ・さまざまな楽曲を、基礎理論の視点から、作曲者の意図や思いを理解することができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義と演習、ディスカッション、CD、DVDなど									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
授業で学習した課題は見直し、常に自分の専攻の楽曲分析に応用していきましょう。皆さんに実際に音を出していただくことも考えています。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業内課題実習(20%) 学期末定期試験(筆記試験)(80%)									
教科書	プリント			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(15 時 10 分 ~ 15 時 20 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音階の種類(旋法も含む)①	予習:シラバスを読み、授業内容を確認し調べておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第2回	音階の種類(旋法も含む)②	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第3回	音階の種類(旋法も含む)③	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第4回	音程①	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第5回	音程②	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第6回	和音の種類①	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第7回	和音の種類②	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第8回	和音の種類③	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第9回	非和声和音と偶成和音①	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第10回	非和声和音と偶成和音②	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第11回	音楽の最小限のまとめり 音楽の始まり方	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第12回	フレーズのまとめり方 抑揚①	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第13回	抑揚② 音楽の終止	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第14回	音楽表現のための用語と記号	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第15回	前期で学習した内容を振り返る。	予習:プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習:授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論【Konzertfach(演奏専攻)】B			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	横山 裕美子	実務家教員	○	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽の基礎理論の勉強は、楽譜の中に込められた作曲家の意図や思いを深く理解するのに必要不可欠です。 演奏家として必要な音楽の基礎理論を実際の楽曲を使って学び、楽曲を分析していく力を養います。 Bでは器楽曲はベートーヴェンの楽曲を、歌はシューマン・シューベルトの歌曲集を使って分析力を磨いていきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・学習した基礎理論を使って、ピアノ曲や室内楽曲などの分析ができる。 ・その手法を様々な作曲家の作品にも応用し、演奏に生かすことができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義と演習、ディスカッション、CD、DVDなど									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
授業で学習した課題は見直し、常に自分の専攻の楽曲分析に応用していきましょう。皆さんに実際に音を出していただくことも考えています。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業内課題実習(20%) 学期末定期試験(筆記試験)(80%)									
教科書	プリント			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(15時 10分 ~ 15時 20分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ピアノ独奏曲の分析① (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第2回	ピアノ独奏曲の分析② (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第3回	ピアノ独奏曲の分析③ (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第4回	ピアノ独奏曲の分析④ (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第5回	室内楽の名曲の分析(二重奏)① (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第6回	室内楽の名曲の分析(二重奏)② (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第7回	室内楽の名曲の分析(二重奏)③ (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第8回	室内楽の名曲の分析(二重奏)④ (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第9回	室内楽の名曲の分析(三重奏以上)① (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第10回	室内楽の名曲の分析(三重奏以上)② (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第11回	室内楽の名曲の分析(三重奏以上)③ (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第12回	室内楽の名曲の分析(三重奏以上)④ (ベートーヴェン)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第13回	歌曲集の分析① (シューマン・シューベルト)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第14回	歌曲集の分析② (シューマン・シューベルト)	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第15回	本科目の総括	予習: 指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習: 授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。

科目名(クラス)	音楽史A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員	履修対象・条件		音楽療法専攻と教職課程履修者はBとのいずれか必修。 教職実践専攻はABともに必修。			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>西洋音楽の歴史(18世紀まで)をたどり、各時代の音楽の特徴や、個々の作曲家の活動や作風について、社会・文化・諸芸術等と関連づけながら解説します。西洋音楽の歴史を知ることは、演奏や創作への重要な手がかりを与えてくれるばかりなく、私たちが音楽の未来を考えるための重要なヒントも与えてくれます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽史の大きな流れをつかみ、各時代の音楽の特徴、音楽家たちの活動や作風について、社会・文化・諸芸術等と関連づけて説明できる。 ・音楽史で学んだことを演奏、創作などの実践に生かすことができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義。CD,DVD,ピアノ等を活用しながら解説します。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント用を整理するファイル(A4版)を用意すること。 ・音楽史Bと合わせて受講することが望ましい。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
課題への取り組み等50%、筆記試験50%								
教科書	増補改訂版 はじめての音楽史			著者等	久保田慶一	出版社	音楽之友社	
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(13 時 00 分 ~ 14 時 00 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	なぜ音楽史を学ぶのか	予習:教科書に目を通しておく。 復習:関心をもったことについて詳しく調べる。
第2回	古代ギリシャの音楽	予習:教科書第1章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる
第3回	中世の音楽	予習:教科書第2章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第4回	ルネサンスの音楽①	予習:教科書第3章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第5回	ルネサンスの音楽②	予習:教科書第4章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第6回	バロックの音楽①	予習:教科書第5章を読んでおく。 復習:授業で取り上げたオペラを全篇観る。
第7回	バロックの音楽②	予習:教科書第6章を読んでおく。 復習:授業で取り上げたオペラを全篇観る。
第8回	バロックの音楽③	予習:教科書第6章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第9回	バロックの音楽④	予習:教科書第7章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第10回	J.S.バッハの音楽①	予習:J.S.バッハについて調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第11回	J.S.バッハの音楽②	予習:J.S.バッハについて調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第12回	J.S.バッハの音楽③	予習:J.S.バッハについて調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第13回	前古典派の音楽①	予習:教科書第7章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第14回	前古典派の音楽②	予習:教科書第8章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第15回	まとめ	予習:授業で理解したことを整理する。 復習:音楽史で学んだことを演奏に生かす。

科目名(クラス)	音楽史B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員	履修対象・条件		音楽療法専攻と教職課程履修者はAとのいずれか必修。 教職実践専攻はABともに必修。			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>西洋音楽の歴史(19世紀以降)をたどり、各時代の音楽の特徴や、個々の作曲家の活動や作風について、社会・文化・諸芸術等と関連づけながら解説します。西洋音楽の歴史を知ることは、演奏や創作への重要な手がかりを与えてくれるばかりなく、私たちが音楽の未来を考えるための重要なヒントも与えてくれます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽史の大きな流れをつかみ、各時代の音楽の特徴、音楽家たちの活動や作風について、社会・文化・諸芸術等と関連づけて説明できる。 ・音楽史で学んだことを演奏、創作などの実践に生かすことができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義。CD,DVD,ピアノ等を活用しながら解説します。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント用を整理するファイル(A4版)を用意すること。 ・音楽史Aと合わせて受講することが望ましい。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
課題への取り組み等50%、筆記試験50%								
教科書	増補改訂版 はじめての音楽史			著者等	久保田慶一	出版社	音楽之友社	
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(13 時 00 分 ~ 14 時 30 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	古典派の音楽①	予習:教科書第8章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第2回	古典派の音楽②	予習:教科書第9章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第3回	古典派からロマン派へ	予習:ベートーヴェンについて事典で調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第4回	ロマン派の音楽:ピアノ曲	予習:教科書第9章・第10章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第5回	ロマン派の音楽(管弦楽曲)	予習:教科書第9章・第11章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第6回	ロマン派の音楽(オペラと歌曲)	予習:教科書第9章・第12章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第7回	民族主義の音楽	予習:民族主義について調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第8回	近代フランスの音楽	予習:フランス近代の音楽について調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第9回	世紀末～20世紀の音楽(ドイツ・オーストリア)	予習:教科書第11章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第10回	世紀末～20世紀の音楽(ロシア、フランス)	予習:教科書第12章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第11回	世紀末～20世紀の音楽(アメリカ)	予習:教科書第13章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第12回	世紀末～20世紀の音楽(イタリアその他)	予習:教科書第14章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第13回	20世紀の新たな傾向	予習:教科書第12章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第14回	音楽史をどう生かしていくか	予習:授業で理解したことを整理する。 復習:音楽史で学んだことをどう生かしていくべきか考えをまとめる。
第15回	まとめ	予習:授業で理解したことを整理する。 復習:音楽史から学んだことを演奏に生かす。

科目名(クラス)	音楽療法概論a			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	平田 紀子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽療法は、音楽が心身に及ぼす働きを効果的に使い、人々の健康に役立てるもので、医療・福祉・教育や地域などで活用されている。この授業では、音楽療法の定義・目的・歴史や音楽の作用について、基礎知識を身につける。また、主な対象領域(児童・成人・精神・高齢者他)への実践、さらには音楽療法士の専門性への理解を深める。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>音楽療法の基礎知識を身につけ、概要を解説することができる。また音楽の作用について理解し、実技の活用に繋がられる。音楽療法の実践現場について知り、各領域への支援を学ぶことができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式。毎回の授業で教材のプリントを配布する。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>積み上げが大切な授業である。配布プリントは必ずファイリングして活用し、解説や板書に関しては、ノートを必ず取ることが求められる。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>学期末に筆記試験を行う。評価は、筆記試験60%、授業への積極的参加や取り組みの姿勢を40%とする。</p>									
教科書	音楽療法の基礎			著者等	村井靖児	出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	毎回の授業でプリント配布			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(12 時 10 分 ~ 13 時 00 分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽療法とは何か	予習: シラバスを読んで各回のテーマをおさえておく。 復習: 音楽療法の定義、目的、対象について配布プリントや各自のノートを再読する。
第2回	受動的音楽療法と能動的音楽療法	予習: 音楽療法の実際について調べる。 復習: 「聴く」音楽療法と「する」音楽療法について、プリントや各自のノートをまとめる。
第3回	音楽療法の歴史と近代音楽療法の歩み	予習: 古代や歴史的エピソードにおける音楽と癒し、国内外の近代音楽療法の発展について、教科書(第2章)を読む。 復習: 配布プリントや各自のノートを再読する。
第4回	音楽の作用 1. 生理的働き	予習: 音楽が及ぼす生理的な働きについて、教科書(第3章)を読む。 復習: 配布プリントや各自のノートを再読する。
第5回	音楽の作用 2. 心理的働き	予習: 音楽が及ぼす心理的な働きについて教科書(第3章)を読む。 復習: プリント、ノートをまとめ、授業で紹介された文献にあたってみる。
第6回	音楽の作用 3. 社会的働き	予習: 音楽が及ぼす社会的な働きについて、教科書(第3章)を読む。 復習: プリント、ノートをまとめ、授業で紹介された文献にあたってみる。
第7回	音楽の作用 4. 身体活動への働き、その他	予習: 音楽が身体活動を誘発する働きや、その他の作用について、教科書(第3章)を読む。 復習: プリント、ノートをまとめ、授業で紹介された文献にあたってみる。
第8回	音楽療法の原理	予習: 音楽療法の手法に用いられる原理について、教科書(第4章)を読む。 復習: 配布プリントや各自のノートを再読する。
第9回	音楽療法の実際・・・実践においての、目的、手順、流れなどについて	予習: 音楽療法の実際について教科書(第5章)を読む。 復習: 実践においての目的、手順、流れなどについて、配布プリントや各自のノートをまとめる。
第10回	音楽療法の実際 各論1. 精神科領域	予習: 精神科領域の音楽療法について教科書(第5章)を読む。 復習: 疾患・障害・療法・支援など、配布プリントや各自のノートをまとめる。
第11回	音楽療法の実際 各論2. 高齢者領域	予習: 高齢者領域の音楽療法について教科書(第5章)を読む。 復習: 疾患・障害・療法・支援など、配布プリントや各自のノートをまとめる。
第12回	音楽療法の実際 各論3. 児童領域	予習: 児童領域の音楽療法について教科書(第5章)を読む。 復習: 疾患・障害・療法・支援など、配布プリントや各自のノートを元にまとめる。
第13回	音楽療法の実際 各論4. その他の領域	予習: その他の領域の実践に関し、教科書(第5.6章)を読む。 復習: プリントを再読し授業で紹介された文献にあたってみる。
第14回	職業としての音楽療法	予習: 音楽療法士の仕事、資格制度などについて教科書(第7章)を読む。 復習: 授業で紹介された音楽療法関連のサイトにあたってみる。
第15回	まとめ	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: 配布プリントや各自のノート、教科書を再読する。

科目名(クラス)	音楽療法概論 b		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	田村 治美	実務家教員	履修対象・条件						
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>講義・ディスカッション・音楽の実践・視聴覚資料の鑑賞などによってバラエティのある授業を行います。音楽療法の基礎的概念、音・音楽の物理的構造、生理・認知システム、様々な領域での音楽療法の実践と役割、日本及び各国の音楽療法の実情などについて学びます。また、音楽療法の現場以外にも、音楽の効果が生かされている分野に関して紹介します。さらに、地域や生活の様々な環境の中で、音や音楽が果たす役割について、考察します。音楽の基礎理論の講義や、コードネーム、即興演奏の基本について実践的な時間を取り入れます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>音や音楽について、物理的側面と人間の生理学的認知的受容システムについての基礎知識を身につけたうえで、音楽療法の諸領域、実践、音楽療法士の役割について知識と実践の力を身につけます。また、現代社会の諸問題における音楽の役割と意義について、例を挙げて考察し、議論をすることにより、自分たちの身近な問題として、音楽の与える効果や影響について実感していきます。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
①講義・②音楽療法の現場に関する視聴覚資料・③自ら考察とディスカッション・④入門的な即興演奏の実践									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
毎回のテーマに基づき、現代社会の抱える問題に対する音楽の役割について問題意識をもち、意見を述べてください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
課題レポート50%、出席状況20%、授業への積極性30%で総合評価します。									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献	音楽療法の基礎				著者等	村井靖児	出版社	音楽之友社	
参考文献	随時 コピーを配布します				著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12 時 10 分 ~ 12 時 40 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 自己紹介、授業への期待、問題提起など	予習: シラバスを参考に問題意識を設定する。 自分にとっての音楽の意味を考える。 復習: 関心のあったことについて、考察を深める
第2回	音楽療法の定義と実施 世界の音楽療法の定義と意味、日本音楽療法学会の定義と意味、専門用語、対象、治療目的、治療過程、評価などを学びます。	予習: 音楽療法とは何か、自分なりに考えてみる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第3回	音楽療法の歴史 古代、中世、18世紀、アメリカ、近代的音楽療法の出現、日本における音楽療法の展開を学びます。	予習: 民話や歴史や現代のエピソードなどから音楽療法の範疇に入ると思われるものを挙げる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第4回	私達の身体: 聞こえと認知について 耳の構造と脳の構造や、情報処理の生理的システムを学びます。	予習: 音の物理的性質や耳の構造など、予備知識を持っておく。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第5回	音と音楽のしくみ 音色、音高、リズム、旋律、調性、ハーモニー、音楽の構造と形式について学び、音楽の実践をしてみます。	予習: この回のシラバスに示されている言葉の概念を調べておく。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第6回	音楽の療法的意味と実践 音楽の身体的・心理的・社会的意義、発声、歌、楽器、身体運動、認知と統制、情緒と記憶など様々な切り口から、心や身体と音楽の関係を学びます。	予習: 音楽活動の生理的意味を考えてみる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第7回	高齢者領域とQOLとしての音楽療法 加齢、高齢化社会の問題、認知症について学びます。	予習: 高齢者にとっての音楽の意味を考えてみる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第8回	児童の音楽療法 胎児と音楽、発達障害、学校教育について学びます。	予習: 児童にとっての音楽の意味を考えてみる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第9回	成人と精神科領域 精神疾患の分類と音楽療法に関して学びます。	予習: 音楽の心理的効果について考えてみる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第10回	ホスピスと緩和ケア 海外の緩和ケア、死生観と音楽、家族・友人への援助、配慮などについて学びます。	予習: ホスピスの現場における音楽療法とは何か考えてみる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第11回	音楽療法の実践 授業でロールプレイを行いません。	予習: 音楽療法士である内に関わらず、音楽を通して何が出来るか、考えてみる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第12回	私達の地域や環境に根差した音楽療法について	予習: マニュアル的な音楽療法理論を超えて、生活に密着した音楽療法の実践について考えてみる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第13回	即興演奏の基礎と実践。物語と音楽づけ。	予習: 簡単なストーリーを考えてくる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第14回	自然環境における音の意義。水音や風の音、生活音と私達の関わりや心身への影響を考える	予習: 音楽だけでなく、身近な生活の中にある様々な音風景が人間に与える影響について考えてみる。 復習: 授業内容と資料を整理する。
第15回	まとめ 今学期の内容の振り返りと発展課題について討論します。レポートの準備をします。	予習: 今まで勉強したことを振り返って問題を考えてくる。 復習: レポートの準備。

科目名(クラス)	音楽療法的音楽論			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	平田 紀子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽療法の実践現場で用いられる様々な音楽ジャンルや、そのルーツとなる芸能について、幅広く理解する。明治・大正・昭和・平成の日本の大衆音楽(唱歌・流行歌・ポップス、民謡・邦楽など)について知識を習得する。紹介する楽曲は、すべて当時の音源を実際に聴きながら進めていく。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>日本の流行歌史の流れを理解し、時代背景や、作者・演者について知識が得られる。当時の音源を聴くことから伴奏の技法に繋がられる。またこれらを音楽療法の実習に活かすことができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式。実際の音源をCDなどで聴きながら解説をする。また毎回の授業で教材のプリントを配布する。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>積み上げが大切な授業である。配布プリントは必ずファイリングし毎回活用する。解説や板書はノートを取るように。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>期末レポートにて試験を行う。評価率は、筆記試験60%、授業への積極的参加など取り組みの姿勢を40%とする。</p>									
教科書	決定版 平田紀子のちょっと嬉しい伴奏が弾きたい	著者等	平田紀子	出版社	音楽之友社				
教科書		著者等		出版社					
参考文献	毎回の授業でプリント配布	著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12時 10分 ~ 13時 00分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽療法に用いられる音楽について	予習: シラバスを読んで各回のテーマをおさえる。 復習: 音楽療法に用いられる様々なジャンルの音楽に関して、各自のノートを再読する。
第2回	受容的音楽療法	予習: 履修生各自が好きな音楽を紹介・鑑賞し分かち合う。一人一曲ずつ曲を持参、コメントを用意する。 復習: 紹介された楽曲について調べる。
第3回	日本の唱歌	予習: 明治・大正・昭和の日本の唱歌について、教科書(第5章)に目を通す。 復習: 配布プリントを読み、興味を持った曲について調べる。
第4回	流行歌の歴史とその背景 1・・・明治・大正・昭和初期	予習: この時代の流行歌について教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第5回	流行歌の歴史とその背景 2・・・昭和10～20年代	予習: この時代の流行歌について教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第6回	流行歌の歴史とその背景 3・・・昭和20年代	予習: この時代の流行歌について教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第7回	流行歌の歴史とその背景 4・・・昭和20～30年代	予習: この時代の流行歌について教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第8回	流行歌の歴史とその背景 5・・・昭和30年代	予習: この時代の流行歌について教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第9回	流行歌の歴史とその背景 6・・・昭和30～40年代	予習: この時代の流行歌について教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第10回	流行歌の歴史とその背景 7・・・昭和40年代	予習: この時代の流行歌について教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第11回	流行歌の歴史とその背景 8・・・昭和50年代	予習: この時代の流行歌について教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第12回	流行歌の歴史とその背景 9・・・昭和50年代以降	予習: この時代の流行歌について教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第13回	古典大衆芸能と邦楽	予習: 古典大衆芸能における楽曲や楽器について調べる。 復習: プリントや各自のノートを再読する。
第14回	日本の民謡 古典大衆芸能における楽曲や楽器について、プリントや各自のノートを読む。	予習: よく知られる日本各地の民謡について、教科書(第5章)に目を通す。 復習: プリントを読み、興味を持った曲について調べる。
第15回	まとめ	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: 年代ごとの楽曲について、作・演者や時代背景などをまとめる。プリントや各自のノート、教科書を再読する。

科目名(クラス)	音楽心理学A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	徳富 政樹	実務家教員	履修対象・条件		音楽療法専攻はBとのいずれか必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽の歴史や演奏技術、思想などを学ぶ機会はたくさんあると思いますが、科学的に音楽を検証するという機会はあまりないことと思います。この授業では心理学の観点から音楽について考察をしていき、皆さんの知っている音楽を違う側面から見てもらおうと思います。できるだけ最新の研究を取り上げて、わかりやすく解説していきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>音楽を研究素材とした心理学の研究手法の事例を理解して、自分なりに音楽に対して科学的にアプローチできるようになること。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>基本的に講義形式です。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>テスト(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。</p>									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	音は心のなかで音楽になるー音楽心理学への招待			著者等	谷口高士	出版社	北大路書房		
参考文献	音の世界の心理学			著者等	重野純	出版社	ナカニシヤ出版		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(12時 00分 ~ 12時 30分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	「なぜ音楽大学へ進学したのか」	予習:自分が音大に進学した理由を予め考えておく 復習:進学理由と進学後の学校への満足度の関係をまとめる
第2回	音楽心理学の方法	予習:理科などでどんな観察・実験を行ってきたのか 予めリストアップしてみる 復習:観察法、質問紙法、実験法の特徴をまとめる
第3回	記憶研究の基礎	予習:「記憶」とはどのようなものか自分なりのイメージをまとめる 復習:記憶の種類についてその特徴をまとめる
第4回	音楽の記憶について	予習:自分が一番最初に覚えた曲と、その曲に関するエピソードをまとめる 復習:記憶をテストする方法についてまとめる
第5回	和音の記憶	予習:和音についてまとめる 復習:自らの経験と記憶研究の成果の類似点と相違点をまとめる
第6回	共感覚	予習:「共感覚」という言葉について調べておく 復習:共感覚の特徴をまとめる
第7回	音感	予習:「絶対音感」という言葉について調べておく 復習:絶対音感と相対音感の違いについてまとめる
第8回	絶対音感の研究例	予習:絶対音感を研究する意義について考えておく 復習:心理学では絶対音感をどのようにとらえているかまとめる
第9回	やる気について その1	予習:「やる気」とは何か自分なりの考えをまとめる 復習:統制感についてまとめる
第10回	やる気について その2	予習:努力と能力に対するイメージをまとめる 復習:原因帰属の考え方をまとめる
第11回	やる気について その3	予習:他者に助けを求めやすい、求めにくいシチュエーションをまとめる 復習:援助要請行動についてまとめる
第12回	やる気について その4	予習:なぜ音楽を勉強するのか自分なりの考え方をまとめる 復習:学習に対する目標の特徴をまとめる
第13回	演奏者の動きについて	予習:演奏者の動きと聴取者が受ける印象について自分なりの考え方をまとめる 復習:実際に自分が演奏している姿を動画撮影して、その動きを分析してみる
第14回	まとめ その1	予習:これまでの授業内容について振り返っておく 復習:重要だと考えるポイントを自分なりの言葉でまとめる なおしてみる
第15回	まとめ その2	予習:これまでの授業内容の全般について振り返っておく 復習:理解が足りなかったところをピックアップして、もう一度調べなおしてみる

科目名(クラス)	音楽心理学B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	徳富 政樹	実務家教員	履修対象・条件		音楽療法専攻はAとのいずれか必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽の歴史や演奏技術、思想などを学ぶ機会はたくさんあると思いますが、科学的に音楽を検証するという機会はあまりないことと思います。この授業では心理学の観点から音楽について考察をしていき、皆さんの知っている音楽を違う側面から見てもらおうと思います。できるだけ最新の研究を取り上げて、わかりやすく解説していきます。後期の授業では自分の性格と音楽との関連について考察してもらうのがメインとなります。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>音楽を演奏すること、作曲すること、聞くことなどと自分自身の性格との関連について考察してレポートにまとめることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>基本的に講義形式です。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>レポート(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。</p>									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献	音は心のなかで音楽になるー音楽心理学への招待				著者等	谷口高士	出版社	北大路書房	
参考文献	音の世界の心理学				著者等	重野純	出版社	ナカニシヤ出版	
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(12時 00分 ~ 12時 30分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	心理テスト実習 その1	予習:自分の性格特徴を列挙しておく 復習:内向・外向のそれぞれの概念についてまとめる
第2回	心理テスト実習 その2	予習:他者から聞いた自分の性格についてまとめる 復習:心理テストの結果と自分で考える自分の性格のイメージとの相違点について考察する
第3回	音楽の聴取 その1	予習:音楽を聞くことで心理的、身体的な効果があるか自分なりに考えてみる 復習:音楽を用いてどのような実験が行われているのかまとめる
第4回	音楽の聴取 その2	予習:様々な楽器の音色から得られるイメージを予めまとめる 復習:関連の概念についてまとめる
第5回	音楽の聴取 その3	予習:気分の違いによって聞きたい音楽が違うか考察しておく 復習:最適複雑性モデルについてまとめる
第6回	心理テスト実習 その3	予習:自分自身の無意識にあるものをイメージしてまとめる 復習:質問紙法と投影法の違いについてまとめる
第7回	心理テスト実習 その4	予習:前回の心理テストで作成したものを完成させる 復習:心理テストから見た自分の正確について自分なりの考えかたをまとめる
第8回	錯聴について	予習:耳の錯覚が生じた経験をまとめる 復習:錯聴現象が起こるメカニズムについてまとめる
第9回	ビッグファイブ理論について その1	予習:ビッグファイブ理論という言葉について予め調べておく 復習:愛着性と分離性の次元についてまとめる
第10回	ビッグファイブ理論について その2	予習:前期に学習した達成動機について振り返っておく 復習:「まじめな人」の特徴をまとめる
第11回	ビッグファイブ理論について その3	予習:頭がいいとはどういうことがまとめる 復習:ビッグファイブ理論について最終的なまとめをする
第12回	背景音楽について	予習:店舗などのBGMの特徴について予めまとめる 復習:BGMの効果をまとめる
第13回	レポート作成のための準備作業	予習:授業内で実施した心理テストの結果を振り返っておく 復習:レポート作成に向けて授業内で提示した課題を完成させる
第14回	自己実現について	予習:なぜ自分は音楽を求めているのか予めまとめる 復習:自己実現するにはなにが必要なのかまとめる
第15回	まとめ	予習:後期の授業内容をもう一度振り返っておく 復習:授業ノートの完成をさせる

科目名(クラス)	現代音楽教師論			開講学期		単位数	2	配当年次	1~4	
担当教員	北山 敦康	実務家教員	○	履修対象・条件						
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>・現代の学校教育の課題や教師を取り巻く社会的環境などを踏まえた上で、中学校・高等学校において音楽の授業を担当する教師に必要な資質・能力を養うとともに、学習指導要領の趣旨に基づいて音楽の授業を実施するための具体的な方法論について理解し、講義や演習などを通して、音楽教師としての実践力を身に付けることができますようにします。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>・中学校・高等学校における音楽教師の立場や役割などについて理解し、授業を行うための十分な知識と技能を身に付け、それを実践することができる。 ・現代の音楽教育に関する実践的な課題を把握し、音楽教師になることを想定した上で、その課題の解決に向けて自分の考えを持ち、説明することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>・講義と演習が中心になりますが、学生同士でのディスカッションを随時取り入れて授業を行います。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>・中学校または高等学校の音楽教師を目指していることを想定した授業内容です。中学生、高校生の学びや学校教育に興味をもって取り組むことが求められます。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>・授業におけるディスカッション等への参加姿勢（積極性・貢献度等）20% ・講義や演習における小レポート20% ・定期試験 60%</p>										
教科書	学習指導要領解説(平成29年版中学校音楽編)	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社					
教科書	学習指導要領解説(平成30年版高等学校芸術編)	著者等	文部科学省	出版社	教育図書					
参考文献	中学生の音楽1、同2・3上下、中学生の器楽	著者等	小原光一、他	出版社	教育芸術社					
参考文献	音楽のおくりもの中学音楽1、同2・3上下、中学器楽	著者等	新実徳英、他	出版社	教育出版社					
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※集中講義中に実施										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	シラバスに基づく講義内容の解説／音楽教師に対するイメージと現実	予習: あらかじめシラバスを読んでおく。 復習: 授業で学んだことを文章でまとめる。
第2回	生徒を取り巻く社会的な状況(1): 高度情報社会、少子高齢化など	予習: テーマについて事前に調べておく。 復習: 授業で学んだことを文章でまとめる。
第3回	生徒を取り巻く社会的な状況(2): グローバル化、貧困問題と教育、学力問題など	予習: テーマについて事前に調べておく。 復習: 授業で学んだことを文章でまとめる。
第4回	学校教育現場の現状と課題(1): 多様な生徒や保護者への対応	予習: 授業内容に関して、自身の経験や報道等から見聞きしていることについてのメモを作成する。
第5回	学校教育現場の現状と課題(2): 部活動の現状、働き方改革の流れ	予習: 授業内容に関して、自身の経験や報道等から見聞きしていることについてのメモを作成する。
第6回	普通教育の音楽科と専門教育の音楽科の学習指導要領における位置付け	復習: 授業で学んだことを文章でまとめる。
第7回	教科教育としての音楽: 学習指導要領の趣旨	復習: 授業で学んだことを文章でまとめる。
第8回	部活動としての音楽: 学習指導要領上の位置付けと顧問の役割	復習: 授業で学んだことを文章でまとめる。
第9回	優れた音楽教師の理念と方法(1): 表現領域	予習: 歌唱、器楽、創作のうちいずれか一つの分野を選択し、やってみたい授業や扱いたい教材等について考える。 復習: 授業を通して学んだことを文章でまとめる。
第10回	優れた音楽教師の理念と方法(2): 鑑賞領域	予習: 鑑賞領域において、やってみたい授業や扱いたい教材等について考える。 復習: 授業を通して学んだことを文章でまとめる。
第11回	音楽教師に求められる資質・能力(1): 「音楽の専門性」の視点から	予習: 第9回、第10回の復習でまとめた文章を見返す。
第12回	音楽教師に求められる資質・能力(2): 「音楽の指導力・授業力」の視点から	予習: 第9回、第10回の復習でまとめた文章を見返す。
第13回	音楽教師に求められる資質・能力(3): 「学校組織の一員」の視点から	復習: 音楽教師に求められる資質能力について文章でまとめておく。
第14回	まとめ(1): 「学び続ける教師」の視点から	予習: 各回の授業内容を振り返る。 復習: 授業を通して学んだことを文章でまとめる。 (最終レポート①)
第15回	まとめ(2): 音楽教師になることを想定した今後の展望	予習: 各回の授業内容を振り返る。 復習: 授業を通して学んだことを文章でまとめる。 (最終レポート②)

科目名(クラス)	作品研究〔鍵盤〕A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)は履修不可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>19世紀ロマン派の時代から20世紀にかけてのピアノ音楽をテーマとし、作曲家たちの個性的な作風を時代様式と結びつけながら解説します。楽曲分析に加えて、同時代の文学・芸術との関わりにも触れていきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>19～20世紀のピアノ音楽の特徴を、時代様式と結びつけながら説明できる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、ディスカッション									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲分析に備えて、基礎的な音楽理論を習得しておくこと。 ・配布プリントを整理するファイル(A4版)を用意すること。 ・作品研究〔鍵盤〕Bと合わせて履修することが望ましい。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性(楽曲分析への取り組み等)50%、筆記試験50%</p>									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時00分～14時30分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	19世紀ピアノ音楽概説①	予習: ロマン派のピアノ音楽について調べる。 復習: 関心を持ったことについて詳しく調べる。
第2回	19世紀ピアノ音楽概説②	予習: ロマン派のピアノ音楽について調べる。 復習: 関心を持ったことについて詳しく調べる。
第3回	F.ショパン①	予習: ショパンについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第4回	F.ショパン②	予習: ショパンについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第5回	F.ショパン③	予習: ショパンについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第6回	R.シューマン①	予習: シューマンについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第7回	R.シューマン②	予習: シューマンについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第8回	R.シューマン③	予習: シューマンについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第9回	F.リスト①	予習: リストについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第10回	F.リスト②	予習: リストについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第11回	J.ブラームス①	予習: ブラームスについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第12回	J.ブラームス②	予習: ブラームスについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第13回	C.サン=サーンス①	予習: サン=サーンスについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第14回	C.サン=サーンス②	予習: サン=サーンスについて事典などで調べる。 復習: 関心を持ったことについて研究する。
第15回	まとめ	予習: 授業で学んだ作曲家、作品を整理する。 復習: 学んだことを他の作品研究に生かす。

科目名(クラス)	作品研究〔鍵盤〕B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)は履修不可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>19世紀ロマン派の時代から20世紀にかけてのピアノ音楽をテーマとし、作曲家たちの個性的な作風を時代様式と結びつけながら解説します。楽曲分析に加えて、同時代の文学・芸術との関わりにも触れていきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>19～20世紀のピアノ音楽の特徴を、時代様式と結びつけながら説明できる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、ディスカッション									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲分析に備えて、基礎的な音楽理論を習得しておくこと。 ・配布プリントを整理するファイル(A4版)を用意すること。 ・作品研究〔鍵盤〕Aと合わせて履修することが望ましい。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性(楽曲分析への取り組み等)50%、筆記試験50%</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時00分～14時30分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	作品研究とは何か	予習:シラバスに目を通しておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第2回	G.フォーレ①	予習:フォーレについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第3回	G.フォーレ②	予習:フォーレについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第4回	G.フォーレ③	予習:フォーレについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第5回	近代フランスのピアノ音楽④ C.ドビュッシー	予習:ドビュッシーについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第6回	C.ドビュッシー①	予習:ドビュッシーについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第7回	C.ドビュッシー②	予習:ドビュッシーについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第8回	M.ラヴェル①	予習:ラヴェルについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第9回	M.ラヴェル②	予習:ラヴェルについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第10回	M.ラヴェル③	予習:ラヴェルについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第11回	F.プーランク①	予習:プーランクについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第12回	F.プーランク②	予習:プーランクについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第13回	ロシアのピアノ音楽①	予習:ロシアのピアノ音楽について調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第14回	ロシアのピアノ音楽②	予習:ロシアのピアノ音楽について調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第15回	まとめ	予習:授業で学んだ作曲家、作品を整理する。 復習:学んだことを他の作品研究に生かす。

科目名(クラス)	作品研究〔管弦楽〕A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)は履修不可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>近代の管弦楽曲をテーマとし、作曲家像や作品の成立過程を解説した上で、楽曲分析を通してオーケストレーション等の手法を解き明かします。創作の背景となる文化・芸術との関わりにも触れていきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・近代の管弦楽曲について、作曲家像や作品の成立過程、オーケストレーション等の手法を説明できる。 ・創作の背景となる文化・芸術について説明できる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、ディスカッション									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲分析に備えて、基礎的な音楽理論を習得しておくこと。 ・配布プリントを整理するファイル(A4版)を用意すること。 ・作品研究〔管弦楽〕Bと合わせて受講することが望ましい。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業への積極性(楽曲分析への取り組み等)50%、筆記試験50%									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献	サン=サーンス:動物の謝肉祭(2020リニューアル版)	著者等	遠山菜穂美(解説)	出版社	全音楽譜出版社				
参考文献	ラヴェル:ボレロ	著者等	遠山菜穂美(解説)	出版社	全音楽譜出版社				
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時00分～14時30分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	作品研究とは何か	予習:シラバスに目を通しておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第2回	サン=サーンス:動物の謝肉祭①	予習:サン=サーンスについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第3回	サン=サーンス:動物の謝肉祭②	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第4回	サン=サーンス:動物の謝肉祭③	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第5回	ラヴェル:マ・メール・ロワ①	予習:ラヴェルについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第6回	ラヴェル:マ・メール・ロワ②	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第7回	ラヴェル:マ・メール・ロワ③	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第8回	ラヴェル:ラ・ヴァルス①	予習:ワルツについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第9回	ラヴェル:ラ・ヴァルス②	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第10回	ラヴェル:ラ・ヴァルス③	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第11回	ラヴェル:ボレロ①	予習:スペイン舞曲ボレロについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第12回	ラヴェル:ボレロ②	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第13回	ラヴェル:ボレロ③	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第14回	ラヴェル:ボレロ④	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第15回	まとめ	予習:授業で学んだ作曲家、作品を整理する。 復習:学んだことを他の作品研究に応用する。

科目名(クラス)	作品研究〔管弦楽〕B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員	履修対象・条件		Konzertfach(演奏専攻)は履修不可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>近代の管弦楽曲をテーマとし、作曲家像や作品の成立過程を解説した上で、楽曲分析を通してオーケストレーション等の手法を解き明かします。創作の背景となる文化・芸術との関わりにも触れていきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・近代の管弦楽曲について、作曲家像や作品の成立過程、オーケストレーション等の手法を説明できる。 ・創作の背景となる文化・芸術について説明できる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、ディスカッション									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲分析に備えて、基礎的な音楽理論を習得しておくこと。 ・配布プリントを整理するファイル(A4版)を用意すること。 ・作品研究〔管弦楽〕Aと合わせて受講することが望ましい。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業への積極性(楽曲分析への取り組み等)50%、筆記試験50%									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献	全音スコア「フランク:交響曲二短調」	著者等	遠山菜穂美(解説)	出版社	全音楽譜出版社				
参考文献	全音スコア「オネゲル:パシフィック231」	著者等	遠山菜穂美(解説)	出版社	全音楽譜出版社				
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時00分～14時30分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	作品研究とは何か	予習:シラバスに目を通しておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第2回	フランクとサン=サーンスの交響曲①	予習:サン=サーンスとフランクについて調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第3回	フランクとサン=サーンスの交響曲②	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第4回	フランクとサン=サーンスの交響曲③	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第5回	ラヴェル:スペイン狂詩曲①	予習:ラヴェルについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第6回	ラヴェル:スペイン狂詩曲②	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第7回	ラヴェル:スペイン狂詩曲③	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第8回	プーランク:シンフォニエッタ①	予習:プーランクについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第9回	プーランク:シンフォニエッタ②	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第10回	プーランク:シンフォニエッタ③	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第11回	オネゲル:パシフィック231①	予習:オネゲルについて調べておく。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第12回	オネゲル:パシフィック231②	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第13回	オネゲル:パシフィック231③	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第14回	オネゲル:パシフィック231④	予習:作品について調べる。 復習:関心を持ったことについて調べる。
第15回	まとめ	予習:授業で学んだ作曲家、作品を整理する。 復習:学んだことを他の作品研究に応用する。

科目名(クラス)	作品研究[オペラ]A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	伊藤 制子	実務家教員	履修対象・条件		声楽の【Konzertfach(演奏専攻)】は2年必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>オペラの誕生からベルカントオペラまでの歴史と音楽的特徴について解説します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>それぞれのオペラの特徴や歌唱のスタイルについて学び、各自の演奏や研究に役立てることを目標にします。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式ですが、ディスカッション、小テストなども予定しています。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>講義中の携帯電話、端末の使用は厳禁ですので、注意しましょう。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>講義中の取り組みの積極性40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。</p>									
教科書	なし			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	講義中に紹介します			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講義概要説明とアンケート調査	予習:シバラスの確認 復習:テーマについて調べる
第2回	オペラの誕生	予習:中世ルネサンス音楽史の概観 復習:カメラータの用語確認
第3回	モンテヴェルディとその周辺	予習:モンテヴェルディの生涯をしらべる 復習:『オルフェオ』の再確認
第4回	バロック時代の劇場と社会	予習:バロック音楽史の確認 復習:劇場文化をさらに調べる
第5回	モーツァルト1	予習:モーツァルトの生涯を調べる 復習:初期のオペラの確認
第6回	モーツァルト2	予習:3大オペラの筋の確認 復習:3大オペラの特徴の確認
第7回	モーツァルトと古典派オペラ	予習:古典派音楽史を調べる 復習:ベートーヴェン、ハイドンらの活動を再確認
第8回	ベルカントとその歌唱スタイル	予習:バロック歌唱の再確認 復習:ベルカントの歴史を再確認
第9回	ベッリーニとそのオペラ	予習:ベッリーニの生涯を調べる 復習:『愛の妙薬』の特徴を再度確認
第10回	ドニゼッティとそのオペラ	予習:ドニゼッティの生涯を調べる 復習:主要作品の確認
第11回	ベルカントオペラとマリア・カラス	予習:マリア・カラスの生涯を調べる 復習:マリア・カラスの出演作品の特徴を再確認
第12回	ロッシーニのオペラ1	予習:ロッシーニの生涯を調べる 復習:授業で取り上げた作品を再確認
第13回	ロッシーニのオペラ2	予習:新聞、イタリアのトルコ人の筋を調べる 復習:ロッシーニの歌唱様式を確認
第14回	音楽祭とオペラ	予習:音楽祭について調べる 復習:音楽祭の役割を再確認
第15回	小テストとまとめ	予習:テスト対策 復習:重要事項の確認

科目名(クラス)	作品研究[オペラ]B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	伊藤 制子	実務家教員	履修対象・条件		声楽の【Konzertfach(演奏専攻)】は2年必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>19世紀以後のオペラについて、その音楽的特徴について学びます。 また現代のオペラ界の現況などについても解説します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>オペラの特徴を理解し、自身の歌唱や研究に役立てることを目標にしています。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義が中心ですが、ディスカッション、小テストも予定しています。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>講義中の携帯電話、端末の使用は厳禁ですので、注意してください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>講義中の取り組みの積極性40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。</p>									
教科書	なし			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	講義中に紹介します			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	後期のガイダンス	予習:シバラスの確認 復習:テーマについて調べる
第2回	ヴェルディ1	予習:ヴェルディの生涯を調べる 復習:歌唱様式を確認しておく
第3回	ヴェルディ2	予習:主要オペラのあらすじを調べ 復習:中期のオペラの再確認
第4回	ヴァーグナーとその周辺	予習:ヴァーグナーの生涯を調べておく 復習:ヴァーグナーの影響を確認しておく
第5回	近代の仏オペラ	予習:近代仏音楽史再確認 復習:グノー、ドビュッシーらのオペラを再確認
第6回	プッチーニ1	予習:プッチーニの生涯を調べる 復習:歌唱様式を再確認しておく
第7回	プッチーニ2	予習:「ボエーム」「トスカ」の再確認 復習:「蝶々夫人」の特徴を理解する
第8回	オペラとバレエ	予習:バレエの歴史を調べておく 復習:仏オペラでのバレエの役割を再確認
第9回	ロシアオペラ	予習:チャイコフスキーの生涯を調べる 復習:「金鶏」「スベードの女王」の特徴を確認
第10回	ブリテンとイギリスオペラ	予習:20世紀イギリス音楽史を調べる 復習:「ピーター・グライムズ」の特徴を確認
第11回	リヒャルト・シュトラウス	予習:シュトラウスの生涯を調べる 復習:「ばらの騎士」の様式の確認
第12回	ベルクとその周辺	予習:ベルクの生涯を調べておく 復習:「ルル」「ヴォツェック」の確認
第13回	現代のオペラと劇場	予習:20世紀音楽史の概観 復習:アダムズ、デュサパンのオペラの確認
第14回	後期のまとめ	予習:前期に聞いて音楽を再度確認する 復習:小テストに備える
第15回	総括と小テスト	予習:前期に聞いた音楽を再度確認する 復習:小テストの再確認

科目名(クラス)	作品研究〔歌曲〕A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	伊藤 制子	実務家教員	履修対象・条件		声楽の【Konzertfach(演奏専攻)】は3年必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>日本歌曲とフランス歌曲について、その様式と歌唱の特徴について解説します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>主要なレパートリーについての知識を身につけ、それぞれの演奏に役立てることを目標にしています。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式ですが、ディスカッション、小テストも含まれます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>講義中に携帯電話、端末を使用することはできませんので、注意してください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>講義中の取り組みの積極性40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。</p>									
教科書	なし			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	講義中に紹介します。			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講義概要の説明と習熟度調査	予習:シバラスの確認 復習:テーマについて調べる
第2回	洋楽の黎明期と滝廉太郎	予習:滝廉太郎の生涯を調べる 復習:洋楽黎明期の歴史を確認しておく
第3回	山田耕筰とその周辺1	予習:山田耕筰の生涯を調べる 復習:山田の主要作を確認
第4回	山田耕筰とその周辺2	予習:山田の管弦楽作品について調べる 復習:山田作品の歌唱について再度確認する
第5回	山田耕筰とその周辺3	予習:童謡運動について調べる 復習:歌詞を再度読んで見る
第6回	小松耕輔、清水脩	予習:小松、清水の生涯を調べる 復習:小松、清水作品を再度聞く
第7回	中田喜直、別宮貞夫ほか	予習:中田、別宮の生涯を調べる 復習:詩人との関係を復習する
第8回	20世紀後半以後の日本歌曲	予習:戦後の創作史を調べる 復習:詩人との関係を復習する
第9回	フランス歌曲とその黎明期	予習:近代フランス音楽史を調べる 復習:フォーレの生涯を再度見直す
第10回	フォーレとその周辺	予習:ヴェルレーヌ、ユゴーについて調べる 復習:フランス語の発音を復習しておく
第11回	ドビュッシー、ラヴェル	予習:シバラスの確認 復習:テーマについて調べる
第12回	アーン、ショーソン、デュパルクほか	予習:アーン、ショーソン、デュパルクについて調べる 復習:詩人と歌曲の関係を見直す
第13回	プーランク、メシアンほか	予習:プーランク、メシアンについて調べる 復習:詩人と歌曲との関係を見直す
第14回	現代フランスの歌曲	予習:シャンソンについて調べる 復習:フランス語の発音を見直す
第15回	まとめと小テスト	予習:重要な歌曲を見直す 復習:主要な詩人を復習しておく

科目名(クラス)	作品研究〔歌曲〕B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	伊藤 制子	実務家教員	履修対象・条件		声楽の【Konzertfach(演奏専攻)】は3年必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
ドイツ歌曲とイタリア歌曲の歴史、主要作品の様式的な特徴について解説します。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
主要なレパートリーについての知識を深め、それぞれの演奏、研究に役立てることを目標にしています。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式ですが、ディスカッション、小テストも含まれます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
講義中は携帯電話、端末は使用できませんので、注意してください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
講義中の取り組みの積極性40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。									
教科書	なし			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	講義中に紹介します			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講義概要の説明と習熟度調査	予習:シバラスの確認 復習:テーマについて調べる
第2回	ドイツ歌曲の起源	予習:ドイツ語の発音の確認 復習:ドイツ詩の朗読を試みる
第3回	シューベルト1	予習:シューベルトの生涯を調べる 復習:「冬の旅」の特徴を理解する
第4回	シューベルト2	予習:ミュラーについて調べる 復習:「美しき水車小屋の娘」を再度聞いておく
第5回	シューマン1	予習:シューマンの生涯について調べる 復習:「詩人の恋」の特徴を確認する
第6回	シューマン2	予習:ゲーテ、ハイネについて調べる 復習:「女の愛と生涯」を再度聞いておく
第7回	ヴォルフ、ブラームス、マーラー	予習:ヴォルフ、ブラームスについて調べる 復習:主要作品を再度聞いておく
第8回	シュトラウス、ベルク	予習:シュトラウス、ベルクについて調べる 復習:和声の特徴を理解しておく
第9回	イタリア歌曲の起源	予習:イタリア語の発音の確認 復習:イタリア詩の特徴を理解する
第10回	19世紀前半のイタリア歌曲	予習:19世紀イタリア音楽史を確認 復習:主要作品の特徴を確認しておく
第11回	ヴェルディ、プッチーニ	予習:ヴェルディ、プッチーニの生涯を調べる 復習:主要作の特徴を理解しておく
第12回	レオンカヴァッロ、マスカーニほか	予習:20世紀イタリア音楽史を理解しておく 復習:主要作を再度聞いておく
第13回	トスティ	予習:トスティの生涯を理解しておく 復習:主要作を再度聞いておく
第14回	レスピーギ、チマーラ、ベリオ	予習:レスピーギの生涯を調べる 復習:各作品について特徴を理解しておく
第15回	まとめと小テスト	予習:重要な歌曲を見直す 復習:主要な詩人を復習しておく

科目名(クラス)	作品研究[様式学](konzertfach) I A・I B(1・2年)		開講学期	前後	単位数	各1単位	配当年次	1.2年			
担当教員	林 千尋	実務家教員	○	履修対象・条件		konzertfach専攻のみ履修可・必修<集中講義> (声楽konzertfachは選択)川越キャンパス・文京キャンパス、どちらかで実施					
【授業の概要】		(360文字以内)									
<p>優れた演奏家となる為には、「音楽的な響き」、それを支える「技術」、「音楽文法に基づく表現」と共に、「様式学」の知識と感性が求められる。本授業では、各時代や地域に共通した演奏法、表現法の実際を検証し、各様式に属する作品の楽想、響き、表現の原点を知り、それを現代の自己の演奏にどう取り入れたら良いかを考える。</p>											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
<p>各様式別に、歴史的な時代背景とその精神を理解する。同時代、同地域における他の芸術との比較により、そこに共通する感覚を理解し、当時の生活を想像できる。それと同時に、同時代、同地域に共通する「記譜法の規則」、書かれていない「演奏上の約束」と、それらが意図することを知ることによって、知性と感性の両面からアプローチする力を身につける。更に、現代の楽器との比較により、現時点での演奏への生かし方を裁量する力を身につける。</p>											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
文京・川越キャンパス、どちらかで実施(集中講義/1・2年合同)講義											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
<p>予備知識として過去300年間の世界史と芸術史を簡単に予習しておくことが望ましい。 様式学の授業で得た知識を自己の演奏表現に生かすことを心掛ける。</p>											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
演奏評価											
教科書		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) 授業終了後、またはウィーン研修時											
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 授業終了後、またはウィーン研修時											
【授業計画・内容・準備学習】											
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)							
I A	1	バロック			<p>予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習</p> <p>復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習</p>						

【授業計画・内容・準備学習】			
I A	2	バロック	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	3	古典①	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	4	古典②	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	5	ロマン派①	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	6	ロマン派②	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	7	印象派	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	8	近現代	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	I B	1	様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。
2		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
3		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
4		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
5		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
6		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
7		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
8		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習

科目名(クラス)	作品研究[様式学](konzertfach) ⅡA・ⅡB(3・4年)		開講学期	前後	単位数	各1単位	配当年次	3.4年			
担当教員	林 千尋	実務家教員	○	履修対象・条件		konzertfach専攻のみ履修可・必修<集中講義> (声楽konzertfachは選択)川越キャンパス・文京キャンパス、どちらかで実施					
【授業の概要】		(360文字以内)									
<p>優れた演奏家となる為には、「音楽的な響き」、それを支える「技術」、「音楽文法に基づく表現」と共に、「様式学」の知識と感性が求められる。本授業では、各時代や地域に共通した演奏法、表現法の実際を検証し、各様式に属する作品の楽想、響き、表現の原点を知り、それを現代の自己の演奏にどう取り入れたら良いかを考える。</p>											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
<p>各様式別に、歴史的な時代背景とその精神を理解する。同時代、同地域における他の芸術との比較により、そこに共通する感覚を理解し、当時の生活を想像できる。それと同時に、同時代、同地域に共通する「記譜法の規則」、書かれていない「演奏上の約束」と、それらが意図することを知ることによって、知性と感性の両面からアプローチする力を身につける。更に、現代の楽器との比較により、現時点での演奏への生かし方を裁量する力を身につける。</p>											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
文京・川越キャンパス、どちらかで実施(集中講義/1・2年合同)講義											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
<p>予備知識として過去300年間の世界史と芸術史を簡単に予習しておくことが望ましい。 様式学の授業で得た知識を自己の演奏表現に生かすことを心掛ける。</p>											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
演奏評価											
教科書		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) 授業終了後、またはウィーン研修時											
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 授業終了後、またはウィーン研修時											
【授業計画・内容・準備学習】											
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)							
I A	1	バロック			<p>予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習</p> <p>復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習</p>						

【授業計画・内容・準備学習】			
I A	2	バロック	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	3	古典①	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	4	古典②	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	5	ロマン派①	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	6	ロマン派②	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	7	印象派	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	8	近現代	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
	I B	1	様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。
2		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
3		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
4		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
5		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
6		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
7		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習
8		様式学の歴史的演奏法の文献を参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式がくがどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。	予習 様式について事前に調べなおし、取り上げる楽曲について演奏練習 復習 取り上げた以外の楽曲について調べ学習と演奏練習

科目名(クラス)	アジア音楽文化論			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	櫻田 素子 山下 暁子	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>日本の最も身近にあるアジアの音楽について、文化の中における音楽という観点から多角的にとらえて学びます。</p> <p>音楽に関するグローバルで総合的な知識を身につけ、西洋音楽とは異なる価値観や技法を理解することにより、音楽分析、演奏表現、指導法、学習法、作曲法、総合芸術のクリエイション、等、音楽に関わる技能習得の幅を広げます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>音楽文化の在り方をさまざまな視点から考察し、また、アジア各地域の代表的な音楽を識ることで、柔軟な音楽観を持つことができる。</p> <p>授業を通して得た知識や理解を、自らの考察の展開や音楽表現活動の実施・指導において活用し、幅広い可能性を創出することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、音源・映像資料の視聴、学生と講師によるディスカッション、実技、発表、また、グループ・ワークによるクリエイションも行う									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・講義や資料の視聴の際には、自らの感じたことや意見などもこまめにメモを取り、集中して考えながら授業にのぞむこと。 ・授業内で紹介する視聴覚資料や関連する音楽を、幅広くよく見聴きすること。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業内発表とレポート試験(50%)、毎回の授業におけるディスカッション等の発言内容や小発表および小レポート等の課題(50%)									
教科書	授業のための日本の音楽・世界の音楽 世界の音楽編	著者等	島崎篤子 加藤富美子		出版社	音楽之友社			
教科書	適宜プリントを配布します	著者等			出版社				
参考文献	民族音楽学12の視点	著者等	徳丸吉彦 監修 増野亜子 編		出版社	音楽之友社			
参考文献	はじめての世界音楽	著者等	柘植元一 塚田健一 編		出版社	音楽之友社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(14時10分～14時40分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに～音を聴く・音楽を聴く・身体と音楽～人々の生活の中にあるアジアの音楽	予習:シラバスを読み、各回の内容を確認しておく。「アジアの音楽」について自分の知っていることを確認しておく。 復習:授業で触れた事柄について文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第2回	文化の中の音楽(1)西アジア<デザインの美>	予習:西アジアの地理と歴史、人々の暮らしについて調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第3回	文化の中の音楽(2)南アジア<映画大国インド>	予習:南アジアの地理と歴史、人々の暮らしについて調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第4回	文化の中の音楽(3)東南アジア(インドシナ半島)<儀礼の国タイ>	予習:東南アジアのインドシナ半島地域の地理と歴史、人々の暮らしについて調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第5回	文化の中の音楽(4)東南アジア(インドシナ半島)<社会と音楽・カンボジアとベトナム>	予習:東南アジアのインドシナ半島の国々における近代・現代の状況について、調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第6回	文化の中の音楽(5)東南アジア(島嶼部)<地域コミュニティ・芸能の島バリ(インドネシア)>	予習:東南アジアの島嶼(とうしょ)部の地理と歴史、人々の暮らしについて調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第7回	文化の中の音楽(6)東アジア(中国)<楽譜・書物・シルクロード>	予習:中国の地理と歴史、人々の暮らしについて調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第8回	文化の中の音楽(7)東アジア(朝鮮半島)<大衆音楽K-POP>	予習:朝鮮半島の地理と歴史、人々の暮らしについて調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第9回	文化の中の音楽(8)東アジア(日本)<西洋音楽とアジア～明治・大正時代>	予習:日本の地理と歴史、人々の暮らしについて調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第10回	文化の中の音楽(9)東アジア(日本)<音楽のグローバル化～昭和時代以降>	予習:現代日本にはどのような音楽活動が存在しているかを調べ、考察しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第11回	異文化との接触・変容<アジア音楽の手法を取り入れたコミュニティ音楽指導にトライ>	予習:前回までの授業を通して感じられるアジアの音楽の特徴とは何か、授業資料を再確認し考察しておく。 復習:授業で取り組んだ音楽について反復練習しより良い表現方法を探る。
第12回	発表①<アジアの音楽文化をどのように生かすか>	予習:アジアの音楽の中から最も興味があるものを選び、文献、資料を調べ、発表する準備をする。 復習:自己の発表を検証し、指摘のあった点については再度考察し深める。また、各発表者の発表内容に関連する文献や資料を読み、考えを深める。
第13回	発表②<アジアの音楽文化をどのように生かすか>	予習:アジアの音楽の中から最も興味があるものを選び、文献、資料を調べ、発表する準備をする。 復習:自己の発表を検証し、指摘のあった点については再度考察し深める。また、各発表者の発表内容に関連する文献や資料を読み、考えを深める。
第14回	発表③<アジアの音楽文化をどのように生かすか>	予習:アジアの音楽の中から最も興味があるものを選び、文献、資料を調べ、発表する準備をする。 復習:自己の発表を検証し、指摘のあった点については再度考察し深める。また、各発表者の発表内容に関連する文献や資料を読み、考えを深める。
第15回	まとめ～アジアの音楽文化から学べるもの	予習:これまでの授業内容を振り返り、疑問点や自分の意見をまとめてくる。 復習:授業で取り組んだ音楽に関連する文献や資料を読み、考えを深める。

科目名(クラス)	音楽と仕事		開講学期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	田中 健次	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修		
【授業の概要】		(360文字以内)					
<p>「音楽を勉強しても就職が…？」と思う人も多いでしょうが、現代社会はますます「音楽」を必要としているのです。しかし、かつて社会がもつめた音楽的職能や技術と、現代社会のそれらとは大きく異なっていることは事実です。本授業では現代社会(とくに音楽産業界)が求めている音楽的職能や技術の全体像と、音楽産業を形成する各種産業で必要とされるそれらについて把握し、履修者の学ぶ音楽分野との関係性や履修者自身のキャリア形成に機軸をおき考察・理解します。将来教職をめざす履修者にとっても、「学校」を取りまく社会の音楽文化やその活動を知る機会になります。なお授業では音楽産業の現場(エンターテインメント系、音楽通信系他)にいる関係者にも参加してもらい、受講者との情報交換ができればと計画しています。</p>							
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)					
<p>本授業の目標は次の三点です。①履修者が音楽産業の全体像とそれを構成する各種音楽産業の現在と未来について理解する。②グループワークを通して、履修者が学ぶ音楽分野と各種音楽産業との関係性について理解する。③履修者自身がこれから身に付けるべき音楽的能力や技能について気づく。</p>							
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)					
<p>講義と演習。演習ではグループワークを経た個人発表等を行います。</p>							
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)					
<p>演習ではグループワークを取り入れているため、授業を欠席しないこと。継続性あるグループワークのため、欠席するとその内容の把握がむずかしくなります。</p>							
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)					
<p>講義では、その理解度を問う小テストを各授業で実施し、それを評価します(30%)。グループワークではそれぞれのワークで作成されたデータ等を評価します(30%)。また、グループワークを経ての個人発表を評価するとともに、最終レポートの提出を課し(40%)、総合的に評価します。</p>							
教科書	授業に関連する資料は随時配布する。			著者等			出版社
教科書				著者等			出版社
参考文献	『現代日本社会における音楽』			著者等	月溪恒子他	出版社	放送大学教育振興会:2011
参考文献	『ハーバード大学は「音楽」で人を育てる』			著者等	菅野恵理子	出版社	ARTES出版:2015
【オフィスアワー】							
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※集中講義期間中に実施							
②時間帯(時 分 ~ 時 分)							

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	シラバスをもちいたガイダンス	第2回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第2回	音楽産業とはなにか？ その全体像を理解する	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第3回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第3回	録音メディア産業の歴史と必要とされる技術、人材、その現状	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第5回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第4回	録音コンテンツ産業の歴史と必要とされる技術、人材、その現状	復習: 授業の振り返りのためのレポートを課します。 予習: 第5回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第5回	楽器産業の歴史と現在必要とされる技術、人材、その現状	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第6回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第6回	カラオケ産業の歴史と必要とされる技術、人材、その現状	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第7回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第7回	音楽教育産業の歴史と必要とされる技術、人材、その現状	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第8回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第8回	音楽ネットワーク産業の歴史と必要とされる技術、人材、その現状	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第9回で扱う「録音産業」に関する資料を事前に渡しますので、それに目を通しておいてください。
第9回	履修者(グループ)による音楽産業(特に録音産業)に関する研究発表と討議①	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第10回で扱う「楽器産業」に関する資料を事前に渡しますので、それに目を通しておいてください。
第10回	履修者(グループ)による音楽産業(特に楽器産業)に関する研究発表と討議②	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第11回で扱う「カラオケ産業」に関する資料を事前に渡しますので、それに目を通しておいてください。
第11回	履修者(グループ)による音楽産業(特にカラオケ産業)に関する研究発表と討議③	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第12回で扱う「音楽ネットワーク産業」に関する資料を事前に渡しますので、それに目を通しておいてください。
第12回	履修者(グループ)による音楽産業(特に音楽ネットワーク産業)に関する研究発表と討議④	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。
第13回	社会が音楽に求めること、音楽が社会を支えること	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。
第14回	キャリア形成のために①	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。
第15回	キャリア形成のために②	レポート提出

科目名(クラス)	合唱 I・II A			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	荻久保 和明	実務家教員	○	履修対象・条件	1年、2年合同。ABともに必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・合唱という音楽表現形態の中で音楽する喜びを追求する。正しいヴォイストレーニングによってハーモニーし得る声という楽器を作り、音取り、パート練習、アンサンブルという流れの中で合唱でなければ表現できない音楽的美しさを体験する。(今年度は、2020年を記念して、世界の国家とその国を代表する曲をコラボした新アレンジをテキストにする)</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・ひびきの高いポジションでかがやかしいハーモニーを作り、パート間とエレクトーンの間でバランスを取り、さらに音色を変化させることにより、音楽のあるべき姿を追求することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・体操、ヴォイストレーニング、音取り、パート練習、アンサンブル、これにつきる。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・指揮者がひとたび“表現する”というゾーンに入った時には緊張感をもって指揮をみること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・合唱完成への努力目標達成度(40%) ・声作りの努力目標達成度(30%) ・アンサンブル能力の向上達成度(30%)</p>									
教科書	2020・世界の音楽			著者等	荻久保和明	出版社	コピー譜を配布		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	パート分け、体操の仕方、ヴォイストレーニングの方法、その他のオリエンテーション	
第2回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第3回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第4回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第5回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第6回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第7回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第8回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第9回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第10回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第11回	ピアノ伴奏とのアンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第12回	ピアノ伴奏とのアンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第13回	ピアノ伴奏とのアンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第14回	ピアノ伴奏とのアンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第15回	まとめ、全体を通して授業をふり返る	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること

科目名(クラス)	合唱 I・II B			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	荻久保 和明	実務家教員	○	履修対象・条件	1年、2年合同。ABともに必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・合唱 I・II A(前期)の練習を踏まえて定期演奏会での研究成果発表に臨む。つまり、合唱表現とは指揮者の内面にどれだけ大きく強い何かがあり、それを正しく歌う者に伝え、聞く者に届け、そこに感動という形で確かなものを実らせることができるかということにつける。(今年度は、2020年を記念して、世界の国家とその国を代表する曲をコラボした新アレンジをテキストにする)</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・各自、自分のパートを歌いながら、エレクトーンやピアノの音に耳を聞き、音楽を立体的に捉えることができる。それぞれの曲の持つ音楽的意図を把握しつつ、指揮者の求める表現するものの大きさを理解し、共に音楽する喜びをわかち合える。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>・体操、ヴォイストレーニング、音取り、パート練習、アンサンブル、これにつける。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・指揮者がひとたび“表現する”というゾーンに入った時には緊張感をもって指揮をみること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・合唱完成への努力目標達成度(40%) ・声作りの努力目標達成度(30%) ・アンサンブル能力の向上達成度(30%)</p>									
教科書	2020・世界の音楽			著者等	荻久保和明	出版社	コピー譜を配布		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージをすること
第2回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージをすること
第3回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージをすること
第4回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージをすること
第5回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージをすること
第6回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージをすること
第7回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージをすること
第8回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージをすること
第9回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージをすること
第10回	定期演奏会での発表	自分のパートの音取りとイメージをすること
第11回	反省会	1人1人感想を発表する
第12回	次年度に向けての練習	自分のパートの音取りをしてくること
第13回	次年度に向けての練習	自分のパートの音取りをしてくること
第14回	次年度に向けての練習	自分のパートの音取りをしてくること
第15回	まとめ、今年度の授業をふり返る	自分のパートの音取りをしてくること

科目名(クラス)	合唱Ⅲ IVA (歌唱指導法・日本の伝統的歌唱を含む)		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	山崎 正彦	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者必修科目			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目では音楽科授業での合唱指導を想定して、生徒の意欲と思考力、判断力、表現力を高める学習活動のあり方を学修します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 合唱指導における発声練習、及び読譜指導の方法を学ぶとともに、集団を対象とする指導ならではの課題について理解します。また、その対応策について、討議を通して理解を深めていきます。 創意工夫段階における合唱指導を想定し、生徒の主体性を引き出すための指導法について学修します。 日本の伝統歌唱について講義と演習を通して学びます。 								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力	○	自己管理能力・チームワーク
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> 集団を対象とする発声指導及び読譜指導における課題を理解し、それらをふまえた効果的な指導法を身につける。 模擬指導を通して、生徒の主体性を生かした合唱指導の効果的な進め方を身につける。 伝統的歌唱の特徴を理解して、それを生かして指導することができる 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義と演習(模擬指導)及び、模擬指導についての学生同士のディスカッション。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
教育現場での活動と指導を想定していることから、生徒の前に立つ教員であるという意識をもつことが不可欠です。受講者としてではなく、「この科目では自分は教師である」とする心得で授業に臨んでください。授業は定時に始まります。携帯電話の電源を切り、その都度指定する席順で授業を受けてください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に臨む態度(基準:ワークシートの記述内容を対象として、授業内容との整合性と自らの判断の2点を満たしていること)30% 2. 模擬指導の実践状況(基準:発声練習及び読譜指導における指示や働きかけが適切であり学習者の意欲を引き出していること)50% 3. 最終レポートの内容に基づく評価(基準:授業内容との整合性と自らの価値判断に基づく考察の2点を満たしていること)20% 								
教科書	中学生の音楽1、2. 3上、2. 3下			著者等		出版社	教育芸術社	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	必要に応じて配付します。			著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(13 時 00分 ~ 14 時 00分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業の説明 (受講に際しての留意点の確認と授業スケジュールの説明)	予習: 自らの合唱経験について発表できるようにしておく。 復習: 授業の留意点について自らの意味づけを図る(ワークシート)
第2回	中学校教科書に掲載されている合唱曲を概観 (常用されている音域を確認し、発声練習における音域を確認する)。	予習: 自らが考える合唱の魅力について説明できるようにしておく。 復習: 他者が語った合唱の魅力についてまとめる(ワークシート)。
第3回	集団を対象とする発声練習における留意点と様々な発声練習の方法について	予習: 自らが経験してきている発声練習の仕方について発表できるようにしておく。 復習: 本時で触れた様々な発声練習についてまとめる(ワークシート)。
第4回	発声練習の演習①	予習: 自らが行う発声練習の練習の根拠について説明できるようにしておく。 復習: 授業内で確認できた成果と課題とをまとめる(ワークシート)。
第5回	発声練習の演習②	予習: 自らが行う発声練習の練習の根拠について説明できるようにしておく。 復習: 授業内で確認できた成果と課題とをまとめる(ワークシート)。
第6回	読譜指導の演習① (移動ド唱法への習熟)	予習: 固定ド唱法と移動ド唱法の違いについて説明できるようにしておく。 復習: 移動ド唱法に慣れておく。
第7回	読譜指導の演習② (読譜指導における諸課題についての理解と対策)	予習: 読譜段階における課題についての自らの考えをまとめておく。 復習: 授業内で確認できた読譜指導についての諸課題についてまとめる(ワークシート)。
第8回	読譜指導の演習③ (合唱用楽曲を用いての読譜指導演習)	予習: 前時に予告された楽曲について読譜に焦点を当て研究をして。 復習: 授業内で確認できた成果と課題についてまとめる(ワークシート)。
第9回	読譜指導の演習④ (合唱用楽曲を用いての読譜指導演習)	予習: 前時に予告された楽曲について読譜に焦点を当て研究をしておく。 復習: 授業内で確認できた成果と課題についてまとめる(ワークシート)。
第10回	合唱場面を想定した模擬指導用の合唱曲(4分の4拍子曲)の読譜 (演習を兼ねて)①	予習: 移動ド唱法で歌えるようにしておく。 復習: 各パートについて習熟しておく。
第11回	合唱場面を想定した模擬指導用の合唱曲(4分の3拍子曲)の読譜 (演習を兼ねて)②	予習: 移動ド唱法で歌えるようにしておく。 復習: 各パートについて習熟しておく。
第12回	合唱場面を想定した模擬指導用の合唱曲(8分の6拍子曲)の読譜 (演習を兼ねて)③	予習: 移動ド唱法で歌えるようにしておく。 復習: 各パートについて習熟しておく。
第13回	合唱場面を想定した模擬指導用の合唱曲の読譜(まとめ) (演習を兼ねて)④	予習: 移動ド唱法で歌えるようにしておく。 復習: 各パートについて習熟しておく。
第14回	日本の伝統的歌唱について	予習: 日本の伝統的歌唱について自らの経験を発表できるようにしておく。 復習: 授業時に紹介された「唱歌(口唱歌)」について復習をしておく。
第15回	日本の伝統的歌唱について(復習とまとめ) 授業内レポート	予習: 前時の課題への対応を考えておく。 復習: 本時までの成果と課題についてまとめる(ワークシート)。

科目名(クラス)	合唱Ⅲ IVB (歌唱指導法・日本の伝統的歌唱を含む)		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	山崎 正彦	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者必修科目			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目では音楽科授業での合唱指導を想定して、効果的な学習活動のあり方について学修します。 ・合唱指導での創意工夫に向けた具体的な方策について合唱指導場面を想定した模擬指導を通して学びます。 期間を通して重点をおくのは次の3点です。①音楽科教員として身につけておくべき効果的な発問の仕方②音楽の諸要素及び歌詞の意味を視点とする創意工夫の方法③指導者の思い描く曲想づくりを視点とする指導方法。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>・歌唱表現の創意工夫について、音楽の諸要素及び、歌詞の意味を視点としての思いや意図を明確にもち、指導内容を明確にすることができる。 ・指導内容を充足させるための適切な学習活動を想定して模擬指導を行うことができる。 ・模擬指導に際して効果的な発問で学習者の意欲を喚起することができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義と演習(模擬指導)及び、模擬指導についての学生同士のディスカッション。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>模擬指導を想定していることから、生徒の前に立つ教員であるという意識をもつことが不可欠です。受講者としてではなく、「この時間は教師になろう」とする心得で授業に臨んでください。授業は定時に始めます。携帯電話の電源を切り、その都度指定する席順で授業を受けてください。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>1. 授業に臨む態度(基準:ワークシートの記述内容を対象として、授業内容との整合性と自らの判断の2点を満たしていること)30% 2. 模擬指導の実践状況(基準:創意工夫の視点が確認できることと、それを具現化する発問が適切であり、学習者の意欲を引き出していること)50% 3. 最終レポートの内容に基づく評価(基準:授業内容との整合性と自らの価値判断に基づく考察の2点を満たしていること)20%</p>								
教科書	中学生の音楽1、2. 3上、2. 3下			著者等		出版社	教育芸術社	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	必要に応じて配付します。			著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(13時 00分 ~ 14時 00分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	合唱模擬指導の準備 (その意義と留意点の確認)	予習: 読譜が済んでいる3曲の復習 復習: 次時からの演習の準備
第2回	4分の4拍子曲の合唱模擬指導① (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第3回	4分の4拍子曲の合唱模擬指導② (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第4回	4分の4拍子曲の合唱模擬指導③ (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第5回	4分の4拍子曲の合唱模擬指導④ (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第6回	4分の3拍子曲の合唱模擬指導① (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第7回	4分の3拍子曲の合唱模擬指導② (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第8回	4分の3拍子曲の合唱模擬指導③ (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第9回	4分の3拍子曲の合唱模擬指導④ (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第10回	8分の6拍子曲の合唱模擬指導① (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第11回	8分の6拍子曲の合唱模擬指導② (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第12回	8分の6拍子曲の合唱模擬指導③ (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第13回	8分の6拍子曲の合唱模擬指導④ (1人約15分間の模擬指導と討議×4)	予習: 創意工夫の視点と発問を事前に明らかにしておく。 復習: 本時の討議事項をまとめる (ワークシート)。
第14回	模擬指導の成果と課題のまとめ(個別及びグループ)①	予習: 模擬指導の成果と課題についてグループ 内で発表できるようにしておく。 復習: 本時で確認できた成果と課題について まとめる(ワークシート)。
第15回	模擬指導の成果と課題のまとめ(まとめ)② 授業内レポート	予習: 模擬指導の課題についての改善策を全体 に発表できるようにしておく。 復習: 本授業で成果と課題についてまとめる (ワークシート)。

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) I～IV〔弦楽器〕		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4	
担当教員	白井 英治	実務家教員	○	履修対象・条件		ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)			
【授業の概要】		(360文字以内)							
アンサンブルをする為に必要な要素を知り、その為の音楽的、技術的な面の基礎を学んで頂く。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
主に古典のハイドン・モーツァルトの室内楽を取りあげ、アンサンブルの基礎を学び、同時にオーケストラ・スタディも取りあげ、より幅広い表現方法を身につける。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
二重奏以上の編成で実際に演奏しながら学ぶ。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
濃くて消しやすい鉛筆(2B～4B)と消しゴムは必ず用意する事。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学習成果・受講態度等を総合的に判断する。									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13 時 30 分 ～ 14 時 30 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ハイドン・モーツァルトの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第2回	ハイドン・モーツァルトの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第3回	ハイドン・モーツァルトの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第4回	ハイドン・モーツァルトの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第5回	ハイドン・モーツァルトの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第6回	ハイドン・モーツァルトの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第7回	ベートーヴェンの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第8回	ベートーヴェンの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第9回	ベートーヴェンの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第10回	ベートーヴェンの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第11回	ドヴォルザークの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第12回	ドヴォルザークの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第13回	ドヴォルザークの作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第14回	ドビュッシー・ラベルほか近現代の作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく
第15回	ドビュッシー・ラベルほか近現代の作品	授業で取り上げる曲の 予習・復習・譜読みをしておく

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) I～IV〔フルート〕		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4	
担当教員	岩間 丈正	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>小編成のアンサンブル及び特殊フルートが含まれるフルートアンサンブルを行い、将来フルートオーケストラで演奏するための基礎を習得する。最後の授業で各アンサンブルの発表を行う。また、オーケストラ等のオーディションに備えて、オーケストラスタディも行う。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>アンサンブル能力を身につける。全ての特殊フルートに精通する。オーケストラスタディも経験する。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>アンサンブル形式。オーケストラスタディはグループレッスン形式。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>各自が全体の一員である事を自覚し、必ず事前練習をして授業に臨む事。 音源が入手できる曲は授業前に必ず聴いておく事。特にオーケストラスタディは十分に準備して授業に参加すること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極的な参加、アンサンブル能力、事前練習、合奏に対する意欲、またオーケストラスタディの習得度、期末の授業内で発表会等を総合的に評価する。</p>									
教科書	授業内で指示する			著者等			出版社		
教科書	授業内で指示する			著者等			出版社		
参考文献	授業内で指示する			著者等			出版社		
参考文献	授業内で指示する			著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ～ 時 分)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス及びアンサンブル組み分け及び曲決め。 オーケストラスタディの課題発表。	アンサンブル演奏希望曲を事前に確認すること。
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回	小編成のアンサンブルをいくつかのグループに分かれて行う。 オーケストラやウインドオーケストラの音楽教室等の公欠により、授業計画が変更になる場合がある。 オーケストラスタディについては事前に課題を与える。	アンサンブルについては、各自個人練習及び各グループの自主練習の徹底。オーケストラスタディについては、グループレッスン形式を取るが、実際には一人ずつ演奏させるため、アンサンブル同様、事前に個人練習をしっかりと行うこと。
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回	各グループごとに授業内で発表する。	アンサンブル能力の確認。

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) I～IV[オーボエ]		開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	松岡 裕雅	実務家教員	○		履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)		
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>オーボエの長所、短所を理解しながら、アンサンブルの技術を学んでいきます。オーボエのみのアンサンブルの可能性もふくらませていきます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>少ないオーボエのみの作品を研究するにとどまらず、新しく自分たちのレパートリーになりうる作品の開拓もしていきます。 知識の上に演奏上の技術も習得していきます。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
演奏及び作品研究。研究発表会を行う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
自分から疑問を解決していく習慣を作る。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
授業における積極性 75% オーボエの知識の習熟度 25%								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								
②時間帯(時 分 ～ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	既存の作品の研究①(アンサンブル) ベートーヴェン、トリオなど	予習、復習について説明します
第2回	既存の作品の研究②	準備に対する考え方のチェック
第3回	既存の作品の研究③	新しいテーマを創造していきます
第4回	既存の作品の研究④ オーケストラ・スタディ①	オーケストラ等の代表的な課題を学んでいきます
第5回	既存の作品の研究⑤ オーケストラ・スタディ②	平行して新しいレパートリーの創造も進めます
第6回	既存の作品の研究⑥ オーケストラ・スタディ③	新しいレパートリーの楽譜を作っていきます
第7回	既存の作品の研究⑦ オーケストラ・スタディ④	楽譜を作っていくにあたって狭い音域の中でのアレンジにおける配置を学びます
第8回	既存の作品の研究⑧ オーケストラ・スタディ⑤ 新譜の作成(アンサンブル)	既存のアンサンブル作品と自分たちで想像していく作品との比較
第9回	既存の作品の研究⑨ オーケストラ・スタディ⑥ 新譜の作成(アンサンブル)	実際の演奏上おこる問題の認識
第10回	既存の作品の研究⑨ オーケストラ・スタディ⑥ 新譜の作成(アンサンブル)	問題の認識及び解決法
第11回	既存の作品の研究⑨ オーケストラ・スタディ⑥ 新譜の作成(アンサンブル)	解決法及びその考え方
第12回	既存の作品の研究⑨ オーケストラ・スタディ⑥ 新譜の作成(アンサンブル)	オーボエ、アンサンブルにおけるメリット、デメリットの整理
第13回	既存の作品の研究⑨ オーケストラ・スタディ⑥ 新譜の作成(アンサンブル)	オーケストラ・スタディのレパートリーの充実
第14回	既存の作品の研究⑨ オーケストラ・スタディ⑥ 新譜の作成(アンサンブル)	新しいアンサンブルの創造の実演
第15回	まとめ	演奏上の留意点は、たくさんありますが、それに自ら気づける様になっていくこと

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) I～IV[クラリネット]		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員	松尾 賢一郎	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>・クラリネット三重奏を組み、演奏会に向けて楽曲の選択から仕上げまでのプロセスを学びます。 ・クラリネットは移調楽器であるため、オーケストラ譜に時々ある“Clarinet in C”という表記は読替えて演奏する必要があります。弦楽二重奏等を用いてト音記号のみならず、ヘ音記号や主にヴィオラの譜面に使われるハ音記号からも読替えができるようにトレーニングします。 ・オーケストラ授業で取り上げる曲を学びます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>小さなアンサンブルを通し各々が持つ積極性、運営力やコミュニケーション力を使い、表現力のある完成度の演奏会をすることができる。 オーケストラでの演奏に於いて必要な楽器間のバランスや音を出すタイミングを習得し、実演に生かすことができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>聴講生を意識したレッスン形式で行います。 オーケストラ・スタディの曲目は開講時にリストを配布します。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>必ず事前に譜読みし、音源がある曲はスコア等を見ながら聴く等、楽曲に取り組む基本姿勢を厳守してください。また、アンサンブル授業の性質上、パートが決まっている曲の欠席は厳禁とします。アンサンブルの合わせは各々日程調整をし、音楽をする者同士として各学年同等の意見交換を行うようにしてください。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への積極性(楽曲への取り組み方等)50% まとめで行うクラリネット・アンサンブル発表会での演奏50%</p>								
楽譜	W.A.Mozart/Kegelduette KV487			著者等		出版社	Schott	
楽譜	L.v.Beethoven/Streichtrios, Streichduo			著者等		出版社	Henle	
楽譜	Y.Desportes/French Suite			著者等		出版社	Southern music co.	
楽譜	A.Borodin/String Quartet No.2			著者等		出版社	M.P.Belaieff	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(19 時 10 分 ～ 時 分)授業後								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	シラバスを使った授業の概要と到達目標の解説 [授業で取り上げる全ての楽曲を知る]	予習: シラバスを事前に読んで各楽曲の楽譜を見ておく 復習: 各楽曲の理解を深める
第2回	Duoと移調のトレーニング Mozart/Kegelduette KV487 No.2, 4, 5及びBeethoven/Streichduo WoO32 Menuetto	予習: Mozart/Kegelduetteの譜読みをする 復習: 移調して演奏することに慣れる
第3回	移調のトレーニングを含めた音楽作り① Beethoven/Streichtrio Op.9-3 1, 2楽章	予習: 予め決められたパートの譜読みをする 復習: 練習及びスコアを読込む
第4回	移調のトレーニングを含めた音楽作り② Beethoven/Streichtrio Op.9-3 1, 2楽章	予習: 自分のパートだけではなく他のパートを理解する 復習: スコアを見て理解を深める
第5回	オーケストラ・スタディ① 主に前期オーケストラ授業で取り上げる曲を中心に行う	予習: 全ての曲を学習し練習する(パートは指定) 復習: いつでもオーケストラ授業で演奏できるようにする
第6回	オリジナルクラリネット四重奏曲① Y.Desportes/French Suiteのリハーサル	予習: 予め決められたパートの譜読みをする 復習: 練習及びスコアを読込む
第7回	オリジナルクラリネット四重奏曲② Y.Desportes/French Suiteのリハーサル	予習: 予め決められたパートの譜読みをする 復習: 練習及びスコアを読込む
第8回	二組の三重奏団のリハーサル① 任意の楽曲のリハーサル	予習: 予め組んだ三重奏団でのリハーサル 復習: 発表会(まとめ)に向けて完成度を上げる
第9回	Borodin/String Quartet No.2 III.Notturmoのリハーサル①	予習: 予め決められたパートの譜読みをする 復習: 練習及びスコアを読込む
第10回	二組の三重奏団のリハーサル② 任意の楽曲のリハーサル	予習: 予め組んだ三重奏団でのリハーサル 復習: 発表会(まとめ)に向けて完成度を上げる
第11回	Borodin/String Quartet No.2 III.Notturmoのリハーサル②	予習: 自分のパートだけではなく他のパートを理解する 復習: スコアを見て理解を深める
第12回	オーケストラ・スタディ② 主に後期オーケストラ授業で取り上げる曲を中心に行う	予習: 全ての曲を学習し練習する(パートは指定) 復習: いつでもオーケストラ授業で演奏できるようにする
第13回	Borodin/String Quartet No.2 III.Notturmoのリハーサル③	予習: 完成度を上げる練習をしスコアを覚えていく 復習: 更に完成度を上げる練習をしスコアを覚える
第14回	二組の三重奏団とBorodin/String Quartet No.2 III.Notturmoの通しリハーサル	予習、復習: 各曲共に練習を重ね完成度の高い演奏を目指す
第15回	まとめ クラリネット・アンサンブル発表会	予習: 各曲共に練習を重ね完成度の高い演奏を目指す 復習: 全てのプロセスを見直し今後役に立てる

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) I～IV[ファゴット]		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4	
担当教員	浅野高瑛	実務家教員	○		履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・ファゴット同士での二重奏を始めとしたアンサンブルの学習と実践。 ・楽器を用いたソルフェージュ的及び理論的な学習。 ・個々人の学年や習熟状況に応じたオーケストラスタディ(ソロ及びソリ)。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・同族楽器アンサンブルを通して、楽器としての「響き」とらえる。 ・「響き」から音程感覚を習得していき、個々人の向上だけでなく、室内楽やオーケストラ・ウィンドオーケストラでの実践につなげることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>アンサンブル:課題楽曲の実践。自分が吹くだけでなく、他の学生の演奏を聴くことも重要。 オーケストラスタディ:オーケストラ曲の中の重要な部分を抜き出し、ソロ及びソリでの実践を行う。 ※ 課題楽曲は履修学生の習熟度に応じて提示する。事前にその曲を個人練習及び合わせをしてくること。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>課題楽曲に対して、個々人の練習とともに、仲間と合わせる機会を授業時間外で設けること。 1回の授業で与えられた様々な課題を、その他の6日間でどれだけ消化できるかが重要であり、ただ週に1回の授業に参加すれば良いということではない。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・毎回の授業への取り組み、個々に与えられた課題を、それぞれがどれだけ理解しようと努め、自分なりに消化し、自分のものにしようと努力してきたかを総合的に評価する。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※実施曜日を○で囲って下さい。									
②時間帯(17時 30 分 ～ 19 時 00 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ファゴット同士でのアンサンブルを学ぶにあたってのイントロダクション「響き」とは何か。	
第2回	二重奏(1)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第3回	二重奏(2)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第4回	二重奏(3)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第5回	二重奏(4)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第6回	二重奏(5)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第7回	三重奏(1)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第8回	三重奏(2)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第9回	三重奏(3)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第10回	三重奏(4)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第11回	四重奏・五重奏(1)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第12回	四重奏・五重奏(2)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第13回	四重奏・五重奏(3)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第14回	四重奏・五重奏(4)	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。
第15回	まとめ:教室での小さな発表会	個々人の練習、仲間との合わせを行う。授業内で浮かび上がった課題について、自分なりに消化しようと努力する。

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブルf (含オーケストラ・スタディ) I～IV[サクソフォン]		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4	
担当教員	佐々木 雄二	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>サクソフォンアンサンブル(主に四重奏)の授業を通して、演奏技術・表現能力・各演奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることが目的です。 サクソフォンアンサンブルのためには、四重奏をはじめ数多くの曲が作られ、またアレンジされています。新作の発掘と演奏会でよく取り上げられる作品を勉強します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>ソプラニーノ、ソプラノ、アルト、テナー、バリトン、バスと各パートの音の動きを聴きながら、各奏者間でコミュニケーションを取り、曲作りをすることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>サクソフォンだけのアンサンブル授業になります。東邦祭までは全てのサクソフォン、それ以降はソプラノ、アルト、テナー、バリトンで四重奏の演奏研究をします。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>受け持つパート譜、楽譜はしっかりと読み練習して授業に臨んで下さい。スコアを読んで曲の構成を理解しましょう。作曲家や時代背景も研究し、より芸術性を高めた演奏を目指します。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への取り組み(40%)、授業内容の理解度(30%)、実践力・応用力[30%)等、総合的に評価します。</p>									
教科書	その都度こちらで準備します。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 9月までの授業内容の説明 東邦祭までの各アンサンブルパート決め	事前準備として、パート譜の譜読みをしっかりと行って来ること。
第2回	バロック時代の合奏協奏曲 コレルリやビバルディの作品より選曲し、合奏練習1回目	スコアを見ながらオリジナル曲の音源を聴き、曲全体のイメージを知ること。
第3回	バロック時代の合奏協奏曲 第2回目で選曲した作品の合奏練習2回目	他パートについても理解し、連動できるように準備する。
第4回	四重奏団体決め、曲決め 各自の受け持つパート決め	各自が受け持つパート譜を読みながら音源を聴くこと。
第5回	四重奏演奏表現研究 主にSopとBariの外声部の音の流れを理解する	各自スコアを読む。 外声部であるSopとBariの合わせ練習をしておくこと。
第6回	四重奏演奏表現研究 主にAltとTenの内声部の音の流れを理解する	各自スコアを読む。 AltとTenの合わせ練習をしておくこと。
第7回	四重奏演奏表現研究 主にSopとAltの組み合わせでの音色やハーモニーを演奏しながら聴き取る	各自スコアを読む。 SopとAltの合わせ練習をしておくこと。
第8回	四重奏演奏表現研究 主にSopとTenの組み合わせで音色やハーモニーを演奏しながら聴き取る	各自スコアを読む。 SopとTenの合わせ練習をしておくこと。
第9回	四重奏演奏表現研究 主にAltとBariの組み合わせでの音色やハーモニーを演奏しながら聴き取る	各自スコアを読む。 AltとBariの合わせ練習をしておくこと。
第10回	四重奏演奏表現研究 主にTenとBariの組み合わせでの音色やハーモニーを演奏しながら聴き取る	各自スコアを読む。 TenとBariの合わせ練習をしておくこと。 第5回から第10回は順不動可。
第11回	四重奏演奏表現研究 主にSopとBariの外声部の音とAltの音を重ねた響きを演奏しながら聴く	各自スコアを読む。 Sop,Alt,Bariの合わせ練習をしておくこと。
第12回	四重奏演奏表現研究 主にSopとBariの外声部の音とTenの音を重ねた響きを演奏しながら聴く	各自スコアを読む。 Sop,Ten,Bariの合わせ練習をしておくこと。 第11回から第12回は順不動可。
第13回	四重奏演奏表現研究 各パートが他パートの動きと響きを理解した上での合奏練習	四人の奏者がそれぞれ他パートの音や動きを理解していること。
第14回	四重奏演奏表現研究 各パートが他パートの動きと響きを理解した上での合奏練習	四人の奏者がそれぞれ他パートの音や動きを理解していること。
第15回	四重奏演奏表現の研究 発表会、各団体評価・反省 まとめ	四人の奏者がそれぞれ他パートの音や動きを理解していること。

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) I～IV[トランペット]		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4	
担当教員	藤井 完	実務家教員	○		履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>息、耳、心を使って「合わせる」事は、一人でソロを吹くよりも楽しく感じたりします。リズム、ユニゾン、ハーモニーを合わせるという事は「響き」を合わせる、「響いた瞬間」を合わせる事です。楽しさと共に「合わせる」事を学びます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>「響きのある音」で合わせる技術を会得する。 楽譜の意味をすばやく読み取り、楽しさと共に演奏することができること。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>デュエットからはじめて、大きな編成もオーケストラ・スタディまで含みます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>調号、拍子、アーティキュレーション、フレージングを素早く読み取って表現する。 1st、2ndを交替します。予習が必要です。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>意欲、態度、音楽表現達成度等、総合的に評価します。 発表会の演奏だけでなく、毎週の授業への取り組みも大切です。</p>									
教科書	アーバンのデュエット集			著者等	アーバン	出版社	全音		
教科書	Selected Duets I			著者等	Voxman	出版社	Rubank		
参考文献	Selected Duets II			著者等	Voxman	出版社	Rubank		
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(17 時 40 分 ～ 19 時 10 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 授業の進め方、内容について	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第2回	合わせることの意味と楽しさを知る 「響きを合わせる」「リズムを合わせる」	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第3回	二重奏実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第4回	二重奏実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第5回	二重奏実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第6回	二重奏実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第7回	二重奏実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第8回	二重奏実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第9回	三重奏以上も含む実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第10回	三重奏以上も含む実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第11回	三重奏以上も含む実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第12回	三重奏以上も含む実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第13回	三重奏以上も含む実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第14回	三重奏以上とオケスタも含む実習	予習・復習: 授業で取り上げる曲の譜読みをしておく
第15回	三重奏以上とオケスタも含む実習	学んだことを振り返る

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) I～IV〔ホルン〕		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4	
担当教員	澤 敦	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ホルンは、オーケストラ・吹奏楽などの演奏において、ことさらそのチームプレーを重要視される楽器である。それ故、ホルンアンサンブルを学ぶことは、ホルンを演奏する上で、大変重要な事となる。この授業では、そのポイントをしっかりと身に付けると同時に、各自の演奏能力の強化と表現力の向上を実現する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>アンサンブルの現場で求められる能力をしっかりと身に付けることができる。また、効果的な様々な「コツ」や「芸」を覚えることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>基本的に合奏形態で行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>常に自分の目標や意欲をしっかりと保って参加すること。事前の個人練習は必須。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業への参加意欲50% ・学習成果50%</p>									
教科書	こちらで準備します。			著者等		出版社			
教科書	こちらで準備します。			著者等		出版社			
参考文献	こちらで準備します。			著者等		出版社			
参考文献	こちらで準備します。			著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	顔合わせ(チーム作り)	
第2回	全体合奏(基本)1 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第3回	全体合奏(基本)2 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第4回	小編成 1 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第5回	小編成 2 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第6回	小編成 3 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第7回	小編成発表会と全体合奏 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第8回	全体合奏 3 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第9回	全体合奏 4 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第10回	発表会の曲決め 1 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第11回	発表会の曲決め 2 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第12回	発表会へ向けての準備 1 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第13回	発表会へ向けての準備 2 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第14回	発表会へ向けての準備 3 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み
第15回	発表会 *オーケストラ・スタディー	・今回の見直し ・次回の譜読み

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) I～IV[トロンボーン]		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員	吉川 武典	実務家教員	○		履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)		
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>・トロンボーン四重奏、またそれ以上の編成のアンサンブルを用い、技術と音楽性を高める。 ・イメージだけではない実践的オーケストラ奏法を習得する。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>・感動を生むぐらいの調和、自発性、総合的音楽性、その技術、知識メンタルを身に付ける。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>・演奏及び研究</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・準備、意欲、受身にならない姿勢</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>・授業への積極性、学習成果等を総合的に評価する。</p>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)								
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								
②時間帯(時 分 ～ 時 分)								
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ドイツ曲集を使った入門	予習、復習について説明
第2回	既存の作品の研究、アンサンブル	準備に対する考え方のチェック
第3回	ブラームス、チャイコフスキー、マーラ、ブルックナー等選曲した オーケストラスタディの研究	様々な録音、録画と共に
第4回	既存の作品の研究、アンサンブル	時代背景と共に
第5回	オーケストラスタディの研究	作曲家の個性の理解
第6回	既存の作品の研究、アンサンブル	様々な声部を体験
第7回	オーケストラスタディの研究	ホールにおける音量の考察
第8回	既存の作品の研究、アンサンブル	スコア・リーディング
第9回	オーケストラスタディの研究	スコア・リーディング
第10回	オーケストラスタディの研究	古典へのアプローチ
第11回	オーケストラスタディの研究	ルネッサンスからバロックへの理解
第12回	オーケストラスタディの研究	ロマン派の演奏法
第13回	オーケストラスタディの研究	近代へのアプローチ
第14回	オーケストラスタディの研究	編曲含むバックグラウンドへの興味
第15回	まとめ	演奏家としてのメンタリズムを含め総合的に

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル(含オーケストラ・スタディ) I～IV[ユーフォニアム・チューバ]			開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員	庄司 恵子 大塚 哲也	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				
【授業の概要】		(360文字以内)							
ユーフォニアム・チューバアンサンブルの演奏を通して、アンサンブル能力の向上と幅広い音楽の様式やジャンルの研究・体験をする。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
・美しいハーモニーを奏でる為のイントネーションの調整、フレージングの統一、ダイナミクスのバランス感覚等の基本的な能力を養うことができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
レッスン形式									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
授業で取り上げる楽曲・編成については、その都合指示を出しながら進めていく。 事前準備(練習)、研究にも力を入れ授業に臨むことが大切。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業への参加度、能力、技術の達成度等を総合的に評価する。									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ～ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	
第2回	“二重奏、三重奏、四重奏と編成を上げていく。 主な教材 ・Melodious etudes (J.Rochut) ・12Melodious duets (O.Blume) ・Advances duets Vol.1,2 (W.Sears) ・11duets for tuba (V.Nelhybel) ・Quartet for Brass Vol.1～3 (S.Bulla) ・コーラル集 ・オーケストラスタディ	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第3回	“二重奏、三重奏、四重奏と編成を上げていく。 主な教材 ・Melodious etudes (J.Rochut) ・12Melodious duets (O.Blume) ・Advances duets Vol.1,2 (W.Sears) ・11duets for tuba (V.Nelhybel) ・Quartet for Brass Vol.1～4 (S.Bulla) ・コーラル集 ・オーケストラスタディ	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第4回	“二重奏、三重奏、四重奏と編成を上げていく。 主な教材 ・Melodious etudes (J.Rochut) ・12Melodious duets (O.Blume) ・Advances duets Vol.1,2 (W.Sears) ・11duets for tuba (V.Nelhybel) ・Quartet for Brass Vol.1～5 (S.Bulla) ・コーラル集 ・オーケストラスタディ	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第5回	“二重奏、三重奏、四重奏と編成を上げていく。 主な教材 ・Melodious etudes (J.Rochut) ・12Melodious duets (O.Blume) ・Advances duets Vol.1,2 (W.Sears) ・11duets for tuba (V.Nelhybel) ・Quartet for Brass Vol.1～6 (S.Bulla) ・コーラル集 ・オーケストラスタディ	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第6回	“二重奏、三重奏、四重奏と編成を上げていく。 主な教材 ・Melodious etudes (J.Rochut) ・12Melodious duets (O.Blume) ・Advances duets Vol.1,2 (W.Sears) ・11duets for tuba (V.Nelhybel) ・Quartet for Brass Vol.1～7 (S.Bulla) ・コーラル集 ・オーケストラスタディ	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第7回	“二重奏、三重奏、四重奏と編成を上げていく。 主な教材 ・Melodious etudes (J.Rochut) ・12Melodious duets (O.Blume) ・Advances duets Vol.1,2 (W.Sears) ・11duets for tuba (V.Nelhybel) ・Quartet for Brass Vol.1～8 (S.Bulla) ・コーラル集 ・オーケストラスタディ	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第8回	オリジナルの作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広いレパートリーを経験・研究し、作品を仕上げる	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第9回	オリジナルの作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広いレパートリーを経験・研究し、作品を仕上げる	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第10回	オリジナルの作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広いレパートリーを経験・研究し、作品を仕上げる	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第11回	オリジナルの作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広いレパートリーを経験・研究し、作品を仕上げる	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第12回	オリジナルの作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広いレパートリーを経験・研究し、作品を仕上げる	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第13回	オリジナルの作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広いレパートリーを経験・研究し、作品を仕上げる	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第14回	オリジナルの作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広いレパートリーを経験・研究し、作品を仕上げる	授業で取り上げる楽曲の練習、研究
第15回	オリジナルの作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広いレパートリーを経験・研究し、作品を仕上げる	授業で取り上げる楽曲の練習、研究

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブルk (含オーケストラ・スタディ) I～IV〔打楽器〕		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員	河野 玲子	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>打楽器アンサンブルを作り上げる中で、一人ひとりのアンサンブル能力を向上させることを目的とする。特に前期では、比較的簡易な楽曲を主な教材とし、演奏への取り組みの第一歩であり基本である「読譜」について掘り下げ、かつ演奏における呼吸感、テンポ感について感覚的に理解することを目標に、アンサンブル演奏の実践を行なう。</p> <p>また、吹奏楽、オーケストラの定期演奏会で取り上げる楽曲について、打楽器パートのオーケストラ・スタディも本クラスで取り上げる。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>○各人のアンサンブル能力の向上(呼吸感、テンポ感について感覚的に理解し実践に活かす力を身につける。)</p> <p>○「アンサンブル」楽曲、「オーケストラ・スタディ」における読譜力の強化。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>複数名での実技レッスン／目的やタイミングに応じた選曲を教材に実際に演奏、音楽作りをしながら授業を行なう。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>各自の事前準備なしに「アンサンブル」は成立ないので、受講する皆さんには、あらゆる場面での能動的な取り組み姿勢を期待する。(不安や心配などについては、随時相談にのると共にアドバイスサポートします)</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>アンサンブル演奏に向けての音楽的な事前準備、より適切な演奏環境実現への取り組み等、本授業全般への取り組み姿勢(30%) 取り組む楽曲ごとの音楽的、技術的達成度(50%) ～毎回の授業の中で見えてくる各自の課題が、次回にどれだけ達成されているかという点を重視する。 前期最終授業で実施する演奏発表における実践(20%)</p>								
教科書	人数と演奏レベルに応じて適宜準備			著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献	人数と演奏レベルに応じて適宜準備			著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								
<p>②時間帯(時 分 ～ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	
第2回	読譜について①	予習：興味のある楽曲を提案できるよう準備する。
第3回	読譜について②	予習：取り上げる楽曲について、各自一通りの譜読みをしておく。
第4回	読譜について③	予習&復習：②で得た課題についてより理解を深めるため、実演の音があれば視聴するなどして研究する。
第5回	打楽器演奏における呼吸感について①	予習：正しい読譜により理解した音楽を実際の音にできるよう、特に技術面について練習をしておく。
第6回	打楽器における呼吸感について②(①のつづき)	予習：「呼吸感」という観点で今一度楽曲を読み込み、実演と結びつくよう練習する。
第7回	テンポ感について①	復習：「テンポ感」という観点で楽曲と向き合い、実演と結びつくよう練習する。
第8回	テンポ感について②	復習：「テンポ感」を意識して、様々なジャンルの音楽を聴いてみる。
第9回	小編成楽曲 アンサンブル実践①	授業で即アンサンブルができるよう、各自の担当パートについては演奏準備を怠らないこと！
第10回	小編成楽曲 アンサンブル実践②	授業で即アンサンブルができるよう、各自の担当パートについては演奏準備を怠らないこと！
第11回	オーケストラ・スタディ アンサンブル実践①	予習：取り上げる吹奏楽、オーケストラ楽曲についての読譜含めた演奏準備及び実演や音資料の視聴。
第12回	オーケストラ・スタディ アンサンブル実践②(①のつづき)	予習：取り上げる吹奏楽、オーケストラ楽曲についての読譜含めた演奏準備及び実演や音資料の視聴。
第13回	中編成楽曲 アンサンブル実践①	授業で即アンサンブルができるよう、各自の担当パートについては演奏準備を怠らないこと！
第14回	中編成楽曲 アンサンブル実践②(①のつづき)	授業で即アンサンブルができるよう、各自の担当パートについては演奏準備を怠らないこと！
第15回	演奏発表	復習：後期授業に活かせるよう、演奏発表で得た課題をしっかり認識すること。

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器) I ~ IV 〔木管楽器〕		開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	岩間 丈正 松岡 裕雅	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)			
【授業の概要】		(360文字以内)						
木管楽器を中心とした異種楽器によるアンサンブル。ホルンやサクソ、曲によっては金管楽器やピアノが入る場合もある。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○	思考力・判断力・表現力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
アンサンブル能力を身につける。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
アンサンブル形式。アンサンブル形態については履修登録が確定後決定し、掲示でメンバーと一緒に発表する。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
この授業は担当教員2名で、それぞれ週に1コマずつ担当する。履修登録が確定した時点で、履修学生の人数、楽器編成により、管弦打部会でアンサンブルチームを編成、担当教員を配置、履修クラスを割り当てる。したがって、履修希望学生は、2コマある授業の内、どちらかを希望して履修することはできない。どちらのクラスに振り分けられても困らないよう、時間割を作成する際には、どちらのクラスもあけておくこと。アンサンブルチームを作成する際、学生のレベルを把握するため、担当教員以外の教員にも相談することがある。使用教材(楽譜)は教員側で用意するが、楽譜を配布されたら、各自が全体の一員である事を自覚し、他の学生の迷惑にならないよう、各自事前練習を十分に行ってから授業に参加すること。音源が入手できる曲は授業前に必ず聴いておくこと。足りない楽器は研究員に依頼することがある。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
川越キャンパスグラントザールにて、室内楽(異種楽器) I ~ IVの全クラスによる発表会を開催する。この発表会出演と、授業への取り組み、習熟度により成績とする。								
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社				
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社				
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社				
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土)								
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								
②時間帯(時 分 ~ 時 分)								
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	<p>異種楽器によるアンサンブルを行う。 教材及びアンサンブルの形態については、履修学生の人数、楽器編成で決定する。 技術的、音楽的な観点から授業を進める。担当教員の要請により、担当教員以外の教員が指導に入ることもある。</p>	<p>他の学生に迷惑にならないよう、事前練習を十分に行ってから授業に参加すること。授業で上手く演奏できなかった箇所は、次回の授業までに各自改善しておくこと。一人の教員が複数のアンサンブルチームを担当する場合は、他のチームの授業を見学すること。</p>
第2回		
第3回		
第4回	<p>異種楽器によるアンサンブルを行う。 教材及びアンサンブルの形態については、履修学生の人数、楽器編成で決定する。 技術的、音楽的な観点から授業を進める。担当教員の要請により、担当教員以外の教員が指導に入ることもある。</p>	<p>他の学生に迷惑にならないよう、事前練習を十分に行ってから授業に参加すること。授業で上手く演奏できなかった箇所は、次回の授業までに各自改善しておくこと。一人の教員が複数のアンサンブルチームを担当する場合は、他のチームの授業を見学すること。</p>
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回	発表演奏会。	各チーム練習をして発表会に臨むこと。
第14回	まとめ。	授業のまとめを行う。
第15回	まとめ。	授業のまとめを行う。

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器) I ~ IV 〔木管楽器〕(サクソファンアンサンブル)		開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4	
担当教員	佐々木 雄二	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>サクソフォンアンサンブル(主にラージアンサンブル「四重奏も含む」)を通して、演奏技術・表現能力・各奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることが目的です。 サクソフォンアンサンブルのためには様々な編成で数多くの曲が作られ、またアレンジされています。新作の発掘と演奏会でよく取り上げられる作品を勉強します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>ソプラニーノ、ソプラノ、アルト、テナー、バリトン、バスと各パートの音や動きを聴きながら、各奏者間でコミュニケーションを取りながら曲作りをすることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>サクソフォンだけのアンサンブルの授業になります。ソプラニーノからバスまでのサクソフォンを使用した演奏研究になります。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>受け持つパート譜、楽譜はしっかりと読み練習してから授業に臨んで下さい。スコアを読んで曲の構成を考えましょう。作曲家や時代背景も研究し、より芸術性を高めた演奏を目指します。欠席、遅刻をしないこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への取り組み(40%)、授業内容の理解度(30%)、実践力・応用力〔30%〕の比率で総合的に評価します。 なお、12月に川越キャンパスグラントザールにて、室内楽(異種楽器) I ~ IVの全クラスによる発表会を開催します。この発表会出演もその中に含まれます。</p>									
教科書	その都度こちらで準備します。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	四重奏からラージアンサンプル、楽曲決め 各奏者のパート決め	パート譜の譜読みをしっかりとって行くこと。
第2回	ポピュラー音楽、ジャズ音楽、四重奏練習	スコアを読みながら音源を聴き曲全体の構成を考える。
第3回	ポピュラー音楽、ジャズ音楽、四重奏練習	他パートについても理解し連動して曲を仕上げる。
第4回	ラージアンサンプル演奏表現研究1(一曲目)	原曲の音源を聴き曲のイメージをつかむ。
第5回	ラージアンサンプル演奏表現研究2(一曲目)	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第6回	ラージアンサンプル演奏表現研究3(一曲目)	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第7回	ラージアンサンプル演奏表現研究4(二曲目)	原曲の音源を聴き曲のイメージをつかむ。
第8回	ラージアンサンプル演奏表現研究5(二曲目)	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第9回	ラージアンサンプル演奏表現研究6(二曲目)	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第10回	ラージアンサンプル演奏表現研究7(三曲目・四曲目)	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第11回	ラージアンサンプル演奏表現研究8(三曲目・四曲目)	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第12回	ラージアンサンプル演奏表現研究9(三曲目・四曲目)	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第13回	ラージアンサンプル演奏表現研究10(四曲仕上げる)	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第14回	ラージアンサンプル演奏表現研究11	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第15回	ラージアンサンプル演奏表現研究12 発表会、講評、反省会 まとめ	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器) I ~ IV a・b [金管楽器]		開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	澤 敦 藤井 完	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>金管楽器(異種楽器による)、打楽器(他楽器も含む場合がある)のアンサンブルの授業である。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>金管アンサンブルを通して、各自の合奏能力を向上させるとともに、個々の演奏レベルの向上を実現することができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>アンサンブル形式。各グループのメンバーについては、こちらで調整し掲示にて発表する。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>この授業は2名の教員で担当する。また、担当教員の要請により、担当教員以外の教員が指導に入ることもある。授業に臨むにあたり、各自のパート譜をしっかりと練習しておくことと、曲全体もよく勉強しておくこと。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>・授業への参加意欲50% ・習熟度50%</p>								
教科書	こちらで準備します			著者等			出版社	
教科書	こちらで準備します			著者等			出版社	
参考文献	こちらで準備します			著者等			出版社	
参考文献	こちらで準備します			著者等			出版社	
【オフィスアワー】								
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	
第2回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第3回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第4回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第5回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第6回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第7回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第8回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第9回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第10回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第11回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第12回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第13回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第14回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。 取り上げる楽曲は履修者の楽器構成を見て決める。	・今回の見直し ・次回の見直し
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器) I ~ IV 〔弦楽器〕		開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4		
担当教員	白井 英治	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>前期で学んだアンサンブルの基礎をもとに他の楽器とのアンサンブルを勉強する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力				自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>様々な楽器と室内楽を勉強し、より幅広い表現の可能性を追求し、スケールの大きいアンサンブルを目指す。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>様々な楽器との室内楽を取り上げ、実際に演奏しながら学ぶ。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>筆記用具は必ず持参する事。授業内容の活性化を図る為、予習すること。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>グランツァールにて、室内楽(異種楽器) I ~ IVの全クラスによる発表会を開催する。この発表会出演と、授業への取り組み、習熟度により成績とする。</p>										
教科書		著者等		出版社						
教科書		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(13 時 30分 ~ 14時 30分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第2回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第3回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第4回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第5回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第6回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第7回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第8回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第9回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第10回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第11回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第12回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第13回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第14回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく
第15回	弦楽器とそのほかの楽器との室内楽作品	予習・復習: 譜読みをしておく

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器) I ~ IV 【打楽器】		開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4		
担当教員	河野 玲子	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法と音楽創造はI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>前期に引き続き、打楽器アンサンブルを作り上げる中で、一人ひとりのアンサンブル能力を向上させることを目的とし、特に後期では、楽曲のもつ音楽の流れやビート感を共有し、お互い聞き合うことで複数名での演奏に一体感が生まれることを感覚的に理解できるよう、幅広いジャンル、様式の楽曲を教材として取り上げる。</p> <p>尚、科目名に(異種楽器)とありますが、本クラスは打楽器によるアンサンブル演奏が基本形態となります。(異種楽器とのアンサンブルについては、希望や必要に応じて編成が可能となります。)</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力				自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>○前期に引き続き、打楽器アンサンブルを作り上げる中で、一人ひとりのアンサンブル能力をさらに向上させる</p> <p>○最終的には複数名での演奏に一体感が生まれることが感覚的に理解できる状態を到達目標としたい</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
複数名での実技レッスン形式／目的やタイミングに応じた選曲を教材に実際に演奏、音楽作りをしながら授業を行なう。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
各自の事前準備なしに「アンサンブル」は成立ないので、受講する皆さんには、あらゆる場面での能動的な取り組み姿勢を期待する。(不安や心配などについては、随時相談にのると共にアドバイスサポートします)										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>アンサンブル演奏に向けての音楽的な事前準備、より適切な演奏環境実現への取り組み等、本授業全般への取り組み姿勢(30%)</p> <p>取り組む楽曲ごとの音楽的、技術的達成度(50%)</p> <p>～毎回の授業の中で見えてくる各自の課題が、次回にどれだけ達成されているかという点を重視する。</p>										
教科書	人数と演奏レベルに応じて適宜準備			著者等			出版社			
教科書				著者等			出版社			
参考文献	人数と演奏レベルに応じて適宜準備			著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	楽曲分析① 正確な読譜の先にあるもの→楽曲を感覚的に理解する力を養う。	予習:読譜は終了した状態で受講できるよう準備する。
第2回	楽曲分析②	予習:読譜は終了した状態で受講できるよう準備する。
第3回	楽曲分析③	予習:読譜は終了した状態で受講できるよう準備する。
第4回	アンサンブル実践① 楽曲分析の実践の場として幅広いジャンル、様式の楽曲、音楽と接する。	予習:クラシック以外のジャンルから興味のある楽曲の演奏を提案できるよう準備する。
第5回	アンサンブル実践②(①のつづき)	予習:クラシック以外のジャンルから興味のある楽曲の演奏を提案できるよう準備する。
第6回	アンサンブル実践③(①②のつづき)	予習:クラシック以外のジャンルから興味のある楽曲の演奏を提案できるよう準備する。
第7回	大編成楽曲 アンサンブル実践① ここまでの学びの実践、応用の場として、規模、内容を拡大した楽曲に取り組む。	予習:室内楽発表会で取り上げるに相応しい楽曲について提案できるよう準備する。
第8回	大編成楽曲 アンサンブル実践②(①のつづき)	予習:室内楽発表会で取り上げるに相応しい楽曲について提案できるよう準備する。
第9回	大編成楽曲 アンサンブル実践③(①②のつづき)	予習:室内楽発表会で取り上げるに相応しい楽曲について提案できるよう準備する。
第10回	大編成楽曲 アンサンブル実践④(①②③のつづき)	予習:室内楽発表会で取り上げるに相応しい楽曲について提案できるよう準備する。
第11回	アンサンブル実践 室内楽演奏会を視野にいれた音楽作りの場とする。	発表会＝演奏会という場を音楽面のみならず、作り上げるという意識で捉え、あらゆる角度からの準備を心がける。
第12回	アンサンブル実践(前回のつづき)	発表会＝演奏会という場を音楽面のみならず、作り上げるという意識で捉え、あらゆる角度からの準備を心がける。
第13回	アンサンブル実践(前回のつづき)	発表会＝演奏会という場を音楽面のみならず、作り上げるという意識で捉え、あらゆる角度からの準備を心がける。
第14回	室内楽発表会	復習:「演奏会」として成立していたか、総合的な視点で振り返り、今後へ活かす。
第15回	まとめ	

履修対象・条件	合奏(和楽器を含む)A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3	
担当教員	山崎 正彦	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・教育現場において一般的に扱われているリコーダー(ソプラノ・アルト)の奏法の基本を理解するとともに、その演奏に習熟し、将来教壇に立つ際に不足のない技能や表現力を身につけます。リコーダー演奏には技能的な課題が生じることが多く、それが生徒の意欲の喪失の原因にもなりますが、独奏やアンサンブルを通してリコーダー独自の繊細で美しい音色を実感し、生徒にリコーダーのよさを伝えることのできる指導の進め方を究明します。</p> <p>・和楽器について学び、基本的な奏法を身につけます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・リコーダーの演奏に習熟し、指導の場面を想定して模範奏を安定して行うことができる。</p> <p>・和楽器の取り扱い上の留意点について他者に説明することができ、基本的な奏法を身につける。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義(楽器使用上の解説)と演習で進めます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
リコーダーは音楽科授業において、毎時間のように扱う楽器です。個人練習を多くとり楽器に慣れておくことが不可欠です。また、生徒が陥り易い技能上の課題について考えながら演奏を行うことも必要です。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>1. 授業への取り組み (リコーダー基準: 予習状況を確認し、それを授業への意欲として考慮する) 30% (ワークシートの記述内容 基準: 授業内容との整合性と自らの判断の2点を満たしていること) 20% 2. リコーダー技能 (基準: 期間中実施する演奏機会における評価規準を満たしていること) 50%</p>									
教科書	中学生の器楽			著者等			出版社	教育芸術社	
教科書				著者等			出版社		
参考文献	必要に応じて配付します。			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 赤字が実施曜日									
②時間帯(13時 00分 ~ 14時 00分)									

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業の説明 (受講に際しての留意点の確認と授業スケジュールの説明)	予習: 自らの器楽体験を発表できるようにしておく 復習: 授業のスケジュールを理解し、自らが課題とすることを挙げておく。
第2回	ソプラノリコーダーの演奏の習熟 (教科書掲載の楽曲の演奏)	予習: ソプラノリコーダーの指使いを確認しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第3回	ソプラノリコーダーによるアンサンブル (教科書掲載の楽曲の演奏)	予習: 前時の課題箇所を反復練習しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第4回	ソプラノリコーダーのソロ演奏 (教科書掲載の楽曲の演奏)	予習: 前時の課題箇所を反復練習しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第5回	アルトリコーダーの演奏の習熟 (教科書掲載の楽曲の演奏)①	予習: アルトリコーダーの指使いを確認しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第6回	アルトリコーダーの演奏の習熟 (教科書掲載の楽曲の演奏)②	予習: 前時の課題箇所を反復練習しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第7回	アルトリコーダーによるアンサンブル (教科書掲載の楽曲の演奏)	予習: 前時の課題箇所を反復練習しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第8回	アルト・ソプラノリコーダーによるアンサンブル (教科書掲載の楽曲の演奏)	予習: 前時の課題箇所を反復練習しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第9回	アルト・ソプラノリコーダーによるアンサンブル① (教科書以外の楽曲の演奏)	予習: 前時の課題箇所を反復練習しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第10回	アルト・ソプラノリコーダーによるアンサンブル② (教科書以外の楽曲の演奏)	予習: 前時の課題箇所を反復練習しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第11回	任意のリコーダーを選んでソロ発表会①	予習: 前時の課題箇所を反復練習しておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第12回	任意のリコーダーを選んでソロ発表会②	予習: 前時の課題箇所を反復練習しておく。 演奏上の留意点や創意工夫点をまとめておく。 復習: 本時の課題と思う箇所を反復練習しておく。
第13回	リコーダー習熟による教育効果についての理解 授業内レポート	予習: 自らの経験に基づき、リコーダーに習熟することによる教育効果についてまとめておく。 復習: 他者の意見も含めてリコーダーの教育効果についてまとめる
第14回	和楽器について①	予習: 和楽器について知っていることをまとめておく。 復習: 和楽器の取り扱い方の留意点をまとめる (ワークシート)。
第15回	和楽器について②	予習: 和楽器の取り扱い方の留意点を再確認しておく。 復習: 和楽器の奏法についての留意点についてまとめる(ワークシート)。

履修対象・条件	合奏(和楽器を含む)B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3	
担当教員	山崎 正彦	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・ギターの構造や奏法を理解し、簡単な旋律奏を行います。 ・打楽器及び鍵盤打楽器の取扱い方と基本的な奏法を理解し、リコーダーやギターをまじえて簡単なアンサンブルを行います。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・ギターの奏法を理解し、簡単な旋律を奏でることができる。 ・打楽器の取り扱い上の留意点について他者に説明することができ、基本的な奏法を身につける。 ・アンサンブルを通して、合奏指導における留意点を理解するとともに、そのよさを実感することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義(楽器使用上の解説)と演習で進めます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
ギター及び打楽器(和楽器を含む)については、教師がその取り扱いを理解するとともに基本的な奏法を身につけておくことが求められています。特に打楽器は個人での購入が難しいものが多いことから、授業内で触れる機会を大事にしてください。また、扱い方によっては危険性も伴い、安全面での配慮も必須となります。そして、それはそのまま教育現場で生徒に伝えるべきこととなります。合奏等では個人的な活動(個人練習等)の時間が増加しますが、危険性が潜在していることから気を緩めることなく緊張感をもって学習に臨んでください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
1. 授業への取り組み (基準:ワークシートの記述内容を対象として、授業内容との整合性と自らの判断の2点を満たしていること) 30% 2. 演奏技能 (基準:期間中数回設定される演奏機会における評価規準を満たしていること) 50% 3. 最終レポートの内容に基づく評価(基準:授業内容との整合性と自らの価値判断に基づく考察の2点を満たしていること) 20%									
教科書	中学生の器楽			著者等		出版社	教育芸術社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	必要に応じて配付します。			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時 00分 ~ 14時 00分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ギターの構造の理解・調弦・基本的な奏法について	予習:ギターについて知っていることをまとめておく。 復習:本時のポイントをまとめる(ワークシート)。
第2回	グループ毎でのギターの練習① (教科書以外の楽曲)	予習:調弦の方法を考えておく。 復習:グループ毎に課題として挙げたことと、その克服方法についてまとめる(ワークシート)。
第3回	グループ毎でのギターの練習② (教科書以外の楽曲)	予習:前時で確認した課題の克服方法を確認しておく。 復習:グループ毎に課題として挙げたことと、その克服方法についてまとめる(ワークシート)。
第4回	グループ毎でのギターの練習③ (教科書以外の楽曲)	予習:前時で確認した課題の克服方法を確認しておく。 復習:グループ毎に課題として挙げたことと、その克服方法についてまとめる(ワークシート)。
第5回	ギターコードについての理解 (特に難しいコードの押さえ方)	予習:前時で確認した課題の克服方法を確認しておく。 復習:グループ毎に課題として挙げたことと、その克服方法についてまとめる(ワークシート)。
第6回	打楽器の扱い方についての説明 (太鼓類・鍵盤打楽器・小物打楽器類)	予習:経験したことのある打楽器や好きな打楽器について発表できるようにしておく。 復習:取り扱い方の留意点をまとめる(ワークシート)。
第7回	打楽器の演奏体験 (すべての楽器を自由に鳴らしたり、演奏することで楽器の質感や大きさに慣れる)	予習:取り扱い方の留意点を確認しておく。 復習:打楽器に触れたことによる実感をまとめ、アンサンブルで担当したい楽器について考える(ワークシート)。
第8回	アンサンブルに向けての打楽器練習 (パートを限定しない)	予習:取り扱い方の留意点を確認しておく。 復習:打楽器に触れたことによる実感をまとめ、アンサンブルで担当したい楽器について考える(ワークシート)。
第9回	アンサンブルに向けての打楽器練習 (パートを決めて)	予習:自らのパートでの課題の確認と本時での目標を挙げる。 復習:本時の課題についてまとめる(ワークシート)。
第10回	アンサンブルに向けてのリコーダー、(ギター)練習	予習:自らのパートでの課題の確認と本時での目標を挙げる。 復習:本時の課題についてまとめる(ワークシート)。
第11回	アンサンブルの練習① 読譜(リコーダー、ギター、打楽器による)	予習:自らのパートでの課題の確認と本時での目標を挙げる。 復習:本時の課題についてまとめる(ワークシート)。
第12回	アンサンブルの練習② 読譜・合奏練習(リコーダー、ギター、打楽器による)	予習:自らのパートでの課題の確認と本時での目標を挙げる。 復習:本時の課題についてまとめる(ワークシート)。
第13回	アンサンブルの練習③ 合奏練習(リコーダー、ギター、打楽器による)	予習:自らのパートでの課題の確認と本時での目標を挙げる。 復習:本時の課題についてまとめる(ワークシート)。
第14回	アンサンブルの練習④ 曲想表現の工夫(リコーダー、ギター、打楽器による)	予習:自らのパートでの課題の確認と本時での目標を挙げる。 復習:本時の課題についてまとめる(ワークシート)。
第15回	アンサンブルの発表会 授業のまとめ(レポート)	予習:自らのパートでの課題の確認と本時での目標を挙げる。 復習:本時の課題についてまとめる(ワークシート)。

科目名(クラス)	オペラ研究Ⅰ・ⅡA			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	山崎 明美	実務家教員	○	履修対象・条件	声楽のKonzertfachは必修。声楽専攻のみ履修可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>オペラの重唱を課題として個々に声にあったオペラの役を振り分けて、オペラアンサンブルを学修する。必ずレチタティーヴォ・セッコを含む。独唱と違いパートに分かれて歌い、自分のパートだけでなく相手役のレチタティーヴォ・セッコも学修し、オペラアンサンブルを構築する能力を養う実技演習科目である。題材はイタリア語、又はドイツ語となるが、必ず言葉の意味を深く学修し、良く理解することが必要である。自分に割り振られた個所だけでなくオペラ全体の筋書きも正しく理解し、演奏する習慣を身に付ける。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>レチタティーヴォ・セッコ(音符にイタリア語を付けて、喋る様に歌うこと)が歌えるようになること、二重唱、三重唱、四重唱といったオペラアンサンブルが歌えるようになること、役ごとの表情、表現を意識して全体の声のバランスを考えて歌えることを到達目標とする。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>少人数に分かれて、演出者、音楽スタッフ(声楽教員、ピアノ教員、伴奏研究員)から音楽指導を受ける演習形式で行う。その後、演出家より演技指導が入り、芝居をしながら歌うオペラの実践となる。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>アンサンブルを基本とした演習である。欠席により、授業に支障が出ることを十分に認識して臨むこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性、貢献度、試演会の成果を成績評価とする。複数教員による採点を行う。授業への積極性、貢献度 50%。試演会の成果50%で評価する。</p>									
教科書	フィガロの結婚			著者等	モーツァルト	出版社	ベーレンライター社		
教科書	他(試聴会の後、演目が決まり次第掲示する)			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)授業終了後、各教員が対応します。									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	試聴会 (今後の授業における配役を決めるために行う)	予習:それぞれ得意な曲を用意しておく。 伴奏者の楽譜も用意すること。 暗譜での演奏が望ましい。
第2回	アンサンブルで指定された楽譜を用意する	指定された楽譜の指定された箇所を正しく把握する。
第3回	音楽稽古の開始 イタリア語のレチタティーヴォ・セッコ(朗唱)を読む	予習:音をしっかりとる。言葉の意味、そのオペラのあらすじ、また自分が演じる役はどういう人物なのかを調べておく。
第4回	イタリア語の正しい発音を身につける 《クリアな母音と子音、アクセントの意識》	予習:音をしっかりとる。言葉の意味、そのオペラのあらすじ、また自分が演じる役はどういう人物なのかを調べておく。声楽的に難しい箇所の練習。
第5回	イタリア語の正しい発音を身につける 《クリアな母音と子音、アクセントの意識》	予習:朗読法で学んだ発音を確認 復習:授業内で指摘された箇所の改善練習
第6回	アンサンブルにおける声楽技術を高める 《正しい音程とリズム》	予習:声楽1・2・3・4で積み上げてきた声楽技術を確認 復習:授業内で指摘された箇所の改善練習
第7回	アンサンブルにおける声楽技術を高める 《正しい音程とリズム》	予習:声楽1・2・3・4で積み上げてきた声楽技術を確認。 復習:指摘箇所の練習
第8回	アンサンブルにおける声楽技術を高める 《相手役という言葉、旋律にも注意をする》	予習:相手役という言葉の意味を詳細に調べる 復習:指摘箇所の練習
第9回	アンサンブルにおける声楽技術を高める 《相手役という言葉、旋律にも注意をする》	予習:相手役の旋律も歌ってみる 復習:指摘箇所の練習
第10回	オペラのシーンを再現する 《役という言葉、旋律を学んだ上でいかに表現するかを修得》	予習:いかに表現するかを工夫する 声楽の技術的問題点の解決に努める 復習:指摘箇所の練習
第11回	オペラのシーンを再現する 《役という言葉、旋律を学んだ上でいかに表現するかを修得	予習:いかに表現するかを工夫する 復習:指摘箇所の練習 アンサンブル練習
第12回	テキスト、音楽から役の心理の動きを考える	予習:いかに表現するかを工夫する 復習:指摘箇所の練習 アンサンブル練習
第13回	テキスト、音楽から役の心理の動きを考える	予習:いかに表現するかを工夫する 復習:授業内で指摘された箇所の改善練習 アンサンブル練習
第14回	総稽古 《暗譜で行う》	予習:いかに表現するかを工夫する。暗譜 復習:授業内で指摘された箇所の改善練習 アンサンブル練習
第15回	音楽のみの試演会 《暗譜で行う》	予習:完全に暗譜 復習:後期の演出稽古に向けて準備する

科目名(クラス)	オペラ研究Ⅰ・ⅡB		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3・4	
担当教員	山崎 明美	実務家教員	○	履修対象・条件	声楽のKonzertfachは必修。声楽専攻のみ履修可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>前期で仕上げたアンサンブルを、演技指導を受けながら、実際のオペラアンサンブルとして仕上げる。前期に学んだ音楽、声楽技術の充実をさらに敷衍させ、自然に演技をする能力を養う。実際のオペラ公演同様にホール(グランツザール)にて、総稽古、本番を行う。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>前期で仕上げたオペラアンサンブルに自然な演技をつけることが出来る。登場人物の心理や、言葉の意味をよく考えることが出来る。役柄にあった必要なお道具や衣装を工夫することが出来る。グランツザールという大きなホール空間で自然に演技をしながら歌うことが出来ることを到達目標とする。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>立ち稽古の組、音楽稽古の数組に分かれて、演出家、音楽スタッフ(声楽教員、ピアノ教員、伴奏研究員)にアドバイスを受ける形で進める。後期の最後には、グランツザールにおける総稽古、試演会を行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>アンサンブルを基本とした演習である。欠席により、授業に支障が出ることを十分に認識して臨むこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性、貢献度、試演会の成果を成績評価とする。複数教員による採点を行う。授業への積極性、貢献度 50%。試演会の成果50%で評価する。</p>									
教科書	フィガロの結婚	著者等	モーツァルト	出版社	バーレンライター社				
教科書	指示された楽譜を用意する。	著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)授業終了後、各教員が対応します。									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	立ち稽古及び音楽稽古 《人物の心理をとらえた自然な動きを学ぶ》	予習:いかに表現するかを工夫する 暗譜を完全しておく 復習:授業内で指摘された箇所の練習 アンサンブル練習
第2回	立ち稽古及び音楽稽古 《人物の心理をとらえた自然な動きを学ぶ》	予習:暗譜を完全しておく 復習:授業内で指摘された箇所の練習 アンサンブル練習
第3回	立ち稽古及び音楽稽古 《人物の心理をとらえた自然な動きを学ぶ》	予習:暗譜を完全しておく 復習:授業内で指摘された箇所の練習 アンサンブル練習
第4回	立ち稽古及び音楽稽古 《人物の心理をとらえた自然な動きを学ぶ》	予習:暗譜を完全しておく 復習:授業内で指摘された箇所の改善練習 アンサンブル練習
第5回	立ち稽古及び音楽稽古 《声楽技術を活かせる動きを学ぶ》	予習:暗譜を完全しておく 復習:授業内で指摘された箇所の改善練習 アンサンブル練習
第6回	立ち稽古及び音楽稽古 《声楽技術を活かせる動きを学ぶ》	予習:暗譜を完全しておく 復習:授業内で指摘された箇所の改善練習 アンサンブル練習
第7回	立ち稽古及び音楽稽古 《声楽技術を活かせる動きを学ぶ》	予習:暗譜を完全しておく 復習:授業内で指摘された箇所の練習 アンサンブル練習
第8回	立ち稽古及び音楽稽古 《稽古に必要な小道具、衣装の工夫が出来るようにする》	予習:暗譜を完全しておく 声楽技術を磨く 稽古に必要な小道具、衣装の工夫 復習:アンサンブル練習
第9回	立ち稽古及び音楽稽古 《稽古に必要な小道具、衣装の工夫が出来るようにする》	予習:暗譜を完全しておく 声楽技術を磨く 稽古に必要な小道具、衣装の工夫 復習:アンサンブル練習
第10回	立ち稽古及び音楽稽古 《稽古に必要な小道具、衣装の工夫が出来るようにする》	予習:暗譜を完全しておく 声楽技術を磨く 稽古に必要な小道具、衣装の工夫 復習:指摘箇所の練習 アンサンブル練習
第11回	立ち稽古 《本番に向け準備》	予習:暗譜を完全しておく 声楽技術を磨く 稽古に必要な小道具、衣装の工夫 復習:指摘箇所の練習 アンサンブル練習
第12回	立ち稽古 《本番に向け準備》	予習:暗譜を完全しておく 声楽技術を磨く 稽古に必要な小道具、衣装の工夫 復習:指摘箇所の練習 アンサンブル練習
第13回	立ち稽古 《本番に向け準備》	予習:暗譜を完全しておく 声楽技術を磨く 稽古に必要な小道具、衣装の工夫 復習:指摘箇所の練習 アンサンブル練習
第14回	総稽古・ゲネプロ 《グランツァールで行う。大きいホールでの実演を学ぶ》	復習:指摘箇所をきちんと把握し、本番に活かす ことが出来るようにする。
第15回	試演会 《グランツァールで行う。大ホールでの実演を学ぶ》	

科目名(クラス)	朗読法A[ドイツ語]		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	山崎 明美	実務家教員	○	履修対象・条件	声楽専攻のみ履修可。必修。但し、Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ドイツ語歌唱の基礎、舞台発音としての母音の形成、子音発音を繰り返し演習する。 更に、言葉の明確な表現、詩への深い理解を得ることを演習する。 ドイツ歌曲歌唱の際の「言葉への感性」すなわち、言葉の意味を正しく捉え、適確なイメージをつかみ、 情感豊かに表現する能力を養うため演習を中心として講義する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>ドイツ語歌唱の際に必要な美しい発音・言葉の明確な表現・詩への深い理解が出来る事、 ドイツ語発音の基礎、ドイツ語歌唱の際の基本練習法、歌唱法の基礎を習得することを目標とする。 詩の内容を理解し、詩を暗記して表現することが出来ることをこの講義の到達目標とする。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義は演習形式にて行う。また、必要に応じて、DVD, CD等視聴覚機器を使用する。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>講義である。各自そのことを踏まえて授業に臨むことが必要である。 ・各自が課題をこなし、常に積極的に取り組む事が必要である。 ・復習を確実にを行う事。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>1. 提出されたレポート(35%) 2. 授業への取り組み(35%) 3. 学期末の試験(30%) ・上記1. 2. 3. 全ての要素がそろっていること。</p>									
教科書	・教科書は用いない。適宜、資料を授業内で配布			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献	・参考文献は授業の中で紹介する。			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語発音の基礎 1 ・母音発音の基礎、特徴的発音の習得	復習:ドイツ語歌唱の際に重要となる、ドイツ語の母音を確立させること。変母音の習得。舞台語としての発音。
第2回	ドイツ語発音の基礎 2 ・子音発音の基礎、特徴的発音の習得	復習:ドイツ語子音発音の調音点を理解すること。特徴的子音の発音の理解すること。
第3回	ドイツ語発音の基礎 3 綴り字と発音	復習:ドイツ語の綴り字と発音の理解・習得する。 予習:詩人ゲーテについてのレポートをまとめる。
第4回	ゲーテの詩を読む ・ゲーテについて基本知識を得る。詩の朗読。	復習:ドイツ歌曲の分野においても重要な詩人ゲーテの基本的知識を得る。 予習:Nur wer die Sehnsucht kenntの楽譜を用意する。
第5回	Nur wer die Sehnsucht kennt	復習:多くの作曲家によって作曲されてきた「ミニョンの歌」の一つであることを理解し、正しく発音できるようにする。 予習:Das Veilchenの楽譜を用意する。
第6回	Das Veilchen	復習:正しく発音する事はもちろん、言葉の内容を理解し、情景をイメージしながら朗読することを目標とする。 予習:Erlkönigの楽譜を用意する。
第7回	Erlkönig	復習:正しく発音する事はもちろん、言葉の内容を理解し、情景をイメージしながら朗読することを目標とする。登場人物の心情を表現する。 予習:日本語の詩を選択する。
第8回	日本語の詩を朗読 ・日本語の詩を朗読する事を通して、朗読表現とは何かを探る。	復習:第6回、第7回の講義で目標とした内容の理解、情景のイメージ、心情のイメージを母国語である日本語の朗読を通して把握することを目標とする。 予習:ハイネについてのレポートをまとめる。
第9回	ハイネの詩を読む ・ハイネについて基本知識を得る。詩の朗読	復習:多くの作曲家によって作曲されているハイネについての基礎知識を得る。 予習:Dichterliebeの楽譜を用意する。
第10回	“Dichterliebe” より	復習:連作歌曲集「詩人の恋」を取り上げ、美しき確かな発音、内容を理解して表現する事を演習する。
第11回	“Die Myrten” より	復習:歌曲集「ミルテの花」を取り上げ、美しき確かな発音、内容を理解して表現する事を演習する。 予習:各自朗読する詩を用意する。
第12回	opera “Zauberflöte”より	予習:オペラ「魔笛」のテキストを取り上げるので、各自オペラの内容を把握してくること 復習:「魔笛」鑑賞。ドイツ語の響きを聞きとる。
第13回	各自詩を朗読 1 ・まとめに向けて各自2編を選び朗読。	復習:本科目の目的であるドイツ語の美しい発音、情感豊かに表現することを繰り返し演習する。
第14回	各自詩を朗読 1 ・まとめに向けて各自2編を選び朗読。	復習:内容を理解して朗読できているか確認しながら、いかに朗読するかを工夫する。
第15回	本科目の総括	復習:本科目の到達目的であるドイツ語の美しい発音、情感豊かに表現する事を達成出来たかを確認する。

科目名(クラス)	朗読法B〔イタリア語〕		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	伊藤 和広	実務家教員	○	履修対象・条件	声楽専攻のみ履修可。必修。但し、Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>歌唱の際、言葉の意味や詩の内容を十分に理解していることは当然だが、それらをその言語の持つ独自のリズムや正しい発音で表現することは極めて重要なことである。この授業では、歌曲とオペラを題材に、イタリア語の持つ言葉の流れの感覚を養い、7つの母音、様々な子音、音節、アクセントを正しく習得する。更には、文法も正しく理解することにより、的確な感情表現が出来るよう、舞台発音法を用いた朗読を繰り返し実践していく。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>イタリア語の詩を、正しく的確な発音と感情表現で朗読が出来る。授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践出来る。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>各回の授業では、説明や実演に加え、CD等機器を使用することもあります。可能な限り朗読を実践していきます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席・早退をしないようにして下さい。朗読ですから感情が伴わなければなりませんので、常に積極的に取り組んでください。教材に関しては、印刷物を毎回配布します。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性(発言内容、課題への取り組みなど)及び各回の授業内での理解度・習得度を50%、最終回での試験を50%とします。</p>									
教科書	イタリア歌曲集、トスティ歌曲集			著者等		出版社	全音楽譜出版社		
教科書	オペラ「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア			著者等		出版社	ベーレンライター		
参考文献	Linea diretta 1			著者等		出版社	Guerra出版社		
参考文献	アット・プリモ「わかって歌おう」シリーズ フィガロの結婚			著者等	Ermanno Arienti / 岡山広幸	出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	イタリア語発音の基礎、イタリア語の持つリズム、発音の実践	予習:これまでに学んできたイタリア語の教科書や詩を読み返しておく。 復習:イタリア語発音の基礎を理解し、イタリア語の持つリズムで発音する。
第2回	le vocali(母音)7種類と le consonanti(子音)の基礎 特に難しいものを繰り返し実践	予習:イタリアについて辞典で調べ、前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試す。
第3回	eの閉口音と開口音、oの閉口音と開口音、u母音、様々な子音 特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:日本人にとって難しい母音と子音を各々試し、習得する。
第4回	長母音と短母音、troncamento(語尾切断)、sillaba(音節)、accento(アクセント) 特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第5回	i dittonghi(二重母音)と iato(分離母音)、難しい子音の徹底 特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第6回	Caro mio ben 基本文法のおさらい 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第7回	Nel cor piu non mi sento 大切な言葉を明確に 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第8回	L'ultima canzone 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第9回	Voi che sapete~“Le nozze di Figaro” 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第10回	la metrica(韻律法)、表現する発音へ、古語や方言 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ詩を各々読み、la metrica(韻律法)を理解した上で表現する。
第11回	文法を理解しながらオペラのrecitativo secco “Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:“Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習:学んだ文法を理解し、感情を込めて朗読する。
第12回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し、言葉のキャッチボールを実践	予習:“Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習:繰り返し実践する。
第13回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:繰り返し実践する。
第14回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:繰り返し実践する。
第15回	まとめ 試験	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめ、繰り返し実践する。 復習:授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践する。

科目名(クラス)	朗読法 I A (Konzertfach・イタリア語)		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	伊藤 和広	実務家教員	○	履修対象・条件	声乐のKonzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>歌唱の際、言葉の意味や詩の内容を十分に理解していることは当然だが、それらをその言語の持つ独自のリズムや正しい発音で表現することは極めて重要なことである。この授業では、歌曲とオペラを題材に、イタリア語の持つ言葉の流れの感覚を養い、7つの母音、様々な子音、音節、アクセントを正しく習得する。更には、文法も正しく理解することにより、的確な感情表現が出来るよう、舞台発音法を用いた朗読を繰り返し実践していく。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>イタリア語の詩を、正しく的確な発音と感情表現で朗読が出来る。授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践出来る。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>各回の授業では、説明や実演に加え、CD等機器を使用することもあります。可能な限り朗読を実践していきます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席・早退をしないようにして下さい。朗読ですから感情が伴わなければなりませんので、常に積極的に取り組んでください。教材に関しては、印刷物を毎回配布します。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性(発言内容、課題への取り組みなど)及び各回の授業内での理解度・習得度を50%、最終回での試験を50%とします。</p>									
教科書	イタリア歌曲集、トスティ歌曲集			著者等		出版社	全音楽譜出版社		
教科書	オペラ「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア			著者等		出版社	ベーレンライター		
参考文献	Linea diretta 1			著者等		出版社	Guerra出版社		
参考文献	アット・プリモ「わかって歌おう」シリーズ フィガロの結婚			著者等	Ermanno Arienti / 岡山広幸	出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	イタリア語発音の基礎、イタリア語の持つリズム、発音の実践	予習:これまでに学んできたイタリア語の教科書や詩を読み返しておく。 復習:イタリア語発音の基礎を理解し、イタリア語の持つリズムで発音する。
第2回	イタリア語発音の基礎、イタリア語の持つリズム、発音の実践	予習:これまでに学んできたイタリア語の教科書や詩を読み返しておく。 復習:イタリア語発音の基礎を理解し、イタリア語の持つリズムで発音する。
第3回	le vocali(母音)7種類と le consonanti(子音)の基礎 特に難しいものを繰り返し実践	予習:イタリアについて辞典で調べ、前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試す。
第4回	le vocali(母音)8種類と le consonanti(子音)の基礎 特に難しいものを繰り返し実践	予習:イタリアについて辞典で調べ、前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試す。
第5回	e の閉口音と開口音、o の閉口音と開口音、u 母音、様々な子音 特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:日本人にとって難しい母音と子音を各々試し、習得する。
第6回	e の閉口音と開口音、o の閉口音と開口音、u 母音、様々な子音 特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:日本人にとって難しい母音と子音を各々試し、習得する。
第7回	長母音と短母音、troncamento(語尾切断)、sillaba(音節)、accento(アクセント) 特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第8回	長母音と短母音、troncamento(語尾切断)、sillaba(音節)、accento(アクセント) 特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第9回	i dittonghi(二重母音)と iato(分離母音)、難しい子音の徹底 特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、母音、子音の細やかな違いを理解する。
第10回	i dittonghi(二重母音)と iato(分離母音)、難しい子音の徹底 特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試し、母音、子音の細やかな違いを理解する。
第11回	Caro mio ben 基本文法のおさらい 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第12回	Caro mio ben 基本文法のおさらい 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第13回	Nel cor piu non mi sento 大切な言葉を明確に 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第14回	Nel cor piu non mi sento 大切な言葉を明確に 特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第15回	まとめ 試験	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめ、繰り返し実践する。 復習:授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践する。

科目名(クラス)	朗読法 I B (Konzertfach・イタリア語)		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	伊藤 和広	実務家教員	○	履修対象・条件	声乐のKonzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>歌唱の際、言葉の意味や詩の内容を十分に理解していることは当然だが、それらをその言語の持つ独自のリズムや正しい発音で表現することは極めて重要なことである。この授業では、歌曲とオペラを題材に、イタリア語の持つ言葉の流れの感覚を養い、7つの母音、様々な子音、音節、アクセントを正しく習得する。更には、文法も正しく理解することにより、的確な感情表現が出来るよう、舞台発音法を用いた朗読を繰り返し実践していく。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>イタリア語の詩を、正しく的確な発音と感情表現で朗読が出来る。授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践出来る。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>各回の授業では、説明や実演に加え、CD等機器を使用することもあります。可能な限り朗読を実践していきます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席・早退をしないようにして下さい。朗読ですから感情が伴わなければなりませんので、常に積極的に取り組んでください。教材に関しては、印刷物を毎回配布します。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性(発言内容、課題への取り組みなど)及び各回の授業内での理解度・習得度を50%、最終回での試験を50%とします。</p>									
教科書	イタリア歌曲集、トスティ歌曲集			著者等		出版社	全音楽譜出版社		
教科書	オペラ「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア			著者等		出版社	ベーレンライター		
参考文献	Linea diretta 1			著者等		出版社	Guerra出版社		
参考文献	アット・プリモ「わかって歌おう」シリーズ フィガロの結婚			著者等	Ermanno Arienti / 岡山広幸	出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	L'ultima canzone 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: 朗読法1Aで学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第2回	L'ultima canzone 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: 朗読法2Aで学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第3回	Voi che sapete～“Le nozze di Figaro” 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: : 前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第4回	Voi che sapete～“Le nozze di Figaro” 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: : 前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第5回	la metrica(韻律法)、表現する発音へ、古語や方言 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: 前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 授業で学んだ詩を各々読み、la metrica(韻律法)を理解した上で表現する。
第6回	la metrica(韻律法)、表現する発音へ、古語や方言 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: 前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 授業で学んだ詩を各々読み、la metrica(韻律法)を理解した上で表現する。
第7回	文法を理解しながら オペラのrecitativo secco “Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: “Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習: 学んだ文法を理解し、感情を込めて朗読する。
第8回	文法を理解しながら オペラのrecitativo secco “Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: “Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習: 学んだ文法を理解し、感情を込めて朗読する。
第9回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し、言葉のキャッチボールを実践	予習: “Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習: 繰り返し実践する。
第10回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し、言葉のキャッチボールを実践	予習: “Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習: 繰り返し実践する。
第11回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: 前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 繰り返し実践する。
第12回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: 前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 繰り返し実践する。
第13回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	予習: 前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 繰り返し実践する。
第14回	まとめ	予習: 前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習: 繰り返し実践する。
第15回	試験	予習: 前回の授業で学んだ内容の要点をまとめ、繰り返し実践する。 復習: 授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践する。

科目名(クラス)	朗読法ⅡA 【Konzertfach(演奏専攻)・ドイツ語】		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	武藤 直美	実務家教員	○	履修対象・条件	声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>如何にして舞台から明瞭な言語を届けることができるかは声楽を学ぶにあたり必須のテーマである。芸術歌曲を題材に、詩の持つ美しさを理解し、歌うためのドイツ語の正しい発音を身につける。詩と音楽の融合、詩人と作曲家についても勉強する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>歌うためのドイツ語の発音を確実に身につけている。 詩の持つ美しさを理解し朗読できる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>授業は演習形式で行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>積極的に授業に取り組むこと。毎日予習、復習を1日最低30分は行うこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業における発音能力の進歩具合50% 期末試験50%とする。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語発音の基礎、Vokale 母音一長(短)母音	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第2回	ドイツ語発音の基礎、Konsonanten 子音	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第3回	ドイツ語発音の基礎、Konsonanten 子音	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第4回	ドイツ語発音の基礎、Rhythmus 韻律と Dynamik 強弱法	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第5回	ドイツ語発音の基礎、Rhythmus 韻律と Dynamik 強弱法	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、 発音記号を調べる。 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第6回	Heidenroeslein	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、 発音記号を調べる。 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第7回	Schaefers Klage lied	予習-ゲーテとシューベルトについて調べる。 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第8回	Schaefers Klage lied ゲーテとシューベルト	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、 発音記号を調べる。 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第9回	Ganymed	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第10回	Ganymed	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、 発音記号を調べる。 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第11回	Die Lotusblume	予習-次回の授業で行うテキストの発音記号と 内容を調べる。ハイネについて調べる。 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第12回	Die Lotusblume Du bist wie eine Blume	予習-次回の授業で行うテキストの発音記号と 内容を調べる。シューマンについて調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第13回	Widmung シューマン	予習-次回の授業で行うテキストの発音記号と 内容を調べる。リュッケルトについて調べる。 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第14回	Aus den oestlichen Rosen リュッケルト	予習-各回のテキストを振り返る。 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第15回	まとめ	予習-シラバスを読み後期に行うテキストを 押さえておく。 復習-授業で学んだことを活かし、できるだけ多くの テキストを読む。

科目名(クラス)	朗読法ⅡB 【Konzertfach(演奏専攻)・ドイツ語】		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	武藤 直美	実務家教員	○	履修対象・条件	声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>如何にして舞台から明瞭な言語を届けることができるかは声楽を学ぶにあたり必須のテーマである。芸術歌曲では詩の持つ美しさを理解し、オペラでは登場人物の心情をイメージしながら台詞を自然に美しく発音できるようにする。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>歌うためのドイツ語の発音を確実に身につけている。詩の持つ美しさを理解し朗読できる。 舞台から明瞭なドイツ語を届けることができるよう、内容を理解したうえで美しいドイツ語が発音でき自然に表現できる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>授業は演習形式で行う。DVDなどの視聴覚器を必要時に用いる。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>積極的に授業に取り組むこと。毎日予習、復習を1日最低30分は行うこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>発音能力の進歩具合20%中間試験30%期末試験50%とする。</p>									
教科書	オペラ「魔笛」ヴォーカルスコア			著者等		出版社	ベーレンライター		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	「Die Schoene Muellerein」Op.25より	予習- 次回の授業で行うテキストの発音記号と内容を調べる。美しき水車小屋の娘とミュラーについて調べる。
第2回	「Die Schoene Muellerein」Op.25より	予習- 次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第3回	「Die Schoene Muellerein」Op.25より	予習- 次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第4回	「Die Schoene Muellerein」Op.25より	予習- 次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第5回	「Die Schoene Muellerein」Op.25より	予習- 次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第6回	「Die Schoene Muellerein」Op.25より	予習- 次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第7回	「Die Schoene Muellerein」Op.25より	復習- 第一回の授業より演習したことを繰り返し練習する。
第8回	第1回からのまとめ	予習- オペラ「魔笛」の内容、モーツァルトについて調べる。
第9回	「Die Zauberfloete」 モーツァルト	予習- 次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第10回	「Die Zauberfloete」より登場人物の台詞を抜粋し演習	予習- 次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第11回	「Die Zauberfloete」より登場人物の台詞を抜粋し演習	予習- 次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第12回	「Die Zauberfloete」より登場人物の台詞を抜粋し演習	予習- 次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第13回	「Die Zauberfloete」より 抜粋した台詞を暗記	予習- 授業での演習を生かし繰り返し練習する。
第14回	「Die Zauberfloete」より 抜粋した台詞を暗記	予習- 授業で学習したこと及び視聴覚を用いて繰り返し練習する。 復習- 授業で演習したことを繰り返し練習する。
第15回	第9回からのまとめ	予習- 第9回からのテキストを振り返る。 復習- 授業で学んだことを活かし、できるだけ多くのテキストを読む。

科目名(クラス)	ピアノアンサンブルA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	田中 梢	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ピアノアンサンブルの演奏を通じて、共演者と呼吸を合わせること、お互いの音を聴き合い音楽を作り上げることを学ぶ。シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークの楽曲を通じて室内楽演奏を基礎を学ぶ。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークからそれぞれの課題曲を弾けるようになること。 作曲家のそれぞれの特性を知る。 パートナーとアンサンブルするテクニックを身に着ける。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>二人一組でパートナーを作り、与えられた課題をこなしてゆく。組ごとの到達度によってより多くの課題曲をこなしてゆく。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>パートナーがいなければ成り立たない授業であるので、お互いを思いやる心を忘れずに。各自が必ず練習してくること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>前期の試演会の演奏評価30% 授業への積極性70%</p>									
教科書	その都度用意、又はその都度指示します。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	アンサンブルの心得を学習する 音楽を使った自己紹介とパートナー決め	復習: アンサンブルの心得を読む
第2回	小品によるアンサンブル演習	予習: 選んだ課題曲の音取りとパートナー合わせ 復習: アンサンブルの基本を身に着ける
第3回	シューベルトの連弾曲	予習: 音源を聴く、課題曲をさらう、パートナーと合わせる 復習: シューベルトについて理解する
第4回	ブラームスの「ワルツ集」より	予習: 音源を聴く、課題曲をさらう、パートナーと合わせる 復習: ブラームスの音楽、ワルツについて理解する
第5回	ブラームスの「ワルツ集」より	予習: 音源を聴く、課題曲をさらう、パートナーと合わせる 復習: ブラームスの音楽、ワルツについて理解する
第6回	ブラームスの「ハンガリア舞曲集」より	予習: 音源を聴き、曲を選び譜読みしてパートナーと合わせる 復習: ブラームスについてさらに理解してハンガリア音楽についても学ぶ
第7回	ブラームスの「ハンガリア舞曲集」より	予習: 音源を聴き、曲を選び譜読みしてパートナーと合わせる 復習: ブラームスについてさらに理解してハンガリア音楽についても学ぶ
第8回	ブラームスの「ハンガリア舞曲集」より	予習: 音源を聴き、曲を選び譜読みしてパートナーと合わせる 復習: ブラームスについてさらに理解してハンガリア音楽についても学ぶ
第9回	ドヴォルザークの「スラブ舞曲」	予習: 音源を聴いて曲を選び、譜読みをしてパートナーと合わせる 復習: ドヴォルザークについて、スラブ音楽について理解する
第10回	ドヴォルザークの「スラブ舞曲」	予習: 音源を聴いて曲を選び、譜読みをしてパートナーと合わせる 復習: ドヴォルザークについて、スラブ音楽について理解する
第11回	自由課題曲	予習: パートナーと演奏したい曲を探して譜読みしパートナーと合わせる 復習: 音源を聴く
第12回	自由課題曲	予習: パートナーと合わせる 復習: 楽曲をさらに理解する
第13回	自由課題曲	予習: パートナーと合わせ楽曲を深める 復習: 楽曲を完成させる
第14回	前期試演会ゲネプロ	予習: 前期にやった楽曲の中から試演会の曲を選ぶ 復習: 試演会に向けて完成させる
第15回	前期試演会	予習: 試演会に向けて完成させる 復習: 批評を熟読して次に生かす

科目名(クラス)	ピアノアンサンブルB		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	田中 梢	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ピアノアンサンブルの演奏を通じて共演者と呼吸を合わせること、お互いの音を聴き合い音楽を作り上げることを学ぶ。サンサーンス・ドビュッシー・フォーレ・ラヴェル・プーランクなどのフランス音楽家のアンサンブル曲を学び、フランス音楽への理解とそれぞれの作曲家への理解を深める</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>それぞれの組で選んだ課題曲を完成させる 自由課題では2台ピアノも演奏できるようになる</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>お互いにパートナーを選んで組を作り与えられた課題をこなしてゆく 組ごとの到達度によってそれぞれに合った課題を選ぶ</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>パートナーがいなければ成り立たない授業であるので、お互いを思いやる心を忘れずに。 各自が必ず練習してくること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>前期の試演会の演奏評価30% 授業への積極性70%</p>									
教科書	その都度指示			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	パートナーを決める サン＝サーンス「動物の謝肉祭」の音源を聴く	復習:演奏する楽曲を選び音源を聴く
第2回	サン＝サーンス「動物の謝肉祭」	予習:選んだ楽曲の譜読みとパートナー合わせ 復習:サン＝サーンスの音楽を理解する
第3回	サン＝サーンス「動物の謝肉祭」	予習:選んだ楽曲の譜読みとパートナー合わせ 復習:サン＝サーンスの音楽を理解する
第4回	サン＝サーンス「動物の謝肉祭」	予習:選んだ楽曲の譜読みとパートナー合わせ 復習:サン＝サーンスの音楽を理解する
第5回	ドビュッシー・フォーレ・ラヴェル・プーランクなどのフランスの作曲家の連弾曲あるいは2台ピアノ	予習:フランスの作曲家のアンサンブル曲を知り楽曲を選び譜読みをしてパートナーと合わせる 復習:選んだ作曲家について理解する
第6回	ドビュッシー・フォーレ・ラヴェル・プーランクなどのフランスの作曲家の連弾曲あるいは3台ピアノ	予習:選んだ楽曲の譜読みをしてパートナーと合わせる 復習:選んだ作曲家について楽曲について理解する
第7回	ドビュッシー・フォーレ・ラヴェル・プーランクなどのフランスの作曲家の連弾曲あるいは4台ピアノ	予習:選んだ楽曲の譜読みをしてパートナーと合わせる 復習:選んだ作曲家について楽曲について理解する
第8回	ドビュッシー・フォーレ・ラヴェル・プーランクなどのフランスの作曲家の連弾曲あるいは5台ピアノ	予習:選んだ楽曲の譜読みをしてパートナーと合わせる 復習:選んだ作曲家について楽曲について理解する
第9回	自由課題	予習:やりたい楽曲を選び音源を聴く 復習:選んだ楽曲への理解を深める
第10回	自由課題	予習:選んだ楽曲への理解を深めパートナーと合わせる 復習:選んだ楽曲への理解を深める
第11回	自由課題	予習:選んだ楽曲への理解を深めパートナーと合わせる 復習:選んだ楽曲への理解を深める
第12回	クリスマスアンサンブル曲	予習:クリスマスアンサンブル曲を選び譜読みをしてパートナーと合わせる 復習:クリスマス音楽への理解を深める
第13回	ぐるぐるピアノなど	予習:課題を譜読みする 復習:様々なアンサンブルの楽しさに対して理解を深める
第14回	後期試演会ゲネプロ	予習:試演会で弾く曲を選びパートナーと合わせる 復習:注意されたことを反省する
第15回	後期試演会	予習:パートナーと合わせる 復習:批評を読み反省する

科目名(クラス)	チェンバロ研究 I A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3	
担当教員	梶山 希代	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>16世紀後半から18世紀末(ルネサンス～バロック時代)、およそ250年間にわたりヨーロッパで愛好された撥弦鍵盤楽器チェンバロについて、構造・様式・歴史的背景等をふまえ、多角的な面から取り上げる。講義に加えて撥弦楽器のタッチに親しむための実技演習を行う。演習を通して、バロック時代の鍵盤作品へのアプローチの仕方、バックグラウンドとなる時代の美学・精神文化についても考察する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>ピアノとの奏法ならびに鍵盤語法の違い、発音原理の違いによる音楽表現を理解し、チェンバロの基本的なタッチを習得する。バロック時代の鍵盤作品に即した様式感を身につける。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義と演習形式。学生間のディスカッションも随時取り入れていく。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>受講者の積極性と任意性を最重要視する。実技課題は毎回十分な準備をしたうえで授業に臨むこと。質問・意見は活発に。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>実技試験60%、授業への積極性と貢献度(課題の取り組み方、質問や感想等自発的発言の有無、教員の問いかけに対する反応)40%。発言および反応無しの受け身の姿勢は評価されない。</p>									
教科書	使用しない。			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	必要に応じ資料配布。			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	チェンバロという楽器についての予備知識調査。授業の全貌についての説明。楽器の取り扱い方の注意。	予習:シラバスを読み各回の内容を把握した上で、自分が特に興味があり知りたいと思う点について発言できるよう準備しておく。
第2回	チェンバロとは何か、そのルーツと構造。	予習:鍵盤楽器の簡単な歴史について調べる。 復習:チェンバロの構造についてまとめる。
第3回	チェンバロの発音原理。	予習:楽器の構造上、必用最低限の名称と機能をまとめておく。 復習:チェンバロの発音アクションを把握する。
第4回	チェンバロのタッチとアーティキュレーション。	予習:アーティキュレーションとフレー징の違いを調べる。 復習:チェンバロにおけるアーティキュレーションの意味と必要性を自分の言葉でまとめる。
第5回	バロック時代のチェンバロ以外の撥弦鍵盤楽器。	予習:バロック時代、チェンバロの他にどのような鍵盤楽器があったか調べる。 復習:授業で取り上げた各鍵盤楽器の特徴をまとめる。
第6回	楽器の変遷とピリオド楽器の復興。	予習:ピリオド楽器(古楽器)について簡単に調べる。 復習:ピリオド楽器の主な特徴をまとめる。
第7回	チェンバロの様式 初期イタリア	予習:音楽史上におけるイタリアのトピックを調べる。 復習:初期イタリアのチェンバロの音色、イメージ、特徴をまとめる。
第8回	チェンバロの様式 初期フランドル	予習:フランドル地方の歴史を調べる。 復習:イタリアとフランドルのチェンバロの特徴をまとめる。
第9回	チェンバロの様式 後期フランドル	予習:フランドル地方の文化的特徴を調べる。 復習:初期フランドルから後期への変遷を把握する。
第10回	チェンバロの様式 フランス	予習:フランス革命前後の歴史を調べる。 復習:オリジナル楽器の音を通して、フランスのチェンバロの音色のイメージと特徴をまとめる。
第11回	チェンバロの様式 ドイツ	予習:前回までに取り上げた各楽器の様式をまとめておく。 復習:ドイツのチェンバロの特徴を把握する。
第12回	チェンバロの様式 イギリス	予習:産業革命までのイギリスの大まかな歴史を調べる。 復習:様式について取り上げた各地域の楽器の特徴をまとめる。
第13回	実技演習 主にバロック時代の舞曲等、18世紀の簡易な鍵盤作品を弾く	予習:バロック時代の舞曲について調べる。 復習:舞曲のビート感を把握する。
第14回	実技演習 J.S.バッハ「クライネプレリュード」他	予習:J.S.バッハの鍵盤作品のジャンルを調べる。 復習:課題で弾いた作品の相応しいタッチとアーティキュレーションを把握する。
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:実習で弾いた作品の語法、アーティキュレーションを基に他の作品にも応用できるよう、各自の表現を探究していく。

科目名(クラス)	チェンバロ研究 I B			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	梶山 希代	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>チェンバロ作品においては様式感に基いた装飾や即興の実践が必要不可欠となる。そのための最低限の装飾の種類と名称を理解し、実技演習を通して学ぶ。またバロック音楽の土台となる通奏低音の知識も欠かせないため、数字付き低音による伴奏法について取り上げる。チェンバロは奏者が自分で調律を行う楽器であるため、簡単な調律実習も体験する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>チェンバロのタッチに慣れ、バロック音楽の語法への理解を深める。初歩的な数字付き低音譜のリアリゼーションができるようになる。調律実習では、バロック時代の作曲家が求めた響きを理解し体感する。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義と実技演習形式。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>課題の難易度も上がるため、十分な準備を必要とする。特に通奏低音奏法は入念な予習復習が必要である。各回の課題に真剣に取り組むこと。疑問点を次の授業に持ち越さないこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>実技試験70% 授業への参加度、貢献度30%</p>									
教科書	使用しない。			著者等				出版社	
教科書				著者等				出版社	
参考文献	必用に応じ資料配布。			著者等				出版社	
参考文献				著者等				出版社	
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	後期授業の概要について。前期の内容について意識調査。	予習:前期授業の内容について、疑問点等あれば感想含めまとめておく。
第2回	チェンバロ音楽における装飾の種類と名称。	予習:既習の装飾音の種類を調べる。 復習:授業で取り上げた装飾の大まかな分類を把握する。
第3回	18世紀フランスで用いられた装飾。	予習:前回取り上げた装飾の種類を確認しておく。 復習:フランスの作曲家が用いた装飾記号を整理し、正しく弾く。
第4回	ドイツで用いられた装飾。	予習:J.S.バッハの作品で使用される装飾記号を調べる。 復習:J.S.バッハ「クライネプレリュード」の装飾音表の把握。
第5回	調律実習 音律とは何か、なぜ調律が必要なのか。	予習:通常ピアノの調律で用いられる調律法について調べる。 復習:ルネサンス以降、様々に試行されてきた調律の意味をまとめる。
第6回	調律実習 二音間に生じる「うなり」を聞く。等分律と不等分律の違い。	予習:ピタゴラスコンマについて調べる。 復習:二音間のうなりの聞き取りの確認。
第7回	調律実習 17～18世紀に用いられた調律法の実例。	予習:シントニックコンマについて調べる。 復習:調律法の違いによって生まれる様々な響きを把握。
第8回	通奏低音奏法 数字付き低音とは何か、その機能と室内楽における役割。	予習:バロック期の代表的な室内楽作品を挙げておく。 復習:数字付き低音による伴奏法とはどのようなものか、自分の言葉でまとめる。
第9回	通奏低音奏法 機能和声とカデンツの種類。	予習:二次までの和声学で学習した内容を一通り確認しておく。 復習:♯♭三つまでの長・短調のカデンツ(I→IV→V→I)を全ての配置で正しく弾く。
第10回	通奏低音奏法 基本形による和音の連結	予習:基本位置の和音と転回形について調べておく。 復習:和音進行における基本的な規則をまとめる。
第11回	通奏低音奏法 第一転回と第二転回の和音を含む連結	予習:第一、第二転回の和音について、あらかじめ和声学で学んだ内容に目を通しておく。 復習:通奏低音独自の和音表記を理解し、転回形の和音を含む低音課題を正しく弾く。
第12回	通奏低音奏法 繋留和音を含む連結	予習:機能和声における繋留とは、どのようなものか調べる。 復習:第一、第二転回と繋留を含む低音課題を正しい連結で弾く。
第13回	通奏低音奏法 7の和音を含む低音課題	予習:前回までの授業で扱った和音進行についてまとめておく。復習:7の和音の機能を把握。
第14回	通奏低音奏法 7の和音の転回形	予習:7の和音の転回形について調べる。 復習:基本形、第一、第二転回、繋留、7の和音とその転回を含む低音課題を正しく弾く。
第15回	まとめ	予習:前回までの授業で扱った和音進行について、数字の意味、連結における規則等一通り把握しておく。 復習:簡易な低音課題を初見で弾く。

科目名(クラス)	チェンバロ研究ⅡA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4	
担当教員	梶山 希代	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>チェンバロ研究Ⅰで学んだ奏法の基本をふまえ、さらに撥弦楽器のタッチに習熟すると共に、チェンバロ音楽の様式感への理解を深める。通奏低音による伴奏法について、より実践的な奏法へと進む。各自がリアリゼーションした譜面を用いてアンサンブル実習を実施する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>数字付き低音譜の意味と読み方を理解し、バロック期の簡易な室内楽作品が演奏できるようになる。アンサンブル実習では、作品の内容に即した多様なアフェクト表現を目指していく。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義と実技演習形式。学生間のより活発なディスカッションも取り入れていく。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>実技課題およびアンサンブル課題は、十分な準備をした上で授業に臨むこと。演習では、お互いに感想や意見を率直に伝え合うよう心掛ける。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>実技60% 授業への積極性・任意性(課題の準備を怠らず熱意を持って取り組んだか、ディスカッションにおいて自分の意見を自分の言葉で明確に述べる事ができたか、またその発言内容等)40%</p>									
教科書	使用しない。			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	必要に応じ資料配布。			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数		準備学習(予習・復習)
第1回	前期授業の概要と各回のテーマについて。受講者の意識調査。	予習:チェンバロ研究Ⅰの内容について疑問点があれば整理しておく。
第2回	通奏低音による伴奏法	予習:チェンバロ研究Ⅰで学んだ数字付き低音の内容を一通り確認しておく。 復習:課題で弾いた和音進行のまとめ。
第3回	通奏低音による伴奏法 バロック期の室内楽作品における通奏低音の役割。	予習:バロック期の代表的な室内楽作品について調べる。 復習:通奏低音奏者が留意すべき点について、自分の考えをまとめてみる。
第4回	通奏低音による伴奏法 より実践的なリアリゼーション	予習:バッハ、ヘンデル、テレマン等、代表的なバロック期の室内楽作品(いずれか一曲でよい)の現代譜に目を通しておく。 復習:実践的なリアリゼーションを実施する上での留意点をまとめる。
第5回	通奏低音による伴奏法 多様なアフェクト表現	予習:前回の課題で問題点があれば整理しておく。 復習:通奏低音の実践における様々なアフェクト表現を把握する。
第6回	通奏低音による伴奏法 作品の音楽構成と和声感への理解	予習:前回実習したアフェクト表現についてまとめておく。 復習:各作品の具体的なアフェクト表現と和声感を把握する。
第7回	アンサンブル実習 各自の課題決定	予習:実習で弾いた課題の中から、希望曲をある程度絞って目を通しておく。 復習:選択した課題の調性、楽章等大まかな構成を把握。
第8回	アンサンブル実習 課題の和音付け	予習:各自の課題曲で使われている数字に目を通しておく。 復習:和音付けした部分の確認。
第9回	アンサンブル実習 課題の和音付けの続き	予習:前回までの和音付けで修正箇所があれば直しておく。 復習:訂正箇所を含め、和音付けの確認。
第10回	アンサンブル実習 リアリゼーション譜を完成させる	予習:課題曲を一通り弾いておく。 復習:各自のリアリゼーション譜のまとめ。
第11回	アンサンブル実習 ソリスト合わせの準備	予習:課題曲の注意点をまとめておく。 復習:課題曲のアフェクトに即した表現、和声感を把握。
第12回	アンサンブル実習 ソリスト合わせの準備	予習:前回までの注意点、アフェクト表現のための実践的な奏法等についてまとめておく。 復習:通奏低音の役割をよく理解し、課題を一通り弾く。
第13回	アンサンブル実習 ソリスト合わせ	予習:ソリストの要求に応えられるよう、課題の楽曲構成を細部まで確認しておく。 復習:授業内で弾いた部分を、ソリストと共に一通り弾いて確認する。
第14回	アンサンブル実習 ソリスト合わせ	予習:前回の授業内で取り残した部分、合わせて上手くいかなかった部分等あれば各自見直し修正しておく。 復習:修正部分を含め、課題曲を自分なりにまとめて完成させる。
第15回	まとめ アンサンブル課題発表とディスカッション	予習:発表に向けて作品全体のチェック。 復習:まとめとして各自の問題点を挙げ、アンサンブルにおける留意点等を話し合う。

科目名(クラス)	チェンバロ研究ⅡB		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	4	
担当教員	梶山 希代	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>後期の授業ではピアニストとの共通のレパートリーでもあるJ.S.バッハに焦点を当て、その生涯を辿りながらJ.S.バッハが如何にして大バッハと呼ばれるようになったかを探求していく。J.S.バッハの先輩にあたる作曲家にはどのような音楽家がいたか、彼らがバッハに与えた影響、バッハがそれをどのように吸収し作品に取り入れていったかを検証する。それに伴いルネサンス後期および17世紀初期バロック～盛期バロックのレパートリーを中心にチェンバロ独自の語法を活かした作品を取り上げ、バロック音楽の重要な諸形式とその様式感への理解を深める。即興演奏の技法、18世紀初頭まで使われた運指法等、19世紀以降とは異なる美学に基いた音楽表現を学ぶ。当時の文献(作曲者による序文等)にも当たり、作品が生まれた源泉を識る。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>J.S.バッハに至るまでの鍵盤音楽の歴史、様式の変遷を考察することにより、音楽作品を多角的な視点から捉え、より深く理解することができるようになる。チェンバロ奏法に習熟し、自発的、意欲的な演奏ができるようになる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義と演習形式。学生間のディスカッションも随時行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>実技課題は各自の演奏解釈発表の場として、毎回自分の考えを自分の言葉で明確に述べる。表現に対するエネルギーを節約せず、尚且つ批判されることにも慣れること。実技のみならず、積極的に文献にあたる習慣を身につけることも求める。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>実技50% 授業への積極性および貢献度50%(ディスカッションにおける発言内容、課題への意欲や取り組み方、自発性・探求心等の度合い)</p>									
教科書	使用しない。			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	必要に応じ資料配布。			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	後期授業の概要と各テーマについて	予習:シラバスをよく読み、各回のテーマを確認しておく。 復習:後期授業の概要を聞いたうえで、興味の対象を整理。
第2回	J.S.バッハについて(概説)	予習:J.S.バッハについて調べる。 復習:バロック期におけるJ.S.バッハの位置づけを整理。
第3回	J.S.バッハの生涯	予習:17世紀末～18世紀半ばまでのドイツの歴史について簡単に調べる。 復習:授業で取り上げたドイツの政治的・文化的背景とJ.S.バッハとの関連を把握する。
第4回	J.S.バッハの鍵盤作品のジャンル	予習:ピアノでのJ.S.バッハ既習曲を確認しておく。 復習:J.S.バッハの鍵盤曲ジャンルを整理。
第5回	J.S.バッハの先輩達 北方バロックと北ドイツ・オルガン楽派	予習:バッハ以前の音楽史におけるドイツの状況について、簡単に調べる。 復習:北ドイツ・オルガン楽派がバッハに与えた影響を整理。
第6回	J.S.バッハの先輩達 南ドイツの作曲家	予習:18世紀の南ドイツにおける音楽状況について調べる。 復習:授業で紹介した作曲家の作品を把握する。
第7回	バロック音楽における二大様式とJ.S.バッハ イタリアの様式	予習:イタリアの歴史について簡単に調べる。 復習:J.S.バッハがイタリアから受けた影響を整理。
第8回	バロック音楽における二大様式とJ.S.バッハ フランスの様式	予習:フランスの歴史について簡単に調べる。 復習:J.S.バッハがフランスから受けた影響を整理。
第9回	J.S.バッハの鍵盤作品における諸形式	予習:バロック期の器楽曲における形式を調べる。 復習:授業で扱った鍵盤音楽の形式を把握。
第10回	自由なフォルムによる形式 プレリユードとトッカータ	予習:プレリユードについて調べる。 復習:授業で取り上げた「自由なフォルムによる形式」についてまとめる。
第11回	厳格なフォルムによる形式 フーガ他、多声部書法による作品	予習:フーガについて調べる。 復習:「厳格なフォルムによる形式」についてまとめる。
第12回	舞曲	予習:バロック期に器楽曲として様式化された舞曲には、どのようなものがあるか調べる。 復習:授業で扱った各舞曲のビート感を把握。
第13回	組曲	予習:J.S.バッハの組曲について調べる。 復習:授業で取り上げた組曲に含まれる舞曲を弾く。
第14回	J.S.バッハ後の音楽の変遷 ポスト・バロック	予習:J.S.バッハ以後の音楽史の流れについて簡単に調べる。 復習:バロックの出口から前古典派までの流れを把握。
第15回	まとめ	本科目の総括として、チェンバロ音楽に顕れたバロックの特質とJ.S.バッハの鍵盤作品についてまとめてみる。特に興味を持った点やテーマを取り上げディスカッションする。

科目名(クラス)	オーケストラA(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4		
担当教員	梅田 俊明	実務家教員	○	履修対象・条件	管弦打楽器専攻は「ウィンドオーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA」とのいずれか必修。管弦打楽器専攻以外はⅠ・ⅡABのみ履修可。教職実践専攻はⅠABのみ履修可。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>オーケストラの一員として各々の演奏能力を最大限に発揮しながら、アンサンブルの喜びを共有し、作品の奥深い理解に基づいた質の高い演奏を目指す。様々な時代や国と地域の作曲家による著名な作品を通して、文化的背景や様式の違いを知り、表現力の多様性を獲得する。今年度はベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」で古典的な演奏法を学ぶことを軸に、ストラヴィンスキー:バレエ組曲「火の鳥」まで管弦楽の発展を追う。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力			
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	○	
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>演奏会を経験することで、本番を迎えるまでの音楽的な準備や精神面での調整を図り、その結果としての達成感を共有する。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>全合奏、セクション別分奏、パート別分奏に加え、様々な組み合わせによるアンサンブルを臨機応変に組み合わせる。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>集団において求められる責任を踏まえ、時間厳守、連絡義務等を怠らないようにしましょう。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>主体性を持って積極的に参加できたか、その上でアンサンブルの向上に貢献できたかを、オーケストラの担当教員達が総合的に評価する。</p>										
教科書	Beethoven: Symphonie Nr. 3			著者等		出版社	Bärenreiter			
教科書	Stravinsky: L'oiseau de feu (Suite 1919)			著者等		出版社	Schott			
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>										
<p>②時間帯(15 時 00 分 ~ 19 時 30 分)</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Beethoven + 青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	譜読み等の演奏準備
第2回	Beethoven + 青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	課題に対する演奏準備
第3回	Beethoven + 青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	課題に対する演奏準備
第4回	Beethoven + 青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	課題に対する演奏準備
第5回	Beethoven + 青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	課題に対する演奏準備
第6回	Beethoven + 青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	課題に対する演奏準備
第7回	Beethoven + 青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	課題に対する演奏準備
第8回	Beethoven + 青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	課題に対する演奏準備
第9回	青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	演奏会に向けての最終準備
第10回	青梅市音楽鑑賞教室のプログラム	演奏会に向けての最終準備
第11回	定期演奏会のプログラム	譜読み等の演奏準備
第12回	定期演奏会のプログラム	課題に対する演奏準備
第13回	定期演奏会のプログラム	課題に対する演奏準備
第14回	定期演奏会のプログラム	課題に対する演奏準備
第15回	定期演奏会のプログラム	課題に対する演奏準備

科目名(クラス)	オーケストラB(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)			開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	梅田 俊明	実務家教員	○	履修対象・条件		管弦打楽器専攻は「WindオーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA」とのいずれか必修。管弦打楽器専攻以外はⅠ・ⅡABのみ履修可。教職実践専攻はⅠABのみ履修可。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>オーケストラの一員として各々の演奏能力を最大限に発揮しながら、アンサンブルの喜びを共有し、作品の奥深い理解に基づいた質の高い演奏を目指す。様々な時代や国と地域の作曲家による著名な作品を通して、文化的背景や様式の違いを知り、表現力の多様性を獲得する。今年度はベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」で古典的な演奏法を学ぶことを軸に、ストラヴィンスキー:バレエ組曲「火の鳥」まで管弦楽の発展を追う。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>演奏会を経験することで、本番を迎えるまでの音楽的な準備や精神面での調整を図り、その結果としての達成感を共有する。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>全合奏、セクション別分奏、パート別分奏に加え、様々な組み合わせによるアンサンブルを臨機応変に組み合わせる。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>集団において求められる責任を踏まえ、時間厳守、連絡義務等を怠らないようにしましょう。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>主体性を持って積極的に参加できたか、その上でアンサンブルの向上に貢献できたか、をオーケストラの担当教員達が総合的に評価する。</p>									
教科書	Beethoven: Symphonie Nr. 3			著者等		出版社	Bärenreiter		
教科書	Stravinsky: L'oiseau de feu (Suite 1919)			著者等		出版社	Schott		
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(15 時 00 分 ~ 19 時 30 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	トライアルコンサートのプログラム	譜読み等の演奏準備
第2回	トライアルコンサートのプログラム	課題に対する演奏準備
第3回	トライアルコンサートのプログラム	課題に対する演奏準備
第4回	トライアルコンサートのプログラム	課題に対する演奏準備
第5回	トライアルコンサートのプログラム	演奏会に向けての最終準備
第6回	定期演奏会のプログラム	課題に対する演奏準備
第7回	定期演奏会のプログラム	課題に対する演奏準備
第8回	定期演奏会のプログラム	課題に対する演奏準備
第9回	定期演奏会のプログラム	課題に対する演奏準備
第10回	定期演奏会のプログラム	演奏会に向けての最終準備
第11回	定期演奏会のプログラム	演奏会に向けての最終準備
第12回	音楽大学オーケストラ・フェスティバルのプログラム	演奏会に向けての最終準備
第13回	音楽大学オーケストラ・フェスティバルのプログラム	演奏会に向けての最終準備
第14回		
第15回		

科目名(クラス)	ウインドオーケストラ I・II・III・IVA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1~4		
担当教員	福田 洋介	実務家教員	○	履修対象・条件	管弦打楽器専攻はオーケストラI~IVとのいずれか必修。他専攻はI IIの履修可。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。教職実践専攻(声楽・ピアノ)はIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>この授業では、吹奏楽を通じて、主に以下のことを学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合奏能力の向上 ・個人・セクション・合奏における表現能力の向上 ・多岐にわたるコンセプトを持つ吹奏楽作品のアナリゼや演奏方法の研究 ・公演発表に向けたリハーサル能力の向上 										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○	
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・より優れた表現力、よく優れたアンサンブル能力が身につけられる ・吹奏楽という多様な楽器編成による合奏と、多様なコンセプトの楽曲に取り組むことで、音楽を演奏することができる際に多角的な視野と判断能力を身につける 										
【授業の「方法」と「形式】		(55文字以内)								
合奏演習、講義を中心とします。										
【履修時の「留意点」と「心得】		(160文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・各自に与えられたパート譜を事前にしっかりと練習して、授業に臨みましょう。 ・セクション(パート)の演奏の資質を上げるために、トップ奏者のリーダーシップと、柔軟な協力体制も学びましょう。 ・音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「ひとつだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。 										
【成績評価の「方法」と「基準】		(380文字以内)								
演奏に取り組む姿勢、積極的な授業へ取り組みを総合的に評価します。										
教科書	その都度準備します			著者等		出版社				
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(19時10分 ~ 20時00分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンス 学年別合奏 音楽鑑賞教室曲目リハーサル	
第2回	学年別基礎合奏 学年別合奏 音楽鑑賞教室曲目リハーサル	
第3回	学年別基礎合奏 学年別合奏 音楽鑑賞教室曲目リハーサル	
第4回	学年別基礎合奏 学年別合奏 音楽鑑賞教室曲目リハーサル	
第5回	学年別基礎合奏 学年別合奏 音楽鑑賞教室曲目リハーサル	
第6回	学年別基礎合奏 音楽鑑賞教室曲目リハーサル 二音大クラシックコンサート曲目音出し	
第7回	音楽鑑賞教室曲目リハーサル 二音大クラシックコンサート曲目音出し	
第8回	音楽鑑賞教室曲目リハーサル	
第9回	南古谷小学校音楽鑑賞教室・公演	
第10回	音楽鑑賞教室曲目リハーサル	
第11回	音楽鑑賞教室曲目リハーサル	
第12回	音楽鑑賞教室曲目リハーサル	
第13回	二音大クラシックコンサート・リハーサル	
第14回	二音大クラシックコンサート・リハーサル	
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	ウインドオーケストラ I・II・III・IVB			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1~4	
担当教員	福田 洋介	実務家教員	○	履修対象・条件		管弦打楽器専攻はオーケストラI~IVとのいずれか必修。他専攻はI IIの履修可。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。教職実践専攻(声楽・ピアノ)はIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>この授業では、吹奏楽を通じて、主に以下のことを学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合奏能力の向上 ・個人・セクション・合奏における表現能力の向上 ・多岐にわたるコンセプトを持つ吹奏楽作品のアナリゼや演奏方法の研究 ・公演発表に向けたリハーサル能力の向上 										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○	
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・より優れた表現力、よく優れたアンサンブル能力が身につけられる ・吹奏楽という多様な楽器編成による合奏と、多様なコンセプトの楽曲に取り組むことで、音楽を演奏することができる際に多角的な視野と判断能力を身につける 										
【授業の「方法」と「形式】		(55文字以内)								
合奏演習、講義を中心とします。										
【履修時の「留意点」と「心得】		(160文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・各自に与えられたパート譜を事前にしっかりと練習して、授業に臨みましょう。 ・セクション(パート)の演奏の資質を上げるために、トップ奏者のリーダーシップと、柔軟な協力体制も学びましょう。 ・音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「ひとつだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。 										
【成績評価の「方法」と「基準】		(380文字以内)								
演奏に取り組む姿勢、積極的な授業へ取り組みを総合的に評価します。										
教科書	その都度準備します				著者等		出版社			
教科書					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(19時10分 ~ 20時00分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ミュージックフェスティバル曲目音出し 定期曲目音出し	
第2回	ミュージックフェスティバル・リハーサル 定期曲目音出し	
第3回	ミュージックフェスティバル・リハーサル 定期曲目音出し	
第4回	ミュージックフェスティバル・リハーサル 定期曲目音出し	
第5回	定期リハーサル	
第6回	定期リハーサル	
第7回	定期リハーサル	
第8回	定期リハーサル	
第9回	定期リハーサル	
第10回	定期リハーサル	
第11回	定期リハーサル	
第12回	TOHOコンサート曲目音出し	
第13回	TOHOコンサート曲目音出し	
第14回	TOHOコンサート曲目リハーサル	
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	オーケストラ・ウィンドオーケストラのための合奏ベーシックA(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)[弦楽器]		開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4	
担当教員	宮野陽子 田中洪至	実務家教員	○	履修対象・条件	管弦打楽器専攻はⅠABか必修。 Ⅱ~Ⅳは選択				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>オーケストラで演奏する時に必要なスキルを身に付ける。 スタッカート、スピッカート、デタツシェ、テヌート、マルカートなどの弾き方。 アクセント、スフォルツァンドの弾き方。 時代様式に合わせた、フレージングの表現の仕方、などをオーケストラの楽曲を用いて学んでいく。 また呼吸の合わせ方、音色の合わせ方、拍子の感じ方、なども実際に音を出すことによって経験し、身に付けていく。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>楽譜から読み取れる音を、正確に発することができるようになる。 オーケストラの授業に、意欲を持って臨むことができる。また、指揮者の指示にも、機敏に応答することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>オーケストラ授業のプログラムにある楽曲を用い、解釈と演奏法を学ぶ。 パートに分かれて、分奏することもある。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>オーケストラの中で弦楽器は、ソロ楽器(管打)に比べ責任感が薄らぐが、一人一人がオーケストラの重要な役割を担っている意識を持ち、取り組んで欲しい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への取り組みを評価する。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	管楽器と合同授業。	学んだことをよく考え、色々な場面で取り入れていく。
第2回	管楽器と合同授業。	学んだことをよく考え、色々な場面で取り入れていく。
第3回	古典の楽曲を用いて、アンサンブルの基礎を身に付ける。 呼吸の合わせ方。 音程の合わせ方。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第4回	古典の楽曲を用いて、アンサンブルの基礎を身に付ける。 呼吸の合わせ方。 音程の合わせ方。	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。
第5回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第6回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第7回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第8回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第9回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第10回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第11回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第12回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第13回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第14回	オーケストラ授業で練習している楽曲を用いて、様々な右手の奏法、ヴィブラートの種類などを学ぶ。 フィンガリングを考える。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。
第15回	この授業で学んだことの振り返り。	授業で用いる楽曲の譜読み。 次のオーケストラ授業で学んだことを実践する。

科目名(クラス)	オーケストラ・ウィンドオーケストラのための合奏ベーシックB(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)[弦楽器]			開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	宮野陽子 田中洪至	実務家教員	○	履修対象・条件	管弦打楽器専攻はⅠABか必修。 Ⅱ~Ⅳは選択				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>前期に学んだことを、さらにスキルアップさせる。 作曲家の特徴を理解し、それに似合った音を出せるよう、訓練する。 スコアを読む。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>他のパートの音を聴き、自分のパートの役割を意識しながら演奏することができる。 オーケストラの授業で、より良い演奏をすることができるようになる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>オーケストラ授業のプログラムにある楽曲を用い、解釈と演奏法を学ぶ。 パートに分かれて、分奏することもある。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>オーケストラの授業に比べると、地道な練習の反復となることが多いが、オーケストラの演奏の向上を目指し、取り組んでもらいたい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への取り組みを評価する。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

科目名(クラス)	オーケストラ・ウィンドオーケストラのための合奏ベーシックA(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)[管楽器]			開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	浅野高瑛	実務家教員	○	履修対象・条件		管弦打楽器専攻はⅠABを必修。 Ⅱ~Ⅳは選択(履修すれば単位になる)			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>各自の楽器の演奏上に必要な原点を探り、徹底した合奏のためのベーシック・トレーニングを行う。指揮者なしでのアンサンブル形態の演奏実践により、受け身でない「能動力あふれる演奏の喜び」を感じ取る授業である。題材としてポピュラーなものから古典までを広く扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽と日本音楽の違いをあらゆる角度から分析し、実体験をしながら楽器演奏体験へと移行させていく。 ・身体と楽器表現の関係、日常生活や言語、そしてブレスとの関係、五感(味覚・視覚・聴覚・嗅覚・触覚)の演奏としての必要性を学び、演奏との連動性を展開していく。 ・実技に即したイヤートレーニングを中心としたアプローチ(楽器ソルフェージュ)をしながら、その基本をマスターし、楽器に即応させ、アンサンブル演奏の技術向上につなげる。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>各自の楽器のアンサンブル演奏上に必要な原点を探り、演奏実践を通して体験し、身につけること。そしてベーシック・トレーニングの毎回の授業での学びを、その都度毎週のオーケストラやウィンドオーケストラの授業と連動させ、生かすことができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演奏実践を中心に行う。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
「個」を大切に授業である。能動的に授業に参加し、演奏してほしい。各自の楽器を用意すること。学年に関係なく、すべての管打楽器の学生に履修してほしい。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
毎回の授業への取り組みを評価する。									
教科書	教材・楽譜等はこちらで用意する			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(16時00分~17時30分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	合奏ベーシック・トレーニングへのイントロダクションと演奏実践 ～各自の楽器が生まれた歴史的・文化的背景から～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第2回	合奏ベーシック・トレーニングへのイントロダクション と 演奏実践 ～各自の楽器が生まれた歴史的・文化的背景から～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第3回	日本の楽器と西洋の楽器の違い と 演奏実践 ～それぞれの文化、生活様式から生まれた音楽と楽器～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第4回	日本の楽器と西洋の楽器の違い と 演奏実践 ～それぞれの文化、生活様式から生まれた音楽と楽器～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第5回	言語(発音)とブレス と 演奏実践 ～お腹の体操とブレスコントロール～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第6回	言語(発音)とブレス と 演奏実践 ～お腹の体操とブレスコントロール～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第7回	裏拍の美学 と 演奏実践 ～アップビートとダウンビート～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第8回	裏拍の美学 と 演奏実践 ～アップビートとダウンビート～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第9回	音のマジック と 演奏実践 ～演奏とは何であるか、他芸術との関連～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第10回	音のマジック と 演奏実践 ～演奏とは何であるか、他芸術との関連～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第11回	五感から生まれる第六感 と 演奏実践 ～芸術性、音楽性～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第12回	五感から生まれる第六感 と 演奏実践 ～芸術性、音楽性～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第13回	大きめの曲を使ったスタディ ～基礎の実践～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第14回	大きめの曲を使ったスタディ ～基礎の実践～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする
第15回	前期のスタディを振り返って ～能動的な姿勢～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。 そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする

科目名(クラス)	オーケストラ・ウィンドオーケストラのための合奏ベーシックB(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)[管楽器]			開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	浅野高瑛	実務家教員	○	履修対象・条件		管弦打楽器専攻はⅠABを必修。 Ⅱ~Ⅳは選択(履修すれば単位になる)			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>各自の楽器の演奏上に必要な原点を探り、徹底した合奏のためのベーシック・トレーニングを行う。指揮者なしでのアンサンブル形態の演奏実践により、受け身でない「能動力あふれる演奏の喜び」を感じ取る授業である。題材としてポピュラーなものから古典までを広く扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽と日本音楽の違いをあらゆる角度から分析し、実体験をしながら楽器演奏体験へと移行させていく。 ・身体と楽器表現の関係、日常生活や言語との関係、五感(味覚・視覚・聴覚・嗅覚・触覚)の演奏としての必要性を学び、演奏との連動性を展開していく。 ・実技に即したイヤートレーニングを中心としたアプローチ(楽器ソルフェージュ)をしながら、その基本をマスターし、楽器に即応させ、アンサンブル演奏の技術向上につなげる。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>各自の楽器のアンサンブル演奏上に必要な原点を探り、演奏実践を通して体験し、身につけること。そしてベーシック・トレーニングの毎回の授業での学びを、その都度毎週のオーケストラやウィンドオーケストラの授業と連動させ、生かすこと。</p> <p>後期には演奏会として聴衆の前でトレーニングの成果を発表し、体験する。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演奏実践を中心に行う。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
「個」を大切に授業である。能動的に授業に参加し、演奏してほしい。各自の楽器を用意すること。学年に関係なく、すべての管打楽器の学生に履修してほしい。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
毎回の授業への取り組みを評価する。									
教科書	教材・楽譜等はこちらで用意する				著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(16 時 - 00 分 ~ 17 時 30 分)									

【授業計画・内容・準備学習】			
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)	
第1回	後期へのイントロダクション と 演奏実践 ～古典作品からポピュラーまで様々な曲を用いて～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。	
第2回	後期へのイントロダクション と 演奏実践 ～古典作品からポピュラーまで様々な曲を用いて～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。	
第3回	「合奏」と「アンサンブル」の本来の意味合いの違い と 演奏実践 ～日本と西洋を比較して～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。	
第4回	「合奏」と「アンサンブル」の本来の意味合いの違いと演奏実践 ～日本と西洋を比較して～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。そしてその結果、気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。	
第5回	楽器奏法の解釈 ～古典作品からポピュラーまで様々な曲を用いて～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。	
第6回	楽器奏法の解釈 ～古典作品からポピュラーまで様々な曲を用いて～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。	
第7回	楽器奏法の解釈 ～古典作品からポピュラーまで様々な曲を用いて～	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。	
第8回	これから求められる、西洋音楽における楽器奏法とは ～これまでのベーシック・トレーニングを踏まえた、トータルアプローチ～ 演奏会に向け、曲を用いたトレーニングとリハーサル	演奏	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。
第9回	これから求められる、西洋音楽における楽器奏法とは ～これまでのベーシック・トレーニングを踏まえた、トータルアプローチ～ 演奏会に向け、曲を用いたトレーニングとリハーサル	演奏	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。
第10回	これから求められる、西洋音楽における楽器奏法とは ～これまでのベーシック・トレーニングを踏まえた、トータルアプローチ～ 演奏会に向け、曲を用いたトレーニングとリハーサル	演奏	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。
第11回	これから求められる、西洋音楽における楽器奏法とは ～これまでのベーシック・トレーニングを踏まえた、トータルアプローチ～ 演奏会に向け、曲を用いたトレーニングとリハーサル	演奏	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。
第12回	これから求められる、西洋音楽における楽器奏法とは ～これまでのベーシック・トレーニングを踏まえた、トータルアプローチ～ 演奏会に向け、曲を用いたトレーニングとリハーサル	演奏	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。
第13回	これから求められる、西洋音楽における楽器奏法とは ～これまでのベーシック・トレーニングを踏まえた、トータルアプローチ～ 演奏会に向け、曲を用いたトレーニングとリハーサル	演奏	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。
第14回	これから求められる、西洋音楽における楽器奏法とは ～これまでのベーシック・トレーニングを踏まえた、トータルアプローチ～ 演奏会に向け、曲を用いたトレーニングとリハーサル	演奏	授業内で提示されたことを個人練習やオーケストラ・ウィンドオーケストラで試す。気がついたことを次回授業で共有、ディスカッションする。演奏会に向けた準備や広報活動も同時に行っていく。
第15回	1年間のスタディを振り返って 指揮者なしでの演奏会を実施し、日頃の成果を発表	GP及び演奏会	

科目名(クラス)	総合作曲演習Ⅰ・Ⅱ・ⅢA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1~4	
担当教員	井上 淳司	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻生				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>作曲の実践を行うことを前提に、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>既知の作曲家たちの書法を明らかにし、その後への影響等を理解する。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>学生個々の技術に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>各自の自由な発想、さまざまな視点による考察を持って切磋琢磨する場を作って欲しい。そのための準備を怠らないよう積極的な授業態度を希望する。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>平常研究50%、レポート50%。</p>									
教科書	特になし			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	必要な時はその都度譜面等を用意すること			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(16 時 00 分 ~ 17 時 30 分)</p>									

科目名(クラス)	総合作曲演習Ⅰ・Ⅱ・ⅢB			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	井上 淳司	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽創造専攻生				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>作曲の実践を行うことを前提に、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を理解する。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>学生個々の技術に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>各自の自由な発想、さまざまな視点による考察を持って切磋琢磨する場を作って欲しい。そのための準備を怠らないよう積極的な授業態度を希望する。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>平常研究50%、レポート50%。</p>									
教科書	特になし			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	その都度譜面等を用意すること			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(16 時 00 分 ~ 17 時 30 分)</p>									

科目名(クラス)	ソフトウェア演習 I A・B		開講学期	前/後	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	湯浅 恭子	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>本演習ではコンピュータとアプリケーションソフトウェアを用いた音楽制作を演習形式で進めます。 音楽の要素はソフトウェア上でどのような情報に置き換えられるのか、ソフトウェアで作成した楽曲をどうやって実音化していくのか実践的に学ぶ授業とします。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>OS(基本ソフトウェア)とアプリケーションソフトウェアの基本的な活用について理解できる。 音楽制作ソフトウェアの基本操作ができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演習形式・講義形式									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。 形式は初回授業時に指示します。 ・授業は演習が中心となります。欠席や遅刻、早退をしないことを原則とします。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性(課題への取り組み) 50% 平常課題提出 25% 最終課題提出 25%</p>									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ○基本ソフトウェア(OS) について ○アプリケーションソフトウェアについて <ul style="list-style-type: none"> -Macコンピュータの標準アプリケーションソフトウェアとデータ共有 ○音楽制作ソフトウェアの基本操作-1 <ul style="list-style-type: none"> -MIDIデータの入力「時間軸情報の管理」映像、その他の領域との連動のために
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽制作ソフトウェアの基本操作-2 <ul style="list-style-type: none"> -入力データの編集(Edit)について -制作過程をオーディオ化する
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽ソフトウェアの活用 ～ 作業の流れ(ワークフロー)について ～ ○ポピュラーミュージックにおけるrhythm sectionについてと、他のスタイルへの応用 ○低音の連動性について ○一つ一つの音源をオーディオ化する「最終トラック」への制作準備
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○課題制作から作品へ ～ 作業の流れを実践確認 ～ ○制作物の最終形に沿ったファイル形式について
3	

科目名(クラス)	ソフトウェア演習Ⅱ A・B		開講学期	前/後	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	湯浅 恭子	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・「ソフトウェア演習Ⅰ」で修得した内容をふまえ、各自の「創り方を作る」を構築していく力を身につけます。 ・自作楽曲の録音とMix、「音の採集・編集・加工」を通じて、日常生活の中での“音への注意力”を向上させることを目的として「音源制作、音を用いた作品表現」を学びます。 ・作品制作の企画立案、プレゼンテーションを通じて、コミュニケーションスキルを養います。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・自作楽曲を録音し、音源作品として残すためのワークフローを実施できる。 ・楽音以外の「音」に対する注意力を向上させ、音楽表現への応用、創意工夫ができる。 ・作品制作のワークフローを、ソフトウェアを用いて管理できる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演習形式・講義形式									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。 ・授業は演習が中心となります。欠席や遅刻、早退をしないことを原則とします。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性(課題への取り組み) 50% ・課題提出 30% ・プレゼンテーション 20% 									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	<p><自作品を音源作品として完成させる></p> <ul style="list-style-type: none"> ○楽曲のMIDIデータからのAudio化(音源としてのデモ完成までのワークフロー) 譜面情報への変換、実演演奏の録音、録音データのMix作業
5	<p><“音”を使った表現手法></p> <ul style="list-style-type: none"> ○シンセサイザーの原理(ハードウェアを用いて) ○音声データの編集作業について
6	<ul style="list-style-type: none"> -素材の採集 -音色の加工、距離感(plug-inソフトウェアを用いて)
7	
8	<p><制作 1></p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品のコンセプト立案と全体構成のデザイン ○作品に関するプレゼンテーション
9	
10	<p><制作 2></p> <ul style="list-style-type: none"> ○素材の編集
11	<ul style="list-style-type: none"> ○楽音(楽器)を加える ○楽器録音と全体の再構成
12	<ul style="list-style-type: none"> ○最終形に向けての統合作業
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○最終形の完成と試聴
3	<ul style="list-style-type: none"> ○制作発表の準備とプレゼンテーション

科目名(クラス)	ソフトウェア演習 III A・B		開講学期	前/後	単位数	1	配当年次	3	
担当教員	湯浅 恭子	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアを活用する演習の最終形として「自分がイメージする作品を創作する、実現するには？」に向けての、企画立案から完成までを学びます。 ・専攻生自らが制作テーマを選択し、進行スケジュールの設計を行います。 ・進行状況、制作内容についてのプレゼンテーションを行い、発信力やコミュニケーションスキルを身につけます。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの選択した作品制作テーマに必要なソフトウェアスキルを向上させ、「創り方を作る」を実践することができる。 ・進行スケジュール設計と管理能力(タイムラインの明示、作業内容の具体化)を身につけ、その方法を他のスケジュール管理にも活用することができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演習形式・講義形式									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。 ・授業は演習が中心となります。欠席や遅刻、早退をしないことを原則とします。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性(課題への取り組み) 50% ・課題提出 30% ・プレゼンテーション 20% 									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	○アイデアの具体化、スケジュール管理、準備事項リスト化の手法について ○記録方法について オーディオ録音、高解像度記録、実演映像記録、360度記録等
6	<制作 1> ○コンセプトの立案、Pre-Production(企画書、スケジュール設計、素材の準備等)
7	
8	○録音、撮影の試行 ○制作中間発表の準備とプレゼンテーション
9	
10	<制作 2> ○コンセプトと表現の確認
11	○制作進行(録音、撮影、ソフトウェア上での作業等) ○Post-Production
12	○最終形に向けての統合作業
1	
2	○最終形の完成と試聴
3	○制作発表の準備とプレゼンテーション

科目名(クラス)	ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1又は3		
担当教員	浦川 玲子	実務家教員	○	履修対象・条件	「教職実践専攻」:1年～3年履修科目「ピアノ専攻」「Konzertfach(演奏専攻)ピアノ」:1年次配当科目「声楽専攻・音楽創造専攻」:3年次配当科目「Konzertfach(演奏専攻)声楽・管弦打」「管弦打楽器専攻」「音楽療法専攻」:履修不可。					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>ピアノ指導者ならびに音楽指導者を目指す者にとって、音楽教育学の視点から思考する力を養うことは必要不可欠である。</p> <p>前期においては、西洋における音楽教育の歴史について深く掘り下げ、有史以来、音楽の発展と共に音楽教育の土台がいかにして築き上げられてきたのかについて学ぶ。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>有史以来の西洋における各時代の音楽教育の変遷について理解し、得た知識を西洋音楽史と結びつけて考え、活用することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>講義形式。レジュメを配布、映像および音響も用いる。小論文、課題の発表等を取り入れた授業を行う。テーマによってはグループ演習方式を採る。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>毎回の授業内容の記録を取ること。レジュメ等プリント配布物を整理・保管すること。小論文、課題等の提出(発表)期限を守ること。グループ演習においては積極的に参加すること。定期試験ではプリント配布物とノート類は全て持ち込み可とする。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度(積極性・貢献度)(30%) ・小論文、課題等の提出(発表)(30%) ・学期末定期試験【筆記試験】(40%) 										
教科書		著者等		出版社						
教科書		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(14 時 10 分 ~ 14 時 40 分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽教育の起源 -原始共同社会における音楽の伝習	予習:音楽教育の始まりについて調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第2回	古代文明諸国と音楽 古代ギリシアの音楽教育1	予習:古代文明諸国および古代ギリシアについて調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第3回	古代ギリシアの音楽教育2 古代ローマの音楽教育	予習:古代ギリシアおよび古代ローマについて調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第4回	中世の音楽教育1	予習:中世について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第5回	中世の音楽教育2	予習:中世について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第6回	ルネッサンス・宗教改革期の音楽教育	予習:ルネッサンス・宗教改革期について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第7回	器楽の台頭と啓蒙思想の時代	予習:器楽の起源、啓蒙思想について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第8回	18世紀三大奏法と器楽教育1	予習:18世紀三大奏法について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第9回	18世紀三大奏法と器楽教育2	予習:18世紀三大奏法について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第10回	18・19世紀ヨーロッパ各国の様々な音楽教育	予習:18・19世紀ヨーロッパ各国について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第11回	子どものための音楽教育の誕生1	予習:子どものための音楽教育について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第12回	子どものための音楽教育の誕生2	予習:子どものための音楽教育について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第13回	アメリカ合衆国の音楽教育1	予習:アメリカ合衆国について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第14回	アメリカ合衆国の音楽教育2	予習:アメリカ合衆国について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第15回	まとめ -前期のすべての講義内容の振り返り -定着度の確認	予習:前期のすべてのノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。 復習:講義全体を振り返る。

科目名(クラス)	ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1又は3
担当教員	浦川 玲子	実務家教員	○	履修対象・条件		「教職実践専攻」:1年～3年履修科目「ピアノ専攻」「Konzertfach(演奏専攻)」ピアノ:1年次配当科目「声楽専攻・音楽創造専攻」:3年次配当科目「Konzertfach(演奏専攻)声楽・管弦打」「管弦打楽器専攻」「音楽療法専攻」:履修不可。			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ピアノ指導者ならびに音楽指導者を目指す者にとって、音楽教育学の視点から思考する力を養うことは必要不可欠である。 後期においては我が国における西洋音楽受容の歴史、明治期以降の音楽教育の変遷、その発展を支えた日本人ならびに外国人音楽家・教育家の功績について取り上げ、ピアノ指導者として必要とされる音楽教育学の幅広い知見を得る。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>西洋音楽受容に始まる日本の音楽教育の変遷について正しく理解し、日本音楽界の興隆・発展を支えた日本人ならびに外国人音楽家・教育家の功績について深く知り、得た知識を想像力豊かに自らの学びに結びつけて考えることができ、音楽教育学の視点から自らの考えを述べるができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式。レジュメを配布、映像および音響も用いる。小論文、課題の発表等を取り入れた授業を行う。テーマによってはグループ演習方式を採る。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>毎回の授業内容の記録を取ること。レジュメ等プリント配布物を整理・保管すること。小論文、課題等の提出(発表)期限を守ること。グループ演習においては積極的に参加すること。定期試験ではプリント配布物とノート類は全て持ち込み可とする。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度(積極性・貢献度)(30%) ・小論文、課題等の提出(発表)(30%) ・学期末定期試験【筆記試験】(40%) 									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(14 時 10 分 ~ 14 時 40 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	日本の音楽教育1 -江戸時代末期と西洋音楽	予習:江戸時代末期について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第2回	日本の音楽教育2 -幕末～明治新政府と西洋音楽	予習:幕末および明治新政府について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第3回	日本の音楽教育3 -明治最初期の洋楽導入(1)	予習:明治最初期について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第4回	日本の音楽教育4 -明治最初期の洋楽導入(2)	予習:明治10年代について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第5回	日本の音楽教育5 -音楽取調掛から東京音楽学校へ	予習:音楽取調掛および東京音楽学校について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第6回	日本の音楽教育6 -明治～昭和初期の日本人音楽家・教育家の功績(1)	予習:明治～昭和初期の日本人音楽家・教育家について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第7回	日本の音楽教育7 -明治～昭和初期の日本人音楽家・教育家の功績(2)	予習:明治～昭和初期の日本人音楽家・教育家について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第8回	日本の音楽教育8 -明治～昭和初期の日本人音楽家・教育家の功績(3)	予習:明治～昭和初期の日本人音楽家・教育家について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第9回	日本の音楽教育9 -明治～昭和初期の日本人音楽家・教育家の功績(4)	予習:明治～昭和初期の日本人音楽家・教育家について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第10回	日本の音楽教育10 -日本の音楽教育界を支えた外国人音楽家・教育家(1)	予習:日本の音楽教育界を支えた外国人音楽家・教育家について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第11回	日本の音楽教育11 -日本の音楽教育界を支えた外国人音楽家・教育家(2)	予習:日本の音楽教育界を支えた外国人音楽家・教育家について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第12回	日本の音楽教育12 -日本の音楽教育界を支えた外国人音楽家・教育家(3)	予習:日本の音楽教育界を支えた外国人音楽家・教育家について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第13回	日本の音楽教育13 -日本の音楽教育界を支えた外国人音楽家・教育家(4)	予習:日本の音楽教育界を支えた外国人音楽家・教育家について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第14回	日本の音楽教育14 -現代の音楽教育と今後の展望	予習:現代の音楽教育について調べておく。 復習:ノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。
第15回	まとめ -後期のすべての講義内容の振り返り -定着度の確認	予習:後期のすべてのノートまとめ及び配布物の再読・整理をして理解を深める。 復習:講義全体を振り返る。

科目名(クラス)	教材伴奏法 I A-ab		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1又は2	
担当教員	平田 紀子	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者、教育実践専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>本授業は教職必修科目であり、学校教育の授業に必要なピアノ伴奏のスキルを高めることを目的としている。少人数制のグループレッスンにより、集中的な学習が可能である。中学・高校の音楽の教科書を用い、伴奏の基礎的な知識を習得すると共に、コードネームを用いた伴奏付け、楽譜作成など、平易なアレンジ法を学び、ピアノを弾きながら歌う「弾き歌い」ができるようになるための基礎を習得する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱曲の伴奏の基礎的な知識と技能を習得し、ピアノを使った歌唱曲の伴奏ができる。 ・コードネームを理解し、それを用いて伴奏付けをすることができる。 ・コードの知識を生かし、平易なアレンジをすることができる。 ・ピアノ伴奏と共に弾き歌いをすることができる。 ・楽曲への理解をし、それを授業で伝えるスキルを身につける。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
基礎知識の講義とその実践であるピアノ伴奏演習からなり、グループレッスン形式をとる。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
「教材伴奏法 I B」と共に教職必修であるため、A・B共に連続して履修することが望ましい。また毎回の授業において、全員がピアノ演奏及び歌唱の演習を行うため、課題の予習・復習など十分な準備が不可欠である。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
Semester終了時に「弾き歌い」課題の実技試験を行う。実技試験を70%、授業への積極的参加や取り組みの姿勢を30%として総合的な評価を行う。									
教科書	音楽 I 改訂版 Tutti [17 教出 音 I 307]			著者等	共著	出版社	教育出版		
教科書	中学生の音楽1、中学生の音楽2・3上/2・3下			著者等	共著	出版社	教育芸術社		
参考文献	プリント配布資料あり			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12 時 10 分 ~ 13 時 00 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンスと課題提示 ・授業主旨・シラバス・授業内容確認 ・課題の提示と理解	予習:教科書に目を通しておく 復習:伴奏の重要性についてまとめる
第2回	伴奏課題研究演習1 ・作詞者、作曲者、時代背景からみた歌詞の理解 ・文部省唱歌について	提示課題について調べまとめる 伴奏の予習・復習をする
第3回	伴奏課題研究演習2 ・教材内容の理解と伴奏演奏演習 ・ハーモニー理解	実技課題の予習復習
第4回	弾き歌い演習1 ・弾き歌いの方法 ・伴奏+歌の試奏	実技課題の予習復習
第5回	弾き歌い演習2 ・弾き歌いの留意点	実技課題の予習復習
第6回	弾き歌い演習3 ・弾き歌いと音楽表現	実技課題の予習復習
第7回	弾き歌い演習4 ・発声法 ・授業を意識した弾き歌い	実技課題の予習復習
第8回	弾き歌い演習5 ・指揮法のイメージと弾き歌い	実技課題の予習復習
第9回	コードネームの基礎 ・コードネームの仕組みと使い方	予習:コードネームについて調べる 復習:コードネームを見て和音を弾いてみる
第10回	コードネームを使った演奏演習1 ・コードネームを使った平易な和音の伴奏付け	実技課題の予習復習
第11回	コードネームを使った演奏演習2 ・コードネームを基に和音にリズムを加えたアレンジ	実技課題の予習復習
第12回	コードネームを使った演奏演習3 ・コードネームを生かした伴奏のアレンジ	実技課題の予習復習
第13回	コードネームを使った伴奏譜作成 ・伴奏アレンジと記譜	伴奏譜完成と弾き歌い課題の予習
第14回	弾き歌い演習6 ・各自の課題の完成度を上げる	実技課題の予習復習
第15回	まとめ 弾き歌い演習7 ・本セメスターにおけるまとめ	授業内容を振り返る

科目名(クラス)	教材伴奏法 I B-ab		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1又は2
担当教員	平田 紀子	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者、教育実践専攻は必修			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本授業は「教材伴奏法 I A」と共に教職必修科目であり、学校教育の授業に必要なピアノ伴奏のスキルを高めることを目的としている。少人数制のグループレッスンにより、集中的な学習が可能である。この授業では、中学校の共通教材の弾き歌いを中心課題としながら、実際の歌唱指導に結び付く指揮法や、呼吸法などのスキルを高める。また、メロディーへの和声付け、高校の教科書にある日本と世界の音楽の演奏法について学び、教育実習に必要な知識とスキルを習得する。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校共通教材7曲の弾き歌いができる。 ・楽曲の理解を深め、多角的なアプローチができる。 ・プレゼンテーション力を高め、教材の内容を伝えることができる。 ・世界の音楽に触れ、表現の可能性を広げることができる。 ・歌唱法、指揮法など授業に必要な周辺領域を必要に応じて使うことができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
基礎知識の講義とその実践であるピアノ伴奏演習からなり、グループレッスン形式をとる。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
「教材伴奏法 I A」と共に教職必修であるため、A・B共に連続して履修することが望ましい。また毎回の授業において、全員がピアノ演奏及び歌唱の演習を行うため、課題の予習・復習など十分な準備が不可欠である。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
セメスター終了時に「弾き歌い」課題の実技試験を行う。実技試験を70%、授業への積極的参加や取り組みの姿勢を30%として総合的な評価を行う。								
教科書	音楽 I 改訂版 Tutti [17 教出 音 I 307]	著者等	共著	出版社	教育出版			
教科書	中学生の音楽1、中学生の音楽2・3上/2・3下	著者等	共著	出版社	教育芸術社			
参考文献	プリント配布資料あり	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(12 時 10 分 ~ 13 時 00 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンスと課題提示 ・授業主旨・シラバス・授業内容確認 ・課題の提示と理解	予習:教科書に目を通しておく 復習:次回の個々の課題への準備をする
第2回	メロディーへの和声付け演習1	メロディー、コードを意識した伴奏の復習、共通教材の予習
第3回	メロディーへの和声付け演習2	メロディー、コードを意識した伴奏の復習、共通教材の予習
第4回	中学共通教材への知識と弾き歌い演習1 「夏の思い出」	共通教材についてまとめ、実技課題の予習復習をする
第5回	中学共通教材弾き歌い演習2 「赤とんぼ」	実技課題の予習復習
第6回	中学共通教材弾き歌い演習3 「浜辺の歌」	実技課題の予習復習
第7回	中学共通教材弾き歌い演習4 「花」	実技課題の予習復習
第8回	中学共通教材弾き歌い演習5 「早春賦」	実技課題の予習復習
第9回	中学共通教材弾き歌い演習6 「荒城の月」	実技課題の予習復習
第10回	中学共通教材弾き歌い演習7 「花の街」	実技課題の予習復習
第11回	中学共通教材弾き歌い演習8 これまでの曲のまとめ演習	実技課題の予習復習
第12回	日本と世界の音楽1	予習:高校教科書Tuttiに目を通しておく 復習:世界の音楽についてまとめる
第13回	日本と世界の音楽2	世界の音楽について復習、次回の総合的演習に備えた予習
第14回	中学共通教材の総合的演習 ・各自の課題の完成度を上げる	共通教材全曲の予習復習
第15回	まとめ 弾き歌い演習 ・本 Semester におけるまとめ	授業内容を振り返る

科目名(クラス)	教材伴奏法ⅡA			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2又は3
担当教員	小野瀬 照夫	実務家教員	○	履修対象・条件	全専攻(声楽と管弦打の演奏家コースは履修不可) 教職実践専攻は2単位必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>授業における教師のピアノ伴奏は、歌唱指導と並んで非常に重要です。それは、言葉による説明ではなく、実際のピアノによる音で生徒たちの音楽をサポートし、引き出していかなければならないからです。</p> <p>本講座の授業では、学校現場で多く扱われる楽曲を学生とともに選曲し、輪番で教材の伴奏を体験し合い、現場に求められる伴奏の技術を高め合うことを目指します。</p> <p>また、様々な形や種類の楽曲に対応できるよう、「和声」や「コードネーム」についての知識を深め、教材伴奏への応用技術を学びます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・主要三和音をコードネームと関連付けて理解している。 ・コードネームをもとにピアノで和音を弾き、それを楽曲に合った伴奏形で弾くことができる。 ・教材の様々な楽曲において、生徒(役)の演奏や表現に添う、適切で音楽的な伴奏を心がけている。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>先ず教材について学習し、次に学生同士で教師役と生徒役に分かれて演奏をした後、互いの討論でより良い伴奏について学び合います。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>和声とコードネームの基礎を学び、それを応用した伴奏の学習と実習を行うので、各回の予習・復習、更に準備。練習を行うことが求められます。なお、資料や課題の保存用にフラットファイル(A4縦型)と、ルーズリーフ式の五線紙(B5版)を各自用意してください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な和声とコードネームについての課題・テストの結果や取り組み状況。(50%) 2. 教材伴奏課題への取り組み状況。(50%) <p>1. 2. とも向上心を加味して、総合的に判断します。</p>									
教科書	中学生の音楽1、同 2・3上、同 2・3下	著者等	小原光一 他	出版社	教育芸術社				
教科書	改訂版ON! 1	著者等	山本文茂 他	出版社	音楽之友社				
参考文献	和声 理論と実習 I	著者等	島岡 譲 他	出版社	音楽之友社				
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(17時 40分 ~ 19時 10分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の概要説明 ・伴奏体験者(教師役)の順番と曲決め ・和声とコードネームの基礎学習1(長三和音とコードネーム) 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに目を通しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・和声とコードネームの基礎学習2(短三和音とコードネーム) ・教材のコード分析 ・伴奏体験A(A,B,C…は、受講人数によって変わる) ・伴奏体験についてのディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・和声とコードネームの基礎学習3(属七の和音とコードネーム) ・教材のコード分析 ・伴奏体験B ・伴奏体験についてのディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・和声とコードネームの基礎学習4(増三和音とコードネーム) ・教材のコード分析 ・伴奏体験C ・伴奏体験についてのディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・和声とコードネームの基礎学習5(減三和音とコードネーム) ・教材のコード分析 ・伴奏体験D ・伴奏体験についてのディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・和声とコードネームの基礎学習6(その他の特殊な和音とコードネーム) ・教材のコード分析 ・伴奏体験E ・伴奏体験についてのディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験F ・伴奏体験についてのディスカッション ・これまでの復習と単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の分析とコード付け1(教科書から適切な楽曲を題材にして) ・楽曲の弾き歌い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験A ・楽曲の分析とコード付け2 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材にして) ・楽曲の弾き歌い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験B ・楽曲の分析とコード付け2 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材にして) ・楽曲の弾き歌い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験C ・楽曲の分析とコード付け2 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材にして) ・楽曲の弾き歌い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験D ・楽曲の分析とコード付け2 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材にして) ・楽曲の弾き歌い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験E ・楽曲の分析とコード付け2 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材にして) ・楽曲の弾き歌い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験F ・楽曲の分析とコード付け2 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材にして) ・楽曲の弾き歌い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ(実技テスト) ・教材の伴奏テスト ・メロディーのコード付け課題演習 ・弾き歌いテスト 	

科目名(クラス)	教材伴奏法ⅡB			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2又は3	
担当教員	小野瀬 照夫	実務家教員	○	履修対象・条件	全専攻(声楽と管弦打の演奏家コースは履修不可) 教職実践専攻は2単位必修					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>授業における教師のピアノ伴奏は、歌唱指導と並んで非常に重要です。それは、言葉による説明ではなく、実際のピアノによる音で生徒たちの音楽をサポートし、引き出していかなければならないからです。</p> <p>本講座の授業では、学校現場で多く扱われる楽曲を学生とともに選曲し、輪番で教材の伴奏を体験し合い、現場に求められる伴奏の技術を高め合うことを目指します。</p> <p>また、様々な形や種類の楽曲に対応できるよう、「和声」や「コードネーム」についての知識を深め、教材伴奏への応用技術を学びます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力			
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・主要三和音をコードネームと関連付けて理解している。 ・コードネームをもとにピアノで和音を弾き、それを楽曲に合った伴奏形で弾くことができる。 ・教材の様々な楽曲において、生徒(役)の演奏や表現に添う、適切で音楽的な伴奏を心がけている。 										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>先ず教材について学習し、次に学生同士で教師役と生徒役に分かれて演奏をした後、互いの討論でより良い伴奏について学び合います。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>和声とコードネームの基礎を学び、それを応用した伴奏の学習と実習を行うので、各回の予習・復習、更に準備。練習を行うことが求められます。なお、資料や課題の保存用にフラットファイル(A4縦型)と、ルーズリーフ式の五線紙(B5版)を各自用意してください。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な和声とコードネームについての課題・テストの結果や取り組み状況。(50%) 2. 教材伴奏課題への取り組み状況。(50%) <p>1. 2. とも向上心を加味して、総合的に判断します。</p>										
教科書	中学生の音楽1、同 2・3上、同 2・3下	著者等	小原光一 他	出版社	教育芸術社					
教科書	改訂版ON! 1	著者等	山本文茂 他	出版社	音楽之友社					
参考文献	和声 理論と実習 I	著者等	島岡 譲 他	出版社	音楽之友社					
参考文献		著者等		出版社						
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(17時 40分 ~ 19時 10分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の概要説明 ・伴奏体験者(教師役)の順番と曲決め ・楽曲の旋律への和音付け1 ・さまざまなリズム形について(舞踊リズム メヌエット) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書に掲載してある楽曲を見ておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験者Aとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け2(伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) ・さまざまなリズム形について(舞踊リズム ガヴァット) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験者Bとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け3(伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) ・さまざまなリズム形について(舞踊リズム マズルカ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験者Cとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け4 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) ・さまざまなリズム形について(舞踊リズム ポレロ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験者Dとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け5 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) ・さまざまなリズム形について(舞踊リズム ワルツ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験者Eとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け6 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) ・さまざまなリズム形について(舞踊リズム ハバネラ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験者Fとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け7 (伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) ・さまざまなリズム形について(アルペジオ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の旋律への和音付け8(まとめ) ・これまでの復習および単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した内容を復習しておく ・テストの結果をもとに、復習で内容を理解できるよう努める
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験Aとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け9(伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験Bとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け10(伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験Cとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け11(伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験Dとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け12(伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験Eとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け13(伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏体験Fとそれに関するディスカッション ・楽曲の旋律への和音付け14(伴奏体験者に割り当てられた楽曲を題材に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の伴奏担当者は、自分に割り当てられた伴奏をさらしておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ(実技テスト) ・教材伴奏テスト ・楽曲の旋律への和音付け課題演習 	

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法 I A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	大場 文恵	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>伴奏はピアノ演奏の重要な分野です。声楽あるいは器楽とのアンサンブルであることから、ソロを弾く時に加えて、さらに多くのことを心がけなければなりません。 初めは伴奏を弾く時に心がけることを考え、基本的なポイントを探っていきます。第6回からはイタリア歌曲・ドイツ歌曲・日本歌曲を題材に、演奏を通して具体的に考えながらピアノパートを作り上げ、ソリストと共演することで完成を目指します。 ピアノ伴奏法 I Bを履修することにより、さらに幅広く学ぶことができます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>伴奏の果たす役割の重要性を理解し、共演する上での基本を身につけている。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>伴奏の果たす役割の重要性を理解し、共演する上での基本を身につけている。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・演奏をもとに授業を進めますので、演奏が割り当てられた受講生は十分に準備をしてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性(演奏、ディスカッションの発言内容、課題への取り組みなど)50% 試験(実技、レポート)50%</p>									
教科書	ドイツ歌曲名歌集 I (原典版)			著者等			出版社	音楽之友社	
教科書	表現を高めるための「毎日のピアノエクササイズ」			著者等			出版社	東邦音楽大学 東邦音楽短期大学	
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	伴奏について考えよう	
第2回	伴奏の基礎1 (完璧な譜読みと適切な運指)	予習: 課題の譜読みをする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第3回	伴奏の基礎2 (バランスの考え方)	予習: 課題の練習をする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第4回	伴奏の基礎3 (さまざまなバランス)	予習: 課題の練習をする 復習: 授業で学んだことを振り返り、バランスに 対する考え方をまとめる。
第5回	伴奏の基礎4 (音色と表現について)	予習: 課題の練習をする。 復習: 授業で学んだことを振り返る。
第6回	イタリア古典歌曲1 (楽譜から読み取れることを考え、イタリア語の詩を理解する)	予習: 課題の譜読みをする。詩の意味、対訳を 楽譜に書き込む。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第7回	イタリア古典歌曲2 (共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる)	予習: 歌詞を言いながら弾けるようにする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第8回	イタリア古典歌曲3 (共演者と合わせることによって完成させる)	予習: 総合的に演奏を考え練習する。 復習: 授業を振り返り、イタリア古典歌曲への 理解を深める。
第9回	ドイツ古典派の歌曲1 (楽譜から読み取れることを考え、ドイツ語の詩を理解する)	予習: 課題の譜読みをする。詩の意味、対訳を 楽譜に書き込む。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第10回	ドイツ古典派の歌曲2 (共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる)	予習: 歌詞を言いながら弾けるようにする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第11回	ドイツ古典派の歌曲3 (共演者と合わせることによって完成させる)	予習: 総合的に演奏を考え練習する。 復習: 授業を振り返り、ドイツ古典派の歌曲を 理解する。
第12回	日本歌曲1 (楽譜から読み取れることを考え、日本語の詩を深く理解する)	予習: 課題の譜読みをする。歌詞の意味を考える。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第13回	日本歌曲2 (共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる)	予習: 歌詞を言いながら弾けるようにする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第14回	日本歌曲3 (共演者と合わせることによって完成させる)	予習: 演奏を総合的に考え練習する。 復習: 授業を振り返り、日本歌曲への理解を深める。
第15回	まとめ	予習: 与えられた課題の準備をする。 復習: 授業で学んだことをふり返る。

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法 I B			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	大場 文恵	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ピアノ伴奏法 I Aで学んだことをさらに発展させます。ドイツ後期ロマン派の歌曲、そしてピアノがオーケストラの代わりに務めるオペラアリアや器楽の伴奏など、さまざまな形態の伴奏について学びます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>演奏全体のアンサンブルを考えた上で、どのようにサポートし演奏を作り上げていけばよいか判断し実践できる。 オーケストラのそれぞれの楽器と全体の響き、及び指揮者的役割を理解して演奏することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
実技(受講生の演奏)、講義、ディスカッションを取り混ぜながら行います。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
・演奏をもとに授業を進めますので、演奏が割り当てられた受講生は十分に準備をしてください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業への積極性(演奏、ディスカッションの発言内容、課題への取り組みなど)50% 試験(実技、レポート)50%									
教科書	ドイツ歌曲名歌集 I (原典版)			著者等		出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツロマン派の歌曲1 (ロマン派の詩と音楽の関係)	予習: 課題の譜読みをする。歌詞の意味、対訳を楽譜に書く。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第2回	ドイツロマン派の歌曲2 (共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる)	予習: 作曲家と時代背景について調べる。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第3回	ドイツロマン派の歌曲2 (共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる)	予習: 歌詞を言いながら弾けるようにする。 復習: 授業で学んだことを振り返り、ドイツロマン派への理解を深める。
第4回	オペラのアリア1 (オーケストラの響きを表現する)	予習: 課題の譜読みをする。歌詞の意味、対訳を楽譜に書く。音源を聴き響きをイメージする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第5回	オペラのアリア2 (指揮的な役割)	予習: 歌詞と内容を確認する。歌手とオーケストラの関係を考える。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第6回	オペラのアリア3 (共演者と合わせることで完成させる)	予習: オペラの全体像をつかむ。 復習: 授業で学んだことを振り返り、オペラへの理解を深める。
第7回	弦楽器1 (共演する楽器の特性と響きを知る)	予習: 課題の譜読みをする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第8回	弦楽器2 (共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる)	予習: ソロパートを目で追いながら弾けるようにする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第9回	弦楽器3 (共演者と合わせることで完成させる)	予習: 音楽を総合的に理解し、合わせることをイメージする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第10回	管楽器1 (共演する楽器の特性と響きを知る)	予習: 課題の譜読みをする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第11回	管楽器2 (共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる)	予習: ソロパートを目で追いながら弾けるようにする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第12回	管楽器3 (共演者と合わせることで完成させる)	予習: 音楽を総合的に理解し合わせることをイメージする。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第13回	実技試験で共演する曲1 (定期試験で共演する曲を取り上げる)	予習: 各自の演奏のレベルアップを目指す。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第14回	実技試験で共演する曲2 (定期試験で共演する曲を取り上げる)	予習: 各自の演奏のレベルアップを目指す。 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第15回	まとめ	予習: 与えられた課題の準備をする。 復習: 授業で学んだことをふり返る。

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法ⅡA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3	
担当教員	田中 梢	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>伴奏について学ぶ。ピアノを使って仕事をするとき求められる実践的技術を学ぶ。その為に必要な技術を基礎から学び、様々な分野で必要とされる技術を身に着ける。パートナーの譜面を読める目、パートナーの演奏を聴ける耳を養う。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>伴奏者としての基礎を身に付ける 合唱の伴奏・イタリア歌曲・ドイツ歌曲の楽譜にかかれていることを読み取りエッセンスを理解できる</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>各回ごとに与えられた演目を全員が演奏する。 伴奏される側に立って歌ったり指揮をしたりすることも求められる。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>伴奏の分野は非常に幅広いです。毎回課題が出ますができる範囲で予習をしてきてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>平常授業内での実技評価30% 平常授業への積極性評価70%</p>									
教科書	その都度渡す			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
+									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽での自己紹介とガイダンス	復習:伴奏について理解する
第2回	合唱曲「花」「大地讃頌」	予習:課題曲を譜読みする 復習:合唱の伴奏について理解する。指揮について理解する。
第3回	合唱曲「落葉松」	予習:課題曲をさらう 復習:伴奏の基本を理解する
第4回	同上	予習:課題曲をさらう 復習:6段譜面を読む力をつける
第5回	イタリア古典歌曲①	予習:課題曲をさらう 復習:イタリア古典歌曲について理解を深める
第6回	イタリア古典歌曲②(チェンバロでの演習)	予習:課題曲をさらう 復習:通奏低音による音楽を理解する
第7回	イタリア歌曲③(ベルカントとロマン派)	予習:課題曲をさらう 復習:ベルカントについて理解を深める
第8回	イタリア音楽④(カンツォーネ)	予習:課題曲をさらう 復習:カンツォーネについて理解を深める
第9回	ドイツ歌曲①(モーツァルト)	予習:課題曲をさらう 復習:モーツァルトについて理解を深める
第10回	ドイツ歌曲②(シューベルト)	予習:課題曲をさらう 復習:シューベルトの音楽に対して理解を深める
第11回	ドイツ歌曲③(シューマン)	予習:課題曲をさらう 復習:シューマンの音楽に対して理解を深める
第12回	日本歌曲	予習:課題曲をさらう 復習:日本歌曲に対して理解を深める
第13回	歌曲伴奏の総括	予習:試演会に弾く曲をえらぶ 復習:注意されたことをもとにさらいなおす
第14回	前期試演会ゲネプロ	予習:試演会に弾く曲をえらぶ 復習:注意されたことをもとにさらいなおす
第15回	前期試演会	予習:試演会に向けて完成させる 復習:批評をもとに反省する

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法ⅡB		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3	
担当教員	田中 梢	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>伴奏について学ぶ。ピアノを使って仕事をするとき求められる実践的技術を学ぶ。 その為に必要な技術を基礎から学び、様々な分野で必要とされる技術を身に着ける。 パートナーの譜面を読む目、パートナーの演奏を聴ける耳を養う。 後期はオーケストラで伴奏される演目を中心に、楽譜に書かれていない音も弾ける技術を身に着ける</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>オーケストラ的なピアノを弾くことができる 即興伴奏が出来るようになる</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>課題ごとに全員が演奏します。ビデオ鑑賞やミュージックベル他の楽器も補助として使います。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>伴奏の分野は非常に幅広いです。毎回課題が出ますができる範囲で予習をしてきてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>平常授業内での実技評価30% 平常授業への積極性評価70%</p>									
教科書	その都度渡す			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	コード奏①(基礎)	予習:コード表を覚える、コード基礎練習をする 復習:コードで曲を弾いてみる
第2回	コード奏②(移調と即興)	予習:課題曲をさらう 復習:色々な曲をコードで伴奏する
第3回	オーケストラを弾く	予習:音源を聴く 復習:課題曲をさらう
第4回	オペラ①	予習:課題曲をさらう 復習:オペラを理解する
第5回	オペラ②	予習:課題曲をさらう 復習:課題曲をさらう
第6回	ワルツ	予習:ワルツの曲を探す 復習:ワルツを理解する
第7回	オペレッタ	予習:課題曲をさらう 復習:オペレッタを理解する
第8回	ミュージカル①	予習:課題曲をさらう 復習:ミュージカルを理解する
第9回	ミュージカル②	予習:課題曲をさらう 復習:ミュージカルを聴く
第10回	クリスマス曲	予習:課題曲をさらう 復習:クリスマス曲を理解する
第11回	ミュージックベルと即興伴奏	予習:課題曲をさらう 復習:即興伴奏に慣れる
第12回	器楽の伴奏①	予習:課題曲をさらう 復習:課題曲に慣れる
第13回	器楽の伴奏②	予習:課題曲をさらう 復習:器楽の伴奏を理解する
第14回	後期試演会ゲネプロ	予習:課題曲をさらう 復習:課題曲をさらう
第15回	後期試演会	予習:課題曲をさらう

科目名(クラス)	音楽療法の理論と技法A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	二俣 泉	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻、教職実践専攻のみ履修可。 音楽療法専攻生については必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽療法実践では、対象者の問題の要因の分析とそれに基づく合理的な介入方法の選択が必要である。その前提となるのが「理論」である。音楽療法において、理論なき実践はありえない。音楽療法には複数の理論があり、対象者のニーズに応じて、理論を使い分ける必要もある。理論を知らずして、音楽療法の専門家になることはできない。本授業は、音楽療法における様々な支援方法と背景理論についての基礎的な理解を深めることを目的とする。本授業では、理論・アプローチのうち、神経学的音楽療法、精神分析とそれに影響を受けて発展した分析的音楽療法、また行動主義心理学と認知・行動療法および認知・行動療法に基づく音楽療法について学ぶ。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>音楽療法の定義、音楽療法の多様なアプローチの原則を理解すること。 神経学的音楽療法の代表的手法、精神分析理論の治療理論と代表的概念およびその音楽療法の応用である分析的音楽療法の方法、行動主義心理学の考え方と代表的概念とその音楽療法への応用の具体例について理解すること。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講師による講義、ビデオ等による音楽療法の実践場面の紹介、および学生相互の討議で進行する。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>ほぼ毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に基だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。大学外で行われる学会、講習会への参加、およびその感想文の提出も課題とする。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
毎授業冒頭で実施される小テストの平均点(50%)、学期末で実施される授業全体に関するテスト(50%)の合計点。									
教科書	新訂増補版 音楽療法をまなぶ			著者等	二俣泉ら		出版社	アカデミアミュージック	
教科書				著者等			出版社		
参考文献	音楽療法入門 第1巻・第2巻・第3巻			著者等	デイビス ほか		出版社	一麦出版社	
参考文献	音楽療法士サバイバル・ブック			著者等	二俣泉ら		出版社	杏林書院	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12時 10分 ~ 12時 40分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽療法とは何か(1):音楽療法には、広い意味での音楽療法と、より厳密な意味での音楽療法があると言える。両者の違いを認識し、専門的な介入としての音楽療法に求められる条件について学ぶ。	予習:教科書の第1章をよく読んでくる。 復習:配布資料を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える(カジュアルな音楽療法、フォーマルな音楽療法の相違について正確に答えられるようにしておく)
第2回	音楽療法とは何か(2)音楽療法の対象領域:音楽療法の多様な対象領域、およびその実践の様相を学ぶ。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える。
第3回	音楽療法とは何か(3)音楽療法の目的:音楽療法は、健康に関する目的を達成するものである。健康の諸次元(身体・心理・社会・スピリチュアル)を学ぶ。また、音楽教育と音楽療法の相違についても検討する。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える。
第4回	音楽療法とは何か(3)音楽療法の目的:音楽療法は、健康に関する目的を達成するものである。健康の諸次元(身体・心理・社会・スピリチュアル)を学ぶ。また、音楽教育と音楽療法の相違についても検討する。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える。
第5回	音楽療法とは何か(4)音楽療法実践の流れ:音楽療法は、アセスメント、目標設定、実践、記録、評価という流れをもつ体系的な営みである。実践の流れにおける諸要素とその意義について学ぶ。	予習:音楽療法の事例研究を2つ読み、「アセスメント—目標設定・実践—評価」という観点から分析し、レポートにまとめる。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第6回	音楽療法における音楽体験(2)歌唱:失語症の訓練、自己表現、その他	予習・復習:教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える
第7回	音楽療法における音楽体験(3)楽器演奏・即興・創作・その他	予習・復習:教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える
第8回	音楽療法における身体へのアプローチ:音楽療法における「身体」の健康への貢献について説明する。また、身体リハビリテーションを目的とした音楽療法の代表的な方法である神経学的音楽療法について学ぶ。	予習・復習:教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える
第9回	精神分析と音楽療法(1):精神分析の歴史・理論の概要・治療の方法について説明すると共に、音楽療法にこの理論を応用するときの考え方について学ぶ。	予習・復習:教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える
第10回	精神分析と音楽療法(2):精神分析に強く影響を受けた音楽療法の方法「分析的音楽療法」について学ぶ。加えて、精神分析において重要な「転移」および「逆転移」についても学ぶ。	予習:自分が過去に経験した「転移感情」についてレポートを書く。 復習:教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える。
第11回	精神分析と音楽療法(3):「分析的音楽療法」の事例を検討し、音楽とこころの深層との関係についてより深く学ぶ。	予習:主要な防衛機制について、必要な文献を読んでまとめたレポートを書く。 復習:教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭を実施される小テストに備える。
第12回	認知・行動療法と音楽療法(1):心理学の重要な学派の一つである行動主義心理学の歴史と概要、基本的な概念等を学ぶ。また、その臨床への応用である認知・行動療法の概要を把握する。	予習:自分が過去に経験した「強化・弱化」の例を書いたレポートを作成する。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第13回	認知・行動療法と音楽療法(2):認知・行動療法の歴史と特徴を学ぶと共に、それを音楽療法にどう応用するのかについて、学ぶ。	予習:認知・行動療法に関する、理解が難しい概念(負の強化、負の罰)について文献を読んでまとめたレポートを作成する。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第14回	認知・行動療法と音楽療法(3):認知・行動療法に基づく音楽療法の事例を検討する。また、行動主義心理学・認知行動療法の諸概念が、音楽療法実践にどう活用するかを事例を通して紹介する。	予習:神経学的音楽療法、分析的音楽療法、認知・行動療法に基づく音楽療法の特徴を簡潔にまとめ、レポートを作成する。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第15回	授業まとめ	予習:授業の資料、ノート、教科書を熟読しておく。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。

科目名(クラス)	音楽療法の理論と技法B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	二俣 泉	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻、教職実践専攻のみ履修可。 音楽療法専攻生については必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽療法には複数の理論があり、対象者のニーズに応じて、理論を使い分ける必要もある。理論を知らずして、音楽療法の専門家になることはできない。本授業は、音楽療法における様々な支援方法と背景理論についての基礎的な理解を深めることを目的とする。本授業では、音楽療法の理論・アプローチのうち、人間性心理学とそれに影響を受けて発展したノードフ・ロビンズ音楽療法、トランスパーソナル心理学とGIM(音楽によるイメージ誘導法)、折衷主義、RMT(調整的音楽療法)、スピリチュアリティと音楽療法との関係等について学ぶ。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>人間性心理学論の治療理論と代表的概念およびそれに影響を受けているノードフ・ロビンズ音楽療法の歴史と方法、トランスパーソナル心理学とGIM、および音楽療法のその他の方法について理解する。また、音楽療法の歴史の概要を把握するとともに、音楽療法における研究活動の意義についても理解する</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講師による講義、ビデオ等による音楽療法の実践場面の紹介、および学生相互の討議で進行する。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>ほぼ毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に基だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。大学外で行われる学会、講習会への参加、およびその感想文の提出も課題とする。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>毎授業冒頭で実施される小テストの平均点(50%)、学期末で実施される授業全体に関するテスト(50%)の合計点。</p>									
教科書	音楽療法を知る			著者等	宮本啓子ら	出版社	杏林書院		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(12時 10分 ~ 12時 40分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	「音楽療法理論と技法A」の概要および本授業の概要説明	予習・復習:教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第2回	人間性心理学と音楽療法(1):マズローの欲求階層説およびロジャーズのパーソン・センタード・アプローチについて学ぶ。加えて、これらの理論の音楽療法への応用について検討する。	予習:ロジャーズの「治療的变化の必要十分条件」について、自ら文献を調べてレポートにまとめる。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第3回	人間性心理学と音楽療法(2):人間性心理学に影響を受けているノードフ・ロビンズ音楽療法の概要について学ぶ。	予習:ノードフ・ロビンズ音楽療法の症例ビデオを見ておく。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第4回	人間性心理学と音楽療法(3):ノードフ・ロビンズ療法の多様な対象領域の実践を学ぶ	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第5回	トランスパーソナル心理学と音楽療法(1)	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第6回	トランスパーソナル心理学と音楽療法(2)	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第7回	トランスパーソナル心理学と音楽療法(3):トランスパーソナル心理学の代表的理論である「意識のスペクトル理論」と、その理論に基づく音楽療法の症例を検討する。	予習:GIMの症例を読み、感想を書く。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第8回	音楽療法とスピリチュアリティ(1):音楽は、古代から宗教と深い関係があった。スピリチュアリティ・宗教、および人間のもつスピリチュアルなニーズについて考える。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第9回	音楽療法とスピリチュアリティ(2):近年、心理療法の世界で注目を集めているマインドフルネスについて説明する。加えて、マインドフルネスを活用した音楽療法であるRMTについても説明する。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第10回	社会へのアプローチ:ここ10年ほどで研究・実践が進んできた「コミュニティ音楽療法」の理論と実践例について検討する。加えて、WHOの国際生活機能分類を紹介し、環境要因の改善の意義についても学ぶ。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第11回	音楽療法と効果:音楽療法は効果をもたらすために行うものであるが、何をもちて効果とするか、またその効果が音楽療法によるものと言い切るには、様々な問題がある。音楽療法の効果に関する諸問題について検討する。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第12回	音楽療法と研究活動	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第13回	音楽療法の歴史(1):諸外国	予習:参考文献をもとに、音楽療法の歴史年表を書いてくる。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第14回	音楽療法の歴史(2):日本	予習:参考文献をもとに、音楽療法の歴史年表を書いてくる。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第15回	授業まとめ	予習:参考文献をもとに、音楽療法の歴史年表を書いてくる。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。

科目名(クラス)	音楽療法各論〔児童〕		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4	
担当教員	木下 容子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻、教職実践専攻のみ履修可。 音楽療法専攻のみ必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>神経発達症の子どもの特徴を学ぶ。 そして、神経発達症の子どもへの音楽療法の理論、実践の具体的方法、活動の例などを学ぶ。 実践の練習のロールプレイでは、セラピストと対象児の両方の役割を担うことで、両者の心理を体験する。 また、対象児の保護者への対応等についても理解する。 このように、神経発達症児の音楽療法における総合的な実践力を身につける。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>神経発達症のさまざまな種別と、それらの特徴を理解できる。 子どもの必要性に応じて、音楽をどう使って介入すべきかを理論的に把握することができる。 子どもの音楽療法の複数のアプローチ(応用行動分析学、ノードフ・ロビンズ音楽療法、発達論)の概要を学び、各アプローチの長所と短所を理解した上でロールプレイに取り組むことができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義、音楽療法実践の紹介・演習、および学生相互の討議で進行する。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>神経発達症児への音楽療法実践のためには、神経発達症児の特徴の理解、神経発達症児の音楽療法理論・アプローチ方法などの理解が必須のため、復習を徹底して行うこと。 授業内では、演奏やディスカッションを通して自己表現することが求められるので、そのつもりで授業に臨むこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回実施される小テストの点数:30% ・授業への積極性(ディスカッション等における発言、課題への取り組みなど):20% ・学期末に実施される授業内容全体に関するテスト:50% 									
教科書	音楽療法を知る―その理論と技法―			著者等	宮本啓子 他	出版社	杏林書院		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	音楽療法士3つのオキテ			著者等	二俣泉	出版社	音楽之友社		
参考文献	音楽療法士サバイバル・ブック			著者等	二俣泉	出版社	杏林書院		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(月曜日:17:00~18:00、火曜日:9:30~10:30)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業全体の概要の説明、および子どもの発達、また音楽療法士について考える。	予習:教科書「音楽療法を知るーその理論と技法ー」の第2章を読んでくる。 復習:配布資料を熟読し、次回の小テストに備える。
第2回	神経発達症の子どもの特徴① 神経発達症とは何か、その種類および支援方法について学ぶ。 ここでは、知的発達症と自閉スペクトラム症について学ぶ。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:「知的発達症」「自閉スペクトラム症」について熟読し、小テストに備える。
第3回	神経発達症の子どもの特徴② 神経発達症とは何か、その種類および支援方法について学ぶ。 ここでは、限局性学習症と注意欠如・多動症について学ぶ。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:「限局性学習症」「注意欠如・多動症」について熟読し、小テストに備える。
第4回	神経発達症の子どもへの音楽療法の流れ(アセスメント、目標設定、主要な介入方法、評価)について学ぶ。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:「神経発達症の子どもの音楽療法の流れ」について熟読し、小テストに備える。
第5回	神経発達症の子どもにとっての音楽体験の意義をコミュニケーションの観点から考え、学ぶ。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:「神経発達症児の音楽体験の意義」について熟読し、小テストに備える。
第6回	音楽療法の代表的なアプローチを学ぶ。 そして、子どもに対して有効なアプローチを知る。ここでは、応用行動分析学に基づく音楽療法(1):歴史・方法・基本概念を学ぶ。	予習:教科書「音楽療法を知るーその理論と技法ー」の第3章のIを読んでくる。 復習:「MTの代表的なアプローチ」「ABAに基づくMT」を熟読し、小テストに備える。
第7回	応用行動分析学に基づく音楽療法(2):実際の例を知る。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:「ABAに基づくMTの実際の例」を熟読し、小テストに備える。
第8回	応用行動分析学に基づく音楽療法(3):実践の体験をしてみる。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:ABAに基づくMTの実践を通して得たことをまとめる。
第9回	ノードフ・ロビンズ音楽療法(1):歴史・方法・基本概念を学ぶ。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:「ノードフ・ロビンズの音楽療法」を熟読し、小テストに備える。
第10回	ノードフ・ロビンズ音楽療法(2):実践の体験をしてみる。	予習:指定された課題に沿ってモチーフを作成してくる。 復習:「ノードフ・ロビンズの音楽療法」の体験を通して得たことをまとめる。
第11回	ノードフ・ロビンズ音楽療法(3):実践の体験をしてみる。	予習:指定された課題に沿ってモチーフを作成してくる。 復習:「ノードフ・ロビンズの音楽療法」の体験を通して得たことをまとめる。
第12回	発達論に基づく音楽療法(1): 子どもの支援において不可欠な「発達論」に関する学説を学ぶ。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:「発達論に基づく音楽療法」を熟読し、小テストに備える。
第13回	発達論に基づく音楽療法(2): 宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」について、その理論と実践の方法を学ぶ。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:「感覚と運動の高次化理論」を熟読し、小テストに備える。
第14回	音楽療法における理論・アプローチの折衷と統合について学ぶ。 また、子どもの知能検査について知り、体験してみる。	予習:常日頃神経発達症に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習:「音楽療法における理論・アプローチの折衷と統合」を熟読する。
第15回	まとめ。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に、言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	音楽療法各論〔精神科〕		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4	
担当教員	馬場 存	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>精神科領域の音楽療法の理論と実践を理解する。精神障害全般を、音楽療法を施行することを念頭に置いて概観し、次に音楽療法の歴史を精神医学的観点を踏まえて復習する。それらを踏まえて音楽療法の実践の際の考え方、技法等について説明する。健常者から神経症圏の音楽療法と、統合失調症圏の音楽療法に分けて解説する。また、音楽療法理論の全体象を、主に心理療法的観点から再確認する。その理解のために、即興的体験や心理療法的体験、精神科病院での音楽療法見学も随時盛り込む。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>最終的には、上記概要にある項目を網羅し、精神症状の成り立ちと音楽療法の関連について有機的に理解でき、実習等臨床活動の基盤となる知識を得、これらを統合して言語的に表現できる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式を取るが、毎回、講義終了時に、習得した知識を口頭で確認する。また、病院での音楽療法現場の見学及び解説を</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>2年次の「人間と医療」で履修した内容を復習し、概略を念頭に置いておくこと。この領域の音楽療法の理解はそのまま人間理解、心理理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の心を振り返る心構えをどこかに持つておくこと。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>講義が中心であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要なので、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、教科書、参考書、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何か理解できれば解答可能な形になる。したがって、全体をよく理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにすることが望まれる。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(授業への積極性の反映とみなす)(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。</p>									
教科書	音楽に癒され、音楽で癒す-音楽療法と精神医学/音楽創造		著者等	馬場存		出版社	中外医学社		
教科書			著者等			出版社			
参考文献	医学的音楽療法 基礎と臨床		著者等	呉東進(編著)		出版社	北大路書房		
参考文献	精神医学エッセンス		著者等	濱田秀泊		出版社	弘文堂		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス(本科目の意義と目的)	予習:音楽療法概論の内容に目を通し再度理解を深めておくこと。 復習:精神科の音楽療法でどのような内容を学ぶかを整理しておくこと。
第2回	精神医学と音楽療法1 精神疾患のみかた	予習:「人間と医療」の復習をしていくこと。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第3回	精神医学と音楽療法2 近代精神医学の歴史と音楽療法	予習:前回までの講義の理解。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第4回	音楽の心身への効果	予習:前回までの講義の理解。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第5回	音楽の心への作用とその理論	予習:前回までの講義の理解。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第6回	精神療法との対比	予習:前回までの講義の理解。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第7回	精神科音楽療法の実際1/精神科病院での治療	予習:前回までの講義の理解。 復習:実際の現場の状況や情報についてよく理解し整理すること。
第8回	精神科音楽療法の実際2/音楽療法の組み立て	予習:前回の解説の理解。 復習:実際の現場での音楽療法セッションの構造やみ立て方について良く理解し整理すること。
第9回	精神科音楽療法の実際3/音楽療法施行の留意点	予習:前回の解説の理解。 復習:実際の現場での音楽療法セッションの注意点についてよく理解し整理すること。
第10回	精神科音楽療法の実際4/対象と評価	予習:前回の解説の理解。 復習:実際の現場での音楽療法セッションの対象と観察の観点についてよく理解し整理すること。
第11回	精神科音楽療法の実際5/効果	予習:前回の解説の理解。 復習:実際の現場での音楽療法セッションの対象をどのように評価するかについてよく理解し整理すること。
第12回	心因と音楽療法	予習:前回までの講義の理解。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第13回	統合失調症の音楽療法	予習:前回までの講義の理解。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第14回	音楽創造体験とその効果	予習:前回までの講義の理解。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第15回	まとめ	第1～14回の講義や見学時の解説の内容をよく理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	音楽療法各論[高齢者]		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4	
担当教員	平田 紀子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>高齢者領域の音楽療法について、基礎的知識を習得し、理解を深める。この授業では、高齢者の心理や疾患、障害、支援の方法、実践の手順、他職種との連携など、実習や社会で役に立つ知識 や心得を身につける。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>高齢者の心理や生活行動を理解し、支援について考えることができる。高齢者にみられる疾患、症状、障害に関する知識を身につけることができる。また治療や介入方法について具体的に学び、音楽療法の実践へと活かすことができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式。毎回の授業で教材のプリントを配布する。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>積み上げが大切な授業である。解説や板書に関しては、ノートを必ず取るように。配布プリントはファイリングし毎回活用する。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>期末筆記試験を行う。評価率は、筆記試験60%、授業への積極的参加など取り組みの姿勢を40%とする。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献	毎回の授業でプリント配布	著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(12時 10分 ~ 13時 00分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	高齢者の支援について 1	予習: シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習: 高齢者の生活機能・行動情報に着目し、配布プリントと各自のノートを再読する。
第2回	高齢者の支援について 2	予習: 前回配布のプリントを読んでおく。 復習: 高齢者の活動の発展を踏まえた支援について、方法、可能性について調べる。
第3回	加齢について	予習: 加齢について調べる。 復習: 加齢による心身機能の変化と心理についてプリントを読み、再考する。
第4回	主な疾患と障害 1. 認知症	予習: 認知症の概要を調べる。 復習: 認知症の種類、病態生理、症状など、プリントやノートを再読し、紹介された文献にあたってみる。
第5回	主な疾患と障害 2. 認知症	予習: 前回のプリントを読んでおく。 復習: 認知症のケアや予防についてプリントやノートを元に、改善を目指した介入方法を考察する。
第6回	主な疾患と障害 3. 脳卒中	予習: 脳卒中の概要を調べる。 復習: 脳卒中の種類、病態生理、症状など、プリントやノートを再読し、紹介された文献にあたってみる。
第7回	主な疾患と障害 4. 脳卒中	予習: 前回のプリントを読んでおく。 復習: 脳卒中のケア、リハビリテーションについてプリントやノートを元に、介入方法を考察する。
第8回	主な疾患と障害 5. 神経難病、他	予習: 神経難病の概要を調べる。 復習: パーキンソン病などの神経難病における、病態生理、症状、ケアなどプリントを再読する。
第9回	主な疾患と障害 6. 廃用症候群	予習: これまでの学習内容を整理する。 復習: 廃用症候群における機能低下についてプリントを再読、予防や改善へのアプローチを考察する。
第10回	実践の目的、手順	予習: 「音楽療法概論」で学んだ高齢者の実践の項を読んでおく。 復習: 音楽療法の実際における目的や流れについて、プリントや各自のノートを再読する。
第11回	実践の進め方 1	予習: 前回のプリントに目を通す。 復習: 音楽療法の実際における流れ、技能、留意点に関してまとめる。
第12回	実践の進め方 2	予習: 前回のプリントに目を通す。 復習: 音楽療法の実際における流れ、技能、留意点に関してまとめる。
第13回	記録と評価	予習: 実践の流れ、進め方について整理する。 復習: 実践の記録、評価法、スケールについて、資料を読む。
第14回	コミュニティ音楽療法、新しい分野の実践現場	予習: これまで学んだ高齢者の疾患や障害、支援の各項を読んでおく。 復習: 予防的音楽療法、コミュニティ音楽療法など、近年発展する実践について調べる。
第15回	まとめ	予習: 各回のテーマを振り返る。復習: 配布プリントや各自のノート、参考文献を再読する。

科目名(クラス)	ソルフェージュ1-a			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	全専攻必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽を学ぶために必要な基礎的な音楽力を養います。聴音・新曲視唱・弾き歌い等の練習を続けながら、音楽を「聴く・読む・歌う・書く」等の能力を漸進的に高めて行きます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>① #・b 1つまでの調のやや高度な旋律・二声・和声等を聞き取り、各課題の構造を考えて正しく記譜することができる。 ② #・b 1つまでの調のやや高度な旋律の楽譜を読み、ニュアンスやアーティキュレーション等の表現も意識して正しく歌いことができる。 ③ 各自の能力に合った弾き歌い曲の演奏ができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
主に演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
各種の練習を継続的に行うことが大切です。難しいと感じた課題は復習しておきましょう。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学期末定期試験(100%) * 聴音・新曲視唱・弾き歌いの試験を各100点満点で行い、その平均点を評価点とする。 * 原則として試験はクラスごとに行う。									
教科書	美しい新曲課題集				著者等	荻久保和明 他	出版社	音楽之友社	
教科書					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1週	①聴音(旋律・二声:C dur/a moll/G durで各種の臨時記号を含むもの、和声:C durで三声開離タイプ、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(2°音程: # ♭1つまでの調による課題、及び名曲の旋律唱) ③弾き歌い(テキストNo.1~4)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第2週	①聴音(第1週の続き) ②新曲視唱(3°音程: # ♭1つまでの調による) ③弾き歌い(テキストNo.5~8)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第3週	①聴音(第2週の続き) ②新曲視唱(4°音程: # ♭1つまでの調による) ③弾き歌い(テキストNo.9~12)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第4週	①聴音(旋律・二声F durで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:a mollで三声開離タイプ、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(5°音程: # ♭1つまでの調による) ③弾き歌い(テキストNo.13~17)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第5週	①聴音(第4週の続き) ②新曲視唱(6°音程: # ♭1つまでの調による) ③弾き歌い(テキストNo.18~21)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第6週	①聴音(第5週の続き) ②新曲視唱(7°音程: # ♭1つまでの調による) ③弾き歌い(テキストNo.22~25)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第7週	①聴音(旋律・二声e mollで基本的なものを加える、和声:C durで四声開離タイプ、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(8°音程: # ♭1つまでの調による) ③弾き歌い(テキストNo.26~29)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第8週	①聴音(第7週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.30~33)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第9週	①聴音(第8週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.34~37)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第10週	①聴音(旋律・二声d mollで基本的なものを加える、和声:c mollで四声開離タイプ、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.38~41)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第11週	①聴音(第10週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.42~44)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第12週	①聴音(第11週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(復習)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第13週	総合練習	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第14週	総合練習	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第15週	まとめ	・弾き歌いの練習 ・予習:総合練習の課題を見直しておく

科目名(クラス)	ソルフェージュ1ーb			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	実務家教員	○	履修対象・条件		全専攻必修			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。</p> <p>新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の三～四声の書き取り、読み取り、視唱の力がついている。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験(100%)。原則としてクラス毎に行う。									
教科書	美しい新曲課題集			著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克		出版社	音楽之友社	
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(12 時40 分 ～14 時 20 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.1~4)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第2回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.5~7)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第3回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.8~10)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第4回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.11~13)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第5回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.14~17)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第6回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.18~21)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第7回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.22~25)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第8回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.26~29)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第9回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.30~33)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第10回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.34~37)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第11回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.38~41)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第12回	比較的平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.42~44)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第13回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。
第14回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。
第15回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。

科目名(クラス)	ソルフェージュ1ーc			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	新井 雅之	実務家教員	○	履修対象・条件		全専攻必修			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な読み書きを踏まえて、迅速かつ正確にできるようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、副旋律、和音)、伴奏付き旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			フレキシビリティ能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>基本的なリズム、また順次進行を基本とし跳躍進行を適宜含む調合が無い調の旋律の聴き取りの力、本主要和音の聴き分ける力、読譜、視唱の力を身につける。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演習と楽譜の読み書き									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
各種の練習を継続的に行うことが重要。優しいところから始め、段階的にレベルをあげるのが肝要。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>学期末定期試験(100%) 聴音・初見(視唱或いはリズム打ち)弾き歌いの試験をかく100点満点で行い、その平均点を評価点とする。原則として試験はクラスごとに行う。</p>									
教科書	美しい新曲課題集			著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克		出版社	音楽之友社	
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 (時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.1~4) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第2回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.5~8) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第3回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.9~12) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第4回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.13~16) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第5回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.17~20) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第6回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.21~24) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第7回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.25~28) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第8回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.29~32) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第9回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.33~36) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第10回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.37~40) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第11回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.40~44) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第12回	平易な聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.44までの中から任意に) 新曲視唱の演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第13回	総合演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第14回	総合演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。
第15回	総合演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。 三和音は各声部を分けて歌う。 次回学習の譜読み。

科目名(クラス)	ソルフェージュ2-a			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	全専攻必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽を学ぶために必要な基礎的な音楽力を養います。聴音・リズム打ち・弾き歌い等の練習を続けながら、音楽を「聴く・読む・歌う・書く」等の能力を漸進的に高めて行きます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>① #・b 2つまでの調のやや高度な旋律・二声・和声等を聞き取り、各課題の構造を考えて正しく記譜することができる。 ② 各種の拍子のやや高度なリズム譜(単声・二声)を読み、正しく叩くことができる。 ③ 各自の能力に合った弾き歌い曲の演奏ができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
主に演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
各種の練習を継続的に行うことが大切です。難しいと感じた課題は復習しておきましょう。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学期末定期試験(100%) * 聴音・リズム打ち・弾き歌いの試験を各100点満点で行い、その平均点を評価点とする。 * 原則として試験はクラスごとに行う。									
教科書	美しい新曲課題集				著者等	荻久保和明 他	出版社	音楽之友社	
教科書					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1週	①聴音(旋律・二声:1-aの内容にe mollで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:C durでV9・II7を加える、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(2/4基礎) ③弾き歌い(テキストNo.45~48)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第2週	①聴音(第1週の続き) ②リズム打ち(2/4応用) ③弾き歌い(テキストNo.49~52)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第3週	①聴音(第2週の続き) ②リズム打ち(3/4基礎) ③弾き歌い(テキストNo.53~56)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第4週	①聴音(旋律・二声:d mollで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:c mollでV9・II7を加える、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(3/4応用) ③弾き歌い(テキストNo.57~60)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第5週	①聴音(第4週の続き) ②リズム打ち(4/4基礎) ③弾き歌い(テキストNo.61~64)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第6週	①聴音(第5週の続き) ②リズム打ち(4/4応用) ③弾き歌い(テキストNo.65~69)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第7週	①聴音(旋律・二声:B durで基本的なものを加える、和声:C durで準固有和音・ドッペルドミナントを加える、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(3/8基礎) ③弾き歌い(テキストNo.70~73)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第8週	①聴音(第7週の続き) ②リズム打ち(3/8応用) ③弾き歌い(テキストNo.74~78)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第9週	①聴音(第8週の続き) ②リズム打ち(6/8基礎) ③弾き歌い(テキストNo.79~83)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第10週	①聴音(旋律・二声:D durで基本的なものを加える、和声:c mollでドッペルドミナントを加える、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(6/8応用) ③弾き歌い(テキストNo.84~86)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第11週	①聴音(第10週の続き) ②リズム打ち(2/2基礎) ③弾き歌い(復習)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第12週	①聴音(第11週の続き) ②リズム打ち(2/2応用) ③弾き歌い(復習)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第13週	総合練習	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第14週	総合練習	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第15週	まとめ	・弾き歌いの練習 ・予習:総合練習の課題を見直しておく

科目名(クラス)	ソルフェージュ2ーb			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	井上 淳司	実務家教員	○	履修対象・条件		全専攻必修				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。</p> <p>新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱の力がついている。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。										
教科書	美しい新曲課題集			著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克		出版社	音楽之友社		
教科書				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(12 時40 分 ～14 時 20 分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.45~49)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.50~53)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.54~57)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.58~61)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.62~65)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.66~69)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.70~73)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.74~77)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.78~81)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.58~61)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.82~85)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.86~88)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第13回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.89~90)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第14回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第15回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。

科目名(クラス)	ソルフェージュ2ーc			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	新井 雅之	実務家教員	○	履修対象・条件		全専攻必修				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な読み書きを踏まえて、迅速かつ正確にできるようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、副旋律、和音)、伴奏付き旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			フレキシビリティ能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>基本的なリズム、また順次進行を基本とし跳躍進行を適宜含む調合が無い調の旋律の聴き取りの力、本主要和音の聴き分ける力、読譜、視唱の力を身につける。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
演習と楽譜の読み書き										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
各種の練習を継続的に行うことが重要。優しいところから始め、段階的にレベルをあげるのが肝要。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>学期末定期試験(100%) 聴音・初見(視唱或いはリズム打ち)弾き歌いの試験をかく100点満点で行い、その平均点を評価点とする。 原則として試験はクラスごとに行う。</p>										
教科書	美しい新曲課題集			著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克		出版社	音楽之友社		
教科書				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 (時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.45~48) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.49~52) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第3回	(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.53~56) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.57~60) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.61~64) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.65~68) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.69~72) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.73~76) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.77~80) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.81~84) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.85~88) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.89~90) 新曲リズムの演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第13回	総合演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第14回	総合演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。次回学習の譜読み。
第15回	総合演習	学習した旋律は、聴音の課題を含め、しっかり発声し繰り返し歌う。リズム打ちは、遅いテンポで確認し、慣れるに従い早いテンポで。三和音は各声部を分けて歌う。

科目名(クラス)	ソルフェージュ3-a		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽を学ぶために必要な基礎的な音楽力を養います。聴音・新曲視唱・弾き歌い等の練習を続けながら、音楽を「聴く・読む・歌う・書く」等の能力を漸進的に高めて行きます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>① #・b 3つ位までの調のやや高度な旋律・二声・和声等を聞き取り、各課題の構造を考えて正しく記譜することができる。 ② #・b 2つ位までの調のやや高度な旋律の楽譜を読み、ニュアンスやアーティキュレーション等の表現も意識して正しく歌うことができる。 ③ 各自の能力に合った弾き歌い曲の演奏ができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
主に演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
各種の練習を継続的に行うことが大切です。難しいと感じた課題は復習しておきましょう。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学期末定期試験(100%) * 聴音・新曲視唱・弾き歌いの試験を各100点満点で行い、その平均点を評価点とする。 * 原則として試験はクラスごとに行う。									
教科書	美しい新曲課題集			著者等	荻久保和明 他	出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1週	①聴音(旋律・2声: #・♭1つまでの調とD durの各種の臨時記号を含む課題による、和声:C dur/c mollで3和音・V7・V9・II7・準固・ダブルドミナントの和音にIV7の和音を加える、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(#・♭2個までの調のやや高度な課題、及びニュアンス表現のエチュード) ③弾き歌い(テキストNo.1~4)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第2週	①聴音(前回の続き) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.5~8)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第3週	①聴音(旋律・2声:B durの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:前回の続き、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.9~12)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第4週	①聴音(前回の続き) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.13~17)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第5週	①聴音(旋律・2声:h mollの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:ドリア・ナボリの和音を加える、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.18~21)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第6週	①聴音(前回の続き) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.22~25)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第7週	①聴音(旋律・2声:g mollの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:前回の続き、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.26~29)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第8週	①聴音(前回の続き) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.30~33)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第9週	①聴音(旋律・2声:A durの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:これまでの和音のまとめ、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.34~37)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第10週	①聴音(前回の続き) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.38~41)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第11週	①聴音(旋律・2声:Es durの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:前回の続き、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(テキストNo.42~44)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第12週	①聴音(前回の続き) ②新曲視唱(前回の続き) ③弾き歌い(復習)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第13週	総合練習	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第14週	まとめ	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第15週	まとめ	・弾き歌いの練習 ・予習:総合練習の課題を見直しておく

科目名(クラス)	ソルフェージュ3-b			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	井上 淳司	実務家教員	○	履修対象・条件		音楽療法専攻以外は必修			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱の力がついている。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験(100%)。原則としてクラス毎に行う。</p>									
教科書	美しい新曲課題集			著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克		出版社	音楽之友社	
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(10 時 40 分 ～ 12 時 10 分)</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第13回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第14回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第15回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。

科目名(クラス)	ソルフェージュ3-c・d		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	大場 文恵 小林 律子	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻生は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ソルフェージュ3-cは、ピアノに特化した授業を行います。 初めて接する曲を即座に理解し演奏する初見視奏の能力は重要です。初見視奏の力がつくと譜読みが早くなるだけでなく、その曲をどのように演奏すればよいか短時間で判断できるようになり、将来演奏家・指導者として活動する場合にも大いに役に立つでしょう。毎回基礎的な技術を学んだ上で、数多くの初見視奏を実施します。 移調奏も実際の音楽の現場において実践的且つ有効なスキルです。毎回提示する課題を実施することにより、方法を会得し技術を身につけます。移調をする際、「調性」を完全に理解することが先ず重要です。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>基本的な初見視奏の力を身につけている。 明確な調性感覚の下、移調奏をおこなうことができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>演奏(グループレッスン形式)とディスカッションを中心に進めます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>演奏しながら授業を進めますので、ピアノ専攻生及びある程度ピアノの演奏力がある学生が対象です。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性(課題への取り組み方、ディスカッションの発言内容など)50% 実技試験50%</p>									
教科書	表現を高めるための「毎日のピアノエクササイズ」	著者等	東邦音楽大学/東邦音楽短期大学		出版社	東邦音楽大学/東邦音楽短期大学			
教科書		著者等			出版社				
参考文献		著者等			出版社				
参考文献		著者等			出版社				
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに～授業の進め方、及び学び方	予習: シラバスを読む 復習: 授業のポイントをふり返る
第2回	目の動きを考える 移調のイメージを作る	予習: 初見視奏と移調奏のイメージを持つ 復習: 授業のポイントをふり返る
第3回	音符を速く読もう(1) 移調課題演習(1)	予習: 身近な楽譜で音符を速く読む練習をする 復習: 授業のポイントをふり返る 全ての移調課題の実演
第4回	音符を速く読もう(2) 調性の感覚～五度圏	予習: 身近な楽譜で音符を速く読む練習をする 「五度圏」について調べる 復習: 授業のポイントをふり返る 全ての移調課題の実演をしながら要点をまとめる
第5回	先を見る力 調性の感覚—durとmoll	予習: レッスンで取り組んでいる曲でも実践する 全調性の確認 復習: 授業のポイントをふり返る 全調性の実演
第6回	運指の考え方(1) 移調課題演習(2)	予習: 自分の運指をふり返る 移調課題の予見 復習: 授業のポイントをふり返る 全ての移調課題の実演
第7回	運指の考え方(2) 移調課題演習(3)	予習: 運指を考えて初見視奏を試みる 移調課題の予見 復習: 授業のポイントをふり返る 全ての移調課題の実演
第8回	適切な運指を考えよう(1) 移調の実施① —横の方法—	予習: 移調課題の予見 復習: 授業のポイントをふり返る 移調の実演をしながら要点をまとめる
第9回	予習: 移調課題の予見 復習: 授業のポイントをふり返る 移調の実演をしながら要点をまとめる	予習: 移調課題の予見 復習: 授業のポイントをふり返る 全ての移調課題の実演
第10回	適切な運指を考えよう(3) 移調課題演習(5)	予習: 移調課題の予見 復習: 授業のポイントをふり返る 全ての移調課題の実演
第11回	調性のとらえ方(1) 移調の実施② —縦の方法—	予習: 移調課題の予見 復習: 授業のポイントをふり返る 移調の実演をしながら要点をまとめる
第12回	調性のとらえ方(2) 移調課題演習(6)	予習: テキストを使って練習をする 移調課題の予見 移調奏のふさわしい方法について考える 復習: 授業のポイントをふり返る
第13回	調性のとらえ方(3) 移調課題演習(7)	予習: テキストを使って練習をする 移調課題の予見 移調奏のふさわしい方法について考える 復習: 授業のポイントをふり返る 全ての移調課題の実演
第14回	調性のとらえ方(4) 移調課題演習(8)	予習: テキストを使って練習をする 移調課題の予見 移調奏のふさわしい方法について考える 復習: 授業のポイントをふり返る 全ての移調課題の実演
第15回	まとめ	予習: 積極的に初見視奏・移調奏を行う

科目名(クラス)	ソルフェージュ4-a			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	加茂下 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽を学ぶために必要な基礎的な音楽力を養います。聴音・リズム打ち・弾き歌い等の練習を続けながら、音楽を「聴く・読む・歌う・書く」等の能力を漸進的に高めて行きます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>① #・b 4つ位までの調のやや高度な旋律・二声・和声等を聞き取り、各課題の構造を考えて正しく記譜することができる。 ② 種々の拍子のやや高度なリズム譜(部分的に現代的なリズム形も含む)を読み、正しく叩くことができる。 ③ 各自の能力に合った弾き歌い曲の演奏ができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
主に演習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
各種の練習を継続的に行うことが大切です。難しいと感じた課題は復習しておきましょう。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学期末定期試験(100%) * 聴音・リズム打ち・弾き歌いの試験を各100点満点で行い、その平均点を評価点とする。 * 原則として試験はクラスごとに行う。									
教科書	美しい新曲課題集			著者等	荻久保和明 他	出版社	音楽之友社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1週	①聴音(旋律・2声:3-aクラスの内容にfis mollの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:各種の副属和音を加える、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(2/4) ③弾き歌い(テキストNo.45~48)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第2週	①聴音(前回の続き) ②リズム打ち(2/2) ③弾き歌い(テキストNo.49~52)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第3週	①聴音(旋律・2声:c mollの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:前回の続き、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(遅い3/4) ③弾き歌い(テキストNo.53~56)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第4週	①聴音(前回の続き) ②リズム打ち(速い3/4) ③弾き歌い(テキストNo.57~60)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第5週	①聴音(旋律・2声:E durの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:前回の続き、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(遅い4/4) ③弾き歌い(テキストNo.61~64)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第6週	①聴音(前回の続き) ②リズム打ち(速い4/4) ③弾き歌い(テキストNo.65~69)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第7週	①聴音(旋律・2声:As durの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:前回の続き、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(遅い6/8) ③弾き歌い(テキストNo.70~73)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第8週	①聴音(前回の続き) ②リズム打ち(速い6/8) ③弾き歌い(テキストNo.74~78)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第9週	①聴音(旋律・2声:cis mollの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:前回の続き、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(混合拍子①) ③弾き歌い(テキストNo.79~83)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第10週	①聴音(前回の続き) ②リズム打ち(混合拍子②) ③弾き歌い(テキストNo.84~86)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第11週	①聴音(旋律・2声:f mollの各種の臨時記号を含む課題を加える、和声:前回の続き、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(総合練習) ③弾き歌い(復習)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第12週	①聴音(前回の続き) ②リズム打ち(総合練習) ③弾き歌い(復習)	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第13週	総合練習	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第14週	まとめ	・弾き歌いの練習 ・難しいと感じた課題の復習
第15週	まとめ	・弾き歌いの練習 ・予習:総合練習の課題を見直しておく

科目名(クラス)	ソルフェージュ4ーb			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	井上 淳司	実務家教員	○	履修対象・条件		音楽療法専攻以外は必修			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱の力がついている。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験(100%)。原則としてクラス毎に行う。</p>									
教科書	美しい新曲課題集			著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克		出版社	音楽之友社	
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※実施曜日を○で囲って下さい。</p>									
<p>②時間帯(10 時 40 分 ～ 12 時 10 分)</p>									

科目名(クラス)	ソルフェージュ4-c・d(初見試奏・移調奏)			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	大場 文恵 小林 律子	実務家教員	○	履修対象・条件	ピアノ専攻生は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>ソルフェージュ4-cではソルフェージュ3を発展させ、さらに高度なソルフェージュ力を身につけて初見視奏、及び移調奏を行います。 初見視奏では数多くの楽曲に触れることにより、即座的に確かな表現で演奏できる力を養います。移調奏では、更なるグレードアップを目指し、演奏の現場で経験する機会の多い歌曲の移調に挑戦します。初見視奏も移調奏も、演習に集中して取り組むことになります。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>初見でその作品の特徴を理解し、完成度の高い演奏ができる。 調性感覚を身につけ、移調奏をマスターする。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演奏(グループレッスン形式)とディスカッションを中心に進めます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
日頃より、楽譜を注意深く見る(読む)習慣をつけてください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業への積極性(課題への取り組み方、ディスカッションの内容など)50%									
実技試験50%									
教科書	表現を高めるための「毎日のピアノエクササイズ」	著者等	東邦音楽大学/東邦音楽短期大学		出版社	東邦音楽大学/東邦音楽短期大学			
教科書	授業中に資料を配布する	著者等			出版社				
参考文献		著者等			出版社				
参考文献		著者等			出版社				
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	さまざまな拍子とリズム(1) 移調の再確認	予習:ソルフェージュ3で学んだことを確認しておく 復習:授業のポイントをふり返り、実演しながら要点を整理する
第2回	さまざまな拍子とリズム(2) 調性感覚のふり返り	予習:テキストを使って練習をする積極的に初見視奏を行う 復習:授業のポイントをふり返る実演をしながら要点を整理する
第3回	さまざまな拍子とリズム(3) 移調課題演習—日本の歌①—	予習:テキストを使って練習をする 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第4回	変拍子(1) 移調課題演習—日本の歌②—	予習:積極的に初見視奏を行う移調課題の予見をする 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第5回	変拍子(2) 移調課題演習—日本の歌③—	予習:テキストを使って練習をする移調課題の予見をする 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第6回	単音のポジション移動(1) 移調課題演習—日本の歌④—	予習:テキストを使って練習をする移調課題の予見をする 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第7回	単音のポジション移動(2) 移調課題演習—イタリア歌曲①—	予習:積極的に初見視奏を行う移調課題の予見をする 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第8回	和音のポジション移動(1) 移調課題演習—イタリア歌曲②—	予習:テキストを使って練習をする移調課題の予見をする 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第9回	和音のポジション移動(2)6223 移調課題演習—イタリア歌曲③—	予習:積極的に初見視奏を行うテキストを使って練習をする移調課題の予見をする 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第10回	曲想をつかむ(1) 移調課題演習—ドイツ歌曲①—	予習:積極的に初見視奏を行う移調課題の予見 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第11回	曲想をつかむ(2) 移調課題演習—ドイツ歌曲②—	予習:積極的に初見視奏を行う移調課題の予見 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第12回	的確な表現で演奏する(1) 移調課題演習—ドイツ歌曲③—	予習:積極的に初見視奏を行う移調課題の予見 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第13回	的確な表現で演奏する(2) 移調課題演習—フランス歌曲、その他①—	予習:積極的に初見視奏を行う移調課題の予見 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第14回	的確な表現で演奏する(3) 移調課題演習—フランス歌曲、その他②—	予習:積極的に初見視奏を行う移調課題の予見 復習:授業のポイントをふり返る移調課題を実演し方法を把握する
第15回	まとめ	予習:積極的に初見視奏・移調奏を行う

科目名(クラス)	キーボードハーモニーA			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	新井 雅之	実務家教員	○	履修対象・条件		全専攻			
【授業の概要】		(360文字以内)							
与えられたメロディーやモチーフへ、伴奏、即興を施す手法を知り、かつ実際にピアノを弾き、技術を習得していきます。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
基本的な伴奏形態、和音進行をまず身につけ、次第にそれを鍵盤楽器の奏法らしいで応用していけることを目指します。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
基本的には、テキストに従い、基礎的な事項を弾き、または楽譜に書きながら基本と応用を試みて行きます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
積極的に鍵盤で音をならしつつ、響きを確かめましょう。慣れるつもりで取り組んで下さい。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)									
教科書	ピアノ即興演奏法			著者等	岩田 稔	出版社	ヤマハ音楽振興会		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(16時 00分 ~ 17時 30分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	キーボードハーモニーの意義とその実施について(旋律を支える、鍵盤楽器奏法における伴奏の実際の例を、幅広く観察しその原理を知る)	予習として、テキスト、6ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第2回	基本的な和音の配置と連結(1)比較的、調号が少ない場合(トニックコードとドミナントコードの、もっとも基本的な連結を左手で実施)	予習として、テキスト、8ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第3回	基本的な和音の配置と連結(2)比較的、調号が多い場合(トニックコードとドミナントコードの、最も基本的な連結による伴奏と共に、メロディーを弾く)	予習として、テキスト、8ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第4回	完全終止カデンツの習得、及び半終止の習得。(フレーズを完結させるコードパターンすなわち完全終止の定型、およびフレーズの半終止を左手で弾く)	予習として、テキスト、9~11ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第5回	完全終止と半終止の、メロディーへの応用。(完全終止と半終止を使った伴奏とともに、メロディーを弾く)	予習として、テキスト、12ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第6回	完全終止の定型のヴァリエーションについて(完全終止の変形応用パターンを知り、メロディーに活用)	予習として、テキスト、13ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第7回	完全終止の定型のヴァリエーションについて(完全終止の変形応用パターンを知り、メロディーに活用)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第8回	属和音の第3、第7音の扱い方について(限定進行音と呼ばれる属和音の第3、第7音の確実な処理)	予習として、テキスト、15~18ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第9回	属和音の第3、第7音の扱い方について(和音の1オクターブより広い音域での配置すなわち開離配置の理解と鍵盤上で具現化)	予習として、テキスト、19~21ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第10回	中間楽節と服属和音について(2部形式について理解し、中間楽節でよく用いられる副属和音の使用例を知る。及び、それをメロディーの伴奏として応用)	予習として、テキスト、22~27ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第11回	中間楽節と服属和音について(2部形式について理解し、中間楽節でよく用いられる副属和音の使用例を知る。及び、それをメロディーの伴奏として応用)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第12回	中間楽節と服属和音について(2部形式について理解し、中間楽節でよく用いられる副属和音の使用例を知る。及び、それをメロディーの伴奏として応用)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第13回	変奏について(旋律とリズムという要素に対して、変奏を施す手法を知り、実施)	予習として、テキスト、28~32ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第14回	変奏について(旋律とリズムという要素に対して、変奏を施す手法を知り、実施)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第15回	変奏について(旋律とリズムという要素に対して、変奏を施す手法を知り、実施)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。

科目名(クラス)	キーボードハーモニーB			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	新井 雅之	実務家教員	○	履修対象・条件	全専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>与えられたメロディーやモチーフへ、伴奏、即興を施す手法を知り、かつ実際にピアノを弾き、技術を習得していきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>基本的な伴奏形態、和音進行をまず身につけ、次第にそれを鍵盤楽器の奏法らしい演奏で応用していけることを目指します。</p>									
【授業の「方法」と「形式】		(55文字以内)							
<p>基本的な伴奏形態、和音進行をまず身につけ、次第にそれを鍵盤楽器の奏法らしい方法で応用していけること目指します。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得】		(160文字以内)							
<p>積極的に鍵盤で音をならしつつ、響きを確かめましょう。慣れるつもりで取り組んで下さい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準】		(380文字以内)							
<p>学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(16時 00分 ~ 17時 30分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	変奏について(さらに変奏即興の応用力を身につける)	予習として、テキスト、35~38ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第2回	変奏について(さらに変奏即興の応用力を身につける)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第3回	変奏について(さらに変奏即興の応用力を身につける)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第4回	変奏について(さらに変奏即興の応用力を身につける)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第5回	モチーフを使う即興演奏について(モチーフを発展させて、まとまった形式に仕上げる手法を知り、得た手法により実施)	予習として、テキスト、39~50ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第6回	モチーフを使う即興演奏について(モチーフを発展させて、まとまった形式に仕上げる手法を知り、得た手法により実施)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第7回	モチーフを使う即興演奏について(モチーフを発展させて、まとまった形式に仕上げる手法を知り、得た手法により実施)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第8回	モチーフを使う即興演奏について(モチーフを発展させて、まとまった形式に仕上げる手法を知り、得た手法により実施)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第9回	モチーフを使う即興演奏について(モチーフを発展させて、まとまった形式に仕上げる手法を知り、得た手法により実施)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第10回	モチーフを使う即興演奏について(モチーフを発展させて、まとまった形式に仕上げる手法を知り、得た手法により実施)	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第11回	和音の転回形とバスの順次進行について(和音の転回形を応用しつつ、バスに順次進行を使う)	予習として、テキスト、52~54ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第12回	右手に厚みを重ねる和音重音について(右手に旋律に重音を施し厚みを加えて弾く)	予習として、テキスト、55~56ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第13回	前回、前々回の手法での伴奏による応用実施(和音転回形と、右手重音奏の応用)	予習として、テキスト、57~58ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第14回	ピアニスティックな奏法、Fill in、移旋について(よりピアノらしいパッセージ、フレーズからフレーズへの流れを円滑にするための穴埋めによるつなぎ、同主短調、同主長調への転調「移旋」について理解し、応用)	予習として、テキスト、59~69ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第15回	まとめ	予習として、これまでの例を再び繰り返し弾いておく。所要時間30分程度。

科目名(クラス)	学内演奏		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	山崎明美	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>グランツァールという大きなホールにおいて各専門分野における学修の成果を発表し、音楽内容、技術の向上を目指す。 また他の学生の演奏を聴くこと、スタッフとして演奏会を支える経験を通して、将来幅広く多彩な音楽活動をしていくための貴重な実践を積むことが出来る科目である。この授業を通じて豊かな感性の育成と演奏力の伸長を目指す。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>演奏者としての知識・技術・マナーを身に付けることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演奏実技									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
【授業計画の内容】に詳述。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
演奏をする、演奏を聴く、スタッフとして演奏会を支える、以上の三点を総合的に評価する。									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	
6	
7	<p>上記に示した目標に沿って、各回、演奏する、演奏を聴く、演奏を支えるという各役割を行う。 第1回目に授業内容についてのオリエンテーションを行う。以下熟読のこと。 演奏出演日に関しては掲示する。</p>
8	<p>1) 要出演学生及び出演日 ・「主専攻Ⅲ」履修中の学生全員(ピアノ・声楽・管弦打・作曲専攻生のみ) 指定された出演日に1回必ず出演すること。 ・出演日の変更は原則として認めない 2) 要出席の学生 / 出席のとり方 ・14時30分開場時に、ホール入り口にて出席カードを配布し、終演後出口でカードを回収する。 ・演奏会途中入退場者のカードは無効 ・出演日の出席については、出演することにより出席となる。カードの提出は必要なし(伴奏者も含む) ザール以外の大教室やレッスン室を借りることが出来る(有料)。利用する場合、庶務担当まで申し出ること。</p>
9	<p>3) 伴奏者 ・他学年の学生が伴奏をする場合、出演日当日のリハーサルは公欠にならないので注意のこと。 (本番は公欠になる) 4) 役員(係り)</p>
10	<p>・全員1回あたる。主な仕事は、ステージ係・アナウンス係・受付係・会場整理係等。役員については事前に提示するので各自で確認の事。役員の集合時間は14時15分ステージ下手。また、係りについては当日指定。また、役員学生の出席については、集合時に出席をとり、終演後片付けが終わった時点でカードを配布。 (3限目に授業がある役員は公欠にならないので、授業が終わり次第来る事) 5) リハーサル</p>
11	<p>・出演日当日午前中グランツザールで一人当たり15分程度のリハーサルを組む予定。時間については教務に提出する「履修時間割表」をもとに空いている時間に組むので、提出していない学生はどの時間帯もリハーサル可能と判断するので、要注意。また、自分が出演する1週間前よりグランツ 6) 出演者控室: グランツザール内「楽屋1」または「楽屋2・3」当日確認の事 7) 服装 8) 座席 ・3年次生は席が決まっているので、会場系の指示に従うこと。</p>
12	<p>9) 録音CD 配布 ・学生会が演奏の録画を行い、自分が出演した日のDVDを配布する。 10) 来聴 ・一般の方や卒業生など誰でも来朝できる。ただし、他学年の学生が聴く場合、「公欠」にはならないので注意をする。</p>
1	
2	
3	

科目名(クラス)	学内作品発表(作曲コース)		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	荻久保 和明	実務家教員	履修対象・条件		※詳細は履修ガイド参照			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>学修の成果を発表し、また他の学生の演奏を聴くことにより、音楽内容、技術の向上を目指す。 学内演奏会は皆さんが将来幅広く多彩な音楽活動をしていくための貴重な実践科目であり、この授業を通じて豊かな感性の育成と演奏力の伸長を目指す。 また「自分の音楽」を「創造」する有意義で充実した「音楽体験」にしたい。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>自作品の室内楽を実際に音にするにあたり、自分の考えていることや作品の意図をどれだけ演奏者に伝えられるか、コミュニケーション能力を身につける。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
作品発表(演奏を含む)								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
【授業計画の内容】に詳述。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
作品発表等を総合的に評価する								
教科書				著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する								

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	
6	
7	<p>上記に示した目標に沿って行う。以下の注意事項に目を通しておくこと。</p> <p>1) 要出演学生及び出演日 ・「主専攻5・6履修中の学生全員(ピアノ・声楽・管弦打・作曲専攻生のみ)指定された出演日に1回必ず出演すること。 ・出演日の変更は原則として認めない。</p>
8	<p>2) 要出席の学生 / 出席のとり方 ・14時30分開場時に、ホール入り口にて出席カードを配布し、終演後出口でカードを回収する。 ・演奏会途中入退場者のカードは無効(遅刻・途中退場厳禁) ・出演日の出席については、出演することにより出席扱いとなるのでカードの提出は必要なし(伴奏者も含む) ・ウィーン研修中は公欠扱いとなる。</p>
9	<p>3) 伴奏者 ・他学年の学生が伴奏をする場合、出演日当日のリハーサルは公欠にならないので注意のこと。(本番は公欠になる)</p> <p>4) 役員(係り) ・全員1回あたる。主な仕事は、ステージ係・アナウンス係・受付係・会場整理係等。役員については事前に提示するので各自で確認の事。役員の集合時間は14時15分ステージ下手。また、係りについては当日指定。</p>
10	<p>また、役員学生の出席については、集合時に出席をとり、終演後片付けが終わった時点でカードを配布。(3限目に授業がある役員は公欠にならないので、授業が終わり次第来る事)</p> <p>5) リハーサル ・出演日当日午前中グラントザールで一人当たり15分程度のリハーサルを組む予定。時間については教務に提出する「履修時間割表」をもとに空いている時間に組むので、提出していない学生はどの時間帯もリハーサル可能と判断し、時間を組むので要注意。また、自分が出演する1週間前よりグラントザール以外の大教室やレッスン室を貸出(有料)でするので利用する場合、庶務担当まで申し出ること。</p>
11	<p>6) 出演者控室: グラントザール内「楽屋1」または「楽屋2・3」当日確認のこと。</p> <p>7) 服装</p> <p>8) 座席 ・3年次生はある程度座席が決まっているので、会場系の指示に従うこと。</p>
12	<p>9) 録音CD配付 ・学生会が演奏会の録画を行い、自分が出演をした日のDVDが配付される。</p> <p>10) 来聴 ・一般の方や卒業生など誰でも来聴できる。但し、他学年の学生が来聴する場合「公欠」にはなりません。</p>
1	
2	
3	

科目名(クラス)	学内実習発表(音楽療法専攻)		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	木下 容子	実務家教員	履修対象・条件		音楽療法専攻のみ履修可。必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>この授業では、「研究とは何か」について多面的に学ぶ。 自らの考えを言語的に表現できなければ、それは考えていることにはならない。 すなわち、「言わなくても分かってもらえる」「言葉では上手く言えないが、こんな感じ」といった、 概念を言語化できない状況から脱する。そして、自らの考えを的確に言語で表現できる力を養う。 また、他者の研究に対しても、建設的な意見を述べる力を培う。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>学術発表を行うための学術的思考や言語的能力を身につける。 そのうえで、正確で客観的な学術的情報収集と、その咀嚼・理解が出来る力を獲得する。 また、ディスカッションにおいて、他者の意見を正確に捉える力、自分の考えを適切に言語表現できる力を身につける。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>研究の途中経過の各自による発表や学生同士のディスカッション、 また、研究とは何かについて多面的に学ぶ講義形式を交えて進行する。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>社会では、言葉で説明できないと、「理解していない」「考えていない」と捉えられてしまうこともある。この授業では、自らの思考を適切に言語化できることを目指すため、そのような心構えを持って臨むこと。 また、主体的に自らの研究テーマを探し、研究を進めることが大切である。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>講義で解説する部分については、概念の正確な理解とその応用力が必要である。また、各自のプレゼンテーションにおいては、十分に正確な情報収集と適切な言語表現がなされることが要求される。 評価に関して、まず講義については、その日の内容についての質問に対する返答の正確性および随時行われる経過発表時の内容・質・言語表現(40%)。期末に行われる「学内実習発表」のプレゼンテーションにおける、各自の研究の情報収集の度合い、研究の内容・質、発表時の言語表現を音楽療法専攻の教員全員で評価した点数(60%)。</p>									
教科書	講義内でプリントを配布する。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献	心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピー			著者等	都筑学	出版社	有斐閣アルマ		
参考文献	カウンセリング／リサーチ入門(絶版)			著者等	國分康孝	出版社	誠信書房		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(月曜日:17:00~18:00、 火曜日:9:30~10:30)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	「論文」とは何か、その定義や他の文章との違いを明確にする。 そして、「リサーチ」とは何か、その定義や意義について学ぶ。	予習: 普段から音楽・医学・福祉・教育などの関連領域の論文に目を通しておく。 復習: 「論文」「リサーチ」について熟読し、理解を深める。
第2回	リサーチにおいて、「トピックの設定」について考える。 そして、自分の問題意識、興味などを言語化してみる。 また、情報収集の方法についても学ぶ。	予習: 普段から音楽・医学・福祉・教育などの関連領域の論文に目を通しておく。 復習: 「トピックの設定」「情報収集」について熟読し、理解を深める。実際に情報収集してみる。
第3回	各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ発表してもらい、全員でディスカッションする。	予習: 自らの興味と研究に値するか否かの両観点から研究テーマを選び、発表の準備をする。 復習: 当日の討論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第4回	引き続き、各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ発表してもらい、全員でディスカッションする。	予習: 自らの興味と研究に値するか否かの両観点から研究テーマを選び、発表の準備をする。 復習: 当日の討論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第5回	リサーチにおける「価値観との関連」、「操作的定義」について学ぶ。	予習: 普段から音楽・医学・福祉・教育などの関連領域の論文に目を通しておく。 復習: 「価値観との関連」「操作的定義」について熟読し、理解を深める。
第6回	研究における「母集団」や「サンプリング」、「サンプルサイズ」について学ぶ。	予習: 普段から音楽・医学・福祉・教育などの関連領域の論文に目を通しておく。 復習: 「母集団」「サンプリング」「サンプルサイズ」について熟読し、理解を深める。
第7回	研究における「測定方法」について学ぶ。 ここでは、質問紙法、観察法、面接法、尺度法などについて学ぶ。	予習: 普段から音楽・医学・福祉・教育などの関連領域の論文に目を通しておく。 復習: 「研究における測定方法」について熟読し、理解を深める。
第8回	研究やリサーチにおける「倫理」について学ぶ。 また、得られた情報や資料の「分析方法」および「入門的な統計学」について学ぶ。	予習: 普段から音楽・医学・福祉・教育などの関連領域の論文に目を通しておく。 復習: 「研究やリサーチにおける倫理」「分析方法」について熟読し、理解を深める。
第9回	引き続き、得られた情報・資料の「分析方法」および「入門的な統計学」について学ぶ。また、研究の「表現法」についても学ぶ。	予習: 普段から音楽・医学・福祉・教育などの関連領域の論文に目を通しておく。 復習: 「入門的な統計学」「表現法」について熟読し、理解を深める。
第10回	「リサーチレベル」と、「考察の仕方」について学ぶ。	予習: 普段から音楽・医学・福祉・教育などの関連領域の論文に目を通しておく。 復習: 「リサーチレベル」「考察の仕方」について熟読し、理解を深める。
第11回	この段階での、各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ発表してもらい、全員でディスカッションする。	予習: 講義で学んだことを踏まえて、発表の準備をする。 復習: 当日の討論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第12回	引き続き、この段階での各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ発表してもらい、全員でディスカッションする。	予習: 講義で学んだことを踏まえて、発表の準備をする。 復習: 当日の討論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第13回	「リサーチレベルの比較」を学ぶ。 また、「シングルケースデザイン」について学ぶ。	予習: 普段から音楽・医学・福祉・教育などの関連領域の論文に目を通しておく。 復習: 「リサーチレベルの比較」「シングルケースデザイン」について熟読し、理解を深める。
第14回	後期末に行われる「学内実習発表」(学会発表に準じた形で行う)の予行演習を兼ね、可能な限り完成形に近づけて、自らの研究発表を一人ずつ行う。	予習: 講義で学んだことを踏まえて、発表の準備をする。 復習: 当日の討論を踏まえ、研究をどう完成させるかを考える。
第15回	引き続き、後期末に行われる「学内実習発表」(学会発表に準じた形で行う)の予行演習を兼ね、可能な限り完成形に近づけて、自らの研究発表を一人ずつ行う。	予習: 講義で学んだことを踏まえて、発表の準備をする。 復習: 当日の討論を踏まえ、研究をどう完成させるかを考える。

科目名(クラス)	学内研究発表(教職実践専攻)		開講学期		単位数	2	配当年次	3	
担当教員	粕谷 宏美	実務家教員	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、教職実践専攻での学びの集大成として設定され、3年間の学びを発表します。 ・受験する自治体の教員採用試験で求められる実技試験の発表を行います。 ・教育現場でのインターンシップにおける成果と課題についてプレゼンテーションします。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・充実した教職インターンシップを行い、分かりやすいプレゼンテーションができる。 ・受験する自治体の教員採用試験で求められる実技課題を、適切に表現し発表することができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
発表会形式									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップは目的意識、問題意識をもって取り組んでください。 ・後期に行う専門実技の発表会に向けて、前期から計画的に準備、練習してください。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの課題と成果(40%) ・音楽科の教員として求められる専門実技の力量(40%) ・プレゼンテーション能力(20%) 									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	各自治体の教員採用試験募集要項			著者等			出版社	各教育委員会	
参考文献	各自で作成する提出資料			著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	・インターンシップを実施する前に、教育公務員としての立場、役割を理解しておいてください。	
第2回	・インターンシップの実施にあたっては、実施校の指示に従ってください。	
第3回	・インターンシップの発表に向けて、機材の操作など十分な準備とリハーサルを行ってください。	
第4回	・実技の発表内容は、受験する自治体で指示されている今年度の内容をすべて行ってください。	
第5回	・発表は後期の後半とし、会場は、16号館4階LH教室の予定です。	
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名 (クラス)	konzertfach専門実技 声楽1・2			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	声楽科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
自分の身体を楽器とし、音楽表現の中で唯一言葉を伴うという特徴を踏まえ、声楽1・2では、声楽に必要な技術を基礎から学び、声楽表現に必要な知識を身につけていく。										
【授業を通じて 修得できる力】	知識 ・技能	汎用的な能力		思考力 ・判断力 ・表現力	コミュニケーション能力		意欲 ・関心 ・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
無理のない呼吸法、発声法、発語法の基礎を身に付けることを到達目標とする。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
演奏評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>【主要課題】 呼吸法、発声法、発語法を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声楽を学ぶに必要な要点を理解する。 ・声楽には言語習得が欠かせない。イタリア語、ドイツ語等の履修を促す。 ・一年次は特にイタリア語発音の徹底。 ・呼吸の練習は常に訓練を必要とする。復習、練習の時間を十分に確保する。
5	
6	
7	<p>【主要課題】 継続して声づくりを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声楽を学ぶに必要な要点を理解する。 ・声楽に必要な正しい母音の響かせ方を学ぶ。 ・復習、練習の時間を十分に確保する。
8	
9	
10	<p>【主要課題】 前期で学んだ呼吸法、発声法、発語法を充実させ、継続して声作りを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期で学んだ美しい母音は、どの音域でも同じように響かなければならないことを理解し、身に付けることを目指す。 ・母音の作り方が初期の学習に適しているイタリア歌曲を選曲する。
11	
12	
1	<p>【主要課題】 呼吸法、発声法、発語法を身に付けることを目指す。</p> <p>10月からの学修を見直し、学修成果を確認。</p> <p>【後期試験】・一年をかけて作り上げた声で無理なく歌う。 10分程度のプログラムの作成：バロックまたは、イタリア古典歌曲または、イタリア歌曲（ベルカント期まで、またはモーツァルト作曲のオペラアリア（イタリア語歌詞のもの）</p>
2	
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 声乐3・4			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	声乐科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
一年次で学んだ事を継続。正しい呼吸法、発声法、発語法を身に付けて、声づくりの訓練を怠らず曲に活かして行く。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
一年間学んで来た事を更に継続して安定した歌唱法を実践できる。歌の基本はレガート唱法である。二年次には更にレガート唱法の基本を身に付けることを到達目標とする。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>【主要課題】:一年間の計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次で学んだ事を振り返り、今後取り組んで行くべき方向を担当教員と相談して学習の計画を立てる ・1年次で身につけた呼吸法を実践し、メッサディヴォーチェを身に付ける ・ドイツ語発音の習得。特にドイツ語の母音を自然に響かせることを目指す。 <p>4月にグランツザールにおける演奏会</p>
5	
6	
7	<p>【主要課題】</p> <p>メッサディヴォーチェを身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月に実施される研修への学修計画を立てる 4月から学修して来た内容を振り返り、改善点他、研究し、曲にも応用出来ようにする。 <p>9月時にウィーン研修</p>
8	
9	
10	<p>【主要課題】</p> <p>レガート唱法を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声楽の基本であるレガート唱法は、確かな声楽の基礎に支えられている。これまで学んできたことを繰り返し探究し、レガート唱法を学んでいく。 <p>11月にグランツザールにおける演奏会</p>
11	
12	
1	<p>【主要課題】:後期試験の準備と仕上げをする。:レパートリーを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本歌曲、ドイツ歌曲に取り組む場合、詩人についての知識を深めること。 ・また、楽譜には様々な版がある。作曲者の意図が十分に研究された版を選ぶこと。 例)F.Schubert Bärenreiter 山田耕筰 春秋社 など <p>【後期試験】・以下の楽曲で10分程度のプログラムを作成し、演奏する。</p> <p>:イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲、モーツァルト作曲の演奏会用アリア、オペラアリア(すべての分野の楽曲がそろわなくてもよいとする)</p> <p>2月時にウィーン研修</p>
2	
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 声楽5・6			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	声楽科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>これまで重ねて来た発声の勉強をさらに充実させ、楽譜からそこに書かれた意図をくみ取り音楽の表現を広げていく。また、三年次からオペラ研究の授業が履修可能となる。アンサンブルを身に付ける為にも履修する事が望ましい。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>一年次、二年次とイタリア語、ドイツ語について歌に適した発語の基礎を学修してきたが、三年次はその学修を更に継続、発展させ、安定した歌唱ができることを到達目標とする。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>【主要課題】:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三年次・四年次には、オペラ研究が履修可能(選択科目)。演出家、音楽スタッフ(声楽教員及びピアノ教員、ピアノ研究員)など複数の教員に寄る授業である。オペラを理解しアンサンブルを身につける為にも積極的に取り組む事が望ましい。 <p>4月にグランツザールにおける演奏会</p>
5	
6	
7	<p>【主要課題】:前期試験の準備と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりとした発声に裏付けられた豊かな音楽表現を目指す ・9月のウィーン研修に向けて、発声の課題、基本的な技術の訓練を積み上げ、さらに曲を演奏する中でそれらの技術を保ち、美しい響きで歌うことができるか研究し、身に付ける。 <p>9月にウィーン研修</p>
8	
9	
10	<p>【主要課題】:レパートリーのさらなる拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の声質や感性に合う曲を探す。 11月の演奏会の選曲、および後期試験の選曲 ・試験に選んだ曲を研究する。作曲家について、詩人について、曲の分析、詩の表現への理解などを積極的に学び、表現の充実に努める。 <p>11月にグランツザールにおける演奏会</p>
11	
12	
1	<p>【主要課題】:後期試験の準備と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三年次に学んだ事を振り返り、検証し、改善して行く。 <p>【後期試験】:以下の楽曲で10分～15分程度のプログラムを作成し、演奏する。 :イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲、オペラアリア(レパートリーに沿ったものとする。)(すべての分野の楽曲がそろわなくてもよいとする)</p> <p>2月にウィーン研修</p>
2	
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 声楽7・8			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	声楽科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>身体が楽器である声楽はその身体が十分に成育して行くことで真の完成に近づく。基本を学び、技術、音楽性、豊かな人間性を磨き、その先へと繋げて行かなければならない。四年次はこれまでの学修の集大成である。卒業試験に向けて研鑽を積み、四年間の成果を十分に発揮できるようにする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力 ・判断力 ・表現力	コミュニケーション能力		意欲 ・関心 ・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>四年次は三年間重ねて来た学習の総まとめとして、呼吸法、発声法を見直し、更に自由に表現出来る様にする。これまで学修して来た様々な言語を積み上げてきた声楽技術を持って演奏表現することを到達目標とする。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>【主要課題】:これまでの学修内容を振り返りつつ、発展させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声法、歌唱法は常に見直し、発展させる必要がある。 ・技術面だけでなく音楽の内容も再確認する。 ・これまで学んでいない分野も積極的に取り組んで行く。 <p>4月にグランツザールにおける演奏会</p>
5	
6	
7	<p>【主要課題】 前期試験の準備と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作曲者についてや曲の背景、詩人についてや詩の解釈など自らの表現のよりどころとなることをしっかりと理解し、呼吸と結びつけ、声楽の技術が音楽と共に息づくように完成度を高めて行く。 ・9月のウィーン研修に向けて準備する。 <p>【前期試験】 任意のプログラムによる10分～20分程度の演奏</p>
8	
9	
10	<p>【主要課題】 卒業試験に向けての準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月グランツザールでの演奏に向けて準備する。 ・9月のウィーン研修で学修したことを引き続き練習し、体得する。 <p>11月にグランツザールにおける演奏会</p>
11	
12	
1	<p>卒業試験(リサイタル)</p> <p>任意の選択による20分～30分程度のプログラムを作成し、4年間の集大成として演奏する。作品研究として、2000字程度のプログラム解説を提出する。</p> <p>2月にウィーン研修</p>
2	
3	

科目名 (クラス)	konzertfach専門実技 ピアノ1・2			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
Konzertfachで学ぶことの意義を確認する。バロック・古典・ロマン・近現代の4期をすべて学修し、それぞれの時代の演奏スタイルを身につける。演奏技術を改めて見直し改善するとともに、さらに基礎固めを行う。										
【授業を通じて 修得できる力】	知識 ・技能	汎用的な能力		思考力 ・判断力 ・表現力	コミュニケーション能力		意欲 ・関心 ・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
バロック期・古典期・ロマン期・近現代気のそれぞれの様式感を持って演奏することができる。基礎的な演奏技術を修得し、その楽曲に相応しい音色とバランスを構築することができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
演奏力と取り組み方により評価する。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	演奏技術を見直し、改善に努める。 ピアノ1の試験とウィーンでの研修を踏まえて、指導教員とピアノ1の学修計画を立てる。 取り組む作品の概要を、資料や音源資料によって理解する。
6	
7	
8	作品を、和声・形式・様式など様々な角度から理解し、表現に反映する。 ピアノ1の試験 ウィーンの研修に参加する。 ウィーンの研修を振り返り、課題を把握する。
9	
10	
11	公開演奏会に向けて、さらに高度な演奏を目指す。 公開演奏会に出演し、自身の演奏を振り返る。 ピアノ2の試験とウィーンでの研修を踏まえて、指導教員ピアノ2のと学修計画を立てる。 取り組む作品の概要を、資料や音源資料によって理解する。 演奏技術の向上に努める。
12	
1	
2	作品を、和声・形式・様式などから理解し、表現に反映させる。 ピアノ2の試験 ウィーンの研修に参加する。 ウィーンの研修を振り返り、課題を把握する。 公開演奏会に向けて、さらに向上するよう努める。
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 ピアノ3・4			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>ピアノ1・2で学んだことを基礎として、バロック・古典・ロマン・近現代の4期の作品をさらに深く学び、レパートリーを拡大する。また様々な練習曲を通して、より高度な演奏技術を獲得する。コンクール・オーディション・コンサートへの参加を推奨する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>バロック期・古典期・ロマン期・近現代期のレパートリーを拡大し、それぞれの様式感を持って演奏することができる。各作品を、和声・対位法・形式など様々な角度から理解し、演奏に反映することができる。安定した演奏技術で美しい響きを作り出すことができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
演奏力と取り組み方により評価する。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	公開演奏会に出演し、自身の演奏を振り返る。 ピアノ3の試験とウィーンでの研修を踏まえて、指導教員とピアノ3の学修計画を立てる。 取り組む作品の概要を、資料や音源資料によって理解する。 演奏技術の向上に努める。
6	
7	
8	作品を、和声・形式・様式など様々な角度から理解し、表現に反映する。 ピアノ3の試験 ウィーンの研修に参加する。 ウィーンの研修を振り返り、課題を把握する。
9	
10	
11	公開演奏会に向けて、さらに高度な演奏を目指す。 公開演奏会に出演し、自身の演奏を振り返る。 ピアノ4の試験とウィーンでの研修を踏まえて、指導教員とピアノ4の学修計画を立てる。 取り組む作品の概要を、資料や音源資料によって理解する。 演奏技術の向上に努める。
12	
1	
2	作品を、和声・形式・様式などから理解し、表現に反映させる。 ピアノ4の試験 ウィーンの研修に参加する。 ウィーンの研修を振り返り、課題を把握する。 公開演奏会に向けて、さらに向上するよう努める。
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 ピアノ5・6			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>ピアノ1・2・3・4で修得したことを基礎として、各学生に沿ったレパートリーを拡大する。その中には協奏曲と1950年以降の作品、及び邦人作品も含む。さらに高度な演奏技術を獲得し、より一層演奏に対する集中力と持続力を高めていく。 演奏家に相応しいステージマナーを身につける。コンクール・オーディション・コンサートへの参加を推奨する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>レパートリーを、バロック期から1950年以降・邦人作品と拡大する。それぞれの楽曲に応じた解釈や奏法により、演奏を構築することができる。さらに高度な演奏技術を獲得し、演奏に生かすことができる。演奏家に相応しいステージマナーでステージに立つことができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
演奏力と取り組み方により評価する。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	公開演奏会に出演し、自身の演奏を振り返る。 ピアノ5の試験とウィーンでの研修を踏まえて、指導教員とピアノ5の学修計画を立てる。 取り組む作品の概要を、資料や音源資料によって理解する。 演奏技術の向上に努める。
6	
7	
8	作品を、和声・形式・様式など様々な角度から理解し、表現に反映する。 ピアノ5の試験 ウィーンの研修に参加する。 ウィーンの研修を振り返り、課題を把握する。
9	
10	
11	公開演奏会に向けて、さらに高度な演奏を目指す。 公開演奏会に出演し、自身の演奏を振り返る。 ピアノ6の試験とウィーンでの研修を踏まえて、ピアノ6の学修計画を立てる。 取り組む作品の概要を、資料や音源資料によって理解する。 演奏技術の向上に努める。
12	
1	
2	作品を、和声・形式・様式などから理解し、表現に反映させる。 ピアノ6の試験 ウィーンの研修に参加する。 ウィーンの研修を振り返り、課題を把握する。 公開演奏会に向けて、さらに向上するよう努める。
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 ピアノ7・8			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>最終学年として、今までに学修してきたことを裏付けに、さらにレパートリーを拡大し、演奏家に相応しいレベルの高い演奏を目指す。またステージにおいては、ホールの空間と一体になった響きを求め、聴衆を意識した音楽づくりを心掛ける。卒業試験ではリサイタル形式の60分のプログラムによる演奏を行う。コンクール・オーディション・コンサートへの参加を推奨する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>それぞれの作品の和声・対位法・形式・様式などを踏まえ、作曲家の意図するものを的確に表現することができる。高度な演奏技術を獲得したことにより、安定した演奏ができる。多彩な音色を駆使して、知性と感性のバランスがとれた演奏を構築することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
演奏力と取り組み方により評価する。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	公開演奏会に出演し、自身の演奏を振り返る。 ピアノ7の試験とウィーンでの研修を踏まえて、指導教員とピアノ7の学修計画を立てる。 取り組む作品の概要を、資料や音源資料によって理解する。 演奏技術の向上に努める。
6	
7	
8	作品を、和声・形式・様式など様々な角度から理解し、表現に反映する。 ピアノ7の試験 ウィーンの研修に参加する。 ウィーンの研修を振り返り、課題を把握する。
9	
10	
11	公開演奏会に向けて、さらに高度な演奏を目指す。 公開演奏会に出演し、自身の演奏を振り返る。 ピアノ8の試験とウィーンでの研修を踏まえて、ピアノ8の学修計画を立てる。 取り組む作品の概要を、資料や音源資料によって理解する。 演奏技術の向上に努める。
12	
1	
2	作品を、和声・形式・様式などから理解し、表現に反映させる。 ピアノ8の試験 ウィーンの研修に参加する。 ウィーンの研修を振り返り、課題を把握する。 4年間の成果を踏まえ、さらに向上するよう努める。
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 打楽器1・2			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	打楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
将来演奏家になることを目標とし、「音楽を自らの言葉で語る」ことを常に意識しながら、その目標達成の第一歩として基本奏法や演奏技術を身につける										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
音楽表現の第一歩として基礎的な技術を確実に身につけると共に、太鼓系、鍵盤系、両楽器の基礎についても理解し技術を習得する										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	○ガイダンス ○小太鼓、鍵盤楽器の基礎奏法の確認とさらなる習得。 →正しいフォーム。良い響きの出し方、リズム感、フレージング等エチュードを使って習得する ○前期試験曲の決定、指導
6	
7	
8	○基本奏法の確立と楽曲への応用① →楽器発音体の振動を理解し合法的打法(脱力と体の使い方)を身につける ○前期試験の講評、及び課題提示 ○9月ウィーン研修に向けての課題と指導 ○公開演奏会のプログラミング指導
9	
10	
11	○基本奏法の確立と楽曲への応用② →ウィーン研修で学んだことをふまえ、自らの課題を確認し、エチュードの選択と楽曲の 選曲 を行ない、その取り組みの中で基本奏法の確立、応用について、さらに追及し音楽表現を 深める ○後期試験曲の決定、指導
12	
1	
2	○楽曲への取り組みの中で、さらなる基本奏法の確立、応用について追求し 音楽表現を深める →読譜力をつける ○2月ウィーン研修に向けての取り組み、課題と指導 ○次年度への目標提示と4月の公開演奏会に向けての指導 ○1年間の総括
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 打楽器3・4			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	打楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
演奏家になることを目標とする中で「いかに音楽的に奏するか」をテーマに、個々の楽器の奏法を楽曲を通し習得する(オーケストラスタディ教材も用いる)										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
様々な打楽器について、基本奏法のさらなる理解と習得のために自らの練習方法を追求できる。リズム、フレージング、ダイナミクをより深く理解し応用できる力を身につける。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス ○公開演奏会に向けた指導 ○小太鼓、鍵盤楽器の基本奏法の充実(より難易度の高いエチュードの使用) ○前期試験曲の決定、指導
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ○小太鼓、鍵盤楽器について、より自由な音楽表現を目指す。 ○オーケストラスタディを用いて、奏法・技術を習得する。 →打楽器の本質的な可能性を学ぶ。 ○9月ウィーン研修に向けての課題と指導 ○公開演奏会のプログラミング指導
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ○ウィーン研修で学んだことをふまえ、各自の課題を確認し、エチュード、オーケストラスタディ、楽曲を選択する。 →楽曲演奏の表現と技術の向上 ○後期試験曲の決定、指導
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ティンパニを含む、打楽器全般の奏法と音楽表現を学 ○2月ウィーン研修に向けて課題選択、指導 ○次年度への目標提示 ○公開演奏会に向けての準備
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 打楽器5・6			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	打楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
演奏家としての意識の向上と、演奏に対する姿勢と取り組みの強化。 レパートリーの拡大を目標に演奏の機会を増やす。(コンクール、オーディションへの取り組み)										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
レパートリーの拡大、また演奏分野の拡大のため、扱える楽器の幅を広げると共に、音楽表現を広げていく。(オーケストラ、室内楽等にも対応できる力)										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	○ガイダンス ○公開演奏会の講評と課題提示 ○内外コンクール、オーディションへ向けた指導 ○前期試験曲の決定、指導
6	
7	
8	○レパートリーの拡大① →多種楽器を用いたマルチパーカッション楽曲や難易度の高い鍵盤楽曲を題材に、より読譜力を高め、奏法(セッティング等も)を深く研究する ○9月ウィーン研修への取り組みと課題提示、指導
9	
10	
11	○レパートリーの拡大② →ティンパニを含むオーケストラスタディにも取り組み、より高い技術習得がより深い音楽表現を生み出すことを学ぶ。 ○公開演奏会でも発表をふまえ、より魅力的なプログラミングとそれに向けた技術向上をはかる。
12	
1	
2	○2月ウィーン研修への取り組みと課題提示、指導。(オーケストラスタディも含む) ○ソロ以外にアンサンブルにおいても、その技術向上をはかる。 ○公開演奏会に向けてのプログラミングと指導。 ○1年間の総括と次年度への目標提示。
3	

科目名(クラス)	konzertfach専門実技 打楽器7・8			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	打楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
演奏家として意識の確立とレパートリーの充実をはかる。 卒業後の進路も見据えながら、幅広い対応力を身につける。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
演奏家として、音楽を自らの言葉で語るための、あらゆる方策を考えると共に自主的な練習方法を強化し、演奏の場を広げて行くこと。(コンクール、オーディション、室内楽等)										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	○ガイダンス ○公開演奏会に向けての指導と講評・課題提示 ○内外コンクール、オーディションへ向けた指導 ○各自の将来に即した情報提示、及び指導 ○前期試験曲の決定、指導
6	
7	
8	○演奏家としての意識の確立① →得意分野へのさらなる追求と客観的な実力の認識。オーケストラスタディ習得の充実。 外に向けての発信、行動(オーケストラ、コンサート企画、コンクール等) ○9月ウィーン研修に向けての取り組みと指導
9	
10	
11	○演奏家としての意識の確立② →公開演奏会への準備と指導(リサイタルを意識した魅力的なプログラム)と将来に向けての より具体的な取り組み ○卒業試験曲の決定、指導と作品ノート作成のアドバイス
12	
1	
2	○2月ウィーン研修(最終)に向けての取り組みと指導 ○リサイタルの企画 ○4年間の総括
3	

科目名(クラス)	ウィーンアカデミープロフェシオナル (konzertfach)1~4(1年・2年) 各3単位 声乐専門			開講学期	前後	単位数	各3単位	配当年次	1-2	
担当教員	林千尋/V.ヘルビツ /K.ブッシュ	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
いきなり歌うのではなく、先ず楽器としての身体作りから。 声楽家は身体が楽器であるので、楽器作りと同意の声作りについて、一年目は最重要課題とする。 声楽曲は声作りを応用できるものとする。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力 ・判断力 ・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲 ・関心 ・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
自ら声作りのための練習を継続してできるようにする										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技レッスン方式										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
演奏評価										
教科書		著者等		出版社						
教科書		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ウィーン研修中										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) レッスン終了後										

【授業計画・内容・準備学習】

2020年
9月研修時

ベルカント唱法入門②

歌う準備:楽器としての身体のウォーミングアップの方法。声帯を温め鼻腔から対流の停滞を除く方法。ストレッチのやり方。

呼吸法:個人差による徹底指導。

①横隔膜と喉頭を下げ、軟口蓋を上げる。②音を母音とともに想像する。③音を口元にフォーカスすること。④声を口内からホールに出すと同時に響きを顔の一点に引いてくること。

2021年
2月研修時

呼吸法:個人差による徹底指導。

①横隔膜と喉頭を下げ、軟口蓋を上げる。②音を母音とともに想像する。③音を口元にフォーカスすること。④声を口内からホールに出すと同時に響きを顔の一点に引いてくること。

科目名(クラス)	ウィーンアカデミープロフェシオネル (konzertfach)1・2(1年) 各3単位 打楽器専門			開講学期	前後	単位数	各3単位	配当年次	1		
担当教員	林千尋/A.ミッターマイヤー	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照						
【授業の概要】		(360文字以内)									
<p>打法技術:太鼓系、鍵盤系両楽器の打法の基礎。音楽的に良い響きの出し方、キャラクターとしてのリズム、フレージングの作り方、ディナーミクの付け方などを研究。様式学を実演に応用して演奏すること。</p>											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
<p>打法技術:太鼓系、鍵盤系両楽器の打法の基礎について理解し技術習得のための練習が自分で出来る。 音楽的に良い響きの出し方、キャラクターとしてのリズム、フレージングの作り方、ディナーミクの付け方などについて理解し、様式学を実演に応用して演奏しようとする姿勢を身につける。</p>											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
実技レッスン方式											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
演奏評価											
教科書				著者等			出版社				
教科書				著者等			出版社				
参考文献				著者等			出版社				
参考文献				著者等			出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ウィーン研修中											
②時間帯(時 分 ~ 時 分) レッスン終了後											

【授業計画・内容・準備学習】

9月研修時

打法の基礎を楽器発音体の振動を目的とした合理的打ち方を理解し実演するためにレッスン。
リズムの最小フレーズと大きなフレージングを修得。

2月研修時

和声の緊張、緩和や、色彩の出し方、線(対位法)的な緊張、緩和の感じ方の理解とその表現の
実践。バロック、古典様式学の実践。

科目名(クラス)	ウィーンアカデミープロフェシオネル (konzertfach)3・4(2年) 各3単位 ピアノ専門			開講学期	前後	単位数	各3単位	配当年次	2	
担当教員	林千尋/M.ヒュース	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
1・2で取り組んだ奏法の技術的修正の上に立ち、さらに多様な音色やニュアンスを出せるよう、技術的な面を学ぶと同時に、和声、対位法、様式等の知識と分析で理解を深め、合理的に演奏表現が出来るよう学ぶ。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
1・2で取り組んだ奏法の技術的修正の上に立ち、さらに多様な音色やニュアンスを出せるよう、技術的な面の練習を自分で出来る。 和声、対位法、様式等の知識と分析で取り組む楽曲の理解を深め、合理的に演奏表現をしようとする姿勢を身につける。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技レッスン方式										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
演奏評価										
教科書		著者等		出版社						
教科書		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ウィーン研修中										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) レッスン終了後										

【授業計画・内容・準備学習】

9月研修時

古典派の作品の技術、文法、様式に即した打鍵感覚を意識的に演奏表現に具体化できるよう勉強する。

2月研修時

技術的にさらに豊かな音色のパレットが持てるよう学習。文法、様式の知識も、分析を通じて生かせるよう考慮する。

科目名(クラス)	ウィーンアカデミープロフェシオナル (konzertfach)5・6(3年) 各3単位 打楽器専門			開講学期	前後	単位数	各3単位	配当年次	3		
担当教員	林千尋/A.ミッターマイヤー	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照						
【授業の概要】		(360文字以内)									
<p>打法:音楽と運動の連鎖の一致。 音楽文法に基づく分析と表現の一致。 個々のリズムやフレージングの合理的解釈と表現。</p>											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力 ・判断力 ・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲 ・関心 ・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
<p>打音技術の基本的な修正について自分で練習できる。 リズム・ロールを音楽のフレージングに従って演奏できるようになる。アーティキュレーションの語るような打ち方ができるようになる。ディナーミクの正確な出し方を自分で練習できるようになる。</p>											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
実技レッスン方式											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
演奏評価											
教科書				著者等			出版社				
教科書				著者等			出版社				
参考文献				著者等			出版社				
参考文献				著者等			出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ウィーン研修中											
②時間帯(時 分 ~ 時 分) レッスン終了後											

【授業計画・内容・準備学習】

9月研修時

鍵盤楽器と共に太鼓類のより高度な技術の習得。
音の質の打ち分け方。
オーケストラ・パートの演奏法。

2月研修時

技術の継続的発展。
大小フレーズの打ち方。
リズムのキャラクターの出し方。
オーケストラ全体の音楽のフレーズに即したパートの演奏法。

科目名(クラス)	ウィーンアカデミープロフェシオネル (konzertfach)7・8(4年) 各3単位 ピアノ専門			開講学期	前後	単位数	各3単位	配当年次	4	
担当教員	林千尋/M.ヒュース	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>今まで積み上げてきた技術、打鍵法の上に、さらに色彩やニュアンスを与えられるタッチを学ぶと同時に、正しい技術をもって音のボリュームも表出できるよう取り組む。また、音楽的に自立した芸術家として、生きていく為の音楽文法、様式、フレージングの実践、アーティキュレーションの語り方等を具体的に勉強する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>今まで積み上げてきた技術、打鍵法の上に、さらに色彩やニュアンスを与えられるタッチを学ぶと同時に、正しい技術をもって音のボリュームも表出できる。また、音楽的に自立した芸術家として、生きていく為の音楽文法、様式、フレージングの実践、アーティキュレーションの語り方等を具体的に習得できる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技レッスン方式										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
演奏評価										
教科書		著者等		出版社						
教科書		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ウィーン研修中										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) レッスン終了後										

【授業計画・内容・準備学習】

9月研修時

技術、知識、感情が一体になって表現出来るよう、全ての音楽表現が合理的な運動の連鎖としてとらえることができる為の方法と考察。

2月研修時

譜読みと実演の一体化。即興性と正確性、正しい技術と音量の豊かさ等、将来に向けての課題も考察しながら、自己の表現を確立出来るよう音楽解釈にいとむ。

科目名(クラス)	ウィーンアカデミープロフェシオナル (konzertfach)7・8(4年) 各3単位 声楽専門			開講学期	前後	単位数	各3単位	配当年次	4	
担当教員	林千尋/V.ヘルビツ/K.ブッシュ/D.シーゲル/B.シヨルム	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
ベルカント唱法の発声法の完成を目指す。 言葉の発音を正す。 バランスを整える。 レガートフレーズの歌い方。 メッサ・ディ・ヴォーチェの習得。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
ベルカント唱法の発声法について、言葉の発音やレガートフレーズの歌い方、またメッサ・ディ・ヴォーチェについて、自ら習得しようとする訓練の習慣を身に付ける。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技レッスン方式										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
演奏評価										
教科書		著者等		出版社						
教科書		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
参考文献		著者等		出版社						
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ウィーン研修中										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) レッスン終了後										

【授業計画・内容・準備学習】

9月研修時

中声域の発音を完全にし、そこから高・低音域を調律する。
フレーズごとの呼吸法と発声の応用法を習得。
発音と朗読法の理論と実践。

2月研修時

音楽を、合理的呼吸、準備、音の相互のバランス、レガートとメッサ・ディ・ヴォーチェで完全なフレージングが出来るように運動の連鎖として歌唱出来るよう学ぶ。
音楽を文法と歌詞から正しいフレージングで表現出来るようにする。
歌詞を情景とともに演出をまじえながら、感情移入を伴い、色彩豊かに歌唱出来るよう学ぶ。

科目名(クラス)	ウィーンアカデミープロフェシオナル (konzertfach)7・8(4年) 各3単位 打楽器専門			開講学期	前後	単位数	各3単位	配当年次	4		
担当教員	林千尋/A.ミッターマイヤー	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照						
【授業の概要】		(360文字以内)									
<p>基本的打法に加え、高度な技術や特殊な打法を学ぶ。 音楽文法に加え、様式学に基づく分析と表現の一致、特殊なリズムやフレージングを含む総合的解釈と表現を学ぶ。</p>											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
<p>音楽を運動の連鎖に翻訳し、実施する事をより精密化させる。 音楽を音楽文法と様式学に基づき分析し、表現を完全に音楽と一体化させる。 リズムはキャラクターで、音楽はフレージングで演奏できる様、より完成度を高める。 合奏やオーケストラの中で演奏する場合の注意点や様式、作曲家別の表現法と伝統を学び、職業音楽家への道を探る。</p>											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
実技レッスン方式											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
演奏評価											
教科書				著者等			出版社				
教科書				著者等			出版社				
参考文献				著者等			出版社				
参考文献				著者等			出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ウィーン研修中											
②時間帯(時 分 ~ 時 分) レッスン終了後											

【授業計画・内容・準備学習】

9月研修時

最高度の技術の習得。特殊奏法の習得。
合奏やオーケストラ・パートの伝統的演奏法とフレージング。

2月研修時

音楽と運動の連鎖の完全な一致。
様式や作曲家別リズムのキャラクターと音楽のフレージングを運動の連鎖により演奏する方法が自然になるよう学ぶ。
合奏やオーケストラ内でのフレージングやリズムの演奏法に伝統的演奏法も学ぶ。

科目名(クラス)	声作り(シュティムビルドゥング) (konzertfach) I A・I B(1-2年) / II A・II B(2-3年)			開講学期	前後	単位数	各1単位	配当年次	1-2		
担当教員	武藤直美	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照						
【授業の概要】		(360文字以内)									
<p>ベルカント唱法の発声の実践。 言葉の発音の延長としての声楽発声をモットーに、正しい母音と子音の発声法と音楽への応用。</p>											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力 ・判断力 ・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲 ・関心 ・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
<p>ベルカント唱法の発声について、下記内容を理解しながらマスターすべく自ら積極的に訓練を重ねてゆく姿勢を身につける。</p>											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
実技レッスン方式											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
演奏評価											
教科書				著者等			出版社				
教科書				著者等			出版社				
参考文献				著者等			出版社				
参考文献				著者等			出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 後日別途掲示で発表する											
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 後日別途掲示で発表する											

前期

第1回
～
第15回

×2

(以下、2年間かけて、繰り返し訓練する)

①ベルカント呼吸による実践。イタリアで行われていた体の外側によりかかるように歌唱中空気
で腹部を膨らむように意識する。

②中音域(しゃべる音域)を言語をしゃべる時と同じ位置で聞えるよう、また母音の響きに拡声をつ
けて完全に歌えるよう課題を実践。

③発声を響きをつけても後ろに行かぬよう、前で発音するよう、またパッサージョの音域の発声法
を母音を変えることによって習得するための課題を実践。

④バランス:上行する音程は横隔膜の支えを効かして下行形は軟口蓋を上げることによって発声
し響きで歌う。連打音は響きを増して口蓋を上げて歌う。音楽スケール(スケールは階段ではなく
天秤のはかりの意)のバランスがとれ、レガートのフレージングが可能となるが、その徹底した練
習と実践。

⑤メッサディヴォーチェ、ベルカント唱法においては、一音を歌うときにもディナーミクを一定に止
めてしまえば死んだ音とされる。従って常に音に方向性があり動きがなければならない。但し、ク
レッシェンド、デ・クレッシェンド(音強の増減)は、咽喉の部分と口蓋の空間の増減であり、決して
空気の出し入れの意識ではないので、声帯を押したり押さえつけるよう、空気の圧力をかけて
歌ってはいけない。この訓練を徹底することにより正しいメッサディヴォーチェを実践可能となり、フ
レージングが可能となる。

⑥レガートのフレージング。歌のフレージングは通常一息の間のフレージングでレガートを基本と
し、始まり、頂点、終わりの3点があり、これをメッサディヴォーチェを基としたディナーミクでも表現
する。このための練習は毎日行うべきグランスカラの練習をメッサ・ディ・ヴォーチェを使って実践
することにより常に訓練する。

後期

第1回
～
第15回

×2

科目名(クラス)	声乐1・2 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	声乐科教員	実務科教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>自分の身体を楽器とし、音楽表現の中で唯一言葉を伴うという特徴を踏まえ、声乐1・2では、声乐に必要な技術を基礎から学び、音楽表現に必要な知識を身につけていく。一年次にはイタリア歌曲を教材とする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>無理のない呼吸法、発声法、発語法の基礎をに付けることを到達目標とする。イタリア古典歌曲を中心に学び、明確な母音、美しい響きへの基本を身に付けることを目指す。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>【主要課題】 母音の作り方が初期の学習に適しているイタリア歌曲を選び、呼吸法、発声法、発語法を身に付けると共に、練習曲(コンコーネ等)を併用してソルフェージュ力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声楽を学ぶために必要な要点を伝え、学習法、レッスンの進め方を説明。 ・声楽には欠かせない言葉の大切さを伝え、イタリア語、ドイツ語等の履修を促す。 ・一年次は特にイタリア語発音の徹底。 ・授業で与えられた曲目の単語、意味調べをしてレッスンに臨む。 ・呼吸の練習はスポーツ選手のように常に訓練を必要とする。復習、練習の時間を十分に確保する。
5	
6	
7	<p>【主要課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期試験の準備と仕上げ・能力に応じた曲を選び学修する。 ・学んで来た曲目から5分以内で纏められるものを前期試験曲に決める。 ・伴奏者と合わせる事で共演と言う演奏の基本的なテクニックを学んで行く。 ・夏休みの計画:夏休みには4月から学んで来た呼吸法・発声法をさらに自主的に身につける。 <p>【前期試験】試験までの学修で得た事を確認。次の課題に繋げる。</p>
8	
9	
10	<p>【主要課題】:前期で学んだ呼吸法、発声法、発語法を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作曲者についてなど、曲の背景も学ぶ。 ・前期に引き続き呼吸法、発声法、発語法の学修を進めて行く。 ・詩の意味を良く理解して音に表して行く。曲の持つ情緒的な意味を感じ、細やかな変化を表現する。 ・自分に合った曲を見極め、後期の試験を決める。
11	
12	
1	<p>【主要課題】 呼吸法、発声法、発語法を身に付けて、レガート唱法を学んでいく。 10月から学修して来た曲目を見直し、学修成果を確認。</p> <p>【後期試験】 伴奏者との合わせを通じ、美しい声の響きを整え、試験に臨む。</p>
2	
3	

科目名(クラス)	声乐3・4 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	声乐科教員	実務科教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>一年次で学んだ事を継続。正しい呼吸法、発声法、発語法を身に付けて多くの曲に活かして行く。二年次から四年次の前期までに行われる試験の間に日本語、ドイツ語の歌曲が課題となる。何をどの時期に歌うかは担当教員とよく話し合い取り組んで行く。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>一年間学んで来た事を更に継続して安定した歌唱法を身に付ける。歌の基本はレガート唱法である。二年次には更にレガート唱法の基本を身に付けることを到達目標とする。ドイツ語を正しく発音出来る(特にUmlaut)。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>【主要課題】:一年間の計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次で学んだ事を振り返り、今後取り組んで行くべき方向を担当教員と相談して学習の計画を立てる ・日本歌曲の学習に向け、母音の作り方、子音の捌き方、鼻濁音等の認識を深める ・ドイツ語の発音練習、殊に子音の発音と日本語には無いウムラウトの発音を念入りにレッスンに組み入れる事が望ましい
5	
6	
7	<p>【主要課題】</p> <p>前期試験に向けて自分の力に適した曲を選び学修</p> <p>【前期試験】</p> <p>制限時間6分以内ならば同一分野から複数曲を歌う事が可能 長期休暇は自主的にレパートリー開発や声楽技術習得の良い機会となる。担当教員と相談し、課題に取り組むこと。</p>
8	
9	
10	<p>【主要課題】:レパートリーを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学修して来た事を土台としてレパートリーを広げて行く。 ・日本歌曲、ドイツ歌曲に取り組む場合、詩人についての知識を深めること。 ・また、楽譜には様々な版がある。作曲者の意図が十分に研究された版を選ぶこと。 例)F.Schubert Bärenreiter 山田耕筰 春秋社 など ・オペラアリア等を学習する時には声帯に負担が掛からない様に注意が必要 ・後期試験に向けて曲を選ぶ
11	
12	
1	<p>【主要課題】:後期試験の準備と仕上げ</p> <p>常に声楽技術の基本に取り組み、いかに曲を作り上げていくかを研究する必要がある。 2年間の集大成として、取り組む。</p> <p>【後期試験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験の反省と一年の総括・春休みにはこの一年間学習して来た事を再度見直して、前回出来なかった箇所を復習、他の曲にも応用出来る様にする。
2	
3	

科目名(クラス)	声乐5・6 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	声乐科教員	実務科教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>三年次においては、ウイーン研修、学内演奏会がある。これまで重ねて来た発声の勉強をさらに充実させ、楽譜からそこに書かれた意図をくみ取り音楽の表現を広げていく。また、三年次からオペラ研究の授業が履修可能となる。アンサンブルを身に付ける為にも履修する事が望ましい。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>一年次、二年次とイタリア語、ドイツ語について歌に適した発語の基礎をの学修してきたが、三年次はその学修を更に継続、発展させ、安定した歌唱ができることを到達目標とする。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>【主要課題】:学内演奏会、ウイーン研修への準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイーン研修が前期、学内演奏会が後期に行われる。(変更もあり得る) 早くから準備を進めることが必要。どちらも暗譜となる。 ・三年次・四年次には、オペラ研究が履修可能(選択科目)。演出家、音楽スタッフ(声楽教員及びピアノ教員、ピアノ研究員)など複数の教員に寄る授業である。オペラを理解しアンサンブルを身につける為にも積極的に取り組む事が望ましい。
5	
6	
7	<p>【主要課題】:前期試験の準備と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりとした発声に裏付けられた豊かな音楽表現を目指す <p>【前期試験】</p> <p>前期試験として6分以内で曲を決める。同じ分野であれば複数曲を歌う事も可。 長期休暇は自主的にレパートリー開発や声楽技術習得の良い機会となる。担当教員と相談し、学内演奏に向けた選曲をし、課題に取り組むこと。</p>
8	
9	
10	<p>【主要課題】</p> <p>グランツァールという大ホールにおける演奏、学内演奏に積極的に取り組むこと</p> <p>学内演奏が終わるとすぐに、後期試験の準備が始まる。自分の声質や感性を担当教員と共に見極め、選曲すること。</p> <p>後期試験として6分以内で曲を選ぶ。同じ分野であれば複数曲も可</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験に選んだ曲を研究する。作曲家について、詩人について、曲の分析、詩の表現への理解などを積極的に学び、表現の充実に努める。
11	
12	
1	<p>【主要課題】:後期試験の準備と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三年次に学んだ事を振り返り、自分の持つ課題を改善して行く。 <p>【後期試験】・最終学年に向けて後期試験の課題を掘り下げて改善、次年度に繋いで行く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春休みの学習計画を立てる。 <p>最終学年に向けて、春休みにこの一年間学習して来た事を再度見直して前回出来なかった箇所を応用出来る様にする</p>
2	
3	

科目名(クラス)	声乐7・8 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	声乐科教員	実務科教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>身体が楽器である声乐はその身体が十分に成育して行くことで真の完成に近づく。大学の四年間はその道程で有り、基本を学び、卒業までに技術、音楽性、豊かな人間性を磨き、その先へと繋げて行かなければならない。四年次はこれまでの学修の総点検である。卒業試験に向けて研鑽を積み、四年間の成果を十分に発揮できるようにする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>四年次は三年間重ねて来た学習の総まとめとして、呼吸法、発声法を見直し、更に自由に表現出来る様にする。これまで学修して来た様々な言語を声楽的な表現を持って演奏表現することを到達目標とする。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<p>【主要課題】:これまでの学修内容を見直してレパートリーを広げて行く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声法、歌唱法について現在の方向を点検する。 ・技術面だけでなく音楽の内容も再確認する。 ・これまで学んでいない分野も積極的に取り組んで行く。
6	
7	<p>【主要課題】:前期試験の準備と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習して来た中で自分の長所を生かせるものを選び完成度を高めて行く。 ・夏休みの学習計画を立てる
8	<p>夏休みには四月から学習して来た曲目を再度見直し、前回出来なかった箇所を復習し他の曲にも応用出来る様にする</p> <p>【前期試験】</p> <p>6分以内で同じ分野なら複数曲も可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験での反省点と後期で取り組むべき課題の検討
9	
10	
11	<p>【主要課題】:卒業試験に向けての準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本歌曲一曲、外国歌曲一曲、オペラ、オラトリオの aria から一曲、計三曲を選び演奏に向けて取り組んで行く。12分以内に纏める。 ・卒業試験ついて曲の内容、解説、構成、分析、創作の過程、作詞者及び作曲家また歴史的、文化的背景について調べ、作品ノートを完成する。
12	
1	
2	<p>【主要課題】:卒業試験</p> <p>【卒業試験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏する各曲の言葉の意味を掴み、美しく正しい発声を持って表現を深めて行く。 ・各々の曲の持つスタイルを考察し、表現を充実させる。 ・演奏にあたり、会場の空間と響きを考えて曲の力配分を計る。 ・自分の感性、五感を演奏に反映できるよう研鑽を積む。 ・四年間の学修内容の総括及び卒業後の課題の展望。
3	

科目名(クラス)	ピアノ1・2 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>演奏をする際の姿勢及び肩・腕・手首・指などの体の使い方を確認し、無理のない自然な奏法を目指す。 ピアノ1では古典期、ピアノ2ではロマン期を中心に学ぶ。 上記課題のほか、エチュードやバロック作品を継続的に学習をする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>ピアノ1では、古典期の作品の形式・和声などの楽曲分析をすることにより、適切な表現で演奏することができる。</p> <p>ピアノ2では多様な音色、息の長いフレーズ、テンポバートなど、ロマン期の作品の特徴を理解して演奏することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>楽器の特性及び身体運動と音色の関係を理解し、演奏技術の向上を図る。 ピアノ1の試験課題である古典期の作品を学ぶ。 楽曲表現を豊かにするために、理論的なことにも目を向ける。</p>
5	
6	
7	<p>古典期の作品の形式及び和声進行などへの理解を深める。 作曲家や楽曲の背景などについての理解を深め、演奏に反映させる。</p> <p>ピアノ1の実技試験 試験を振り返る。</p>
8	
9	
10	<p>ピアノ2の試験課題であるロマン期の作品を学ぶ。 ロマン期の和声・表現法・奏法への理解を深める。 ピアノの構造と特性を理解し、楽器の変遷と楽曲の関わりについて考察する。</p>
11	
12	
1	<p>ピアノ2の実技試験 試験を振り返る。</p> <p>ポリフォニー音楽への関心を高め、理解を深める。 レパートリーを広げる</p>
2	
3	

科目名(クラス)	ピアノ3・4 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
音色に対する感覚を敏感にし、奏法との関係を考える。ピアノ3では、バロック期のポリフォニックな作品や舞曲を学ぶことにより、指の独立、声部を聴き分ける力、さまざまなリズム感等を養う。ピアノ4ではロマン期～近現代期の作品を通して、それぞれの特徴的な和声やリズム、表現法を学ぶ。コンチェルトの演奏法も学習する。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
ピアノ3ではバロック期の作品を学び、ポリフォニックな作品や古典的な舞曲を理解して演奏することができる。										
ピアノ4では、ロマン期から近現代へと幅を広げ、さらに多彩な表現法を用いて演奏することができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>ピアノ3の試験課題であるバロック期の作品を学ぶ。 楽曲理解のために、鍵盤楽器以外の作品や文献等を通じた考察をする。 楽曲分析を通して曲の構造の理解を深める。 エチュードも継続して学習する。</p>
5	
6	
7	<p>ポリフォニックな作品の演奏における技術的聴覚的コントロールを高める。 バロックダンスへの理解を深め、演奏に反映させる。 楽曲の特性を見極め、完成を目指す。</p> <p>ピアノ3の実技試験 試験を振り返る。</p>
8	
9	
10	<p>ピアノ4の試験曲の選定にあたり、さまざまな曲に触れる。 ロマン期から近現代への時代的変遷と音楽の多様性について理解する。 ピアノ1～3における学習内容を基礎として、表現の拡大を図る。</p>
11	
12	
1	<p>ピアノ4の実技試験 試験を振り返る。</p> <p>3年次における定期試験、ウィーン研修、学内演奏会等に向けた演奏の計画を立て、 学習を進める。</p>
2	
3	

科目名(クラス)	ピアノ5・6 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>定期試験、学内演奏会、ウィーン研修等の演奏機会を生かし、レパートリーを拡大すると共に、より専門的な技術及び表現法の修得を目指す。コンチェルトの演奏法も学ぶ。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>ピアノ5では、ウィーンの研修の成果を踏まえ、さらに広い視野を持って演奏を客観的にとらえられるようにする。</p> <p>ピアノ6では学内演奏会に於いての演奏を通して、聴衆とコミュニケーションをとることの意味を理解する。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<p>定期試験及びウィーン研修に向けた準備に取り組む。</p> <p>ウィーン研修において、有意義なレッスンを受けることができるよう十分に準備する。</p>
5	
6	
7	<p>ピアノ5の試験曲に対し理論的な視点からも理解を深め、演奏に反映させる。</p> <p>演奏技術の向上とともに、表現の拡大を目指し学習を進める。</p> <p>ピアノ5の実技試験 試験を振り返る。</p>
8	
9	
10	<p>学内演奏会に向けて準備をする</p> <p>ホールでの演奏を経験するとともに、ステージマナーも身につける。</p>
11	
12	
1	<p>ウィーン研修や学内演奏会の学習成果を反映させ、より完成度の高い演奏を目指す。</p> <p>ピアノ6の実技試験 試験を振り返る。</p> <p>最終学年への準備のため、レパートリーの拡大を図る</p>
2	
3	

科目名(クラス)	ピアノ7・8 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>ピアノ1～6の学習内容を基に、さらに豊かな表現力と演奏技術の向上を目指し、レパートリーの拡大を図る。 ピアノ8においては実技試験と併せて作品ノートが課せられるため、年間を通した計画を立て、それに基づいた多角的な学習が必要である。コンチェルトの演奏法も学ぶ。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>ピアノ7では、3年間で学んだ多様な技術と表現法を的確に演奏に生かすことができる。 ピアノ8では、作品ノートの作成を通して楽曲を深く理解し、演奏に反映することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による成績評価										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	技術の向上、レパートリーの拡大とともに、各時代様式に基づいた演奏法を修得する。 作品ノート作成のための準備をする。
5	
6	
7	ピアノ7の試験曲を多角的に考察し、理解を深めると共に演奏に反映する。 ピアノ7の実技試験 試験を振り返る。
8	
9	
10	ピアノ8の試験曲と作品ノート作成に取り組む。 作品ノートの内容を踏まえ、ピアノ8の試験曲における演奏の完成度を高める。
11	
12	
1	ピアノ8の実技試験 試験を振り返る。 4年間の成果を踏まえ、さらなる向上に努める。
2	
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器1・2〔弦楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	弦楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>専門的な弦楽器の演奏を目指す上で必要な、基本的奏法を確立する。 スケール・エチュードの課題を、毎日欠かさず練習する習慣を身に着ける。 楽譜に書かれていることを忠実に音に表す技術を習得する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>正しい奏法を身に付けることによって、テクニックが向上し、美しい音色で演奏することができる。 毎日の基礎練習を身に付ける。正しい楽譜の読み方ができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の奏法を見直し楽器の構え方や、姿勢、弓の持ち方、ボーイングなどで問題点があれば改善する。 ・スケール、エチュードを中心にした練習、また練習方法を学ぶ。 ・前期実技の課題である、古典期作品の選曲。
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・古典期のアーティキュレーション、フレーズの特徴を理解し、演奏法を学ぶ。 ・ピアノ(伴奏)と合せる時の心得。 ・前期実技試験。 ・夏休み中の課題の確認。
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・デダッシュやスピッカート、全弓を使う運弓など、右手の基本的奏法の見直し。 ・ポジション移動、ヴィブラートなど、左手の基本的奏法の見直し。 ・後期試験の選曲。改善点の達成を目標として取り組む。
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験での演奏の反省。 ・一年間の練習方法(時間の使い方を含む)の反省。 ・来年度の目標を具体的に考える。
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器3・4〔弦楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	弦楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>1年次で身に付けてきた奏法で、まだ足りない部分を習得する。 より高度なスケールやエチュードに取り組む。 楽譜に書かれている、細かい指示や表示を読み取る。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>スケールやエチュードの練習が、楽曲を演奏する上で、どのように役に立つかを理解できる。 楽譜に書かれている指示から、どのような表現をすればよいか、自分で考えて演奏できる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な奏法でまだ問題点があれば、引き続き改善していく。 ・スケールやエチュードを用いて、より高い技術を身に付ける。 ・表現の幅を広げる。表現方法の習得。 ・前期試験の選曲（ヴァイオリンは、クロイツェル42のエチュードから第2番と小品）
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を演奏する際に、習得した技術、表現方法をよりよく実践する。 ・弦楽器特有の音色、表現力を意識して仕上げる。 ・前期実技試験。 ・夏休み中の課題の確認。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期試験の選曲。協奏曲やソナタなど、より大きな曲に挑戦していく。 ・楽譜の読み取り方を学ぶ。作曲家の指示を注意深く読み、表現する。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験での演奏の反省。 ・自分の良点、欠点の認識。 ・来年度の計画（ウィーン研修、学内演奏会）と準備。
2	
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器5・6〔弦楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	弦楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>学内演奏会、ウィーン研修に向け、より専門的な演奏技術を習得する。学内演奏会では、聴衆の前で演奏するという自覚を持って取り組む。 ウィーン研修で、アカデミーの先生のレッスンを受ける。研修の経験を生かし、西洋音楽を演奏する際に、ヨーロッパの歴史、文化を意識するよう心掛ける。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>ウィーンでの実体験を通して得た、感覚や知識を、演奏にも反映させることができる。 楽曲の時代背景や、様式についての考察を、演奏に反映することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン研修、学内演奏会の時期を考慮し、計画的に準備を進める。 ・グランツァールで演奏することを意識し、大きなホールで演奏する際の演奏スタイル、舞台上でのマナーを学ぶ。 ・自分の好みに片寄らず、様々な時代、様式の楽曲に挑戦する。
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン滞在をきっかけに、ヨーロッパの歴史や文化に興味を持ち、曲の時代背景を学んだ上で、楽曲を理解する姿勢を身に付ける。 ・ウィーンで聴いた音楽、音を思い出し、自分の演奏に反映できるよう努力する。 ・前期実技試験。 ・コンクール、オーディションへの挑戦。
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・前期試験や学内演奏会の反省を踏まえ、自分に足りない技術や表現力を身に付ける努力をする。 ・近現代の楽曲にも取り組むとよい。 ・表現の幅を広げるために、音楽以外の分野にも目を向け、幅広い教養を身に付ける。
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験での演奏の反省。 ・学生時代に経験できることを考え、最終学年での学びに備える。 ・卒業後の進路について考える。
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器7・8〔弦楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	弦楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>卒業前にもう一度、基本的な奏法を見直す。 卒業試験に向けて、より技術・表現力を磨き、4年間の集大成となる演奏を目指す。 豊かな人間性こそ、豊かな表現が出来ることを覚え、社会へ出る前に自己の在り方について深く考える。 4年間で学んだ学術的な要素も、作品ノートに反映できるように作成する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>楽譜から読み取った情報をもとに、自分の個性を生かした表現を生み出すことができる。 その表現を音に表すことの出来る技術を身に付ける。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的奏法が身に付いているかを点検する。 ・前期試験曲、卒業試験曲を選曲する。 (卒業試験の曲は多少難しくても、自分の弾きたい曲を選ぶのもよい。) ・卒業後の進路を決め、計画的に行動する。
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的な内容にばかりとらわれず、音楽的内容についてよく考察する。 ・自分の思いや、感情を自由に音に表すことができるように、更に研鑽を積む。 ・曲全体の音楽の流れを意識し、完成度の高い演奏を目指す。 ・前期実技試験。
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の総まとめとして、学んできたこと1つ1つを演奏する際に、実践することを心掛ける。 ・作品ノートを作成する。作曲家、時代背景、楽曲分析などについて詳しく調べる。
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・卒業試験での演奏の講評と反省。 ・卒業後の演奏活動、指導活動について。 ・演奏技術を維持する方法。
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器1・2〔木管楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	木管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>管弦打楽器1・2〔木管楽器〕(1年)においては、木管楽器の専門的演奏を目指す上での基本的奏法の訓練を中心としたレッスンを行う。ロングトーンを含めたスケールとエチュードを柱にした練習方法を確立する。</p> <p>「音質、音色、音程」を整えながら「姿勢と呼吸」「フィンガリングと指の形」「アンブシュア」「タンギング」「スラー」「ビブラート」等、演奏家として将来の土台となる基本的技術を身に付け基本的感覚を養うことを目的とする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>管弦打楽器1・2〔木管楽器〕(1年)では、演奏するための基本的な「技術」「感覚」を身に付け、養うことができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
期末の実技試験による										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(今後4年間の概要、レッスン内容の説明、レッスン心得、練習方法) ・教材、参考資料の説明(スケール教本、エチュード、楽曲等の案内) ・管弦打楽器1・2[木管楽器](1年)における実技試験についての説明と伴奏者についての説明 ・基本的奏法「姿勢と呼吸」「フィンガリング」「ロングトーン」「タンギング」「スラー」「ビブラート」 ・基礎知識、楽器の種類、構造、歴史、楽器によってリードの選び方、調整法
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の「メンテナンス」楽器によってマウスピース選定 ・木管楽器1の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ ・夏期休業中実技試験の準備と仕上げ(伴奏合わせを含む) ・木管楽器1の実技試験講評、反省会、今後の課題検討 ・木管楽器2授業開始、基本奏法の整理
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・「スケール練習」の発展 例 メトロノームを使いスラーとタンギングで3度音程、アルペジオを含む練習を少しずつテンポを上げて練習 ・楽器によって「ビブラート」の研究、同属楽器奏法の研究 ・木管楽器2の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器2実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度に向け計画を立てる
2	
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器3・4〔木管楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	木管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>管弦打楽器3・4〔木管楽器〕(2年)では、1年次で勉強した基本的奏法の訓練と応用技術の研究を更に発展させたレッスンを行う。演奏に対する意識を高め、楽曲の理解を深めます。それぞれの学生の個性を大切にしつつ、良い部分は伸ばし欠点をチェックしていく。楽曲、エチュードは中級上級へとレベルアップする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>管弦打楽器3・4〔木管楽器〕(2年)では、1・2を通して身に付け、養った演奏するための基本的「技術」「感覚」を更に発展させ、中級上級レベルの楽曲、エチュードを演奏できる力を身に付けることができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
期末の実技試験による										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・アンブッシュアの点検、スラー、タンギング技術の点検 ・日々のスケール練習方法の確立、楽器によってはアーティキュレーションを工夫した3度、4度、アルペジオ練習 ・表現方法の研究・エチュード、楽曲の研究 ・吹奏感の充実と安定を目指し、音質音色を磨く ・幅広い演奏家達の演奏研究 	
5		
6		
7		
8		<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器3の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ ・夏期休業中、実技試験課題の準備と仕上げ ・実技試験課題伴奏合わせ ・木管楽器3実技試験課題の講評、反省会、今後の課題検討 ・木管楽器4授業開始、木管楽器4実技試験課題の研究
9		
10		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器によって同属楽器の奏法研究 ・楽器によって古楽器の知識と奏法研究 ・木管楽器4実技試験課題の楽曲研究と伴奏合わせ ・個人練習方法の確立、アンブッシュアの点検 	
12		
1		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器4実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度の計画を立てる 	
3		

科目名(クラス)	管弦打楽器5・6〔木管楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	木管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
管弦打楽器5・6〔木管楽器〕(3年)においては、1・2年次に進められてきた(基本奏法と応用技術)を更に発展させてレッスンを行う。学内演奏会やウィーン研修に向けての準備を大切にし、ウィーン研修の経験を後の学習に役立ててください。また楽器によっては「ジャズ」「ポピュラー」の演奏表現も取り入れていく。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
管弦打楽器1・2・3・4〔木管楽器〕1・2年において身に付け養ってきた演奏技術や基本奏法を発展させ、学年演奏会やウィーン研修において実践することができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
期末の実技試験による										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・基本奏法と応用技術を更に発展させるための練習方法の確立 ・学内演奏会、ウィーン研修のための楽曲研究 ・楽器によって同属楽器演奏技術の研究
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器5の実技試験課題の楽曲研究と伴奏合わせ ・夏期休業中の実技試験準備と仕上げ ・木管楽器5の実技試験の講評、反省会 ・木管楽器6の授業開始、木管楽器6の課題検討と課題曲研究
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器によってジャズ、ポピュラー音楽奏法研究 ・楽器によって特殊奏法の研究 ・木管楽器6の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器6の実技試験講評、反省会、グループ討論 ・学内演奏会、ウィーン研修等を含めた1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度の計画を立てる
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器7・8〔木管楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	木管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>管弦打楽器7・8〔木管楽器〕(4年)では、これまで3年間勉強してきた奏法、応用技術等の演奏技術の確立を目指し、卒業試験に向けて演奏するための総合力を高める。 「作品ノート」(作曲家についての時代背景、楽曲分析等)を作成し、芸術性の幅を広げた演奏を目指す。 コンクールやオーディションにもチャレンジして欲しい。そして指導者としての能力を修得することも大切な目的の一つである。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>これまで1年から4年まで身に付け養ってきた演奏するための総合力を確立し、卒業試験を含む演奏の場で実践することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
期末の実技試験による										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・奏法全般の総点検 ・指導法研究(Ⅰ期) ・コンクール、オーディション対策 ・木管楽器7の実技試験課題の楽曲研究
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器7の課題曲、伴奏合わせ ・木管楽器8の卒業試験課題楽曲を決め、「作品ノート」作成準備 ・夏期休業中の木管楽器7の課題曲仕上げ、伴奏合わせ ・木管楽器7の実技試験講評、反省会 ・木管楽器8の授業開始、指導法研究(Ⅱ期)
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクール・オーディション対策 ・「作品ノート」作成状況チェック ・木管楽器8(卒業試験)の課題楽曲研究と伴奏合わせ ・指導法研究(Ⅲ期)
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器8(卒業試験)の講評、反省会、グループ討論 ・4年間の点検と評価 ・卒業後の演奏活動と指導活動に対する考え方と心構え ・卒業後の課題を検討する
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器1・2〔金管楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	金管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>1年次においては、基礎奏法、及び応用技術の修得を中心にレッスンを行います。 「姿勢」「呼吸法」「リラクゼーション」「アンブシュア」「フィンガリング」「スロート・コントロール」「リップ・フレキシビリティ」「レンジ」「エンデュランス」「アーティキュレーション」など、演奏の土台となる基本テクニックを確実に身につけることを最大の目的とする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>金管楽器の基礎奏法、応用技術が身についている。 演奏能力が向上している。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験における成績100%										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス (概要説明、レッスン内容説明、レッスン心得、教材・参考資料の説明・案内等) ・基礎奏法 (姿勢、呼吸法、楽器の構え方、ロングトーン、リップ・スラー、タンギング等) ・基礎知識(楽曲、教本、楽器、楽器の歴史等)
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・前期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・名演奏家の演奏研究(I期) ・前期実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎奏法(アンブシュア、フィンガリング、フレキシビリティ、インターヴァル、グルペット、リラクゼーション、スロート・コントロール、エンデュアランス等) ・基礎知識(楽曲研究、楽器のメンテナンス等) ・学年末実技試験のための楽曲研究
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成
2	
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器3・4〔金管楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	金管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>2年次においては、1年次に引き続き、基礎奏法に修得を中心にレッスンを行う。 そして、それを更に発展させた「応用技術」の修得にも目を向けていく。 「インターバル」「レンジ」「エンデュランス」「アーティキュレーション」などのレベル・アップを目指します。 3年次生になったとき、コンチェルトなどの演奏がよりクオリティーの高いものになることを目標とする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>金管楽器の基礎奏法、応用技術が身についている。 演奏能力が向上している。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験における成績100%										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・響き、音色、音質等の研究 ・名演奏家の演奏研究(Ⅱ期) ・表現様式の研究 ・アンサンブル・スタディー(Ⅰ期) ・スケール・アルペジオの総点検 ・トランスポジションの修得(Ⅰ期)
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・前期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・メソッド、エチュード研究(Ⅰ期) ・前期実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ・スタディ(Ⅰ期) ・古楽器の知識と奏法研究(Ⅰ期) ・吹奏楽スタディー(Ⅰ期) ・特殊奏法の研究(Ⅰ期) ・デイリー・トレーニングの確立 ・学年末実技試験のための楽曲研究
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・2年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成
2	
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器5・6〔金管楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	金管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>3年次においては、「基礎・応用技術」の更なる修得に加え、「トランスポジション」「オーケストラ・スタディー」などの項目も更に強化していく。また、「チャーチ・モード」を加え、スケール枠を広げていく。更に、この楽器の演奏カテゴリーを考慮し、「ジャズ」「ポピュラー」の演奏表現方法も、希望する学生には取り入れていくものとする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>金管楽器の基礎奏法、応用技術が身についている。 演奏能力が向上している。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験における成績100%										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・学内演奏会、ウィーン研修のための楽曲研究 ・チャーチ・モードの修得と和声への対応 ・アンサンブル・スタディー(Ⅱ期) ・オーケストラ・スタディー(Ⅱ期) ・トランスポジションの修得(Ⅱ期)
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・前期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・指導法研究(Ⅰ期) ・コンクール、オーディション対策(Ⅰ期) ・前期実技試験
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽スタディー(Ⅱ期) ・ジャズ、ポピュラー音楽、基礎奏法研究 ・特殊楽器の基礎奏法の研究(Ⅰ期) ・特殊奏法の研究(Ⅱ期) ・オーケストラ・スタディー(Ⅲ期)及び、トランスポジションの修得(Ⅲ期) ・学年末実技試験のための楽曲研究
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・3年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器7・8〔金管楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	金管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>最終年次においては、これまで培ってきたものを確実に修得し、国内で開催されているコンクールやオーディションにチャレンジできるようなレベルを目指します。 又、演奏能力の向上とは別に、指導者としての資質を向上させる。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>演奏能力が向上している。 指導者としての資質が向上している。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験における成績100%										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ・スタディー(Ⅳ期) ・吹奏楽スタディー(Ⅲ期) ・アンサンブル・スタディー(Ⅲ期) ・指導法研究(Ⅱ期) ・コンクール・オーディション対策(Ⅱ期) ・メソッド・エチュード研究 	
5		
6		
7		
8		<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・前期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・特殊楽器の基礎奏法研究(Ⅱ期) ・古楽器の知識と奏法研究(Ⅱ期) ・前期実技試験
9		
10		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法研究(Ⅲ期) ・コンクール・オーディション対策(Ⅲ期) ・オーケストラ・スタディー(Ⅴ期) ・吹奏楽スタディー(Ⅳ期) ・アンサンブル・スタディー(Ⅳ期) ・卒業実技試験のための楽曲研究 	
12		
1		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・4年間の点検と評価 ・卒業後の演奏活動、指導活動に対する基本的コンセプトの確立 	
3		

科目名(クラス)	管弦打楽器1・2〔打楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	打楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>基本的な奏法や演奏技術を確実に身に付けるため、各人のレベル、状況に即したレッスンを段階的に行なっていく。また、大学生活における悩み、相談などマンツーマンのアドバイスをを行う。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>「音楽を自らの言葉で語る(語れるようになる)」ことを目標とし、その目標達成の第一歩として、基本奏法や演奏技術を確実に身につける。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技定期試験による評価を主なものとするが、その際、日頃のレッスン、実技試験へ向けての取り組み姿勢についても考慮の対象とする。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス ○脱力と演奏時の体の使い方について習得する ○小太鼓、鍵盤楽器の基本奏法の習得→初級エチュードを使って正しいフォームを学ぶ。 ○前期試験曲の決定、指導
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ○基本奏法の確立と楽曲への応用① →初級エチュードに加え、楽曲演奏の中での基本奏法の応用について学ぶ。 ○前期試験の講評、及び課題提示
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ○基本奏法の確立と楽曲への応用② →自らの課題をふまえた選曲を行ない、その楽曲への取り組みの中で基本奏法の確立、応用についてさらに追求し、音楽表現を深める。 ○後期試験曲の決定、指導
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○後期試験の講評と課題提示 ○次年度への目標提示 ○自主公演に向けての指導、補佐 ○1年間の総括
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器3・4〔打楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	打楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>「いかに音楽的に奏するか」をテーマに、個々の楽器の奏法を習得、同時にオーケストラ・スタディを教材に用いて、楽曲の一部である打楽器パートがいかにして楽曲全体を音楽的に拡大し彩ることができるのか、打楽器の本質的な可能性について学ぶ。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>○様々な打楽器についての基本奏法を習得し、かつそれらが音楽的な演奏となるような技術を身につける。 ○楽曲全体の中での打楽器の役割について、音楽やその楽曲の場面ごとに求められるものを楽譜から読み取り、音楽から感じ取れるようになる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技定期試験による評価を主なものとするが、その際、日頃のレッスン、実技試験へ向けての取り組み姿勢についても考慮の対象とする。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス ○小太鼓・鍵盤楽器の基本奏法の充実(各自の実力に応じたエチュード、楽曲を使用) ○ティンパニを含む打楽器全般に関する知識と奏法の習得(初級エチュードを使用) ○前期試験曲の決定、指導
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ○小太鼓・鍵盤楽器にについて、より自由な音楽表現を目指す＝基本奏法、技術習得の追求 ○ティンパニを含む打楽器全般の音楽表現について学ぶ＝オーケストラ・スタディを使用して奏法、技術を習得する。 ○前期試験の講評、及び課題提示
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ○前述の楽器レッスンに加え、マルチパーカッション楽曲について学ぶ。 ○後期試験曲の決定、指導
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○後期試験の講評と次年度への目標、課題提示 ○自主公演に向けての指導、補佐 ○1年間の総括
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器5・6〔打楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	打楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽表現の手段として扱える楽器の幅を広げることで(ラテン楽器・特殊楽器etc)レパートリーを増やし(マルチパーカッション楽曲、アンサンブル楽曲)自分の言葉で音楽することへの更なる追求の1年とする。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>○扱える楽器の幅を広げ、レパートリーを増やす。 ○自分の言葉で音楽するための研鑽を継続する。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技定期試験による評価を主なものとするが、その際、日頃のレッスン、実技試験へ向けての取り組み姿勢についても考慮の対象とする。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス ○多種楽器を使用したマルチパーカッション楽曲を題材に、難易度の高い楽譜の読み方を学び、効率的なセッティング、奏法等を研究しながら、より広い視野をもって曲に取り組む機会をもつ ○前期試験への取り組みと目標→試験曲の決定・指導
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ○オーケストラ・スタディ(Percussion)に取り組むことで、より高い技術習得がより深い音楽表現を生み出すことを学ぶ。 ○ミニ・コンサートを実施し、演奏者、舞台人としての意識をもった演奏を経験する。 ○前期試験の講評、及び課題提示
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ○定期公演での発表、魅力あるプログラミングの実現を目標に、 <ul style="list-style-type: none"> ①複数名での演奏について学びながら、アンサンブル技術の向上を目指す。 ②各種打楽器(ラテン楽器・特殊楽器等)の知識と奏法を習得する。 ○後期試験曲の決定、指導
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○後期試験の講評と次年度への目標、課題提示 ○自主公演に向けての指導、補佐 ○1年間の総括
3	

科目名(クラス)	管弦打楽器7・8〔打楽器〕 【教職実践専攻の音楽実技を含】			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	打楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>入学時に掲げた目標であり、この授業(レッスン)の継続的なテーマともいえる「音楽を自らの言葉で語ること」を、今一度あらゆる方向から深め、充実させるためのまとめの1年とする。同時に大学最終学年ということで、各自の卒業後の進路をも見据えたレッスン内容を検討しつつ進行する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>○音楽を自らの言葉で語るためのあらゆる方策を醸成することができる。 ○卒業後の進路について、ある程度の方針決定することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技定期試験による評価を主なものとするが、その際、日頃のレッスン、実技試験へ向けての取り組み姿勢についても考慮の対象とする。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										
担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス ○内外コンクール、オーディションへ向けた指導(希望者) ○各自の将来検討に即した情報提供及び指導 ○前期試験の決定→内外コンクール・オーディション情報を参考に相応レベルの選曲とする
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ○オーケストラ・スタディ習得の充実 ○将来に向けてのより具体的な検討を意識し、客観的な実力の認識を深めることを目的とした試みとして、プロ・オーケストラのリハーサルや本番を見学した上でのレポート提出または面談形式の口頭報告を課す。 ○前期試験の講評
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業試験にむけての課題提示、曲目検討、指導 ○作品ノート提出に向けてのアドバイス ○各自の進路を意識したより具体的な取り組み
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業試験 ○卒業後の進路全般に対するアドバイス ○自主公演に向けての指導、補佐 ○4年間の総括
3	

科目名(クラス)	作曲1・2			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	音楽創造教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・和声学の能力を向上させ、理解を深める。 ・ピアノによる小品あるいは形式に沿った楽曲を創作する。 ・内容的には特に指定はしないが、個性を充分生かして創作することが望ましい。 ・パソコンによる音源作成、譜面入力スキルを習得する。 										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・和声と形式の研究を通して、ピアノ曲を制作することができる。 ・簡単な3部形式からソナタ形式までを理解し実習に役立てることができる。 ・映像、ゲームなど具体的なイメージを音楽に反映させることができる。 										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
作曲個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
試験(作品提出)による										
テキスト(参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・和声能力の確認と課題の実習 ・形式の研究(年間通して) ・ピアノ曲の研究 ・パソコンによる音源作成、譜面入力の実習 I
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・和声学課題の実習 ・パソコンによる音源作成、譜面入力の実習 II
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・和声学課題の実習 ・ピアノ曲の制作(提出作品) ・パソコンによる音源作成、譜面入力の実習 III
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品の制作及び提出、演奏試験
2	
3	

科目名(クラス)	作曲3・4			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	音楽創造教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・和声学の能力を高める。 ・実践的な対位法を学び、制作する室内楽への応用を試みる。 ・ピアノと管楽器または弦楽器または打楽器との二重奏の制作。 ・パソコンによる音源作成、譜面入力スキルを習得する。 										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・和声の実習及び対位法の研究を通して、ピアノとソロ楽器によるデュオ作品の制作を目的とする。 ・場合によってはトリオから弦楽四重奏まで拡張しても良い。 ・映像、ゲームなど具体的なイメージを音楽に反映させることができる。 										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
作曲個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
試験(作品提出)による										
テキスト(参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・和声課題の実習 ・室内楽の研究(1) ・対位法楽曲の研究(1) ・パソコンによる音源作成、譜面入力の実習 I
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・和声課題の実習 ・室内楽の研究(2) ・対位法楽曲の研究(2) ・パソコンによる音源作成、譜面入力の実習 II
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・和声課題の実習 ・提出作品の制作(ピアノとのデュオ) ・対位法楽曲の研究(3) ・パソコンによる音源作成、譜面入力の実習 III
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品の制作および提出
3	

科目名(クラス)	作曲5・6			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	音楽創造教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>・声の入る自由な室内楽曲の制作。 ・自作・あるいは任意の楽曲のオーケストラ、または吹奏楽へのアレンジの研究、さらにそのアレンジの譜面作成、音源制作のスキルを取得する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>人の声の持つ魅力を引き出しながら楽曲が作れる。 アレンジとオーケストレーションの実践力をつける。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
作曲個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
試験(作品提出)による										
テキスト(参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度な和声学課題の実習(1) ・声楽曲の研究(1) ・パソコンによる音源作成、譜面入力の実習 I
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度な和声学課題の実習(2) ・声楽曲の研究(2) ・声の入る自由な室内楽の制作、提出および演奏試験 ・パソコンによる音源作成、譜面入力の実習 II
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・スコアリーディングとオーケストレーション実習 ・パソコンによる音源作成、譜面入力の実習 III
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストレーション実習および提出
3	

科目名(クラス)	作曲7・8			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	音楽創造教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>・曲の形態、編成などに制限はないが、オーケストラを伴う作品が望ましい。</p> <p>・4年間の集大成ともいべき作品であるから、作曲家としての自覚、力量を十分に発揮することが求められる。</p> <p>・パソコンによる譜面、音源作成の技術をより深く身につける。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>オーケストラ、あるいは吹奏楽の大規模な作品にチャレンジできる。</p> <p>どれだけ自分のイメージをスコアに反映させられるか、4年間の思いをぶつけて曲を作る。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
作曲個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
試験(作品提出)による										
テキスト(参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・和声学、対位法の総合的課題の実習 ・卒業作品の検討及び制作開始 ・現代音楽の研究 ・DTMによるスキルの完全研究Ⅰ
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業作品の制作開始 ・DTMによるスキルの完全研究Ⅱ
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業作品の制作 ・DTMによるスキルの完全研究Ⅲ
11	
12	
1	卒業作品の提出
2	
3	

科目名(クラス)	メディアデザイン演習7・8 (実習を含む)			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	難波 研	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
『現代の音楽制作に必要な知識・スキルの再確認と応用』として、卒業制作に向けて今までに学んできた知識、必要な知識を再確認し、自らの作品制作をより豊かにするとともに、卒業後にジャンル問わず即戦力たりうるスタジオスタンダードのスキルを身につける。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
これまでの授業内で学んできたことを踏まえ、卒業後「即戦力」として業界で活動できるだけの知識をつける。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
生徒自身の要望を元に構成した座学中心のレッスンをを行い、必要に応じて特別授業を行う。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
業界標準の知識を得た先に自らが作品内に於いてどのようなセカイを構築したいか？明確なヴィジョンがあるか？										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
生徒自身の要望を元に制作した工程表に基づきスケジュールを作成、制作進行し、各種提出課題(含卒業制作)の内容を含めて総合的に成績評定を行う。										
テキスト (参考資料)	中世・ルネサンスの音楽 (講談社学術文庫) 宇宙が教える人生の方程式 (幻冬舎)…必要に応じて追加あり。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(12 時 30 分 ~ 14 時 00 分)										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	業界標準の知識・スキルの再確認 ・業界最先端で活動する音楽家を迎えて業界の最新情報を学ぶ(2~4名予定) ・現代音楽の基礎知識(楽器法、管弦楽法、各種先端作曲技法、1970年代以降の現代音楽概要) ・ポップス、劇伴、ゲームミュージック作曲概論(含スタジオワークの基礎知識) ・2020年における世界的音楽展望 ・創作と文化の繋がり概説(ルネサンス音楽、天文学、魔術等と創作・作曲行為の繋がりについて)
6	
7	卒業制作へ向けて
8	・歴史上重要な音楽作品研究(シマノフスキ〜チャリノー周辺まで) ・メディア・アートと現代音楽の関わりについて ・特殊技法、電子楽器を含むオーケストレーションについて
9	・実制作に向けたプラン作り、工程表の作成
10	
	卒業制作へ向けて -2
11	・スケッチ、ラフの提出 ・制作状況に応じてリテイク、リスケ等制作実務を行う ・現代の音楽家に求められる自己プロデュース能力について(SNS、WebSite、即売会や流通形式まで)
12	
1	
	卒業制作へ向けて -3
2	・最終制作物の確認、提出(修正点がある場合はリテイク含む) ・2021年の音楽展望 ・四年間を通じてのまとめ、未来に向けたビジョンの提示。
3	

科目名(クラス)	音楽療法1・2-1			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	平田 紀子	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
音楽療法の実践に必要なピアノ、歌唱、即興を含む器楽演奏、読譜の技術(例:初見演奏、コード伴奏)など等の基本を習得し、実技の基礎能力の向上を目指す。同時に、臨床現場で多く使われる音楽や曲のレパートリーを身につける。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
コードネーム(メジャーコード、マイナーコード、7th)を即座に読み、その楽曲に合った伴奏パターンをピアノで演奏することができるようになる。対象者への適切な歌唱・合奏のアレンジ、表現に応じて即興的な対応ができるようになる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
グループレッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
学期末に行う実技試験(音楽療法で使用する歌唱のための曲の伴奏の演奏、音楽療法の実践場面を想定した即興演奏)、および音楽療法用の楽曲を創作・編曲した作品の提出したものの平均点を算出し、成績評価を行なう。										
テキスト(参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、クラス分け ・コードネームの読み方 ・コード進行の平易な歌から始め、基礎的伴奏パターンを学習する
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・コード進行のより複雑な楽曲へと、徐々に枠を広げていく ・音楽療法のセッションで必須のレパートリーを重点的に取り上げ、演奏可能にする ・先読み、リードの技術を学ぶ
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・即興演奏の体験 ・合奏のアレンジ ・音楽療法用に創られた楽曲の体験、および指揮の技術を学ぶ
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱伴奏のまとめ ・音楽療法で用いるためのアレンジ、楽曲の創作
3	

科目名(クラス)	音楽療法1・2-2			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	高畑 敦子	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽療法の実践において、セラピストは多くの場合、ピアノやギター等の伴奏楽器を使用します。対象者のニーズに合った支援をするために、伴奏楽器の技術習得や向上はとても大切です。対象者のニーズは多岐に渡り、それぞれに柔軟に対応する必要がありますからです。本授業では、伴奏楽器のひとつであるギターの基本的な演奏法を習得し、ギターを用いた音楽療法の実践に向けた基礎を確立します。また、ウクレレやオートハープの基礎的な演奏法も併せて習得し、実践の幅を広げていきます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>音楽療法で使用される曲をアルペジオまたはストロークによる奏法で演奏できる技術を身につける。同時に、弾き歌いの技術も身につける。毎回出す課題曲を練習すること。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
グループレッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>毎回の授業の積極性、課題の克服の度合い(15%) 学年末試験による演奏技能(85%)</p>										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	ギターに関する基礎知識。 コードの押さえ方とストロークやアルペジオ奏法の習得。 課題曲の練習。
5	
6	
7	弾き歌いの技術の習得。 実際のセッション場面を想定したグループワーク。 課題曲の練習。
8	
9	
10	前期で習得したギター技術の維持および向上(レパートリーを増やす)。 ウクレレ、オートハープに関する基礎知識。 ウクレレ、オートハープのコードの押さえ方とストローク奏法の習得。 課題曲の練習。
11	
12	
1	ギター、ウクレレ、オートハープ全てを含めて、実際のセッション場面を想定したグループワーク。
2	
3	

科目名(クラス)	音楽療法3・4-1			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	二俣 泉	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>ピアノ・キーボードによる歌唱伴奏の技術、即興演奏の技術、および音楽療法で用いられる様々な楽曲(合奏、身体運動、あいさつ、発声・発語・数概念・コミュニケーション技能を学ぶために創られたもの)を体験し、また創作することを学ぶ。くわえて、音楽を介して対象者とのかかわりを築き、深めるためのコミュニケーション技能(視線の使い方、声の出し方、必要に応じたプロンプトの使用など)についても体験的に学ぶ。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>コードチェンジが頻繁な曲でも、その楽曲に合った伴奏パターンをピアノで演奏することができる。対象者の即興的な楽器演奏に対して、長調・短調、ブルース、スペイン風、無調の即興演奏ができる。また、対象者のニーズや特徴に合わせたオリジナルの曲が創作できる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
グループレッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
学期末に行う実技試験(音楽療法で使用する歌唱のための曲の伴奏の演奏、音楽療法の実践場面を想定した即興演奏)、および音楽療法用の楽曲を創作・編曲した作品の提出したものを、複数の教員で採点し、その平均点を算出し、成績評価を行なう。										
テキスト(参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・長調・短調の音楽による即興 ・スペイン風の音楽による即興 ・複雑なコード進行のポピュラー音楽の伴奏技術 ・多様なリズム・パターン(8ビート、3連ロック等)による伴奏”
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・全音音階による即興 ・ジャズ・ブルース風の音楽による即興 ・ラテン風(タンゴ、サンバ等)の音楽による即興 ・対象者の状態、グループ・サイズに合わせた伴奏法”
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法用のあいさつの曲の体験と創作 ・音楽療法の合奏の曲の体験・指揮の技術の学習・創作 ・身体運動を促すための曲の体験・創作”
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・発声・発語・数概念・コミュニケーションを促進するための楽曲の体験・創作
3	

科目名(クラス)	音楽療法5・6ーab			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	木下 容子 平田 紀子	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>学内実習発表に向けての研究に取り組む。また、講義の時間外に実施される音楽療法実習(主に大学外)に取り組む。講義においては、理論・技術を実践にどう生かすかについて、ディスカッションを通して検討する。毎回の実習では、実習前後に現場のスーパーバイザーからの指導があり、講義内でも実習についての指導が行われる。以上のように、音楽療法の学術的な力と実践力の双方を身につける。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>学内実習発表のための研究を通して、研究活動の意義を知り、データ収集・分析・説得力ある記述のための基礎技術を身につけることができる。音楽療法の実習では、対象者の理解、伴奏、対象者のリード、即興、対象者との関係の構築など、音楽療法実践に関わる基礎技術を身につけることができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
グループレッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
学生が行なう現場での実習について、各実習場所の複数の指導教員・現場指導者による採点の平均点をもって成績評価とする。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での問題を洗い出す(自身の心理的課題、チームワークなど人間関係の問題、音楽技術、対人技術、必要な知識の不足等) ・問題の解決に向けての方策を教員、クラスメイトとのディスカッションを通じて見出す
5	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・学内実習発表のテーマの選定 ・対象者のニーズとその解決のための介入方法の選択について
7	
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・学内実習発表レポートの作成 ・チームワークを高めるための配慮について ・伴奏、即興、楽曲創作、リードの技術を高める
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・学内実習発表レポート仕上げ ・プレゼンテーション準備 ・実習で学んだことをまとめる
2	
3	

科目名(クラス)	音楽療法7・8(実習を含む)		開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4		
担当教員	木下 容子 平田 紀子	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
卒業論文発表に向けての研究に取り組む。また、講義の時間外に実施される音楽療法実習(主に大学外)に取り組む。講義においては、理論・技術を実践にどう生かすかについて、ディスカッションを通して検討する。毎回の実習では、実習前後に現場のスーパーバイザーからの指導があり、講義内でも実習についての指導が行われる。以上のように、音楽療法の学術的な力と実践力の双方に身につけ、高めていく。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
各自の研究テーマを確立し、卒業論文を仕上げプレゼンテーションすることができる。実習では、前年度までに体験し学んだ臨床知識、技術をさらに高めることができる。またそれらを社会生活に活かせる展望が得られる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
グループレッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
各課題やレポート、授業や実習への積極的な取り組みの姿勢、実習点数を総合して評価する。実習点数は、各実習場所の指導教員・現場指導者による採点の平均点をもって成績評価とする。										
テキスト(参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ知識や技術を振り返り、不足の部分を確認、再学習する。 ・卒業研究のテーマを模索する。 ・研究テーマに関連する先行研究を調べる。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究に関する文献を整理し、構成を考える。研究の序論を完成させる。 ・実習における、対象者のニーズに応じた介入方法、音楽的技術を磨く。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究中間発表の準備をし、まとめる。 ・実習技能の研鑽を引き続き行う。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を完成させ、発表する。 ・実習に関してのまとめ、振り返りをする。
2	
3	

科目名(クラス)	副科ピアノ I A/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>ピアノ演奏は、音楽の基礎的総合的な技能を獲得する上でたいへん重要なものである。各自の専門分野において音楽を構築する際にも十分寄与するであろう。副科ピアノ I は基礎的な奏法を中心に学習する。 試験に備え、日頃より暗譜で演奏することを心がける。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>I Aは、ピアノを弾く正しい姿勢と体・手の使い方を確認し実践できるようにする。 I Bは、ピアノの構造を理解した上で基礎的な奏法を身につける。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	ピアノを演奏するために、正しい姿勢などの基礎を学ぶ。 正確な譜読みと適切な運指を学習する。
5	
6	
7	基礎的な演奏技術を学ぶ。 副科ピアノ I Aの実技試験 試験を振り返る。
8	
9	
10	ピアノの構造を理解し、ペダルの使い方を学ぶ。 さらに演奏技術を向上させる。
11	
12	
1	副科ピアノ I Bの実技試験 試験を振り返る。
2	
3	

科目名(クラス)	副科ピアノⅡA/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>副科ピアノⅠで学んだことを基にさらに発展させた学習をする。 ピアノの演奏技術の基本を確認し、定着させる。 試験に備え、日頃より暗譜で演奏することを心がける。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>ⅡAでは、ピアノを演奏する基本的な技術を身につけている。 ⅡBでは、ⅡAで学んだ演奏技術をさらに発展させている。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	副科ピアノⅠをふり返る。 正確な譜読みと適切な運指を学習する。 技術的問題点を抽出し、克服する。
6	
7	
8	演奏表現に必要な技術を習得する。 実技試験に向けてより、向上するよう努める。 副科ピアノⅡAの実技試験 試験を振り返る。
9	
10	
11	正確な譜読みと適切な運指を学習する。 技術的問題点を抽出し、克服する。
12	
1	
2	実技試験に向けて、完成度を上げる。 副科ピアノⅡBの実技試験 試験を振り返る。
3	

科目名(クラス)	副科ピアノⅢA/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
副科ピアノⅡで学んだことを踏まえて、更に発展させる。 フレージング、アーティキュレーション、和声進行などに留意し、高度な演奏表現を目指す。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
ⅢAでは、Ⅰ・Ⅱで学んだ演奏技術を生かせるようにする。 ⅢBでは、時代様式を踏まえた的確な演奏ができるようにする。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	副科ピアノⅠ・Ⅱをふり返る 正確な譜読みと適切な運指を学ぶ。
5	
6	
7	時代様式を踏まえた表現法を学習し、演奏の質を高める。 副科ピアノⅢAの実技試験 試験を振り返る。
8	
9	
10	正確な譜読みと適切な運指を学習する。 さまざまな時代様式を学ぶ。
11	
12	
1	副科ピアノⅢBの実技試験 試験を振り返る。
2	
3	

科目名(クラス)	副科ピアノⅣA/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	ピアノ科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
副科ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲで学んだことを、さらに発展させる。 音楽を総合的な観点から捉え、バランスの良い完成度の高い演奏を目指す。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
副科ピアノⅣAでは、さまざまな時代の表現法を理解している。 副科ピアノⅣBでは、専攻実技やアンサンブルにピアノ演奏で学んだことを生かすことができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲの学習内容をふり返る。 基本の技術を定着させる。
5	
6	
7	学んだことを整理し、演奏に反映させる。。 副科ピアノⅣAの実技試験 試験を振り返る。
8	
9	
10	作品を分析及び作曲家・時代背景などから多面的にとらえ、演奏に反映させる。 さらに技術の向上に努める。
11	
12	
1	副科ピアノⅣBの実技試験 試験を振り返る。
2	
3	

科目名(クラス)	副科声楽 I A/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	声楽科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>声楽における基礎的な体の使い方、呼吸法また発声の基礎を学修する。言葉を伴う声楽の特質性を知り、詩の意味を深め、歌唱に活かせる様に取り組む。教職課程履修者は指導現場で必要となる発声基礎を習得する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>一年間を通じてイタリア歌曲を教材として学び、歌唱に適した立ち方、体の使い方を身に付けることが出来ることを到達目標とする。また、子音と母音を綺麗に発語出来ること、イタリア語の読み方を身に付けることが出来ることを到達目標とする。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
授業に取り組む受講姿勢、声楽に関する知識、技能の到達度を総合的に評価する。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	【主要課題】 声楽の基本である呼吸法の理解、発声練習で姿勢、腹式呼吸、口の使い方を確認・練習曲(コンコーネ等)を中心に体の使い方、声の出し方の確認をしながら歌う。
6	
7	
8	【主要課題】 重ねて練習して来た発声の基礎を充実させる。 ・イタリア歌曲を学び、詩への理解とイタリア歌曲の発音に取り組む。 ・夏休みの学習計画を立てる。 ・4月から学んで来た発声、練習曲、イタリア歌曲を再度見直しておく。
9	
10	
11	【主要課題】 詩の意味を汲み取り歌唱力を高める。 ・声楽に不可欠な詩の意味を租借して歌唱する。
12	
1	
2	【主要課題】 前期で学んだ呼吸法、発声法をさらに深める。 ・旋律と詩を融合させレガートに歌う事を学ぶ。
3	

科目名(クラス)	副科声楽ⅡA/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	声楽科教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
副科声楽Ⅰで学んだ事を継続し、呼吸法、発声法の学習を進め表現力を習得する。イタリア歌曲だけでなくドイツ語、日本歌曲等、個人のレベルに合わせて取り組んで行く事も望ましい。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
一年間学んで来た事を更に継続して安定した歌唱法を身に付けることを目標とする。さらに、レガート唱法、言葉の持つ意味合いを意識して歌うことを学び、声楽技術・表現を理解し指導できることを目標とする。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
授業に取り組む受講姿勢、声楽に関する知識、技能の到達度を総合的に評価する。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<p>【主要課題】 レガート唱法を身に付ける。 ・練習曲の母音唱法をイタリア歌曲に活かしレガート唱法を学習する。</p>
6	
7	
8	<p>【主要課題】 イタリア歌曲以外の外国歌曲また日本歌曲の学習により多くの曲を知る。 ・個々の力に応じてイタリア歌曲以外の外国歌曲や日本歌曲の学習により多くの曲を知る。 ・夏休みの学習計画を立てる。 夏休みにはこれまで学んで来た発声、練習曲、歌曲を見直しておく。</p>
9	
10	
11	<p>【主要課題】 詩の意味を汲み取り歌唱力を高める。 ・声楽に不可欠な詩の意味を租借して歌唱する。</p>
12	
1	
2	<p>【主要課題】 二年間のまとめをする。 ・二年間学んで来た作品の復習。 ・この2年間で習得した声楽技術は、歌う習慣を続けることで技術の維持・向上に繋がることを理解する。</p>
3	

科目名(クラス)	副科管弦打楽器 〔弦楽器〕I A・B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	弦楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>弦楽器の音色は大変美しく、多くの人に愛されている。 美しい音色を鳴らすためには、正しい奏法を身に付けなければならない。 基本的奏法を学び、きれいな音、正しい音程を作れるようにする。 「音を作る、音程を作る」という行為は、音を注意深く聴く習慣ができ、専門楽器の演奏の向上にもつながる。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
正しい楽器の構え方、正しい弓の持ち方を身に付ける。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者 基本的な奏法の習得。 ・経験者 基本的奏法の見直し。 ・各自それぞれの能力にあった楽曲を学習する。 ・前期実技試験の曲を決める。
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験。 ・夏休み中、前期で学んだことを忘れないように練習する。
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に沿って、新しい技術を身に付ける。 ・楽器の特性を理解する。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ伴奏と合わせ、基本的なアンサンブルを経験する。 ・後期実技試験。 ・試験の結果を踏まえ、改善点を確認する。
3	

科目名(クラス)	副科管弦打楽器 〔弦楽器〕ⅡA・B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	弦楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
副科Ⅰに引き続き、更に基本的奏法の習得に重点を置く。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
美しい音程感覚を身に付けることができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・悪い癖が付いていないか点検し、正しい姿勢、フォームを身に付ける。 ・それぞれの能力にあった楽曲を学習する。 ・前期実技試験の曲を決め、取り組む。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器特有の音程のとり方、作り方を学ぶ。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に従い、更に技術を高める。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験結果を踏まえ、改善点を確認する。
2	
3	

科目名(クラス)	副科管弦打楽器 〔弦楽器〕ⅢA・B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	弦楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>強弱をはじめ、楽譜に書いてある表現が、出来るようになる方法(技術)を学習する。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>楽譜に書いてある指示を、音に表すことが出来る。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の欠点を認識して、改善に努める。 ・それぞれの進度に応じて、ポジション移動、ヴィブラートを学ぶ。 ・前期実技試験の曲を決め、取り組む。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専門楽器と、弦楽器の表現方法の違いを認識する。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に従い、更に技術を高める。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。 ・学習してきた様々な表現方法を実践する。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験結果を踏まえ、改善点を確認する。
2	
3	

科目名(クラス)	副科管弦打楽器 〔弦楽器〕ⅣA・B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	弦楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>更に難しい曲に挑戦していく。 弦楽器は、室内楽・弦楽合奏・オーケストラなどの合奏を楽しむことができる。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>自分が弾きたいと思う曲を演奏できるようになる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の欠点を認識して、改善に努める。 ・それぞれの進度に応じて、ポジション移動、ヴィブラートを学ぶ。 ・難しい楽曲へ挑戦していく。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現方法を学習する。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の試験に向けて、試験曲を選択する。以前から弾いてみたいと思っていた曲を選ぶのもよい。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・4年間で身に付けた楽器の演奏技術を、卒業後も生かすことが出来る環境を作る。
2	
3	

科目名(クラス)	副科管弦打楽器 〔木管楽器〕I A/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	木管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
副科管弦打楽器〔木管楽器〕I A/Bは、フルート・クラリネット・オーボエ・ファゴット・サクソフォンの中から任意の楽器一種類を選び、基礎的奏法を学習する。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
I Aでは任意の曲(演奏時間5分程度)が演奏できる。 I Bでは更に発展させた演奏能力を身に付ける。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
期末の実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠA ・オリエンテーション(今後1年間の概要、レッスン内容説明、教材説明、心構え) ・基本的奏法「楽器の構え方」「姿勢と呼吸」「アンブッシュア」「フィンガリングと指の形」 ・基礎的知識「楽器の歴史」「楽器の種類」 ・楽器のメンテナンス ・副科木管楽器ⅠA実技試験楽曲決め 	
5		
6		
7		<ul style="list-style-type: none"> ・各学生それぞれの能力ごとにエチュード、楽曲を学習する ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠB授業開始
8		
9		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・副科木管楽器ⅠAで学習したことを更に進めて行く ・副科木管楽器ⅠB実技試験楽曲決め ・学生それぞれの能力ごとに選曲し学習する 	
11		
12		
1		
2		
3		

科目名(クラス)	副科管弦打楽器 〔木管楽器〕ⅡA/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	2	
担当教員	木管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件		※詳細は履修ガイドを参照				
【授業の概要】		(360文字以内)								
副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅡA/Bは、フルート・クラリネット・オーボエ・ファゴット・サクソフオンの中から任意の楽器一種類を選び、基礎的奏法を学習する。ⅠA/Bで学んだ事を発展させる。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
ⅡAでは、スケール練習をⅡ、Ⅲ、2つまでの長音階、短音階を吹くことができる。 ⅡBでは、初級から中級のエチュードを練習できる能力を身に付ける。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
期末の実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅡA ・オリエンテーション(今後1年間の概要、レッスン内容の説明、教材説明、心構え) ・ⅠA/Bで学習した事項の確認と発展 ・副科木管楽器ⅡA実技試験楽曲決め
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・各学生それぞれの能力ごとにエチュード、楽曲を学習する
9	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅡB授業開始
10	
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠA/B、ⅡAで学習したことを更に先に進めて行く ・副科木管楽器ⅡB実技試験楽曲決め
2	
3	

科目名(クラス)	副科管弦打楽器 〔木管楽器〕ⅢA/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	3	
担当教員	木管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅢA/Bは、フルート・クラリネット・オーボエ・ファゴット・サクソフオンの中から任意の楽器一種類を選び、基礎的奏法を学習する。ⅠA/B、ⅡA/Bで学んだ事を発展させる。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
ⅢAでは、スケール練習をⅡ、Ⅲ、3つまでの長音階、短音階を吹くことができる。 ⅢBでは、中級のエチュードが練習でき簡単なオリジナル楽曲が演奏できる能力を身に付ける。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
期末の実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅢA ・オリエンテーション(今後1年間の概要、レッスン内容の説明、教材説明、心構え) ・スケール練習を取り入れた練習方法の確立 ・副科木管楽器ⅢA実技試験楽曲決め
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・各学生それぞれの能力ごとにエチュード、楽曲を学習する
9	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅢB授業開始
10	
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠA/B、ⅡA/B、ⅢAで学習したことを更に先に進めて行く ・副科木管楽器ⅢB実技試験楽曲決め
2	
3	

科目名(クラス)	副科管弦打楽器 〔木管楽器〕ⅣA/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	4	
担当教員	木管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅣA/Bは、フルート・クラリネット・オーボエ・ファゴット・サクソフオンの中から任意の楽器一種類を選び、奏法を学習する。ⅠA/B、ⅡA/B、ⅢA/Bで学んだ事を発展させる。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
ⅣAでは、スケール練習をⅡ、Ⅲ、4つ以上の長音階、短音階を吹くことができる。 ⅣBでは、中級以上のエチュードが練習できオリジナル楽曲が演奏できる能力を身に付ける。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
期末の実技試験による。										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅣA ・オリエンテーション(今後1年間の概要、レッスン内容の説明、教材説明、心構え) ・スケール練習を取り入れた練習方法の確立 ・副科木管楽器ⅣA実技試験楽曲決め
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・各学生それぞれの能力ごとにエチュード、楽曲を学習する ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅣB授業開始
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠA/B、ⅡA/B、ⅢA/B、ⅣAで学習したことの集大成として、副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅣBの実技試験楽曲決め
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	副科管弦打楽器 〔金管楽器〕Ⅰ～ⅣA/B			開講学期	前/後	単位数	各2単位	配当年次	1	
担当教員	金管楽器教員	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>Ⅰ：管弦打の各楽器は、ソロ楽器としては言うまでもなく、オーケストラ・吹奏楽・室内楽など、様々な合奏グループの一貫として活躍している。副科とはいえ、上達のためには第2の専攻というぐらいの意識を持ち、日々の練習を重ねることが、重要且つ不可欠である。レッスンでは基本奏法・基礎知識の修得を中心とする。</p> <p>Ⅱ～Ⅳ：前年度の学習を基に、引き続き基本奏法・基礎知識の修得を中心に行う。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・金管楽器の基本奏法、基礎知識が身についている。 ・演奏能力が向上している。 										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
実技個人レッスン										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
毎日具体的目標を決めて練習し訓練を怠らないこと										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
実技試験における成績100%										
テキスト (参考資料)	それぞれ学生の学修状況にそった、楽譜、文献、録音録画資料を適宜使用する。									
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本奏法の修得 ・基礎知識の修得 ・実技試験のための楽曲、又は練習曲の研究 	
5		
6		
7		
8		
9		
10		<ul style="list-style-type: none"> ・基本奏法の修得 ・基礎知識の修得 ・実技試験のための楽曲、又は練習曲の研究 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成
11		
12		
1		
2		
3		
4		

科目名(クラス)	障害学A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	高畑 敦子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>・音楽療法を行うために、対象者を理解することはもっとも大切なことです。 ・この授業では、幼児・児童領域を中心に「障害とは何か」「障害者の福祉理念」「障害児教育」「さまざまな障害の特徴と支援方法」等、実際の音楽療法場面で活かせる知識を習得していきます。”</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>・授業内で学んだ知識を、実習先の対象者理解に役立てることができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>・新聞、テレビ、インターネットなどで「障害」「障害児教育」「福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。 ・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。 ・遅刻、途中退席は原則として認めません。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>・学期末定期試験【4択問題と筆記】70% ・授業内レポートおよび小テスト30%</p>										
教科書	指定なし(毎回資料配布)			著者等		出版社				
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	「障害について」 ・ビデオ鑑賞から障害について考える	予習: シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習: 授業についての要約記述。
第2回	「障害について」 ・ICF(国際生活機能分類)について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第3回	障害児教育の歴史① ・アメリカ・欧州における障害児教育の歴史を概観する	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第4回	障害児教育の歴史② ・日本の障害児教育の歴史を概観する ・ノーマライゼーション、インクルーシブ教育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第5回	障害児教育の諸制度 ・日本の障害児教育の構造 ・特別支援教育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第6回	福祉と障害児・者 ・障害児・者に対する福祉システム ・障害者総合支援法について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第7回	小テスト(ノート持ち込み可) ・第1回～第6回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習: 第1回～6回までに配布された資料および、 授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習: テスト内容で理解できなかった部分を確認し、 資料を再読する。
第8回	視覚障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第9回	視覚障害② ・教育支援、療育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第10回	聴覚障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第11回	聴覚障害② ・教育支援、療育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第12回	病弱・身体虚弱児① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第13回	病弱・身体虚弱児② ・教育支援、療育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第14回	小テスト(ノート持ち込み可) ・第8回～第13回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習: 第8回～13回までに配布された資料および、授業 内で板書したものを再読、理解しておく。 復習: テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料 を再読する。
第15回	まとめ	予習: 各回に配布された資料および、 授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習: 授業で学んだことを、実習と関連づけながら 対象者の理解をより深めていく。

科目名(クラス)	障害学B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	高畑 敦子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>・音楽療法を行うために、対象者を理解することはもつとも大切なことです。</p> <p>・この授業では、幼児・児童領域を中心に「障害とは何か」「障害者の福祉理念」「障害児教育」「さまざまな障害の特徴と支援方法」等、実際の音楽療法場面で活かせる知識を習得していきます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>・授業内で学んだ知識を、実習先の対象者理解に役立てることができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>・新聞、テレビ、インターネットなどで「障害」「障害児教育」「福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。</p> <p>・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。</p> <p>・遅刻、途中退席は原則として認めません。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<p>・学期末定期試験【4択問題と筆記】70%</p> <p>・授業内レポートおよび小テスト30%</p>										
教科書	指定なし(毎回資料配布)			著者等		出版社				
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	知的障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習: シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習: 授業についての要約記述。
第2回	知的障害② ・教育支援、療育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第3回	知的障害～ダウン症～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第4回	知的障害～ダウン症～② ・教育支援、療育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第5回	小テスト(ノート持ち込み可) ・第1回～第4回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習: 第1回～4回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習: テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第6回	発達障害～自閉スペクトラム症～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第7回	発達障害～自閉スペクトラム症～② ・教育支援、療育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第8回	発達障害～AD/HD、学習障害～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第9回	発達障害～AD/HD、学習障害～② ・教育支援、療育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第10回	運動障害～重度重複障害～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第11回	運動障害～重度重複障害～② ・教育支援、療育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第12回	言語障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第13回	言語障害② ・教育支援、療育について	予習: 前回配布資料を読んでおく。 復習: 今回配布資料の再読および要約記述。
第14回	小テスト(ノート持ち込み可) ・第6回～第13回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習: 第6回～13回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習: テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第15回	まとめ	予習: 各回に配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習: 授業で学んだことを、実習と関連づけながら対象者の理解をより深めていく。

科目名(クラス)	臨床心理学 I A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	岩澤 直子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>臨床心理学は、心理的課題を持った人を対象とした場面に限らず、「人間」を対象とした様々な活動場面において重要な視点を提供できると考えられます。臨床心理学を(心理学的に)「人を知る」「人に関わる」「成果をまとめる」という過程に分けて捉えた上で、この科目では、背景となる理論や臨床心理学自体についての理解を深め、「人を知る」過程に関して検討する力を身につけます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学やその実践において、背景となる理論やそこで生じる過程を説明することができる。 心理学の応用分野である臨床心理学の考え方に沿って、自分を第一の対象とし実践可能な考え方をすることができる。 「人を知る」ために前提となる知識を獲得することができる。 										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>授業では教科書や参考文献等を基に知識を整理するとともに、自分自身や身近な例を取り上げた演習も実施します。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> 多くの回で、指定された教科書内容の予習と自分自身を対象とした実践が求められます。 インタラクティブな授業を目指します。授業進度や反応によって授業予定は適宜変更する可能性があります。 										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加度(常によく考える、考えたことを発表する、他者の意見に耳を傾けるなど):30% 適宜指示する課題への取り組み:20% 定期試験として行う評価授業:50% 										
教科書	臨床心理学とは何だろうか 基本を学び、考える			著者等	園田雅代 無藤清子	出版社	新曜社			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 臨床心理学の定義、歴史、方法、対象等についての概説	予習:心理学等の関連授業内容を確認する。 復習:臨床心理学の定義等について整理する。
第2回	臨床心理学から見た「健康な心」	予習:他の授業などで取り扱われてきた「健康」の概念について確認する 復習:自分自身の「心」が臨床心理学の視点からはどのように捉えられるかを検討する。
第3回	臨床心理学の役割(不適応と適応・自立と依存)	予習:他の授業などで取り扱われてきた「適応・不適応」「依存」等の概念について確認する。 復習:自分自身の「適応」「依存」について検討する。
第4回	臨床心理学の役割(方法論の整理①)	予習:ここまでの授業内容を整理する。 復習:家族・コミュニティ・グループなどの場面を軸とした方法論を整理する。
第5回	臨床心理学の役割(方法論の整理②)	予習:ここまでの授業内容を整理する。 復習:具体的方法論の共通点・相違点を検討する。
第6回	心理療法の過程(はじまり)	予習:必要としない。 復習:心理療法が始まる際の留意点を検討する。
第7回	心理療法の過程(心理療法による影響)	予習:どのような心理療法があるかを教科書・書籍で調べる。 復習:心理療法の影響について自分自身をケースとして捉え、検討する。
第8回	様々な心理療法(精神分析)	予習:フロイトやユングについて調べる。 復習:精神分析の背景となる理論について整理する。
第9回	様々な心理療法(来談者中心療法)	予習:ロジャーズについて調べる。 復習:来談者中心療法の背景となる理論について整理する。
第10回	様々な心理療法(行動・認知アプローチ)	予習:スキナーやアイゼンクについて調べる。 復習:行動・認知アプローチの背景となる理論について整理する。
第11回	心理療法の過程(心理療法の終わり方)	予習:ここまでの授業内容を振り返り、一連の流れを確認する。 復習:心理療法の目的からその過程について整理する。
第12回	臨床心理学におけるアセスメント概論①(面接・観察・調査)	予習:これまでに心理学等の授業で取り上げられた「人を知る方法」について整理する。 復習:面接・観察・調査においてそれぞれの特徴や相違点について整理する。
第13回	臨床心理学におけるアセスメント概論②(心理検査)	予習:これまでに心理学等の授業で取り上げられた「心理検査」について整理する。 復習:面接・観察・調査・検査の各手法のそれぞれの特徴や相違点について整理する。
第14回	様々な心理検査①	予習:心理検査の種類について調べる。 復習:様々な心理検査について整理する。
第15回	様々な心理検査② まとめ・評価授業	予習:前期の授業内容を振り返り、内容を整理する。

科目名(クラス)	臨床心理学 I B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	岩澤 直子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>臨床心理学は、心理的課題を持った人を対象とした場面に限らず、「人間」を対象とした様々な活動場面において重要な視点を提供できると考えられます。臨床心理学を(心理学的に)「人を知る」「人に関わる」「成果をまとめる」という過程に分けて捉えた上で、この科目では、「人を知る」「人に関わる」過程における心理アセスメントを中心に理解する力を身につけます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>心理学的アセスメントの諸技法についての実習を通して、それぞれの有効性や課題について理解することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>心理検査の実施と所見作成をロールプレイをまじえながら行い、それらに関する議論や補足的講義も行います。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・実習や課題をこなすだけでなく、主体的に考え、それを言語化し、積極的に議論することが求められます。 ・実習の進捗によって授業予定は適宜変更する可能性があります。 										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度(常によく考える、考えたことを発表する、他者の意見に耳を傾けるなど):20% ・適宜指示する課題への取り組み:30% ・定期試験として行う評価授業:50% 										
教科書	臨床心理アセスメント			著者等	松原達哉 編	出版社	丸善出版			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	心理検査① (質問紙検査の実施と集計①)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第2回	心理検査② (質問紙検査の実施と集計②)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第3回	心理検査③ (知能検査・発達検査の実施①)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第4回	心理検査④ (知能検査・発達検査の実施②)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第5回	心理検査⑤ (知能検査・発達検査の結果評価)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第6回	心理検査⑥ (投影法検査の実施①)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第7回	心理検査⑦ (投影法検査の実施②)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第8回	心理検査⑧ (投影法検査の実施①)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第9回	心理検査⑨ (投影法検査の実施②)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第10回	心理検査⑩ (投影法検査の結果評価)	予習: 実施予定検査について教科書等で調べる。 復習: 集計法に基づき結果集計を行い、必要に応じてレポートを作成する。
第11回	心理検査所見の作成	予習: 心理検査所見について教科書で確認する。 復習: 実施済み検査の総合所見を作成する。
第12回	面接法の基礎	予習: 心理面接について前期授業で触れた内容を確認する。 復習: 面接の際の留意点について整理する。
第13回	面接法の基礎と実習①	予習: 取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認する。 復習: 実施したスキルの機能や気づきについて整理する。
第14回	面接法の基礎と実習②	予習: 取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認する。 復習: 実施したスキルの機能や気づきについて整理する。
第15回	面接法の基礎と実習③ まとめ・評価授業	予習: 心理検査と面接法について振り返り、整理する。

科目名(クラス)	臨床心理学Ⅱ			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	4	
担当教員	岩澤 直子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>臨床心理学は、心理的課題を持った人を対象とした場面に限らず、「人間」を対象とした様々な活動場面において重要な視点を提供できると考えられます。臨床心理学を(心理学的に)「人を知る」「人に関わる」「成果をまとめる」という過程に分けて捉えた上で、この科目では「人に関わる」「成果をまとめる」過程について理解する力を身につけます。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・人に関わる際の「面接法」について実践的なスキルを身につけることができる。 ・様々な心理療法を参考に、実際の課題への介入計画を立て、実践し、まとめるという一連の流れを理解することができる。 										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>ロールプレイを含む実習形式と、文献講読・発表、および自分自身を対象とした介入の実施とまとめの作成を行います。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・実習など積極的な参加を要する授業です。 ・実習や課題をこなすだけでなく、主体的に考え、それを言語化し、積極的に議論することが求められます。 ・実習の進捗によって授業予定は適宜変更する可能性があります。 										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度(常によく考える、考えたことを発表する、他者の意見に耳を傾けるなど):40% ・適宜指示する課題への取り組み:40% ・定期試験として行う評価授業:20% 										
教科書	臨床心理学とは何だろうか 基本を学び、考える			著者等	園田雅代 無藤清子		出版社	新曜社		
教科書				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
参考文献				著者等			出版社			
【オフィスアワー】										
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	面接法の基礎	予習:心理面接について昨年度までに学んだ内容を確認する。 復習:面接の際の留意点について整理する。
第2回	面接法の基礎と実習①	予習:取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認する。 復習:実施したスキルの機能や気づきについて整理する。
第3回	面接法の基礎と実習②	予習:取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認する。 復習:実施したスキルの機能や気づきについて整理する。
第4回	面接法の基礎と実習③	予習:取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認する。 復習:実施したスキルの機能や気づきについて整理する。
第5回	面接法の基礎と実習④	予習:取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認する。 復習:実施したスキルの機能や気づきについて整理する。
第6回	様々な心理療法の実際 文献の紹介	予習:心理療法について昨年度までに学んだ内容を確認する。 復習:割り当てられた文献を熟読する。
第7回	文献講読①	予習:割り当てられた文献の要点をまとめ、プレゼン資料を作成する。 復習:それぞれの文献における心理療法の特徴をまとめる。
第8回	文献講読② 課題の整理・アセスメントから介入の選択	予習:割り当てられた文献の要点をまとめ、プレゼン資料を作成する。 復習:それぞれの文献における心理療法の特徴をまとめる。自分を対象として課題を検討する。
第9回	介入の実施場面の留意点 介入計画の決定	予習:自分を対象とした介入計画を立てる。 復習:介入計画を見直し、検討する。
第10回	介入的な面接場面の実際① 介入計画の経過報告①	予習:指定された面接技法について調べる。介入計画の進捗状況を整理する。 復習:取り上げた介入・面接場面を振り返る。
第11回	介入的な面接場面の実際② 介入計画の経過報告②	予習:指定された面接技法について調べる。介入計画の進捗状況を整理する。 復習:これまで取り上げた介入・面接場面を振り返る。
第12回	介入的な面接場面の実際③ 介入計画の経過報告③	予習:指定された面接技法について調べる。介入計画の進捗状況を整理する。 復習:これまで取り上げた介入・面接場面を振り返る。
第13回	介入的な面接場面の実際④ 介入計画の経過報告④	予習:指定された面接技法について調べる。介入計画の進捗状況を整理する。 復習:これまで取り上げた介入・面接場面を振り返る。
第14回	介入計画に基づいた取り組みの結果報告	予習:自分が行った介入の経過についての発表資料を作成する。 復習:自分が行った介入の改善点を整理する。
第15回	まとめ 評価授業	予習:これまでの授業全体を振り返り、整理する。

科目名(クラス)	人間と医療 I A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	木下 容子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽療法の実践に必要な精神医学を学ぶ。 さまざまな精神疾患の理解、症状の理解を通して、音楽療法実践における対象者理解の力を身につける。 また、脳のしくみや精神医学の歴史なども学ぶことによって、精神医学全般の知識・理解力を高める。 講義形式で学んでいくが、授業内ディスカッションや小テストにおいて自分の考えを述べる力も培う。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>音楽療法において、精神科領域は重要な実践分野の一つである。 その実践のために、精神医学を一定程度理解することができる。 また、今後実習等で出会う対象者の状態を、精神医学の側面から捉える”構え”を持つことができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式で行うが、自分の意見を述べたり、他者の意見に対して感想等を述べるディスカッションも行う。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
1年間で精神医学の基礎を学ぶため、授業に臨むにあたっては真剣に取り組むことが求められる。 また、精神医学の知識を積み重ねていくことが重要であるため、予習復習を徹底する必要がある。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回実施される小テスト(持ち込み全て可):30% ・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組み):20% ・学期末に実施される筆記試験(持ち込み全て可):50% 										
教科書	やさしくわかる精神医学			著者等	上島国利	出版社	ナツメ社			
教科書				著者等		出版社				
参考文献	ぜんぶわかる 人体解剖図			著者等	坂井健雄ら	出版社	成美堂出版			
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(月曜日:17:00~18:00、火曜日9:30~10:30)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	精神医学とは何かについて、その入門として全体のアウトラインを理解する。また、こころの病気の原因について学ぶ。	予習:教科書の第1章<精神医学とは><こころの病気の原因><心因性のこころの病気>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第2回	引き続き、こころの病気の原因について理解する。 ここでは、内因性・外因性のこころの病気、症状精神病について学ぶ。	予習:教科書の第1章<内因性のこころの病気><外因性のこころの病気><症状精神病>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第3回	こころと脳の関係について理解する。 ここでは、脳のしくみや神経細胞について学ぶ。	巻頭<思考や感情は脳から生まれる><情報は電気信号として伝わる>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第4回	引き続き、こころと脳の関係について理解する。 ここでは、脳の活動や検査について学ぶ。	巻頭<脳の活動がわかるようになってきた>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第5回	精神医学の歴史① ここでは、古代から中世の精神疾患、精神医療の始まりや発展について学ぶ。	予習:教科書の第2章<古代から中世の精神疾患><精神医療の始まり><精神医学の発展>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第6回	精神医学の歴史② ここでは、近代精神医学の基礎や、日本での精神医学について学ぶ。	予習:教科書の第2章<フロイト、クレペリンの活躍><私宅監置から精神病院へ>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第7回	向精神薬や、社会的リハビリテーションについて学ぶ。	予習:教科書の第2章<向精神薬の誕生><社会復帰を目指す医療>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第8回	診察について、問診と診断の観点から学ぶ。 また、こころの病気の症状を学ぶ。	予習:教科書の第2章<問診と診断><こころの病気の症状>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第9回	こころの病気の分類を学ぶ。 また、インフォームド・コンセントについても学ぶ。	予習:教科書の第2章<こころの病気の分類><インフォームド・コンセント>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第10回	抑うつ障害のうつ病について学ぶ。	予習:教科書の第3章<抑うつ障害 うつ病>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第11回	抑うつ障害の非定型うつ病について学ぶ。 また、双極性障害についても学ぶ。	予習:教科書の第3章<抑うつ障害 非定型うつ病><双極性障害>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第12回	不安症のパニック症、社交不安症について学ぶ。	予習:教科書の第3章<不安症 パニック症><不安症 社交不安症>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第13回	不安症の限局性恐怖症、全般不安症について学ぶ。	予習:教科書の第3章<不安症 限局性不安症><不安症 全般不安症>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第14回	強迫症について学ぶ。	予習:教科書の第3章<強迫症>を読む。 復習:熟読し、期末試験に備える。
第15回	まとめ。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報を探して、言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	人間と医療 I B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	木下 容子	実務家教員	○	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修					
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽療法の実践に必要な精神医学を学ぶ。 さまざまな精神疾患の理解、症状の理解を通して、音楽療法実践における対象者理解の力を身につける。 また、薬物療法や多彩な精神療法なども学ぶことによって、精神医学全般の知識・理解力を高める。 講義形式で学んでいくが、授業内ディスカッションや小テストにおいて自分の考えを述べる力も培う。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>音楽療法においては、精神科領域は重要な実践分野の一つである。 その実践のために、精神医学を一定程度理解することができる。 また、今後実習等で出会う対象者の状態を、精神医学の側面から捉える”構え”を持つことができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式で行うが、自分の意見を述べたり、他者の意見に対して感想等を述べるディスカッションも行う。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
1年間で精神医学の基礎を学ぶため、授業に臨むにあたっては真剣に取り組むことが求められる。 また、精神医学の知識を積み重ねていくことが重要であるため、予習復習を徹底する必要がある。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
・毎回実施される小テスト(持ち込み全て可):30% ・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組み):20% ・学期末に実施される筆記試験(持ち込み全て可):50%										
教科書	やさしくわかる精神医学			著者等	上島国利	出版社	ナツメ社			
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(月曜日:17:00~18:00、火曜日:9:30~10:30)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	適応障害、心的外傷後ストレス障害、解離症について学ぶ。 また、守秘義務についても学ぶ。	予習:教科書の第3章<適応障害><心的外傷後ストレス障害><解離症><守秘義務>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第2回	統合失調症について学ぶ。	予習:教科書の第4章<統合失調症>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第3回	自殺の現状と対策について学ぶ。	予習:教科書の第4章<自殺>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第4回	認知症について学ぶ。	予習:教科書の第4章<認知症>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第5回	心身症について学ぶ。	予習:教科書の第4章<心身症>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第6回	依存症について学ぶ。	予習:教科書の第4章<依存症>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第7回	パーソナリティ障害について学ぶ。	予習:教科書の第4章<パーソナリティ障害>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第8回	摂食障害について学ぶ。 また、睡眠・覚醒障害について学ぶ。	予習:教科書の第4章<摂食障害><睡眠・覚醒障害>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第9回	作為症、性に関する精神障害について学ぶ。	予習:教科書の第4章<作為症><性に関する精神障害>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第10回	自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症(AD/HD)について学ぶ。また、家庭内暴力、児童虐待、不登校・引きこもりについても学ぶ。	予習:教科書の第4章<自閉スペクトラム症><AD/HD><家庭内暴力><児童虐待><不登校・引きこもり>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第11回	薬物療法について学ぶ。 また、修正型電気けいれん療法についても学ぶ。	予習:教科書の第5章の全てを読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第12回	精神療法① 精神療法の基礎と分類を理解する。 ここでは、支持的精神療法と精神分析療法について学ぶ。	予習:教科書の第6章<精神療法とは><支持的精神療法><精神分析療法>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第13回	精神療法② ここでは、来談者中心療法、認知療法、行動療法、マインドフルネスについて学ぶ。	予習:教科書の第6章<来談者中心療法><認知療法><行動療法><マインドフルネス>を読む。 復習:熟読し、次回小テストに備える。
第14回	精神療法③ ここでは、対人関係療法、自律訓練法、森田療法、芸術療法、箱庭療法、家族療法について学ぶ。また、精神鑑定についても学ぶ。	予習:教科書の第6章<対人関係療法>から<精神鑑定>までの全てを読む。 復習:熟読し、期末試験に備える。
第15回	まとめ。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報を探して、言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	人間と医療ⅡA			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	木下 容子	実務家教員	○	履修対象・条件		音楽療法専攻のみ履修可。必修				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽療法は、医療や福祉との関わりを強く持つ分野である。その実践の現場も様々で、病院等で音楽療法を担当する場合、他の医療職と対等に議論する必要が生じることもある。そのことを想定すると、基礎および身体医学を一定程度理解する必要がある。</p> <p>この授業では、音楽療法に関わりのある神経学に比重を置いて、基礎・身体医学を学ぶ。具体的には、健康と病気、神経生理学(入門程度)の知識を身につける。</p> <p>講義形式で学んでいくが、授業内ディスカッションや小テストにおいて自分の考えを述べる力を培う。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>音楽療法に関わりのある基礎・身体医学を一定程度理解することができる。</p> <p>音楽療法の実習において、基礎・身体医学の側面から対象者を捉え、理解することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式で行うが、自分の意見を述べたり、他者の意見に対して感想等を述べるディスカッションも行う。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
1年間で基礎・身体医学(入門程度)を学ぶため、授業に臨むにあたっては真剣に取り組むことが求められる。また、基礎・身体医学の知識を積み重ねていくことが重要であるため、復習を徹底する必要がある。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回実施される小テスト(持ち込み全て可):30% ・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組み):20% ・学期末に実施される筆記試験(持ち込み全て可):50% 										
教科書	既成の教科書は用いず、講義内プリントを用意する。			著者等		出版社				
教科書				著者等		出版社				
参考文献	ぜんぶわかる 人体解剖図			著者等	坂井建雄ら	出版社	成美堂出版			
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(月曜日:17:00~18:00、火曜日:9:30~10:30)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	基礎および身体医学への入門に際し、生命の誕生、生命の特性、人命の特性について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 当日の講義内容を熟読し、次回の小テストに備える。
第2回	基礎および身体医学への入門に際し、医学の定義、病気の診断・治療・予防、リハビリテーション、健康増進、全人的医療について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 当日の講義内容を熟読し、次回の小テストに備える。
第3回	医学の歴史① 紀元前の太古の時代から中世にかけて学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 医学の歴史について熟読し、次回の小テストに備える。
第4回	医学の歴史② ルネサンスの時代から現代にかけて学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 医学の歴史について熟読し、次回の小テストに備える。
第5回	健康と病気① 「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から学ぶ。ここでは、健康について理解する。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「健康」について熟読し、次回の小テストに備える。
第6回	健康と病気② 「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から学ぶ。ここでは、病気の定義と分類、病因と免疫について理解する。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「病気の定義と分類」「病因と免疫」について熟読し、次回の小テストに備える。
第7回	健康と病気③ 「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から学ぶ。ここでは、病理学の入門程度の内容、診断と治療について理解する。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「病理学」「診断と治療」について熟読し、次回の小テストに備える。
第8回	健康と病気④ 「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から学ぶ。ここでは、呼吸器疾患患者に対する音楽療法の論文の読み方を学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 論文の読み方について復習する。
第9回	神経生理学入門① まず、ニューロンとはどのようなものか、興奮性細胞の原理と神経伝達の基礎について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「ニューロンと神経伝達」について熟読し、次回の小テストに備える。
第10回	神経生理学入門② 興奮性細胞である筋肉細胞について触れる。ここでは、骨格筋の名称や運動、また骨格筋の構造や収縮と弛緩の機序について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「骨格筋」「筋の収縮と弛緩」について熟読し、次回の小テストに備える。
第11回	神経生理学入門③ 感覚機能、特に聴覚を中心に学ぶ。ここでは、音の物理的性質、耳の構造について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「音の物理的性質」「耳の構造」について熟読し、次回の小テストに備える。
第12回	神経生理学入門④ 引き続き、耳の構造や聴覚伝導路、および脳の各部について解剖学的な側面から学ぶ。また、平衡感覚についても学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「聴覚伝導路と脳」「平衡感覚」について熟読し、次回の小テストに備える。
第13回	神経生理学入門⑤ 神経系について、中枢神経系と末梢神経系、さらに自律神経系のはたらきについても学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「中枢・末梢神経系」「自律神経系」について熟読し、次回の小テストに備える。
第14回	神経生理学入門⑥ 脳について、その区分・名称を学ぶ。また、前頭葉機能、頭頂葉機能、側頭葉機能、後頭葉機能を学ぶ。さらに、失音楽や脳波についても理解する。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「脳の名称や機能」「失音楽」「脳波」について熟読する。
第15回	まとめ。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり、言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	人間と医療ⅡB			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	木下 容子	実務家教員	○	履修対象・条件		音楽療法専攻のみ履修可。必修				
【授業の概要】		(360文字以内)								
<p>音楽療法は、医療や福祉との関わりを強く持つ分野である。その実践の現場も様々で、病院等で音楽療法を担当する場合、他の医療職と対等に議論する必要が生じることもある。そのことを想定すると、基礎および身体医学を一定程度理解する必要がある。</p> <p>この授業では、音楽療法に関わりのある神経学に比重を置いて、基礎・身体医学を学ぶ。具体的には、神経内科学(入門程度)、小児の疾患、および緩和ケアの知識を身につける。講義形式で学んでいくが、授業内ディスカッションや小テストにおいて自分の考えを述べる力を培う。</p>										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
<p>音楽療法に関わりのある基礎・身体医学を一定程度理解することができる。</p> <p>音楽療法の実習において、基礎・身体医学の側面から対象者を捉え、理解することができる。</p>										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
<p>講義形式で行うが、自分の意見を述べたり、他者の意見に対して感想等を述べるディスカッションも行う。</p>										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
<p>1年間で基礎・身体医学(入門程度)を学ぶため、授業に臨むにあたっては真剣に取り組むことが求められる。また、基礎・身体医学の知識を積み重ねていくことが重要であるため、復習を徹底する必要がある。</p>										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回実施される小テスト(持ち込み全て可):30% ・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組み):20% ・学期末に実施される筆記試験(持ち込み全て可):50% 										
教科書	既成の教科書は用いず、講義内プリントを用意する。			著者等		出版社				
教科書				著者等		出版社				
参考文献	病気がみえる vol.7 脳・神経			著者等	医療情報科学研究所	出版社	MEDIC MEDIA			
参考文献	ぜんぶわかる 人体解剖図			著者等	坂井建雄ら	出版社	成美堂出版			
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(月曜日:17:00~18:00、火曜日:9:30~10:30)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	神経内科学入門① まずこの領域でのリハビリテーションおよび、機能評価について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「リハビリテーション」「機能評価」について熟読し、次回の小テストに備える。
第2回	神経内科学入門② 意識障害(特に上行性網様体賦活系)、脳死と植物状態について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「意識障害」「脳死と植物状態」について熟読し、次回の小テストに備える。
第3回	神経内科学入門③ 運動麻痺と筋萎縮、Manual Muscle Testや、Brunnstormステージについて学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「運動麻痺と筋萎縮」「それらの評価」について熟読し、次回の小テストに備える。
第4回	神経内科学入門④ 構音障害について学ぶ。また、失語症について、その種類と症状の生じる機序について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「構音障害」「失語症」について熟読し、次回の小テストに備える。
第5回	神経内科学入門⑤ 失語症の治療を学ぶ。また、失認についても、その種類と症状の生じる機序について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「失語症の治療」「失認」について熟読し、次回の小テストに備える。
第6回	神経内科学入門⑥ 失行について、その種類と症状の生じる機序について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「失行」について熟読し、次回の小テストに備える。
第7回	神経内科学入門⑦ 脳血管を中心とした解剖学と、脳血管障害(主に脳梗塞、脳出血)について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「頭部の動脈、静脈」「脳血管障害」について熟読し、次回の小テストに備える。
第8回	神経内科学入門⑧ 脳血管障害(主にくも膜下出血)について学ぶ。 また、認知症について、その種類と症状の生じる機序について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「くも膜下出血」「認知症」について熟読し、次回の小テストに備える。
第9回	神経内科学入門⑨ 認知症について、検査や評価、また治療とリハビリテーションについて学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「認知症の検査・評価・治療など」について熟読し、次回の小テストに備える。
第10回	神経内科学入門⑩ 変性疾患について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「変性疾患」について熟読し、次回の小テストに備える。
第11回	神経内科学入門⑩ 筋疾患について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「筋疾患」について熟読し、次回の小テストに備える。
第12回	小児の疾患入門① 小児の成長と発達、精神遅滞、てんかんについて学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「小児の発達」「精神遅滞」「てんかん」について熟読し、次回の小テストに備える。
第13回	小児の疾患入門② 脳性麻痺、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、重症心身障害児などについて学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「脳性麻痺」「神経発達症群」などについて熟読し、次回の小テストに備える。
第14回	緩和ケアについて、その定義や現状と課題、インフォームドコンセント等について学ぶ。	予習: 常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。 復習: 「緩和ケア」「インフォームドコンセント」について熟読する。
第15回	まとめ。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり、言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	ウィーンアカデミー		開講学期		単位数	4	配当年次	3			
担当教員	林 千尋	実務家教員	<input type="radio"/>	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照						
【授業の概要】		(360文字以内)									
<p>音楽の都ウィーンの空気と雰囲気に触れることによって、参加者自身の音楽観を深めること。</p>											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	<input type="radio"/>		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	<input type="radio"/>	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	<input type="radio"/>		
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
<p>音楽の都と言われるウィーンを自然、風土、環境を理解し、音楽文化の育ってきた情景を理解する。</p>											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
<p>講義、演習、実技個人レッスン(音楽療法専攻を除く)</p>											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
<p>「ウィーンアカデミー」オリエンテーションに必ず出席のこと。</p>											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
<p>研修期間中にレポート提出</p>											
教科書		著者等		出版社							
教科書		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
【オフィスアワー】											
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※実施曜日を○で囲って下さい。</p>											
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分)</p>											

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	
5	
6	
7	1. A. 専攻実技レッスン ウィーン特有の感性に触れると同時に伝統的表現方法を学ぶ。
8	B. 音楽療法 a.音楽療法における人類学:様々な文化と時代による音楽的療法 b.身体医学入門:身体医学の仮説と行動計画 c.グループによる音楽療法:精神療法的音楽療法理論と実践、即興演奏、楽器での表現、コミュニケーション d.楽器としての身体:主観的構造と生理学、理論と実践、声と響き、身体表現 e.現場ビデオによる現場紹介、又は施設訪問
9	2. オーストリア事情 歴史的背景をもとに、ハプスブルグ家を中心としたヨーロッパ文化の中心としてのウィーン音楽の意義
10	3. ピアノ教育法(ピアノ専攻) (Ⅰ)絵入り楽譜でピアノ教育法を実践的に学ぶ(子供・初心者への教育) (Ⅱ)各時代による表現方法の違い等(大人・すでに弾ける人への教育) 4. 朗読法(声楽専攻):テキストはその都度決められる 5. 楽曲分析(声楽専攻):ソロ・コロペティツィオン:専門家による歌唱指導 6. 楽曲解釈(全員):時代別スタイルと表現法
11	7. 音楽史跡研究:主として大作曲家の史跡等を訪れる 8. 文化史体験:美術館を訪れ、音楽と美術等、他の文化との関係を探る 9. 音楽鑑賞(2回):国立歌劇場、フォルクスオパー、ムジークフェアイン(楽友協会)、コンツェルトハウス等の公演鑑賞 10. 自由研修
12	11. 修了演奏会(基本的に全員参加) 12. レポート:その都度出されたテーマについて作成し提出する。 その他、ザルツブルグ研修も行われる
1	
2	
3	

科目名(クラス)	ヒューマンコミュニケーション1・2・3・4	開講学期		単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	山崎 明美	実務家教員		履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照		
【授業の概要】		(360文字以内)					
<p>本学の学生は、建学の精神である「音楽芸術の研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目的とする」を指針とし、現代社会の中で、音楽に関わる者として知的創造性を高め、人間への深い理解を持ってコミュニケーションを図ることが重要である。それによって形成される広い視野の中で、音楽表現の実践や音楽教育は生きたものになると考える。このような理念の実践の場として下記の通り必修科目〔各学年1単位〕を設定する。</p>							
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)					
<p>音楽を学ぶ者として、幅広く、深い教養を修得し、自分の音楽活動を更に高めることが出来る。</p>							
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)					
<p>単位履修の対象となる定期研究発表演奏会・演奏会・公開講座・大学短大の認めたボランティア活動に参加しポイント制で履修するものとする。</p>							
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)					
<p>積極的に活動に参加し、計画段階、事前準備段階、実施段階、事後処理段階において相違工夫をすることを心がける。</p>							
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)					
<p>授業内容を総合的に評価する。</p>							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【オフィスアワー】							
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>							
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>							

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	
6	
7	
8	<p>【目標】</p> <p>1) 行事参加における計画・実行の段階を、様々な個性と相互協力をし、責任を持って達成する事を体験する。 ・行事の意義を十分に理解し、積極的に参加し、協力し、本学学生として参加したことに喜びを見出す。</p>
9	<p>・計画段階、事前準備段階、実施段階、事後処理段階までそれぞれにおいて創意工夫し、責任を持って遂行することの大切さを自覚し、友人とのコミュニケーションをはかる中において、社会人としての自覚を養う。</p> <p>2) 音楽活動等の体験を通じたボランティア活動を実施することによって、社会に貢献し、人間形成の育成をはかる。 ・本学で学んだ音楽的感性、豊かな情操を学園の内外において一人一人の学生が自ら参加し、ボランティア活動等の奉仕にかかわる体験活動を通して社会性を身につける。</p>
10	<p>【単位】</p> <p>ポイント制により年間12ポイント以上取得することで1単位認定する。〔尚、余剰ポイントは次年度には、繰り越さない〕</p>
11	<p>単位履修のためのポイント項目、定期研究発表演奏会・公開講座・大学短大の認めた演奏会・大学短大の認めたコンクール・大学短大の認めたボランティア活動、及び大学短大の認めた上記項目に類するもの。 〔各項目のポイント数は、別途定め告示する。〕</p>
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	インターンシップ I			開講学期		単位数	2	配当年次	2
担当教員	キャリア支援センター	実務家教員	○	履修対象・条件	選択				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>夏季休暇期間を利用して、行政機関や一般企業において実際に就業実務を体験してみることで、現実 に働くとはどういうことなのかを知り、卒業後の自分を考える機会としてほしい。 2週間の就業体験を通して社会を知り、己を知ることで就職活動への心構えを養うことができる。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識 ・技能	汎用的な能力	思考力 ・判断力 ・表現力	コミュニケーション能力	意欲 ・関心 ・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>学生が就業体験を通して、企業や社会の実情を知ること、仕事に対する興味や関心を高め、自らの適性や適職を考え、職業選択につなげることを目的とする。 実際の体験を自ら多くの人前で発表することで、プレゼンテーション能力育成にもつながる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
事前の研修・セミナー出席と現場での実習、事後のレポート提出と学内発表会での成果発表を要件とする。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> 参加希望者はキャリア支援センターに参加申込書を提出すること。 インターンシップの受入先が限られており、希望者が多い場合は、選考のうえ受入先が決定した時点で登録となります。 独自に希望する研修先の場合も学校指定同様の形式・基準に従い、事前申請するものとする。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>インターンシップを実際に体験することが大前提となります。且つ以下の条件を満たした者に単位を認定する。 ※指定の事前研修に出席すること。 ※2週間(実質10日間以上)の実習をおこなうこと。 ※体験レポートを提出すること。 ※インターンシップ体験先の外部評価が著しく低くない事。 ※学内発表会で成果を発表すること。</p>									
教科書				著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別紙掲示にて発表									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンスにて、インターンシップ実施の目的、意義、手続き、スケジュールなどの説明。	予習:インターンシップに対しての自分の目的を明確にする。 復習:配布資料を読み返し、内容を理解し、スケジュールを確認する。
第2回	募集開始:希望学生は参加申込書を提出。 「自分の目的と研修先の整合性を考える。」	予習:参加した先輩などから行先の情報入手する。 復習:研修先について自分なりに企業について調べてみる。
第3回	事前研修①インターンシップ参加の心構え、就業活動全般について 「就職活動中でのインターンシップの位置づけを理解する。」	予習:就活スタートを意識する。 復習:自分なりのスケジュールを作成する。
第4回	事前研修②マナー講座受講 「社会人としてのルール・マナーを身につける。」	予習:参加にあたっての心構えを考えておく。 復習:配布された資料・マニュアルを読み返す。
第5回	事前研修③:具体的活動にむけた準備。 「実習先のことを知る。注意事項伝達など」	予習:研修の目的を考えておく。 復習:配布された資料・マニュアルを読み返す。
第6回	インターンシップ実習(2週間) 「1日を振り返り、日報を作成する」	予習:実習先からの案内・指示を再確認し、日葡作成と翌日の準備をする。 復習:実習をふり返り、レポート作成にむけ準備をする。
第7回	体験レポート提出 「実習を振り返り、自分の活動をまとめる。」	予習:日報を読み返す。 復習:発表にむけた準備をする。
第8回	学内成果発表会での発表 「プレゼンテーション能力の強化を図る。」	予習:発表内容を確認し、資料の準備と台本を作成しリハーサルをする。 復習:発表について自己評価し、他人からの意見をもらう。
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名(クラス)	インターンシップⅡ			開講学期		単位数	2	配当年次	3
担当教員	キャリア支援センター	実務家教員	○	履修対象・条件	選択				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>夏季休暇期間を利用して、行政機関や一般企業において実際に就業実務を体験してみることで、現実 に働くとはどういうことなのかを知り、卒業後の自分を考える機会としてほしい。 2週間の就業体験を通して社会を知り、己を知ることで就職活動への心構えを養うことができる。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>学生が就業体験を通して、企業や社会の実情を知ること、仕事に対する興味や関心を高め、自らの 適性や適職を考え、職業選択につなげる。 実際の体験を自ら多くの人前で発表することで、プレゼンテーション能力を向上させる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>事前の研修・セミナー出席と現場での実習、事後のレポート提出と学内発表会での成果発表を要件とする。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・参加希望者はキャリア支援センターに参加申込書を提出すること。 ・インターンシップの受入先が限られており、希望者が多い場合は、選考のうえ受入先が決定した時点で登録となります。 ・独自に希望する研修先の場合も学校指定同様の形式・基準に従い、事前申請するものとする。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>インターンシップを実際に体験することが大前提となります。且つ以下の条件を満たした者に単位を認定する。 ※指定の事前研修に出席すること。 ※2週間(実質10日間以上)の実習をおこなうこと。 ※体験レポートを提出すること。 ※インターンシップ体験先の外部評価が著しく低くない事。 ※学内発表会で成果を発表すること。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別紙掲示にて発表									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									
【授業計画・内容・準備学習】									

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンスにて、インターンシップ実施の目的、意義、手続き、スケジュールなどの説明。	予習: インターンシップに対しての自分の目的を明確にする。 復習: 配布資料を読み返し、内容を理解し、スケジュールを確認する。
第2回	募集開始: 希望学生は参加申込書を提出。 「自分の目的と研修先の整合性を考える。」	予習: 参加した先輩などから行先の情報を入手する。 復習: 研修先について自分なりに企業について調べてみる。
第3回	事前研修①インターンシップ参加の心構え、就業活動全般について 「就職活動の中でのインターンシップの位置づけを理解する。」	予習: 就活スタートを意識する。 復習: 自分なりのスケジュールを作成する。
第4回	事前研修②マナー講座受講 「社会人としてのルール・マナーを身につける。」	予習: 参加にあたっての心構えを考えておく。 復習: 配布された資料・マニュアルを読み返す。
第5回	事前研修③: 具体的活動にむけた準備。 「実習先のことを知る。注意事項伝達など」	予習: 研修の目的を考えておく。 復習: 配布された資料・マニュアルを読み返す。
第6回	インターンシップ実習(2週間) 「1日を振り返り、日報を作成する」	予習: 実習先からの案内・指示を再確認し、日葡作成と翌日の準備をする。 復習: 実習をふり返り、レポート作成にむけた準備をする。
第7回	体験レポート提出 「実習を振り返り、自分の活動をまとめる。」	予習: 日報を読み返す。 復習: 発表にむけた準備をする。
第8回	学内成果発表会での発表 「プレゼンテーション能力の強化を図る。」	予習: 発表内容を確認し、資料の準備と台本を作成しリハーサルをする。 復習: 発表について自己評価し、他人からの意見をもらう。
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名(クラス)	地域創造① I A・B		開講学期		単位数	1	配当年次	1～3	
担当教員	澤 敦	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>南古谷ウィンドオーケストラ(川越市内の中学生を中心に組織した吹奏楽団)の指導を通して、中学生に対しての演奏指導、並びにこの活動に関わる地域の方々(自治会・子供サポート隊等)との連携を学ぶ。そして、この活動において、生徒指導・学習指導等、教員に必要なスキルを実地体験として、身に付けると同時に、人の「和」の大切さを実感として学ぶ。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>中学生の心を理解し、「指導」という世界に深く興味と研究心を持ち、自信を持って教員に向かってゆく人材の育成を目標とする。また、人を重んじ、大切にすることを心を持つ人格を植付けることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演奏、実習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
常に自分の目標や意欲をしっかりと保って参加して欲しい。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・指導に対して取り組む姿勢50% ・指導実績50% 									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	
6	生徒指導の面において ・現場に対応した事前指導 ・教育等現場の事前知識の取得 ・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得
7	演奏指導の面において ・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得 ・成果の発表
8	
9	
10	
11	
12	生徒指導の面において ・現場に対応した事前指導 ・教育等現場の事前知識の取得 ・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得
1	演奏指導の面において ・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得 ・成果の発表
2	
3	

【コンサート予定】

7月:定期演奏会
 9月:ジャズ・フェスティバル
 1月:ニューイヤー・コンサート

科目名(クラス)	地域創造①ⅡA・B		開講学期		単位数	1	配当年次	2~4	
担当教員	澤 敦	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>南古谷ウィンドオーケストラ(川越市内の中学生を中心に組織した吹奏楽団)の指導を通して、中学生に対しての演奏指導、並びにこの活動に関わる地域の方々(自治会・子供サポート隊等)との連携を学ぶ。そして、この活動において、生徒指導・学習指導等、教員に必要なスキルを実地体験として、身に付けると同時に、人の「和」の大切さを実感として学ぶ。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>中学生の心を理解し、「指導」という世界に深く興味と研究心を持ち、自信を持って教員に向かってゆく人材の育成を目標とする。また、人を重んじ、大切にすることを心を持つ人格を植付けることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演奏、実習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
常に自分の目標や意欲をしっかりと保って参加して欲しい。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・指導に対して取り組む姿勢50% ・指導実績50% 									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	
6	生徒指導の面において ・現場に対応した事前指導 ・教育等現場の事前知識の取得 ・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得
7	演奏指導の面において ・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得 ・成果の発表
8	
9	
10	
11	
12	生徒指導の面において ・現場に対応した事前指導 ・教育等現場の事前知識の取得 ・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得
1	演奏指導の面において ・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得 ・成果の発表
2	
3	

【コンサート予定】

7月:定期演奏会
 9月:ジャズ・フェスティバル
 1月:ニューイヤー・コンサート

科目名(クラス)	地域創造② I A・B		開講学期		単位数	1	配当年次	1～3	
担当教員	粕谷 宏美	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>地域の学校教育現場において、教科指導・学校行事・郊外活動等引率業務、及び部活動等の課外活動全般にわたり補助活動を行い、地域の児童・生徒とのふれあい体験を行う。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>地域及び学校等を理解し、教員としての資質能力を高める。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>実習</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>事前指導にもとづき、地域の学校教育現場で指導者や児童、生徒としっかりコミュニケーションをとること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>教育現場等の評価、及び成果の発表等を総合的に判断して評価する。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ～ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・現場に対応した事前指導 ・教育現場等の事前知識・情報の取得 ・学校現場での教員とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ・成果の発表
7	
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・現場に対応した事前指導 ・教育現場等の事前知識・情報の取得 ・学校現場での教員とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ・成果の発表
11	
12	
1	
2	
3	
3	

科目名(クラス)	地域創造②ⅡA・B		開講学期		単位数	1	配当年次	2~4	
担当教員	粕谷 宏美	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>地域の学校教育現場において、教科指導・学校行事・郊外活動等引率業務、及び部活動等の課外活動全般にわたり補助活動を行い、地域の児童・生徒とのふれあい体験を行う。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>地域及び学校等を理解し、教員としての資質能力を高める。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>実習</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>事前指導にもとづき、地域の学校教育現場で指導者や児童、生徒としっかりコミュニケーションをとること。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>教育現場等の評価、及び成果の発表等を総合的に判断して評価する。</p>									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・現場に対応した事前指導 ・教育現場等の事前知識・情報の取得 ・学校現場での教員とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ・成果の発表
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・現場に対応した事前指導 ・教育現場等の事前知識・情報の取得 ・学校現場での教員とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ・成果の発表
2	
3	
3	

科目名(クラス)	演奏演習			開講学期		単位数	2	配当年次	4
担当教員	荻久保 和明	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>この授業は、10月に行う、外国での演奏旅行のためのものである。参加する4年次生全員の中から選ばれたソロ奏者、参加メンバーによる器楽合奏、及びその伴奏による合唱との協演です。その国の曲と日本の曲で構成し、文化交流の一端を担うべく音楽のアンサンブルを磨くものである。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	/		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>外国での演奏会の成功のために何をすべきか。音楽の力が世界に通用することを証明することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>演習。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>良く暗譜し、指揮者の放つ激しい緊張感についてきてもらいたい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業内評価(演奏への取り組み)、レポート。</p>									
教科書	コピー譜配布(オリジナルアレンジ)			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第2回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第3回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第4回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第5回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第6回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第7回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第8回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第9回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第10回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第11回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第12回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第13回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第14回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと
第15回	音取りとアンサンブル練習	各自良く譜面を読み込んでおくこと

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習 I A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	湯浅 恭子	実務家教員	履修対象・条件					
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>・本講義ではMacコンピュータを中心に使い、基本操作から順に進めていきます。自分で音楽を作りたい人はもちろん、コンピュータを自分の生活・音楽活動でより有効活用したいと思っている人、何か自分の中にあるものを形にしたい人は一緒に学んでいきましょう。</p> <p>・「音楽を創る」視点から音楽を学び、音楽の要素を再認識することで、自己の表現力の向上につなげます。</p> <p>・コンピュータを活用しながら、「情報を整理する」「考え方を身につける」を学びます。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>・Macコンピュータ、音楽制作ソフトウェアの基本操作ができる。</p> <p>・コンピュータを用いて情報整理ができる。</p> <p>・その考え方をコンピュータ以外でも活用することができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
演習形式・講義形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。</p> <p>・授業は演習が中心となります。欠席や遅刻、早退をしないことを原則とします。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>・授業への参加度(積極性・演習課題への取り組み) 50%</p> <p>・講義時の提出課題 25%</p> <p>・期末課題制作 25%</p>								
教科書	授業内でプリントを配布			著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(16 時 00 分 ~ 16 時 20 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	演習室システムについて Mac OSとソフトウェア・ハードウェア 「アイデアをかたちにする」	予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習:「アイデアをかたちにする」方法を試す。
第2回	Mac OSの基本動作(1) 情報の整理:フォルダの活用、階層について	予習:配布テキストで前回の内容の確認を行い、整理する。 復習:身近な情報機器での情報整理や保存の方法を調べる。
第3回	Mac OSの基本動作(2) Macコンピュータでの情報共有	予習:配布テキストで前回の内容の確認を行い、整理する。 復習:身近な情報機器での情報共有の方法を調べる。
第4回	Digital Performerに関する基本動作(1) MIDI音源の音色①ハードウェア音源	予習:配布テキストで前回の内容の確認を行い、整理する。 復習:ハードウェア音源の音色に関する資料をまとめる。
第5回	Digital Performerに関する基本動作(2) MIDI音源の音色②ソフトウェア音源	予習:配布テキストで前回の内容の確認を行い、整理する。 復習:ソフトウェア音源の音色に関する資料をまとめる。
第6回	MotifとMotifの発展(1) -与えられたMotifを使って 音の傾向性	予習:配布テキストで前回の内容の確認を行い、整理する。 復習:「Motifの発展」の観点から楽曲の分析を行う。
第7回	MotifとMotifの発展(2) -自作Motifを使って Digital Performerに関する基本動作(3) ・拍子、テンポのコントロール	予習: Motif(2~4小節程度)を作成する。 譜面におこす。 復習:授業で扱った手法を使ってMotifを発展させる。
第8回	MotifとMotifの発展(3) -Syncopation Digital Performerに関する基本動作(4) ・「tics」の概念とイベントリスト	予習:「Syncopation」の使われているメロディを探して、その効果を考察する。 復習:「Syncopation」のさまざまな手法を使ってMotifを発展させる。
第9回	MotifとMotifの発展(4) -Approach note(装飾音)	予習:「Approach note」の使われているメロディを探して、その効果を考察する。 復習:「Approach note」のさまざまな手法を使ってMotifを発展させる。
第10回	MotifからMelody、楽曲へ MIDIデータとAudioデータ	予習:配布テキストで前回の内容の確認を行い、整理する。 復習:授業内で学んだ展開方法を確認し、楽曲の全体像を計画する。
第11回	課題制作-1 Digital Performerに関する基本動作(5) ・音の修正変更① 音の縦軸/長さに関して	予習:楽曲の全体像を計画する。 復習:授業内で作成した楽曲データを聴き、展開を考える。
第12回	課題制作-2 Digital Performerに関する基本動作(6) ・音の修正変更② dynamics/繰り返し/音程に関して	予習:配布テキストで前回の内容の確認を行い、整理する。 復習:授業内で作成した楽曲データを聴き、展開を考える。
第13回	課題制作-3	予習:アイデアを譜面またはデータに起こす。 復習:授業内で作成した楽曲データを聴き、展開を考える。譜面を作成する。
第14回	課題制作-4	予習:アイデアを譜面またはデータに起こす。 復習:授業内で作成した楽曲データを聴き、展開を考える。譜面を作成する。
第15回	まとめと課題提出	予習:制作楽曲の譜面を作成する。 復習:この学期で配布されたテキスト内容の確認と整理。

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習 I B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	湯浅 恭子	実務家教員	履修対象・条件					
【授業の概要】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータミュージック I Aで修得したDigital Performerの基本操作をふまえ、細かな編集を学びながら楽曲を制作します。 ・「コンピュータだからできること」「コンピュータではできないこと」を理解し、その有効活用について考察します。 ・本講義で修得した「考え方」を、他のOSやソフトウェア、またコンピュータ以外のことに応用できるよう理解を深めます。 								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽制作ソフトウェアの基本操作、編集作業ができる。 ・コンピュータを用いて音楽情報の分解・統合・再構築ができる。 ・情報整理のしかたをコンピュータ以外の場面にも活用することができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
演習形式・講義形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。 ・授業は演習が中心となります。欠席や遅刻、早退をしないことを原則とします。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度(積極性・演習課題への取り組み) 50% ・講義時の提出課題 25% ・期末課題制作 25% 								
教科書	授業内でプリントを配布			著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(16 時 00 分 ~ 16 時 20 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Digital Performerの基本動作の確認 リズムセクション(1) ポピュラーミュージックにおけるリズムセクション	予習: シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習: 授業で紹介された参考音源を聴く。さまざまなスタイルの特徴をつかむ。
第2回	Digital Performer 便利な機能の活用① リズムセクション(2) リズムパート	予習: 参考音源のリズムパートに着目して聴く。 復習: 参考音源のリズムパートを再現する、または譜面におこす。
第3回	Digital Performer 便利な機能の活用② リズムセクション(3) ベースパート	予習: 参考音源のベースパートに着目して聴く。 復習: 参考音源のベースパートを再現する、または譜面におこす。
第4回	リズムセクション(4) Chordについて①	予習: 参考音源のハーモニーパートに着目して聴く。 復習: Chordに関するプリント課題を行う。配布テキストの整理と確認をする。
第5回	リズムセクション(5) Chordについて②	予習: 前回の授業で扱ったChordの構成と響きをピアノなどを用いて確認する。 復習: Chordに関するプリント課題を行う。
第6回	リズムセクションを活用した楽曲制作-1	予習: 制作する楽曲のスタイルや編成を考える。 復習: 制作する楽曲に関する参考音源を聴く。
第7回	リズムセクションを活用した楽曲制作-2	予習: 楽曲に用いる楽器の特性を調べる。 復習: 授業内で作成した楽曲データを聴き、展開を考える。
第8回	リズムセクションを活用した楽曲制作-3	予習: 課題に用いる楽器の特性を調べる。 復習: リズムセクションの役割と、楽曲制作への応用を、テキストと制作した課題で確認する。
第9回	リズムセクションを活用した楽曲制作-4	予習: 課題に用いる楽器の特性を調べる。 復習: リズムセクションの役割と、楽曲制作への応用を、テキストと制作した課題で確認する。
第10回	期末提出課題の提示 課題制作-1	予習: これまでに学んだ作曲の手法を、テキスト・制作した課題で確認する。 復習: 提示された期末課題の構成を考える。
第11回	課題制作-2	予習: 制作する曲の制作手順と編成を考える。用いる楽器の特性を調べる。 復習: 今回の授業での制作進行をふまえ、制作手順と編成を再確認する。
第12回	課題制作-3	予習: 必要に応じて譜面での準備をする。 復習: 授業内で作成した楽曲データを聴き、展開を考える。
第13回	課題制作-4	予習: 必要に応じて譜面での準備をする。 復習: 授業内で作成した楽曲データを聴き、展開を考える。
第14回	課題制作-5	予習: 課題提出に向けて全体の構想をまとめる。 復習: 今回の授業までの制作進行を、「全体」と「細部」の両面から振り返り、修正を行う。
第15回	まとめと課題提出	予習: 課題提出に向けて全体の構想をまとめる。 復習: 各回を振り返り、自分の音楽表現や伝え方への活用を考察する。

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習ⅡA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1~4	
担当教員	湯浅 恭子	実務家教員	履修対象・条件						
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>・コンピュータミュージック演習Ⅰを通じて習得した「音楽を観る視点」を広げていきます。「楽器」「楽音」以外の「音」を取り扱うこと、また「画像」「映像」などの他メディアと音楽との関わりについて考察し、実践します。</p> <p>・コンピュータを利用して「情報を分解する」「情報を統合する」ことを学び、それらを音楽活動や日常生活に応用する思考を身につけます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・楽器、楽音以外の「音」への視点を広げ、音楽表現へ活用できる。</p> <p>・音楽と「画像」「映像」などのメディアとの関わりを理解することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
演習形式・講義形式									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。</p> <p>・授業は演習が中心となります。欠席や遅刻、早退をしないことを原則とします。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業への参加度(積極性・演習課題への取り組み) 50%</p> <p>・講義時の提出課題 25%</p> <p>・期末課題制作 25%</p>									
教科書	授業内でプリントを配布			著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(16 時 00 分 ~ 16 時 20 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Digital Performerの基本動作の復習と確認 授業での制作内容と方法についての概説	予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習:制作物のアイデアを挙げ記録する。
第2回	音とアナログ・デジタルについて 楽音(楽器)以外の「音」を用いた楽曲	予習:「アナログ・デジタル」について調べる。 復習:楽音以外の「音」を用いた楽曲の参考音源を聴く。
第3回	録音について オーディオデータの採集	予習:音素材を自分の持っている機器で録音する。 復習:音声録音の方法を確認する。 収集した素材の活用方法を考える。
第4回	オーディオデータの編集(1) データの取り込みと加工	予習:作品に取り込む音素材を自分の持っている機器で録音採集する。 復習:音声編集の方法を確認する。 収集した素材の活用方法を考える。
第5回	オーディオデータの編集(2) エフェクトの利用①	予習:作品に取り込む音素材を自分の持っている機器で録音採集する。 復習:音声編集の方法を確認する。 収集した素材の活用方法を考える。
第6回	オーディオデータの編集(3) エフェクトの利用②	予習:自分の持っている情報機器で利用できる「音楽に関わるソフトウェア」を調べる。 復習:オーディオ編集と作品制作を振り返り、楽音以外の「音表現」の可能性を考察する。
第7回	マルチメディアについて(1) -音・音楽と画像・動画の関係	予習:身近な映像を、音楽の役割や効果に着目して観る。気づいたことをまとめる①。 復習:授業で紹介された映像を観る。音・音楽の効果について考えを文章にまとめる。
第8回	マルチメディアについて(2) -音・音楽と画像・動画の関係	予習:身近な映像を、音楽の役割や効果に着目して観る。気づいたことをまとめる②。 復習:自分の好きな映像作品を1つ取り上げ、映像と音・音楽の関わりをまとめる。
第9回	マルチメディアについて(3) -タブレット端末、スマートフォンの活用	予習:自分の持っている情報機器で利用できる「音楽に関わるソフトウェア」を調べる。 復習:授業で取り上げたソフトウェア、またはそれに類似したものを利用し考察する。
第10回	音楽制作ソフトウェアでの映像同期について	予習:課題制作で利用する映像をよく観て選択肢から選ぶ。 復習:制作する作品の全体像を整理する。 次回の授業での進行計画を立てる。
第11回	期末提出課題の提示 課題制作-1	予習:授業で紹介された映像を参考に、課題作品に取り入れる素材を考える。 復習:次回の授業での進行計画を立てる。
第12回	課題制作-2	予習:必要に応じて、音の素材を録音収集する。 復習:次回の授業での進行計画を立てる。
第13回	課題制作-3	予習:必要に応じて、音の素材を録音収集する。 復習:制作中間段階での、作品の全体像を整理する。
第14回	課題制作-4	予習:課題提出に向け作品レポートを作成する。 復習:次回の授業での進行計画を立てる。
第15回	まとめと課題提出	予習:課題提出に向け作品レポートを作成する。 復習:授業で学んだことを活用し、「音と映像」の関係を意識した映像の見方を取り入れる。「音」の役割や効果について考察する。

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習ⅡB		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	湯浅 恭子	実務家教員	履修対象・条件					
【授業の概要】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・「画像」「映像」を取り扱い、その表現方法を学びます。そのうえで「音楽の表現」について見つけ、「曲をつくる」「演奏する」といった自己の音楽表現や、音楽の聴き方の視点を広げます。 ・表現したいこと(テーマ)を明確にして、どのように表現すれば自身が考えるように伝わるのかを考察します。 ・「制作の計画を立てる→実行する→確認する→修正する」を通じて、企画の進め方の基本について学びます。 								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を伝える、形にすることについての理解を深め、自身の表現方法に活用できる。 ・テーマを明確にして、マルチメディアで伝えることができる。 ・評価と改善を繰り返し、計画の修正を行いながら、よりよい表現につなげることができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
演習形式・講義形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。 ・授業は演習が中心となります。欠席や遅刻、早退をしないことを原則とします。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度(積極性・演習課題への取り組み) 50% ・講義時の提出課題 25% ・期末課題制作 25% 								
教科書	授業内でプリントを配布			著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・ 金 ・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(16 時 00 分 ~ 16 時 20 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業での制作内容と方法についての概説	予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習:作品制作の流れを確認する。
第2回	画像編集ソフトウェアについて 作品のコンセプトと制作計画の立案① スライドショー	予習:作品制作の内容を考える。 復習:作品制作の計画を立てる。
第3回	スライドショー作成-1 写真・映像データの取り込み 作品レポートについて①	予習:作品制作に必要な素材を集める。 復習:作品レポートを作成する。
第4回	スライドショー作成-2 写真・映像データの編集	予習:作品制作の計画を確認し、必要な素材を集める。 復習:制作計画と授業内での進捗を確認し、必要に応じて修正する。
第5回	スライドショー作成-3 テキストデータの編集	予習:作品制作の計画を確認し、必要な素材を集める。 復習:制作計画と授業内での進捗を確認し、必要に応じて修正する。
第6回	スライドショー作成-4	予習:制作計画の確認をする。 復習:制作計画と授業内での進捗を確認し、必要に応じて修正する。
第7回	スライドショー作成-5	予習:制作計画の確認をする。 復習:完成した動画と制作計画を確認する。
第8回	作品制作計画の立案② スライドショーに合わせて曲をつくる。 作品レポートについて② 楽曲作成-1	予習:楽曲制作の計画を立てる。 復習:作品レポートを作成する。
第9回	楽曲作成-2	予習:制作計画の確認をする。必要に応じて譜面を書く。 復習:制作計画と授業内での進捗を確認し、必要に応じて修正する。
第10回	楽曲作成-3	予習:制作計画の確認をする。必要に応じて譜面を書く。 復習:制作計画と授業内での進捗を確認し、必要に応じて修正する。
第11回	楽曲作成-4	予習:制作計画の確認をする。必要に応じて譜面を書く。 復習:制作計画と授業内での進捗を確認し、必要に応じて修正する。
第12回	楽曲作成-5	予習:制作計画の確認をする。必要に応じて譜面を書く。 復習:制作計画と授業内での進捗を確認し、必要に応じて修正する。
第13回	楽曲作成-6	予習:制作計画の確認をする。必要に応じて譜面を書く。 復習:制作計画と授業内での進捗を確認し、必要に応じて修正する。
第14回	楽曲作成-7 オーディオトラックへの書き出しとMix作業	予習:作品提出に向けてのレポートを整理する。 作品制作計画の確認。 復習:制作計画と授業内での進捗を確認し、必要に応じて修正する。
第15回	まとめと課題提出	予習:作品提出に向けてのレポートを整理する。 復習:最終課題の制作計画と進捗を見直し、適切な計画を立てるための考察をする。 自身の音楽表現の方法を探求する。

科目名(クラス)	日本事情 I A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	高岸美代子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目は、日本語を学ぶ来日して間もない外国人留学生を対象としたもので、日本語の背景である日本の風土や現代社会、伝統文化を紹介し、学ぶことによって日本に関する理解を得る。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野を中心とした知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>日本の国土の地理的条件から、日本の伝統文化、日本の社会の現状等を通して日本の国の輪郭を知る。他人の意見を傾聴する態度を養い、個人の考えを尊重して、日本語での聞く力や表現能力を身につける。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式でさらに深く考えさせ、教材によってはレポートを課す。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>日本語の知識、運用能力の向上と日本社会、日本文化への理解を深める。テーマについては、事前に語彙の意味を発表できるようにしておく。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出をもとに、総合的に判断する。</p>								
教科書	日本の地理と社会			著者等	豊田豊子	出版社	凡人社	
教科書	読解厳選テーマ10(中級)			著者等	清水正幸	出版社	凡人社	
参考文献	新聞、その他参考資料等			著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(10 時 40 分 ~ 12 時 10 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション:本科目の学習目標、学習内容、授業方法、評価等授業の紹介、授業を受けるための心得等	予習:シラバスをよく読んでおく
第2回	日本の都市と人口:日本の位置	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第3回	日本の魅力	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第4回	富士山	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第5回	現代日本社会=自動販売機=	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第6回	現代日本社会=ペットブーム=	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第7回	日本の伝統芸能=歌舞伎=	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第8回	日本の文化=日本料理=	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第9回	現代日本社会=生涯未婚率=	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第10回	現代日本社会=男女の役割分担=	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第11回	現代日本社会=ストレス=	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第12回	日本のサブカルチャー=アニメ・漫画=	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第13回	現代日本社会=新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第14回	現代日本社会=新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第15回	日本事情まとめ	レポート作成、提出

科目名(クラス)	日本事情 I B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	高岸美代子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目は、日本語を学ぶ来日して間もない外国人留学生を対象としたもので、日本語の背景である日本の風土や現代社会、伝統文化を紹介し、学ぶことによって日本についての理解を得る。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野を中心とした知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>日本の国土の地理的条件から、日本の伝統文化、日本の社会の現状等を通して日本の国の輪郭を知る。他人の意見を傾聴する態度を養い、個人の考えを尊重して、日本語での聞く力や表現能力を身につける。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式でさらに深く考えさせ、教材によってはレポートを課す。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>日本語の知識、運用能力の向上と日本社会、日本文化への理解を深める。テーマについては、事前に語彙の意味を発表できるようにしておく。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出をもとに、総合的に判断する。</p>								
教科書	日本の地理と社会			著者等	豊田豊子	出版社	凡人社	
教科書	読解厳選テーマ10(中級)			著者等	清水正幸	出版社	凡人社	
参考文献	新聞、その他参考資料等			著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(10 時 40 分 ~ 12 時 10 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	現代日本社会＝日本語について＝	予習:現代日本社会について考えておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第2回	現代日本社会＝東日本大震災＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第3回	日本の伝統芸能＝狂言＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第4回	現代日本社会＝ロボット＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第5回	現代日本社会＝日本の未来＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第6回	日本の文化＝昔話＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第7回	日本の文学＝昔話＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第8回	現代日本社会＝日本人と時間＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第9回	現代日本社会＝日本人と時間＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第10回	日本の文学＝高瀬舟＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第11回	日本の文学＝高瀬舟＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第12回	現代日本社会＝新聞記事から＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第13回	現代日本社会＝新聞記事から＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第14回	現代日本社会＝新聞記事から＝	予習:テーマについて概要を調べておく 復習:授業で学んだことをよく理解しておく
第15回	「日本事情」の授業を振り返って	レポート作成、提出

科目名(クラス)	日本事情ⅡA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	高岸美代子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語を学ぶ外国人留学生を対象としたもので、日本語の背景である日本の社会や文化をより深く学ぶことによって日本に関する理解を得、自国の社会や文化との比較によって国際的な視野を養う。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野を中心とした知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語能力上級レベルの学習者を対象にしたもので、日本語の運用能力を高め、思考力、表現力を育てると共に、日本の社会や文化への理解を深め、国際的な視野を育てることを目的とする。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式でさらに深く考えさせ、教材によっては感想文、意見文、レポートを課す。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>日本語の運用能力を高め、日本社会や文化への理解を深めると共に国際的な視野で考え、意見交換ができる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出をもとに、総合的に判断する。</p>								
教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes			
教科書	読解厳選テーマ10(中上級)	著者等	清水正幸	出版社	凡人社			
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(12時40分～14時10分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション:本科目の学習目標、学習内容、授業方法、評価等授業の紹介、授業を受けるための心得等	予習:シラバスをよく読んでおく
第2回	現代日本社会＝日本の自然＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第3回	現代日本社会＝東日本大震災＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第4回	現代日本社会＝観光＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第5回	日本のサブカルチャー＝アニメ・漫画＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第6回	日本のサブカルチャー＝アニメ・漫画＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第7回	現代日本社会＝ストレス＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第8回	現代日本社会＝ストレス＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第9回	日本の伝統芸能＝狂言＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第10回	現代日本社会＝IT社会＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第11回	現代日本社会＝IT社会＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第12回	現代日本社会＝スポーツ＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第13回	現代日本社会＝オリンピック＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第14回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第15回	日本事情まとめ	レポート作成、提出

科目名(クラス)	日本事情ⅡB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	高岸美代子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語を学ぶ外国人留学生を対象としたもので、日本語の背景である日本の社会や文化をより深く学ぶことによって日本に関する理解を得、自国の社会や文化との比較によって国際的な視野を養う。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野を中心とした知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語能力上級レベルの学習者を対象にしたもので、日本語の運用能力を高め、思考力、表現力を育てると共に、日本の社会や文化への理解を深め、国際的な視野を育てることを目的とする。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式でさらに深く考えさせ、教材によっては感想文、意見文、レポートを課す。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>日本語の運用能力を高め、日本社会や文化への理解を深めると共に国際的な視野で考え、意見交換ができる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。</p>								
教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes			
教科書	読解厳選テーマ10(中上級)	著者等	清水正幸	出版社	凡人社			
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(12時40分～14時10分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	日本の歴史	予習:シラバスをよく読んでおく 復習:授業で学んだことをまとめておく
第2回	外国との交流から見た日本の歴史	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第3回	現代日本社会＝カワイイ文化＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第4回	現代日本社会＝カワイイ文化＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第5回	日本の文化＝食文化(回転ずし)＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第6回	日本の文化＝食文化(カップめん)＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第7回	日本と世界	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第8回	日本と世界	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第9回	日本の文化＝短詩型文学	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第10回	日本の文化＝短詩型文学	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第11回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第12回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第13回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第14回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第15回	日本事情まとめ	レポート作成、提出

科目名(クラス)	日本事情ⅢA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	高岸美代子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語を学ぶ外国人留学生を対象としたもので、日本語の背景である日本の社会や文化をより深く学ぶことによって日本についての理解を得、自国の社会や文化との比較によって国際的な視野を養う。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野を中心とした知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語能力上級レベルの学習者を対象にしたもので、日本語の運用能力を高め、思考力、表現力を育てると共に、日本の社会や文化への理解を深め、国際的な視野を育てることを目的とする。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式でさらに深く考えさせ、教材によっては感想文、意見文、レポートを課す。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>日本語の運用能力を高め、日本社会や文化への理解を深めると共に国際的な視野で考え、意見交換ができる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。</p>								
教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes			
教科書	読解厳選テーマ10(中上級)	著者等	清水正幸	出版社	凡人社			
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(12 時 40 分 ~ 14 時 10 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション:本科目の学習目標、学習内容、授業方法、評価等授業の紹介、授業を受けるための心得等	予習:シラバスをよく読んでおく
第2回	現代日本社会＝日本の自然＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第3回	現代日本社会＝東日本大震災＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第4回	現代日本社会＝観光＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第5回	日本のサブカルチャー＝アニメ・漫画＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第6回	日本のサブカルチャー＝アニメ・漫画＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第7回	現代日本社会＝ストレス＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第8回	現代日本社会＝ストレス＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第9回	日本の伝統芸能＝狂言＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第10回	現代日本社会＝IT社会＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第11回	現代日本社会＝IT社会＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第12回	現代日本社会＝スポーツ＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第13回	現代日本社会＝オリンピック＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第14回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第15回	日本事情まとめ	レポート作成、提出

科目名(クラス)	日本事情ⅢB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	高岸美代子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語を学ぶ外国人留学生を対象としたもので、日本語の背景である日本の社会や文化をより深く学ぶことによって日本についての理解を得、自国の社会や文化との比較によって国際的な視野を養う。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野を中心とした知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語能力上級レベルの学習者を対象にしたもので、日本語の運用能力を高め、思考力、表現力を育てると共に、日本の社会や文化への理解を深め、国際的な視野を育てることを目的とする。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式でさらに深く考えさせ、教材によっては感想文、意見文、レポートを課す。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>日本語の運用能力を高め、日本社会や文化への理解を深めると共に国際的な視野で考え、意見交換ができる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。</p>								
教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes			
教科書	読解厳選テーマ10(中上級)	著者等	清水正幸	出版社	凡人社			
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(12 時 40 分 ~ 14 時 10 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	日本の歴史	予習:シラバスをよく読んでおく 復習:授業で学んだことをまとめておく
第2回	外国との交流から見た日本の歴史	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第3回	現代日本社会＝カワイイ文化＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第4回	現代日本社会＝カワイイ文化＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第5回	日本の文化＝食文化(回転ずし)＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第6回	日本の文化＝食文化(カップめん)＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第7回	日本と世界	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第8回	日本と世界	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第9回	日本の文化＝短詩型文学	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第10回	日本の文化＝短詩型文学	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第11回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第12回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第13回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第14回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第15回	日本事情まとめ	レポート作成、提出

科目名(クラス)	日本事情ⅣA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	高岸美代子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語を学ぶ外国人留学生を対象としたもので、日本語の背景である日本の社会や文化をより深く学ぶことによって日本についての理解を得、自国の社会や文化との比較によって国際的な視野を養う。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野を中心とした知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語能力上級レベルの学習者を対象にしたもので、日本語の運用能力を高め、思考力、表現力を育てると共に、日本の社会や文化への理解を深め、国際的な視野を育てることを目的とする。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式でさらに深く考えさせ、教材によっては感想文、意見文、レポートを課す。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>日本語の運用能力を高め、日本社会や文化への理解を深めると共に国際的な視野で考え、意見交換ができる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。</p>								
教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes			
教科書	読解厳選テーマ10(中上級)	著者等	清水正幸	出版社	凡人社			
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(12時40分～14時10分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション:本科目の学習目標、学習内容、授業方法、評価等授業の紹介、授業を受けるための心得等	予習:シラバスをよく読んでおく
第2回	現代日本社会＝日本の自然＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第3回	現代日本社会＝東日本大震災＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第4回	現代日本社会＝観光＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第5回	日本のサブカルチャー＝アニメ・漫画＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第6回	日本のサブカルチャー＝アニメ・漫画＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第7回	現代日本社会＝ストレス＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第8回	現代日本社会＝ストレス＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第9回	日本の伝統芸能＝狂言＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第10回	現代日本社会＝IT社会＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第11回	現代日本社会＝IT社会＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第12回	現代日本社会＝スポーツ＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第13回	現代日本社会＝オリンピック＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第14回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第15回	日本事情まとめ	レポート作成、提出

科目名(クラス)	日本事情IVB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	高岸美代子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語を学ぶ外国人留学生を対象としたもので、日本語の背景である日本の社会や文化をより深く学ぶことによって日本に関する理解を得、自国の社会や文化との比較によって国際的な視野を養う。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野を中心とした知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>本科目は日本語能力上級レベルの学習者を対象にしたもので、日本語の運用能力を高め、思考力、表現力を育てると共に、日本の社会や文化への理解を深め、国際的な視野を育てることを目的とする。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式でさらに深く考えさせ、教材によっては感想文、意見文、レポートを課す。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>日本語の運用能力を高め、日本社会や文化への理解を深めると共に国際的な視野で考え、意見交換ができる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。</p>								
教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes			
教科書	読解厳選テーマ10(中上級)	著者等	清水正幸	出版社	凡人社			
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯(12 時 40 分 ~ 14 時 10 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	日本の歴史	予習:シラバスをよく読んでおく 復習:授業で学んだことをまとめておく
第2回	外国との交流から見た日本の歴史	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第3回	現代日本社会＝カワイイ文化＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第4回	現代日本社会＝カワイイ文化＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第5回	日本の文化＝食文化(回転ずし)＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第6回	日本の文化＝食文化(カップめん)＝	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第7回	日本と世界	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第8回	日本と世界	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第9回	日本の文化＝短詩型文学	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第10回	日本の文化＝短詩型文学	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第11回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第12回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第13回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第14回	現代日本社会＝新聞記事から	予習:テーマについては事前に言葉の意味を調べ疑問点を設定しておく。 復習:授業で学んだことをまとめておく
第15回	日本事情まとめ	レポート作成、提出

担当教員	日本語1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	一林 久美子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習し使えるようにしていく。 ・背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。 ・教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文、文章を読んで理解することができる。 ・教室や身の回りなど、日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要な情報を聞き取ることができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト) 80% 									
教科書	日本語N5文法・読解まるごとマスター			著者等	水谷信子	出版社	Jリサーチ出版		
教科書	漢字・語彙が弱いあなたへ			著者等	足立章子他	出版社	凡人社		
参考文献	聴いて覚える話し方 日本語生中継・初中級編1			著者等	ボイクマン総子他	出版社	くろしお出版		
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。
第2回	L1-5	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	L6-10	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第4回	L11-15	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	L16-20	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	まとめと復習 L1-20 読解1, 2	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。
第7回	L21-25	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第8回	L26-30	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第9回	まとめと復習 L21-30 読解3, 4	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。
第10回	L31-35	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	L36-40	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	まとめと復習 L31-40 読解5	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。
第13回	総合まとめと期末テスト(聴解中心)	N5の語彙・文法をまとめ、特に聞いて話せるようにする。
第14回	総合まとめと期末テスト(読解中心)	N5の語彙・文法をまとめ、読んで分かるようにする。
第15回	フィードバック	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

担当教員	日本語2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1	
担当教員	一林 久美子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習し使えるようにしていく。 ・背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。 ・教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を読んで理解することができる。 ・日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト) 80% 									
教科書	日本語N4文法・読解まるごとマスター			著者等	水谷信子	出版社	Jリサーチ出版		
教科書	漢字・語彙が弱いあなたへ			著者等	足立章子他	出版社	凡人社		
参考文献	聴いて覚える話し方 日本語生中継・初中級編1			著者等	ポイクマン総子他	出版社	くろしお出版		
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。
第2回	L1-5	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	L6-10	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第4回	L11-15	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	L16-20	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	まとめと復習 L1-20 読解1, 2	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。
第7回	L21-25	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第8回	L26-30	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第9回	まとめと復習 L21-30 読解3, 4	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。
第10回	L31-35	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	L36-40	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	まとめと復習 L31-40 読解5	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。
第13回	総合まとめと期末テスト(聴解中心)	N4の語彙・文法をまとめ、特に聞いて話せるようにする。
第14回	総合まとめと期末テスト(読解中心)	N4の語彙・文法をまとめ、読んで分かるようにする。
第15回	フィードバック	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

担当教員	日本語3		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	一林 久美子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習し使えるようにしていく。 ・背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。 ・教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。 ・新聞の見出しなどから情報の概要をつかむことができる。 ・日常的な場面で目にする難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば要旨を理解することができる。 ・日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・各單元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト) 80% 									
教科書	日本語N3文法・読解まるごとマスター			著者等	水谷信子	出版社	Jリサーチ出版		
教科書	日本語総まとめ N3語彙			著者等	佐々木仁子他	出版社	アスク		
参考文献	聴いて覚える話し方 日本語生中継・初中級編2			著者等	ポイクマン総子他	出版社	くろしお出版		
参考文献	わかる！話せる！日本語会話 基本文型88			著者等	水谷信子監修	出版社	Jリサーチ		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。
第2回	L1-2	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	L3-4	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第4回	L5-6	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	L7-8	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	L9-10	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	まとめと復習 L1-10 読解1, 2	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができていなかったところを学び理解を進める。
第8回	L11-12	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第9回	L13-14	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	L15-16	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	L17-18	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	L19-20	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	まとめと復習 L11-20 読解3, 4	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができていなかったところを学び理解を進める。
第14回	総合まとめと期末テスト(読解・聴解)	N3の語彙・文法をまとめ、読んで分かるようにする。
第15回	フィードバック	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができていなかったところを学び理解を進める。

担当教員	日本語4		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2	
担当教員	一林 久美子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習し使えるようにしていく。 ・背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。 ・教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。 ・新聞の見出しなどから情報の概要をつかむことができる。 ・日常的な場面で目にする難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば要旨を理解することができる。 ・日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト) 80% 									
教科書	日本語N3文法・読解まるごとマスター			著者等	水谷信子	出版社	Jリサーチ出版		
教科書	日本語総まとめ N3語彙			著者等	佐々木仁子他	出版社	アスク		
参考文献	聴いて覚える話し方 日本語生中継・初中級編2			著者等	ポイクマン総子他	出版社	くろしお出版		
参考文献	わかる！話せる！日本語会話 基本文型88			著者等	水谷信子監修	出版社	Jリサーチ		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。
第2回	L21-22	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	L23-24	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第4回	L25-26	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	L27-28	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	L29-30	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	まとめと復習 L21-30 読解5, 6	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができていなかったところを学び理解を進める。
第8回	L31-32	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第9回	L33-34	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	L35-36	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	L37-38	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	L39-40	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	まとめと復習 L31-40 読解7, 8	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができていなかったところを学び理解を進める。
第14回	総合まとめと期末テスト(読解・聴解)	N3の語彙・文法をまとめ、読んで分かるようにする。
第15回	フィードバック	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができていなかったところを学び理解を進める。

担当教員	日本語5		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3	
担当教員	一林 久美子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習し使えるようにしていく。 ・背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。 ・教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章のに内容を理解することができる。 ・一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。 ・日常的な場面に加えて、幅広い場面で自然に近いスピードのまとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。 ・日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話やニュースを聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト) 80% 									
教科書	日本語N2文法・読解まるごとマスター			著者等	水谷信子	出版社	Jリサーチ出版		
教科書	日本語総まとめ N2語彙			著者等	佐々木仁子他	出版社	アスク		
参考文献	聴いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編			著者等	梶本房子他	出版社	くろしお出版		
参考文献	わかる！話せる！日本語会話 発展文型125			著者等	水谷信子監修	出版社	Jリサーチ		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。
第2回	L1-2	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	L3-4	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第4回	L5-6	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	L7-8	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	L9-10	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	まとめと復習 L1-10 読解1, 2	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。
第8回	L11-12	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第9回	L13-14	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	L15-16	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	L17-18	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	L19-20	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	まとめと復習 L11-20 読解3, 4	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。
第14回	総合まとめと期末テスト(読解・聴解)	N2の語彙・文法をまとめ、読んで分かるようにする。
第15回	フィードバック	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

担当教員	日本語6		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3	
担当教員	一林 久美子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習し使えるようにしていく。 ・背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。 ・教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章のに内容を理解することができる。 ・一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。 ・日常的な場面に加えて、幅広い場面で自然に近いスピードのまとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。 ・日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト) 80% 									
教科書	日本語N2文法・読解まるごとマスター			著者等	水谷信子	出版社	Jリサーチ出版		
教科書	日本語総まとめ N2語彙			著者等	佐々木仁子他	出版社	アスク		
参考文献	留学生のためのここが大切 文章表現のルール			著者等	石黒圭他	出版社	スリーAネットワーク		
参考文献	中級からはじめるニュースの日本語 聴解40			著者等	瀬川由美他	出版社	スリーAネットワーク		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。
第2回	L21-22	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	L23-24	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第4回	L25-26	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	L27-28	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	L29-30	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	まとめと復習 L21-30 読解5, 6	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができていなかったところを学び理解を進める。
第8回	L31-32	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第9回	L33-34	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	L35-36	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	L37-38	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	L39-40	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	まとめと復習 L31-40 読解7, 8	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができていなかったところを学び理解を進める。
第14回	総合まとめと期末テスト(読解・聴解)	N2の語彙・文法をまとめ、読んで分かるようにする。
第15回	フィードバック	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができていなかったところを学び理解を進める。

担当教員	日本語7		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4	
担当教員	一林 久美子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習し使えるようにしていく。 ・背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。 ・教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。 ・様々な話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。 ・幅広い場面において自然なスピードのまとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト) 80% 									
教科書	日本語N1文法・読解まるごとマスター			著者等	水谷信子	出版社	Jリサーチ出版		
教科書	日本語総まとめ N1語彙			著者等	佐々木仁子他	出版社	アスク		
参考文献	音楽の文章セミナー			著者等	久保田慶一	出版社	音楽之友社		
参考文献	分かりやすく伝える外来語言い換え手引き			著者等	国立国語研究所	出版社	ぎょうせい		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。
第2回	L1-2	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	L3-4	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第4回	L5-6	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	L7-8	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	L9-10	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	まとめと復習 L1-10 読解1, 2	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを 学び理解を進める。
第8回	L11-12	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第9回	L13-14	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	L15-16	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	L17-18	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	L19-20	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	まとめと復習 L11-20 読解3, 4	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを 学び理解を進める。
第14回	総合まとめと期末テスト(読解・聴解)	N1の語彙・文法をまとめ、読んで分かるようにする。
第15回	フィードバック	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところを 学び理解を進める。

担当教員	日本語8		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	4	
担当教員	一林 久美子	実務家教員	履修対象・条件		外国人留学生のみ履修可				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習し使えるようにしていく。 ・背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。 ・教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。 ・様々な話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。 ・幅広い場面において自然なスピードのまとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト) 80% 									
教科書	日本語N1文法・読解まるごとマスター			著者等	水谷信子	出版社	Jリサーチ出版		
教科書	日本語総まとめ N1語彙			著者等	佐々木仁子他	出版社	アスク		
参考文献	音楽の文章セミナー			著者等	久保田慶一	出版社	音楽之友社		
参考文献	はじめてのビジネス話し方と敬語			著者等	古谷治子他	出版社	インデックス・コミュニケーションズ		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。
第2回	L21-22	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	L23-24	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第4回	L25-26	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	L27-28	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	L29-30	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	まとめと復習 L21-30 読解5, 6	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところ を学び理解を進める。
第8回	L31-32	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第9回	L33-34	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	L35-36	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	L37-38	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	L39-40	予習: 語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習: できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	まとめと復習 L31-40 読解7, 8	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところ を学び理解を進める。
第14回	総合まとめと期末テスト(読解・聴解)	N1の語彙・文法をまとめ、読んで分かる ようにする。
第15回	フィードバック	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: これまで十分な理解ができなかったところ を学び理解を進める。

科目名(クラス)	教職入門			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	西田 康子	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者及び教職実践専攻のみ履修可。必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>教員免許取得を目指すためにこれからの4年間をかけて受講する授業科目についてもふれ、目指す教師像についての理解、教職の意義や教師補役割への理解を深めます。変動していく社会の変化や児童生徒の生活環境、ICTの活用、特別支援教育のしてんからも、学校や教師が果たす役割を考察し、今日の教師に求められる姿勢や資質・能力について考察します。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>教員免許取得に向けた入門科目です。教員免許取得を目指すために教職の意義や教師の役割等の理解を深めます。また、自分の適性を自覚し、目指す教師像を描きながら教師への道を考えるための授業です。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>有効なアクティブラーニング(グループワーク・ディスカッション、ディベート等)方法を積極的に取り入れます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>新聞記事やインターネット、教育雑誌等を活用して日頃の出来事から教育問題について情報収集をしてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> 各テーマにおけるプレゼンテーション能力(30%) 課題レポートの提出及び発表と筆記試験(40%) 授業への積極性(30%) 									
教科書	特に指定はしません。				著者等		出版社		
教科書					著者等		出版社		
参考文献	授業に必要なレジュメや資料は適宜配布します。				著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業概要の説明(履修動機含む)	予習:シラバスの理解をしておく。 復習:教師を目指す動機についてプレゼンできるようにまとめておく
第2回	コミュニケーション能力と教師が児童生徒に与える影響について	予習:人前で発表できるように準備しておく。 復習:教師が子供たちに与える影響について理解し、自らの課題を把握する。
第3回	教職の職務と理解①	予習:教師の勤務、について事前にまとめておく。 復習:教師の仕事とは何かを理解する。
第4回	教職の職務と理解②(各自治体が求める教師像から目指す努力等を探る)	予習:受験したい自治体の求める教師像について調べておく。 復習:教師の資質能力とは何か、大切なことは何かを理解する。
第5回	・地域学校参観事前準備	予習:前時でのまとめとしてグループワークを行う準備 復習:学校視察の概要とまとめ
第6回	学校視察研修(近隣小学校での体験研修)	予習:学校視察研修での授業参観から学んだことをまとめ発表できるようにする。 復習:理想の教師を目指して努力する自己を見つめる
第7回	前半のまとめ(ブックレポートの発表会)	予習:教育関連図書を購読し、重要な点を書き留めておく。読んで理解して相手に伝える手法に慣れる。他者の発表を参考にして教職への視点を深める。
第8回	教師の待遇と勤務条件①	予習:テーマについて適宜資料等で配布するので、文献やインターネット等を活用し必要な知識を得ておく
第9回	教師の待遇と勤務条件②	予習復習:法的な根拠についても基礎知識として得ておく。
第10回	教員の研修	予習復習:テーマについては文献や法的な根拠等で基礎知識として得ておく。
第11回	今日の教育課題①	予習:課題に対して必要な知識を調べておく。 復習:DVD教材から考察しグループ討議を行う。
第12回	今日の教育課題②	予習:課題に対して必要な知識を調べておく。 復習:DVD教材から考察しグループ討議を行う。
第13回	今日の教育課題③	予習:課題に対して必要な知識を調べておく。 復習:DVD教材から考察しグループ討議を行う。
第14回	特別支援教育	予習:テーマについて適宜資料等で配布するので、文献やインターネット等を活用し必要な知識を得ておく
第15回	本科目の総括(最終試験)	教職入門について学んだまとめと論文形式)

科目名(クラス)	教育学概説			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	石橋 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻および音楽療法専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>西洋と日本の教育思想史から教育思想の歴史と概要を捉えるとともに、公教育の変遷、学校教育、家庭教育、社会教育の特徴と関連等について、法規、日本や世界の教育の現状を踏まえて学修する。 また、戦後から現代までの学習指導要領の変遷を考察し、現代日本における公教育の概要を学修する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>・「教育」の概念、思想、歴史の概要をつかみ、学校教育、家庭教育、社会教育の特徴と関連性等を理解できる。 ・戦後から現在までの学習指導要領の変遷から、現代日本における公教育の概要を理解できる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式及び主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の理念に基づく協働及び個別の学修									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
学修の履歴として授業内容をワークシート等に整理して記述し、講義で学んだ概念等について発展的に調べる姿勢が大切です。授業中は、協働的な学修や発表を行っていきますので、意欲的に取り組んでください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・ワークシート等学修の履歴による評価…30% ・授業における主体的な学びの状況や発表内容…10パーセント ・筆記試験…60パーセント</p>									
教科書	中学校学習指導要領－総則編 平成29年7月			著者等	文部科学省	出版社	東山書房		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	教育思想史			著者等	今井 康雄	出版社	有斐閣アルマ		
参考文献	教育の歴史と思想			著者等	石井華代・軽部勝一郎	出版社	ミネルヴァ書房		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時00分 ～ 14時00分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ・教育とは ・授業計画について 教職の意義	予習:シラバスを読んで、興味・関心がある授業内容を選び、その理由を考える。 復習:教育の概念について整理する。
第2回	西洋教育史(古代～近世)ソクラテス、コメニウス、ロック、ルソー	予習:ソクラテス、コメニウス、ロック、ルソーが生存した時期の歴史概観について調べる。 復習:それぞれの思想家の考えや主張の概要と現代教育への影響についてまとめる。
第3回	西洋教育史(近世～近代)ペスタロッチ、ヘルベルト、フレーベル	予習:ペスタロッチ、ヘルベルト、フレーベルが生存した時期の歴史概観について調べる。 復習:それぞれの思想家の考えや主張の概要と現代教育への影響についてまとめる。
第4回	西洋教育史(近代～現代)デューイ、ブルーナー	予習:デューイ、ブルーナーが提唱した教育思想の概要をつかむ。 復習:それぞれの思想家の考えや主張の概要と現代教育への影響についてまとめる。
第5回	日本の教育思想からつかむ現代の教育 ・江戸時代、明治、大正、昭和初期までの教育思想の変遷と特徴	予習:日本の伝統的な教育方法について身近な武道や書道、邦楽等から考察する。 復習:江戸時代の教育、明治時代からの公教育のはじまりと発展についてまとめる。
第6回	日本の学校教育制度の変遷 ・明治、大正、昭和初期 ・戦後から現代	予習:現在における学校の種類を調べる。 復習:学制公布から昭和20年までの学校教育制度と戦後から現代における学校教育制度の変遷について概要をまとめる。
第7回	家庭教育の意義と音楽	予習:家庭教育の特徴について自分の考えをまとめる。 復習:教育基本法に基づいた施策や家庭教育の特徴と義及び課題をまとめる。
第8回	社会教育の意義と音楽	予習:社会教育の特徴について自分の考えをまとめる。 復習:社会教育法の基づいた施策や社会教育の意義及び課題をまとめる。
第9回	学習指導要領の変遷から捉えた学校教育1 ・戦後～高度経済成長期の教育	予習:戦後からの民主教育の特徴と課題を時代背景を踏まえて調べる。 復習:戦後教育の特徴と高度経済成長を支えた教育の役割と諸課題についてまとめる。
第10回	学習指導要領の変遷から捉えた学校教育2 ・20世紀後半～ゆとり教育	予習:バブル景気前後の日本のようすを調べる。 復習:個に応じた教育及びゆとり教育の成果と課題を多面的、多角的に考察し、まとめる。
第11回	学習指導要領の変遷から捉えた学校教育3 ・現行学習指導要領～新学習指導要領	予習:「知識基盤社会」「21世紀型能力」について調べてくる。 復習:現行及び新学習指導要領の概要について、予測困難な時代の状況から考察し、まとめる。
第12回	諸外国の教育制度 ・アメリカ、イギリス、フランス、韓国	予習:アメリカ、イギリス、フランス、韓国の教育制度の内、いずれか1カ国の制度を選択して簡略に調べてくる。 復習:4カ国の教育制度について比較しながら特徴をまとめる。
第13回	学校、家庭、地域の教育の役割と連携 ・音楽教育、部活動、ボランティア活動	予習:学校、家庭、地域が連携して実施されている教育活動を調べる。 復習:学校、家庭、地域が連携する意義と具体的事例についてまとめる。
第14回	新学習指導要領の内容から捉えた、これからの社会における教育	予習:近未来の日本や世界の状況予測について調べる。 復習:主体的・対話的で深い学び、教科等横断的なカリキュラム、資質・能力の3つの柱について、その特徴をまとめる。
第15回	本科目の総括	予習:今までの授業を振り返り、内容を整理する。 復習:教育の概要について体系的に整理する。

科目名(クラス)	教育心理学		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	川久保 惇	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者・教職実践専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>教育心理学とは、乳児期から青年期にかけて、人間の心がどのように成長し、発達していくかを考察することで、効率的な学習方法や効果的な人格形成方法を研究する学問である。子どもの発達と学習を中心とした心理学的知識について、初学者にも分かりやすいように講義する。これまでに蓄積されてきた心理学の知見が実社会にどう生かされてきたかについて説明することで、人の発達には何が重要か、どのような教育が効果的かについて考察する機会を提供する。具体的には、「記憶力がいいとはどういうことか?」、「学習に対するやる気を高めるためにはどうしたらよいか?」、「どのような授業形態がより効果的か?」などの身近な疑問に対する教育心理学的な見方、考え方を解説する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学の基礎知識を学び、教育に関する心理学的な視点を習得することを目指す。 ・受講者自身の人間観・子ども観や、目指す教育者像等についての自己洞察を深める。 ・生徒の心身の発達、及び学習の過程についての知識を身につける。 ・各発達段階における心理的特性を踏まえた学習指導の基礎となる考え方を理解する。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・スライド資料を元にした講義を中心とするが、ディスカッションや映像資料も活用する。 ・毎回の授業終了時に学生にコメントの記載を求め、その内容を全体で共有する。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション等において自分の考えを明確に述べられるよう、各回のテーマに真剣に取り組むことが求められる。 ・心理学的な概念を理解するだけでなく、それをもとに自分の意見を考え、まとめることが求められる。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度(授業内課題への取り組み、ディスカッション等における発言内容など) 30% ・筆記試験 70% 									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献	やさしい教育心理学	著者等	鎌原雅彦・竹網誠一郎	出版社	有斐閣				
参考文献	現代心理学への招待	著者等	塚本伸一・堀耕治	出版社	樹村房				
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション: 教育心理学とは何か	予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく(30分)。 復習:授業内容を振り返り、興味を持ったテーマについて調べる(30分)。
第2回	学習理論: 人の学習メカニズムの理解	予習:心理学における「学習理論」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第3回	記憶: 記憶と忘却	予習:「記憶」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第4回	動機付け: “やる気”が生じる原理	予習:「動機付け」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第5回	知能: 知的能力とは何か	予習:「知能、知能検査」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第6回	発達的一般原理: 人間の発達について考える	予習:「人の発達段階」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第7回	発達理論1: フロイトによる発達段階	予習:「フロイト」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第8回	発達理論2: エリクソンによる発達段階	予習:「エリクソン」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第9回	パーソナリティの理解	予習:「パーソナリティ」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第10回	教授法: 生徒にどのように教えるか	予習:「教授法」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第11回	教育評価: 生徒をどう評価するか	予習:「教育評価」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第12回	集団心理	予習:「集団心理」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第13回	発達しょうがい: 生徒が抱える困難への理解	予習:「発達しょうがい」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第14回	カウンセリング	予習:「カウンセリング」について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返る(30分)。
第15回	総括	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:授業で学んだことを活用し、筆記試験への準備を行う。

科目名(クラス)	教育方法-a・b			開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	石橋 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>教育方法の基礎的な知識・技能を身に付けた上で、新学習指導要領の資質・能力の3つの柱を理念とした主体的・対話的で深い学びの具体的な在り方や評価方法について実践的に考察する。その上で、探究的な学習の方法や教科等横断的な視点に立った学習内容について、具体的な事例をもとに理解する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>教育方法の基礎的な知識を身に付けるとともに、学びの質を深める多様な指導方法や学習形態及び評価方法を考察し、身に付けることできる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式及び主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の理念に基づく協働及び個別の学修									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>学修の履歴として授業内容をワークシートやノートに整理して記述し、講義で学んだ概念等について発展的に調べる姿勢が大切です。授業中は、協働的な学修や発表を行っていきますので、意欲的に取り組んで下さい。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート等、学修の履歴による評価…30% ・授業における主体的な学びの状況や発表内容…10% ・筆記試験…60% 									
教科書	中学校学習指導要領解説－総則編 平成29年7月	著者等	文部科学省	出版社	東山書房				
教科書	中学校学習指導要領解説－音楽編 平成29年7月	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社				
参考文献	新しい教育の方法と技術	著者等	篠原正典・宮寺晃夫	出版社	ミネルヴァ書房				
参考文献	「学びの責任」は誰にあるのか	著者等	ダグラス・フィッシャー ナンシー・フレイ	出版社	新評論				
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時 00分 ~ 14時 00分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ・シラバス、授業計画について よくわかる授業とは	予習:教育基本法第1条、2条、学校教育法第21条を読む。 復習:シラバスの内容から、詳しく調べたい項目をノートに書き出す。 ※大学ノートを1冊用意する。
第2回	資質・能力の3つの柱を培う授業方法(習得型、活用型、探究型) 教科等横断的に培う言語能力、ICT活用能力、学び合う力、人間性	予習:資質・能力の3つの柱の内容を調べる。 復習:資質・能力の3つの柱と音楽教育との関連や教科等横断的に育成する能力についてまとめる。
第3回	学力向上施策の概要と授業改善 音楽科教員の役割	予習:PISA調査について調べる。 復習:学力観や学力向上施策の実態と非認知能力の内容についてまとめる。
第4回	わかりやすい板書、ねらいにせまる発問とは ・学習指導案作成① ・学習意欲を高めるとは	予習:新中学校学習指導要領－音楽から目標をノートに書き写す。 復習:授業デザインのポイントを整理する。
第5回	学習意欲を高めるための多様な指導方法 ・学習指導案の作成② ・主体的学びとは、対話的な学びとは、深い学びとは	予習:「知識基盤社会」「生きる力」について調べる。 復習:新学習指導要領における学力観や主体的学び、対話的な学び、深い学びの概要をまとめる。また、作成した指導案を修正する。
第6回	「主体的・対話的で深い学び」に結びつく多様な学習方法 ・協調学習 ・ブレインストーミング、KJ法等 ・協働学習の意義	予習:今まで小・中・高等学校で経験したアクティブ・ラーニングについてどのような教育的効果があるのか考える。 復習:多様な指導方法、学習方法の内容と教育的な意義についてまとめる。
第7回	新学習指導要領から求められる教育方法 ・音楽教育における言語活動 ・創作活動を通じた深い学び	予習:「中学校学習指導要領－音楽編」を読み、言語活動と関連する記述を確認する。 復習:音楽教育における言語活動や協働学習の意義について整理する。
第8回	新学習指導要領から求められる情報活用能力 ・授業におけるICT機器の活用方法 ・情報モラル	予習:授業におけるICT機器の活用例を調べる。 復習:授業におけるICT機器の活用方法、情報モラルについてまとめる。
第9回	教育における評価(1) ・相対評価と絶対評価 ・目標に準拠した評価 ・メタ認知、自己評価、相互評価	予習:中学校音楽の観点別評価の内容を調べる。 復習:目標に準拠した評価、メタ認知等について発展的に調べる。
第10回	教育における評価(2) ・多様な評価方法 ・指導と評価の一体化 ・音楽科における評価の実際・信頼される評価とは	予習:「形成的評価」について調べる。 復習:指導と教科の一体化の具体例や評価方法の種類と特徴をまとめる。
第11回	授業のユニバーサルデザイン化とインクルーシブ教育	予習:発達障害の種類、インクルーシブ教育の概念について調べる。 復習:発達障害、学習障害の特徴及び授業のユニバーサルデザイン化をはじめとす支援方法についてまとめる。
第12回	学校行事における音楽科教員の役割と指導方法	予習:合唱祭のねらいについて考察し、まとめる。 復習:儀式的行事、文化的行事のねらいを踏まえ、音楽科教員の役割と具体的な指導方法についてまとめる。
第13回	部活動の意義と指導方法	予習:部活動の意義について考察し、まとめる。 復習:部活動の意義と特徴をまとめ、音楽系部活動顧問の指導方法について考察する。
第14回	学校・家庭・地域の連携方法と協働による授業(地域学校協働活動等)	予習:地域学校協働活動について調べる。 復習:学校・家庭・地域の連携、協働の意義と具体的な取組についてまとめる。
第15回	本科目の総括 ・類型化して授業を振り返る	予習:今までの授業を振り返り、内容を整理する。 復習:学び続ける教師を目指すという自覚を持つ。

科目名(クラス)	教育相談・進路指導		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	川久保 惇	実務家教員	履修対象・条件		教職課程履修者・教職実践専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>教育相談とは、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動を指す。一方、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸張するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する活動である。本講義では、児童思春期の心理的葛藤、いじめ・不登校の問題、発達しようがい・精神疾患、ならびにコミュニケーション不安等の児童・生徒が抱えやすい問題を主に取り上げる。また、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的とする。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉えることができる。 ・生徒を支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。 ・青年期を中心とした生涯発達理論、進路指導、及びキャリア教育に関する心理学的理論を学ぶ。 ・生徒の進路に関する具体的問題について説明できる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回～第7回の授業では、思春期の児童・生徒が抱えやすい問題を中心に講義を展開する。 ・第8回～第15回の授業では、進路指導・キャリア教育の定義とその目標、育成すべき能力について解説する。 									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション等において自分の考えを明確に述べられるよう、各回のテーマに真剣に取り組むことが求められる。 ・心理学的な概念を理解するだけでなく、それをもとに自分の意見をまとめることが求められる。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度(課題への取り組み、ディスカッション等における発言内容など) 30% ・筆記試験 70% (中間試験 35%、期末試験 35%) 									
教科書	中学校キャリア教育の手引			著者等	文部科学省	出版社	教育出版		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	教育相談			著者等	広木克行	出版社	学文社		
参考文献	学級活動を核とした中学校キャリア教育			著者等	埼玉県中学校進路指導研究会	出版社	実業之日本社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション: 教育相談とは何か	予習: シラバスに目を通しておく(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第2回	人の発達課題と性格心理学	予習: 「人の発達課題」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第3回	児童・生徒の不安・抑うつ	予習: 「不安・抑うつ」の認知理論について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第4回	発達しょうがいへの対応とコミュニケーションの心理学	予習: 「発達しょうがい」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第5回	不適応行動: いじめ、不登校、少年非行	予習: 「いじめ、不登校の現状」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第6回	教育相談の理論と実践	予習: 「教育相談の理論」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第7回	保護者への援助と学校における教育相談システム	予習: 「校内の教育相談システム」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。また、中間試験への準備を行う。
第8回	進路指導①: キャリア教育の定義と目標	予習: 「キャリア教育の定義と目標」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第9回	進路指導②: キャリア教育において育成すべき能力	予習: 「キャリア教育で育成すべき能力」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第10回	学校を取り巻く社会環境と校内の組織体制	予習: 「キャリア教育と社会環境」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第11回	生涯を通じたキャリア形成	予習: 「キャリア形成」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第12回	職業選択に関する啓発的経験	予習: 「職業選択」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第13回	キャリア教育学習計画・キャリアガイダンスの考え方と事例	予習: 「キャリアガイダンス」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第14回	キャリアプランニングの意義と目標の設定	予習: 「キャリアプランニング」について調べる(30分)。 復習: 授業内容を振り返る(30分)。
第15回	キャリアカウンセリングの考え方と事例検討	予習: 各回のテーマを振り返る(30分) 復習: 授業で学んだことを活用し、期末試験への準備を行う。

科目名(クラス)	音楽科教材研究A		開講学期	前・後	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	山崎 正彦	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者で中学校免許状取得希望者のみ必修 教職実践専攻は2単位必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>本科目は、次年度の教育実習を見すえて、教科書掲載の楽曲に基づく教材研究を通して、楽曲の教材性を生かした音楽科授業構成力を身につけることを目標としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究の方法を学修します。 ・教材研究により明らかになった教材性を生かした指導構成の方法を学修します。 ・指導構成に基づいて学習指導案を作成し、模擬授業を行います。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の指導事項をふまえて学習内容・学習活動・学習評価の3点の整合性が図られている学習指導案を作成することができる。 ・学習指導案に基づく模擬授業を実践することができる。 ・模擬授業における成果と課題とを確認し、それ以降の指導の構成及び、指導実践力を向上させることができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義と演習(模擬授業の構成と実践)及び、模擬授業についての学生同士のディスカッション									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>次年度に教壇に立つ者としての自覚を常にもち、緊張感をもって授業に臨んでください。 模擬授業の実践に際しては、その計画段階から指導教官との打ち合わせを行います。時間が限られていますので、自らが思い描く授業について、予め考えをまとめておいてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に臨む態度(基準:ワークシートの記述内容を対象として、授業内容との整合性と自らの判断の2点を満たしていること)30% 2. 模擬授業の実践状況(基準:指導の構成が明確であることと、指導における発問や働きかけが適切であり学習者の意欲を引き出していること)50% 3. 最終レポートの内容に基づく評価(基準:授業内容との整合性と自らの価値判断に基づく考察の2点を満たしていること)20% 									
教科書	中学生の音楽1、2. 3上、2. 3下			著者等		出版社	教育芸術社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	中学校学習指導要領解説音楽科編			著者等		出版社	教育芸術社		
参考文献	必要に応じて配付します。			著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時00分 ~ 14時00分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業の説明(受講に際しての留意点の確認と授業スケジュールの説明)	予習: 自らの心に残る音楽科授業について発表できるようにしておく。 復習: 他者が受けてきた音楽科授業についてまとめる(ワークシート)。
第2回	平成29年告示学習指導要領解説音楽科編の概要についての確認	予習: 学習指導要領解説音楽科編の改善の基本的方針を読んでおく。 復習: 学習指導要領解説音楽科編の留意点をまとめる(ワークシート)。
第3回	平成29年告示学習指導要領解説音楽科編における指導事項の確認	予習: 鑑賞指導におけるポイントを確認しておく。 復習: 鑑賞指導の事例についてまとめる(ワークシート)。
第4回	表現指導の指導事例について(歌唱を中心に)	予習: 自らの心に残る歌唱の授業について発表できるようにしておく。 復習: 歌唱指導の事例についてまとめる(ワークシート)。
第5回	鑑賞指導の指導事例について(中学校)	予習: 自らの心に残る鑑賞の授業について発表できるようにしておく。 復習: 鑑賞指導のポイントと事例についてまとめる(ワークシート)。
第6回	鑑賞指導の指導事例について(高等学校)	予習: 鑑賞指導におけるポイントを確認しておく。 復習: 鑑賞指導の事例についてまとめる(ワークシート)。
第7回	模擬授業の構想①(教科書の楽曲を基に授業の構想と指導教官との面接)	予習: 模擬授業の内容を考えておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、自らの構成を振り返る。
第8回	模擬授業の構想②(教科書の楽曲を基に授業の構想と指導教官との面接)	予習: 模擬授業の内容を考えておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、自らの構成を振り返る。
第9回	模擬授業の構想についてのまとめ(成果と課題の確認)	予習: 前時までの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、自らの構成を振り返り修正する。
第10回	学習指導案の作成①(表現・鑑賞各1ずつを作成し指導教官と面接)	予習: 前時までの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、自らの構成を振り返り修正する。
第11回	学習指導案の作成②(表現・鑑賞各1ずつを作成し指導教官と面接)	予習: 前時までの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、自らの構成を振り返り修正する。
第12回	学習指導案の作成③(表現・鑑賞各1ずつを作成し指導教官と面接)	予習: 前時までの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、自らの構成を振り返り修正する。
第13回	学習指導案の作成④(表現・鑑賞各1ずつを作成し指導教官と面接)	予習: 前時までの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、自らの構成を振り返り修正する。
第14回	各自が作成した学習指導案についての発表会①	予習: 前時までの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の成果と課題をまとめる(ワークシート)。
第15回	各自が作成した学習指導案についての発表会② 前期授業のまとめ	予習: 前時までの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の成果と課題をまとめる(ワークシート)。

科目名(クラス)	音楽科教材研究B		開講学期	前・後	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	山崎 正彦	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者で中学校免許状取得希望者のみ必修 教職実践専攻は2単位必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>本科目は、次年度の教育実習を見すえて、音楽科授業の授業構成力を教材研究によって身につけることと、指導における基本的な考え方について模擬授業を通して身につけることを目標としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業を通して、その効果と課題を視点としてディスカッションを行い音楽科授業の特有の課題とその改善の方法について学修します。 ・模擬授業の成果と課題について、教材・指導・学力の相互の関連をテーマとしてディスカッションを行い、音楽科授業における教材研究と授業実践との関係性について学修します。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・教材性を生かし、学習内容・学習活動・学習評価の整合性と関連性が図られた模擬授業を実践できる。 ・学習指導案に基づく模擬授業を実践できる。 ・模擬授業における成果と課題とを確認し、それ以降の指導の構成及び、授業実践力を向上させることができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義と演習(模擬授業の構成と実践)及び、模擬授業についての学生同士のディスカッション									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
<p>次年度に教壇に立つ者としての自覚を常にもち、緊張感をもって授業に臨んでください。 模擬授業の実践に際しては、その計画段階から指導教官との打ち合わせを行います。時間が限られていますので、自らが思い描く授業について、予め考えをまとめておいてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に臨む態度(基準:ワークシートの記述内容を対象として、授業内容との整合性と自らの判断の2点を満たしていること)30% 2. 模擬授業の実践状況(基準:指導の構成が明確であることと、指導における発問や働きかけが適切であり学習者の意欲を引き出していること)50% 3. 最終レポートの内容に基づく評価(基準:授業内容との整合性と自らの価値判断に基づく考察の2点を満たしていること)20% 									
教科書	中学生の音楽1、2. 3上、2. 3下			著者等		出版社	教育芸術社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	中学校学習指導要領解説音楽科編			著者等		出版社	教育芸術社		
参考文献	必要に応じて配付します。			著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13 時 00分 ~ 14時 00分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	教材研究を生かした指導構成と模擬授業実践の関連、及び意義の確認	予習: 自らの指導構成と模擬授業との整合性について確認しておく。 復習: 指導教官の解説内容をふまえて、模擬授業の課題の有無を再確認する(ワークシート)。
第2回	模擬授業① 研究協議会(自由視点)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第3回	模擬授業② 研究協議会(自由視点)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第4回	模擬授業③ 研究協議会(自由視点)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第5回	模擬授業④ 研究協議会(自由視点)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第6回	模擬授業⑤ 研究協議会(自由視点)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第7回	模擬授業⑥ 研究協議会(授業構成を視点として)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第8回	模擬授業⑦ 研究協議会(授業構成を視点として)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第9回	模擬授業⑧ 研究協議会(指導方法を視点として)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第10回	模擬授業⑨ 研究協議会(指導方法を視点として)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第11回	模擬授業⑩ 研究協議会(発問を視点として)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第12回	模擬授業⑪ 研究協議会(発問を視点として)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第13回	模擬授業⑬ 研究協議会(フォローの手立てを視点として)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第14回	模擬授業⑭ 研究協議会(フォローの手立てを視点として)	予習: 模擬授業実践で確認されたこれまでの課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説に基づき、授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。
第15回	最終検討会(グループ討議と全体討議)	予習: 模擬授業実践を終えての成果と課題を確認しておく。 復習: 指導教官の解説と討議の内容をふまえてこれまでの授業の課題を成果をまとめる(ワークシート)。

科目名(クラス)	教育行政-a・b			開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	石橋 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>法的な根拠をもとに我が国の教育行政を大観し、学校教育制度、教育行政基本構造、社会教育業行政、保育行政、学校教育行政の特色を学び、その意義と課題について考察する。また、教育行政の視点から学習指導要領の概要及び、教員研修の目的と内容を理解する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育行政の概要を理解し、教育行政の意義と課題を考察することができる。 ・教育行政と学校教育との関連について概要をつかむことができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式及び主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の理念に基づく協働及び個別による学修									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
学修の履歴として授業内容をワークシート等に整理して記述し、講義で学んだ概念等について発展的に調べる姿勢が大切です。授業中は、協働的な学修や発表を行っていきますので、意欲的に取り組んで下さい。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート等、学修の履歴による評価…30% ・授業における主体的な学びの状況や発表内容…10% ・筆記試験…60% 									
教科書	中学校学習指導要領解説—総則編 平成29年7月	著者等	文部科学省	出版社	東山書房				
教科書		著者等		出版社					
参考文献	新しい教育行政学	著者等	河野 和清	出版社	ミネルヴァ書房				
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時 00分 ~14時 00分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ・シラバス、授業計画について ・公教育とは	予習:シラバスを読んで、興味関心がある授業内容を選び、その理由を考える。 復習:公教育の概念について整理する ※大学ノート1冊を用意する。
第2回	我が国の学校教育制度 ・学校体系 ・学校制度と制度改革	予習:学校教育法第1条、6条を読む。 復習:戦後の学校制度の概要及び現代における6・3・3・4制の見直しを中心とした制度改革の方向性を整理する。
第3回	教育行政と根拠法 ・日本国憲法と教育基本法 ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律	予習:憲法26条、教育基本法16条を読む。 復習:教育基本法、地教行法の改正による教育行政の変遷を考察し整理する。
第4回	教育行政の概念及び基本構造 ・文部科学省 ・教育委員会	予習:地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条を読む。 復習:文部科学省、教育委員会の職務権限の概要について整理する。
第5回	教育振興基本計画と施策 ・文部科学省、地方公共団体・教育振興基本計画 ・地方公共団体・教育行政重点施策例	予習:教育に関して推進してほしい内容を考えて発表できるようにしておく。 復習:教育振興基本計画から現代の教育行政の柱となっている内容を整理する。
第6回	社会教育行政 ・学びの支援 ・文化芸術・スポーツ振興 ・生涯学習と音楽	予習:音楽教育に関連する公共施設を調べる。 復習:社会教育の意義と社会教育行政の概要について整理する。
第7回	保育行政(保育をめぐる諸課題と施策) ・幼稚園、保育園 ・保育の一元化	予習:保育園と幼稚園の違いを調べる。 復習:保育園、幼稚園、認定こども園の特徴及び保育行政の現状と課題について整理する。
第8回	学校教育行政 ・学校評議員制度と学校運営協議会制度 ・学校評価	予習:保護者が学校に期待する内容を考える。 復習:近年の我が国の教育政策・制度改革の方向性と概要を整理する。PDCAサイクルに基づく学校評価の概要を整理する。
第9回	学校経営 ・学校運営組織 ・校務分掌 ・人事評価制度・学校評価	予習:自分の母校である中学校または高等学校の学校教育目標を調べる。 復習:組織的な学校運営の概要について整理する。
第10回	教育財政と学習環境の整備 ・文部科学省予算 ・地方教育財政 ・教育財政と音楽教育	予習:音楽教育と財政との関連について考える。 復習:教育財政の規模、特徴及び課題について整理し、財政は教育の基盤であることを理解する。
第11回	教育課程行政(1) ・ゆとり教育から現行学習指導要領 ・全国学力学習状況調査	予習:ゆとり教育の特徴について調べる。 復習:臨時教育審議会、教育改革国民会議の答申等から教育改革の方向性をつかみ、「学力向上施策」を整理する。
第12回	教育課程行政(2) ・新学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの考え方	予習:新学習指導要領総則編の目次の内容を確認する。 復習:新学習指導要領の骨組みを理解し、カリキュラム・マネジメントをはじめとする学校教育行政の概要についてまとめる。
第13回	学校と安全(生活安全、交通安全、災害安全) ・危機管理マニュアル ・安全管理と行政責任	予習:学校保健安全法の安全に関する記述に目を通してくる。 復習:安全教育と安全管理について概要をまとめる。
第14回	教員研修制度 ・初任者研修 ・年次研修の内容と意義	予習:教育公務員特例法第23条を読む。 復習:初任者研修の法的な規定及び内容について整理する。また、年次研修の種類と意義に地手まとめる。
第15回	本科目の総括 ・我が国における教育行政の特徴と課題	予習:今までの授業を振り返り、内容を整理する。 復習:教育行政の特徴と課題についてまとめる。

科目名(クラス)	音楽科教育法A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	西田康子 大熊信彦	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				
【授業の概要】									
<p>本科目は、中学校、高等学校の音楽科教員に必要とされる基本的な知識と技能を習得することを目標としています。前期(A)は、中学校学習指導要領音楽科の目標と内容、教科書についての講義やグループ協議、また、学校現場での授業展開を見据えた指導方法の研究などを行います。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている音楽科の目標及び歌唱、器楽、創作、鑑賞の目標と内容等を理解して、授業展開を構想し、実践することができる。 ・中学校の教科書に掲載されている歌唱教材を弾き歌いすることができる。 ・授業展開の構想と実践を通して、教育実習に対する心構えをもつことができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】									
講義、グループ活動、発表などを組み合わせます。グループ形式では協働的な活動を取り入れます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
音楽の教員免許状取得を目指す授業ですので、教員になることを常に意識して主体的に学び、グループ活動では自らの考えが深まるように努め、発表では積極的に取り組むことが求められます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
<p>次の点を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性(出席シートの記述内容、発表やディスカッションにおける発言、実技での姿勢等)(40%) ・筆記試験、課題レポート、実技の内容(60%) 									
教科書	中学校の音楽の教科書(2社各4冊)			著者等		出版社	教出及び教芸		
教科書	中学校学習指導要領解説音楽編			著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社		
参考文献	必要に応じて配付します。			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 自己プレゼンテーション 音楽科教育の意義	予習: シラバスを読むとともに、中学校、高校時代に学んだ音楽の授業を振り返る。 復習: 音楽科教育の意義について自らの考えをまとめる。
第2回	中学校学習指導要領音楽科の基本的な理解	予習: 中学校学習指導要領解説音楽編(以下「解説」)の第2章を読む。 復習: 教科と学年の目標を覚える。
第3回	教科書制度の理解と中学校音楽科の教科書の内容研究	予習: 教科書の内容を調べする。 復習: 弾き歌いする曲を選び、練習をする(第7・8回に発表する)。
第4回	学習指導要領の趣旨を生かした歌唱の授業展開	予習: 歌唱の目標、内容、内容の取扱いの解説を読む。 復習: 歌唱の目標と内容を覚え、授業展開についてまとめる。
第5回	学習指導要領の趣旨を生かした器楽と創作の授業展開	予習: 器楽と創作の目標、内容、内容の取扱いの解説を読む。 復習: 器楽と創作の目標と内容を覚え、授業展開についてまとめる。
第6回	学習指導要領の趣旨を生かした鑑賞の授業展開	予習: 鑑賞の目標、内容、内容の取扱いの解説を読む。 復習: 鑑賞の目標と内容を覚え、授業展開についてまとめる。
第7回	歌唱教材の弾き歌い①	予習: 選曲し、十分に練習をする。 復習: 弾き歌いした曲を教材とした授業展開についてまとめる。
第8回	歌唱教材の弾き歌い②	予習: 選曲し、十分に練習をする。 復習: 弾き歌いした曲を教材とした授業展開についてまとめる。
第9回	デジタル教科書を使用した歌唱指導のあり方(グループ活動)	予習: 準備された教材からICT教育について理解する。 復習: 授業づくり発表に役立てるように準備する。
第10回	デジタル教科書を使用した器楽指導のあり方(グループ活動)	予習: 準備された教材からICT教育について理解する。 復習: 授業づくり発表に役立てるように準備する。
第11回	デジタル教科書を使用した創作指導のあり方(グループ活動)	予習: 準備された教材からICT教育について理解する。 復習: 授業づくり発表に役立てるように準備する。
第12回	デジタル教科書を使用した鑑賞指導のあり方(グループ活動)	予習: 準備された教材からICT教育について理解する。 復習: 授業づくり発表に役立てるように準備する。
第13回	我が国や郷土の伝統音楽に関する学習指導	予習: 解説の我が国や郷土の伝統音楽に関する記述を調べる。 復習: 我が国や郷土の伝統音楽を教材とした授業展開についてまとめる。
第14回	「音楽的な見方・考え方」を生かした学習指導	予習: 解説の「音楽的な見方・考え方」に関する記述を調べる。 復習: 「音楽的な見方・考え方」を生かした授業展開についてまとめる。
第15回	音楽科教育法Aのまとめ	予習: 各回の授業内容を振り返る。 復習: 授業を通して学んだことをレポートにまとめ提出する。

科目名(クラス)	音楽科教育法B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	西田康子 大熊信彦	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				
【授業の概要】									
<p>本科目は、中学校、高等学校の音楽科教員に必要とされる基本的な知識と技能を習得することを目標としています。後期(B)は、前期(A)の内容を基礎として、題材構成と観点別学習状況評価、高等学校学習指導要領芸術科(音楽)の目標と内容、学習指導案の作成についての講義やグループ協議、また、学校現場での授業展開を見据えた模擬授業などを行います。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている音楽科・芸術科(音楽)の目標及び歌唱、器楽、創作、鑑賞の目標と内容等の理解を深め、授業展開を構想し、模擬授業を行うことができる。 ・題材構成と観点別学習状況評価などについて理解し、学習指導案を作成することができる。 ・模擬授業の体験を通して、教育実習に対する心構えをもつことができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】									
講義、グループ活動、発表などを組み合わせます。グループ形式では協働的な活動を取り入れます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
音楽の教員免許状取得を目指す授業ですので、教員になることを常に意識して主体的に学び、グループ活動では自らの考えが深まるように努め、発表では積極的に取り組むことが求められます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
<p>次の点を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性(出席シートの記述内容、発表やディスカッションにおける発言、模擬授業での姿勢等)(40%) ・筆記試験、課題レポート、模擬授業の内容(60%) 									
教科書	中学校の音楽の教科書(2社各4冊)			著者等		出版社	教出及び教芸		
教科書	中学校学習指導要領解説音楽編			著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社		
参考文献	必要に応じて配付します。			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	題材構成と観点別学習状況評価の理解及び評価方法の工夫	予習: 評価の観点、その趣旨、評価規準について調べる。 復習: 授業を振り返り、学習評価についてまとめる。
第2回	高等学校学習指導要領芸術科(音楽)の基本的な理解	予習: 中学校と比較しながら高等学校の学習指導要領芸術科(音楽)の目標と内容を調べる。 復習: 「音楽1」の目標と内容を覚える。
第3回	題材構成と学習指導案の作成①	予習: 書籍、Webなどで様々な学習指導案を調べる。 復習: 授業を振り返り、ポイントを整理する。
第4回	題材構成と学習指導案の作成②	予習: 取りあげる題材について調べる。 復習: 学習指導案を仮に仕上げる。
第5回	模擬授業の準備①	予習: 学習指導案を作り、授業展開を考え練習をする。 復習: 授業展開などを練り直す。
第6回	模擬授業の準備②	予習: 学習指導案を作り、授業展開を考え練習をする。 復習: 授業展開などを練り直す。
第7回	模擬授業①	予習: 授業展開の練習をする。 復習: 研究協議の内容をまとめ、成果と課題を整理する。
第8回	模擬授業②	予習: 授業展開の練習をする。 復習: 研究協議の内容をまとめ、成果と課題を整理する。
第9回	模擬授業③	予習: 授業展開の練習をする。 復習: 研究協議の内容をまとめ、成果と課題を整理する。
第10回	模擬授業④	予習: 授業展開の練習をする。 復習: 研究協議の内容をまとめ、成果と課題を整理する。
第11回	模擬授業⑤	予習: 授業展開の練習をする。 復習: 研究協議の内容をまとめ、成果と課題を整理する。
第12回	模擬授業⑥	予習: 授業展開の練習をする。 復習: 研究協議の内容をまとめ、成果と課題を整理する。
第13回	模擬授業⑦	予習: 授業展開の練習をする。 復習: 研究協議の内容をまとめ、成果と課題を整理する。
第14回	模擬授業⑧	予習: 授業展開の練習をする。 復習: 研究協議の内容をまとめ、成果と課題を整理する。
第15回	音楽科教育法Bのまとめ	予習: 各回の授業内容を振り返る。 復習: 個人作成の学習指導案を提出する。

科目名(クラス)	道徳教育の指導法 a・b		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	五十嵐 由和	実務家教員	○	履修対象・条件	教職実践専攻は必修。教職課程履修者で中学免許取得希望者は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>学校における道徳教育のあり方を、理論的、実践的に学び、教育現場で生かせる実効性のある理論と実践力の修得を図り、学級担任として、道徳科の授業や道徳教育の基本的な指導法を身につける。道徳教育の本質、歴史と課題、教育課程における道徳科の位置、各教科等と道徳教育の関係、道徳性の発達、道徳教育・道徳科の目標や内容、指導計画、道徳科の指導方法についての講説をもとに主体的・対話的で深い学びのある講義を展開する。更に、実践的に学ぶために、師範授業や学習指導案の作成や模擬授業を実施する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>1道徳の本質や道徳教育の必要性について、理解し説明できる。 2道徳教育・道徳科の歴史と課題について問題意識を持ち、説明できる。 3子どもの道徳性の発達について理解できる。 4学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容について理解し説明できる。 5学校における道徳教育の構造と指導計画作成の意義について理解し説明できる。 6道徳科における評価の基本的な考え方を理解できる。 7師範授業を受けることを通して、道徳科の授業の基本的な在り方を理解することができる。 8道徳科の授業を組み立て、学習指導案を作成することができる。 9模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善への視点を身に付けることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>テキスト・プリント・スライドを使用した講説とともに、テーマについてディスカッション、実践演習を通して、主体的、対話的な深い学びのある授業行っていきます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>・各時間のテーマを基に、自ら考え、表現できるように、主体的・対話的で深い考察をしていく力、学びの態度が求められます。そのために、積極的な姿勢、聴き方、発言力、多面的・多角的に考える力が養えるように意識して授業に臨むこと。考える力を育てるためにノート指導を重視する。特に、教職科目ですので、時間厳守、誠意ある受講態度を求める。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業への積極性(発言内容、司会、課題への取り組み)・振り返り用紙 30% ・学習指導案 20% ・確認試験 50%</p>									
教科書	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成30年3月 発行			著者等	文部科学省	出版社	教育出版		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	中学校学習指導要領解説 総則編			著者等	文部科学省	出版社	東山書房		
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	道徳教育の本質	予習 小中学校の道徳の授業を振り返り、学んだことをまとめる。 復習 授業で学んだことを振り返り、道徳教育の本質についてノートにまとめる。
第2回	道徳教育の歴史と課題	予習 教科書1頁～4頁まで熟読し、道徳教育の課題をまとめる。 復習 授業で学んだことを振り返り、道徳教育の歴史と課題についてノートにまとめる。
第3回	道徳教育における道徳性の捉え方	予習 教科書142頁～143頁を読み、重要な箇所にアンダーラインをする。 復習 授業で学んだことを振り返り、道徳性についてノートにまとめる。
第4回	道徳教育の構造と役割	予習 教科書10頁～15頁、143頁を読み、重要な箇所にアンダーラインをする。 復習 授業で学んだことを振り返り、道徳教育と道徳科の関係についてノートにまとめる。
第5回	道徳科の目標と内容	予習 教科書16頁～27頁を読み、重要な箇所にアンダーラインをする。 復習 授業で学んだことを振り返り、目標と内容についてノートにまとめる。
第6回	道徳教育の指導体制と計画吉田	予習 教科書72頁、146頁～148頁を読み、重要な箇所にアンダーラインをする。 復習 授業で学んだことを振り返り、指導体制・計画についてノートにまとめる。
第7回	師範授業と道徳の授業理論 ～授業を体感し、理論構築をする～	予習 教科書82頁～86頁を読み、重要な箇所にアンダーラインをする。 復習 授業で学んだことを振り返り、道徳科の学習指導についてノートにまとめる。
第8回	学習指導案の作成Ⅰ(1)～教育実習で作成する学習指導案を踏まえて～	予習 教科書80頁～83頁を読み、重要な箇所にアンダーラインをする。 復習 学習指導案を次回で完成できるように準備をする。
第9回	学習指導案の作成Ⅰ(2)～教育実習で作成する学習指導案を踏まえて～	予習 再度、教科書80頁～83頁を読み、自分の学習指導案と比較検討する。 復習 教科書80頁～83頁を読み、自分の学習指導案を点検する
第10回	模擬授業と授業改善 ～体験を学習指導案に生かす～	予習 完成した学習指導案をもとに、模擬授業を構想する。 復習 模擬授業を振り返り、授業の改善点をまとめる。
第11回	学習指導案の作成Ⅱ(1)～教育実習で作成する学習指導案を踏まえて～	予習 教科書83頁～86頁を読み、重要な箇所にアンダーラインをする。 復習 学習指導案を次回で完成できるように準備をする。
第12回	学習指導案の作成Ⅱ(2) ～教育実習で作成する学習指導案を踏まえて～	予習 再度、教科書83頁～86頁を読み、重要な箇所にアンダーラインをし、自分の学習指導案を見直す。 復習 学習指導案を次回で完成できるように準備をすること。
第13回	学習指導案の作成Ⅱ(3)・提出 ～教育実習で作成する学習指導案を踏まえて～	予習 再度、教科書83頁～86頁を読み、自分の学習指導案に生かすように構想する。 復習 学習指導の書き方について演習を通して学んだことをノートにまとめておく。
第14回	確認テスト(到達目標の達成度確認)	予習 教科書、まとめた自作ノートを見直しておく。 復習 到達目標に対する自分の達成度の確認をする。
第15回	確認テストの返却と解説、道徳科の評価	予習 教科書107頁～108頁まで道徳科の評価の意義をポイントに予習する。 復習 自作ノートに15時間を振り返って、学んだことをまとめる。

科目名(クラス)	特別活動の指導法 a			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	五十嵐 由和	実務家教員	○	履修対象・条件		教職実践専攻と教職課程履修者は必修。			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>本講義は、特別活動に関する基本的事項についての理解を深めると共に、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図り、理論と実践性の両面を融合していくことを目指します。中学生・高校生の課題として、自分への自信の欠如や自らの将来の不安、好ましい人間関係を築けないなどの課題が指摘されており、特別活動を通して、体験活動や話し合い活動、集団活動による活動の一層の充実が求められています。そこで、特別活動の意義や理論、基礎についての理解を深めるとともに指導の在り方について、具体的な事例研究・演習等を通して、「特別活動の基礎と学級経営の実際と工夫」を実践的に学び、理論とともに実践力を身に付けます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>①特別活動の意義、目標について理解し、説明できる。 ②特別活動における生徒の課題、育てたい生徒像について説明できる。 ③学級活動、生徒会活動、学校行事の目標・内容について、実践をもと考察し、理解できる。 ④特別活動における「主体的・対話的で深い学び」のある授業について説明できる。 ⑤特別活動の意義と内容を踏まえ、学級通信を作成することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
教科書・プリント・スライドを使用し講義をするとともに、テーマについてディスカッション、実践演習を通して、主体的、対話的な深い学びのある授業を行っていく。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
各時間のテーマを基に、自ら考え、表現できるように、主体的・対話的で深い考察をしていく力、学びの態度が求められます。そのために、積極的な姿勢、聴き方、発言力、多面的・多角的に考える力が養えるように意識して授業に臨むこと。特に、教職科目ですので、時間厳守、誠意ある受講が求められます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
・授業への積極性(発言内容、司会、課題への取り組み)・振り返り用紙 30% ・学級通信 10% ・筆記試験 60%									
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動				著者等	文部科学省	出版社	東山書房	
教科書					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンス 特別活動の意義	予習 小中学校の特別活動の授業を振り返り、学んだことをまとめる。 復習 授業で学んだことを振り返り、特別活動の意義についてノートにまとめる。
第2回	特別活動の目標	予習 教科書11頁～17頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、特別活動の目標についてノートにまとめる。
第3回	特別活動の内容	予習 教科書151頁～154頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、特別活動の内容についてノートにまとめる。
第4回	特別活動における配慮事項	予習 教科書154頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、特別活動における配慮事項についてノートにまとめる。
第5回	学級活動の目標と内容	予習 教科書40頁～45頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、学級活動の目標と内容についてノートにまとめる。
第6回	学級や学校における生活上の諸問題の解決	予習 教科書44頁～50頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、学級活動の内容についてノートにまとめる。
第7回	学級担任とキャリア教育	予習 教科書57頁～62頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、キャリア教育の内容についてノートにまとめる。
第8回	学級づくりを構想する～講話を考え、表現する～	予習 学級開きでの講話を考えておく。 復習 学級担任として、どんな学級を目指すのかをまとめる。
第9回	学級通信を作成する(1)～ 4月第1号～	予習 学級通信の名前を考えておく。 復習 2回で学級通信ができるように準備する。
第10回	学級通信を作成する(2)～ 4月第1号～	予習 2回で学級通信ができるように準備する。 復習 学級通信を通して、どんな学級にしたいかまとめる。
第11回	生徒会活動の目標と内容	予習 教科書74頁～80頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、生徒会活動の目標と内容、意義についてノートにまとめる。
第12回	学校行事の目標と内容	予習 教科書92頁～104頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、学校行事の目標と内容についてノートにまとめる。
第13回	学校行事の事例	予習 教科書92頁～104頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、学校行事の意義についてノートにまとめる。
第14回	確認テスト(到達目標の達成度確認)	予習 教科書、まとめた自作ノートを見直しておく。 復習 到達目標に対する自分の達成度の確認をする。
第15回	確認テストの返却と解説、いじめに強い学級づくり	予習 いじめに強い学級とはどんな学級が考える。 復習 自作ノートに15時間を振り返って、学んだことをまとめる。

科目名(クラス)	特別活動の指導法 b			開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	五十嵐 由和	実務家教員	○	履修対象・条件		教職実践専攻と教職課程履修者は必修。			
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>本講義は、特別活動に関する基本的事項についての理解を深めると共に、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図り、理論と実践性の両面を融合していくことを目指す。中学生・高校生の課題として、自分への自信の欠如や自らの将来の不安、好ましい人間関係を築けないなどの課題が指摘され、特別活動を通して、体験活動や話し合い活動、集団活動による活動の一層の充実が求められている。特別活動では、特別活動の意義や理論、基礎についての理解を深めるとともに指導の在り方について、具体的な事例研究・演習等を通して、「特別活動の基礎と学級経営の実際と工夫」を実践的に学ぶことを目的とする。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>①特別活動の意義、目標について理解し、説明できる。 ②特別活動における生徒の課題、育てたい生徒像について説明できる。 ③学級活動、生徒会活動、学校行事の目標・内容について、実践をもと考察し、理解できる。 ④特別活動における「主体的・対話的で深い学び」のある授業について説明できる。 ⑤特別活動の意義と内容を踏まえ、学級通信を作成することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>教科書・プリント・スライドを使用し講義をするとともに、テーマについてディスカッション、実践演習を通して、主体的、対話的な深い学びのある授業を行っていく。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>各時間のテーマを基に、自ら考え、表現できるように、主体的・対話的で深い考察をしていく力、学びの態度が求められます。そのために、積極的な姿勢、聴き方、発言力、多面的・多角的に考える力が養えるように意識して授業に臨むこと。特に、教職科目ですので、時間厳守、誠意ある受講が求められます。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・授業への積極性(発言内容、司会、課題への取り組み)・振り返り用紙 30% ・学級通信 10% ・筆記試験 60%</p>									
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動				著者等	文部科学省	出版社	東山書房	
教科書					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンス 特別活動の意義	予習 小中学校の特別活動の授業を振り返り、学んだことをまとめる。 復習 授業で学んだことを振り返り、特別活動の意義についてノートにまとめる。
第2回	特別活動の目標	予習 教科書11頁～17頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、特別活動の目標についてノートにまとめる。
第3回	特別活動の内容	予習 教科書151頁～154頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、特別活動の内容についてノートにまとめる。
第4回	特別活動における配慮事項	予習 教科書154頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、特別活動における配慮事項についてノートにまとめる。
第5回	学級活動の目標と内容	予習 教科書40頁～45頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、学級活動の目標と内容についてノートにまとめる。
第6回	学級や学校における生活上の諸問題の解決	予習 教科書44頁～50頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、学級活動の内容についてノートにまとめる。
第7回	学級担任とキャリア教育	予習 教科書57頁～62頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、キャリア教育の内容についてノートにまとめる。
第8回	学級づくりを構想する～講話を考え、表現する～	予習 学級開きでの講話を考えておく。 復習 学級担任として、どんな学級を目指すのかをまとめる。
第9回	学級通信を作成する(1)～ 4月第1号～	予習 学級通信の名前を考えておく。 復習 2回で学級通信ができるように準備する。
第10回	学級通信を完成する(2)～ 4月第1号～	予習 2回で学級通信ができるように準備する。 復習 学級通信を通して、どんな学級にしたいかまとめる。
第11回	生徒会活動の目標と内容	予習 教科書74頁～80頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、生徒会活動の目標と内容、意義についてノートにまとめる。
第12回	学校行事の目標と内容	予習 教科書92頁～104頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、学校行事の目標と内容についてノートにまとめる。
第13回	学校行事の事例	予習 教科書92頁～104頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、学校行事の意義についてノートにまとめる。
第14回	確認テスト(到達目標の達成度確認)	予習 教科書、まとめた自作ノートを見直しておく。 復習 到達目標に対する自分の達成度の確認をする。
第15回	確認テストの返却と解説、いじめに強い学級づくり	予習 いじめに強い学級とはどんな学級か考える。 復習 自作ノートに15時間を振り返って、学んだことをまとめる。

科目名(クラス)	生徒指導の方法及び教育課程の意義構成 a・b		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	五十嵐 由和	実務家教員	○	履修対象・条件	教職実践専攻は必修。教職課程履修者で中学免許取得希望者は必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>本講座は生徒指導及び教育課程に関する基本的事項についての理解を深め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得をし、生徒指導及び教育課程の課題と展望を明確にする。「実践知教育」により理論と実践性の両面を融合していくことを目指します。生徒指導・教育課程を多面的・多角的に考えることによって、学校教育について広い視野をもつことにつながります。</p> <p>生徒指導は一人ひとりの生徒の健全な成長を図り、自己指導能力を身に付けさせることを目指すものであり、事例をもとに生徒指導の教育的意義や指導原理・生徒指導の理論や実際の指導方法について、系統的・実践的に学びます。教育課程の意義と役割の重要性について具体的・実践的に学びます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>生徒指導・教育課程の基本的な事項、現状と課題について理解し実践力を身に付けることができる。</p> <p>(1) 生徒指導の意義と課題、生徒指導の方法原理、生徒理解、教育相談、教育課程と生徒指導について理解し説明ができる。</p> <p>(2) 生徒指導の組織と体制、指導方法について理解し、課題について指摘し、解決方法を多面的・多角的に考えることができる。</p> <p>(3) 生徒指導の諸課題について理解を深め、解決方法を多面的・多角的に考えることができる。</p> <p>(4) 教育課程の意義と役割の重要性について理解することができる。</p> <p>(5) 教育課程で育成される資質・能力、カリキュラム・マネジメントについて理解し、教育課程の編成・実施・評価について説明することができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
教科書・プリント・スライドを使用した講義とともに、テーマについてディスカッション、実践演習を通して、主体的、対話的な深い学びのある授業を行っていく。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
・各時間のテーマを基に、自ら考え、表現できるように、主体的・対話的で深い考察をしていく力、学びの態度が求められます。そのために、積極的な姿勢、聴き方、発言力、多面的・多角的に考える力が養えるように意識して授業に臨むこと。考える力を育てるためにノート指導を重視する。特に、教職科目ですので、時間厳守、誠意ある受講態度を求める。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
・授業への積極性(発言内容、司会、課題への取り組み)・振り返り用紙 30% ・課題論文 10% ・筆記試験 60%									
教科書	生徒指導提要	著者等	文部科学省	出版社	東山書房				
教科書	中学校学習指導要領解説 総則編	著者等	文部科学省	出版社	教育図書				
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンス 教育課程の意義と編成、実施	予習: シラバスを読み、各回のテーマについて押さえる。教科書(総則)P11～21を読み、重要箇所に線を引く。 復習: 振り返りを行い、テキスト、確認プリントを活用して、教育課程の意義と編成、実施についてノートにまとめる。
第2回	教育課程の役割～生きる力と育成を目指す資質・能力	予習 教科書17頁～43頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、生徒指導の役割、生きる力、目指す資質・能力についてノートにまとめる。
第3回	教育課程の実施と改善、学校評価	予習 教科書P77頁～94頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、主体的・対話的で深い学び、学校評価についてノートにまとめる。
第4回	生徒指導の意義と課題、生徒理解	予習 教科書(生徒指導提要)1頁～13頁、40頁～42まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習 授業で学んだことを振り返り、生徒指導の意義、生徒理解についてノートにまとめる。
第5回	生徒指導と教育課程、学修指導における生徒指導	予習 教科書(生徒指導提要)4頁～7頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習: 振り返りをして、学習指導における生徒指導の役割について考察する。
第6回	学校における生徒指導体制	予習 教科書(生徒指導提要)75頁～81頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習: 振り返りをして、生徒指導体制の基本についてまとめる。
第7回	学級担任が行う生徒指導～事例研究～	予習 教科書(生徒指導提要)71頁～74頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習: 振り返りをして、事例研究法についてまとめる。
第8回	教育相談の意義と体制、進め方	予習 教科書(生徒指導提要)92頁～126頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習: 振り返りをして、教育相談の意義と体制についてまとめる。
第9回	学級担任が進める教育相談の実際	予習 教科書(生徒指導提要)99頁～106頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習: 振り返りをして、カウンセリングの留意点についてまとめる。
第10回	生徒指導上の課題Ⅰ 不登校と事例研究	予習 教科書(生徒指導提要)187頁～189頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習: 振り返りをして、不登校生徒の指導の基本についてまとめる。
第11回	生徒指導上の課題Ⅱ いじめ問題の現状と基本的な考え方	予習 教科書(生徒指導提要)173頁～174頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習: 振り返りをして、いじめ問題の指導の基本をまとめる。
第12回	生徒指導上の課題Ⅱ いじめ問題の事例研究と生徒指導の個別の課題	予習 生徒指導上の課題には、どのようなものがあるかまとめる。 復習 振り返りをして生徒指導上の課題についてまとめる。
第13回	発達に関する課題と学級担任の対応	予習 教科書(生徒指導提要)160頁～162頁まで熟読し、重要箇所に線を引く。 復習: 振り返りをして、学級担任における特別支援教育についてまとめる。
第14回	確認テスト(到達目標の達成度確認)	予習 教科書、まとめた自作ノートを見直しておく。 復習 到達目標に対する自分の達成度の確認をする。
第15回	確認テストの返却と解説、小論文・教育課程と生徒指導	予習 生徒指導について自作ノートを見直しておく。 復習 自作ノートに15時間を振り返って、学んだことをまとめる。

科目名(クラス)	音楽における情報機器の活用		開講学期		単位数	2	配当年次	2
担当教員	田中 健次	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修			
【授業の概要】		(360文字以内)						
<p>この授業では、先端技術を応用したICT(電子楽器、コンピュータ、関連するソフトウェアを含む)の解説と実演を行い(第2回から6回)、それら機器類をもちいた模擬授業を履修者がグループワークで実施します(第7回から14回)。履修者は任意で音楽学習の教育目的、授業目標を設定し、ICT(PPTIによる教材作成や既存のソフトウェアの活用も含む)をもちいた模擬授業を展開し、そこから音楽教育におけるそれら機器類とソフトウェアの可能性と限界について(第15回)、考察します。</p>								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
<p>中等教育(音楽)学習指導要領で示される学習内容において、①より効果的に学習をすすめるためのICTの機能や現状を理解します。②それらICTの教育的意義や音楽科の各領域の指導における実践的な活用を理解するとともに、③音楽学習におけるICTの可能性と限界について考察します。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
<p>講義、演習。演習ではグループワークを主とします。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
<p>演習ではグループワークを取り入れているため、授業を欠席しないこと。継続性あるグループワークのため、欠席するとその内容の把握がむずかしくなります。また、グループとなった他の履修者に迷惑が及びます。なおモバイルパソコン等を所有する履修者はそれを持参すること。詳細については、第一回目の授業で説明します。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
<p>毎回の授業で提出する小レポート(20%)、グループワークによる模擬授業の成果等(30%)、課題提示によるレポート作成(50%)等で総合的に評価します。</p>								
教科書	特になし。授業中に適宜資料を配布する。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献	『音楽室に奇跡が起こる一視聴覚機器&PCで楽しさ10倍の授業』			著者等	城佳世他	出版社	明治図書:2015	
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※集中講義中に実施								
②時間帯(時 分 ~ 時 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	シラバスをもちいたガイダンス	予習: 第2回で扱う授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第2回	わかりやすいICT(電子楽器、コンピュータ、関連ソフトウェアを含む)の歴史とその技術発展①	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第3回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第3回	わかりやすいICT(電子楽器、コンピュータ、関連ソフトウェアを含む)の歴史とその技術発展②	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第4回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第4回	ICTと音楽とのかかわり①	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第6回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第5回	ICTと音楽とのかかわり②	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第6回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第6回	音楽科各学習領域におけるICT活用の現状	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第7回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第7回	履修者(グループワーク)によるICT活用の課題演習(歌唱)①	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第8回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第8回	履修者(グループワーク)によるICT活用の課題演習(器楽)①	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第9回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第9回	履修者(グループワーク)によるICT活用の課題演習(器楽)①	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第10回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第10回	履修者(グループワーク)によるICT活用の課題演習(器楽)②	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第11回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第11回	履修者(グループワーク)によるICT活用の課題演習(創作)①	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第12回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第12回	履修者(グループワーク)によるICT活用の課題演習(創作)②	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第13回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第13回	履修者(グループワーク)によるICT活用の課題演習(鑑賞)①	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習: 第14回で授業内容に関する資料を配布するので、事前に目を通しておいてください。
第14回	履修者(グループワーク)によるICT活用の課題演習(鑑賞)②	復習: 授業の振り返りのための小レポートを課します。
第15回	まとめ: 音楽学習におけるICTの活用の可能性と限界に関する考察	課題によるレポート提出

科目名(クラス)	特別支援を必要とする生徒の理解			開講学期		単位数	2	配当年次	2
担当教員	二俣 泉 明官 茂	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>特別支援教育においては、特別な教育的ニーズのある児童生徒一人一人に応じた指導と支援が求められる。本科目では、障害や特別なニーズの理解と指導内容・方法等の基本的事項について解説する。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>様々な障害について理解すると共に、障害はないが特別の教育ニーズのある児童生徒についても把握し、個々の児童生徒のニーズに応じた教育が展開できる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>スライド資料及び映像資料による講義を行い、グループ討議や小テストも取り入れます。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>教育の基本となる内容です。具体的な事例を通して、様々な障害の特性を理解するとともに、児童生徒への支援方法や教育課程編成について関心を持ってください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業内で実施する小テストの合計点(100%)</p>									
教科書	特別支援教育のテキスト			著者等	小林倫代	出版社	Gakken		
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土)									
<p>明官は、土曜日の授業後に時間を取ります。二俣は、月曜日の昼休みとします。</p>									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	障害とは何か・特別支援教育の理念と実際	復習:授業で出された資料を整理する。
第2回	自閉スペクトラム症(ASD)の子どもへの対応	予習:教科書のASDの記事を予め読んでくる。 復習:音楽の授業におけるASDの子どもへの具体的な対応方法について文章にまとめる。
第3回	学習障害・ADHDの子どもへの対応	予習:教科書の学習障害・ADHDの記事を予め読んでくる。 復習:授業で出された資料を整理する。
第4回	聴覚障害の子どもの理解と指導	予習:教科書の聴覚障害の記事を予め読んでくる。 復習:授業で出された資料を整理する。
第5回	肢体不自由の子どもの理解と指導	予習:教科書の肢体不自由の記事を予め読んでくる。 復習:授業で出された資料を整理する。
第6回	視覚障害の子どもの理解と指導	予習:教科書の視覚障害の記事を予め読んでくる。 復習:授業で出された資料を整理する。
第7回	知的障害・発達障害の子どもの音楽教育	予習:前回配布された予習用課題を読んでくる。 復習:授業で出された資料を整理する。
第8回	知的障害・発達障害の子どもの音楽療法	予習:前回授業で指定されたyoutubeの音楽療法の動画を見てくる。 復習:授業で出された資料を整理する。
第9回	知的障害・発達障害の理解	予習:知的障害・発達障害についてテキストから概要を知る。 復習:授業で出された資料を整理する。
第10回	知的障害・発達障害の子どもの指導と基礎	予習:前回の資料を整理する。 復習:具体的な指導についてまとめておく。
第11回	知的障害・発達障害の子どもの指導の技法	予習:前回の資料を整理する。 復習:具体的な指導についてまとめておく。
第12回	自立活動と通級指導、個別の支援計画	予習:テキストの自立活動の部分を読む。 復習:自立活動の6区分をまとめる。
第13回	保護者と家庭の支援	予習:テキストのコラム3を事前に読む。 復習:授業の感想をまとめる。
第14回	特別支援教育に関する制度	予習:障害者の権利に関する条約を読んでおく。 復習:重要な法令についてまとめておく。
第15回	病弱の子ども・不登校の子ども・障害のない特別な教育的ニーズのある子ども	予習:各回の資料を振り返る。 復習:これまでの授業で学んだことをまとめる。

科目名(クラス)	総合的な学習の時間の指導法		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3	
担当教員	石橋 裕	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>総合的な学習の時間の目標及び探究時間の設定や課題の追究、まとめ表現、振り返り等の具体例を考察し、探究による学びの進め方、指導方法、生徒同士の協働、地域の方々との協働による学びの方法について実践力をつける。また、他教科等の横断的な学習との関連や知の総合化の観点から教育課程の軸となる総合的な学習の時間の特質について理解を深める。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>探究的な学習及び教科等横断的な学習である総合的な学習の時間の意義と特徴を理解し、主体的・対話的で深い学びの理念に基づく指導方法の工夫、学習の進め方、年間指導計画の作成と他教科等との関連についての概要をつかむことができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>「主体的・対話的で深い学び」の理念に基づきグループ及び個別の学修を基調とし、ICTを活用した講義形式と組み合わせる。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>新学習指導要領総則との関連から総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントにおける位置づけや意義をつかみ、新学習指導要領解説総合的な学習の時間編から探究学習の概要をつかむよう解説書を熟読してください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>・ワークシート等、学修の履歴による評価……30パーセント ・授業における主体的な学びの状況や発表……10パーセント ・筆記試験……60パーセント</p>									
教科書	中学校学習指導要領解説—総合的な学習の時間編	著者等	文部科学省	出版社	東山書房				
参考文献	中学校学習指導要領解説—総則編	著者等	文部科学省	出版社	東山書房				
参考文献	新学習指導要領の展開—総合的な学習編	著者等	田村 学	出版社	明治図書				
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(13時00分 ~ 14時00分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	・授業ガイダンス ・総合的な学習の時間創設の経緯とその意義	予習:新学習指導要領解説の改訂の趣旨及び要点を読み、概要をつかむ。 復習:総合的な学習創設の経緯から現代までの変遷及び成果と課題についてまとめる。
第2回	・総合的な学習の時間の特徴(カリキュラム・マネジメントとの関連) ・各教科等の学習の基盤となる資質・能力について	予習:新学習指導要領解説総則編よりカリキュラム・マネジメントについて調べる。 復習:学習の基盤となる資質・能力についてまとめる。
第3回	・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力について ・ESDとの関連 ・学校における目標の設定及び探究課題の設定	予習:新学習指導要領解説総則編より現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力について調べる。 復習:目標と資質能力の3つの柱との関連について考察しまとめる。
第4回	・年間指導計画の作成 ①子供の実態、地域の実態との関連 ②各教科等の学びとの関連 ③社会に開かれた教育課程との関連	予習:新学習指導要領の「年間指導計画の在り方」を読む。 復習:年間指導計画の在り方について、多面的な視点から考察してまとめる。
第5回	・単元計画の作成 生徒の関心や疑問を生かした単元の構想 探究の各過程での具体的な学習方法及び学習形態	予習:新学習指導要領解説の「単元計画の作成」を読む。 復習:単元計画のポイントや具体的な学習活動、内容について考察しまとめる。
第6回	・考えるための技法 ・協働による学びの意義 ・家庭、地域との協働による学び	予習:新学習指導要領解説より探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」について調べる。 復習:協働による学習の意義についてまとめる。
第7回	・具体的な学習方法1 課題の設定(課題の発見)段階の学習方法	予習:新学習指導要領より「目標を実現するにふさわしい探究課題」の事例について調べる。 復習:様々な探究課題の事例を分類してまとめる。
第8回	・具体的な学習方法2 情報の収集段階の学習方法 協働による学習の方法	予習:情報の収集についてどのような方法があるのか考察する。 復習:多様な情報の収集方法及び協働的な探究学習の具体について整理する。
第9回	・具体的な学習方法3 情報の整理・分析段階の学習方法 クリティカル・シンキング及びメタ認知について	予習:資料を分析する「考えるために技法」について調べる。 復習:情報の整理方法、協働学習でのクリティカル・シンキングやメタ認知について発展的に考察する。
第10回	・具体的な学習方法4 まとめ、表現段階の学習方法 言語活動との関連について	予習:学習の成果をまとめ表現する多様な方法について調べる。 復習:多様なまとめ方、表現の仕方について考察し、それぞれの特性をつかむ。
第11回	・総合的な学習の時間と音楽教育との関連 資質・能力の3つの柱に基づく総合学習と音楽科との関連について	予習:音楽科の目標と総合的な学習の時間の目標について資質・能力の3つの柱に基づいて、対比する。 復習:音楽の学習内容と総合的な学習との関連を表にしてまとめる。
第12回	・総合的な学習の時間とキャリア形成について ・道徳及び特別活動との関連	予習:新学習指導要領解説総則編の「キャリア教育の充実」を読み、要点を箇条書きにする。 復習:キャリア教育、道徳、特別活動との関連について整理する。
第13回	・探究学習の各段階における効果的なICTの活用について ①情報通信ネットワークの活用 ②ペン図等の図式化、グラフ化、写真、映像資料の活用 ③プレゼンテーションソフトの活用	予習:ICTの有効な活用について考える。 復習:総合的な学習における情報活用能力の育成について考察し、整理する。
第14回	・評価の在り方と具体的な評価方法 ①ポートフォリオ評価 ②自己評価	予習:評価の対象となる学習の成果物について考える。 復習:学習の経過を評価する評価の場面や学習の成果物による評価、個人内評価について整理してまとめる。
第15回	・本科目の総括 教育課程の軸となる総合的な学習の時間 学校から社会へと広がる縦軸、横軸の学び	予習:今までの授業の振り返りを行う。 復習:学校での学びが社会に結びつくため、総合的な学習が教育課程の核となる根拠について考察する。

科目名(クラス)	教職実践演習(中高)		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	4	
担当教員	粕谷 宏美・西田 康子 高橋基之	実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者のみ必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>教職課程全体を通して教員に求められる資質力量を身に付けたかどうかを確認するために、教育実習を終えた4年生の最後に履修する科目です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識に基づく主体的な討論や事例研究を通して、自己の課題を明らかにし、理解を深め実践力を身に付けます。 ・授業の半数程度は各班で決めた研究テーマについて、グループ発表、アクティブラーニングなどで理解を深めます。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・使命感や情熱、教育的愛情等(教職に対する使命感をもち、愛情をもって児童生徒に接することができる。) ・社会性や対人関係能力(自分なりの考えや意見をもち、他人と協力して指導にあたることができる) ・児童生徒理解や学級経営(児童生徒一人ひとりのよさや個性を認めつつ、学級経営ができる) 									
【授業の「方法」と「形式」】		・研修							
協調学習。チーム・プレゼンテーション。(教育課題や学校行事等をテーマにして職員研修や模擬授業を実施する。)									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する動向に関心をもち、それらを様々な視点から研究してください。 ・各班で研究テーマを決め、有意義な研修となるよう事前準備をしっかりと行ってください。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートや学習状況の観察に基づいて、以下の点を総合的に評価します。 ・発表や討論のための事例研究や事前準備を十分に行っている。(レポート)30% ・プレゼンテーション能力があり、協調性をもって授業に取り組んでいる。30% ・自らの考えをもって、討論や発表に積極的に参加している。(授業への参加度・貢献度)40% 									
参考文献	中学校(高校)学習指導要領	著者等	文部科学省	出版社	東山書房				
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業概要の説明、グループ分け・研究テーマ検討	予習:大学の教職課程や教育実習を通して得た知見をまとめておく。 復習:班員と協議して取りくむ研究課題を決め、実践演習を計画する。
第2回	実践演習(模擬授業)参考事例提示	予習:重要な教育課題である「いじめ問題」についての理解を深めておく。 復習:実践演習の進め方について理解しておく。
第3回	企画書作成(グループ別協議)	予習:役割分担を決めて、職員研修会として企画・進行ができるようテーマについて研究する。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第4回	先輩教師に学ぶ	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第5回	企画書作成及び提出(グループ別協議)	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第6回	音楽科教員としての役割	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第7回	教科指導のあり方	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第8回	音楽の社会的役割について	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第9回	生徒指導のあり方①	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第10回	生徒指導のあり方②	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第11回	教育課題対応①	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第12回	教育課題対応②	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第13回	子どもを取り巻く状況の変化	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第14回	教員に求められる資質能力	予習:本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習:本時のテーマの理解を深めるとともに教員に求められる資質能力について考察する。
第15回	本科目の総括	教職課程全体の振り返るとともに、自己の課題を明らかにし、改善に向けて継続的に取り組んでいく。

科目名(クラス)	教育実習指導			開講学期		単位数	1	配当年次	4
担当教員	粕谷 宏美・西田 康子 高橋 基之		実務家教員	○	履修対象・条件	教職課程履修者のみ必修。			
【授業の概要】			(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習で得た成果と課題を省察します。 ・教育現場の現状と課題について理解し、教育公務員としての自覚を高めます。 ・教育実習に向けての心構えを身につけ、様々な対応やマナーについて確認、演習をします。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案作成のための最終確認、実習記録やお礼状の書き方を確認、演習をします。 ・実習校での様々場面を想定して、その場にふさわしいあいさつができるようにします。 ・実習校での授業を想定して弾き歌いができるようにします。 ・児童生徒及び、教職員とのコミュニケーションのとり方を身につけます。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】			(360文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習への心構えを身につけ、場にふさわしいあいさつができる。 ・実習校で求められる学習指導(題材)を想定した学習指導案を作成することができる。 ・共通教材もしくは実習校で指示されている教材の弾き歌いができる。 ・教育公務員としての立場を理解し、教員に求められる資質能力を理解することができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】			(55文字以内)						
講義形式。演習形式。									
【履修時の「留意点」と「心得」】			(160文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を明らかにし、主体的、積極的な気持ちで教育実習に臨めるよう最善を尽くして課題を解決してください。 ・教育実習を受け入れていただいたことに感謝しつつ、気を引き締めて受講してください。 									
【成績評価の「方法」と「基準」】			(380文字以内)						
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を、適切に作成することができる。(20%) ・実習校で求められる教材(もしくは共通教材)の弾き歌いができる。(20%) ・教育現場において、様々な場面にふさわしいあいさつをすることができる。(20%) ・教師としての立場を理解し、本授業に主体的・積極的に参加している。(40%) 									
教科書	学習指導要領解説				著者等		出版社		
教科書	中学校(高校)の音楽教科書				著者等	教芸	出版社		
参考文献	教育実習の手引き				著者等		出版社		
参考文献	教育実習ノート				著者等		出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	教育実習への準備と心構え	予習: 教職の意義を考え、教育公務員の立場を理解しておく。 復習: 自らの課題を解決するための努力をする。
第2回	教育実習録の書き方	予習: 学習指導案を作成し授業で提出する。 復習: 歌唱・器楽・鑑賞の指導案を書いておく。
第3回	弾き歌い(共通教材もしくは実習校からの課題)	予習: 実習校を想定して弾き歌いを練習しておく。 復習: 課題を克服し、自信をもってできるようにする。
第4回	教員としての資質能力について	予習: 教員としての資質能力について理解しておく。 復習: 専門力・人間力について理解しておく。
第5回	教育現場における人間関係づくり	予習: 実習校での様々な場面を想定したあいさつを考えておく。 復習: あいさつのポイントを理解し、現場で役立つようにまとめておく。
第6回	学習指導案の書き方	予習: 事前に学習指導案を作成しておき、協議資料として準備しておく。 復習: 歌唱・器楽・鑑賞の各指導案を作成しておく。
第7回	教育実習の省察①	予習: 教育実習を総括しておく。 復習: 課題については、改善のための努力をする。
第8回	教育実習の省察②	予習: 教育実習を総括しておく。 復習: 課題については、改善のための努力をする。
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名(クラス)	教育実習		開講学期		単位数	4	配当年次	4	
担当教員	粕谷 宏美	実務家教員		履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>教育実習事前指導に基づき、教員免許取得を目指す学生が、それぞれの実習校で教育実習を行います。実習の内容については、実習校の指示・指導に従ってください。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の教職課程及び教育実習事前指導で学んだ教育の理論を、学校現場で実証的に検証することができる。 ・生徒理解を深めるとともに、実践指導を通してその方法を習得し、課題解決に向けて熱意をもって取り組むことができる。 ・学校現場においてすべての教育活動を観察し、教員に求められる資質力量を身に付けるために使命感を自覚して取り組むことができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
実習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
【授業計画の内容】に詳述。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習ノート(指導案添付) ・教育実習校からの評価 ・事前、事後指導への取り組み状況を含めて総合的に評価する 									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事前指導において、心構えについてよく理解する。(4月) ・教育実習に向けて、学習指導案の書き方及び教材の弾き歌いの資質力量を高めておく。 ・実習校との事前打ち合わせに出席し、授業や校務分掌との職務について十分に把握する。 ・実習中は社会人としてのマナーはもとより、法令等を遵守して全力で取り組む。 ・教育実習終了後に事後指導を実施する。(7月予定) ・実習校の都合によっては秋に教育実習を行う場合がある。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	教育総合科目(教職実践専攻) I・II A		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2・3	
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子	実務家教員	○	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可。必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>この授業は教員免許取得を目指すために、音楽科教員委求められる専門力を高める授業です。教師の仕事とは実際にどのようなものか、どのように学んだらいいのかを問いながら深めていきます。変動していく社会の変化や子供たちの生活環境、ICT活用を視点として、弾き歌い、楽器演奏、伝統音楽の演奏を含めて総合的な演奏力や指導力、子ども理解を身につけます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>共通教材の弾き歌いができる。 歌唱力の向上、楽器演奏(ギター)、和楽器(箏)の演奏力を身につけることができる。 独唱、独奏はもとより、アンサンブル演習を通して実践的指導力を身につけることができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式、演習形式を取り入れます									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
受験する自治体での出題課題内容は確実に把握しておいてください。共通教材を中心に弾き歌いができるように、「継続は力」です、日々の学びと努力を期待します。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
演奏力(歌唱、弾き歌い、楽器演奏、初見演奏、論作文、討論)70% 授業への貢献度参加度30%									
教科書	中学校学習指導要領解説(音楽編)	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社				
教科書	中学校音楽テキスト1、II、III、器楽編	著者等		出版社	教育芸術社				
参考文献	適宜資料配布します	著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業内容の説明 教科専門力①(歌唱と合唱)①	予習: 共通教材の弾き歌いの準備 自己PR
第2回	教科専門力②(歌唱と合唱)②	予習: 共通教材の弾き歌いの準備 復習: 自らの課題をまとめておく
第3回	教科専門力③(歌唱と合唱)③	予習: 共通教材の弾き歌いの準備 復習: 自らの課題をまとめておく
第4回	教科専門力④(歌唱と合奏)④	予習: 共通教材の弾き歌いの準備 復習: 自らの課題をまとめておく
第5回	教科専門力④(歌唱と合奏)⑤	予習: 共通教材の弾き歌いの準備 復習: 自らの課題をまとめておく
第6回	教科専門力(器楽)①	予習: 課題器楽について予備知識を得ておく 復習: 自らの課題をまとめておく
第7回	教科専門力(器楽)②	予習: 課題器楽について予備知識を得ておく 復習: 自らの課題をまとめておく
第8回	教科専門力(器楽)③	予習: 課題器楽について演奏できるようにしておく 復習: 自らの課題をまとめておく
第9回	教科専門力(器楽)④	予習: 課題器楽について演奏できるようにしておく 復習: 自らの課題をまとめておく
第10回	教科専門力(器楽)⑤	予習: 課題器楽について予備知識を得ておく 復習: 自らの課題をまとめておく
第11回	教科専門力(和楽器)①	予習: 課題和楽器について予備知識を得ておく 復習: 自らの課題をまとめておく
第12回	教科専門力(和楽器)②	予習: 課題和楽器について予備知識を得ておく 復習: 自らの課題をまとめておく
第13回	教科専門力(和楽器)③	予習: 課題和楽器について予備知識を得ておく 復習: 自らの課題をまとめておく
第14回	教科専門力(和楽器)④	予習: 課題和楽器について演奏できるようにしておく 復習: 自らの課題をまとめておく
第15回	教科専門力(和楽器)⑤	予習: 課題和楽器について演奏できるようにしておく 復習: 自らの課題をまとめておく

科目名(クラス)	教育総合科目(教職実践専攻) I・II B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2・3	
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子・高橋基	実務家教員	○	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可。必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>本科目はきょういんとしての資質の能力を高めるための授業です。教員採用試験の中でも特に集団討論対策と教育論作文や教育法規、教職教養や一般教養等全般にわたり傾向を探る授業です。個別指導を中心として各自の志願する自治体対策のためにグループワークやプレゼンテーション能力を演習していきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>自ら受験する自治体の傾向や対策を把握し対応力を身につけることができる。採用試験に出題される頻度が高いテーマを合理化して発表力や思考力を高めていくことができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>演習形式)個人発表、グループワーク、等、アクティブラーニング手法を取り入れた方法を積極的に行います。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>受験する自治体の教育施策を理解し確実に覚え発表や書けるようにしてください。月刊雑誌や教育情報記事等をよく熟読しながら日々馬男木続けてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>文章表現力(30%) 主体性及び課題解決力(30%) 面接、実技、論文、討論での表現力と協調性人間性(40%)</p>									
教科書	学習指導要領(中、小)総則・音楽編			著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	適宜資料配布します			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンス 自己PR	予習:自治体の教育施策の理解 復習:大事なキーワードをまとめておく
第2回	学校教育の今日的課題①	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第3回	学校教育の今日的課題②	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:面接対策を練習しておく
第4回	学年・学級の経営と教師の仕事	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第5回	面接対応①(集団討論含む)	予習:面接の所作を調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第6回	面接対応②(集団討論含む)	予習:面接の所作を調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第7回	専門演習①	予習:事前の課題を把握しておく 復習:ポイントをまとめておく
第8回	専門演習②	予習:事前の課題を把握しておく 復習:ポイントをまとめておく
第9回	特別支援教育	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第10回	基本となる教育法規①	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第11回	基本となる教育法規②	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第12回	教職教養①	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第13回	教職教養②	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第14回	論作文	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく
第15回	面接対応(討論含む)	予習:教育雑誌であらかじめ調べておく 復習:課題に沿ったキーワードをまとめておく

科目名(クラス)	インターンシップ(教職実践専攻) I		開講学期		単位数	2	配当年次	2	
担当教員	粕谷 宏美	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・将来教員を目指すためには早い段階から教育現場の実態を知り、課題を把握することが大切です。 ・原則的に小・中・高等学校での授業補助等を中心に体験研修を行います。 ・インターンシップを行う学校等は、授業において教員から紹介します。 ・本科目は教職特講と連動して実施することがあります。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・将来教師を目指すことを自覚して主体的、計画的に取り組んでいる。 ・年間30時間(30コマ相当)以上のインターンシップを行っている。 ・小学校及び中学校の教育現場を中心としてインターンシップを行っている。 ・教員としての自らの課題を把握し、改善することができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
実習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
実施ガイダンスに必ず出席のこと。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画書及び実施報告書の内容及び提出状況(30%) ・中間・最終の実施報告発表会の内容とプレゼンテーション力(30%) ・インターンシップへの取り組みの姿勢(積極性・計画性・指導力)(40%) 									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・実施ガイダンス(教育総合科目と連動) ・実施校の選定及び体験研修の概要を把握。 ・実施校との打ち合わせ及び研修内容の確認。 ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。 ・7月末の中間報告会のための準備(資料作成) ・報告プレゼンテーションの実施 ・後期の実施内容及び実施校の選定
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。 ・8月末の中間報告会のための準備(資料作成) ・報告プレゼンテーションの実施 ・後期の実施内容及び実施校の選定
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。 ・9月末の中間報告会のための準備(資料作成) ・報告プレゼンテーションの実施 ・後期の実施内容及び実施校の選定
3	

科目名(クラス)	インターンシップ(教職実践専攻)Ⅱ		開講学期		単位数	2	配当年次	3	
担当教員	粕谷 宏美	実務家教員	○	履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・将来教員を目指すためには早い段階から教育現場の実態を知り、課題を把握することが大切です。 ・原則的に小・中・高等学校での授業補助等を中心に体験研修を行います。 ・インターンシップを行う学校等は、授業において教員から紹介します。 ・本科目は教職特講と連動して実施することがあります。 									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・将来教師を目指すことを自覚して主体的、計画的に取り組んでいる。 ・年間30時間(30コマ相当)以上のインターンシップを行っている。 ・小学校及び中学校の教育現場を中心としてインターンシップを行っている。 ・教員としての自らの課題を把握し、改善することができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
実習									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
実施ガイダンスに必ず出席のこと。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画書及び実施報告書の内容及び提出状況(30%) ・中間・最終の実施報告発表会の内容とプレゼンテーション力(30%) ・インターンシップへの取り組みの姿勢(積極性・計画性・指導力)(40%) 									
教科書		著者等		出版社					
教科書		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
参考文献		著者等		出版社					
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・実施ガイダンス(教育総合科目と連動) ・実施校の選定及び体験研修の概要を把握。 ・実施校との打ち合わせ及び研修内容の確認。 ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。 ・7月末の中間報告会のための準備(資料作成) ・報告プレゼンテーションの実施 ・後期の実施内容及び実施校の選定
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。 ・8月末の中間報告会のための準備(資料作成) ・報告プレゼンテーションの実施 ・後期の実施内容及び実施校の選定
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。 ・9月末の中間報告会のための準備(資料作成) ・報告プレゼンテーションの実施 ・後期の実施内容及び実施校の選定
3	

科目名(クラス)	教職特講(教職実践専攻)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~3
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子	実務家教員	○	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可。必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>教職を目指すための教育課題を理解し求められる資質能力を高めることは重要なことです。教師の仕事とは実際どのようなものか、どうしたらなるのかを、教員に求められる知識や技能を高めながらⅠ、Ⅱ、Ⅲを通して行っていきます。教員採用試験全般の教職教養、教育法規、一般教養、教育論作文、面接、集団討論等を含めて資質能力を総合的に高めていきます。進度や理解の状況によっても柔軟に対応していきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・教職を目指すための教育課題を理解し、資質や能力を高め様々な視点から考察力と深い理解力をもつことができる。 ・教員採用試験に向けての基本的な知識、内容や出題(教職教養、一般教養、教育法規、面接、論文等)を理解し、実践力につなげることができる。 									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>課題内容によって、講義形式、グループワーク、アクティブラーニング手法、プレゼンによる形式で行います。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>教員採用試験や教育課題に精通できるように、日常から教育書物、各自治体の受験志望の過去問題、新聞インターネットでの情報をに努めてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性(討論形式における発表内容、課題への取り組み等50%) ・教職教養、一般教養、教育法規、論文、集団討論、実技試験など学年に応じた筆記試験や実技試験50%) 									
教科書	中学校学習指導要領解説音楽編				著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社	
教科書					著者等		出版社		
参考文献	適宜資料は配布します				著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	教員採用試験の現状について	予習: 志願する自治体の教育施策を理解しておく(求める教師像等) 復習: 採用試験の概要を知る
第2回	先輩の体験から学ぶ	予習: どのような学習方法か、どうしたらなるのか、志願する自治体の教育施策を理解しながら見通しを持つ 復習: 討論形式でグループごとに発表
第3回	受験自治体の試験内容について(各自希望する自治体の求める教師像から詳細の教育施策を知る)	予習: どのような学習方法か、どうしたらなるのか、志願する自治体の教育施策を理解しながら見通しを持つ 復習: 討論形式でグループごとに発表
第4回	学習指導要領(総則と専門教科)。新・旧比較を理解する	予習: 総則の新旧を比較し内容をまとめる。 復習: 討論形式でグループごとに発表
第5回	学習指導要領(専門教科)。新・旧比較を理解する	予習: 課題に沿った内容を調べる。 復習: 課題から調べた内容を討議し、発表しキーワードを押さえる。
第6回	教育諸課題①	予習: 課題に沿った内容を調べる。 復習: 課題から調べた内容を討議し、発表しキーワードを押さえる。
第7回	教育諸課題②	予習: 学校における教育法規とは何か事前に調べておく。 復習: 課題から調べた内容を討論形式でグループごとに発表しキーワードを押さえる。
第8回	教育法規について(これだけは押さえておこう)①	予習: 学校における教育法規とは何か事前に調べておく。 復習: 課題から調べた内容を討論形式でグループごとに発表しキーワードを押さえる。
第9回	教育法規について(これだけは押さえておこう)②	予習: 学校における教育法規とは何か事前に調べておく。 復習: 課題から調べた内容を討論形式でグループごとに発表しキーワードを押さえる。
第10回	教職教養	予習: 学校における教育法規とは何か事前に調べておく。 復習: 課題から調べた内容を討論形式でグループごとに発表しキーワードを押さえる。
第11回	面接対応①	予習: 与えられた内容を調べて練習しておく。 復習: 集団、個人で互いの良さを話し合いながら記録しておく。
第12回	インターンシップ(学校ボランティア体験)の発表準備(面接含む)	予習: 復習: 発表に向けて目的、内容、動画等前もって準備しておく。集団、個人で互いの良さを話し合いながら記録しておく。
第13回	インターンシップ(学校ボランティア体験)の発表会	予習: 復習: 発表に向けて目的、内容、動画等前もって準備しておく。集団、個人で互いの良さを話し合いながら記録しておく。
第14回	面接対応②	予習: 与えられた内容を調べて練習しておく。 復習: 集団、個人で互いの良さを話し合いながら記録しておく。
第15回	最終まとめ(集団討論集団面接等)	予習: 予測できる内容をまとめて、自信をもって対応できる力をつけておく。 復習: 自己の積み重ねをまとめる。(確実に習得できたことや不足していることをまとめ次へのステップに進む)。

科目名(クラス)	教職特講(教職実践専攻)Ⅳ			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子	実務家教員	○	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可。必修。				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>教職を目指すための教育課題を理解し、求められる資質能力を高め、教師として教壇に立つまでの道のりを探ります。この授業では、Ⅳを通して、教員に求められる知識や技能を高めていきます。教員採用試験全般の教職教養、教育法規、一般教養、教育論作文、面接、集団討論等を含めて出題される資質能力を総合的に高めていきます。進度や理解の状況によっても柔軟に対応していきます。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>教員採用試験を目指しや教育課題に精通できるように、日常から教育書物、各自治体の受験志望の過去問題、新聞インターネットでの情報に努めて採用試験に臨むことができる。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>課題内容によって、講義形式、グループワーク、アクティブラーニング手法、プレゼンによる形式で行います。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>教員採用試験や教育課題に精通できるように、日常から教育書物、各自治体の受験志望の過去問題、新聞インターネットでの情報をに努めてください。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>授業への積極性(討論形式における発言内容、課題に沿った取り組み内容、50%)。教職教養、一般教養、論作文、面接(個人・集団・討論含む)、専門教科実技(弾き歌い、ピアノ、歌唱演奏)に応じた筆記及び実技試験(50%)</p>									
教科書	中学校学習指導要領解説音楽編			著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	適宜資料は配布します			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	志願所の書き方	予習:受験志望の自ち体実施要綱から、何をどうするのか内容の確認を行っておく。 復習:志願書の内容の準備(下書き)
第2回	学習指導要領(総則と専門教科)。新・旧比較を理解する	予習:総則、教科の目標、内容を確実に覚える。 復習:論文や面接にもつながることを理解。
第3回	論作文と面接①	予習:課題に即した孫策分の準備。 復習:添削文は計画をもって書けるように努力する。
第4回	論作文と面接①	予習:課題に即した孫策分の準備。 復習:添削文は計画をもって書けるように努力する。
第5回	教育法規①	予習:教育公務員としての法規を暗記 復習:樹形図を描きながら論文、面接に生かせるように理解する。
第6回	教育法規②	予習:教育公務員としての法規を暗記 復習:樹形図を描きながら論文、面接に生かせるように理解する。
第7回	知っておきべき教育課題(集団討論)①	予習:準備された討議内容を調べる。 復習:討論内容から押さえるべき事項をまとめる。
第8回	知っておきべき教育課題(集団討論)②	予習:準備された討議内容を調べる。 復習:討論内容から押さえるべき事項をまとめる。
第9回	面接対応(集団面接)	予習:準備された討議内容を調べる。 復習:討論内容から押さえるべき事項をまとめる。
第10回	教職教養	予習:準備された課題から探る。 復習:討論内容から押さえるべき事項をまとめる。
第11回	面接対応・論文対応①	予習:受験する自治体の課題準備。 復習:個々の発表準備。
第12回	面接対応・論文対応②	予習:受験する自治体の課題準備。 復習:個々の発表準備。
第13回	実技対策	予習:受験する自治体の実技練習準備。 復習:個々の発表準備。
第14回	実技対策①(歌唱・ピアノ・弾き歌い・初見演奏等)	予習:受験する自治体の実技練習準備。 復習:個々の発表
第15回	実技対策②(歌唱・ピアノ・弾き歌い・初見演奏等)	予習:受験する自治体の実技発表準備。 復習:個々の発表

科目名(クラス)	楽器の特性と機能(教職実践専攻)		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	岩間 丈正	実務家教員	○	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可 (他専攻学生の聴講可)				
【授業の概要】		(360文字以内)							
<p>自らが専門的に関わってきた楽器だけではなく、全ての楽器についての知識を持っている事は、音楽教員を目指す者にとって極めて重要である。授業は、各楽器の様々な「歴史」「変遷」「機能」、その楽器の特徴・特性を発揮する楽曲などの知識を習得する事を目標とする。将来音楽教員として必要な、オーケストラや吹奏楽指導法、移調楽器を含む楽器の知識、スコアの読み方等を身につける。</p> <p style="text-align: right;">教職実践専攻学生以外の教職課程履修学生の聴講可。</p>									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
<p>授業で取り上げたすべての楽器について理解を深め、将来の授業運営やオーケストラ、吹奏楽部指導に必要な知識、指導法を身につける。</p>									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
<p>講義形式。毎週専門の講師による演奏を交えた楽器解説。 各回の授業ではDVD・CD等視聴覚教材を使用する事がある。</p>									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
<p>テキストは使用しないが、授業時に配布された資料は大切に保管しておく事。言葉や紙面上の説明だけでなく、実際の楽器による生(なま)の音を聴くので、MP3等に録音する事が望ましい。各楽器の解説は専門の講師に依頼するため、必ずしもこのシラバスの順序で授業が進むとは限らない。また、楽器によっては1時限に2つの楽器を解説する場合がある。講師のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出たり、研究員が担当したりする場合もある。履修対象は教職実践専攻学生であるが、音楽教員としては避けられない吹奏楽指導についても詳しく解説するので、教職実践専攻以外の、ピアノ専攻学生、声楽専攻学生、音楽創造専攻学生、音楽療法専攻学生で、教職課程を履修している学生はなるべく聴講することが望ましい。もちろん管弦打楽器専攻学生で教職課程を履修している学生の聴講も可。</p>									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
<p>期末に、授業で取り上げた全ての楽器について、授業内容を反映させたレポートを提出。【レポート100%】</p> <p>レポート提出方法についてはオリエンテーション時及び最後の授業時に説明する。掲示も参照する事。</p>									
教科書	教員側で準備する			著者等			出版社		
教科書	教員側で準備する			著者等			出版社		
参考文献	教員側で準備する			著者等			出版社		
参考文献	教員側で準備する			著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
<p>①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									
<p>②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する</p>									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	木管楽器概説 ・リコーダーの基礎知識 ・フルートの基礎知識 ・オーボエの基礎知識 ・クラリネットの基礎知識 ・ファゴットの基礎知識 ・サクソフォンの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回	ピアノ概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第8回	チェンバロ概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第9回	打楽器概説 ・打楽器の基礎知識 ・鍵盤打楽器の基礎知識 ・小物の基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第10回	金管楽器概説 ・トランペットの基礎知識 ・ホルンの基礎知識 ・トロンボーンの基礎知識 ・ユーフォニアムの基礎知識 ・チューバの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第11回		
第12回		
第13回		
第14回	弦楽器概説 ・ヴァイオリンの基礎知識 ・ヴィオラの基礎知識 ・チェロの基礎知識 ・コントラバスの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第15回		